

授業科目名： 最適化特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：中山 明 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
最適化の中でもネットワーク内のものの流れを最適化するネットワーク・フロー問題に対する効率的アルゴリズムを概説する。理論的効率性を高めるために、カーネルや射影子などの（線形空間の）部分空間の概念が重要な役割を果たしている。代表的なアルゴリズムに対して、これらの概念が効率性にどのように関わっているかを理解する。加えて、アルゴリズムを実装したプログラム実習によって、これら手法のふるまいを確認する。			
授業の概要			
この授業では、まず土台となる線形空間の基礎とグラフ・ネットワークの基礎を概説する。その後、代表的なフロー問題を2つ取り上げ、問題の定式化および主要命題、効率的アルゴリズムを提示する。3回の総合演習の時間を設け、問題演習を実施する。加えて、2回のアルゴリズム実装化を行い、プログラム実習を通じてこれら手法のふるまいを確認する。			
授業計画			
第1回：線形空間の基礎1：定義、部分空間、次元、基底など			
第2回：線形空間の基礎2：線形写像、基底変換、表現行列など			
第3回：グラフ理論の基礎：定義、各種のグラフ、基本命題			
第4回：ネットワーク理論の基礎：定義、パス・フロー、サイクル・フローなど			
第5回：第1回から第4回までの総合演習1			
第6回：部分空間：カーネル、像、直和など			
第7回：レオンチェフ・サブスティチューション・システム：問題設定と主要命題			
第8回：レオンチェフ・サブスティチューション・システムに対する主要アルゴリズム			
第9回：第6回から第9回までの総合演習2			
第10回：第9回のアルゴリズムの実装：プログラム実習1			
第11回：射影：射影子と射影行列など			
第12回：一般化フロー問題：問題設定と主要命題			
第13回：一般化フロー問題に対する主要アルゴリズム			
第14回：第11回から第13回までの総合演習1			
第15回：第13回のアルゴリズムの実装：プログラム実習2			
定期試験は行わない。			
テキスト			
担当教員作成の資料			

参考書・参考資料等

- ・ T.L. Magnanti , et al. : Network Models, Handbooks in Operations Research and Management Sci., Vol 7, Elsevier Science Ltd. 1989.
- ・ 竹内啓 (著) 『線形数学』 (培風館、ASIN: B000JABVV8、1966)
- ・ 布川、中山、谷野 (共著) 『線形代数と凸解析』 (コロナ社、ISBN978-4-339-06027-0)
- ・ R. Ahuja, T. Magnanti, J. Orlin: Network Flows: Theory, Algorithms, and Applications, Pearson Education Limited , 2013.
- ・ B. Korte and J. Vygen: Combinatorial Optimization, Springer-Verlag, New York, 2000.

学生に対する評価

成績評価はレポート試験 (80%) 、授業内演習 (20%) の結果で判断します。

授業科目名： 最適化特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：中山 明 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
グラフやネットワーク内の最適化問題に対して、多面体と呼ばれる幾何的な集合を解析することで、最適解の発見や解の特徴づけを行うことができる。このような問題を効率的に解くには凸包、ファセット、端点など多面体に関わる概念が重要な役割を果たしている。そこで、多面体の基礎理論を概説するとともに上記最適化問題との関連を述べる。加えて、ソルバーによる実習も行いながら多角的な理解を追求する。			
授業の概要			
この授業では、まず、土台となるグラフ・ネットワークの基礎を学習する。その後、多面体に関わる基礎概念を概説する。代表的な組合せ最適化問題を3つ取り上げ、多面体内の各種概念との関係について論じる。3回の総合演習の時間を設け、問題演習を実施する。加えて、2回のソルバーによる実習で、多面体上の問題や組合せ最適化問題を実際に解いてみる。			
授業計画			
第1回：グラフ理論の基礎			
第2回：ネットワーク理論の基礎			
第3回：多面体：定義、例、アフィン集合、次元、基本命題など			
第4回：第1回から第3回までの総合演習1			
第5回：ファセットとその特徴づけ：クラスカルの定理			
第6回：端点と最適解との関係			
第7回：凸包と最適化問題の実行可能領域との関係			
第8回：ポリトープ：定義、例、基本命題など			
第9回：第5回から第8回までの総合演習2			
第10回：ソルバーによる実習1			
第11回：多面体内の最小ベクトルと輸送問題			
第12回：完全単模行列とマッチング問題			
第13回：凸多面錐とサーキュレーション問題			
第14回：第11回から第13回までの総合演習1			
第15回：ソルバーによる実習2			
定期試験は行わない。			
テキスト			

担当教員作成の資料

参考書・参考資料等

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ H. T. Jongen, K. Meer, E. Triesch: Optimization theory, Kluwer Academic, 2004.・ 布川、中山、谷野（共著）『線形代数と凸解析』（コロナ社、ISBN978-4-339-06027-0）・ L. A. Wolsey, G. L. Nemhauser: Integer and Combinatorial Optimization, John Wiley & Sons, 1999.・ M. Groetschel, L. Lovasz, et al. : Geometric Algorithms and Combinatorial Optimization, Springer, 1993.・ B. Korte and J. Vygen: Combinatorial Optimization, Springer-Verlag, New York, 2000. |
|---|

学生に対する評価

成績評価は3回のレポート（80%）、授業内演習（20%）の結果で判断します。
--

授業科目名： 集合関数特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：藤本勝成 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 集合関数を学修する。測度・確率・非加法的集合関数・証拠理論・ファジィ測度論など集合関数一般の枠組み・概念を理解・習得する。			
授業の概要 集合族を定義域として持つ関数一般に対する入門的講義を行う。集合族における可測性，加法性をもつ測度・確率測度とその積分，また，加法性を仮定しない一般の集合関数を特徴つける各種性質やその積分に関する内容が中心となる。また，それらの応用についても触れる。			
授業計画 第 1 回　： 集合と集合族 第 2 回　： 集合族を定義域とする関数 第 3 回　： 加法性・優加法性・劣加法性 第 4 回　： 測度と可測性 第 5 回　： 確率測度 第 6 回　： 証拠理論 第 7 回　： 協力ゲーム 第 8 回　： ファジィ測度 第 9 回　： 測度と積分 第10回　： 非加法的集合関数と積分 第11回　： 統合演算，汎関数としての積分 第12回　： 集合関数と最適化理論 第13回　： 集合関数と意思決定理論 第14回　： 集合関数とAI 第15回　： まとめ 定期試験は行わない			
テキスト テキストは使用しない。			
参考書・参考資料等 Torra, et al. Non-additive measures -Theory and applications			
学生に対する評価 講義への取り組み(20%)および 演習(80%)を中心に評価する。			

授業科目名： 非線型解析特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：中川 和重 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 微分方程式論に現れる函数解析学 到達目標： 1. ノルム空間からヒルベルト空間まで，関数解析の基礎が理解できる． 2. L_p 空間やソボレフ空間など，具体的な関数空間の基礎が理解できる．			
授業の概要 自然現象や社会現象のモデルとして現れる微分方程式に対する概要を論じる．これらを論じる上で重要となる関数解析の基礎を論じる．関数解析は，学部で学習する線型代数の無限次元バージョンである．具体的なバナッハ空間，ヒルベルト空間の例として， L_p 空間，ソボレフ空間を導入する．ソボレフ空間を理解するうえでは，古典的微分概念の一般化である「弱微分」が本質的である．以上を基礎として，非線形微分方程式に対する現代的アプローチを論じる．			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：基礎知識の確認と導入 第3回：導入 第4回：ノルム空間とは 第5回：内積空間とは 第6回：バナッハ空間とは 第7回：ヒルベルト空間とは 第8回：位相 第9回：強位相 第10回：弱位相 第11回：これまでのまとめ 第12回： L_p 空間とは 第13回：ソボレフ空間とその性質 第14回：ソボレフの埋め込みと特徴 第15回：まとめ 定期試験は行わない			
テキスト			

特に指定しない
参考書・参考資料等 「関数解析」藤田宏，岩波講座応用数学[基礎5]，岩波書店 「関数解析」藤田宏，黒田成俊，伊藤清三，岩波基礎数学選書，岩波書店 「関数解析」ブレジス（藤田宏，小西芳雄訳），産業図書
学生に対する評価 単位認定基準に照らし合わせ， 1. 講義内でのやり取り 50% 2. 講義内で課すレポート 50% を用いて評価する．

授業科目名： 非線型解析特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：中川 和重 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 微分方程式に用いる数学的基礎理論の展開 到達目標： （１）位相解析の基礎的概念を理解し，運用できる． （２）関数列の極限解析，特に各点収束と一様収束の違いなどを理解し運用できる． （３）ルベーグ積分論を理解し，リーマン積分論との相違を指摘できる．			
授業の概要 非線型解析特論 では，自然現象や社会現象のモデルとして現れる微分方程式に対する変分法的アプローチの概説を行った．その数学的基礎は （１）位相解析 （２）関数列の極限解析 （３）ルベーグ積分論 であった．非線型解析特論 では以上の項目について，その数学的詳細を講義する．			
授業計画 第１回：ガイダンス 第２回：実数とは 第３回：実数とその位相 第４回：数列 第５回：数列の収束 第６回：数列の収束判定 第７回：函数 第８回：函数の連続性 第９回：函数列の収束（各点） 第１０回：函数列の収束（一様） 第１１回：まとめ 第１２回：リーマン積分とは 第１３回：リーマン積分でできないこと 第１４回：ルベーグ積分とは			

第15回：ルベグ積分でできること

定期試験は行わない

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

「解析学の基礎」齋藤貞四郎，サイエンス社

「微分積分学」伊藤雄二，朝倉書店

「基礎解析」，「藤田宏、今野礼二，岩波講座応用数学[基礎2]

「関数解析」藤田宏，岩波講座応用数学[基礎5]

学生に対する評価

単位認定基準に照らし合わせ，

1. 講義内でのやり取り 50%

2. 講義内で課すレポート 50%

を用いて評価する．

授業科目名： 応用非線型解析特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：中川 和重 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ： 非線形微分方程式の数学的基礎理論の展開 到達目標： （１）古典的な解に対する性質を理解できる． （２）弱解（弱微分）による性質を理解できる． （３）古典的な解とその他の弱解との相違を理解できる．			
授業の概要 本講義ではこれまで扱った微分方程式の基礎となる関数解析など通して，微分方程式に対する古典的な解の性質及び弱い意味での解（弱解）を通して解の性質について論じる．			
授業計画 第１回：ガイダンス 第２回：位相の扱い 第３回：微分方程式の種類 第４回：微分方程式の古典的な解の導入 第５回：微分方程式の古典的な解の性質（比較定理） 第６回：微分方程式の古典的な解の性質（最大値原理） 第７回：微分方程式の古典的な解の評価 第８回：微分方程式の古典的な解の評価（不等式） 第９回：微分方程式の弱解とは 第１０回：微分方程式の適切な弱解とは 第１１回：弱微分による弱解の導入 第１２回：弱微分による弱解の性質 第１３回：粘性解による弱解の導入 第１４回：粘性解による弱解の性質 第１５回：まとめ 定期試験は行わない			
テキスト 特に指定しない			

参考書・参考資料等

「解析学の基礎」齋藤偵四郎，サイエンス社

「微分積分学」伊藤雄二，朝倉書店

「基礎解析Ⅰ，Ⅱ」藤田宏，今野礼二，岩波講座応用数学[基礎 2]

「関数解析」藤田宏，岩波講座応用数学[基礎 5]

「関数解析」ブレジス（藤田宏，小西芳雄訳），産業図書

学生に対する評価

単位認定基準に照らし合わせ，

1. 講義内でのやり取り 50%
2. 講義内で課すレポート 50%

を用いて評価する．

授業科目名： 幾何学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：中田文憲 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：多様体上の微分幾何学 到達目標：可微分多様体に関する基本的な事項を理解しており、大域的な関数やベクトル場について基本的な扱いができる。			
授業の概要 本講義では多様体の定義から多様体上のベクトル場や微分形式について学ぶ。はじめに位相空間及び連続写像に関する基本事項を整理したのち、可微分多様体と可微分写像を定義する。その後、局所的な理論と大域的な理論の違いに注意しながら、接ベクトル空間や1の分割、ベクトル場、積分曲線について学ぶ。さらに微分形式と外微分について学んだのち、ストークスの定理の概要を理解する。			
授業計画 第1回：位相空間 第2回：多様体の定義 第3回：可微分多様体と基本的な例 第4回：多様体間の写像 第5回：接ベクトル 第6回：接ベクトル空間 第7回：多様体間の写像の微分 第8回：はめ込みと埋め込み 第9回：部分多様体 第10回：被覆 第11回：1の分割 第12回：ベクトル場 第13回：積分曲線 第14回：1次微分形式 第15回：一般の微分形式とストークスの定理 定期試験は行わない			
テキスト 松本幸夫著「多様体の基礎」東京大学出版会			
参考書・参考資料等			

藤岡敦著「具体例から学ぶ多様体」裳華房
学生に対する評価
講義への取り組み（50％）・レポート（50％）

授業科目名： 幾何学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：中田文憲 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：様々な多様体とその性質 到達目標：高次元の球面や実射影空間をはじめとする様々な多様体の具体例を知っており、微分幾何学の手法を用いて調べることができる。			
授業の概要 本講義では様々な多様体の具体例を通して、多様体上の幾何学の諸相を学ぶ。はじめに、二次元球面や二次曲面を通して多様体の考え方と基本的な用語を理解する。その後、高次元の球面や実射影空間を例に高次元の幾何学に触れ、低次元の手法を高次元化する方法を理解する。さらに実一般線形群やトーラスを通して、代数学との関連や、リーマン多様体の考え方を学ぶ。最後に余接束に触れ、多様体上の微分形式についての理解を深め、シンプレクティック構造など、さらに深い構造に触れる。			
授業計画 第1回：2次元球面 第2回：高次元球面 第3回：2次元曲面の分類 第4回：2次超曲面 第5回：ベクトル場 第6回：商位相と多様体 第7回：実射影空間 第8回：実一般線形群 第9回：部分多様体 第10回：多様体上の関数 第11回：多様体間の写像 第12回：トーラス 第13回：接ベクトル束 第14回：リーマン多様体 第15回：余接束とシンプレクティック構造 定期試験は行わない			
テキスト			

藤岡敦著「具体例から学ぶ多様体」裳華房
参考書・参考資料等
松本幸夫著「多様体の基礎」東京大学出版会
学生に対する評価
講義への取り組み（50％）・レポート（50％）

授業科目名： 幾何学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：中田文憲 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：リー群 到達目標：位相群とリー群の定義、および基本的な事項について理解する。位相幾何学と微分幾何学、および代数学、解析学の様々な知識を総合し、リー群を扱うことができる。			
授業の概要 位相群およびリー群について学ぶ。位相空間と群の定義を確認したのち、位相群を定義し、その例や基本的な性質について学ぶ。その後、部分群、商空間、同型と準同型、等質空間について順次学ぶ。以上を通して位相群に対する理解を深めたのち、リー群とリー環の定義と、基本的な例について学ぶ。左不変ベクトル場や構造定数、リー環の準同型について学び、行列群の場合を中心に、様々な例に触れる。時間があれば、指数写像とその幾何的な意味について紹介する。			
授業計画 第1回：位相空間と群 第2回：位相群 第3回：位相群の部分群と商空間 第4回：位相群の同型と準同型 第5回：位相群の等質空間 第6回：リー群 第7回：左不変ベクトル場とリー環 第8回：構造定数 第9回：リー群の例 第10回：一般線形群 第11回：線形リー群 第12回：リー群の同型と準同型 第13回：リー変換群 第14回：リー群の等質空間 第15回：指数写像 定期試験は行わない			
テキスト			

指定しない
参考書・参考資料等 松島与三著「多様体入門」裳華房
学生に対する評価 講義への取り組み（50％）・レポート（50％）

授業科目名： 情報視覚化と計算幾何学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村勝一，三浦一之 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
1: 情報システムにおける情報視覚化の果たす役割を理解する。 2: 計算幾何学の基礎的事項を理解し，グラフアルゴリズムの設計に関する知識を身につける。 3: 情報視覚化と計算幾何学の関係を理解し，課題について議論できる．			
授業の概要			
まず，主な情報視覚化技法について特徴を学び，情報システムにおける情報視覚化の意義と役割を理解する。次に，情報視覚化と計算幾何学の関係を理解し，離散的なデータ構造として広く用いられているグラフ，および，グラフを用いたアルゴリズムの設計手法について学修する。加えて，様々なアルゴリズムの正当性や実行時間に関する証明を行い，アルゴリズムに対する理解を深める。また，情報視覚化，計算幾何学に関する最新事例を交えて，新たな課題等について議論する。			
授業計画			
第 1 回：情報視覚化と計算幾何学（担当：中村勝一，三浦一之） 第 2 回：情報システムにおける情報視覚化の意義と役割（担当：中村勝一） 第 3 回：対話的視覚化（担当：中村勝一） 第 4 回：時系列データの視覚化（担当：中村勝一） 第 5 回：木構造，グラフ構造の視覚化（担当：中村勝一） 第 6 回：大規模データの視覚化（担当：中村勝一） 第 7 回：情報視覚化に関する最新事例（担当：中村勝一） 第 8 回：計算幾何学の基礎（線分交差，凸包，ボロノイ図，グラフ描画）（担当：三浦一之） 第 9 回：ネットワークフロー（最大フロー，最小コストフロー）（担当：三浦一之） 第10回：グラフ描画（1）木の描画（担当：三浦一之） 第11回：グラフ描画（2）平面グラフの直線描画（担当：三浦一之） 第12回：グラフ描画（3）平面グラフの直交描画（担当：三浦一之） 第13回：グラフ描画と計算量（担当：三浦一之） 第14回：計算幾何学に関する最新事例（担当：三浦一之） 第15回：まとめ（担当：中村勝一，三浦一之）			
定期試験は行わない			
テキスト			

特になし。必要に応じて授業時に資料を配布する。

参考書・参考資料等

C. Ware, Information Visualization: Perception for Design, Morgan Kaufmann, 2020.

A. Chatterjee, et.al, Computational Geometry for the day before your Coding Interview, OpenGenus, 2022.

学生に対する評価

課題演習レポート（70％）, 授業時のプレゼンテーション（30％）.

授業科目名： 解析学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：和田 正樹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ルベーク積分の基礎を学んだうえで、測度論に準拠した確率論を理解する。			
授業の概要 本講義では測度論の基礎に始まり、確率論について主に学ぶ。測度論の基礎では、シグマ加法族と可測性・可積分性について整理した後、ルベーク積分にまつわる諸定理について触れる。その後、測度論に準拠しながら確率論について、確率測度や確率変数の定義に始まり、確率変数列の収束概念・大数の法則や中心極限定理の厳密な理論・証明まで理解する。			
授業計画 第 1 回：集合とシグマ加法族 第 2 回：ボレル測度とルベーク測度 第 3 回：可測関数と単関数 第 4 回：可測関数の積分に関する収束定理 第 5 回：可測関数の積分とリーマン積分との比較 第 6 回：積可測空間と積測度 第 7 回：フビニの定理 第 8 回：中間まとめ 第 9 回：確率空間と確率測度 第 10 回：確率変数とその期待値 第 11 回：確率変数列の収束 第 12 回：条件付き確率と条件付き期待値 第 13 回：大数の法則 第 14 回：中心極限定理 第 15 回：まとめと総合演習 定期試験は行わない			
テキスト ルベーク積分入門 吉田伸生 遊星社 / 確率論 舟木直久 朝倉書店			
参考書・参考資料等 必要に応じて紹介する。			
学生に対する評価 普段の演習（50％）と期末レポート（50％）により評価を行う。			

授業科目名： 解析学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：和田 正樹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
関数解析の基礎を学び、解析学特論 で学んだ確率論の内容を踏まえて、確率過程の基礎について理解する。			
授業の概要			
本講義では確率過程の基礎について主に学ぶ。前期で学んだ確率論を踏まえながら、離散時刻でのランダムウォークや連続時刻でのマルコフ過程について触れる。代表的な話題として、再帰性や過渡性などの時間大域での性質やエルゴード理論などの極限定理が挙げられる。また、マルコフ過程と関連が深いディリクレ形式についても学ぶ。ディリクレ形式を定式化するうえで基本となる関数解析の内容(ヒルベルト空間・半群・レゾルベントなど)についても必要に応じて触れる。			
授業計画			
第 1 回：複素ベクトル空間と内積			
第 2 回：ノルム空間			
第 3 回：ヒルベルト空間			
第 4 回：バナッハ空間			
第 5 回：関数空間			
第 6 回：シュワルツの不等式とヘルダーの不等式			
第 7 回：ヒルベルト空間の完全正規直交系			
第 8 回：中間まとめ			
第 9 回：ランダムウォーク			
第 1 0 回：ランダムウォークの再帰性と過渡性			
第 1 1 回：ランダムウォークにおける極限定理			
第 1 2 回：ブラウン運動の定義と諸性質			
第 1 3 回：マルコフ過程の基礎			
第 1 4 回：ディリクレ形式の基礎			
第 1 5 回：まとめと総合演習			
定期試験は行わない			
テキスト			
関数解析 黒田俊成 共立出版 / マルコフ過程 福島正俊・竹田雅好 培風館			
参考書・参考資料等			
必要に応じて紹介する。			
学生に対する評価			
普段の演習（50％）と期末レポート（50％）により評価を行う。			

授業科目名： 解析学特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：和田 正樹 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 フーリエ級数やフーリエ変換の理論を学び、線形作用素の基本について理解する。				
授業の概要 本講義では、フーリエ級数やフーリエ変換、線形作用素の理論について主に扱う。解析学特論 ・ で学ぶ確率論や確率過程論における背景事項について深く掘り下げた内容である。				
授業計画 第 1 回：フーリエ級数の基礎 第 2 回：フーリエ級数の応用例～ゼータ関数～ 第 3 回：ポアソン積分と調和関数 第 4 回：ディリクレ問題とノイマン問題 第 5 回：フーリエ変換と 2 乗可積分空間理論 第 6 回：フーリエ変換と調和関数 第 7 回：ソボレフ空間 第 8 回：中間まとめ 第 9 回：線形作用素 第 1 0 回：線形汎関数と共役空間 第 1 1 回：レゾルベントとスペクトル 第 1 2 回：線形作用素の半群 第 1 3 回：熱伝導方程式の基本解 第 1 4 回：コンパクト作用素 第 1 5 回：まとめと総合演習 定期試験は行わない				
テキスト 関数解析 黒田俊成 共立出版				
参考書・参考資料等 必要に応じて紹介する。				
学生に対する評価 普段の演習（50％）と期末レポート（50％）により評価を行う。				

授業科目名： 代数学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：海老原 円 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 複素数の概念を代数的に構成する手法を理解する。			
授業の概要 代数学の考え方をを用いて複素数体を構成し、抽象的な代数学の考え方を解説する。			
授業計画 第 1 回：2 次方程式の解法と複素数 第 2 回：複素数の直観的な構成 第 3 回：複素数平面 第 4 回：数列と複素数 第 5 回：3 次方程式の解法と複素数 第 6 回：複素数の直観的な構成の批判的再検討 第 7 回：多項式環 第 8 回：多項式の世界と複素数の世界の比較検討 第 9 回：合同関係と剰余類 第 10 回：多項式を利用した複素数体の構成 第 11 回：ベクトルと行列 第 12 回：行列の演算の幾何学的な理解 第 13 回：実 2 次正方行列と複素数 第 14 回：行列を利用した複素数体の構成 第 15 回：環の同型写像：代数学の考え方 定期試験は行わない			
テキスト 海老原円「複素数のつくりかた --- 代数の考え方で演算を組み立てる ---」 （オーム社 2021 年）			
参考書・参考資料等 海老原円「例題から展開する線形代数」（サイエンス社 2016 年）			
学生に対する評価 2 回のレポートを総合的に評価する。			

授業科目名： 代数学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：海老原 円 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 環や体の理論の基礎を理解する。			
授業の概要 整数の話題から始めて、環や体の理論の基礎を解説する。			
授業計画 第1回：整数とその演算 第2回：フェルマの小定理 第3回：RSA暗号の仕組み 第4回：環・体の定義と例 第5回：多項式環の一般論 第6回：部分環・部分体 第7回：環のイデアルの定義と例 第8回：イデアルの生成 第9回：同値関係 第10回：イデアルによる剰余環 第11回：素イデアルと極大イデアル 第12回：環の準同型写像 第13回：準同型定理 第14回：多項式環の剰余環としての複素数体 第15回：分数の構成と商体 定期試験は行わない			
テキスト 海老原円「代数学教本」（数学書房 2018年）			
参考書・参考資料等 海老原円「じっくり味わう代数学」（オーム社 2021年）			
学生に対する評価 2回のレポートを総合的に評価する。			

授業科目名： 幼児教育学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：保木井啓史 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 保育・幼児教育の実践で遊びは大きな比重を占めている。しかし、遊びを論じる切り口・理論は一樣ではない。本授業では、幼児教育学や保育実践者にとどまらず、社会学、哲学といった極力毛色の異なる遊び論を講読し、各論者の異同を議論する。それにより、遊び論の拡がり、それぞれの保育・幼児教育実践とのつながりを検討する。 以下の到達目標は、単位認定基準でもある。 (1)発表回か否かに関わらず、課題の文献を読んで授業に臨む その際、複数授業回において、講読の直接の対象でない箇所又は課題文献の理解を深める他の文献を事前を読んだことによる、課題文献の深い理解が授業に現れていた場合を、「優秀な学習成果をあげた」と見做す。 (2)発表においては、的確な要約・各論者の遊びを捉える切り口を明らかにしようとする姿勢が見える 実際に要約が的確であり、又は各論者の遊びを捉える切り口を明らかにしえていた場合を、「優秀な学習成果をあげた」と見做す。 (3)授業中の議論へ参加している その際、課題文献の深い理解に基づき、又は複数の意見を俯瞰する視点をもって、「授業概要とねらい」欄に示した事項について、議論の進展に寄与した場合を、「優秀な学習成果をあげた」と見做す。			
授業の概要 本授業では、複数の遊び論に関する文献の講読を行う。			
授業計画 第1回 本授業のねらいと進め方の説明及び担当決め 第2回 無藤隆「遊びとは何か」（『幼児教育のデザイン』第1章）（前半）を読む 第3回 無藤隆「遊びとは何か」（『幼児教育のデザイン』第1章）（後半）を読む 第4回 小川博久『遊び保育論』（前半）を読む 第5回 小川博久『遊び保育論』（後半）を読む 第6回 仙田満「遊びの原空間」理論（後半）を読む			

第7回	仙田満「遊びの原空間」理論（前半）を読む
第8回	中間まとめ：無藤・小川・仙田のマッピング
第9回	カイヨワ『遊びと人間』（前半）を読む
第10回	カイヨワ『遊びと人間』（後半）を読む
第11回	デューイ「教育課程における遊戯と仕事」（『民主主義と教育』第15章）（後半）を読む
第12回	デューイ「教育課程における遊戯と仕事」（『民主主義と教育』第15章）（前半）を読む
第13回	フィンク『遊戯の存在論』（前半）を読む
第14回	フィンク『遊戯の存在論』（後半）を読む
第15回	まとめ：6つの遊び論のマッピング
テキスト ・無藤隆（2013）幼児教育のデザイン 保育の生態学．東京大学出版会 ・小川博久（2010）遊び保育論．萌文書林 ・仙田満（2009）環境デザイン論．放送大学教育振興会（第7章「あそびやすい空間の構造-遊環構造」） ・カイヨワ,R., 多田道太郎・塚崎幹夫訳（1990）遊びと人間．講談社（講談社学術文庫） ・デューイ,J., 金丸弘幸訳（1997）民主主義と教育．玉川大学出版部（第15章「教育課程における遊戯と仕事」） ・フィンク,E., 石原達二訳（1976）遊戯の存在論 - 存在のオアシス - ．せりか書房	
参考書・参考資料等 特に指定しない	
学生に対する評価 議論への貢献状況（5割）、発表内容の質（5割）により評価する。 S：単位認定基準を満たし、かつ3つの項目で優秀な学習成果をあげた（90～100点） A：単位認定基準を満たし、かつ2つの項目で優秀な学習成果をあげた（80～89点） B：単位認定基準を満たし、かつ1つの項目で優秀な学習成果をあげた（70～79点） C：単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた（60～69点） F：単位認定基準の学習成果をあげられなかった（～59点）	

授業科目名： 幼児教育学特論演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：保木井啓史 担当形態：単独
科 目		領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		領域に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 インタビューデータの分析方法としてのSteps for Coding and Theorization (SCAT ; 大谷2011など) の習得 以下の到達目標は、単位認定基準でもある。 (1)SCATを用いたインタビューデータの分析の仕方を理解している。その際、分析の各手順（文字起こし、セグメント化、コーディング、ストーリーラインと理論記述の記述など）の、分析過程における意義の理解を「優秀な学習成果」と見做す。 (2)課された発表を、多少の不明瞭さが残るにせよ、課題文献の論理構成あるいは自身の分析の結果の特徴が明瞭に理解できる仕方で行う。 (3)分析時及び発表後の討論でアイデアを述べる。その際、分析の各手順の意味又は発表の主旨に沿った議論の進展への貢献がしばしばある場合を「優秀な学習成果」と見做す。 (4)データとその分析に基づいた（飛躍のない）結果の記述を目指している。その際、実際に飛躍がなく、説得的な議論が提示された場合を「優秀な学習成果」と見做す。				
授業の概要 本授業は、インタビューなど小規模な言語データの質的分析に適した方法である Steps for Coding and Theorization (SCAT ; 大谷2011など) の習得を目指すものである。幼児教育学に関するテーマ（例：中堅保育者の専門性発達）を設定した上で、保育者あるいはテーマにふさわしい研究協力者への小規模なインタビューの実施・そのデータの分析という一連の研究プロセスを経験する。				
授業計画 〔イントロダクション〕 第1回 イン트로ダクション：授業のねらいと進め方 第2回 保育・幼児教育学の質的研究で何を明らかにするか(1)：保育実践のプロセス 第3回 保育・幼児教育学の質的研究で何を明らかにするか(2)：保育実践への意味付け 第4回 保育・幼児教育学の質的研究で何を明らかにするか(3)：子どもの世界 第5回 保育・幼児教育学の質的研究で何を明らかにするか(4)：ミクロとマクロの連結 第6回 インタビューの種類と技術【講義】 〔SCATの習得〕				

第7回 SCATの学習

第8回 ショート・インタビューの実施

第9回 インタビューの文字起こし

第10回 ステップ1～ステップ2の分析

第11回 ステップ3～ステップ4の分析

第12回 ストーリーラインと理論記述の記述

第13回 結果の発表と討論

第14回 ショート・インタビューの振り返り

〔総括〕

第15回 総括

テキスト

- ・大谷尚(2011) SCAT: Steps for Coding and Theorization - 明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法. 感性工学. 10(3). 155-160
- ・他は入手方法も含めて授業内に提示する

参考書・参考資料等

- ・箕浦康子(1998) 仮説生成の方法としてのフィールドワーク. 志水宏吉編. 教育のエスノグラフィー. 嵯峨野書院. 31-47
- ・他は、入手方法も含め授業中に提示する

学生に対する評価

発表の内容、研究の過程への積極的参加、研究の過程での貢献状況の3点を、同等の重みづけで評価する。

S：単位認定基準を満たし、かつ4つの項目で優秀な学習成果をあげた（90～100点）

A：単位認定基準を満たし、かつ2-3つの項目で優秀な学習成果をあげた（80～89点）

B：単位認定基準を満たし、かつ1つの項目で優秀な学習成果をあげた（70～79点）

C：単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた（60～69点）

F：単位認定基準の学習成果をあげられなかった（～59点）

授業科目名： 幼児教育学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：保木井啓史 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 インタビューデータの分析方法としてのSteps for Coding and Theorization (SCAT ; 大谷2011など) への習熟 以下の到達目標は、単位認定基準でもある。 (1)SCATを用いたインタビューデータの分析の仕方を、1 時間程度のインタビューから得られたデータに対して適用できる。その際、分析の各手順（文字起こし、セグメント化、コーディング、ストーリーラインと理論記述の記述など）の、分析過程における意義の理解を「優秀な学習成果」と見做す。 (2)課された発表を、多少の不明瞭さが残るにせよ、課題文献の論理構成あるいは自身の分析の結果の特徴が明瞭に理解できる仕方で行う。 (3)分析時及び発表後の討論でアイデアを述べる。その際、分析の各手順の意味又は発表の主旨に沿った議論の進展への貢献がしばしばある場合を「優秀な学習成果」と見做す。 (4)データとその分析に基づいた（飛躍のない）結果の記述を目指している。その際、その分析結果を、先行研究との対比で説得的に意義づけられた場合を「優秀な学習成果」と見做す。			
授業の概要 幼児教育学特論演習 からの継続の授業である。本授業では、インタビューデータの質的な分析や結果と考察の記述の経験を通して、コーディング、概念化、再文脈化といった、質的研究の考え方への理解を深めるとともに、分析結果を他の種類のデータと統合（トライアングレーション）したり、分析結果を文章や図表で提示したりする方法を学習する。			
授業計画 〔イントロダクション〕 第1回 イントロダクション ：授業のねらいと進め方 〔調査への発展〕 第2回 研究テーマの設定 第3回 先行研究の収集 第4回 先行研究の検討 第5回 インタビュー計画の作成 第6回 インタビューの実施			

第7回 インタビューの文字起こし

第8回 4ステップでの分析(1)：注目する箇所の同定とデータの言い換え

第9回 4ステップでの分析(2)：言い換えられたデータを説明する語句の案出

第10回 4ステップでの分析(3)：テーマと構成概念の案出

第11回 ストーリーラインと理論記述の記述

第12回 結果の記述

第13回 記述された結果のブラッシュアップ

第14回 結果の発表と討論

〔総括〕

第15回 総括

テキスト

- ・大谷尚(2011) SCAT: Steps for Coding and Theorization - 明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法. 感性工学. 10(3). 155-160
- ・他は入手方法も含めて授業内に提示する

参考書・参考資料等

- ・箕浦康子(1998) 仮説生成の方法としてのフィールドワーク. 志水宏吉編. 教育のエスノグラフィ. 嵯峨野書院. 31-47
- ・他は、入手方法も含め授業中に提示する

学生に対する評価

発表の内容、研究の過程への積極的参加、研究の過程での貢献状況の3点を、同等の重みづけで評価する。

S：単位認定基準を満たし、かつ4つの項目で優秀な学習成果をあげた(90～100点)

A：単位認定基準を満たし、かつ2-3つの項目で優秀な学習成果をあげた(80～89点)

B：単位認定基準を満たし、かつ1つの項目で優秀な学習成果をあげた(70～79点)

C：単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた(60～69点)

F：単位認定基準の学習成果をあげられなかった(～59点)

授業科目名： 幼児教育学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：保木井啓史 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 幼児教育学とエスノグラフィー 以下の到達目標は、単位認定基準でもある。 (1)観察調査とその分析から得られる知識の性質を理解した (2)調査で得た事例を先行研究もしくは保育実践上の課題との関連で位置付けた (3)保育施設に関わる人々の生活世界の意味関連を、複数の事例（場面記録）の組み合わせを用いて説明した (4)上記3つの項目に基づき、調査と分析の結果・考察・意義などを文章化した			
授業の概要 参与観察によるデータ収集は、幼稚園・保育所といった保育施設に関わる人々のリアルな生活世界をすくいとり研究の俎上に乗せるための重要な方法である。本授業では、参与観察及び、参与観察を主要なデータ収集の方法とするエスノグラフィーの方法、考え方、観察調査やエスノグラフィーによってなし得ることが何かを文献を元に理論的に学習する。			
授業計画 第1回：本授業のねらいと進め方 第2回：質的研究と量的研究 第3回：質的研究における認識論 第4回：幼児教育学分野におけるエスノグラフィックな研究(1)：協同的な活動の成立プロセス 第5回：幼児教育学分野におけるエスノグラフィックな研究(2)：登園場面の保育者の専門性 第6回：観察調査に基づく幼児教育学分野の研究(3)：量的データとの混合研究法 第7回：エスノグラフィーにおけるサンプリング 第8回：エスノグラフィーにおけるデータ収集 第9回：エスノグラフィーの分析におけるコード化、概念化、モデル化 第10回：エスノグラフィーの分析におけるデータの統合 第11回：エスノグラフィーの課題 第12回：マルチヴォーカルヴィジュアルエスノグラフィー 第13回：マルチサイトエスノグラフィー 第14回：オートエスノグラフィー			

第15回：総括

テキスト

- ・ 中坪史典（2004）研究方法としてのエスノグラフィー．琉球大学教育学部紀要．65．131-149
- ・ 保木井啓史（2015）幼児の協同的な活動はどのように成立しているか - メンターシップの概念による分析 - ．保育学研究．53(3)．21-32．
- ・ 保木井啓史・智谷思音・中坪史典（2014）「ながら行為」としての保育者の専門性に関する研究 - 登園時から設定保育に至るまで - ．広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部．63．111-120

など

参考書・参考資料等

- ・ 箕浦康子（1998）仮説生成の方法としてのフィールドワーク．志水宏吉編．教育のエスノグラフィー．嵯峨野書院．31-47
- ・ 柴山真琴（2006）子どもエスノグラフィー入門．新曜社

学生に対する評価

授業における討論への参加、および期末レポートまたは授業内での発表を同等の重みづけで評価する。

S：単位認定基準を満たし、かつ4つの項目で非常に優秀な学習成果をあげた（90～100点）

A：単位認定基準を満たし、かつ4つの項目で優秀な学習成果をあげた（80～89点）

B：単位認定基準を満たし、かつ1～3つの項目で優秀な学習成果をあげた（70～79点）

C：単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた（60～69点）

F：単位認定基準の学習成果をあげられなかった（～59点）

授業科目名： 幼児教育内容特論	教員の免許状取得のための 必修科目 / ○選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 齋藤美智子
			担当形態： 単
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 保育内容を構造的にとらえ、幼児教育の内容と方法について歴史的視点、子どもの権利条約の視点から考える			
授業の概要 幼児教育について、制度、カリキュラムの歴史的変遷をたどりながらその本質について考える。また、具体的な実践例をもとに 幼児教育の内容と方法について幼児の発達や子どもの権利条約の視点から考える。			
授業計画 第1回：我が国の乳幼児教育の制度の歴史 第2回：幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷 第3回：保育とはなにか 第4回：幼児期とはなにか 第5回：幼児教育の内容と方法について実践をもとに子どもの権利条約の視点から考える（実践例1） 第6回：幼児教育の内容と方法について実践をもとに子どもの権利条約の視点から考える（実践例2） 第7回：幼児教育の内容と方法について実践をもとに子どもの権利条約の視点から考える（実践例3） 第8回：幼児教育の内容と方法について実践をもとに子どもの権利条約の視点から考える（実践例4） 第9回：「遊び」について、保育者の実践的視点を学ぶ 第10回：日本における保育カリキュラムの歴史 第11回：日本における保育カリキュラムの課題 第12回：現代の子どもの発達上の問題点を検討し、現代的視点から幼児教育における教育内容のあるべき姿を考える 第13回：保育方法を具現化するものとしての保育文化について、歴史的な意味や文化的な意味を考える 第14回：幼児教育における教育内容・方法について、幼児の発達の視点、文化継承の視点から考える 第15回：まとめ 第16回：レポート			
テキスト 授業内容に応じて、適宜プリントを渡す。			
参考書・参考資料等 加藤繁美（2021）保育・幼児教育の戦後改革．ひとなる書房、 穴戸健夫（2017）日本における保育カリキュラムー歴史と課題ー．新読書社、			

近藤幹生（2018）保育の自由．岩波書店、岡本夏木（2005）幼児期．岩波書店、
安曇幸子・伊野緑・吉田裕子・田代康子（2014）子どもとつながる子どもがつながる．ひとなる書房

学生に対する評価

授業内容の習得の度合いをはかるため、2回のレポートを課しその内容によって評価する（60％）。また、授業における貢献度を平常点として加味する（40％）。

授業科目名： 幼児教育内容特論 演習	教員の免許状取得のための 必修科目 / ○ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 齋藤美智子
			担当形態： 単
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
保育における子どもと保育者、保護者の三者の関係性について、人間関係発達論的視点から考える。			
授業の概要			
さまざまな幼児教育実践にふれ、子ども・保育者・保護者の関係性を学ぶ。幼児教育現場の課題を明らかにするとともに、幼児の豊かな育ちを保障する幼児教育の内容と方法について論議する。 授業者の保育現場体験、保育実践記録を素材とし、保育内容を構造的にとらえていく。			
授業計画			
第1回 保育の歴史			
第2回 保育実践記録 1（1980年代）			
第3回 保育実践記録 2（1990年代）			
第4回 保育実践記録 3（2000年代）			
第5回 保育実践記録 4（2010年代）			
第6回 保育における人間関係発達論1—ひばり保育園の実践から			
第7回 保育における人間関係発達論2—実践分析			
第8回 保育における人間関係発達論3—考察と課題			
第9回 発達する保育園1—こども編			
第10回 発達する保育園2—保護者・職員編			
第11回 発達する保育園3—組織方針編			
第12回 親が参画する保育をつくる：国際比較調査をふまえて1—12カ国の政策から4カ国			
第13回 親が参画する保育をつくる：国際比較調査をふまえて2—12カ国の政策から4カ国			
第14回 親が参画する保育をつくる：国際比較調査をふまえて3—12カ国の政策から4カ国			
第15回 まとめ レポート作成			
テキスト			
授業内容に応じて、適宜プリントを渡す。			
参考書・参考資料等			
嶋さな江・ひばり保育園（1998）保育における人間関係発達論 ひとなる書房			
池本美香（2014）親が参画する保育をつくる：国際比較調査をふまえて 勁草書房			

平松知子（2012）大人だってわかってもらえて安心したいー発達する保育園大人編 ひとなる書房

授業進行に応じて適宜紹介する

学生に対する評価

授業内容の習得の度合いをはかるため、2回のレポートを課しその内容によって評価する（60％）。また、授業における貢献度を平常点として加味する（40％）。

授業科目名： 幼児教育内容特論 演習	教員の免許状取得のための 必修科目 / ○選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 齋藤美智子 担当形態： 単
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 東日本大震災による原発事故後の福島の保育を振り返る。また、コロナ禍における保育の状況を探る。それらの状況をもとに、困難時における子どもの育ちを保障する保育とは何かについて考える。			
授業の概要 東日本大震災による原発事故後の福島の保育について、関連実践記録や保育白書、関係書籍から振り返る。また、コロナ禍における保育の状況を探る。想定外の困難が起こった時、子どもの育ちを保障する保育とは何か、保育に求められるものについて論議する。			
授業計画 第1回：東日本大震災と原発事故 第2回：被災から3年間のあゆみ 第3回：2011年 被災1年目の保育 第4回：2012年 被災2年目の保育 第5回：2013年 被災3年目の保育 第6回：子育て支援センターでは 第7回：職員集団作り、保護者は 第8回：放射能、保育の専門家と共に 第9回：福島の保育を考える（福島の保育 第13集から） 第10回：福島の保育を考える（福島の保育 第14集から） 第11回：コロナ禍と保育（環境と内容） 第12回：コロナ禍と保育（人間関係） 第13回：困難時の保育（環境と内容）を考える 第14回：困難時の保育（人間関係）を考える 第15回：まとめ レポート作成			
テキスト さくら保育園、安斎育郎、大宮勇雄（2014）「それでも、さくらは咲く」 ひとなる書房 授業者が貸し出す			
参考書・参考資料等			

鈴木康裕（2021）福島の子どもたち かもがわ出版

福島県保育連絡会（2012）福島の保育 第13集、福島県保育連絡会（2017）福島の保育 第14集
希望者へ授業者が貸し出す。

この他、授業進行に応じて適宜紹介する

学生に対する評価

授業内容の習得の度合いをはかるため、2回のレポートを課しその内容によって評価する（60％）。また、授業に対する貢献度を平常点として加味する（40％）。

授業科目名： 幼児教育内容特論 演習	教員の免許状取得のための 必修科目 / ○選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 齋藤美智子
			担当形態： 単
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
子ども及び幼児教育内容について、テキストをもとに本質的な論議ができるようにする。			
授業の概要			
子ども及び幼児教育内容について、テキスト「保育的発達論の始まり」をもとに豊富な参考文献にもふれながら本質的なとらえ方を論議して深めていく。			
授業計画			
第1回：子どもの「主体性」とは何か1（テキストを深める）			
第2回：子どもの「主体性」とは何か2（参考文献から）			
第3回：子どもの「主体性」はどう育つか1（テキストを深める）			
第4回：子どもの「主体性」はどう育つか2（参考文献から）			
第5回：「子ども観」「発達観」の変遷1（テキストを深める）			
第6回：「子ども観」「発達観」の変遷2（参考文献から）			
第7回：発達をみる目をひろげる1（テキストを深める）			
第8回：発達をみる目をひろげる2（参考文献から）			
第9回：「保育」と「発達」を結びなおす1（テキストを深める）			
第10回：「保育」と「発達」を結びなおす2（参考文献から）			
第11回：子どもの権利条約について			
第12回：事例（0，1歳児）から子どもの主体性を大事にする保育を考える			
第13回：事例（2，3歳児）から子どもの主体性を大事にする保育を考える			
第14回：事例（4，5歳児）から子どもの主体性を大事にする保育を考える			
第15回：まとめ レポート作成			
テキスト			
川田学（2019）保育的発達論の始まり ひとなる書房			
参考書・参考資料等			
赤木和重・岡村由紀子・金子明子・馬飼野陽美（2017）どの子にもあ～楽しかった！の毎日を ひとなる書房			
希望者へは授業者が貸し出す。			
この他、授業進行に応じて適宜紹介する			

学生に対する評価

授業内容の習得の度合いをはかるため、2回のレポートを課しその内容によって評価する（60％）。また、授業に対する貢献度を平常点として加味する（40％）。

授業科目名：幼稚園実践研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 齋藤美智子・原野明子・保木井啓史
			担当形態： オムニバス
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 幼稚園における遊びや環境への理解を深める 子育て支援センターや児童発達支援センターでの子どもや保護者への援助を知る			
授業の概要 幼稚園、保育園や子育て支援センターなどを観察し、子ども理解とそれに基づく保育の方法・内容についての理解を深める。幼稚園における教育を理解するとともに、幼稚園以外の多様な子どもや保護者をとりまく施設の役割や保育者の職務についての理解を深める。			
授業計画 第1回：実践研究のガイダンス 第2回：遊びを中心とした保育の観察（主に3歳児） 第3回：遊びを中心とした保育の観察（主に5歳児） 第4回：児童養護施設に入所する幼児のいる園の観察 第5回：児童養護施設に入所する幼児のいる園での保育について 第6回： 第2回～第5回の授業のまとめ 第7回： 子育て支援センターの観察 第8回： 子育て支援センターでの保育者の役割について 第9回：児童発達支援センターの観察 第10回： 第7回～第9回の授業のまとめ 第11回： 乳児のいる保育施設の観察 第12回：観察に基づく討論 第13回：討論を踏まえた再度の観察 第14回：再度の観察に基づく再度の討論 第15回：第11回～第14回の授業のまとめ			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開（令和3年2月）文部科学省			

指導と評価に生かす記録（令和3年10月）文部科学省 ほか

学生に対する評価

成績評価の方法 発表（5割）、レポート（5割）をもとに評価する

成績評価の基準 発表とレポートをもとに得点化し、以下の基準にもとづき評価する。

S 90点～100点

A 80点～89点

B 70点～79点

C 60点～69点

F 59点以下

授業科目名： 教育心理学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 住吉 チカ
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 教育の現場に必須と思われる心理学的知識を学ぶ。			
授業の概要 本演習では、教育の現場で必須と思われる心理学的知識を得る。主として「学習能力の発達の基盤となる認知発達」・「発達における認知機能障害」・「学校における心理的問題」の観点から学ぶ。後半では、事例研究などにより実践的知識を得る。			
授業計画 第1回：イントロダクション：教育現場に必要な心理学的知識とは 第2回：学習能力の発達の基盤となる認知発達1：ピアジェの認知発達研究 第3回：学習能力の発達の基盤となる認知発達2：ピアジェ以降の認知発達研究 第4回：学習能力の発達の基盤となる認知発達3：素朴知識の形成と発達 第5回：発達における認知機能障害1：学習障害 第6回：発達における認知機能障害2：自閉症スペクトラム障害 第7回：発達における認知機能障害3：注意欠陥他動性障害など 第8回：発達における認知機能障害4：児童期・青年期の心理的問題 第9回：学校における心理的問題1：不登校 第10回：学校における心理的問題2：いじめ 第11回：学校における心理的問題3：支援・援助の方法 第12回：発達障害の事例検討：自閉症スペクトラム障害・ADHDなど 第13回：学習障害の事例検討：学習障害など 第14回：学校における心理的問題の実例検討 第15回：まとめ			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 よくわかる臨床心理学〔改訂新版〕 下山 晴彦 編 ミネルヴァ書房 2009			
学生に対する評価 授業への取り組みと課題レポート			

授業科目名： 認知教育方法特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 住吉 チカ
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
教授技術の開発・教材作成などに要な心理学的知識、及び実践に繋げる方法について学ぶ。			
授業の概要			
本講義では、教授技術の開発・教材作成などに必要な心理学的知識を学ぶことを目的とする。 そのために必要な心理学的知識として特に、知識形成、問題解決能力、及び学習障害などのトピックスについて、認知心理学的視点から検討する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション：認知心理学とは			
第2回：学習能力の発達の基盤となる認知発達1：ピアジェの認知発達研究			
第3回：学習能力の発達の基盤となる認知発達2：ピアジェ以降の認知発達研究			
第4回：学習能力の発達の基盤となる認知発達3：素朴知識とは何か			
第5回：知識獲得とは：素朴知識の形成			
第6回：知識形成とは1：科学的知識への移行			
第7回：知識形成2：長期記憶の仕組み			
第8回：問題解決能力とは1：基礎的知識			
第9回：問題解決能力とは2：教育への応用			
第10回：問題解決能力3：ストラテジー			
第11回：認知発達における障害1：学習障害			
第12回：認知発達における障害2：自閉症スペクトラム障害			
第13回：認知発達における障害3：注意欠陥他動性障害など			
第14回：認知発達における障害4：児童・青年期の心理的問題			
第15回：まとめ			
テキスト			
特に指定しない			
参考書・参考資料等			
よくわかる心理学 武藤隆 他 編 ミネルヴァ書房 2009			
学生に対する評価			
授業への取り組みと課題レポート			

授業科目名： 認知教育方法特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 住吉 チカ
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 教授技術の開発・教材作成などに要な心理学的知識を実践する方法について学ぶ。			
授業の概要 本講義では、認知教育方法特論演習で学んだ知識を実践する方法について考える			
授業計画 第1回：イントロダクション：教育現場で認知心理学的知識を実践するには 第2回：学習・教材作成におけるピアジェの認知発達研究からの示唆 第3回：学習・教材作成におけるピアジェ以降の認知発達研究からの示唆 第4回：科学的知識と素朴知識との関係 第5回：素朴知識から科学的知識への移行：教授法 第6回：素朴知識から科学的知識への移行：教材作成 第7回：知識構造と検索能力 第8回：問題解決能力を高める：ストラテジーの教授 第9回：問題解決能力を高める：グループ学習の方法 第10回：問題解決能力を高める：足場づくり・足場かけの方法 第11回：認知発達における障害1：学習障害への学習支援法 第12回：認知発達における障害2：自閉症スペクトラム障害への学習支援法 第13回：認知発達における障害3：注意欠陥他動性障害への学習支援法 第14回：認知発達における障害4：児童・青年期の心理的問題への対処法 第15回：まとめ			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 よくわかる心理学 武藤隆 他 編 ミネルヴァ書房 2009			
学生に対する評価 授業への取り組みと課題レポート			

授業科目名： 認知教育方法特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 住吉 チカ
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 教授技術の開発・教材作成などに要な心理学的知識を応用する方法について学ぶ。			
授業の概要 本講義では、認知教育方法特論演習で学んだ知識を応用する方法について考える			
授業計画 第1回：イントロダクション：教育における認知心理学の応用とは 第2回：学習・教材作成におけるピアジェの認知発達研究成果の応用 第3回：学習・教材作成におけるピアジェ以降の認知発達研究成果の応用 第4回：科学的知識と素朴知識を繋ぐ 第5回：素朴知識から科学的知識への移行：新しい教授法の開発 第6回：素朴知識から科学的知識への移行：教材作成の工夫 第7回：知識構造と効率の良い検索能力 第8回：問題解決能力を高める：ストラテジーの開発 第9回：問題解決能力を高める：グループ学習の工夫 第10回：問題解決能力を高める：足場づくり・足場かけの工夫 第11回：認知発達における障害1：学習障害への学習支援法の開発 第12回：認知発達における障害2：自閉症スペクトラム障害への学習支援法の開発 第13回：認知発達における障害3：注意欠陥他動性障害への学習支援法の開発 第14回：認知発達における障害4：児童・青年期の心理的問題への対処法の工夫 第15回：まとめ			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 よくわかる心理学 武藤隆 他 編 ミネルヴァ書房 2009			
学生に対する評価 授業への取り組みと課題レポート			

授業科目名： 発達心理学特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木暮照正 担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
広い意味での発達心理学に関する理論と現象について理解を深め、広い視野に立ってヒトの生涯発達過程を捉えることができるようになることが本特論の到達目標である。				
授業の概要				
発達理論（主として成人になるまでを範囲とすることが多い）及び生涯発達理論（一生涯を範囲とする）について、また認知機能とパーソナリティ・社会機能の生涯発達に関する知見について幅広く概説する。これらの概説等に基づいて、講師と受講生とで討論を行う。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション				
第2回：発達理論（1）：基本的な発達理論				
第3回：発達理論（2）：発達理論の応用実践的側面				
第4回：発達理論（3）：発達理論の最新動向				
第5回：生涯発達理論（1）：基本的な生涯発達理論				
第6回：生涯発達理論（2）：生涯発達理論の応用実践的側面				
第7回：生涯発達理論（3）：生涯発達理論の最新動向				
第8回：中間まとめと討論				
第9回：認知機能の生涯発達（1）：認知機能の生涯発達の基本的事項				
第10回：認知機能の生涯発達（2）：認知機能の生涯発達の応用実践的側面				
第11回：認知機能の生涯発達（3）：認知機能の生涯発達の最新動向				
第12回：パーソナリティ・社会機能の生涯発達（1）：パーソナリティ・社会機能の生涯発達の基本的事項				
第13回：パーソナリティ・社会機能の生涯発達（2）：パーソナリティ・社会機能の生涯発達の応用実践的側面				
第14回：パーソナリティ・社会機能の生涯発達（3）：パーソナリティ・社会機能の生涯発達の最新動向				
第15回：総合考察と討論				
定期試験				
テキスト				
なし				
参考書・参考資料等				

Hoare, C. (Ed.). (2011). *The Oxford handbook of reciprocal adult development and learning* (2nd ed.). NY: Oxford University Press.

岡本祐子・深瀬裕子（編著）(2013). エピソードでつかむ 生涯発達心理学 ミネルヴァ書房

西村純一・平野真理（編）(2019). 生涯発達心理学 ナカニシヤ出版

学生に対する評価

授業内の討論の発言内容(50%)及び提出レポートの成績(50%)により評価する。

授業科目名： 発達心理学特論演習Ⅰ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木暮照正 担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
広い意味での発達心理学に関する理論について理解を深め、広い視野に立ってヒトの生涯発達過程を捉えることができるようになることが本演習の到達目標である。				
授業の概要				
子ども期と大人期の発達過程の「繋ぎ目」となる青年期と新成人期、成人初期に注目し、この年齢期を含む生涯発達理論を中心に概説する。受講生は適宜関連文献を講読・発表し、これらを踏まえて、講師と受講生とで討論を行う。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション				
第2回：Keganの自己構造の発達理論（1）：理論の概説				
第3回：Keganの自己構造の発達理論（2）：関連文献の講読・発表				
第4回：Keganの自己構造の発達理論（3）：討論				
第5回：Perryの相対思考の発達理論（1）：理論の概説				
第6回：Perryの相対思考の発達理論（2）：関連文献の講読・発表				
第7回：Perryの相対思考の発達理論（3）：討論				
第8回：中間まとめと討論				
第9回：Bassechesの弁証法思考の発達理論（1）：理論の概説				
第10回：Bassechesの弁証法思考の発達理論（2）：関連文献の講読・発表				
第11回：Bassechesの弁証法思考の発達理論（3）：討論				
第12回：Sinnottの形式思考後の発達理論（1）：理論の概説				
第13回：Sinnottの形式思考後の発達理論（2）：関連文献の講読・発表				
第14回：Sinnottの形式思考後の発達理論（3）：討論				
第15回：総合考察と討論				
定期試験				
テキスト				
なし				
参考書・参考資料等				
Basseches, M. (1984). <i>Dialectical thinking and adult development</i> . Norwood, NJ: Ablex.				
Kegan, R. (1982). <i>The evolving self: Problem and process in human development</i> . Cambridge, MA: Harvard University Press.				

Perry, W. G. Jr. (1970). *Forms of intellectual and ethical development in college years*. NY: Holt, Rinehart & Winston.

Sinnott, J. D. (1998). *The development of logic in adulthood: Postformal thought and its applications*. Boston, MA: Springer.

学生に対する評価

授業内の発表状況や討論の発言内容(50%)及び提出レポートの成績(50%)により評価する。

授業科目名： 発達心理学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木暮照正 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 広い意味での発達心理学に関する現象について理解を深め、広い視野に立ってヒトの生涯発達過程を捉えることができるようになることが本演習の到達目標である。			
授業の概要 子ども期から高齢期までの認知機能の発達・加齢変容について概説する。受講生は適宜関連文献を講読・発表し、これらを踏まえて、講師と受講生とで討論を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：子ども期の認知機能の発達（1）：概説 第3回：子ども期の認知機能の発達（2）：関連文献の講読・発表 第4回：子ども期の認知機能の発達（3）：討論 第5回：青年期の認知機能の発達（1）：概説 第6回：青年期の認知機能の発達（2）：関連文献の講読・発表 第7回：青年期の認知機能の発達（3）：討論 第8回：中間まとめと討論 第9回：成年期の認知機能の発達（1）：概説 第10回：成年期の認知機能の発達（2）：関連文献の講読・発表 第11回：成年期の認知機能の発達（3）：討論 第12回：高齢期の認知機能の加齢変容（1）：概説 第13回：高齢期の認知機能の加齢変容（2）：関連文献の講読・発表 第14回：高齢期の認知機能の加齢変容（3）：討論 第15回：総合考察と討論 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 Hoare, C. (Ed.). (2011). <i>The Oxford handbook of reciprocal adult development and learning</i> (2nd ed.). NY: Oxford University Press. 岡本祐子・深瀬裕子(編著)(2013). エピソードでつかむ 生涯発達心理学 ミネルヴァ書房			

西村純一・平野真理（編）(2019). 生涯発達心理学 ナカニシヤ出版

学生に対する評価

授業内の発表状況や討論の発言内容(50%)及び提出レポートの成績(50%)により評価する。

授業科目名： 発達心理学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木暮照正 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 広い意味での発達心理学に関する現象について理解を深め、広い視野に立ってヒトの生涯発達過程を捉えることができるようになることが本演習の到達目標である。			
授業の概要 子ども期から高齢期までのパーソナリティ・社会機能の発達・加齢変容について概説する。 受講生は適宜関連文献を講読・発表し、これらを踏まえて、講師と受講生とで討論を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：子ども期のパーソナリティ・社会機能の発達（1）：概説 第3回：子ども期のパーソナリティ・社会機能の発達（2）：関連文献の講読・発表 第4回：子ども期のパーソナリティ・社会機能の発達（3）：討論 第5回：青年期のパーソナリティ・社会機能の発達（1）：概説 第6回：青年期のパーソナリティ・社会機能の発達（2）：関連文献の講読・発表 第7回：青年期のパーソナリティ・社会機能の発達（3）：討論 第8回：中間まとめと討論 第9回：成年期のパーソナリティ・社会機能の発達（1）：概説 第10回：成年期のパーソナリティ・社会機能の発達（2）：関連文献の講読・発表 第11回：成年期のパーソナリティ・社会機能の発達（3）：討論 第12回：高齢期のパーソナリティ・社会機能の加齢変容（1）：概説 第13回：高齢期のパーソナリティ・社会機能の加齢変容（2）：関連文献の講読・発表 第14回：高齢期のパーソナリティ・社会機能の加齢変容（3）：討論 第15回：総合考察と討論 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 Hoare, C. (Ed.). (2011). <i>The Oxford handbook of reciprocal adult development and learning</i> (2nd ed.). NY: Oxford University Press. 岡本祐子・深瀬裕子(編著)(2013). エピソードでつかむ 生涯発達心理学 ミネルヴァ書房			

西村純一・平野真理（編）(2019). 生涯発達心理学 ナカニシヤ出版

学生に対する評価

授業内の発表状況や討論の発言内容(50%)及び提出レポートの成績(50%)により評価する。

授業科目名： 乳幼児・小学生の心理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高谷理恵子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 乳幼児期および学童期の発達心理学に関する理解を深め、ヒトの発達に影響を及ぼす要因や発達支援の在り方について、自分なりの考えがもてるようになることを目標とする。			
授業の概要 乳幼児から学童期まで子どもは、心的内面を十分に言語化して表現することが難しい場合が多い。乳幼児および小学生の発達心理学における基礎的な知識について解説するとともに、言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る方法について、著名な研究を複数取り上げながら紹介していく。後半に取り上げる具体的な研究事例やトピックスの選定にあたっては、受講者の修士論文のテーマと関連を意識して、最新の研究動向を紹介していく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：発達心理学的研究法の概要についての理解 第3回：発達心理学的研究法，発達研究の中で生じやすい問題点やその対策・工夫 第4回：乳児研究および母子関係に関する研究の流れ（1）愛着理論とその発展 第5回：乳児研究および母子関係に関する研究の流れ（2）愛着のアセスメントと発達支援 第6回：幼児および幼児の仲間関係に関する研究の流れ（1）基本的な発達過程の理解 第7回：幼児および幼児の仲間関係に関する研究の流れ（2）個人差を説明する要因の理解 第8回：教育心理学における小学生の心理に関する研究の流れ（1）教師期待の研究。 第9回：教育心理学における小学生の心理に関する研究の流れ（2）教室の中の諸現象の計測 第10回：乳児の心理に関する最新の研究動向（1）赤ちゃん研究における新技術 第11回：乳児の心理に関する最新の研究動向（2）最新研究の知見の講読 第12回：幼児の心理に関する最新の研究動向（1）新技術と最新研究の動向調査 第13回：幼児の心理に関する最新の研究動向（2）最新研究の知見の講読 第14回：小学生の心理に関する最新の研究動向（1）新技術と最新研究の動向調査 第15回：小学生の心理に関する最新の研究動向（2）最新研究の知見の講読			
テキスト 指定しない。受講者の興味の動向に合わせて授業中に伝える			
参考書・参考資料等 ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教（シリーズ知のゆりかご）小林徹，栗山			

宣夫 みらい；新版 2020

学生に対する評価

授業内の討論の発言内容(50%)及び提出レポート・レジユメの内容(50%)により評価する。

授業科目名： 乳幼児・小学生の心 理学特論演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高谷理恵子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 乳幼児期および学童期の発達心理学に関する理解を深め、ヒトの発達に影響を及ぼす要因や発達支援の在り方について、自分なりの考えがもてるようになることを目標とする。			
授業の概要 乳幼児から学童期まで子どもは、心的内面を十分に言語化して表現することが難しい場合が多い。先行研究の講読を通して、このような言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る研究方法についての理解を深める。また乳幼児期、および学童期における各発達段階についての理解を深める。具体的に講読する先行研究の選定にあたっては、受講者の修士論文のテーマと関連を意識する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：発達心理学的研究における方法論の概要を理解 第3回：発達心理学的研究における実験技法の変化（1）観察法 第4回：発達心理学的研究における実験技法の変化（2）行動を測定方法 第5回：発達心理学的研究における実験技法の変化（3）生理的指標の活用法 第6回：発達心理学的研究における実験技法の変化（4）質問紙調査 第7回：研究論文の読み方について（図書館ガイダンス、文献検索の実施方法の理解） 第8回：乳児に関する発達心理学的先行研究の講読および発表 第9回：幼児に関する発達心理学的先行研究の講読および発表 第10回：小学生に関する発達心理学的先行研究の講読および発表 第11回：家族関係に関する発達心理学的先行研究の講読および発表 第12回：子育て支援に関する発達心理学的先行研究の講読および発表 第13回：学校教育に関する発達心理学的先行研究の講読および発表 第14回：地域の支援に関する発達心理学的先行研究の講読および発表 第15回：関心分野に関する発達心理学的先行研究の講読および発表			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教（シリーズ知のゆりかご）小林徹，栗山			

宣夫 みらい；新版 2020

学生に対する評価

授業内の討論の発言内容(50%)及び提出レポート・レジユメの内容(50%)により評価する。

授業科目名： 乳幼児・小学生の心 理学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高谷理恵子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
乳幼児期および学童期の発達心理学に関する理解を深め、ヒトの発達に影響を及ぼす要因や発達支援の在り方について、自分なりの考えがもてるようになることを目標とする。			
授業の概要			
乳幼児から学童期まで子どもは、心的内面を十分に言語化して表現することが難しい場合が多い。先行研究の講読を通して、このような言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る研究方法についての理解を深める。また乳幼児期，および学童期における各発達段階について，それらの発達に影響を及ぼす可能性のある諸要因についての理解を深めていく。具体的に講読する先行研究の選定にあたっては、受講者の修士論文のテーマと関連を意識する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：乳児期の発達（１）：概説			
第3回：乳児期の発達（２）：関連文献の講読・発表			
第4回：乳児期の発達（３）：討論			
第5回：幼児期の発達（１）：概説			
第6回：幼児期の発達（２）：関連文献の講読・発表			
第7回：幼児期の発達（３）：討論			
第8回：学童期の発達（１）：概説			
第9回：学童期の発達（２）：関連文献の講読・発表			
第10回：学童期の発達（３）：討論			
第11回：発達を支える環境（１）：概説			
第12回：発達を支える環境（２）：関連文献の講読・発表			
第13回：発達を支える環境（３）：討論			
第14回：地域での支援の在り方を考える			
第15回：総合考察と討論			
テキスト			
指定しない。受講者の興味の動向に合わせて授業中に伝える			
ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教（シリーズ知のゆりかご）小林徹，栗山宣夫 みらい；新版 2020			

学生に対する評価

授業内の討論の発言内容(50%)及び提出レポート・レジュメの内容(50%)により評価する。

授業科目名： 乳幼児・小学生の心 理学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高谷理恵子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
乳幼児期および学童期の発達心理学に関する理解を深め、ヒトの発達に影響を及ぼす要因や発達支援の在り方について、自分なりの考えがもてるようになることを目標とする。			
授業の概要			
乳幼児から学童期まで子どもは、心的内面を十分に言語化して表現することが難しい場合が多い。先行研究の講読を通して、このような言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る研究方法についての理解を深める。また乳幼児期，および学童期の健全な発達を促すために，保育や学校教育，地域でできることは何か，さらに家族の支援のあり方について考えていく。具体的に講読する先行研究の選定にあたっては、受講者の修士論文のテーマと関連を意識する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：発達における対人関係の影響（1）：概説			
第3回：発達における対人関係の影響（2）：関連文献の講読・発表			
第4回：発達における対人関係の影響（3）：討論			
第5回：発達における環境要因について考える（1）：概説			
第6回：発達における環境要因について考える（2）：関連文献の講読・発表			
第7回：発達における環境要因について考える（3）：討論			
第8回：発達において教育が与える影響（1）：概説			
第9回：発達において教育が与える影響（2）：関連文献の講読・発表			
第10回：発達において教育が与える影響（3）：討論			
第11回：発達を支える活動（1）：概説			
第12回：発達を支える活動（2）：関連文献の講読・発表			
第13回：発達を支える活動（3）：討論			
第14回：地域での支援の在り方を考える			
第15回：総合考察と討論			
テキスト			
指定しない。受講者の興味の動向に合わせて授業中に伝える			
ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教（シリーズ知のゆりかご）小林徹，栗山宣夫 みらい；新版 2020			

学生に対する評価

授業内の討論の発言内容(50%)及び提出レポート・レジユメの内容(50%)により評価する。

授業科目名：実験心理学 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 筒井雄二
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
この授業では心理学の基礎領域であり，実験的手法により心の理解を目指す実験心理学領域に焦点をあて，実験心理学領域でこれまで培われてきた基本的な知識を習得する。実験心理学には，学習心理学，認知心理学，比較心理学，生理心理学，知覚心理学のほか，神経科学分野の研究を含む。			
授業の概要			
授業は演習形式で行う。実験心理学に関連した海外の研究論文を講読し，実験心理学の過去の研究から新しいトピックまで幅広く学習する。受講者には与えられた論文について調べ，発表をしてもらい，その後，参加者全員によるディスカッションを行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：論文講読と討論1：英語論文の読み方を身につける			
第3回：論文講読と討論2：論文の内容を心理学的に理解する			
第4回：論文講読と討論3：論文の論点整理			
第5回：論文講読と討論4：論文に記載された重要なテクニカルターム			
第6回：論文講読と討論5：論文で使われている統計手法			
第7回：論文講読と討論6：図表を読み解く			
第8回：論文講読と討論7：研究結果に基づき考察する			
第9回：論文講読と討論8：論文内容を報告（発表）する			
第10回：論文講読と討論9：まとめ			
第11回：論文講読と討論10：新たな論文を読む			
第12回：論文講読と討論11：論文を論点整理しまとめる			
第13回：論文講読と討論12：論文内容を報告（発表）する			
第14回：論文講読と討論13：質問にこたえる			
第15回：論文講読と討論14：まとめ			
テキスト			
An introduction to psychology / Shilpa Pandit			
参考書・参考資料等			

Animal learning and cognition: an introduction / John M. Peace

学生に対する評価

授業中の以下の活動を評価の対象とする

論文発表

- ・ 論文発表に際し、事前に十分な準備を行い発表に臨んだか、
- ・ 論文をどのくらい理解できたか、
- ・ どのくらいわかりやすく発表したか、
- ・ 質問を正しく理解し、的確に回答できたか

討論

- ・ 積極的に意見を発表したか、
- ・ 論理的な発言ができたか

授業科目名:実験心理学 特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 筒井雄二
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
この授業では心理学の基礎領域であり，実験的手法により心の理解を目指す実験心理学領域に焦点をあて，実験心理学領域でこれまで培われてきた基本的な知識を習得する。実験心理学には，学習心理学，認知心理学，比較心理学，生理心理学，知覚心理学のほか，神経科学分野の研究を含む。			
授業の概要			
授業は演習形式で行う。実験心理学に関連した海外の研究論文を講読し，実験心理学の過去の研究から新しいトピックまで幅広く学習する。受講者には与えられた論文について調べ，発表をしてもらい，その後，参加者全員によるディスカッションを行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：論文講読と討論1：英語論文の読み方を身につける			
第3回：論文講読と討論2：論文の内容を心理学的に理解する			
第4回：論文講読と討論3：論文の論点整理			
第5回：論文講読と討論4：論文に記載された重要なテクニカルターム			
第6回：論文講読と討論5：論文で使われている統計手法			
第7回：論文講読と討論6：図表を読み解く			
第8回：論文講読と討論7：研究結果に基づき考察する			
第9回：論文講読と討論8：論文内容を報告（発表）する			
第10回：論文講読と討論9：まとめ			
第11回：論文講読と討論10：新たな論文を読む			
第12回：論文講読と討論11：論文を論点整理しまとめる			
第13回：論文講読と討論12：論文内容を報告（発表）する			
第14回：論文講読と討論13：質問にこたえる			
第15回：論文講読と討論14：まとめ			
テキスト			
An introduction to psychology / Shilpa Pandit			
参考書・参考資料等			

Animal learning and cognition: an introduction / John M. Peace

学生に対する評価

授業中の以下の活動を評価の対象とする

論文発表

- ・論文発表に際し、事前に十分な準備を行い発表に臨んだか、
- ・論文をどのくらい理解できたか、
- ・どのくらいわかりやすく発表したか、
- ・質問を正しく理解し、的確に回答できたか

討論

- ・積極的に意見を発表したか、
- ・論理的な発言ができたか

授業科目名:実験心理学 特論演習II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名: 筒井雄二
			担当形態: 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
この授業では心理学の基礎領域であり、実験的手法により心の理解を目指す実験心理学領域に焦点をあて、実験心理学領域でこれまで培われてきた基本的な知識を習得する。実験心理学には、学習心理学、認知心理学、比較心理学、生理心理学、知覚心理学のほか、神経科学分野の研究を含む。			
授業の概要			
授業は演習形式で行う。実験心理学に関連した海外の研究論文を講読し、実験心理学の過去の研究から新しいトピックまで幅広く学習する。受講者には与えられた論文について調べ、発表をしてもらい、その後、参加者全員によるディスカッションを行う。			
授業計画			
第1回:ガイダンス			
第2回:論文講読と討論1:英語論文の読み方を身につける			
第3回:論文講読と討論2:論文の内容を心理学的に理解する			
第4回:論文講読と討論3:論文の論点整理			
第5回:論文講読と討論4:論文に記載された重要なテクニカルターム			
第6回:論文講読と討論5:論文で使われている統計手法			
第7回:論文講読と討論6:図表を読み解く			
第8回:論文講読と討論7:研究結果に基づき考察する			
第9回:論文講読と討論8:論文内容を報告(発表)する			
第10回:論文講読と討論9:まとめ			
第11回:論文講読と討論10:新たな論文を読む			
第12回:論文講読と討論11:論文を論点整理しまとめる			
第13回:論文講読と討論12:論文内容を報告(発表)する			
第14回:論文講読と討論13:質問にこたえる			
第15回:論文講読と討論14:まとめ			
テキスト			
An introduction to psychology / Shilpa Pandit			
参考書・参考資料等			

Animal learning and cognition: an introduction / John M. Peace

学生に対する評価

授業中の以下の活動を評価の対象とする

論文発表

- ・論文発表に際し、事前に十分な準備を行い発表に臨んだか、
- ・論文をどのくらい理解できたか、
- ・どのくらいわかりやすく発表したか、
- ・質問を正しく理解し、的確に回答できたか

討論

- ・積極的に意見を発表したか、
- ・論理的な発言ができたか

授業科目名：実験心理学 特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 筒井雄二
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
この授業では心理学の基礎領域であり，実験的手法により心の理解を目指す実験心理学領域に焦点をあて，実験心理学領域でこれまで培われてきた基本的な知識を習得する。実験心理学には，学習心理学，認知心理学，比較心理学，生理心理学，知覚心理学のほか，神経科学分野の研究を含む。			
授業の概要			
授業は演習形式で行う。実験心理学に関連した海外の研究論文を講読し，実験心理学の過去の研究から新しいトピックまで幅広く学習する。受講者には与えられた論文について調べ，発表をしてもらい，その後，参加者全員によるディスカッションを行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：論文講読と討論1：英語論文の読み方を身につける			
第3回：論文講読と討論2：論文の内容を心理学的に理解する			
第4回：論文講読と討論3：論文の論点整理			
第5回：論文講読と討論4：論文に記載された重要なテクニカルターム			
第6回：論文講読と討論5：論文で使われている統計手法			
第7回：論文講読と討論6：図表を読み解く			
第8回：論文講読と討論7：研究結果に基づき考察する			
第9回：論文講読と討論8：論文内容を報告（発表）する			
第10回：論文講読と討論9：まとめ			
第11回：論文講読と討論10：新たな論文を読む			
第12回：論文講読と討論11：論文を論点整理しまとめる			
第13回：論文講読と討論12：論文内容を報告（発表）する			
第14回：論文講読と討論13：質問にこたえる			
第15回：論文講読と討論14：まとめ			

テキスト

An introduction to psychology / Shilpa Pandit

参考書・参考資料等

Animal learning and cognition: an introduction / John M. Peace

学生に対する評価

授業中の以下の活動を評価の対象とする

論文発表

- ・ 論文発表に際し，事前に十分な準備を行い発表に臨んだか，
- ・ 論文をどのくらい理解できたか，
- ・ どのくらいわかりやすく発表したか，
- ・ 質問を正しく理解し，的確に回答できたか

討論

- ・ 積極的に意見を発表したか，
- ・ 論理的な発言ができたか

授業科目名：幼児心理学 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 原野明子 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
1．幼児の認知・思考の発達、自己意識の発達、社会性の発達、言語の発達等幼児期の発達について概説できる			
2．幼児の発達を理解しながら，幼児期に必要な体験や親や保育者の役割について考えることができる			
授業の概要			
幼児の姿をみていると、一見意味のないような行動にも意味がある。これを見ることができないと、子どもは未熟で、早く大人と同じような行動を身につけさせなければならないという考えになってしまう。本授業では、幼児期の行動をとくに、イメージの発達に焦点をあててみながら、幼児の行動について考え、学校教育におけるイメージの役割について考察する。また、発達に影響を及ぼす要因について、出生体重や養育・保育環境についても考えていきたい。			
授業計画			
1．はじめに			
2．発達心理学の歴史と方法			
3．出生前、新生児期の発達			
4．乳児期における知覚・運動の発達			
5．イメージの誕生			
6．イメージの交流			
7．乳幼児期の認知発達			
8．幼児期の認知の発達～自己意識			
9．幼児期の認知の発達～思考と言語			
10．幼児期の認知の発達～社会性			
11．愛着			
12．養育環境と発達			
13．低出生体重児と保育			
14．東日本大震災と保育			
15．まとめ			
テキスト			

特に使用しない
参考書・参考資料等 中沢和子 1979 『イメージの誕生～0歳からの行動観察』NHKブックス 関口はつ江（編著）2017 『東日本大震災・放射能災害下の保育～福島の実現から保育の原点を考える』ミネルヴァ書房
学生に対する評価 平常点2割・毎回の発表資料8割 平常点と発表の得点により以下のとおり評価する S 90点～100点 A 80点～89点 B 70点～79点 C 60点～69点 F 59点以下

授業科目名： 幼児心理学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 原野明子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 1．幼児の行動の意味を各年齢で出会うであろう経験をもとに考えることができる 2．幼児期の発達と保育者や親の役割について考えることができる			
授業の概要 幼児の行動の意味を各年齢で出会うであろう経験をもとに考え、幼児期の発達と保育者や親の役割について考える。とくに幼児心理学特論演習 では乳幼児期の子どもの養育や保育に関わる問題を通して、保育者や親の役割、支援について先行研究をもとに検討をすすめる。中でも、東日本大震災やコロナ禍での保育の実態や今後何が生かせるかを検討した研究に焦点をあてて、幼児期に必要な子どもの経験は何かを考えたい。			
授業計画 第1回：三歳児の世界を考える：友達との関係から 第2回：三歳児の世界を考える：大人との関係から 第3回：四歳児の世界を考える：友達との関係から 第4回：四歳児の世界を考える：行動をみることから 第5回：五歳児の世界を考える：遊びと認知の観点から 第6回：五歳児の世界を考える：友達との関係から 第7回： 保育の場の両義性について 第8回：これまでの発達心理学と保育学の関係 第9回：子どもの気持ちを「受け止める」と「受け入れる」のちがいを考える 第10回：依存と自立をどう見るか 第11回：保育において「気になる子」とは？ 第12回：保育者は子どもの何をみるのか 第13回：不器用な子どもについて 第14回： 小さく生まれた子と保育 第15回：まとめ			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等			

津守真 1980保育の体験と思索,大日本図書

鯨岡峻・鯨岡和子 2001保育を支える発達心理学,ミネルヴァ書房

学生に対する評価

毎回の発表(5割)と提出レポート(5割)の成績により評価する。

平常点とレポートより

9割以上でS

8割以上でA

7割以上でB

6割以上でC

6割未満でF

授業科目名： 幼児心理学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 原野明子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 1．文献を元に，保育現場に研究的視点がどのように資するかを考えることができる 2．保育現場を研究としてみることで，実際に保育をすることの相違について考えることができる			
授業の概要 「子どもの養育に心理学がいえること」やその他の幼児の発達と心理学関係の論文を読み、保育現場や小中学校の教育現場にこれらの研究がどう資するのか、また、これらの研究にどのような意味があるのかをディスカッションする。その上で保育者や教員が心理学的知見をもつことが保育・教育や子ども理解にどのような影響を与えるかについても考えることができるようにしたい。			
授業計画 第1回：保育と心理学研究 第2回：子どもと家族についての研究のトピック1～家族関係 第3回：子どもと家族についての研究のトピック2～愛着 第4回：子どもと家族についての研究のトピック3～家族の問題 第5回：子どもの友だち関係についての研究のトピック1～仲間関係 第6回：子どもの友だち関係についての研究のトピック2～仲間内地位 第7回：子どもの友だち関係についての研究のトピック3～発達 第8回：現代技術の負の影響から子ども本来の育ちを守ろう 第9回：子育て力の回復を政策目標に子どもの主体性を大切に関わる 第10回：子どもの「心の回復力」を育てる 第11回：個性に合わせた発達環境設定を 第12回：事件や事故、虐待などが疑われるときの子どもへの面接 第13回：「経験」「知恵」「技」「人間力」の世代継承を政策課題に 第14回：超高齢社会の基盤を強くする教育アプローチ 第15回：まとめ			
テキスト 特に指定しない			

参考書・参考資料等

H.R.シャファー（著）無藤隆・佐藤恵理子（訳）2001 子どもの養育に心理学がいえること,新曜社
ほか

学生に対する評価

毎回の発表(5割)と提出レポートの成績(5割)により評価する。

9割以上でS

8割以上でA

7割以上でB

6割以上でC

6割未満でF

授業科目名： 幼児心理学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 原野明子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 1．文献を元に，保育現場に研究的視点がどのように資するかを考えることができる 2．子ども理解と保育について考えることができる			
授業の概要 消極性や引っ込み思案的な特性をもつ子どもの実態やその発達について、出生時の体重といった出生時および身体的な要因、子どもの認知的側面、保育者の子どもへの対応や認識の仕方等保育側の要因を検討しながら、発達心理学の研究をすすめる視点や研究のすすめ方について考えていく。幼児を対象とした研究の方法にはどのようなものがあるかについても探っていきたい。			
授業計画 第1回：小児期の社会的ひきこもりとシャイネス：歴史，理論，定義，評価 第2回：小児期と思春期の社会的ひきこもり：仲間関係と社会的能力 第3回：シャイネス，子育て，親子関係 第4回：ルーマニアの孤児たち：研究の背景 第5回：ルーマニアの孤児たち：施設養育と里親 第6回：社会情緒的発達 第7回：子ども理解と保育：困難を抱えるこどもとは？ 第8回：引っ込み思案の子どもの認知様式 第9回：保育において一人ひとりをみるとは？ 第10回：保育において全体をみるとは？ 第11回：保育者が問題にする子どもの特徴 第12回：引っ込み思案の子どもと保育 第13回：行動観察法 第14回：記録をとる 第15回：まとめ			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等			

K.H.ルビン & R.J.コプラン（編）2013 『子どもの社会的ひきこもりとシャイネスの発達心理学』 明石書店

芦澤清音・浜谷直人・野本千秋（編著）2018 『子ども理解で保育が変わる：困難を抱える子どもと育ち合う』

学生に対する評価

毎回の発表(5割)と提出レポートの成績(5割)により評価する。

9割以上でS

8割以上でA

7割以上でB

6割以上でC

6割未満でF

授業科目名： 幼児発達心理学特論		教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 原野明子
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
1 . 幼児の認知・思考の発達、自己意識の発達、社会性の発達、言語の発達等幼児期の発達について概説できる				
2 . 幼児の発達を理解しながら、幼児期に必要な体験や親や保育者の役割について考えることができる				
授業の概要 子どもたちの様々な問題に対し、幼児期の体験の重要性がさまざまなところで言われている。				
本授業では、幼児の認知・思考の発達、自己意識の発達、社会性の発達、言語の発達等幼児期の発達の様子をたどりながら、発達の原理、発達課題に言及しながら、幼児期に必要な体験とは何か、また、それらを支える親や保育者など大人の役割、あるいは子どもの育ちを見る眼とはどのようなものであればよいかについて、考えていきたい。				
授業計画				
第1回：はじめに				
第2回：発達心理学の歴史と方法				
第3回：現代の発達心理学における理論の統合に向けて				
第4回：出生前、新生児期の発達				
第5回：乳児期における知覚発達				
第6回：乳児期における運動発達				
第7回：認識の起源～ピアジェ理論とそれに代わる考え				
第8回：幼児期；シンボルの出現～言語の発達・語彙の発達の側面から～				
第9回：幼児期；シンボルの出現～言語の発達・事例から～				
第10回：遊びと描画における象徴的表象				
第11回：幼児期の認知の発達～自己中心性				
第12回：幼児期の認知の発達～アニミズム				
第13回：幼児期の認知の発達～思考と言語				
第14回：幼児期の認知の発達～仲間関係				
第15回：幼児期の認知の発達～社会性				
定期試験は行わない。				
テキスト				

特に指定しない
参考書・参考資料等
滝川一廣 2017 『子どものための精神医学』医学書院 ほか
学生に対する評価 平常点 7 割・発表資料 3 割
S 90点～100点
A 80点～89点
B 70点～79点
C 60点～69点
F 59点以下

授業科目名：臨床発達心理学特論	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安部郁子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
心理診断の技法・アセスメントを用いて，実際に心理的関与ができるようになる。			
授業の概要			
様々な問題を持つ子どもの関わる心理臨床の専門職として，心理診断・アセスメントについての理論・実践をビデオ・ロールプレイなどを用いて学習する。			
授業計画 本授業計画は，教育相談及び生徒指導の視点を含んでいる。			
第1回：オリエンテーション			
第2回：子どもの問題・問題行動の意味			
第3回：問題を持つ子どもとの面接			
第4回：問題行動を持つ子どもの心理療法			
第5回：虐待を受けた子ども，DV家庭で育つ子どもの理解と対応			
第6回：（講義）性的虐待を受けた子どもの面接			
第7回：（演習）性的虐待を受けた子どもの面接			
第8回：（講義）虐待やDVを受けた子どもを持つ親の面接			
第9回：（演習）虐待やDVを受けた子どもを持つ親の面接			
第10回：（講義）家族支援のための関係者との面接			
第11回：（演習）家族支援のための関係者との面接			
第12回：事例研究（虐待を受けた子どもとその親の事例）			
第13回：事例研究（DVを受けた子どもとその親の事例）			
第14回：事例研究（性的虐待を受けた子どもとその親の事例）			
第15回：まとめ			
定期試験は行わない。			
テキスト			
参考書・参考資料等			
鵜飼奈津子・服部隆志著，編集『虐待を受けた子どものアセスメントとケア：心理・福祉領域からの支援と協働』誠信書房			
学生に対する評価			

授業参加の態度，公認心理師としての理解と技術の基礎を身に付けられたかどうかの評価，小レポートと最終レポート。

授業科目名： 保健医療分野に関する 理論と支援の展開(神経 生理学特論)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 横山 浩之
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
発達心理学的に正しく検討できる能力を身につける。特に、発達障害、精神障害、行動障害に関する最新の知見を得る。			
授業の概要			
児童青年期の身体ならびに精神発達およびその異常を理解するために必要な生理学・病理学・小児神経学・児童精神医学に関する必要最低限の知識を学ぶ。			
授業計画			
第1回：イントロダクション、小児の身体発達と精神発達			
第2回：障害科学（ICFの考え方）			
第3回：正常発達とその障害（その1: 0歳児の危機）			
第4回：正常発達とその障害（その2: 幼児期）			
第5回：正常発達とその障害（その3: 学童期）			
第6回：正常発達とその障害（その4: 思春期）			
第7回：正常発達とその障害（その5: 青年期）			
第8回：児童青年期精神医学			
第9回：発達障害と二次障害			
第10回：自閉スペクトラム症			
第11回：ペアレントトレーニング技法演習（その1：増やしたい行動）			
第12回：ペアレントトレーニング技法演習（その2：減らしたい行動）			
第13回：ペアレントトレーニング技法演習（その3：危険な行動）			
第14回：小児虐待と行動異常			
第15回：行動異常とその予防			
定期試験は行わない。			
テキスト マンガでわかる魔法のほめ方・ペアレントトレーニング（小学館 横山浩之著） 1500円，第11回～第13回で利用する。			
参考書・参考資料等			
発達障害の臨床（診断と治療社 横山浩之 著）			
保育士・幼稚園教諭・支援者のための 乳幼児の発達からみる保育 “気づき”ポイント44（診断			

と治療社 横山浩之 著)

健診とことばの相談 1歳6か月児健診と3歳児健診を中心に(ぶどう社 中川信子 著)

子どもの脳を傷つける親たち(NHK出版新書 友田明美 著)

学生に対する評価 レポート課題(70%)、受講態度(30%)

授業科目名： 障害児心理学特論	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 市川英雄
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 障害のある子どもの知的発達、社会性の発達、行動情緒の問題をアセスメントできる。実際の支援の手立てについて提案することができる。			
授業の概要 障害や発達のとらえ方、検査や観察、面接によるアセスメントの考え方について学ぶ。さらに発達障害、高次脳機能障害などを中心として、その概念（状態像）や支援方法を学ぶ。障害のある本人だけでなく、周囲の人々や環境についてのアセスメントと理解、支援についても学ぶ。			
授業計画 第 1 回：障害の概念と特別な教育ニーズおよび合理的配慮 第 2 回：知的障害児の発達と心理 第 3 回：視覚障害・聴覚障害児の発達と心理 第 4 回：肢体不自由・病虚弱児の発達と心理 第 5 回：自閉症児の発達と心理 第 6 回：発達障害者の青年期・成人期での支援 第 7 回：LD・ADHD児の発達と心理 第 8 回：特別支援教育とは 第 9 回：実態把握と相談支援 第10回：個別の指導計画と個別の教育支援計画 第11回：校内委員会と支援体制 第12回：特別支援教育（児童期の支援事例） 第13回：特別支援教育（青年期の支援事例） 第14回：学校コンサルテーション 第15回：まとめ定期試験は行わない。			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 ディー・C・レイ編著『セラピストのための子どもの発達ガイドブック』誠信書房 2021			
学生に対する評価 提出レポートの成績(70%)及び授業内の討論の状況(30%)により評価する。			

授業科目名：障害児病理 特論	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 武士 清昭
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 学習障害・注意欠陥多動性障害・広汎性発達障害について，その注意・記憶・認知発達等の基本を理解する。効果的な教育プログラム（特に早期療育プログラム）について基本を修得する。			
授業の概要 学習障害・注意欠陥多動性障害・広汎性発達障害について，その注意・記憶・認知機能等の特性から，より効果的な教育プログラム（特に早期療育プログラム）を検討する。			
授業計画			
第 1 回：障害児病理とはなにか			
第 2 回：自殺・いじめ・ひきこもりの実情			
第 3 回：児童精神科とはなにか			
第 4 回：思春期の病気：うつ			
第5回：思春期の病気：統合失調症			
第 6 回：発達障がいとはなにか			
第 7 回：自閉症スペクトラムとはなにか			
第 8 回：神経発達症群について			
第 9 回：愛着障害について			
第10回：強度発達行動障害について			
第11回：診断基準について			
第12回：治療法（ 1 ）学習障害			
第13回：治療法（ 2 ）注意欠陥多動性障害			
第14回：治療法（ 3 ）広汎性発達障害			
第15回：まとめ・レポート			
定期試験は行わない。			
テキスト			
参考書・参考資料等			
長尾圭造他監訳『ラター 児童青年精神医学』明石書店 2018			
内山登紀夫著『ライブ講義「発達障害の診断と支援」』岩崎学術出版社 2013			
齋藤万比古著『子どもの精神科臨床』星和書店 2015			
滝川一廣著『子どものための精神医学』医学書院 2017			

学生に対する評価 授業中の質疑応答（30%）、レポート（70%）により総合的に評価する。

授業科目名：心理支援に関する理論と実践(心理学研究法特論)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：岸 竜馬、安部 郁子、生島 浩、青木 真理
			担当形態： オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 臨床場面でよく使われる調査研究手続きが実施でき、一定の水準で分析できること。			
授業の概要 様々な立場での心理学の研究法について学び、臨床や教育への適用を目指す。心理臨床、学校臨床の中で行う、心理学的な研究方法について、それぞれの教員の専門的な立場で取り上げ、実践的な力量の向上を目指す。			
授業計画			
第1回：文献講読 第0章「データ解析の基礎知識」 第1章「尺度構成の基本的な分析手続き」（岸）			
第2回：文献講読 第2章「尺度を用いて調査対象を分類する」（岸）			
第3回：文献講読 第3章「グループ間の平均値の差を検討する」（岸）			
第4回：文献講読 第4章「影響を与える要因を探る」（岸）			
第5回：質的研究法 質的研究の方法（生島）			
第6回：質的研究法 グランデッド・セオリー（生島）			
第7回：質的研究法 ナラティブ分析（生島）			
第8回：質問紙調査法 実施方法（青木）			
第9回：質問紙調査法 質問紙の作成と施行（青木）			
第10回：質問紙調査法 質問紙の集計と分析（青木）			
第11回：学校における事例研究の実際：生徒指導全体会、特別支援校内委員会（安部）			
第12回：就学相談、入級相談の実際（安部）			
第13回：福祉臨床における事例研究（安部）			
第14回：文献講読 第5章「潜在変数間の因果関係を検討する」（岸）			
第15回：文献講読 第6章「潜在曲線モデルを利用する」（岸） 第7章「Excel+Amos活用マニュアル」			
定期試験は行わない。			
テキスト			
小塩真司「研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析 第3版」東京図書			
参考書・参考資料等			

学授業時のレポート（60％）, 授業時の質疑応答などの参加状況（40％）

授業科目名： 心理実験統計法特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 住吉 チカ
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 心理統計の知識を得、それを実践に繋げる。			
授業の概要 。本講義では、各人の研究を進めるために必要な統計的知識について、基礎から応用にいたるまで明確な知識を得ることを目的とする。また、心理学・教育学において、実験や調査を行うのに必要なデータ処理・統計について基礎的な知識を身につける。さらに、多変量解析など特殊な目的に応じた統計分析手法についても知識を得る。			
授業計画 第1回：心理データの測定・分類法 第2回：記述統計1 1変数分布の要約 第3回：記述統計2 標準化と正規分布 第4回：記述統計3 相関分析 第5回：推測統計の基礎：仮説検定 第6回：平均値の検定 第7回：1つの平均値の検定 第8回：1要因分散分析 第9回：多要因分散分析 第10回：分散分析モデル 第11回：多変量解析：重回帰 第12回：多変量解析：因子分析 第13回：質的変数の解析1： χ^2 検定 第14回：質的変数の解析2：連関係数など 第15回：まとめ			
テキスト			
参考書・参考資料等 心理学のための統計学 川端 一光/荘島 宏二郎 誠心書房 2014 実験心理学のための統計学 橋本 貴充/荘島 宏二郎 誠心書房 2016			
学生に対する評価 授業への取り組みと課題レポート			

授業科目名： 学習心理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 住吉 チカ
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 学習場面において、心理学的知識を有効に活用するための知識を得る。			
授業の概要 本演習では、学習場面で心理学的知識を有効に活用する方法について知識を得る。主に「学習能力の発達の基盤となる認知発達」・「発達における認知機能障害」・「学校における心理的問題」分けて学ぶ。さらに後半では、先行研究を調べ、独自の手法について模索する。			
授業計画 第1回：イントロダクション：教育現場に必要な心理学的知識とは 第2回：学習能力の発達の基盤となる認知発達1：ピアジェの認知発達研究 第3回：学習能力の発達の基盤となる認知発達2：ピアジェ以降の認知発達研究 第4回：学習能力の発達の基盤となる認知発達3：素朴知識の形成と発達 第5回：学習場面における認知機能障害の問題1：学習障害 第6回：学習場面における認知機能障害の問題2：自閉症スペクトラム障害 第7回：学習場面における認知機能障害の問題3：注意欠陥他動性障害など 第8回：学習場面における児童期・青年期の心理的問題 第9回：学校における心理的問題1：不登校 第10回：学校における心理的問題2：いじめ 第11回：学校における心理的問題3：支援・援助の方法 第12回：発達障害の事例検討：自閉症スペクトラム障害・ADHDなど 第13回：学習障害の事例検討：学習障害・いじめなど 第14回：青年期における心理的問題：進路選択・アイデンティ確立など 第15回：まとめ			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 よくわかる臨床心理学〔改訂新版〕 下山 晴彦 編 ミネルヴァ書房 2009			
学生に対する評価 授業への取り組みと課題レポート			

授業科目名：教育分野に関する理論と支援の展開（学校臨床心理特論）	教員の免許状取得のための必修科目 / <u>選択科目</u>	単位数：2 単位	担当教員名：岸 竜馬，安部 郁子
			担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 学校現場での様々な困難や問題について学び、支援方法や理解の仕方を習得する。			
授業の概要 学校現場が抱える不登校、いじめ、非行、発達障害といった困難な問題行動に対する理解と解決に向けたアプローチを学ぶ。ここでは学校と社会、学校と家庭、子どもの発達とその障害、学校の組織と体制等の理解について学際的な視点から学び、学校カウンセリングの在り方や基本的な方法を検討する。さらに、子どもの問題行動に対して、アセスメントの方法、支援方針、援助の実際にふれて、個別援助計画の重要性を認識する。			
授業計画			
第 1 回：文献講読 第 1 章「学校現場で役に立つ精神分析」（岸）			
第 2 回：文献講読 第 2 章「学校現場における心理職の専門性」（岸）			
第 3 回：文献講読 第 3 章「特別支援教育の基礎知識」（岸）			
第 4 回：文献講読 第 4 章「スクールカウンセリングに精神分析的観点を利用する」（岸）			
第 5 回：いじめの理解と対応（安部）			
第 6 回：デートDVの理解と対応（安部）			
第 7 回：特別支援教育の現状（安部）			
第 8 回：特別支援教育の課題（安部）			
第 9 回：文献講読 第 5 章「教室にいる発達障害のある子どもと教員を支援する」（岸）			
第 1 0 回：文献講読 第 6 章「中学校における精神分析的志向性を持つカウンセリングの意義」（岸）			
第 1 1 回：文献講読 第 7 章「高校生の分離を巡る葛藤と家庭環境」（岸）			
第 1 2 回：文献講読 第 8 章「高校の統廃合という現代的現象とそこで惹起されるもの」（岸）			
第 1 3 回：文献講読 第 9 章「高校における『いじめ』と関わる」（岸）			
第 1 4 回：文献講読 第10章「教職員チームへの支援」第11章「学校現場に精神分析的観点を育む」（岸）			
第 1 5 回：まとめ（岸）			
定期試験は行わない。			
テキスト			

平井正三・上田順一著「学校臨床に役立つ精神分析」誠信書房（2,500円＋税）
参考書・参考資料等
学生に対する評価 提出レポートの成績(70%)及び授業内の討論の状況(30%)により評価する。

授業科目名：臨床心理学 特論	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 岸 竜馬
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 学校現場での様々な困難や問題について学び、支援方法や理解の仕方を習得する。			
授業の概要 精神分析的心理療法をベースに、心理療法を始めるにあたって必要な知識を身に付ける。本年度は、松木邦裕の『体系講義 対象関係論 上』『体系講義 対象関係論 下』を読み進め、精神分析の理論の1つである対象関係論を取り上げ、人の心理的発達の過程を理解し、心理療法的な視点での精神病理の理解を深め、その技法を学ぶ。			
授業計画			
第1回：文献講読 第1章「精神分析とはどんなものなのか」第2章「フロイトとアブラハムの対象、対象関係」			
第2回：文献講読 第3章「メラニー・クラインその人—人がらと人生史」第4章「メラニー・クラインのおもな業績」			
第3回：文献講読 第5章「こころの発達と機能的形態としての『ポジション論』1．乳児期の心的発達での『ポジション論の提示と「スキゾイド機制」の発見 2．『こころの形態の発達』としてのポジション論 3．妄想 - 分裂ポジション」			
第4回：文献講読 第5章「こころの発達と機能的形態としての『ポジション論』4．抑うつポジション」第6章「精神分析技法の革新」			
第5回：文献講読 第7章「ビオンその人 - 人がらと人生史」第8章「ビオン精神分析・前期：クライン精神分析からの学びと拡張」			
第6回：文献講読 第9章「現代クライン派精神分析と世界のクライン派分析」			
第7回：文献講読 第10章「代表的な現代クライン派分析家の理論と技法」			
第8回：文献講読 第11章「独立学派の対象関係論」			
第9回：文献講読 第12章「代表的なインディペンデント・グループ分析家」			
第10回：文献講読 第13章「ビオン精神分析中期 - 精神分析の科学的論理」			
第11回：文献講読 第14章「考えることと思考の成熟とその使用法」			
第12回：文献講読 第15章「こころでの変形 - 後期ビオンへの橋渡し」			
第13回：文献講読 第16章「後期ビオン - パーソナリティの真実/Oの探求、分析過程での破局的変化、技法としての無心の達成」			

第14回：文献講読 終章「対象関係論の全体像 - その過去・現在・未来」

第15回：まとめ

定期試験は行わない。

テキスト

松木邦弘「体系講義 対象関係論 上」岩崎学術出版社（3,600円＋税）

松木邦弘「体系講義 対象関係論 下」岩崎学術出版社（3,600円＋税）

参考書・参考資料等

学生に対する評価 提出レポートの成績(70%)及び授業内の討論の状況(30%)により評価する。

授業科目名：臨床心理学 特論	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：竹林由武 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 エビデンスに基づく医療、心理学実践の基礎知識を習得する。共同の実証主義のための傾聴+共感スキルの基礎を修得する。うつ病の認知行動療法の基本モデル、介入技法の基礎を理解する。不安症の認知行動療法の基本モデル、介入技法の基礎を理解する。			
授業の概要 認知行動療法の技法習得に先立って、エビデンスに基づく医療、科学者—実践家モデル、共同の実証主義といった認知行動療法の土台となる発想を理解する。その上で、うつ病、不安症、および逆境体験に対して適用される認知行動療法のフォーミュレーション、認知論的・行動論的介入技法を体験的に習得する。			
授業計画 第1回：認知行動療法の基礎：導入 第2回：認知行動療法の土台1：エビデンスに基づく医療と心理学実践 第3回：認知行動療法の土台2：エビデンスの批判的吟味 第4回：認知行動療法の土台3：科学者-実践家モデル 第5回：認知行動療法の土台4：共同の実証主義に根ざしたコミュニケーションスキル 第6回：うつ病の認知行動療法1：うつ病の疫学、うつ病の認知行動モデル 第7回：うつ病の認知行動療法2：行動活性化療法 第8回：うつ病の認知行動療法3：問題解決療法 第9回：うつ病の認知行動療法4：認知再構成法 第10回：不安症の認知行動療法1: 不安症の疫学、不安症の認知行動モデル 第11回：不安症の認知行動療法2: 筋弛緩法 第12回：不安症の認知行動療法3: エクスポージャー法,行動実験 第13回：多様な問題への認知行動療法1: 慢性疼痛 第14回：多様な問題への認知行動療法2: 複雑性悲嘆 第15回：まとめ 定期試験は行わない。			
テキスト			
参考書・参考資料等 1. ステファン・ホフマン（伊藤・堀越（訳））(2012) 現代の認知行動療法 -CBTモデルの臨床実践-			

診断と評論社 <http://www.shindan.co.jp/books/index.php?menu=10&cd=197500&kbn=1>

2. 堀越 勝・野村俊明(2012) 精神療法の基本 -支持から認知行動療法まで- 医学書院<https://www.igaku-shoin.co.jp/bookDetail.do?book=81636>

3. 原田隆之 (2015) 心理職のためのエビデンス・ベイスト・プラクティス入門—エビデンスを「まなぶ」「つくる」「つかう」 金剛出版 <http://kongoshuppan.co.jp/dm/1461.html>

学生に対する評価 リアクション（テーマについて、自分の考えを的確に論じているかどうか）（70%）、受講態度（積極的に発言し、他の受講生と活発なやりとりをしているかどうか）（30%）

授業科目名： 福祉分野に関する理論と支援の展開（福祉心理特論）	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安部郁子
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
福祉心理学の理論と方法を学び ,実践的な知識と援助スキルを獲得し ,臨床心理学的活動に取り組む基礎を身につける。			
授業の概要			
福祉現場で生じる問題と背景について理解し ,現場における心理・社会的課題とその支援方法について学ぶ。福祉領域の基本理念および法律と制度について学び ,臨床心理の専門職としての役割や支援方法について学ぶ。			
授業計画 本授業計画は ,教育相談及び生徒指導の視点を含んでいる。			
第1回：オリエンテーション（福祉領域における心理職の役割）			
第2回：福祉領域で求められる心理職の役割			
第3回：心理職に必要な福祉制度の基礎的知識			
第4回：児童福祉の法制度と心理職の役割			
第5回：児童相談所・児童養護施設の心理職の役割			
第6回：児童虐待と心理支援			
第7回：障害福祉の法制度と心理職の役割			
第8回 知的障害の理解と支援			
第9回：発達障害の理解と支援			
第10回：身体障害の理解と支援			
第11回：精神障害の理解と支援			
第12回：高齢者福祉の法制度と心理職の役割			
第13回：高齢者と認知症			
第14回：母子福祉における心理職の役割			
第15回：DV家庭の支援と心理職の役割 まとめ			
定期試験は行わない。			
テキスト			
参考書・参考資料等			
生地新著『児童福祉施設の心理ケア―力動精神医学からみた子どもの心』岩崎学術出版社			

学生に対する評価

輪番でのレポートの内容，授業でのディスカッション，最終レポートから総合的に評価する

授業科目名：保健医療分野に関する理論と支援の展開（精神医学特論）	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：熊切力(非) 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 心理専門職として必要不可欠な精神医学の基本について理解する。心理専門職として必要な精神科医療について理解する。保健医療分野で有用な心理療法について基本を修得する。			
授業の概要 心理専門職（公認心理師・臨床心理士）にとって必要な精神医学の基本について学ぶ。精神科医による講義をベースに、病態の理解、患者との向き合い方、支援のあり方など、色々な観点から話し合うことで、理解を深めていきたい。			
授業計画 第1回：精神科医療全般について 第2回：精神科医療の基礎知識（1）統合失調症 第3回：精神科医療の基礎知識（2）躁うつ病 第4回：精神科医療の基礎知識（3）うつ病 第5回：精神症状の基礎知識（4）不安障害・強迫性障害 第6回：精神症状の基礎知識（5）摂食障害 第7回：精神症状の基礎知識（6）トラウマ関連障害 第8回：精神症状の基礎知識（7）認知症（1） 第9回：精神症状の基礎知識（8）認知症（2） 第10回：精神科医療の現状 通院医療・外来診療 第11回～14回：心理療法 ケース検討を通じて 第15回：まとめ 定期試験は行わない。			
テキスト			
参考書・参考資料等 中井久夫（著）『新版・精神科治療の覚書』日本評論社 2014			
学生に対する評価 リアクション（テーマについて、自分の考えを的確に論じているかどうか）（70%）、受講態度（積極的に発言し、他の受講生と活発なやりとりをしているかどうか）（30%）			

授業科目名： 臨床心理面接特論 （心理支援に関する 理論と実践）	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青木真理
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
力動論に基づく心理療法の理論と方法を学び、臨床心理面接等の臨床心理学的活動に取り組む素地をつくる。			
授業の概要			
臨床心理的処遇の枠組み、初回面接、アセスメント、ケースレポートの書き方、心理療法について講義する。また、河合隼雄『心理療法序説』を輪読し、心理療法の基礎的な知識を得る。受講者は輪番でレポートを作成、報告する。			
授業計画 本授業計画は、教育相談及び生徒指導の視点を含んでいる。			
第1回：オリエンテーション（授業のねらいとすすめかた） インテークとアセスメント			
第2回：臨床心理処遇の枠組みとしての心理療法 力動論に基づく心理療法			
第3回：自我発達の理論と心理療法 フロイトを中心に			
第4回：自我発達の理論と心理療法 マーラー、エリクソンを中心に			
第5回：心理療法の事例検討			
第6回：子どもの心理量7法 概論			
第7回：子ども心理療法 事例検討			
第8回 親子並行面接			
第9回：思春期の精神病理 不登校			
第10回：思春期の精神病理 いじめ			
第11回：思春期の精神病理と心理療法			
第12回：パーソナリティについて			
第13回：ひきこもりの心理と支援			
第14回：心理療法と文化			
第15回：受講生の質問から議論を広げ、総括する			
定期試験は行わない。			
テキスト			
河合隼雄著『心理療法序説』（岩波書店）			
参考書・参考資料等			

授業の中で示す。

学生に対する評価

輪番でのレポートの内容，授業でのディスカッション，最終レポートから総合的に評価する

授業科目名：臨床心理面接特論	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 生島 浩
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標：家族システム論について学習する。 ・ 家族システムへの介入について基本を身につける。 ・ 家族システムへの介入技法について修得する。			
授業の概要：教育相談など学校臨床をはじめ多様な領域における心理的支援に不可欠な家族面接の理論及び技法の実践について学ぶ。特に、システム論に基づいた家族療法を中心に講じる。家族関係・集団・地域社会における家族臨床（システムズ・アプローチ）の理論と技法を修得することを目的としている。			
授業計画：本授業計画は、教育相談（教科専門）の視点を含み構成されている。 第1回：家族臨床の目的と機能 第2回：わが国の家族臨床の現状 第3回：家族療法の主要な理論：力動的アプローチ 第4回：家族療法の主要な理論：構造的アプローチ 第5回：システムズ・アプローチについて 基礎概念 第6回：システムズ・アプローチについて 基本技法 第7回：ジェノグラムの活かし方 第8回：初回面接の基礎 第9回：家族合同面接の実践 第10回：心理教育的面接の実践 第12回：不登校問題へのかかわり（精神科医の面接） 第13回：不登校問題へのかかわり（臨床心理士・公認心理師の面接） 第14回：不登校問題へのかかわり（ソーシャルワーカーの面接） 第15回：まとめ 定期試験は行わない。			
テキスト：生島浩 企画・構成 説き明かし・私の家族面接 初回面接の実践 DVD 中島映像教材 出版 購入の必要はなく、授業の中で視聴、解説します。			
参考書・参考資料等 授業中に適宜配付する。			

学生に対する評価

授業中の演習(50%)や質疑応答の内容(50%)によって評価する。

授業科目名：家族・集団・地域社会に関する理論と支援の展開(家族臨床心理学特論)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 生島 浩
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標：家族関係に焦点を当てた心理支援の理論と方法を学習する。 ・地域支援として家族など集団に働きかける心理学的援助を修得する。 ・システムズ・アプローチの観点から心理に関する相談，助言の方法に関して身につける。			
授業の概要：保護者に対する心理的支援に不可欠な家族関係・集団・地域社会に対する心理学の理論と実際について，演習形式を中心にして学ぶ。家族臨床と司法・矯正保護，精神保健，学校教育，児童福祉等との関連を整理した上で，家族臨床心理学を中核とした諸理論について紹介する。			
授業計画：本授業計画は，教育相談（教科専門）の視点を含み構成されている。 第 1 回 家族臨床とは何か 第 2 回 家族臨床（保護者支援）の実際 第 3 回 家族臨床心理学の理論的系譜 1（システムズ・アプローチ以前について） 第 4 回 家族臨床心理学の理論的系譜 2（システムズ・アプローチ以後について） 第 5 回 家族（保護者）の招集 第 6 回 家族（保護者）面接を組み立てる 第 7 回 親面接の実際（初回面接） 第 8 回 親面接の実際（継続面接） 第 9 回 家族の問題を確認する 1（主訴の尋ね方：行動療法的アプローチ） 第10回 家族の問題を確認する 2（問題の再定義：問題解決志向的アプローチ） 第11回 家族の情報を収集する 1（円環的質問法：家族療法的アプローチ） 第12回 家族の情報を収集する 2（ジェノグラム：力動的アプローチ） 第13回 集団・地域社会へのアプローチ 1（多職種多職種連携モデル1） 第14回 集団・地域社会へのアプローチ 2（多職種多機関連携モデル2） 第15回 まとめ 定期試験は行わない。			
テキスト： 生島浩編著『福島を起点とする地域心理臨床-システムズ・アプローチの展開』，シーズ出版，2022			
参考書・参考資料等			

学生に対する評価
ロールプレイなどの演習(50%)，授業への取り組み（50%）により総合的に評価する。

授業科目名：心理支援に関する理論と実践(精神分析学特論)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 岸 竜馬 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 精神分析的心理療法を基礎にし、心理面接の基本を身につける。			
授業の概要 精神分析的心理療法の治療に必要なこと、面接室の創り方、その面接空間で進められていくこと（見立て、治療契約）、体験し理解していくこと（聴くこと、伝えること、知ること、転移と逆転移など）を学び習得する。本年度は、松木邦裕の『私説 対象関係論的心理療法入門』と藤山直樹の『精神分析という営み』を読み進め、精神分析的な見解や技法を学ぶ。			
授業計画			
第1回：文献講読	第1章「分析空間の創り方」		
第2回：文献講読	第2章「治療対象の『見立て』とその進め方」		
第3回：文献講読	第3章「治療契約と治療者の身の置き方」		
第4回：文献講読	第4章「耳の傾け方」第5章「口のはさみ方」		
第5回：文献講読	第6章「分析空間のできごと」		
第6回：文献講読	第7章「解釈というかわり」第8章「解釈の伝え方」		
第7回：文献講読	第9章「転移の深まりとそのワークスルー」第10章「精神分析的心理療法プロセスで起こること」		
第8回：文献講読	第11章「治療の終結と終結後」特別章「私説 精神分析入門」		
第9回：文献講読	第1章「『私』の危機としての分析的営み」第2章「こころの空間、治療の空間」		
第10回：文献講読	第3章「逆転移に『利用される』こと」		
第11回：文献講読	第4章「ものが単なるものでなくなること」第5章「ひきこもることとつながること」		
第12回：文献講読	第6章「エディプス、プレエディプス、私たちの生きる場所」第7章「中立性という謎」		
第13回：文献講読	第8章「共感という罠」		
第14回：文献講読	第9章「カウチ、隔たりと生々しさの逆説」第10章「プライベートな営み、生きた空間」		
第15回：まとめ			
テキスト			

松木邦裕著『私説 対象関係論的心理療法入門 精神分析的アプローチのすすめ』金剛出版（3,000円＋税）

藤山直樹「精神分析という営み」岩崎学術出版社（3,800円＋税）

参考書・参考資料等

学生に対する評価 提出レポートの成績(70%)及び授業内の討論の状況(30%)により評価する。

授業科目名：投影法特論	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 岸 竜馬
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 包括システムによるロールシャッハ・テストの施行や解釈を習得し、投影法からの心理的理解を学習する。			
授業の概要 人格のアセスメントとしての投影法の解釈を目指す。ここではロールシャッハ・テストの様々な解釈法のうち、包括システムによる解釈法を習得することを目指す。			
授業計画			
第1回：投影法の歴史			
第2回：ロールシャッハ・テストの理論的背景と施行法			
第3回：反応領域について学ぶ			
第4回：反応決定因について学ぶ			
第5回：反応内容について学ぶ			
第6回：スペシャルスコアについて学ぶ			
第7回：情報処理クラスターについて学ぶ			
第8回：認知的媒介クラスターについて学ぶ			
第9回：思考クラスターについて学ぶ			
第10回：感情クラスターについて学ぶ			
第11回：自己知覚クラスターについて学ぶ			
第12回：対人知覚クラスターについて学ぶ			
第13回：事例の分析			
第14回：事例の解釈			
第15回：報告書の書き方			
定期試験は行わない。			
テキスト			
ジョン・E.エクスナー 『ロールシャッハ・テスト—包括システムの基礎と解釈の原理』金剛出版（18,000円＋税）			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 提出レポートの成績(70%)及び授業内の討論の状況(30%)により評価する。			

授業科目名： 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開（犯罪・非行臨床特論）	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 生島浩 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標： ・ 非行・犯罪臨床の制度・法規と公認心理師の位置づけについて学習する。 ・ 司法・犯罪分野の業務，職域，多職種多機関連携について学習する。 ・ 司法・犯罪分野の実践方法について身につける。			
授業の概要 生徒指導・教育相談をはじめ司法・犯罪分野における心理的支援に不可欠なシステム（法規・制度）を理解した上で，その基礎理論及び各種技法を習得する。講義では，生徒指導・教育相談にも必要な家庭裁判所調査官の職務である家事事件（離婚や子どもの親権など）についても取り上げる。			
授業計画：生徒指導・教育相談（教科専門）の視点を含み構成されている。 第 1 回：非行・犯罪臨床の概要 第 2 回：少年非行・成人犯罪の動向とその特徴 第 3 回：非行・犯罪臨床機関の概要 第 4 回：司法領域における心理支援：家事事件の概要 第 5 回：重大な非行・犯罪への対応 第 6 回：非行・犯罪臨床における家族支援の方法 第 7 回：非行少年への心理教育「家族教室」 第 8 回：犯罪者への「窃盗更生支援プログラム」 第 9 回：発達障害・精神障害のある非行少年・犯罪者への対応 第 10 回：学校臨床での事例について 第 11 回：被害者支援の事例について 第 12 回：警察の少年相談事例について 第 13 回：保護観察少年の事例について 第 14 回：家庭紛争（家事）事件における支援について 第 15 回：まとめ（家庭裁判所，少年鑑別所，刑務所，更生保護施設等の見学も実施予定） 定期試験は行わない。			
テキスト：生島浩編著：公認心理師分野別テキスト 4 司法・犯罪分野 創元社 2019 生島浩：非行臨床における家族支援 遠見書房 2016			

参考書・参考資料等

更生保護学会編：更生保護学事典 成文堂 2022

学生に対する評価

授業中の演習(50%)，見学実習のレポート内容（50%）で評価します。

授業科目名：教育分野に関する理論と支援の展開（教育臨床学特論）	教員の免許状取得のための必修科目 / 選択科目	単位数：2単位	担当教員名：青木真理
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
教育分野にかかわる公認心理師の実践について理解し，業務に必要なスキルを身に付ける。			
授業の概要			
スクールカウンセリングの場を想定し，ロールプレイングを行う。受講生は交替でロープレイ，記録者をつとめる。記録者が逐語録を起こし，逐語録と録画をもとにロールプレイをふりかえり討議する。			
授業計画 本授業計画は，教育相談及び生徒指導の視点を含んでいる。			
第1回：オリエンテーション ロールプレイを行う学校のシミュレーション			
第2回：スクールカウンセラー初日勤務のロールプレイ。一日のスケジュール。			
第3回：前回のロールプレイのふりかえり。面接室のレイアウトについて。初日勤務のロールプレイその2			
第4回：前回のロールプレイのふりかえり。広報活動。児童生徒支援の面接に至るまでのこと。			
第5回：前回のロールプレイのふりかえり。児童生徒支援面接の前段階のロールプレイ。			
第6回：前回のロールプレイのふりかえり。児童生徒支援面接のロールプレイ。			
第7回：前回のロールプレイのふりかえり。SCコーディネータの仕事。児童生徒支援面接その2			
第8回：前回のロールプレイのふりかえり。児童生徒支援面接のあとにするべきこと。			
第9回：児童生徒支援面接後の面接のロールプレイ。授業者のSC活動の紹介。			
第10回：前回のロールプレイのふりかえり。保護者支援とは。保護者支援面接のロールプレイ。			
第11回：前回のロールプレイのふりかえり。コンサルテーションとは。コンサルテーション面接のロールプレイ。			
第12回：前回のロールプレイのふりかえり。児童生徒支援面接 その3			
第13回：前回のロールプレイのふりかえり。身体言語も含めて人に言葉を届けること。			
第14回：児童生徒支援面接その4			
第15回：前回のロールプレイのふりかえり。まとめ			
定期試験は行わない。			
テキスト 配布資料。			
参考書・参考資料等			
村瀬 嘉代子監修『学校が求めるスクールカウンセラー―アセスメントとコンサルテーションを			

中心に』遠見書房

学生に対する評価

授業参加の態度，公認心理師としての理解と技術の基礎を身に付けられたかどうかの評価，小レポートと最終レポート。

授業科目名： 心理的アセスメント に関する理論と実践 （心理アセスメント 特論）	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安部郁子，青木真理
			担当形態： オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義，心理的アセスメントに関する理論と方法，心理に関する相談，助言，指導等について体験的に理解を深める。			
授業の概要			
発達検査・知能検査の心理アセスメントを実際に施行し，その所見をレポートにまとめる。テスター体験とテスト（テストを受ける側）体験を通じてアセスメントの意義と留意点についての理解を深める。			
授業計画 本授業計画は，教育相談及び生徒指導の視点を含んでいる。			
第1回：（講義）新版K式の理論・実施方法（青木）			
第2回：（実技）新版K式の実施（青木）			
第3回：（実技）新版K式の結果データ算出（青木）			
第4回：（実技）新版K式の所見作成（青木）			
第5回：新型K式のまとめ，質疑応答（青木）			
第6回：（講義）K - ABC の理論・実施方法（安部）			
第7回：（実技）K - ABC の実施（安部）			
第8回：（実技）K - ABC の結果データ算出（安部）			
第9回：（実技）K - ABC の所見作成（安部）			
第10回： K—ABC のまとめ，質疑応答（安部）			
第11回：（講義）ビネー の理論・実施方法（安部）			
第12回：（実技）ビネー の実施（安部）			
第13回：（実技）ビネー の結果データ算出（安部）			
第14回：（実技）ビネー の所見作成。（安部）			
第15回：ビネー のまとめと質疑応答（安部）			
定期試験は行わない。			
テキスト			
参考書・参考資料等			

杉原隆監修『田中ビネー知能検査』田研出版
学生に対する評価
講義参加態度（40％）、実技（40％）、レポート内容（20％）

授業科目名：福祉分野に関する理論と支援の展開（家族福祉臨床特論）	教員の免許状取得のための必修科目 / <u>選択科目</u>	単位数：2 単位	担当教員名：市川 英雄
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉の現場における心理社会的課題と必要な支援方を習得する。			
授業の概要 福祉現場で生じる問題と背景について理解し、現場における心理社会的課題とその支援方法の知識を得る。社会的福祉の基本理念及び社会福祉制度や行政制度と現状と課題を理解するとともに、現場で生じている問題とその背景、社会的制度と専門職の役割、臨床心理学的援助の具体的課題や実践的技法についての基礎的知識を習得する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、社会福祉の理念と心理職の役割について			
第2回：福祉領域で求められる心理職の活動			
第3回：心理支援に必要な社会福祉制度の基礎的理解			
第4回：児童福祉の法制度と心理臨床家の役割 法体系と実施体制			
第5回：児童相談所を中心とした臨床心理的課題と支援方策			
第6回：児童虐待への臨床心理的支援方策			
第7回：障害児への臨床心理的支援方策			
第8回：発達障害、不登校のケースへの心理臨床的支援方策			
第9回：社会的養護における心理臨床			
第10回：知的障害者福祉における臨床心理的課題と支援方策			
第11回：身体障害者福祉における臨床心理的課題と支援方策			
第12回：精神障害者福祉における臨床心理的課題と支援方策			
第13回：母子福祉における臨床心理的課題と支援方策			
第14回：高齢者に対する臨床心理的課題と支援方策			
第15回：高齢者の心理的特徴、認知症への心理的支援			
定期試験は行わない。			
テキスト			
参考書・参考資料等			
下山晴彦（監修）『福祉心理学』ミネルヴァ書房 2021			
学生に対する評価 提出レポートの成績(70%)及び授業内の討論の状況(30%)により評価する。			

授業科目名：臨床心理地域援助特論	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 市川 英雄
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 地域社会や集団組織に働きかける心理的援助の基礎的理論や方法を習得する。			
授業の概要			
地域社会や集団組織に働きかける心理的援助の理論と方法を習得する。具体的には危機介入、コンサルテーション、ケースマネジメント、社会生活技能訓練、家族心理教育、地域精神保健などの基礎的知識と技能並びに、臨床心理学的援助の役割と課題、各場面での具体的課題や実践的技法についての知識を習得する。このために専門相談機関を訪問し施設見学と専門職員から講義を受ける。			
授業計画			
第 1 回：臨床心理地域援助の理念と課題			
第 2 回：臨床心理地域援助の方法			
第 3 回：施設見学と専門職による講義 児童養護施設			
第 4 回：施設見学と専門職による講義 福島県北保健福祉事務所（県福祉事務所・保健所・児童相談所）			
第 5 回：施設見学と専門職による講義 福島市保健センター			
第 6 回：各分野における心理地域援助の理論と技法 （福祉分野）			
第 7 回：施設見学と専門職による講義 福島県精神保健福祉センター			
第 8 回：各分野における心理地域援助の理論と技法 （医療分野）			
第 9 回：各分野における心理地域援助の理論と技法 （教育分野）			
第 1 0 回：施設見学と専門職による講義 福島県中央児童相談所			
第 1 1 回：各分野における心理地域援助の理論と技法 （その他の分野）			
第 1 2 回：施設見学と専門職による講義 福島県障害者総合福祉センター（身体障害者・知的障害者更生相談所等）			
第 1 3 回：施設見学と専門職による講義 福島県女性のための相談センター（婦人相談所・婦人相談施設・一時保護施設）			
第 1 4 回：施設見学と専門職による講義 福島障害者職業センター			
第 1 5 回：臨床心理地域援助特論講義の総括			
定期試験は行わない。			

テキスト
参考書・参考資料等
伊藤 亜矢子（著）『臨床心理地域援助特論』放送大学教育振興会 2021
学生に対する評価 提出レポートの成績(70%)及び授業内の討論の状況(30%)により評価する。

授業科目名：家族関係・ 集団・地域社会におけ る心理支援に関する理 論と実践(グループ・ア プローチ特論)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 茨木 博子 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 グループ・アプローチは、家庭や学校、職場などの人間関係をよくし、人 々のメンタルヘルスに貢献するものとしてその広がりをみせている。授業では、「グループ・アプロ ーチの理解と実践」をテーマに、グループ・アプローチの理解を深めるとともに、実践力を養うことを到 達目標とする。			
授業の概要 はじめにグループ・アプローチの定義、歴史、効用、グループリーダー等について概説し 、その後、グループ・アプローチの代表的な技法であるサイコドラマを取り上げ、理論と実践(実技)を 交えた体験学習を行なう。			
授業計画			
第1回：グループ・アプローチとは何か			
第2回：グループ・アプローチの歴史、目的、効用			
第3回：グループリーダーの役割			
第4回：サイコドラマ実践1 ウォーミングアップ			
第5回：サイコドラマとは何か			
第6回：サイコドラマの基礎理論、基礎概念			
第7回：サイコドラマ実践2 ウォーミングアップ～ドラマ～シェアリング			
第8回：サイコドラマのすすめ方			
第9回：サイコドラマの基本技法			
第10回：サイコドラマ実践3 基本技法の練習			
第11回：臨床場面におけるサイコドラマ			
第12回：サイコドラマの効用と限界、実践上の留意点			
第13回：サイコドラマ実践4 監督トレーニング(ウォーミングアップを中心に)			
第14回：サイコドラマ実践5 監督トレーニング(フィードバックとディスカッション)			
第15回：まとめ			
定期試験は実施しない			
テキスト			
授業でレジュメを配布する。			

参考書・参考資料等

土屋明美・茨木博子・吉川晴美編『心理劇入門：理論と実践から学ぶ』（慶應義塾大学出版会）

学生に対する評価 レポート（テーマについて、体験学習に基づき自分の考えを的確に論じているかどうか）（50％）と受講態度（積極的に発言し、他の受講生と活発なやりとりをしているかどうか）（50％）で総合的に評価する。

授業科目名：心理支援に関する理論と実践(心理療法特論)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 渡部 純夫 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 児童養護施設における、虐待児童の心理的理解と、外傷体験を持った被虐待児への心理療法の理論と実践を身につける。			
授業の概要 児童養護施設で起こる様々な問題と課題に対して、どのように心理療法を行っていくかについて学び、活用できるようにする。			
授業計画			
第 1 回：児童養護施設における心理職の位置づけ 児童養護施設の仕組みを理解する			
第 2 回：児童養護施設での心理職の取り組みの現状 施設内で出来る心理職の具体的仕事内容を理解する			
第 3 回：専門職種の協働（養護との協働） 虐待を受けた児童の養護性を理解する			
第 4 回：専門職種の協働（保育との協働）保育士との協力について理解する			
第 5 回：日常と非日常の考え方 生活とセラピーのつながりと違いについて理解する			
第 6 回：日常における心理職のかかわり 日常性におけるかかわり方を具体的に理解する			
第 7 回：非日常における心理職のかかわり セラピー場面におけるかかわり方を理解する			
第 8 回：日常と非日常に配慮した心理療法について つなぎの心理療法において、注意点について理解する			
第 9 回：被虐待児の援助のあり方 援助一般の考え方を理解する			
第 1 0 回：専門職のバーンアウトとその克服 専門家自身の傷つきに対する対応を理解する			
第 1 1 回：ケアワーカーの役割理解とコンサルテーション 日常でかかわるケアワーカーへのコンサルテーションについて理解する			
第 1 2 回：子供の甘えとケアのあり方 甘えと依存の問題を理解し対応できるようにする			
第 1 3 回：被虐待児の回復と発達へのサポート 回復プロセスへの関与の仕方を理解する			
第 1 4 回：子供の暴力の理解と援助について 暴力の問題をどう理解し対応するか理解する			
第 1 5 回：性問題への援助について 性に関しての問題の意味と対応を理解する			
定期試験は行わない。			
テキスト			
「こころのケアの基本」小俣和義編著、北樹出版、2013			
参考書・参考資料等			

「改訂版 現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学」小松紘・木村進・渡部純夫・皆川州正
編著、八千代出版、2019

学生に対する評価 レポート（80％）、授業への積極性（20％）

レポートは、書き方が的確であり、ポイントがしっかりおさえられていること。そして、自分なりの洞察が出来ていること。

授業科目名： 臨床心理査定演習 （心理的アセスメントに関する理論と実践）	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青木真理
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義，心理的アセスメントに関する理論と方法，心理に関する相談，助言，指導等について体験的に理解を深める。			
授業の概要 心理アセスメントを実際に施行し，その所見をレポートにまとめる。テスター体験とテスト（テストを受ける側）体験を通じてアセスメントの意義と留意点についての理解を深める。			
授業計画 本授業計画は，教育相談及び生徒指導の視点を含んでいる。 第1回：アセスメントとは 質問紙法 第2回：描画テスト1 バウムテストと風景構成法の実施 第3回：描画テスト2 バウムテストの読み方を解説 第4回：描画テスト3 風景更生法の読み方を解説 第5回：描画テスト4 描画の事例研究 第6回：箱庭療法1 箱庭療法の説明 コラージュ療法の実施 第7回：ロールシャッハ法1 施行法の説明 スクィグル法の実施 第8回 スクィグル法の事例検討 第9回：ロールシャッハ法 2 理論とスコアリングについての説明 第10回：ロールシャッハ法 3 スコアリングの体系について 第11回：ロールシャッハ法 4 スコアリングの練習を行う 第12回：ロールシャッハ法 5 形式分析を学ぶ 第13回：箱庭療法 2 事例検討（受講生の作品） 第14回：箱庭療法 3 事例検討その2（臨床例） 第15回：まとめ 定期試験は行わない。			
テキスト 『臨床心理テスト入門（山中康裕・山下一夫編）東山書房』			
参考書・参考資料等 授業の中で示す。			

学生に対する評価

授業参加の態度，アセスメント技術と理論理解と技術の基礎を身に付けられたかどうかの評価，小レポートと最終レポート。

授業科目名： 臨床心理査定演習	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安部郁子
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義，心理的アセスメントに関する理論と方法，心理に関する相談，助言，指導等について体験的に理解を深める。			
授業の概要			
発達検査・知能検査の心理アセスメントを実際に施行し，その所見をレポートにまとめる。テスター体験とテスト（テストを受ける側）体験を通じてアセスメントの意義と留意点についての理解を深める。			
授業計画 本授業計画は，教育相談及び生徒指導の視点を含んでいる。			
第1回：講義：発達検査・知能検査理論			
第2回：講義：発達検査・知能検査のアセスメント			
第3回：講義：WISC - の概要			
第4回：講義：WISC - で測る能力			
第5回：講義、演習：WISC - の下位検査の特徴（言語性検査）			
第6回：講義、演習：WISC - の下位検査の特徴（動作性検査）			
第7回：演習：WISC - 実施法（知識、類似、算数、単語）			
第8回：演習：WISC - 実施法（理解、数唱、絵画完成、符号）			
第9回：演習：WISC - 実施法（絵画配列、積木模様、組合せ、記号探し、迷路）			
第10回：講義、演習：採点法（各下位検査）			
第11回：講義、演習：評価点の算出			
第12回：講義、演習：IQ、群指数の換算法			
第13回：講義、協議：検査結果の分析考察			
第14回：講義、協議：報告書作成について			
第15回：講義、協議：まとめ			
定期試験は行わない。			
テキスト			
「WISC - 理論・解釈マニュアル」（日本文化科学社）			
参考書・参考資料等			

授業の中で示す。

学生に対する評価

授業参加の態度，アセスメント技術と理論理解と技術の基礎を身に付けられたかどうかの評価，小レポートと最終レポート。

授業科目名： 臨床心理基礎実習	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青木 真理、岸 竜馬
			担当形態： 複数
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 心理臨床の専門職として面接を行うための基礎的技術を習得する			
授業の概要 生徒指導・教育相談など学校臨床，心理臨床の専門職として面接を行うための基礎的技術の修得を目指す。ロールプレイによりカウンセラー及びクライアント双方を経験し，自己理解・他者理解を深め，臨床心理面接の基礎を徹底した体験学習により学ぶ。また，「教育臨床研修講座」での事例研究に参加して生徒指導・教育相談などの実際に触れる。また，病院，福祉臨床等の関係領域のアプローチを学んで，関連する専門機関と連携する視野を養うことも大きな目的である。			
授業計画 本授業計画は，教育相談及び生徒指導の視点を含んでいる。 ロールプレイにより次の事項の基礎的な技法を体験学習する。 第1回：オリエンテーション 第2回：クライアントを経験する 第3回：カウンセラーを経験する 第4回：コミュニケーションセッション演習 第5回：人に話を聞かれるとは 第6回：人の話を聞くとは 第7回：面接の目的 第8回：面接の機能 第9回：面接のプロセス 第10回：電話の受け方: 第11回：電話による相談受理の方法 第12回：電話相談の記録 第13回：初回面接へのつなぎ方 第14回：面接への導入 第15回：面接構造の説明 第16回：料金・時間の説明 第17回：守秘義務の説明			

第18回：主訴の聴き方

第19回：問題の聴き方

第20回：相談の目的

第21回：来談経緯

第22回：生育歴の聴き方

第23回：発達障害に関わる生育歴・主訴の聴き方

第24回：問題行動歴の聴き方

第25回：家族状況を聴取する

第26回：対応が困難なクライアントへの対処 1（無言）

第27回：対応が困難なクライアントへの対処 2（多言）

第28回：対応が困難なクライアントへの対処 3（強迫性）

第29回：面接を終わらせる

第30回：まとめ

以上の他に毎月行われる「教育臨床研修講座」における事例検討及び学術講演会等に参加する。

定期試験は行わない。

テキスト

参考書・参考資料等

古宮昇著「プロが教える共感的カウンセリングの面接術」誠信書房 2019

学生に対する評価

演習態度（70%）及び毎回課されるレポート（30%）の内容で評価する。

授業科目名： 臨床心理実習	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青木 真理、岸 竜馬、生島 浩、岡田乃利子、松本貴智
			担当形態： オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
公認心理師や臨床心理士になるために欠かせない心理面接の技能と感受性を、実習を通して体験的に身につける。			
授業の概要			
修士2年生が受講する通年の実習であり，学内実習と学外実習から成る。教員からスーパービジョン（臨床指導）を受けながら心理臨床を経験する。			
授業計画 本授業計画は，教育相談及び生徒指導の視点を含んでいる。			
1．学外の臨床心理実習			
医療施設，福祉施設，教育施設，司法・犯罪施設において実習を行う。実習時間は，それぞれ2週間前後。それぞれの施設において（非）岡田乃利子、（非）松本貴智がそれぞれ担当する。			
2．臨床心理・教育相談室（学内）における臨床心理実習。ケース担当，グループワークの企画運営。各ケース、グループワークにおいて、青木真理、生島浩、岸竜馬がそれぞれ担当する。			
3．ケースカンファレンス・スーパービジョン			
学外，学内での実習で担当する事例について教員からの指導を受ける。それぞれの事例において、青木真理、生島浩、岸竜馬がそれぞれ担当する。			
テキスト 配布資料			
参考書・参考資料等			
林直樹・野村俊明・青木紀久代編『心理療法のケースをどう読むか？ パーソナリティ障害を軸にした事例検討』福村出版			
学生に対する評価			
授業参加の態度，カウンセリングなどの臨床心理学的支援の技術と理論理解と技術の基礎を身に付けられたかどうかの評価，最終レポート。			

授業科目名： 現代日本語特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 半沢康
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 計量的日本語研究の概要とその研究史的位置づけを理解する。また従来の研究で用いられている統計的技法を理解する。			
授業の概要 計量的な日本語研究の方法について考察する。日本語研究の中でこれまでに用いられた多変量解析の技法について概観するとともに，電子化された言語データを使用し，実際にアプリケーションソフトを用いて各技法の使用法を学ぶ。具体的には，記述統計，クロス集計，検定といった基礎的な技法のほか，因子分析，林の数量化理論，クラスター分析，重回帰分析，VARBRUL，パス解析，SEMなどを扱う。コンピュータリテラシーが要求される。			
授業計画 第1回：ガイダンス 本講義の目的，授業計画の詳細を説明し，履修意思を確認する。 第2回:記述統計 記述統計の技法について理解する。 第3回:クロス集計 クロス集計，カイ自乗検定について理解する。 第4回:検定 T検定，F検定について理解する。 第5回:因子分析 因子分析とその適用例について理解する。 第6回:林の数量化理論III類 林の数量化理論III類とその適用例について理解する。 第7回:林の数量化理論II類 林の数量化理論II類とその適用例について理解する。 第8回:林の数量化理論I類 林の数量化理論I類とその適用例について理解する。 第9回:クラスター分析			

クラスター分析とその適用例について理解する。 第10回:重回帰分析 重回帰分析とその適用例について理解する。 第11回:ロジスティック回帰分析 ロジスティック回帰分析とその適用例について理解する。 第12回:VARBRUL VARBRULの使用法およびその適用例について理解する。 第13回:パス解析 パス解析とその適用例について理解する。 第14回:SEM 共分散構造分析とその適用例について理解する。 第15回:まとめ 本講義のまとめを行い，計量的な日本語研究の課題について吟味する。
テキスト なし
参考書・参考資料等 小西いずみ他2007『シリーズ方言学4 方言学の技法』岩波書店
学生に対する評価 受講者自身の言語データについて，講義で扱った技法を用いて分析を行い，その結果をレポートとしてまとめる。

授業科目名： 現代日本語特論演習I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 半沢康
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 計量的日本語研究で用いられている統計的技法を実際の言語データに適用し，その理解を深める。同時に現代日本語に関するフィールドワークを企画・実施し，調査技法を身に付ける。			
授業の概要 計量的日本語研究の実践。現代日本語特論の講義内容を踏まえ，受講者がそれぞれ，自己の興味関心にもとづいて，現代日本語に関するデータ収集のための調査を企画し，多変量解析を適用した分析を行う。日本語の音声，文法的変異に関する事象，待遇表現などの言語運用に関わる事象，日本語の世代的変異等が調査対象として想定される。調査はフィールドワークを原則とし，各自の企画を盛り込んだオムニバス調査を共同で実施する。前期は調査計画および実査が中心となる。			
授業計画 第1回：ガイダンス 本講義の目的，授業計画の詳細を説明し，履修意思を確認する。共同調査を行うので，受講者の十分なモチベーションを確認する。 (1)調査の企画立案受講者それぞれが自己の関心にもとづき，調査計画を立案する。 第2回：対象とする事象の検討 各自の問題意識にもとづき,調査対象とする言語事象を決定する。 第3回：使用する統計技法の検討 各自の問題意識にもとづき,分析に用いる統計技法を決定する。 第4回：調査方法の検討 各自の問題意識にもとづき,実施する調査の方法(面接調査，自記式質問紙調査，観察法調査など)を決定する。 第5回：調査地域・世代の検討 各自の問題意識にもとづき,調査対象地域・対象世代を決定する。 第6回：調査項目の検討 各自の問題意識にもとづき,調査項目を持ち寄って最終項目を決定する。			

(2)実査の準備作業各自が検討した企画にもとづき，調査の準備作業を実施する。

第7回：インフォーマントの手配

調査のスケジュールリング,移動方法の確認作業，インフォーマントへの依頼作業を行う。

第8回：調査票の作成

第6回に行った調査項目検討作業を踏まえ，調査票作成の実作業を行う。

第9回：調査の手引きの作成

調査スケジュール，調査地までの交通，宿泊施設情報等を掲載した「調査の手引き」作成の実作業を行う。

(3)調査の最終打ち合わせを実査直前に実施する。各自の調査の目的，調査項目設定の意図等について調査参加者へ説明・周知する。

第10回：最終打ち合わせ

上記の作業を全員で行う。

(4)実査夏季休業中に2泊3日の合宿形式で実施

第11～15回：3日間(×8時間=24時間)の臨地調査参加時間(含現地でのミーティング時間)を5回分(×1.5時間=7.5時間)の授業時間とみなす。

全員で現地へ赴き調査を行う。多数のインフォーマントに対し，受講者が分担して調査する。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

日比谷潤子他編2012『はじめて学ぶ社会言語学』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

受講者自身の言語データについて，講義で扱った技法を用いて分析を行い，その結果をレポートとしてまとめる。

授業科目名： 現代日本語特論演習II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 半沢康 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 計量的日本語研究で用いられている統計的技法を実際の言語データに適用し、その理解を深める。同時に現代日本語に関するフィールドワークを企画・実施し、調査技法を身に付ける。			
授業の概要 計量的日本語研究の実践。現代日本語特論の講義内容を踏まえ、受講者がそれぞれ、自己の興味関心にもとづいて、現代日本語に関するデータ収集のための調査を企画し、多変量解析を適用した分析を行う。日本語の音声、文法的変異に関する事象、待遇表現などの言語運用に関わる事象、日本語の世代的変異等が調査対象として想定される。調査はフィールドワークを原則とし、各自の企画を盛り込んだオムニバス調査を共同で実施する。後期は受講者が各自のデータを分析し、口頭発表を行う。			
授業計画 (1)調査データの整理各自の調査データについて共同で電子化を行う。 第1回：データ入力法の検討 夏季休業中に収集したデータの電子化に際し、入力のフォーマット、音声データの保存法等を決定する。 第2回：データ入力テンプレート作成 第3回の決定に基づき、入力フォーマット等作成の実作業を行う。 第4回：データ入力作業 第3回で作成した入力フォーマット等にしたがって、データ整理の実作業を行う。 (2)データの分析と考察各自の調査データについて、それぞれが分析を行ない、考察結果を口頭発表する(以下に示す項目は仮の例である)。 第5回：分析結果の発表1(程度副詞) 程度副詞に関するデータについて、担当者の問題意識に基づく分析結果を発表し、参加者全員で討議する。 第6回：分析結果の発表2(ラ抜き言葉) ラ抜き言葉に関するデータについて、担当者の問題意識に基づく分析結果を発表し、参加者全員で討議する。			

第7回：分析結果の発表3(サ入れ言葉)

サ入れ言葉に関するデータについて、担当者の問題意識に基づく分析結果を発表し、参加者全員で討議する。

第8回：分析結果の発表4(店舗名の略称)

店舗名の略称に関するデータについて、担当者の問題意識に基づく分析結果を発表し、参加者全員で討議する。

第9回：分析結果の発表5(キャンパス用語)

キャンパス用語に関するデータについて、担当者の問題意識に基づく分析結果を発表し、参加者全員で討議する。

第10回：分析結果の発表6(学校用語)

学校用語に関するデータについて、担当者の問題意識に基づく分析結果を発表し、参加者全員で討議する。

第11回：分析結果の発表7(跳びはねイントネーション)

跳びはねイントネーションに関するデータについて、担当者の問題意識に基づく分析結果を発表し、参加者全員で討議する。

第12回：分析結果の発表8(確認要求表現)

確認要求表現に関するデータについて、担当者の問題意識に基づく分析結果を発表し、参加者全員で討議する。

第13回：分析結果の発表9(言語行動)

言語行動に関するデータについて、担当者の問題意識に基づく分析結果を発表し、参加者全員で討議する。

第14回：分析結果の発表10(待遇表現)

待遇表現に関するデータについて、担当者の問題意識に基づく分析結果を発表し、参加者全員で討議する。

(7)報告書の作成協力機関およびインフォーマントへの報告用小冊子を作成する。

第15回：報告書作成作業

前回までの分析・討議内容に基づいて、協力機関およびインフォーマントへの報告冊子を作成する。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

日比谷潤子他編2012『はじめて学ぶ社会言語学』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

受講者自身の言語データについて、講義で扱った技法を用いて分析を行い、その結果をレポートとしてまとめる。

授業科目名： 地域言語特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 半沢康
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
社会言語学的方言研究の概要とその研究史的位置づけを理解する。また研究方法を把握し，分析実習，議論を通じて具体的な分析技法を修得する。方言研究能力を育成し，危機言語たる地域言語の維持・発展に資する人材を養成する。			
授業の概要			
方言研究の方法について考察する。本年度は社会言語学的な観点に基づく言語変化研究を扱う。諸文献の講読を通じて，戦後の国語研究所による言語生活研究，各地で実施された共通語化の研究，日本出自の技法であるグロットグラム法などの成果を概観し，方法を把握するとともに各研究の問題点についても考察する。日本語方言の研究にとどまらず，W.Labov,P.Trudgill,J.Chambersら欧米の研究者による研究にも目を配る。また随時コンピュータを用いて実際の方言データの分析実習も行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
本講義の目的，授業計画の詳細を説明し，履修意思を確認する。			
第2回：国語研究所による言語生活研究1(八丈島，白河市調査)			
八丈島，白河市を対象とした国語研究所の言語生活研究の学史的意義と研究方法を理解する。			
第3回：国語研究所による言語生活研究2(鶴岡市調査)			
鶴岡市を対象とした国語研究所の言語生活研究(第1次調査)の学史的意義と研究方法を理解する。			
第4回：国語研究所による言語生活研究3(鶴岡市実時間(第2次，第3次)調査)			
鶴岡市を対象とした国語研究所の言語生活研究(第2,3次調査)の学史的意義について,特に欧米の社会言語学における見かけ時間・実時間調査と関連付けて理解する。			
第5回：国語研究所による言語生活研究4(北海道調査)			
北海道を対象とした国語研究所の言語生活研究の学史的意義について,特に欧米の社会言語学におけるコイナー研究と関連付けて理解する。			
第6回：グロットグラム研究1(言語地図の検証)			
糸魚川を対象とした言語地図の検証方法として実施された早川谷グロットグラム調査の学史的意義を理解し，グロットグラム法の意義を把握する。			

第7回：グロットグラム研究2(狭域・広域グロットグラム)

伊達・南部境界,中新田グロットグラムなど狭域で実施されたグロットグラムと, Q,TH,日本海グロットグラムなど広域地域を対象としたグロットグラムを比較することで技法としての長短を理解する。

第8回：グロットグラム研究3(方言伝播の速度)

グロットグラムデータに基づく方言伝播速度の推定法を吟味する。

第9回：グロットグラム研究4(多変量解析の適用)

数量化III類, ロジスティック回帰分析など多変量解析をグロットグラムデータへ適用した事例について学び, 実際のデータをもとに分析を行なう。

第10回：共通語化の要因1(社会的要因の扱い)

言語生活研究の内容を踏まえつつ, 共通語化の要因分析(とりわけ属性論・場面論の観点)の方法について学び, 吟味する。

第11回：共通語化の要因2(心理的要因の扱い)

社会的属性とは異なり因果的先行性が保証されない心理的要因の分析方法を学ぶ。

第12回：変異理論

W.Labovらによるアメリカの変異理論に関する英語文献の講読を行いその技法を理解, 吟味する。

第13回：都市方言学

P.Trudgillによるイギリスの都市方言学に関する英語文献の講読を行いその技法を理解, 吟味する。

第14回：言語地勢学

J.Chambersによるカナダの言語地勢学に関する英語文献の講読を行いその技法を理解, 吟味する。

第15回：まとめ

本講義のまとめを行い, 社会言語学的な方言研究の課題について吟味する。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

小林隆他編2003『ガイドブック方言研究』ひつじ書房

井上史雄他編2016『はじめて学ぶ方言学』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

受講者自身の言語データについて, 講義で扱った技法を用いて分析を行い, その結果をレポートとしてまとめる。

授業科目名： 地域言語特論演習I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 半沢康
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
日本語方言を対象としたフィールドワークを企画・実施し，調査技法を身に付ける。方言調査能力を育成し，危機言語たる地域言語の維持・発展に資する人材を養成する。			
授業の概要			
方言研究の実践。受講者各自の研究テーマに基づいてそれぞれが方言調査を企画し，分析結果を発表する。音声，アクセント，文法，語彙の地理的な変異のほか，共通語化や方言意識なども調査対象として想定される。調査はフィールドワークを原則とし，各自の企画を盛り込んだオムニバス調査を共同で実施する。前期は調査計画および実査が中心となる。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
本講義の目的，授業計画の詳細を説明し，履修意思を確認する。共同調査を行うので，受講者の十分なモチベーションを確認する。			
(1)調査の企画立案受講者それぞれが自己の関心に基づき，調査計画を立案する。			
第2回：対象地域の検討			
各自の問題意識に基づき,当該地域の方言状況を考慮して調査対象地域を決定する。			
第3回：研究法の検討			
各自の問題意識に基づき,実施する調査のフォーマット(地理的・社会的・記述的調査か，インフォーマント数をどうするかなど)を決定する。			
第4回：調査方法の検討			
各自の問題意識に基づき,実施する調査の方法(面接調査，自記式質問紙調査，観察法調査など)を決定する。			
第5回：調査項目の検討			
各自の問題意識に基づき,調査項目を持ち寄って最終項目を決定する。			
(2)実査の準備作業各自が検討した企画に基づき，調査の準備作業を実施する。			
第6回：現地との交渉			
教員とともに対象地域に赴き，各種機関を訪問して調査協力の依頼を行う。			
第7回：インフォーマントの手配			

協力機関からの回答に基づいて調査のスケジュールリング,移動方法の確認作業, インフォーマントへの依頼作業を行う。 第8回：調査票の作成 第5回に行った調査項目検討作業を踏まえ, 調査票作成の実作業を行う。 第9回：調査の手引きの作成 調査スケジュール, 調査地までの交通, 宿泊施設情報等を掲載した「調査の手引き」作成の実作業を行う。 (3)調査の最終打ち合わせ実査直前に実施する。各自の調査の目的, 調査項目設定の意図等について調査参加者へ説明・周知する。 第10回：最終打ち合わせ 上記の作業を全員で行う。 (4)実査夏季休業中に2泊3日の合宿形式で実施 第11～15回：3日間(×8時間=24時間)の臨地調査参加時間(含現地でのミーティング時間)を5回分(×1.5時間=7.5時間)の授業時間とみなす。 全員で現地へ赴き, 方言調査を行う。多数のインフォーマントに対し, 受講者が分担して調査する。	
テキスト	なし
参考書・参考資料等	小林隆他編2007『ガイドブック方言調査』ひつじ書房
学生に対する評価	受講者自身の言語データについて, 講義で扱った技法を用いて分析を行い, その結果をレポートとしてまとめる。

授業科目名： 地域言語特論演習II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 半沢康
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 日本語方言を対象としたフィールドワークを企画・実施し，調査技法を身に付ける。方言調査能力を育成し，危機言語たる地域言語の維持・発展に資する人材を養成する。			
授業の概要 方言研究の実践。受講者各自の研究テーマに基づいてそれぞれが方言調査を企画し，分析結果を発表する。音声，アクセント，文法，語彙の地理的な変異のほか，共通語化や方言意識なども調査対象として想定される。調査はフィールドワークを原則とし，各自の企画を盛り込んだオムニバス調査を共同で実施する。前期は調査計画および実査が中心となる。			
授業計画 第1回：ガイダンス 本講義の目的，授業計画の詳細を説明し，履修意思を確認する。共同調査を行うので，受講者の十分なモチベーションを確認する。 (1)調査の企画立案受講者それぞれが自己の関心に基づき，調査計画を立案する。 第2回：対象地域の検討 各自の問題意識に基づき,当該地域の方言状況を考慮して調査対象地域を決定する。 第3回：研究法の検討 各自の問題意識に基づき,実施する調査のフォーマット(地理的・社会的・記述的調査か，インフォーマント数をどうするかなど)を決定する。 第4回：調査方法の検討 各自の問題意識に基づき,実施する調査の方法(面接調査，自記式質問紙調査，観察法調査など)を決定する。 第5回：調査項目の検討 各自の問題意識に基づき,調査項目を持ち寄って最終項目を決定する。 (2)実査の準備作業各自が検討した企画に基づき，調査の準備作業を実施する。 第6回：現地との交渉 教員とともに対象地域に赴き，各種機関を訪問して調査協力の依頼を行う。 第7回：インフォーマントの手配			

協力機関からの回答に基づいて調査のスケジュールリング,移動方法の確認作業, インフォーマントへの依頼作業を行う。 第8回：調査票の作成 第5回に行った調査項目検討作業を踏まえ, 調査票作成の実作業を行う。 第9回：調査の手引きの作成 調査スケジュール, 調査地までの交通, 宿泊施設情報等を掲載した「調査の手引き」作成の実作業を行う。 (3)調査の最終打ち合わせ実査直前に実施する。各自の調査の目的, 調査項目設定の意図等について調査参加者へ説明・周知する。 第10回：最終打ち合わせ 上記の作業を全員で行う。 (4)実査夏季休業中に2泊3日の合宿形式で実施 第11～15回：3日間(×8時間=24時間)の臨地調査参加時間(含現地でのミーティング時間)を5回分(×1.5時間=7.5時間)の授業時間とみなす。 全員で現地へ赴き, 方言調査を行う。多数のインフォーマントに対し, 受講者が分担して調査する。	
テキスト	なし
参考書・参考資料等	小林隆他編2007『ガイドブック方言調査』ひつじ書房
学生に対する評価	受講者自身の言語データについて, 講義で扱った技法を用いて分析を行い, その結果をレポートとしてまとめる。

授業科目名：日本近代文学特論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：高橋由貴
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標：この授業では文体という観点から日本近代文学の変遷を辿ります。文語文から言文一致を経て自然主義の隆盛へ向かう明治期、西洋文学や当世風俗を受容して活況を呈するモダニズム文学が開花した大正期、関東大震災後戦時下へ向かう昭和期、それぞれの時代の小説を文体という視角からアプローチすることで、小説の方法や様式を把握します。			
授業の概要：明治期から現代での優れた短編小説を読解し、その魅力を理解します。小説の内容だけでなく表現にも注意を払い、文章を把握することを目指します。また、各作家の文体的特性や小説の構造的性質についても理解し、明治・大正・昭和の文学史における各テキストの位置づけを理解します。			
授業計画			
第1回：イントロダクション—文体論について—			
第2回：明治期における小説の草創期（仮名垣魯文）			
第3回：明治期における小説の草創期（三遊亭円朝）			
第4回：明治期の小説文体（坪内逍遙・二葉亭四迷）			
第5回：明治期の小説文体（山田美妙・尾崎紅葉）			
第6回：明治期の小説文体（幸田露伴・樋口一葉）			
第7回：浪漫主義文学の展開（北村透谷）			
第8回：浪漫主義文学の展開（谷崎潤一郎）			
第9回：自然主義文学の隆盛について（田山花袋・国木田独歩）			
第10回：白樺派の小説文体（志賀直哉・有島武郎）			
第11回：関東大震災後の文学（芥川龍之介）			
第12回：モダニズム文学の隆盛について（川端康成・横光利一）			
第13回：モダニズム文学の隆盛について（梶井基次郎・堀辰雄）			
第14回：プロレタリア文学の小説文体（葉山嘉樹・小林多喜二）			
第15回：戦時下の文学（火野葦平・太宰治）			
定期試験			
テキスト：『作品で綴る日本近代文学史』（双文社出版）			
参考書・参考資料等：数が多いので授業中に指示します。			
学生に対する評価：毎回課題を出しますので、各自その課題に取り組んで臨んでください。			

単位制に基づき、少なくとも60時間の授業外学習時間を必要とします。

授業ごとの課題のとりくみと、最終試験（論述）によって総合的に評価します。

授業科目名：日本近代文学特論演習	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2 単位	担当教員名：高橋由貴
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標：この授業では明治期から昭和初年代までの小説を取り上げ、「西洋と東洋」というテーマから読んでいきます。明治期以降、文学において日本の外部である「西洋」という 他者 や「東洋」という 自ら をどう表象するかについて様々な試みがなされています。この「自己と他者」という問題を洋の東西という視点から考え、文学の形成・展開を理解します。			
授業の概要：明治期から昭和初年代までの優れた短編小説を読解し、その魅力を理解します。内容だけでなく表現にも注意を払い、文章を把握することを目指します。また、各作家の文体的特性や小説の構造的特質についても理解し、明治・大正・昭和の文学史における各テキストの位置づけを理解します。			
授業計画			
第1回：ガイダンス：「文学」というジャンルの確立について			
第2回：仮名垣魯文「安愚楽鍋」			
第3回：三遊亭円朝「怪談牡丹灯籠」			
第4回：二葉亭四迷「浮雲」			
第5回：森鷗外「舞姫」			
第6回：北村透谷「内部生命論」			
第7回：樋口一葉「にごりえ」			
第8回：幸田露伴「五重塔」			
第9回：夏目漱石「倫敦塔」			
第10回：田山花袋「蒲団」			
第11回：国木田独歩「源叔父」			
第12回：永井荷風「すみだ川」			
第13回：谷崎潤一郎「刺青」			
第14回：武者小路実篤「友情」			
第15回：芥川龍之介「地獄変」			
定期試験			
テキスト：各回で小説本文をプリントで配布します。			
参考書・参考資料等：数が多いので授業中に指示します。			
学生に対する評価：各自扱う小説について教員・受講生でディスカッションをしますので、よくテクス			

トを読み込んで、質問や気づいたことを資料にまとめてきてください。

単位制に基づき少なくとも60時間の授業外学習時間を必要とします。

授業での発表と発言および最終試験（論述）によって総合的に評価します。

授業科目名：日本近代文学特論演習	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：高橋由貴
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標：日本近代文学特論演習 からひき続き、昭和期から現代までの小説を取り上げ、「西洋と東洋」というテーマから読んでいきます。戦争に傾斜する昭和から戦後まで、日本の外部である「西洋」という 他者 や「東洋」という 自ら をどう表象するかについて様々な試みがなされています。この「自己と他者」という問題を洋の東西という視点から考え、文学の形成・展開を理解します。			
授業の概要：明治期から昭和初年代までの優れた短編小説を読解し、その魅力を理解します。内容だけでなく表現にも注意を払い、文章を把握することを目指します。また、各作家の文体的特性や小説の構造的特質についても理解し、明治・大正・昭和の文学史における各テキストの位置づけを理解します。			
授業計画			
第1回：ガイダンス：昭和から戦後までの文学史概説			
第2回：有島武郎「カインの末裔」			
第3回：志賀直哉「暗夜行路」			
第4回：横光利一「上海」			
第5回：川端康成「雪国」			
第6回：小林秀雄「実朝」			
第7回：太宰治「惜別」			
第8回：大岡昇平「野火」			
第9回：三島由紀夫「潮騒」			
第10回：大江健三郎「飼育」			
第11回：江藤淳「成熟と喪失」			
第12回：小島信夫「アメリカンスクール」			
第13回：李良枝「由熙」			
第14回：古井由吉「杳子」			
第15回：村上春樹「中国行きのスロウ・ボート」			
定期試験			
テキスト：各回で小説本文をプリントで配布します。			
参考書・参考資料等：数が多いので授業中に指示します。			

学生に対する評価：各自扱う小説について教員・受講生でディスカッションをしますので、その回で扱う箇所を読み込んで、質問や気づいたことを資料にまとめてきてください。

単位制に基づき少なくとも60時間の授業外学習時間を必要とします。

授業での発表と発言および最終試験（論述）によって総合的に評価します。

授業科目名：比較文学特論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：高橋由貴
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標：「比較文学・比較文化とは何か？」というテーマで比較文学という方法の多様性について考えながら身につける授業です。「比較文学」という名称が冠されて追究されてきた文学・文化への様々な方法論的アプローチを取り上げ、その可能性の広がりを理解します。			
授業の概要： 比較文学という方法と目的を身につけるため、その手法や意義、最新の知見について論じます。毎回、比較文学に分類される研究手法を具体的なテキストや事象に基づきながら紹介します。			
授業計画 第1回： ガイダンス 「比較文学」という研究分野の広がりと変容 第2回： 「比較文学」とはなにか 18世紀～19世紀 第3回： 「比較文学」とはなにか 19世紀～20世紀 第4回： 「比較文学」とはなにか 2000年代以降～ 第5回： ジャンルの比較について 第6回： 主題の比較について 第7回： 異文化体験の重視について 越境文学について 第8回： 異文化体験の重視について 言語的越境について 第9回： 異文化の受容について 外国文学や運動の受容 第10回： 異文化の受容について ジャポニズムについて 第11回： 間テキスト性について 第12回： アダプテーションについて 第13回： トランスレーション・スタディーズについて 第14回： 「世界文学」という問題系について 第15回： これまでのまとめ 定期試験			
テキスト：毎回プリントを配布します。			
参考書・参考資料等：A・マリノ『戦う比較文学』（勁草書房）、亀井俊介『現代の比較文学』（講談社学術文庫）、L・ハッチオン『アダプテーションの理論』（晃洋書房）、E・アプター『翻訳地帯』（慶應義塾大学出版会）、土田知則『間テキスト性の戦略』（夏目書房）など。その都度紹介します。			

学生に対する評価：毎回課題を出しますので、それに取り組んでください。

単位制に基づき少なくとも60時間の授業外学習時間を必要とします。

毎回の課題提出と最終試験（論述）によって総合的に評価します。

授業科目名：比較文学特論演習	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：高橋由貴
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標：「比較文学・比較文化とはなにか」というテーマで比較文学という方法の多様性や研究領域の広がりについて考えます。歴史的に議論されてきた比較文学の方法を学ぶとともに、英語中心主義かつ資本主義的流通を強化すると批判も含む「世界文学」や大きく飛躍する翻訳理論までを広くカバーし、それらについて考えていきます。			
授業の概要：「比較文学・比較文化とはなにか」というテーマで比較文学という方法の多様性について考えます。エリアスタディーズ（地域研究）、トランスレーション・スタディーズ（翻訳研究）、絵画や写真、映画や演劇といった他ジャンルとの比較やアダプテーションの問題など最新の研究手法や動向も踏まえながら、文学・文化への方法的アプローチを取り上げ、その可能性の広がりを理解します。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 「比較文学」とはなにか			
第2回：ゲーテ『エッカーマンとの対話』/ダムロッシュ『世界文学とは何か？』『序章 ゲーテ、新語をつくる』/ベルマン『他者という試練』『第4章 ゲーテ 翻訳と世界文学』			
第3回：比較文学という方法について			
第4回：佐藤=ロスベアグ・ナナ編『トランスレーション・スタディーズ』			
第5回：井上健『世界文学の視界』			
第6回：多和田葉子『エクソフォニー』			
第7回：水村美苗『日本語が亡びる時』			
第8回：カサノヴァ『世界文学空間』			
第9回：ダムロッシュ『世界文学とは何か？』			
第10回：アプター『翻訳地帯』			
第11回：.ウォルコウィッツ『生まれつき翻訳』			
第12回：田中克彦『ことばと国家』			
第13回：ハルオ・シラネ、鈴木登美『創造された古典』			
第14回：リービ英雄『英語で読む万葉集』			
第15回：これまでのまとめ			
定期試験			

テキスト：各回で扱うテキストを初日に配布しますので、よく読んでおいてください。

参考書・参考資料等：多数あるので授業中に指示します

学生に対する評価：教員・受講生でディスカッションをしますので、その回に扱う箇所を読み込んで、質問や気づいたことを資料にまとめてきてください。

単位制に基づき少なくとも60時間の授業外学習時間を必要とします。

授業での発表と発言および最終試験（論述）によって総合的に評価します。

授業科目名：比較文学特論演習	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2 単位	担当教員名：高橋由貴
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標：比較文学特論演習 につづき、「世界文学」という問題系のもと、さまざまな国や場所、言語で書かれた小説と詩を、その文化的・歴史的背景を検討しながら読解します。			
授業の概要：「比較文学・比較文化とはなにか」というテーマでひき続き比較文学という方法の多様性について考えます。飛躍的に発展している翻訳研究をはじめ、フェミニズム、アダプテーションといった最新文学理論、エコ・クリティシズムやアニマル・スタディーズといった研究手法・動向も踏まえながら、文学・文化への方法的アプローチを取り上げ、その可能性の広がりを理解します。			
授業計画			
第1回：「世界文学」と資本主義の問題			
第2回： ハッチオン『アダプテーションの理論』			
第3回： 蓮實重彦『反=日本語論』			
第4回： 土田知則『間テキスト性の戦略』			
第5回： バトラー『問題=物質となる身体』			
第6回：アニマル・スタディーズについて			
第7回：エコ・クリティシズムについて			
第8回：グレゴリー・ガリー『宮沢賢治とディープエコロジー』			
第9回：秋草俊一郎『世界文学はつくられる 1827-2020』			
第10回：和田敦彦『越境する書物』			
第11回：川本皓嗣『俳諧の詩学』			
第12回：酒井直樹他『レイシズム・スタディーズ序説』			
第13回：酒井直樹『死産される日本語・日本人』			
第14回：「比較文学」とはなにか			
第15回：これまでのまとめ			
定期試験			
テキスト：各回で扱うテキストを初日に配布しますので、よく読んでおいてください。			
参考書・参考資料等：多数あるので授業中に指示します			
学生に対する評価：教員・受講生でディスカッションをしますので、その回で扱う箇所をよく読み込んで			

で、質問や気づいたことを資料にまとめてきてください。

単位制に基づき少なくとも60時間の授業外学習時間を必要とします。

授業での発表と発言および最終試験（論述）によって総合的に評価します

授業科目名：日本古典文学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：井實 充史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 相互に関係のある複数の日本古代文学作品について、それら諸作品が作られた時代の政治や文化、制度や社会、他の内外の作品との影響関係などの観点から、それぞれの特徴や意義、及び相互の関係性などについて理解し考察することができる。			
授業の概要 日本古代文学の概要を理解するとともに、主要な作品の特徴や意義について考察する。まずは日本古代文学史について概説し、講義中に取り上げた作品の中から主要なものを学生に選択させて、先行研究や独自の調査を織り込みつつ講読していく。			
授業計画 第1回：ガイダンス（授業のテーマ及び到達目標、授業の概要及び進め方等） 第2回：上代日本文学の概要 第3回：中古日本文学の概要 第4回：講読作品の決定 第5回：作品の概要 第6回：作品の時代背景 第7回：作品の文学史的課題 第8回：作品の講読―校異を中心に 第9回：作品の講読―語彙・文法を中心に 第10回：作品の講読―文体・表現を中心に 第11回：作品の講読―影響関係を中心に 第12回：作品の講読―主題・思想を中心に 第13回：作品の講読―歴史的背景を中心に 第14回：作品の講読―ジャンル・文学史を中心に 第15回：総括及びレポート課題の確認			
テキスト 講読する作品に応じて、角川ソフィア文庫、講談社学術文庫、新編日本古典文学全集、新日本古典文学大系などのテキストを適宜紹介する。			
参考書・参考資料等 講読する作品に応じて、各種注釈書、研究書等を適宜紹介する。			

学生に対する評価

作品への興味・関心：講読箇所を事前に読んでいるかどうか授業中に確認する（30％）

研究内容及び方法の理解：授業中の質疑応答で評価する（30％）

研究成果：課題レポートで評価する（40％）

授業科目名：日本古典文学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：井實 充史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 日本古代文学の和文テキスト（古文のみで書かれている文章や作品）について、先行研究をふまえて独自に調査し、批評できるようになる。			
授業の概要 日本古代文学のなかから特定の作品を取り上げ、校本、諸注釈書、主要な先行論文等の事前調査を受講生に課し、その報告内容を吟味・検討するかたちで進めていく。			
授業計画 第 1 回：ガイダンス（授業のテーマ及び到達目標、授業の概要及び進め方等） 第 2 回：研究対象作品の決定 第 3 回：校異の調査報告 第 4 回：語釈の調査報告 第 5 回：評釈の調査報告 第 6 回：先行研究の収集 第 7 回：先行研究の分類 第 8 回：先行研究の検討 第 9 回：研究テーマ・方法の決定 第10回：基礎的研究の報告と検討 第11回：基礎的研究の修正報告と検討 第12回：発展的研究の報告と検討 第13回：発展的研究の修正報告と検討 第14回：論述のためのアウトラインの作成 第15回：総括			
テキスト 講読する作品に応じて、角川ソフィア文庫、講談社学術文庫、新編日本古典文学全集、新日本古典文学大系などのテキストを適宜紹介する。			
参考書・参考資料等 講読する作品に応じて、各種注釈書、研究書等を適宜紹介する。			
学生に対する評価 研究への意欲・態度・関心：各回の報告内容により評価する（30％）			

研究内容及び方法の理解：報告に対する質疑応答により評価する（30％）

研究成果：課題レポートの内容により評価する（40％）

授業科目名：日本古典文学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：井實 充史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 日本古代文学の漢文テキスト（漢詩文のみで書かれている文章や作品）または和漢混在テキスト（漢詩文と古文が混在する文章や作品）について、先行研究をふまえて独自に調査し、批評できるようになる。			
授業の概要 日本古代文学のなかから特定の作品を取り上げ、校本、諸注釈書、主要な先行論文等の事前調査を受講生に課し、その報告内容を吟味・検討するかたちで進めていく。			
授業計画 第1回：ガイダンス（授業のテーマ及び到達目標、授業の概要及び進め方等） 第2回：研究対象作品の決定 第3回：校異の調査報告 第4回：語釈の調査報告 第5回：評釈の調査報告 第6回：先行研究の収集 第7回：先行研究の分類 第8回：先行研究の検討 第9回：研究テーマ・方法の決定 第10回：基礎的研究の報告と検討 第11回：基礎的研究の修正報告と検討 第12回：発展的研究の報告と検討 第13回：発展的研究の修正報告と検討 第14回：論述のためのアウトラインの作成 第15回：総括			
テキスト 講読する作品に応じて、角川ソフィア文庫、講談社学術文庫、新編日本古典文学全集、新日本古典文学大系などのテキストを適宜紹介する。			
参考書・参考資料等 講読する作品に応じて、各種注釈書、研究書等を適宜紹介する。			
学生に対する評価			

研究への意欲・態度・関心：各回の報告内容により評価する（30％）

研究内容及び方法の理解：報告に対する質疑応答により評価する（30％）

研究成果：課題レポートの内容により評価する（40％）

授業科目名：日本文学 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：井實 充史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
日本文学の形成過程及び特質について多面的な観点から理解できる。また、日本文学がどのように享受されているかについて、学校教育における文学教材のあり方や特徴の観点から理解できる。			
授業の概要			
日本文学の形成過程及び特質について、伝統的な美意識の形成と展開を主軸に据えて、言語的、歴史的、文化的、社会的、風土的な環境、及び外国文学・思想の影響などの多面的な観点から講述する。また、日本文学がどのように享受されているかについて、学校教育における文学教材のあり方や特徴を主軸に据えて、文学研究の立場から講述する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（授業のテーマ及び到達目標、授業の概要及び進め方等）			
第2回：言葉の観点から			
第3回：作家の観点から			
第4回：風土の観点から			
第5回：社会の観点から			
第6回：ジャンルの観点から			
第7回：歴史の観点から			
第9回：外国文学との関連から			
第10回：外国文化・思想との関連から			
第11回：学校における文学の享受 —詩歌—			
第12回：学校における文学の享受 —物語・小説—			
第13回：学校における文学の享受 —随筆・エッセイ—			
第14回：学校における文学の享受 —日本文化論—			
第15回：総括及びレポート課題の確認			
テキスト			
講読する作品に応じて、角川ソフィア文庫、講談社学術文庫、新編日本古典文学全集、新日本古典文学大系などのテキストを適宜紹介する。			
参考書・参考資料等			
講読する作品に応じて、各種注釈書、研究書等を適宜紹介する。			

学生に対する評価

日本文学への興味・関心：テキストを事前に読んでいるかどうか授業中に確認する（30％）

研究内容及び方法の理解：授業中の質疑応答で評価する（30％）

研究成果：課題レポートで評価する（40％）

授業科目名：日本文学 特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：井實 充史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 学生が主体となって、時代や文化の異なる複数の日本文学作品を取り上げ、先行研究をふまえて独自に調査・分析・批評することを通して、日本文学の形成過程及び特質について明らかにする。			
授業の概要 学生が取り上げた複数の作品について、校本、諸注釈書、主要な先行論文等の事前調査を受講生に課し、その報告内容を吟味・検討するかたちで進めていく。			
授業計画 第1回：ガイダンス（授業のテーマ及び到達目標、授業の概要及び進め方等） 第2回：研究対象作品（第一作品・第二作品）の決定 第3回：第一作品の基礎的読解 第4回：第一作品の先行研究の収集・分類 第5回：第一作品の先行研究の検討・評価 第6回：第一作品についての考察 第7回：第一作品についてのまとめ 第8回：第二作品の基礎的読解 第9回：第二作品の先行研究の収集・分類 第10回：第二作品の先行研究の検討・評価 第11回：第二作品についての考察 第12回：第二作品についてのまとめ 第13回：これまでの研究の課題と成果 第14回：レポート課題の決定 第15回：レポートのアウトラインの作成			
テキスト 講読する作品に応じて、角川ソフィア文庫、講談社学術文庫、新編日本古典文学全集、新日本古典文学大系などのテキストを適宜紹介する。			
参考書・参考資料等 講読する作品に応じて、各種注釈書、研究書等を適宜紹介する。			
学生に対する評価			

研究への意欲・態度・関心：各回の報告内容により評価する（30％）

研究内容及び方法の理解：報告に対する質疑応答により評価する（30％）

研究成果：課題レポートの内容により評価する（40％）

授業科目名：日本文学 特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：井實 充史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 学生が主体となって、学校種や学年の異なる複数の文学教材を取り上げ、学校教育における文学教材のあり方や特徴を探ることを通して、日本文学がどのように享受されているかについて明らかにする。			
授業の概要 学生が取り上げた複数の文学教材について、その文学的意義や価値及び先行実践例の問題点などの事前調査を課し、その報告内容を吟味・検討するかたちで進めていく。			
授業計画 第1回：ガイダンス（授業のテーマ及び到達目標、授業の概要及び進め方等） 第2回：研究対象教材（第一教材・第二教材）の決定 第3回：第一教材の文学的研究（基礎） 第4回：第一教材の文学的研究（応用） 第5回：第一教材の先行実践例の収集・分類 第6回：第一教材の先行実践例の検討・評価 第7回：第一教材についてのまとめ 第8回：第二教材の文学的研究（基礎） 第9回：第二教材の文学的研究（応用） 第10回：第二教材の先行実践例の収集・分類 第11回：第二教材の先行実践例の検討・評価 第12回：第二教材についてのまとめ 第13回：教材研究の課題と成果 第14回：レポート課題の決定 第15回：レポートのアウトラインの作成			
テキスト 任意の検定済国語教科書。			
参考書・参考資料等 研究対象とした文学教材に応じて、角川ソフィア文庫、講談社学術文庫、新編日本古典文学全集、新日本古典文学大系などの本文テキストや各種注釈書を紹介する。			
学生に対する評価			

研究への意欲・態度・関心：各回の報告内容により評価する（30％）

研究内容及び方法の理解：報告に対する質疑応答により評価する（30％）

研究成果：課題レポートの内容により評価する（40％）

授業科目名：漢文学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澁澤 尚
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業は「中国古代神話受容史」と題し、漢文学・中国文化の原点を、神話が文学や思想にどのように受容されたかとの観点から捉えることを目的とする。その際、神話を育んだ文化的背景について理解を深めるために、殷王朝（漢字）・道家思想（莊子）・楚文化（楚辞）の三視点を軸に講述し、漢字文化・中国思想・漢詩文という多角的な古代文化理解をめざす。			
授業の概要			
漢文学における中国神話は従来「涸れたる神話」と見なされてきたが、もともと稀薄だったわけではない。前半は枯渇の主因となった儒教經典化について講述し、後半は豊饒な神話的世界を、主に『楚辞』をもとに読解し、巫祝文化との関係について講述する。なお、理解の度合を確認するため毎時レポート提出を求める。			
授業計画			
第1回：神話・伝説とは何か～古代中国神話の特徴と問題点とについて理解する。			
第2回：漢文学における神話の位置～漢文学・中国文化における神話・伝説のおかれる位置について理解する。			
第3回：神話を育んだ古代中国文化の特質（殷王朝と祭政一致）～殷王朝における「祭政一致」について、具体的漢字をもとに学ぶ。			
第4回：神話の「經典化」「歴史化」にみる中国神話の特質と問題点～『書経』を例に神話の「經典化」「歴史化」について理解する。			
第5回：崑崙伝説にみる經典化・歴史化の具体例～「崑崙」伝説を例に神話の「經典化」「歴史化」について理解する。			
第6回：儒家思想と神話～儒家思想と神話との関わりについて、具体的に学ぶ。			
第7回：道家思想と神話～道家思想と神話との関わりについて、具体的に学ぶ。			
第8回：『楚辞』天問・九歌の神話的世界～先秦楚文化における神話的世界について、『楚辞』天問・九歌を例に学ぶ。			
第9回：『楚辞』離騷の神話的世界～先秦楚文化における神話的世界について、『楚辞』離騷を例に学ぶ。			
第10回：甲骨文字にみる神話～甲骨文（河神・岳神・風神）からうかがわれる神話について学ぶ。			

第11回：青銅器（金文）にみる神話～金文（祖先神）からうかがわれる神話について学ぶ。

第12回：『山海経』五蔵山経の神話的世界～『山海経』における神話的世界について、「五蔵山経」を例に学ぶ。

第13回：『山海経』海外経・海内経の神話的世界～『山海経』における神話的世界について、「海外経」「海内経」を例に学ぶ。

第14回：『莊子』逍遙遊・応帝王篇の神話的世界～『莊子』における神話的世界について、逍遙遊・応帝王篇を例に学ぶ。

第15回：まとめ—神話から中国文化を探究する意義

テキスト

袁珂『中国神話史』（上海文芸出版社）、また図版資料を主とした自作の冊子を配付する。

参考書・参考資料等

聞一多『中国神話』（平凡社）、白川静『中国の神話』（中央公論社）

学生に対する評価

期末の提出レポート、および毎時の小レポートにより評価する。

授業科目名：漢文学特論 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澁澤 尚
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本演習は、漢文学における中国古代神話関連の原典資料の読解・分析をおこない、漢文学・中国文化への理解をより深化させることを目的とする。先秦の原典資料（『尚書』『山海経』等）には難解なものが多いが、導入指導を丁寧におこなうことにより、既成の日本語訳注書に頼りすぎることなく、自力で原典に向き合う姿勢を養成したい。			
授業の概要			
漢文原典として『尚書』『山海経』を中心に読解・分析をすすめるが、演習に先立ち漢文学の特質、難解な古代漢語の特質、及び工具書についての概説を丁寧におこない、導入とする。また、読解の前には、日中欧の神話研究法、及び研究史について概観する。演習の際は、毎時レジュメを用意する。			
授業計画			
第1回：古代漢語の特質～中国古代漢語の特質と問題点とについて学ぶ。			
第2回：古代漢語・漢文読解の方法（工具書概説）～古籍の読解方法について、工具書の概説とともに理解する。			
第3回：古代漢語・漢文読解の方法（語法）～古籍の読解方法について、文法・語法の面から理解する。			
第4回：古代漢語・漢文読解の方法（語彙）～古籍の読解方法について、語彙・漢字の面から理解する。			
第5回：古代神話の研究法（中国）～中国古代神話の研究法について、中国における諸例をもって学ぶ。			
第6回：古代神話の研究法（日本・欧米）～中国古代神話の研究法について、日本と欧米における諸例をもって学ぶ。			
第7回：古代神話の研究史（中国）～中国古代神話の研究史について、中国における諸例をもって学ぶ。			
第8回：古代神話の研究史（日本・欧米）～中国古代神話の研究史について、日本と欧米における諸例をもって学ぶ。			
第9回：神話の原典資料読解（甲骨文）～古代神話の原典資料読解演習を甲骨文（河神・岳神）			

から選択しおこなう。

第10回：神話の原典資料読解（『尚書』）～古代神話の原典資料読解演習を『尚書』から選択しおこなう。

第11回：神話の原典資料読解（『山海経』南山経）～古代神話の原典資料読解演習を『山海経』南山経から選択しおこなう。

第12回：神話の原典資料読解（『山海経』西山経）～古代神話の原典資料読解演習を『山海経』西山経から選択しおこなう。

第13回：神話の原典資料読解（『山海経』海内経）～古代神話の原典資料読解演習を『山海経』海内経から選択しおこなう。

第14回：神話の原典資料読解（『山海経』海外経）～古代神話の原典資料読解演習を『山海経』海外経から選択しおこなう。

第15回：まとめと課題提示

テキスト

鮑善淳『漢文をどう読みこなすか』（日中出版）、また随時原文テキストを選定して使用。

参考書・参考資料等

小川環樹『漢文入門』（岩波書店）、『王力古漢語字典』（中華書局）

学生に対する評価

発表時のレジュメと期末の提出レポートにより評価する。

授業科目名：漢文学特論 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澁澤 尚
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本演習は、漢文学における中国古代神話関連の原典資料の読解・分析をおこない、漢文学・中国文化への理解をより深化させることを目的とする。先秦の原典資料（『淮南子』『莊子』『楚辞』等）には難解なものが多いが、導入指導を丁寧におこなうことにより、既成の日本語訳注書に頼りすぎることなく、自力で原典に向き合う姿勢を養成したい。			
授業の概要			
漢文原典として『淮南子』『莊子』『楚辞』を中心に読解・分析をすすめるが、演習開始に先立ち漢文学の特質、難解な古代漢語の特質、及び工具書について簡単に確認し導入とする。また、『楚辞』読解の前には、古代歌謡の特質について巫風と関わらせて解説する。演習の際は、毎時レジュメを用意する。			
授業計画			
第1回：神話の原典資料読解（『淮南子』地形訓）～古代神話の原典資料読解演習を『淮南子』地形訓から選択しおこなう。			
第2回：神話の原典資料読解（『淮南子』天文訓）～古代神話の原典資料読解演習を『淮南子』天文訓から選択しおこなう。			
第3回：神話の原典資料読解（『莊子』逍遥遊篇）～古代神話の原典資料読解演習を『莊子』逍遥遊篇から選択しおこなう。			
第4回：神話の原典資料読解（『莊子』応帝王篇）～古代神話の原典資料読解演習を『莊子』応帝王篇から選択しおこなう。			
第5回：神話の原典資料読解（『莊子』外篇）～古代神話の原典資料読解演習を『莊子』外篇から選択しおこなう。			
第6回：楚文化における神話（馬王堆帛画を手がかりに）～馬王堆帛画を用いて、先秦楚文化における神話的世界について学ぶ。			
第7回：『楚辞』と神話（屈原と巫祝文化）～『楚辞』にみられる巫長屈原と楚国の巫祝文化とについて学ぶ。			
第8回：『楚辞』と神話（巫風と古代歌謡）～古代歌謡と巫風との関わりについて、『楚辞』諸篇を例に学ぶ。			

第9回：神話の原典資料読解演（『楚辞』天問）～古代神話の原典資料読解演習を『楚辞』天問から選択しおこなう。

第10回：神話の原典資料読解（『楚辞』九章）～古代神話の原典資料読解演習を『楚辞』九章から選択しおこなう。

第11回：神話の原典資料読解（『楚辞』九歌）～古代神話の原典資料読解演習を『楚辞』九歌から選択しおこなう。

第12回：「離騷」と古代巫医～巫風における巫医について、「離騷」から学ぶ。

第13回：「離騷」における香草美人～巫風・巫医における香草美人の意味について、「離騷」から学ぶ。

第14回：神話の原典資料読解（『楚辞』離騷）～古代神話の原典資料読解演習を『楚辞』離騷から選択しおこなう。

第15回：まとめと課題提示

テキスト

鮑善淳『漢文をどう読みこなすか』（日中出版）、また随時原文テキストを選定して使用。

参考書・参考資料等

小川環樹『漢文入門』（岩波書店）、『王力古漢語字典』（中華書局）

学生に対する評価

発表時のレジュメと期末の提出レポートにより評価する。

授業科目名：中国思想特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澁澤 尚
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業は「道家思想における混沌概念」と題し、中国思想の根底に流れる道家の混沌思想を、主に聖山や理想郷描写の視点から学ぶことを目的とする。前半の「老荘」に対し、後半は『列子』を中心に提起し、その思想的眼目「虚」が、同書中の理想的人物像や楽園描写といかように関わるのか理解できるように講述する。			
授業の概要			
道家思想の「混沌」の概念について、「老荘列」三書から具体例を示しつつ講述する。特に『列子』における楽園説話成立の背景に、「崑崙」に代表される混沌境地の地理的表象があることを詳述する。なお、授業理解の度合を確認するため、毎時小レポートと短い漢文原典読解の提出を求める。			
授業計画			
第1回：中国思想の特質～古代中国思想の特質と問題点とについて学ぶ。			
第2回：諸子百家の思想～代表的な先秦諸思想の概略について学ぶ。			
第3回：儒家思想と道家思想～儒家思想と道家思想との特質について比較しながら学ぶ。			
第4回：『老子』における「道」と「混沌」～『老子』における「道」「混沌」「恍惚」の概念について学ぶ。			
第5回：渾沌帝説話からみた『莊子』における「混沌」～『莊子』の渾沌帝説話における「混沌」思想について学ぶ。			
第6回：聖山「空同」「崑崙」説話からみた『莊子』における「混沌」～『莊子』の聖山描写にみられる「混沌」思想について学ぶ。			
第7回：道家思想における『列子』の位置～道家思想における『列子』書の位置について学ぶ。			
第8回：『列子』における「虚」の思想～『列子』の思想的眼目である「虚」について学ぶ。			
第9回：『列子』における至人像（商丘開と列子御風説話）～『列子』における至人・真人描写について学ぶ。			
第10回：『列子』における名人像（黄帝篇を中心に）～『列子』における名人・名匠描写について学ぶ。			
第11回：『列子』における「混沌」（宇宙生成論を含む）～『列子』にみえる「混沌」思想に			

ついて学ぶ。

第12回：「華胥氏之国」描写からみた『列子』の楽園説話～『列子』における楽園説話のうちから「華胥氏之国」について学ぶ。

第13回：「終北国」描写からみた『列子』の楽園説話～『列子』における楽園説話のうちから「終北国」について学ぶ。

第14回：古帝王訪問との関係にみる『列子』の楽園説話～『列子』の楽園説話における古帝王訪問描写の意味について学ぶ。

第15回：まとめ—道家思想における混沌概念～道家思想において「混沌」の概念がいかなる意味をもつのかを学ぶ。

テキスト

福永光司『列子』（平凡社）、金谷治『莊子』（岩波書店）、金谷治『老子』（講談社）

参考書・参考資料等

小林勝人『列子の研究』（明治書院）、福永光司『莊子』（朝日新聞社）

学生に対する評価

期末の提出レポート、および毎時の小レポートにより評価する。

授業科目名：中国思想特 論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澁澤 尚
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本演習は、漢文学の道家思想に関わる漢文資料の読解分析をおこない、中国思想への理解をより深化させることを目的とする。『老子』『莊子』等の原典資料には難解なものが多いが、授業者側が丁寧に導入指導をおこなうことにより、日本語訳注書に頼りすぎることなく、自力で原典に向き合う姿勢を養成したい。			
授業の概要			
漢文学における道家思想の原典として、『老子』『莊子』を中心に読解分析をすすめるが、演習に先立ち難解な古代漢語の特質、及び工具書についての概説を丁寧におこない、導入とする。また、日中欧の研究法・研究史を概観するとともに、『莊子』読解の前には、古代思想の特質について真人における異形の原像と関わらせて解説する。演習の際は、毎時レジュメを用意する。			
授業計画			
第1回：古代漢語の特質～中国古代漢語の特質と問題点とについて学ぶ。			
第2回：思想書読解の方法（工具書概説）～中国古代思想書の読解方法について、工具書の概説とともに理解する。			
第3回：古代思想書における漢文読解法（語法）～中国古代思想書の読解方法について、文法・語法の面から理解する。			
第4回：古代思想書における漢文読解法（語彙）～中国古代思想書の読解方法について、語彙・漢字の面から理解する。			
第5回：古代思想の研究法（中国）～中国古代思想の研究法について、中国における諸例をもって学ぶ。			
第6回：古代思想の研究法（日本・欧米）～中国古代思想の研究法について、日本と欧米における諸例をもって学ぶ。			
第7回：古代思想の研究史（中国）～中国古代思想の研究史について、中国における諸例をもって学ぶ。			
第8回：古代思想の研究史（日本・欧米）～中国古代史王の研究史について、日本と欧米における諸例をもって学ぶ。			

第9回：道家思想の原典資料読解（『史記』老子伝）～道家思想の原典資料読解演習を『史記』老子列伝を用いておこなう。

第10回：道家思想の原典資料読解（『老子』道篇）～道家思想の原典資料読解演習を『老子』道篇から選択しておこなう。

第11回：道家思想の原典資料読解（『老子』徳篇）～道家思想の原典資料読解演習を『老子』徳篇から選択しておこなう。

第12回：道家思想の原典資料読解（『莊子』斉物論）～道家思想の原典資料読解演習を『莊子』斉物篇から選択しておこなう。

第13回：道家思想の原典資料読解（『莊子』養生主）～道家思想の原典資料読解演習を『莊子』養生主篇から選択しておこなう。

第14回：道家思想の原典資料読解（『莊子』徳充符）～道家思想の原典資料読解演習を『莊子』徳充符篇から選択しておこなう。

第15回：まとめと課題提示

テキスト

鮑善淳『漢文をどう読みこなすか』（日中出版）、また随時原文テキストを選定して使用。

参考書・参考資料等

小川環樹『漢文入門』（岩波書店）、『王力古漢語字典』（中華書局）

学生に対する評価

発表時のレジュメと期末の提出レポートにより評価する。

授業科目名：中国思想特 論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澁澤 尚 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 本演習は、漢文学の道家思想に関わる漢文資料の読解分析をおこない、中国思想への理解をより深化させることを目的とする。『莊子』『列子』等の原典資料には難解なものが多いが、授業者側が丁寧に導入指導をおこなうことにより、日本語訳注書に頼りすぎることなく、自力で原典に向き合う姿勢を養成したい。			
授業の概要 漢文学における道家思想の原典として、『莊子』『列子』を中心に読解分析をすすめるが、演習開始に先立ち難解な古代漢語の特質、及び工具書について簡単に確認し導入とする。また、『列子』読解の前には、古代思想の特質について諸子百家における寓話・寓言と関わらせて解説する。演習の際は、毎時レジュメを用意する。			
授業計画 第1回：道家思想の原典資料読解（『莊子』大宗師）～道家思想の原典資料読解演習を『莊子』大宗師篇から選択しておこなう。 第2回：道家思想の原典資料読解（『莊子』在宥）～道家思想の原典資料読解演習を『莊子』在宥篇から選択しておこなう。 第3回：道家思想の原典資料読解（『莊子』至楽）～道家思想の原典資料読解演習を『莊子』至楽篇から選択しておこなう。 第4回：道家思想の原典資料読解（『莊子』山木）～道家思想の原典資料読解演習を『莊子』山木篇から選択しておこなう。 第5回：諸子百家における寓話寓言（『戦国策』）～『戦国策』を具体例として、諸子百家における寓話寓言について学ぶ。 第6回：諸子百家における寓話寓言（『韓非子』）～『韓非子』を具体例として、諸子百家における寓話寓言について学ぶ。 第7回：諸子百家における寓話寓言（『呂氏春秋』）～『呂氏春秋』を具体例として、諸子百家における寓話寓言について学ぶ。 第8回：道家思想における寓話寓言（『莊子』）～『莊子』を具体例として、道家思想における寓話寓言について学ぶ。			

第9回：道家思想における寓話寓言（『列子』朝三暮四）～『列子』朝三暮四を具体例として、道家思想における寓話寓言について学ぶ。

第10回：道家思想における寓話寓言（『列子』多岐亡羊）～『列子』多岐亡羊を具体例として、道家思想における寓話寓言について学ぶ。

第11回：道家思想の原典資料読解（『列子』天瑞）～道家思想の原典資料読解演習を『列子』天瑞篇から選択しておこなう。

第12回：道家思想の原典資料読解（『列子』黄帝）～道家思想の原典資料読解演習を『列子』黄帝篇から選択しておこなう。

第13回：道家思想の原典資料読解（『列子』湯問）～道家思想の原典資料読解演習を『列子』湯問篇から選択しておこなう。

第14回：道家思想の原典資料読解（『列子』仲尼）～道家思想の原典資料読解演習を『列子』仲尼篇から選択しておこなう。

第15回：まとめと課題提示

テキスト

鮑善淳『漢文をどう読みこなすか』（日中出版）、また随時原文テキストを選定して使用。

参考書・参考資料等

小川環樹『漢文入門』（岩波書店）、『王力古漢語字典』（中華書局）

学生に対する評価

発表時のレジュメと期末の提出レポートにより評価する。

授業科目名： 日本社会文化史特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小松賢司 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（ 小学校・中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 「日本社会文化史特論」は、日本史上の諸問題について、文献の講読を通じて、社会・文化の側面から理解を深めることを目的とする授業である。受講者には、研究史を批判的に評価する術の習得、研究の内容に対する理解の深化と共に、研究の方法論の理解を求める。			
授業の概要 本授業では、主に近世の在地社会と文化に関するテキストを取り上げる。受講者には、あらかじめ指定した先行研究のテキストを毎回読んできてもらい、その内容と見出された論点を報告してもらったうえで、授業のなかで議論を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：文献の講読と討論『日本の近代化と民衆思想』第1章「日本の近代化と民衆思想」 第3回：文献の講読と討論『日本の近代化と民衆思想』第2章「民衆道徳とイデオロギー編成」 第4回：文献の講読と討論『日本の近代化と民衆思想』第3章「「世直し」の論理の系譜」 第5回：文献の講読と討論『日本の近代化と民衆思想』第4章「民衆蜂起の世界像」 第6回：文献の講読と討論『日本の近代化と民衆思想』第5章「民衆蜂起の意識過程」 第7回：文献の講読と討論『日本の近代化と民衆思想』まとめ 第8回：文献の講読と討論『岩波講座日本歴史』第10巻収録「兵農分離と石高制」 第9回：文献の講読と討論『岩波講座日本歴史』第11巻収録「近世の村」 第10回：文献の講読と討論『岩波講座日本歴史』第11巻収録「近世前期の社会と文化」 第11回：文献の講読と討論『岩波講座日本歴史』第12巻収録「飢饉と災害」 第12回：文献の講読と討論『岩波講座日本歴史』第13巻収録「百姓一揆と都市騒擾」 第13回：文献の講読と討論『岩波講座日本歴史』第14巻収録「大庄屋と組合村」 第14回：文献の講読と討論『岩波講座日本歴史』第15巻収録「近世後期の民衆運動」 第15回：文献の講読と討論『岩波講座日本歴史』まとめ			
テキスト 安丸良夫『日本の近代化と民衆思想』（平凡社ライブラリー、平凡社1999年） 『岩波講座日本歴史』第10巻～第14巻（岩波書店、2014～2015年）			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

報告の内容と、授業における議論への参加態度によって評価する

授業科目名： 日本社会文化史特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小松賢司 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（ 小学校・中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 「日本社会文化史特論」は、日本史上の諸問題について、文献の講読を通じて、社会・文化の側面から理解を深めることを目的とする授業である。受講者には、研究史を批判的に評価する術の習得、研究の内容に対する理解の深化と共に、研究の方法論の理解を求める。			
授業の概要 本授業では、主に近世の都市社会と文化に関するテキストを取り上げる。受講者には、あらかじめ指定した先行研究のテキストを毎回読んできてもらい、その内容と見出された論点を報告してもらったうえで、授業のなかで議論を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：文献の講読と討論『都市—江戸に生きる』第1章「城下町・江戸」 第3回：文献の講読と討論『都市—江戸に生きる』第2章「南伝馬町」 第4回：文献の講読と討論『都市—江戸に生きる』第3章「浅草寺」 第5回：文献の講読と討論『都市—江戸に生きる』第4章「品川」 第6回：文献の講読と討論『都市—江戸に生きる』第5章「舟運と薪」 第7回：文献の講読と討論『都市—江戸に生きる』まとめ 第8回：文献の講読と討論『岩波講座日本歴史』第10巻収録「近世都市の成立」 第9回：文献の講読と討論『岩波講座日本歴史』第10巻収録「近世の身分制」 第10回：文献の講読と討論『岩波講座日本歴史』第11巻収録「近世都市社会の展開」 第11回：文献の講読と討論『岩波講座日本歴史』第12巻収録「全国市場の展開」 第12回：文献の講読と討論『岩波講座日本歴史』第13巻収録「教育社会の成立」 第13回：文献の講読と討論『岩波講座日本歴史』第13巻収録「芸能と文化」 第14回：文献の講読と討論『岩波講座日本歴史』第14巻収録「流通構造の転換」 第15回：文献の講読と討論『岩波講座日本歴史』まとめ			
テキスト 吉田伸之『都市—江戸に生きる』（岩波新書、岩波書店2015年） 『岩波講座日本歴史』第10巻～第14巻（岩波書店、2014～2015年）			
参考書・参考資料等 なし			

学生に対する評価

報告の内容と、授業における議論への参加態度によって評価する

授業科目名：日本地域文化史特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小松賢司 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
歴史学は、過去の事象を史料を用いて解明し、論理的に説明する学問であり、そのためには、史料の読解能力、特に正確に解釈する能力が不可欠である。「日本地域文化史特論演習」の授業では、近世史料の輪読を行い、上記の能力を養うとともに、地域の具体的な事例から歴史の全体像に迫る方法を体得することを目的とする。受講者には、史料の読解・解釈能力の習得と共に、地域の視点から歴史を描く方法論の理解を求める。			
授業の概要			
本授業では郡山町（現福島県郡山市の中心市街地）で作成された「御用留」を取り上げる。受講者には、課題史料のあらかじめ指定した範囲を毎回読んできてもらい、その内容と見出された論点を報告してもらったうえで、授業のなかで議論を行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：郡山町今泉家文書と同家の「御用留」の概要について			
第3回：史料輪読 「御用留」文政2年8月			
第4回：史料輪読 「御用留」文政2年9月			
第5回：史料輪読 「御用留」文政2年10月			
第6回：史料輪読 「御用留」文政2年11月			
第7回：史料輪読 「御用留」文政2年12月			
第8回：史料輪読 「御用留」文政3年1月			
第9回：史料輪読 「御用留」文政3年2月			
第10回：史料輪読 「御用留」文政3年3月			
第11回：史料輪読 「御用留」文政3年4月			
第12回：史料輪読 「御用留」文政3年5月			
第13回：史料輪読 「御用留」文政3年6月			
第14回：史料輪読 「御用留」文政3年7月			
第15回：史料輪読 「御用留」まとめ			
テキスト			
『郡山市歴史資料館史料叢書第4集 二本松藩郡山村名主今泉家御用留帳』（郡山市発行、2018年）			

参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
報告の内容と、授業における議論への参加態度によって評価する

授業科目名：日本地域文化史特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小松賢司 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（ 小学校・中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
歴史学は、過去の事象を史料を用いて解明し、論理的に説明する学問であり、そのためには、史料の読解能力、特に正確に解釈する能力が不可欠である。「日本地域文化史特論演習」の授業では、近世史料の輪読を行い、上記の能力を養うとともに、地域の具体的な事例から歴史の全体像に迫る方法を体得することを目的とする。受講者には、史料の読解・解釈能力の習得と共に、地域の視点から歴史を描く方法論の理解を求める。			
授業の概要			
本授業では守山中町（現福島県郡山市守山、守山藩陣屋元村）で作成された「年中日記留」を取り上げる。受講者には、課題史料のあらかじめ指定した範囲を毎回読んできてもらい、その内容と見出された論点を報告してもらったうえで、授業のなかで議論を行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：守山中町榎村家文書と同家の「年中日記留」の概要について			
第3回：史料輪読 「年中日記留」天保3年1月			
第4回：史料輪読 「年中日記留」天保3年2月			
第5回：史料輪読 「年中日記留」天保3年3月			
第6回：史料輪読 「年中日記留」天保3年4月			
第7回：史料輪読 「年中日記留」天保3年5月			
第8回：史料輪読 「年中日記留」天保3年6月			
第9回：史料輪読 「年中日記留」天保3年7月			
第10回：史料輪読 「年中日記留」天保3年8月			
第11回：史料輪読 「年中日記留」天保3年9月			
第12回：史料輪読 「年中日記留」天保3年10月			
第13回：史料輪読 「年中日記留」天保3年11月			
第14回：史料輪読 「年中日記留」天保3年12月			
第15回：史料輪読 「年中日記留」まとめ			
テキスト			
『守山中町榎村家文書 天保三年年中日記留』（郡山市歴史資料館発行、1999年）			
参考書・参考資料等			

なし
学生に対する評価 報告の内容と、授業における議論への参加態度によって評価する

授業科目名： ヨーロッパ社会文化史 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鍵和田賢
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
ヨーロッパ前近代の社会・文化について講義する。ヨーロッパ前近代の社会・文化に関わる資料を主体的・批判的に読解する活動を通じて、ヨーロッパ社会に対するより深い理解を得るとともに、日本社会を相対化し反省的にとらえ直す視点を得ることを目標とする。			
授業の概要			
ヨーロッパ前近代の社会・文化に関わる主要なトピックについて、主要な研究成果および一次史料を取り上げて、読解と解説、議論を通じて講義する。今回は「宗教と社会」をテーマとして取り上げ、前近代社会において、宗教がいかなる役割を果たしていたのかを考える。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：古代における宗教と社会（松本宣郎『キリスト教徒が生きたローマ帝国』「序 ローマ社会史から見た初期キリスト教」）			
第3回：古代における宗教と社会（松本宣郎『キリスト教徒が生きたローマ帝国』「第一章 初期キリスト教論」）			
第4回：古代における宗教と社会（松本宣郎『キリスト教徒が生きたローマ帝国』「第二章 都市の民衆と初期キリスト教徒」）			
第5回：古代における宗教と社会（史料読解）			
第6回：中世における宗教と社会（R・W・サザーン『西欧中世の社会と教会』「第三章 キリスト教世界の分裂」）			
第7回：中世における宗教と社会（R・W・サザーン『西欧中世の社会と教会』「第四章 教皇権」）			
第8回：中世における宗教と社会（R・W・サザーン『西欧中世の社会と教会』「第六章 修道会」）			
第9回：中世における宗教と社会（史料読解）			
第10回：近世における宗教と社会（Benjamin J. Kaplan, <i>Divided by Faith</i> , 'chp.1: A Holy Zeal'）			
第11回：近世における宗教と社会（Benjamin J. Kaplan, <i>Divided by Faith</i> , 'chp.4: One Faith			

, One Law, One King')

第12回：近世における宗教と社会 (Benjamin J. Kaplan, *Divided by Faith*, 'chp.6: Crossing Borders')

第13回：近世における宗教と社会 (Benjamin J. Kaplan, *Divided by Faith*, 'chp.8: Sharing Churches, Sharing Power')

第14回：近世における宗教と社会 (史料読解)

第15回：全体のまとめ

テキスト

- ・松本宣郎『キリスト教徒が生きたローマ帝国』日本キリスト教団出版局、2006年。
- ・R・W・サザーン著、上條敏子訳『西欧中世の社会と教会 - 教会史から中世を読む』八坂書房、2007年。
- ・ Benjamin J. Kaplan, *Divided by Faith. Religious Conflict and the Practice of Toleration in Early Modern Europe*, Harvard University Press 2007.

参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介・配布する。

学生に対する評価

文献講読・史料読解の完成度 (80%)、ディスカッションへの貢献度 (20%) から評価する。

授業科目名： ヨーロッパ社会文化史 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鍵和田賢 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ヨーロッパ近現代の社会・文化について講義する。ヨーロッパ近現代の社会・文化に関わる資料を主体的・批判的に読解する活動を通じて、ヨーロッパ社会に対するより深い理解を得るとともに、日本社会を相対化し反省的にとらえ直す視点を得ることを目標とする。			
授業の概要 ヨーロッパ近現代の社会・文化に関わる主要なトピックについて、主要な研究成果および一次史料を取り上げて、読解と解説、議論を通じて講義する。今回は「ファシズム・ファシズム体制」を取り上げ、それが登場した社会的背景、ファシズム体制の特質、そこからいかなる教訓を学ぶべきか、などについて考察する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：ファシズム運動（山口定『ファシズム』「ファシズムとは何か」） 第3回：ファシズム運動（山口定『ファシズム』「運動としてのファシズム」） 第4回：ファシズム運動（山口定『ファシズム』「思想としてのファシズム」） 第5回：ファシズム運動（史料読解） 第6回：ファシズム体制と社会（北原敦『イタリア現代史研究』「第二章 ファシズムの成立」） 第7回：ファシズム体制と社会（北原敦『イタリア現代史研究』「第五章 ファシズム時代の大衆の組織化」） 第8回：ファシズム体制と社会（北原敦『イタリア現代史研究』「第六章 ファシズム体制下の国家・社会編成」） 第9回：ファシズム体制と社会（史料読解） 第10回：ファシズムと文化（ジョージ・L・モッセ『大衆の国民化』「第一章 新しい政治」） 第11回：ファシズムと文化（ジョージ・L・モッセ『大衆の国民化』「第二章 政治の美学」） 第12回：ファシズムと文化（史料読解） 第13回：ファシズム体制下の生活（山本秀行『ナチズムの記憶』「第二章 ヒトラーが政権についたとき」） 第14回：ファシズム体制下の社会（山本秀行『ナチズムの記憶』「第四章 ユダヤ人、戦争、外			

国人労働者」)

第15回：ファシズム体制下の社会（史料読解）

テキスト

- ・山口定『ファシズム』岩波書店、2006年。
- ・北原敦『イタリア現代史研究』岩波書店、2002年。
- ・ジョージ・L・モッセ著、佐藤卓己、佐藤八寿子訳『大衆の国民化—ナチズムに至る政治シンボルと大衆文化』筑摩書房、2021年。
- ・山本秀行『ナチズムの記憶 - 日常生活からみた第三帝国』山川出版社、1995年。

参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介・配布する。

学生に対する評価

文献講読・史料読解の完成度（80％）、ディスカッションへの貢献度（20％）から評価する。

授業科目名： ヨーロッパ地域文化史 特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鍵和田賢
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
ヨーロッパ前近代における人々の日常生活のあり方について講義する。ヨーロッパ前近代の地域社会・生活文化に関わる資史料を主体的・批判的に読解する活動を通じて、ヨーロッパ社会に対するより深い理解を得るとともに、日本における地域社会観・生活観を相対化し反省的にとらえ直す視点を得ることを目標とする。			
授業の概要			
ヨーロッパ前近代の地域社会・生活文化に関わる主要なトピックについて、主要な研究成果および一次史料を取り上げて、読解と解説、議論を通じて講義する。今回は「都市・農村における生活文化」を取り上げ、都市、農村における生活文化がどのように形成され、いかなる点が現代社会と異なるのか、などについて考察する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：古代都市の生活（本村凌二『古代ポンペイの日常生活』「第二章 友に、公職を！」）			
第3回：古代都市の生活（本村凌二『古代ポンペイの日常生活』「第四章 民衆は見世物を熱望する」）			
第4回：古代都市の生活（史料読解）			
第5回：中世都市・農村の生活①（ジャック・ルゴフ「中世における教会の時間と商人の時間」）			
第6回：中世都市・農村の生活（エマニュエル・ル・ロワ・ラデュリ『モンタイユ』「第一章 環境と権力」）			
第7回：中世都市・農村の生活（エマニュエル・ル・ロワ・ラデュリ『モンタイユ』「第六章 ビレネー牧羊の民俗」）			
第8回：中世都市・農村の生活（エマニュエル・ル・ロワ・ラデュリ『モンタイユ』「第十三章 子供の時代。人生の諸時期」）			
第9回：中世都市・農村の生活（エマニュエル・ル・ロワ・ラデュリ『モンタイユ』「第十六章 社会結合の構造 - 女・男・若者 - 」）			
第10回：中世都市・農村の生活（史料読解）			
第11回：近世都市・農村の生活（ナタリー・Z・デーヴィス『愚者の王国 異端の都市』「リ			

ヨンにおけるストライキと救済」)

第12回：近世都市・農村の生活 (ナタリー・Z・デーヴィス『愚者の王国 異端の都市』「無軌道 の存在理由」)

第13回：近世都市・農村の生活 (近藤和彦『民のモラル』「第一章 異文化としての歴史」)

第14回：近世都市・農村の生活 (近藤和彦『民のモラル』「第三章 法の代執行 - 食糧一揆の世界」)

第15回：近世都市・農村の生活 (史料読解)

テキスト

・本村凌二『古代ポンペイの日常生活』講談社、2010年。

・E・ル・ロワ・ラデュリ、A・ビュルギエール監修、浜名優美監訳『叢書『アナール1929-2010』歴史の対象と方法』(1958-1968)藤原書店、2013年。

・エマニュエル・ル・ロワ・ラデュリ著、井上幸治、渡邊昌美、波木居純一訳『モンタイユ—ピレネーの村1924-1324』(全2巻)刀水書房、1990年。

・ナタリー・Z・デーヴィス著、成瀬駒男、宮下志郎、高橋由美子訳『愚者の王国 異端の都市 - 初期近代フランスの民衆文化』平凡社、1987年。

・近藤和彦『民のモラル—ホーガースと18世紀イギリス』筑摩書房、2014年。

参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介・配布する。

学生に対する評価

文献講読・史料読解の完成度(80%)、ディスカッションへの貢献度(20%)から評価する。

授業科目名： ヨーロッパ地域文化史 特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鍵和田賢
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
ヨーロッパ近現代における人々の日常生活のあり方について講義する。ヨーロッパ近現代の地域社会・生活文化に関わる資史料を主体的・批判的に読解する活動を通じて、ヨーロッパ社会に対するより深い理解を得るとともに、日本を含む世界全体の近代化に対するより深い理解を得ることを目標とする。			
授業の概要			
ヨーロッパ近現代の地域社会・生活文化に関わる主要なトピックについて、主要な研究成果および一次史料を取り上げて、読解と解説、議論を通じて講義する。今回は16世紀以降のグローバル化を取り上げ、それが世界各地の地域社会・生活文化にいかなる影響を及ぼしたのか、について考察する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：生態系の変容（アルフレッド・W・クロスビー『ヨーロッパの帝国主義』「第七章 雑草」）			
第3回：生態系の変容（アルフレッド・W・クロスビー『ヨーロッパの帝国主義』「第八章 動物」）			
第4回：生態系の変容（アルフレッド・W・クロスビー『ヨーロッパの帝国主義』「第九章 疫病」）			
第5回：生態系の変容（史料読解）			
第6回：生活文化の変容（シドニー・W・ミンツ『甘さと権力』「第一章 食物・社会性・砂糖」）			
第7回：生活文化の変容（シドニー・W・ミンツ『甘さと権力』「第二章 生産」）			
第8回：生活文化の変容（シドニー・W・ミンツ『甘さと権力』「第三章 消費」）			
第9回：生活文化の変容（史料読解）			
第10回：地域社会の変容（網野徹哉『インディオ社会史』「第2章 植民地時代を生きたヤナコナたち」）			
第11回：地域社会の変容（網野徹哉『インディオ社会史』「第7章 異文化の統合と抵抗 - 十七世			

紀ペルーにおける偶像崇拜根絶巡察を通じて」)

第12回：地域社会の変容 (史料読解)

第13回：地域経済の変容 (K・ポメラント『大分岐』「第2章 ヨーロッパとアジアにおける市場経済」)

第14回：地域経済の変容 (K・ポメラント『大分岐』「第3章 奢侈品消費と資本主義の勃興」)

第15回：地域経済の変容 (史料読解)

テキスト

・アルフレッド・W・クロスビー著、佐々木昭夫訳『ヨーロッパの帝国主義 - 生態学的視点から歴史を見る』筑摩書房、2017年。

・シドニー・W・ミンツ著、川北稔、和田光弘訳『甘さと権力 - 砂糖が語る近代史』筑摩書房、2021年。

・網野徹哉『インディオ社会史 - アンデス植民地時代を生きた人々』みすず書房、2017年。

・K・ポメラント著、川北稔監訳『大分岐 - 中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成』名古屋大学出版会、2015年。

参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介・配布する。

学生に対する評価

文献講読・史料読解の完成度(80%)、ディスカッションへの貢献度(20%)から評価する。

授業科目名： 自然災害特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中村洋介 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 地震災害と火山災害に関する最先端の文献の理解			
授業の概要 1．地震発生と火山噴火の関係、2．地震ならびに火山噴火のメカニズム、3．地震/火山噴火観測の概要、4．これまでの主な地震災害・火山災害の歴史、5．災害対策の現状に関して、最新の論文や文献を輪読しながら受講生と議論をしつつ講義を進めていく。			
授業計画 第1回：プレートテクトニクスとプリュームテクトニクス 第2回：日本列島周辺の地殻構造 第3回：地震の発生メカニズム 第4回：火山の噴火メカニズム 第5回：地震発生と火山噴火の関係 第6回：日本の地震観測の概要と予知の現状 第7回：日本の火山噴火観測の概要と予知の現状 第8回：これまでの日本の主な地震の災害の歴史 第9回：これまでの世界の主な地震の災害の歴史 第10回：これまでの日本の主な火山災害の歴史 第11回：これまでの世界の主な火山災害の歴史 第12回：日本の地震災害対策 第13回：世界の地震災害対策 第14回：日本の火山噴火対策 第15回：講義の振り返りとまとめ			
テキスト 独自に作成した資料を配布します			
参考書・参考資料等 木庭元晴 編著、『地震と火山のメカニズム』、古今書院			
学生に対する評価 論文や文献の教員への内容紹介やレポートで評価します			

授業科目名： 自然災害特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中村洋介 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 風水害と土砂災害に関する最先端の文献の理解			
授業の概要 1．日本周辺の気圧配置と気候、2．地球温暖化に伴う風水害被害拡大の概要、3．気象観測の概要と予報の現状、4．これまでの主な豪雨災害・土砂災害の歴史、5．災害対策の現状に関して、最新の論文や専門書等を輪読しながら受講生と議論をしつつ講義を進めていく。			
授業計画 第1回：日本周辺の気圧配置と気候 第2回：近年の地球の気温の上昇とその影響について 第3回：近年の地球の海水面の上昇とその影響について 第4回：気象観測の概要と予報の現状 第5回：これまでの日本の主な豪雨災害の歴史1（台風） 第6回：これまでの日本の主な豪雨災害の歴史2（梅雨・秋雨） 第7回：これまでの日本の主な豪雪災害の歴史 第8回：これまでの日本の主な土砂災害の歴史1（地すべり） 第9回：これまでの日本の主な土砂災害の歴史2（がけ崩れ） 第10回：これまでの日本の主な土砂災害の歴史3（土石流） 第11回：これまでの日本の主な津波災害の歴史 第12回：日本の風水害対策 第13回：日本の土砂災害対策 第14回：日本で発生した主な複合災害 第15回：講義の振り返りとまとめ			
テキスト 独自に作成した資料を配布します			
参考書・参考資料等 日本地理学会災害対応委員会編、『温暖化と自然災害』、古今書院			
学生に対する評価 論文や文献の教員への内容紹介やレポートで評価します			

授業科目名： 環境地理学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中村洋介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 地域防災に関わる土地環境要素（活断層・火山）について、その調査法を習得する			
授業の概要 本講義では福島盆地断層帯における活断層地形や吾妻火山について、室内での空中写真判読で地形分類を行った後に実際に現地に行って測量や土地利用などに関する野外調査を行う。さらに調査結果をもとに報告書を作成し、自然地理学における一連の野外調査法を学ぶ。			
授業計画 第1回：地形図の読み方について 第2回：空中写真判読の原理と立体視の実習 第3回：空中写真による様々な地形の判読 第4回：地形分類図の原理 第5回：福島盆地断層帯の概要について 第6回：福島盆地断層帯の地形判読 第7回：地形断面測量の原理と測量実習 第8回：福島盆地断層帯における現地調査 第9回：福島盆地断層帯の調査成果のまとめ 第10回：吾妻火山の概要について 第11回：吾妻火山の地形判読 第12回：火山地形分類図の作成 第13回：吾妻火山における現地調査 第14回：吾妻火山の調査成果のまとめ 第15回：講義の振り返りとまとめ			
テキスト 独自に作成した資料を配布します			
参考書・参考資料等 渡辺満久、『活断層地形判読』、古今書院			
学生に対する評価 論文や文献の教員への内容紹介やレポートで評価します			

授業科目名： 環境地理学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中村洋介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
地域防災に関わる土地環境要素（地すべり・軟弱地盤）について、その調査法を習得する			
授業の概要			
本講義では福島県内における地すべり地形や軟弱地盤を実際に把握するために、室内での空中写真判読で地形分類を行った後に実際に現地に行って測量や土地利用などに関する野外調査を行う。さらに調査結果をもとに報告書を作成し、自然地理学における野外調査法を学ぶ。			
授業計画			
第 1 回：日本の地質と地すべり地形の分布の特徴について（西日本）			
第 2 回：日本の地質と地すべり地形の分布の特徴について（東日本）			
第 3 回：日本の地すべり災害の特徴について			
第 4 回：地すべり地形分類図について			
第 5 回：福島県の地質と地すべり地形の分布について			
第 6 回：空中写真による様々な地すべり地形の判読			
第 7 回：福島県内における地すべりの現地調査			
第 8 回：福島県内地すべり調査成果のまとめ			
第 9 回：日本の軟弱地盤の分布について			
第 1 0 回：軟弱地盤で災害が起きた事例（東日本大震災等）			
第 1 1 回：福島県における軟弱地盤の分布			
第 1 2 回：軟弱地盤地域の地形分類図の作成			
第 1 3 回：福島県内における軟弱地盤の現地調査			
第 1 4 回：福島県内における軟弱地盤の現地調査のまとめ			
第 1 5 回：講義の振り返りとまとめ			
テキスト			
独自に作成した資料を配布します			
参考書・参考資料等			
日本応用地質学会編、『応用地形セミナー--空中写真判読演習』、古今書院			
学生に対する評価 現地実習やレポートで評価します			

授業科目名：地域と文化 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 初澤 敏生 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業は日本の伝統的な地域文化に関してその地域的存立基盤について理解することをテーマとする。 本授業は講義と演習を組み合わせた形で実施する。単位認定基準は以下の通りである。 講義を基に地域と文化との関係について理解することができる。 課題に対して適切な文献を選択し、読解、理解できる。 課題に対して文献紹介を行ったり、自らの考えを発表したりし、議論をすることができる。			
授業の概要			
本授業では、人文地理学・文化地理学的な観点から、主として地域における文化の存立基盤について検討を加える。具体的には、文化に関する概念や人間の文化習得についての理論的な検討と既存の研究の批判的検討の後に、「まつり」と「伝統工芸」を取り上げ検討を深める。まつりは地域社会と密接な関係を持って存在し、地域によって支えられるとともに、地域を支える役割も果たしている。本授業では地域の社会構造に注目しながら、その点を構造的にとらえていきたい。一方、伝統工芸はその地域の文化的な存在であるとともに経済的な存在でもある。ここでは主に製作に焦点を当て、その文化意識が産業にどのような影響を与えるのかを考察する。それにあたっては、文化的側面に注目しつつも、経済的側面にも視野を広げ、その存続基盤について検討する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 人文地理学における文化とその課題 第2回：人文地理学における文化概念及び人間の文化習得に関する理論的検討 第3回：人文地理学における地域文化に関する諸研究の紹介とその検討 第4回：地域社会に関する理論的検討 第5回：地域社会を支える諸組織-歴史的検討を踏まえて 第6回：「まつり」の諸相-まつりとは何か？- 第7回：「まつり」と地域社会組織との相互関係-事例研究(1)二本松ちょうちん祭りを例に- 第8回：「まつり」と地域社会組織との相互関係-事例研究(2)新庄まつりを例に- 第9回：地域づくりとしての「まつり」 第10回：伝統工芸とは何か？-その文化的、社会、経済的基盤—			

第11回：伝統工芸を支える社会意識

第12回：伝統工芸の生産構造と地域社会-事例研究-(1)-益子焼を例に-

第13回：伝統工芸の生産構造と地域社会-事例研究-(2)-備前焼を例に-

第14回：伝統工芸の生産構造と地域社会-事例研究-(3)-笠間焼を例に-

第15回：伝統工芸の存続基盤をいかにして維持するか

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

日高真吾(2021)：『継承される地域文化』臨川書店

学生に対する評価

授業中にレポート課題を課し、その総合得点から評価する。

課題の総合得点から評価する。評価基準は以下の通りである。

S:90%以上、A:80～89%、B:70～79%、C:60～69%、F:59%以下

授業科目名：地域と文化 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 初澤 敏生
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業は日本の新しい地域文化に関してその地域的存立基盤について理解することをテーマとする。 本授業は講義と演習を組み合わせた形で実施する。単位認定基準は以下の通りである。 講義を基に地域と文化との関係について理解することができる。 課題に対して適切な文献を選択し、読解、理解できる。 課題に対して文献紹介を行ったり、自らの考えを发表或し、議論をすることができる。			
授業の概要			
本授業では、人文地理学・文化地理学的な観点から主として地域における新しい文化的事象について検討を加える。具体的には、地域の食文化（伝統的食文化だけではなく、B級グルメなどの現代的な食文化も含む）や現代的な需要に対応した伝統産業（繊維産業を中心として）、それらを活用した地域振興など、文化を活用した地域づくり・まちづくりなど、現代文化を中心に、現代の地域において文化が果たしている役割について検討する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 人文地理学における文化とその課題			
第2回：人文地理学における伝統文化研究と現代文化研究			
第3回：服飾行動の文化論 - 衣文化の存立基盤とその変化 -			
第4回：ファッションの商業システム			
第5回：ファッションの生産システム			
第6回：ファッションデザインの産業論と文化論			
第7回：伝統的食文化の形成とその変化			
第8回：新しい食文化の創造 - B級グルメを例に -			
第9回：風土文化産業の存立基盤			
第10回：地域文化を活用したまちづくり			
第11回：地域文化をどのように「創造」していくか			
第12回：文化を活用した地域振興(1) - 会津若松市を例に -			
第13回：文化を活用した地域振興(2) - 十和田市を例に -			
第14回：文化を活用した地域振興(3) - 江差町を例に -			

第15回：地域文化の存続と変容そして創造
テキスト
指定しない。
参考書・参考資料等
井口貢(2005)：『まちづくり・観光と地域文化の創造』学文社
学生に対する評価
授業中にレポート課題を課し、その総合得点から評価する。 課題の総合得点から評価する。評価基準は以下の通りである。 S:90%以上、A:80～89%、B:70～79%、C:60～69%、F:59%以下

授業科目名：地域復興・ 振興特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 初澤 敏生
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業は主に東日本大震災の被災地を対象として、地域の復興と振興に関して主に経済とまちづくりの側面から検討を深める。			
本授業は講義と演習を組み合わせた形で実施する。単位認定基準は以下の通りである。			
講義を基に地域の復興。振興のありかたについて理解することができる。			
課題に対して適切な文献を選択し、読解、理解できる。			
課題に対して文献紹介を行ったり、自らの考えを発表したりし、議論をすることができる。			
授業の概要			
本授業は、人文地理学における近年の研究成果に基づく課題分析と、それを基にした院生によるケーススタディから成る。まず授業前半部において主に経済的側面からの地域振興の現状と課題について考察を加える。ここでは、グローバルとローカルをつなげる視点を常に持ち、具体的な事例の検討を通して検討を深める。授業中盤においては、これらに関する具体的な事例も挙げながら、研究視点を深化させる。これを受け、院生が調べた事例を紹介するとともに、その実践について批判的に検討し、討議を深める。これを通して院生の地域振興とまちづくりに関する考察を深める。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 人文地理学における地域振興をめぐる諸課題			
第2回：人文地理学における復興に関する諸研究とその検討			
第3回：東日本大震災がもたらした被害に関する地理学的検討(1) - 地震・津波を中心に -			
第4回：東日本大震災がもたらした被害に関する地理学的検討(2) - 原発事故を中心に -			
第5回：放射性物質による汚染の地域差と農業復興			
第6回：福島県における東日本大震災後の水産業復興			
第7回：福島県における製造業の生産構造とその課題			
第8回：福島県における東日本大震災が製造業に与えた影響			
第9回：福島県における製造業復興の現状と課題			
第10回：福島県における建設業の特徴と課題			
第11回：福島県における東日本大震災後の建設業の変容			

第12回：福島県における小売・サービス業の現状と課題

第13回：福島県の被災地における小売・サービス業の再興

第14回：産業復興とまちづくり

第15回：被災地の復興をどのように進めるか

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

山川充夫ほか編（2018）『福島復興学』八朔社

山川充夫ほか編（2021）『福島復興学II』八朔社

学生に対する評価

授業中にレポート課題を課し、その総合得点から評価する。

課題の総合得点から評価する。評価基準は以下の通りである。

S:90%以上、A:80～89%、B:70～79%、C:60～69%、F:59%以下

授業科目名：地域復興・振興特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 初澤 敏生
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業は主に東日本大震災の被災地を対象として、地域の復興と振興に関して主に地域づくりの側面から検討を深める。			
本授業は講義と演習を組み合わせた形で実施する。単位認定基準は以下の通りである。			
講義を基に地域の復興。振興のありかたについて理解することができる。			
課題に対して適切な文献を選択し、読解、理解できる。			
課題に対して文献紹介を行ったり、自らの考えを発表したりし、議論をすることができる。			
授業の概要			
本授業は、人文地理学における近年の研究成果に基づく課題分析と、それを基にした院生によるケーススタディから成る。まず授業前半部においては主に地域づくりについて取りあげる。ここでは、 で取り上げたような経済的な視点の他、社会・文化的視点、それを支える市民の視点なども必要になる。授業中盤においては、これらに関する具体的事例も挙げながら、地域づくりに関する視点を深化させる。これを受け、院生が調べた事例を紹介するとともに、その実践について批判的に検討し、討議を深める。これを通して院生の地域振興とまちづくりに関する考察を深める。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 人文地理学における地域振興をめぐる諸課題			
第2回：人文地理学における被災地域に関する諸研究とその検討			
第3回：東日本大震災時の避難行動			
第4回：東日本大震災時の避難所・二次避難所の特徴と課題			
第5回：東日本大震災時の避難者への提供情報の特徴と課題			
第6回：東日本大震災後の避難者の帰還意識の変化			
第7回：東日本大震災後の避難者の社会的特性の変化			
第8回：東日本大震災後の被災地域復興計画			
第9回：東日本大震災後の被災地の都市計画			
第10回：東日本大震災後の被災地の教育の特徴と課題			
第11回：東日本大震災後の防災教育			

第12回：熊本地震の被災状況

第13回：熊本地震からの復興とその課題

第14回：西日本豪雨とそれからの復興

第15回：被災地復興のあり方

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

山川充夫ほか編（2018）『福島復興学』八朔社

山川充夫ほか編（2021）『福島復興学II』八朔社

学生に対する評価

授業中にレポート課題を課し、その総合得点から評価する。

課題の総合得点から評価する。評価基準は以下の通りである。

S:90%以上、A:80～89%、B:70～79%、C:60～69%、F:59%以下

授業科目名：観光産業特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 初澤 敏生
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業は主に経済学的な観点から観光産業や観光施設、観光政策などに関する検討を深める。 本授業は講義と演習を組み合わせた形で実施する。単位認定基準は以下の通りである。 講義を基に現代の観光産業について理解することができる。 課題に対して適切な文献を選択し、読解、理解できる。 課題に対して文献紹介を行ったり、自らの考えを発表したりし、議論をすることができる。			
授業の概要			
本授業では、経済学的な観点からさまざまな観光産業や観光施設、観光政策などを取り上げ、分析を加える。特に東日本大震災後のさまざまな観光復興政策やCOVID-19に対応した振興策が地域の観光産業にどのような影響を与えたか、などについて検討する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 経済学における観光業をめぐる諸課題			
第2回：経済学における観光業に関する諸研究とその検討			
第3回：観光経済学が対象とする諸事象			
第4回：観光とは何か - その歴史的変遷			
第5回：観光地の形成			
第6回：温泉観光地の形成とその整備			
第7回：温泉旅館の経営特性			
第8回：様々な観光施設とそれを支える産業			
第9回：ケーススタディ - 道の駅の分析			
第10回：日本における観光政策の推移			
第11回：JRディスティネーションキャンペーンの経済効果			
第12回：スポーツツーリズムの振興			
第13回：スポーツ産業の育成と地域振興			
第14回：被災地におけるホープツーリズムの現状			
第15回：観光が地域に与える経済的影響			

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

島川崇(2020)：『新しい時代の観光学概論』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

授業中にレポート課題を課し、その総合得点から評価する。

課題の総合得点から評価する。評価基準は以下の通りである。

S:90%以上、A:80～89%、B:70～79%、C:60～69%、F:59%以下

授業科目名：観光産業特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 初澤 敏生
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業は主に経済学的な観点から教育旅行を事例に検討を深める。			
本授業は講義と演習を組み合わせた形で実施する。単位認定基準は以下の通りである。			
講義を基に現代の観光産業について理解することができる。			
課題に対して適切な文献を選択し、読解、理解できる。			
課題に対して文献紹介を行ったり、自らの考えを発表したりし、議論をすることができる。			
授業の概要			
本授業では、経済学的な観点から、主に修学旅行を中心とする教育旅行を対象として、分析を加える。修学旅行に関する目的意識の変化が旅行先の選択に与える影響や東日本大震災後の被災地を対象とした修学旅行の変化、COVID-19が修学旅行の地域構造に与えた影響などを取り上げて分析を加える。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 経済学における観光業をめぐる諸課題			
第2回：経済学における観光業に関する諸研究とその検討			
第3回：教育旅行の経済的分析の枠組み			
第4回：教育旅行の歴史的変容			
第5回：発地型旅行と着地型旅行			
第6回：ケーススタディ - 飯田市のグリーンツーリズム			
第7回：ケーススタディ - 札幌市立中学校の修学旅行先選択			
第8回：東日本大震災と教育旅行の変容			
第9回：ケーススタディ - 福島県磐梯地域における教育旅行の変化			
第10回：COVID-19の流行が修学旅行に与えた影響			
第11回：修学旅行圏域の変化			
第12回：ケーススタディ - 札幌市立中学校の修学旅行の変化			
第13回：ケーススタディ - 福島県を着地とする修学旅行の変化			
第14回：修学旅行に関する経済学的な分析			
第15回：教育旅行が地域経済に与える影響			

テキスト 指定しない。
参考書・参考資料等 島川崇(2020)：『新しい時代の観光学概論』ミネルヴァ書房
学生に対する評価 授業中にレポート課題を課し、その総合得点から評価する。 課題の総合得点から評価する。評価基準は以下の通りである。 S:90%以上、A:80～89%、B:70～79%、C:60～69%、F:59%以下

授業科目名：地域経済特 論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 初澤 敏生
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及 び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 本授業は主に経済学的な観点から東日本大震災後の第一次産業及び第三次産業などに関する地域経済 的な検討を深める。 本授業は講義と演習を組み合わせた形で実施する。単位認定基準は以下の通りである。 講義を基に現代の観光産業について理解することができる。 課題に対して適切な文献を選択し、読解、理解できる。 課題に対して文献紹介を行ったり、自らの考えを発表したりし、議論をすることができる。			
授業の概要 本授業では、経済学的な観点から地域経済の研究手法をとらえた上で、主に福島県の東日本大 震災後の第一次産業と第三次産業を取り上げて地域の中での産業の位置づけや特性を演習形式 で学修する。学修にあたっては、論文購読を行った上で、各種の統計資料を用いて地域経済分 析を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 経済学における地域経済をめぐる諸課題 第2回：経済学における地域経済に関する諸研究とその検討 第3回：地域経済研究の資料と方法 第4回：東日本大震災前の福島県農業の特徴 第5回：東日本大震災にともなう被害と風評被害 第6回：東日本大震災後の新しい農業とブランド化 第7回：東日本大震災にともなう福島県における徳用林産物生産の変化 第8回：東日本大震災前の福島県水産業の特徴 第9回：東日本大震災にともなう被害と風評被害 第10回：東日本大震災後の新しい水産業とブランド化 第11回：東日本大震災と福島県商業の変化 第12回：COVID-19の流行と福島県商業の変化 第13回：COVID-19の流行とサービス業の変化 第14回：COVID-19の流行と宿泊業の変化			

第15回：福島県の地域経済の特徴

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

佐藤泰裕(2014)：『都市・地域経済学への招待状』有斐閣

学生に対する評価

授業中にレポート課題を課し、その総合得点から評価する。

課題の総合得点から評価する。評価基準は以下の通りである。

S:90%以上、A:80～89%、B:70～79%、C:60～69%、F:59%以下

授業科目名：地域経済特 論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 初澤 敏生
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及 び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 本授業は主に経済学的な観点から東日本大震災後の第二次産業に関する地域経済的な検討を深める。 本授業は講義と演習を組み合わせた形で実施する。単位認定基準は以下の通りである。 講義を基に現代の観光産業について理解することができる。 課題に対して適切な文献を選択し、読解、理解できる。 課題に対して文献紹介を行ったり、自らの考えを発表したりし、議論をすることができる。			
授業の概要 本授業では、経済学的な観点から地域経済の研究手法をとらえた上で、主に福島県の東日本大震災後の第二次産業を取り上げて地域の中での産業の位置づけや特性を演習形式で学修する。 学修にあたっては、論文購読を行った上で、各種の統計資料を用いて地域経済分析を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 経済学における地域経済をめぐる諸課題 第2回：経済学における地域経済に関する諸研究とその検討 第3回：地域経済研究の資料と方法 第4回：東日本大震災前の福島県製造業の特徴 第5回：東日本大震災にともなう被害 第6回：東日本大震災後の産業振興政策と産業復興 第7回：東日本大震災後の産業構造変化 第8回：福島県における自動車工業の構造変化 第9回：福島県における医療・航空宇宙産業の振興 第10回：福島県における電気機械工業の構造変化 第11回：福島県における金属・機械工業の構造変化 第12回：福島県における繊維工業の構造変化 第13回：福島県における食品加工業の構造変化 第14回：福島県における伝統的地場産業の構造変化 第15回：福島県の地域経済の特徴			

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

佐藤泰裕(2014)：『都市・地域経済学への招待状』有斐閣

学生に対する評価

授業中にレポート課題を課し、その総合得点から評価する。

課題の総合得点から評価する。評価基準は以下の通りである。

S:90%以上、A:80～89%、B:70～79%、C:60～69%、F:59%以下

授業科目名：コミュニティ文化特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：牧田実 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 コミュニティの文化的特質を地域構造論の視点から把握する			
授業の概要 高度成長期の工業化・都市化・大衆化、そして1980年代以降の情報化・高齢化・グローバル化の進行によって、日本の地域社会は構造的な変化を経験し、一方で解体・再編が進むとともに、他方ではコミュニティとしての再形成の動向がみられるようになった。この授業では、社会学の視点と方法により、地域社会の変容を実態に即してあつづけるとともに、その社会・文化・意識構造の今日的特質を描出する。			
授業計画 第1回：プロローグ-地域社会とコミュニティ 第2回：日本の地域社会（1）農村 第3回：日本の地域社会（2）都市 第4回：高度成長と地域社会（1）工業化と国土開発計画 第5回：高度成長と地域社会（2）都市化と都市問題 第6回：高度成長と地域社会（3）大衆化と消費社会 第7回：高度成長と地域社会（4）大衆のメンタリティ 第8回：コミュニティ概念の登場-政策と現実 第9回：地域社会の現段階（1）情報化と地域再編 第10回：地域社会の現段階（2）高齢化と家族・福祉 第11回：グローバル化の地域的位相 第12回：コミュニティと文化（1）社会構造 第13回：コミュニティと文化（2）生活構造 第14回：コミュニティと文化（3）意識構造 第15回：まとめ 定期試験 テキスト 使用しない 参考書・参考資料等			

毎時間、必要な文献・資料を配布ないし提示する
学生に対する評価
授業への参加態度（20％）、小レポート（20％）、定期試験（60％）で評価する

授業科目名：コミュニティ文化特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：牧田実 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（ 小学校・中学校 社会 及び 高等学校 公民 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 コミュニティの文化的特質を運動と主体の視点から把握する			
授業の概要 この授業では、コミュニティの担い手（＝主体）に注目し、コミュニティ文化の日本的特質を明らかにする。具体的には、地縁型組織である地域住民組織とテーマ型組織である NPO・市民活動団体の組織と活動の特徴を描出するとともに、これら 2 つの組織間の連携およびこれらと行政との協働の実態を論じ、形成途上にあるコミュニティの文化的特質を明らかにする。			
授業計画 第 1 回：プロローグ-コミュニティの担い手とは 第 2 回：主体論（1）市民社会論 第 3 回：主体論（2）住民運動論 第 4 回：主体論（3）新しい社会運動論 第 5 回：主体論（4）コミュニティ論 第 6 回：地縁型組織(1)町内会の歴史と現在 第 7 回：地縁型組織(2)町内会・自治会論 第 8 回：地縁型組織(3)町内会の比較社会学 第 9 回：地縁型組織(4)町内会と地域共同管理 第 1 0 回：テーマ型組織(1)NPO の歴史と現在 第 1 1 回：テーマ型組織(2)NPO 論 第 1 2 回：テーマ型組織(3)NPO の比較社会学 第 1 3 回：テーマ型組織(4)NPO とコミュニティ 第 1 4 回：連携・協働のまちづくり 第 1 5 回：まとめ 定期試験			
テキスト 使用しない			
参考書・参考資料等 毎時間、必要な文献・資料を配布ないし提示する			

学生に対する評価

授業への参加態度（20％）、小レポート（20％）、定期試験（60％）で評価する

授業科目名：コミュニティ形成特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：牧田実 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（ 小学校・中学校 社会 及び 高等学校 公民 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 コミュニティ政策の背景・内容・実態・成果・課題等を総括的に検証する			
授業の概要 この授業では、戦後日本における地域社会の解体・再編を踏まえつつ、これに対する再組織化の動向をコミュニティ形成の文脈で捉え、その主体的・構造的条件を社会学の視点と方法により明らかにする。具体的には、国によって提起されたコミュニティ政策の背景と展開過程、および地域での実践を捉え返し、その成果と課題を今日的視点から検証する。			
授業計画 第 1 回：プロローグ-コミュニティ政策とは 第 2 回：コミュニティ政策（1）住民運動と革新自治体 第 3 回：コミュニティ政策（2）国生審「コミュニティ報告」 第 4 回：コミュニティ政策（3）モデル地区指定と自治体政策 第 5 回：コミュニティ政策（4）新中間層と都市社会運動 第 6 回：コミュニティ政策の検証(1)東京都の事例 第 7 回：コミュニティ政策の検証(2)宮城県の事例 第 8 回：コミュニティ政策の検証(3)愛知県の事例 第 9 回：コミュニティ政策の検証(4)広島県の事例 第 1 0 回：まちづくりの基礎理論 第 1 1 回：まちづくりの事例(1)堀割の再生-福岡県柳川市 第 1 2 回：まちづくりの事例(2)保養温泉地づくりをめざして-大分県由布院温泉 第 1 3 回：まちづくりの事例(3)一村一品運動-大分県 第 1 4 回：コミュニティ政策の現在-まちづくりと地域共同管理 第 1 5 回：まとめ 定期試験			
テキスト 使用しない			
参考書・参考資料等 毎時間、必要な文献・資料を配布ないし提示する			

学生に対する評価

授業への参加態度（20％）、小レポート（20％）、定期試験（60％）で評価する

授業科目名：コミュニティ形成特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：牧田実 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び 高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 まちづくりを地域自治の実践として捉え、その制度的保障としてのコミュニティ政策のあり方を考える			
授業の概要 この授業では、今日のコミュニティ形成および住民による主体的なまちづくりの動向に注目し、国内外の事例を紹介しつつ、まちづくりの意味と可能性について論じる。また、まちづくりをコミュニティ・レベルでの地域自治の実践として捉える立場から、これを制度的に保障するコミュニティ政策のありようについて検討を加える。			
授業計画 第1回：プロローグ-まちづくり・地域自治と制度的保障 第2回：まちづくりの制度論（1）町村合併と地域自治 第3回：まちづくりの制度論（2）地域自治区制度 第4回：まちづくりの制度論（3）参加と協働の地域自治 第5回：地域自治の比較社会学（1）イギリス 第6回：地域自治の比較社会学（2）ドイツ 第7回：地域自治の比較社会学（3）韓国 第8回：地域自治の比較社会学（4）タイ 第9回：地域自治区の検証（1）上越市 第10回：地域自治区の検証（2）飯田市 第11回：地域自治区の検証（3）新城市 第12回：地域自治区の検証（4）恵那市 第13回：参加と協働のまちづくり-三春町 第14回：コミュニティ形成の今日課題 第15回：まとめ 定期試験 テキスト 使用しない 参考書・参考資料等			

毎時間、必要な文献・資料を配布ないし提示する

学生に対する評価

授業への参加態度（20％）、小レポート（20％）、定期試験（60％）で評価する

授業科目名：人間開発 の倫理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小野原雅夫
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及 び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：弱者支援にまつわる人間開発に関する倫理的探究			
到達目標：			
・弱者支援に伴うパターナリズムの危険性について理解する。			
・自由な主体を尊重することの意義と方法について理解する。			
授業の概要			
「人間開発」とは、倫理学や政治・経済学の場面においては、弱者（開発途上国なども含む）の援助・支援を意味する。援助や支援は長いあいだ不完全義務と位置づけられ、自立や自治の尊重という完全義務よりも優先度の低い課題とみなされてきたが、近年では構造的暴力の問題視とともに比重を増してきている。弱者支援の問題点と、そのあるべき姿について考えてもらう。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
本授業の目的を明確化し、各人の現状をモニタリングしてもらう。			
第2回：人間開発とは？			
弱者支援にまつわる人間開発の意味を概説していく。			
第3回：弱者とは誰か？（1） 強者と弱者			
文献を講読し、著者の主張を正確に理解する。			
第4回：弱者とは誰か？（2） 弱者支援の必要性			
文献から読み取った著者の主張に対し、的確に批判を展開していく。			
第5回：弱者支援としての人間開発			
弱者支援という意味での人間開発について、アマルティア・センの所説などを中心に概説していく。			
第6回：人間開発と人間の安全保障			
国家安全保障から人間の安全保障へと力点が変わりつつある現代政治の動向について概観する。			
第7回：人間の安全保障（1） 人権と人間の安全保障			
文献を講読し、著者の主張を正確に理解する。			

第8回：人間の安全保障（2） 人間の安全保障としての人間開発 文献から読み取った著者の主張に対し、的確に批判を展開していく。 第9回：完全義務と不完全義務（1） 完全義務の優先性 文献を講読し、著者の主張を正確に理解する。 第10回：完全義務と不完全義務（2） 不完全義務の完全義務化 文献から読み取った著者の主張に対し、的確に批判を展開していく。 第11回：完全義務と不完全義務（3） 震災・原発事故からの教訓 <3.11>震災時をケーススタディとして弱者支援のあり方について考察する。 第12回：弱者支援におけるパターンナリズム 福祉や弱者支援を考える場合の倫理学的問題としてのパターンナリズムについて考察を深める。 第13回：グループ・ディスカッション：パターンナリズムの克服 パターンナリズムをどう乗り越えていったらいいか、自分たちで具体的なアイデアを出していく。 第14回：人間開発の倫理を求めて 福祉という意味での人間開発に携わるにあたっての倫理学的な問題について創造的に考えていく。 第15回：自己モニタリング（小野原） 半年間の学びを振り返り、地域支援エキスパートとして羽ばたくために今後何を鍛えていくべきか自己省察を深める。
テキスト 小浜逸郎『「弱者」とはだれか』 PHP新書 アマルティア・セン『人間の安全保障』集英社新書 直江清隆・越智貢編『災害に向きあう』岩波書店
参考書・参考資料等 そのつど指示する
学生に対する評価 毎回課題を出し、その結果を点数化し合算する

授業科目名：人間開発 の倫理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小野原雅夫
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及 び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：教育にまつわる人間開発に関する倫理的探究			
到達目標：			
・人間の発達支援に伴うパターンリズムの危険性について理解する。			
・自由な主体を尊重することの意義と方法について理解する。			
授業の概要			
「人間開発」とは、教育的な場面においては、人材育成や人間発達支援を意味する語である。 育てる者と育てられる者という上下関係の中での営みにおいてはパターンリズムの危険性が 生じ、また自由と強制のパラドクスに直面する。自由な主体を育成する人間発達支援の難しさ と、そのあるべき姿について考えてもらう。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
本授業の目的を明確化し、各人の現状をモニタリングしてもらう。			
第2回：人間開発とは？			
教育にまつわる人間開発の意味を概説していく。			
第3回：人間発達支援としての人間開発			
人間発達支援（広義の教育）という意味での人間開発について、開発教育の立場を参照しながら検 討していく。			
第4回：人材育成の手法			
具体的に人材を育成することに関して、様々な手法について学んでいく。			
第5回：自由への教育（1） 自立としての自由			
論文を講読し精密に検討することを通して、自立を支援するという意味での自由への教育について 考えていく。			
第6回：自由への教育（2） 自己実現としての自由			
論文を講読し精密に検討することを通して、自己実現を支援するという意味での自由への教育につ いて考えていく。			
第7回：自由への教育（3） 自律としての自由			

論文を講読し精密に検討することを通して、自律を支援するという意味での自由への教育について考えていく。

第8回：教育の倫理学（１） 人間弱者論に基づく教育観

人間＝弱者という人間観に基づいて展開された教育論を検討し、従来の教育のあり方を捉え直す。

第9回：教育の倫理学（２） 人間獣性論に基づく教育観

人間は感性的存在者であってゆえに獣性をもつ（性悪説）という人間観に基づく教育論を検討し、教育の理念について考察する。

第10回：グループ・ディスカッション：パターナリズムの克服

パターナリズムをどう乗り越えていったらいいか、自分たちで具体的なアイディアを出していく。

第11回：教育の倫理学（３） 情報社会論に基づく教育観

情報化に伴う社会のあり方の変化のなかで、今後の教育がどうあるべきかを検討する。

第12回：教育におけるパターナリズム

福祉の問題と同様、教育においてもパターナリズムが問題となることについて考察を深める。

第13回：教育に固有の危険性

広義の教育に固有の危険性を考え、教育者に求められる倫理について考えていく。

第14回：人間開発の倫理を求めて

教育という意味での人間開発に携わるにあたっての倫理的な問題について創造的に考えていく。

第15回：自己モニタリング（小野原）

半年間の学びを振り返り、人間発達支援者として羽ばたくために今後何を鍛えていくべきか自己省察を深める。

テキスト

小野原雅夫「自由への教育 ―カント教育論のアポリアー」、『別冊情況 カント没後200年』情況出版

加藤尚武『教育の倫理学』丸善

参考書・参考資料等

そのつど指示する

学生に対する評価

毎回課題を出し、その結果を点数化し合算する

授業科目名：共生の倫理学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小野原雅夫
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：平和の定言命法と共生のための仮言命法に関する倫理的探究			
到達目標：			
・ 人権について理解を深め、個や多様性を尊重することの必要性を理解する。			
・ 平和の定言命法と平和実現のための仮言命法について理解し、いかにして人類が共生していたらいいかについて考えることができる。			
・ 他者の意見を傾聴するとともに、自らの意見をわかりやすくかつ説得的に他者に伝えることができる。			
授業の概要			
人権について理解を深め、多様な価値観をもった人々が互いの違いを尊重し合いながら共生していくということの困難さと意義を実感してもらい、そのための具体的な手法を学んでもらう。様々なテーマについて対等な立場で語り合っていく哲学カフェを行いながら、共生に向けたトレーニングを積んでいく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
本授業の目的を明確化し、各人の現状をモニタリングしてもらう。			
第2回：人権とは何か（1）特権・権利・人権			
特権と権利と人権の違いを理解するための簡単なワークを行いながら、三者の違いを体感的に理解する。			
第3回：人権とは何か？（2）人権概念誕生の思想的背景			
近代において人権概念が新たに生み出された思想的背景について概説していき、人権思想の歴史的意義を再確認する。			
第4回：人権とは何か？（3）自由権・参政権・社会権			
人権の中に含まれるとされる自由権、参政権、社会権について、それぞれが鋭く対立する問題であることを理解していく。			
第5回：哲学カフェ（1）人権はあるのか？			
そもそも人権は近代が生んだフィクションにすぎないのか、教員と受講者という立場の違いを超え			

て対等に哲学対話を進めていく。

第6回：定言命法と仮言命法

カント倫理学の基本概念である「定言命法」と「仮言命法」について、その概要ならびに基本的解釈について理解する。

第7回：平和の定言命法

「いかなる戦争もあるべからず」というカントの平和の定言命法の含意とその現代的意義について理解する。

第8回：平和実現のための仮言命法

「平和の定言命法」だけでは永遠平和を実現することはできない。永遠平和を実現させるための具体的な手段や方法（＝「平和実現のための仮言命法」）を、そのつどの歴史的状況に応じて案出していくことの必要性について考える。

第9回：日本国憲法における定言命法と仮言命法

日本国憲法第9条の中に「平和の定言命法」と「平和実現のための仮言命法」の両者を読み取り、平和を実現するためには様々な手段な手段がありうることを理解する。

第10回：多様な価値観ワークショップ

人々の中に多様な価値観が存することをワークショップを通じて実感的に理解してもらう。

第11回：多様な価値観ワークショップの振り返り

前回のワークショップを振り返り、各人の学びを共有する。

第12回：哲学カフェ（2）性の多様性を超えて

女性や性的マイノリティに対する差別をテーマに哲学カフェを行う。

第13回：哲学カフェ（3）文化や宗教の多様性を超えて

文化や宗教の違いから生じる対立をいかにして乗り越えていくかについて哲学カフェを行う。

第14回：哲学カフェ（4）永遠平和のために

はたして人類は永遠平和を実現することができるのか、それとも人類は戦争を運命づけられているのか、哲学カフェを行う。

第15回：自己モニタリング（小野原）

半年間の学びを振り返り、地域支援エキスパートとして羽ばたくために今後何を鍛えていくべきか自己省察を深める。

テキスト

小野原雅夫「平和の定言命法と平和実現のための仮言命法」、日本カント協会編『日本カント研究7』理想社

小野原雅夫「日本国憲法における定言命法と仮言命法」、日本カント協会編『日本カント研究15』知泉書館

参考書・参考資料等

そのつど指示する

学生に対する評価

毎回課題を出し、その結果を点数化し合算する

授業科目名：共生の倫理学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小野原雅夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 社会 及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：平和と共生の仮言命法に関する倫理的探究 到達目標： ・ 平和的な紛争解決方法について理解する。 ・ 共生のための非暴力的なコミュニケーション方法に関してワークショップを通じて体験的に理解する。 ・ 平和的な紛争解決方法を新たに生み出したり、指導したりする方法を学ぶ取る。			
授業の概要 多様な価値観をもった人々が互いの違いを尊重し合いながら共生していく手法を学び、新たに開発してもらう。具体的なトラブルが生じたときに非暴力コミュニケーション等を用いて紛争を解決していく平和的手法や平和的態度を身につけ、またそれらを指導するファシリテーションの技法についても学んでもらう。その他、非暴力トレーニングなども学んだ上で、新たな共生の手法を協同的に開発していく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 本授業の目的を明確化し、各人の現状をモニタリングしてもらう。 第2回：創造的問題解決の倫理学 何を為すべきかという目的が定まっていたとしても、それをいかにして実現するかという具体的手段・方法は無数に存在しうる。手段や方法を創造的に案出していこうとする創造的問題解決の倫理学について概説する。 第3回：対立・戦争・平和的解決手段 複数の人間がいればそこに対立が生じるのは不可避であるが、対立をいかにして解決するかという選択肢は無限にありうるということを理解する。 第4回：ガンディーにおける非暴力抵抗 ガンディーの言葉を読むことによって、ガンディーによる非暴力抵抗運動について理解するとともに、ガンディーがひじょうに巧みに非暴力的なコミュニケーションを行っていたことを読み取っていく。			

第5回：現代における様々な非暴力運動

ガンディーの思想・実践から派生した、現代における様々な非暴力運動について概観する。

第6回：非暴力コミュニケーションの基礎

マーシャル・ローゼンバーグの非暴力コミュニケーションの理論と実践について概説する。

第7回：非暴力コミュニケーション・ワークショップ（1） 観察と解釈

ワークショップを通して、解釈を交えずに事実を観察する手法を学んでいく。

第8回：非暴力コミュニケーション・ワークショップ（2） 感情と非難

ワークショップを通して、相手を非難することなしにその感情をつかみとる手法を学んでいく。

第9回：非暴力コミュニケーション・ワークショップ（3） 必要と手段

ワークショップを通して、たんなる手段ではなく本当に必要なものは何かを正確に把握する手法を学んでいく。

第10回：非暴力コミュニケーション・ワークショップ（4） お願いと要求

ワークショップを通して、相手に頭ごなしに要求するのではなく、効果的なお願いをする手法を学んでいく。

第11回：非暴力コミュニケーション・ワークショップの振り返り

非暴力コミュニケーション・ワークショップの全体を振り返り、各人が学び取ったことを共有していく。

第12回：ファシリテーションの基礎

たんに参加者としてではなく、ファシリテーターとしてワークショップを主宰していく際の注意事項を考えていく。

第13回：非暴力ワークショップの構想（1） アイディア出し

新しい非暴力ワークショップを創作していくために、KJ法等を用いてアイディア出しを行う。

第14回：非暴力ワークショップの構想（2） 仕上げと評価

前回のアイディアをもとに新しい非暴力ワークショップを作り上げていく。

第15回：自己モニタリング（小野原）

半年間の学びを振り返り、地域支援エキスパートとして羽ばたくために今後何を鍛えていくべきか自己省察を深める。

テキスト

ガンディー『わたしの非暴力』みすず書房

マーシャル・ローゼンバーグ『NVC 人と人との関係にいのちを吹き込む法』、日本経済新聞出版社

参考書・参考資料等

そのつど指示する

学生に対する評価

毎回課題を出し、その結果を点数化し合算する

授業科目名： 現代器楽演奏演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：中畑淳 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
代表的な4つの時代様式について、特徴を理解することができる。 楽器の発達史と作品との相関について、理解することができる。 個別の課題について、十分な準備を行い上げることができる。				
授業の概要				
器楽領域における楽器の発達史をふまえ、その時代的な楽器の様相や特徴をとらえるとともに、それらを演奏史の流れの中に位置づけながら理解する。西洋音楽の歴史における4つの代表的な時代様式について、その特徴を端的に理解するとともに、楽器の発達史に現れる事象との相関関係についても多角的に探究し、現代的な視点をとおして文化としての音楽芸術を鋭く探究する。				
授業計画				
本授業計画は、音楽（教科専門・器楽）の視点を含み構成されている。 第1回：ガイダンス（授業内容の説明と、学生毎のプログラム選定） 学生毎のこれまでの学修成果を参考に、適切な課題でプログラム構成を行う。 第2回：器楽概論（1）（鍵盤楽器の歴史と発達） 現代へつづく鍵盤楽器の歴史を、その発達をとおして理解する。 第3回：器楽概論（2）（鍵盤楽器の特徴と普及） 鍵盤楽器の特徴と音楽史における意義を理解する。 第4回：器楽概論（3）（楽器の変遷と作曲家） 器楽分野における重要な作曲家を、作品史における役割からとらえる。 第5回：楽器の発達と音楽様式（1）（バロック時代以前の楽器と音楽様式） バロック以前の音楽様式を、楽器の発達と作品から理解する。 第6回：楽器の発達と音楽様式（2）（バロック時代の楽器と音楽様式） バロック時代の音楽様式を、楽器の発達と作品から理解する。 第7回：楽器の発達と音楽様式（3）（ピアノの発明） ピアノの発明にいたる状況を整理してとらえる。 第8回：楽器の発達と音楽様式（4）（古典派時代の楽器と音楽様式） 古典派時代の音楽様式を、楽器の発達と作品から理解する。 第9回：楽器の発達と音楽様式（5）（ロマン派時代の楽器と音楽様式）				

ロマン派時代の音楽様式を、楽器の発達と作品から理解する。

第10回：楽器の発達と音楽様式（6）（20世紀の楽器と音楽様式）

近現代・20世紀の音楽様式を、楽器の発達と作品から理解する。

第11回：演奏表現法概論（1）（バロック時代の作品と演奏表現）

バロック時代の作品における演奏表現について、要点を理解する。

第12回：演奏表現法概論（2）（古典派時代の作品と演奏表現）

古典派時代の作品における演奏表現について、要点を理解する。

第13回：演奏表現法概論（3）（ロマン派時代の作品と演奏表現）

ロマン派時代の作品における演奏表現について、要点を理解する。

第14回：演奏表現法概論（4）（近・現代の作品と演奏表現）

近現代・20世紀の作品における演奏表現について、要点を理解する。

第15回：まとめ（学生毎の課題整理と全体の総括）

学生毎の研究成果の確認と、課題整理をおこなう。

テキスト

特定のテキストは使用しない。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

授業回数の2/3以上の出席を前提として、授業（課題曲をふくむ）への取り組み（30点）、発表会（試演会をふくむ）への取り組み（30点）、および研究の達成状況（実技試験をふくむ）（40点）などを総合的に評価する。

授業科目名： 器楽演奏特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：中畑淳 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
代表的な4つの時代様式について、特徴を理解することができる。 時代様式の特徴と器楽における技法との相関関係について、理解することができる。 個別の課題について、十分な準備を行い仕上げるすることができる。			
授業の概要			
「現代器楽演奏演習」で扱った理論的な内容をもとにしながら、音楽芸術における作品解釈法ならびに具体的な演奏表現技法について研究する。作品に記された音を手がかりに、作品の世界を探究しながら、器楽領域における具体的な解釈法・演奏法を検討する。また、アンサンブルの視点をまじえながら、伴奏法について探究する。			
授業計画			
本授業計画は、音楽（教科専門・器楽）の視点を含み構成されている。			
第1回：ガイダンス（授業内容の説明と、学生毎のプログラム選定） 学生毎のこれまでの学修成果を参考に、適切な課題でプログラム構成を行う。			
第2回：楽器の発達史と音楽様式（1）（バロック時代以前～古典派時代） バロック時代以前～古典派時代までの発達史と様式的特色を概観する。			
第3回：楽器の発達史と音楽様式（2）（ロマン派時代以降） ロマン派時代～現代までの発達史と様式的特色を概観する。			
第4回：楽器の演奏法（1）（ポリフォニーの表現） バロック時代に代表されるポリフォニーの表現を、演奏技法面から検討する。			
第5回：楽器の演奏法（2）（装飾音楽法の研究） バロック時代に代表される装飾的音形の表現を、演奏技法面から検討する。			
第6回：楽器の演奏法（3）（レガート奏法の研究） 楽器におけるレガートの表現を、演奏技法面から検討する。			
第7回：作品解釈と演奏表現（1）（バロック時代以前の作品について） バロック時代以前の作品について、その特徴をとらえて演奏表現の研究をおこなう。			
第8回：作品解釈と演奏表現（2）（バロック時代の作品について） バロック時代の作品について、その特徴をとらえて演奏表現の研究をおこなう。			
第9回：作品解釈と演奏表現（3）（古典派時代の作品について） 古典派時代の作品について、その特徴をとらえて演奏表現の研究をおこなう。			

第10回：作品解釈と演奏表現（4）（ロマン派時代の作品について）

ロマン派時代の作品について、その特徴をとらえて演奏表現の研究をおこなう。

第11回：アンサンブルと演奏表現（1）（鍵盤楽器による伴奏法）

アンサンブル形態の演奏について、鍵盤楽器の視点からとらえて演奏表現を研究する。

第12回：アンサンブルと演奏表現（2）（旋律楽器による共演）

アンサンブル形態の演奏について、旋律楽器の視点からとらえて演奏表現を研究する。

第13回：アンサンブルと演奏表現（3）（各パートの役割と仕上げ）

アンサンブル形態における各パートの役割を理解して、演奏表現の仕上げをおこなう。

第14回：演奏による発表（演奏会形式による学生毎のプログラムの発表）

これまでの学修成果を演奏会形式で発表する。

第15回：まとめと反省会（学生毎の課題整理と全体の総括）

発表会の反省と課題整理をおこない、2年間にわたる学修計画の1年目の達成状況を検証する。

テキスト

特定のテキストは使用しない。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

授業回数の2/3以上の出席を前提として、授業（課題曲をふくむ）への取り組み（30点）、発表会（試演会をふくむ）への取り組み（30点）、および研究の達成状況（実技試験をふくむ）（40点）などを総合的に評価する。

授業科目名： アンサンブル特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：中畑淳 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（ 小学校・中学校及び高等学校音楽 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
作品解釈および全体の仕上げを意識しながら、共演者と自分の演奏表現を調和させることができる。 学修状況に応じて、アンサンブルの仕上げと到達点を設定することができる。 担当楽器のほか、共演者の楽器について特徴を理解して演奏表現に織り込むことができる。 個別の課題について、十分な準備を行い仕上げるることができる。			
授業の概要			
音楽表現は感性のひらめきにより修飾されるが、その根幹では作品の姿と演奏表現・作品解釈との間に一定の相関関係が存在する。このことを理解するとともに、演奏表現法のみならず地域における芸術文化の振興育成にたずさわる指導者をそだてるべく、演奏指導法としてもとらえなおす。これらのことを通じて、アンサンブルにおける演奏家と教育家を育成することを目指す。			
授業計画			
本授業計画は、音楽（教科専門・器楽）の視点を含み構成されている。 第 1 回：ガイダンス （授業内容の説明と、学生毎のプログラム選定） 学生毎のこれまでの学修成果を参考に、アンサンブル・グループ構成および選曲を行う。 第 2 回：アンサンブル概論（ 1 ）（テンポやアンサンブルにおける注意点） テンポの設定や一般的な事項について確認する。 第 3 回：アンサンブル概論（ 2 ）（演奏楽器による表現の特徴と、アンサンブルの調和） 楽器による特徴とアンサンブルにおけるバランスについて確認する。 第 4 回：アンサンブル概論（ 3 ）（アンサンブルにおけるアゴーギク表現の実際） アゴーギクの表現について検討し、演奏表現に取り入れる方法を確認する。 第 5 回：アンサンブル実技演習（ 1 ）（選曲した楽曲における課題の確認） グループごとに演奏をチェックし、演奏上の課題を確認する。 第 6 回：アンサンブル実技演習（ 2 ）（担当楽器における課題と問題点の確認） 演奏上の課題について分析し、個別の問題点を確認する。 第 7 回：アンサンブル実技演習（ 3 ）（楽器による特徴とアンサンブルの改善） 課題や問題点について共演者の立場からも検討し、アンサンブル全体の調和を考える。 第 8 回：アンサンブル実技演習（ 4 ）（作品解釈と解決手段の変化） 課題や問題点の解決方法について、複数の選択肢をもとに作品解釈と関連付けて検討する。			

第 9 回：アンサンブル実技演習（ 5 ）（ 解決方法の決定と仕上げを目指した準備 ）

課題を解決しながら、作品解釈と演奏表現の仕上げをめざす。

第 10 回：アンサンブル指導法について（ 1 ）（ 各グループで課題の整理 ）

実技演習における課題と練習をふりかえり、問題点と解決方法を整理する。

第 11 回：アンサンブル指導法について（ 2 ）（ 課題の解決と指導内容の工夫 ）

課題の解決を通して指導における要点を把握し、指導法に導入する工夫を考える。

第 12 回：アンサンブル指導法について（ 3 ）（ 様々な視点から課題解決を検討 ）

作品解釈、演奏上の要点、指導における要点の関連について研究する。

第 13 回：アンサンブル実技演習（ 6 ）（ 演奏表現の仕上げと細部の点検 ）

各自の選曲に基づき演奏表現を仕上げるとともに、細部の確認を行う。

第 14 回：演奏による発表 （ 地域において開催する演奏会形式の発表 ）

これまでの学修成果を演奏会形式で発表する。原則として学外でおこなう。

第 15 回：まとめと反省会 （ 発表会の内容を検証・課題整理及び全体の総括 ）

発表会の反省と課題整理をおこない、学修計画における達成状況を検証する

テキスト

特定のテキストは使用しない。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

授業回数の2/3以上の出席を前提として、授業（課題曲をふくむ）への取組み（30点）、発表会（試演会をふくむ）への取組み（30点）、および研究の達成状況（実技試験をふくむ）（40点）などを総合的に評価する。

授業科目名：現代声楽演奏特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 今尾 滋
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：日本歌曲の演奏を通して日本語演奏の表現法を研究する。また，比較的馴染みの薄い邦人作曲家の作品を演奏することを通して現代の我が国における音楽創作に対する知見を深め，今日の我が国におけるクラシック音楽のあり方について考える。			
到達目標：1．邦人作曲家とその作品について知識を得る 2．作品研究を適切に行うことができる。 3．クラシック音楽のあり方について常に思索する。			
授業の概要			
1．日本歌曲を課題とし，主に戦後の邦人作品の表現方法を研究する。日本語演奏の表現法を探究し，我が国の作曲家と作品について知識を得る。 2．比較的著名な邦人歌曲作曲者から各自最低1名を選択し，演奏実践と作品研究を行う。作品研究については授業内で発表を行い，ディスカッションを通じて洞察力を養う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：作曲家の紹介（教員より）			
第3回：第1課題の設定：中田喜直，團伊玖磨，別宮貞雄，高田三郎の4人から選択			
第4回：課題とした作曲家の作品の演奏　：歌唱			
第5回：課題とした作曲家の作品の演奏　：歌唱と解釈に関わるディスカッション			
第6回：課題とした作曲家と作品についての研究発表　：調査報告と質疑応答			
第7回：課題とした作曲家と作品についての研究発表　：上記の結果を踏まえた再調査報告			
第8回：中間まとめ（レポート提出）			
第9回：第2課題の決定：上記以外の邦人作曲家から選択			
第10回：課題とした作曲家の作品の演奏　：歌唱			
第11回：課題とした作曲家の作品の演奏　：歌唱と解釈に関わるディスカッション			
第12回：課題とした作曲家と作品についての研究発表　：調査報告と質疑応答			
第13回：課題とした作曲家と作品についての研究発表　：上記の結果を踏まえた再調査報告			
第14回：最終発表（実技）			

第15回：振り返りとまとめ

定期試験 なし

テキスト 「日本歌曲全集17 高田三郎」音楽之友社 など。

参考書・参考資料等 課題に合わせて教員が指示する。

学生に対する評価

授業中に行う演奏（40％）及び最終発表（20％）を実技の評価とし，課程修了後に最終まとめとしてレポートを課し，研究発表の評価（40％）とする。

授業科目名：声楽演奏特 論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 今尾 滋
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（ 小学校・中学校及び高等学校 音楽 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：クラシック音楽の発声法について更に深く学ぶと共に，学類では教材として扱っていないロマン派 後期から近現代の声楽曲全般の学修を通してその歌唱法を研究する。同時に作曲家・作品研究を行い，ディス カッションを通じて洞察力を涵養する。			
到達目標：１．ロマン派後期から近現代のクラシック音楽の作曲家とその作品について知識を得る ２．作品研究を適切に行うことができる。 ３．作品・作曲家研究を演奏に生かすことができる。			
授業の概要			
ロマン派後期から近現代の芸術歌曲を課題とし，歌唱法を研究する。履修者は各自作曲家を１～２名選択して その作品の演奏を行うとともに，課題とした作曲家と作品について調査し，報告する。報告についてクラス内 でディスカッションを行い，演奏に還元できるような成果を模索する。課題については教員から受講者に情報 提供をし，イタリア語，ドイツ語，フランス語，ロシア語などの芸術歌曲から選択する。事情が許せばオペラ や宗教曲の楽曲を選ぶことも不可としない。			
授業計画			
第１回：ガイダンス			
第２回：Ｒ・シュトラウスの歌曲についての調査・研究及び演奏実習　：譜読み，ディクション			
第３回：Ｒ・シュトラウスの歌曲についての調査・研究及び演奏実習　：作曲家についてのレポートとディスカッション			
第４回：Ｒ・シュトラウスの歌曲についての調査・研究及び演奏実習　：楽曲についてのレポートとディスカッション			
第５回：第１回まとめ及びフィードバック			
第６回：Ｇ・フォレの歌曲についての調査・研究及び演奏実習　：譜読み，ディクション			
第７回：Ｇ・フォレの歌曲についての調査・研究及び演奏実習　：作曲家についてのレポートとディスカッション			
第８回：Ｇ・フォレの歌曲についての調査・研究及び演奏実習　：楽曲についてのレポートとディスカッション			
第９回：第２回まとめ及びフィードバック			
第１０回：Ｆ・Ｐ・トスティの歌曲についての調査・研究及び演奏実習　：譜読み，ディクション			
第１１回：Ｆ・Ｐ・トスティの歌曲についての調査・研究及び演奏実習　：作曲家についてのレポートとディスカッション			
第１２回：Ｆ・Ｐ・トスティの歌曲についての調査・研究及び演奏実習　：楽曲についてのレポートとディスカッション			
第１３回：第３回まとめ及びフィードバック			

第14回：最終レポート及び成果発表会

第15回：振り返りとまとめ

定期試験 なし

テキスト 「リヒャルト・シュトラウス歌曲全集1」全音楽譜出版社 など

参考書・参考資料等 課題に合わせて教員が指示する。

学生に対する評価

授業中に行う演奏（40％）及び最終発表（20％）を実技の評価とし，課程修了後に最終まとめとしてレポートを課し，研究発表の評価（40％）とする。

授業科目名：オペラ特論 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 今尾 滋
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（ 小学校・中学校及び高等学校音楽 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ： 劇音楽を体験する。音楽に込められたドラマツルギーを理解することを目指す。同時に劇音楽の演唱にとって不可欠な、我が国と異なる欧米の文化や生活様式への理解を深める。地域創造に資する啓蒙活動ができる様な知見の形成を目指す。			
到達目標：１．音楽からドラマツルギーを在る程度感得することができる。 ２．在る程度の身体表現を歌唱しながら行うことができる。 ３．モーツァルトの作品を中心に、代表的なオペラ作品について知識を持つ。			
授業の概要			
モーツァルトのオペラ作品を中心にアリア及びアンサンブルの歌唱法と演技法を研究する。欧米のオペラの演唱にはその国の文化や生活様式への理解が不可欠である。我が国のものとは異なる文化や生活様式を解明しながら歌唱法や演技法を構築、実践していく。同時に演唱の参考として鑑賞も行い、それを通じて代表的なオペラについての知識を得る。音楽が盛んな福島という地域の実態に鑑み、地域文化創造の方法について考える。			
授業計画			
第１回：ガイダンス			
第２回：第1課題の決定：オペラ・アリア			
第３回：課題に沿った演奏実習　：譜読みと演奏様式の学習			
第４回：課題に沿った演奏実習　：作品全体のあらすじ及びアリアのシチュエーションについての学習			
第５回：課題に沿った演奏実習　：暗譜と立ち稽古準備			
第６回：課題に沿った演奏実習　：立ち稽古			
第７回：課題に沿った演奏実習　：映像鑑賞とフィードバック			
第８回：課題に沿った演奏実習　：仕上げと第1回まとめ（発表）			
第９回：第2課題の決定：オペラ・アンサンブル			
第１０回：課題に沿った演奏実習　：譜読み			
第１１回：課題に沿った演奏実習　：音楽稽古			
第１２回：課題に沿った演奏実習　：暗譜と映像鑑賞，演出のプランニング			
第１３回：課題に沿った演奏実習　：立ち稽古			
第１４回：発表会リハーサル			

第15回：発表：振り返りとまとめ
定期試験 なし
テキスト 「オペラ重唱曲集」音楽之友社 など
参考書・参考資料等 課題に合わせて教員が指示する。
学生に対する評価 発表会（2回実施、60％）に平常授業での成果（40％）を加味して評価する。

授業科目名： 音楽メディア創造演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 横島 浩
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 現代音楽技法の基礎知識を得ること。得た基礎知識から音楽思想等や音楽史から紐解き、学生自ら現代音楽技法を多角的に分析・研究できること。			
授業の概要 本授業では、 1. 今日、音楽作品創作の専門的研究において求められる様々なメディア（楽器、情報機器、その他プレゼンテーション・発表に必要な多様なメディアなど）を利用し、創作の研究を行う。時として、個々の受講生の能力・関心・必要性に応じた課題を設定する。また、この授業を通じて、多様な作品研究、またそれに関する著述なども、研究の対象とする。この研究によって、より現代の社会・文化に対応する表現のあり方を考察する。創作にあたる様式スタイルは問わない。			
授業計画 個々に対応するが、以下は一例。 第1回：様々な現代音楽について 第2回：20世紀の作曲技法1（神秘和音） 第3回：20世紀の作曲技法2（12音技法） 第4回：20世紀の作曲技法3（12音技法からミュージック・セリエルへ） 第5回：20世紀の作曲技法4（その他の技法） 第6回：20世紀の作曲技法5（引用の技法） 第7回：20世紀の作曲技法6（アルゴリズム作曲法） 第8回：創作プレゼンテーション法1（導入・地域での発表を視野に） 第9回：創作プレゼンテーション法2（展開） 第10回：創作プレゼンテーション法3（プレゼンテーションの総括） 第11回：作品研究1（基礎） 第12回：作品研究2（展開） 第13回：作品研究3（発展） 第14回：作品研究4（総合） 第15回：作品研究5（地域での発表を踏まえた作品の総括） 平常試験			
テキスト 松平頼則著「近代和声学」、ギーゼラー著「20世紀の作曲」、カルコシュカ著「現代音楽の記譜」以上音楽の友社ほかプリント類配布			
参考書・参考資料等 現代音楽に関する書物をできるだけ多く活用する。			
学生に対する評価 提出レポートにより評価する。 平常点（小テスト、授業における積極性等）、小テスト、平常試験を勘案し、総合的に評価します。			

授業科目名： 作曲特論演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 横島 浩
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
現代作曲の技法に関する知識を身に付けること。現代作曲技法を用いた新たな創作を行うことができるようになる。				
授業の概要				
本演習では、これまでの研究課題を更に深化させ、自らの作品に発展すべく、自己の音楽の語法の確立を指向する。その過程で過去の様々な作家の作品を研究し、また彼らの語法の研究も行う。また、音楽以外の幅広い領域への関心を広げ、作品の創作へ導入あるいは、そうした多領域の表現に置ける創作のあり方を研究し、幅広い視点に立った創造の世界への可能性を追求する。				
授業計画				
第1回：音楽語法研究・和声に関すること 第2回：音楽語法研究・近代和声に関すること 第3回：音楽語法研究・楽器法に関すること 第4回：音楽語法研究・対位法に関すること 第5回：音楽語法研究・近代対位法に関すること 第6回：作曲法（編曲法を含む）に於ける語法・メシアンの旋法についての研究 第7回：作曲法（編曲法を含む）に於ける語法・メシアンの限られた旋法の学習 第8回：作曲法（編曲法を含む）に於ける語法・ブーレーズの「構造」の分析 第9回：作曲法（編曲法を含む）に於ける語法・シュトックハウゼンのセリー曲の分析 第10回：作品の制作・これまでに研究した作品を自作品に取り入れるための基礎 第11回：作品の制作・編成や構成などの精選 第12回：作品の制作・実作への取り組み 第13回：作品の制作・実作への取り組みの続き（構成などに関しての再考を含む） 第14回：作品の制作・実作の完成 第15回：作品の発表				
テキスト				
松平頼則著「近代和声学」、ギーゼラー著「20世紀の作曲」、カルコシュカ著「現代音楽の記譜」以上音楽の友社 ほかプリント類配布				
参考書・参考資料等				
現代音楽に関する書物をできるだけ多く活用する。				
学生に対する評価				
提出レポート（作品）により評価する。 平常点（小テスト、授業における積極性等）、小テスト、平常試験を勘案し、総合的に評価します。				

授業科目名： 現代指揮法演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 横島 浩
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 18世紀から20世紀の作品から課題を選び、よりの確で高度な技術と多様な音楽表現の習得。これまでに習得した指揮の技術を応用するのみならず、さらに幅広い視野に立って音楽表現をより深める。				
授業の概要 この授業では、これまでに習得した指揮の技術を応用するのみならず、さらに幅広い視野に立って音楽表現をより深めることを目標とする。 そのため芸術・音楽にたいする幅広い知識や、鋭い感性と深い洞察力を養うことにも重点をおいて授業を進める。 基礎的な能力としてのスコアリーディング、作品分析はもちろんのこと、作曲家の生涯、時代背景、演奏習慣など幅広い知識を持ち、それを総合し演奏に応用できるスキルについても扱う。 さらに、18世紀から20世紀の作品から課題を選び、よりの確で高度な技術と多様な音楽表現の習得を目指す。				
授業計画 第1回 テンポの設定に関する諸問題 第2回 指揮と演奏習慣 古典及びロマン派における応用 第3回 課題の実習 古典派作品（ハイドン、モーツァルト） 第4回 課題の実習 古典派作品（ベートーヴェン） 第5回 スコアリーディングと作品分析の指揮への応用 第6回 課題の実習 ロマン派作品（ブラームス他） 第7回 課題の実習 ロマン派作品（チャイコフスキー他） 第8回 課題の実習 ロマン派作品（ヴァーグナー） 第9回 声楽作品の実習 オペラ、オラトリオ、伴奏つき歌曲など 第10回 声楽作品の実習 合唱音楽の指揮 第11回 声楽作品の実習 合唱音楽の指揮（グレゴリオ聖歌の指揮法） 第12回 課題の実習 20世紀の作品（R・シュトラウス、ホルスト） 第13回 課題の実習 20世紀の作品（ストラヴィンスキー） 第14回 課題の実習 20世紀の作品（バルトーク） 第15回 課題の実習 20世紀後半の作品				
テキスト 随時プリント等を配布する。				
参考書・参考資料等 齋藤秀雄著「指揮法教程」（音楽之友社）ほか				
学生に対する評価 平常点（小テスト、授業における積極性等）、小テスト、平常試験を勘案し、総合的に評価します。				

授業科目名： 絵画特論	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名: 渡邊晃一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標： 現代における絵画の意義について美術制作学、芸術教育学の視点から総合的に検証する。個別に設定したテ - マに沿って、先行研究の分析を行い、制作理論を今日的視点から再検討を行う。また教材研究の新たな可能性についても検討する。 到達目標としては、文脈に沿って発展深化させた研究活動の志向性を評価する。			
授業の概要： 美術の近代以降の系譜を検証し、美術制作学、美術教育学の今日的視点からその構想について分析、考察する。併せて絵画表現の特質を理解し、現代における造形教育の意義について深く追求していく。講義は、個別に設定したテ - マに沿って、絵画の制作理論に関する英文の翻訳を行う。その中で、美術の主題、重層構造、技法や歴史的問題について再検討を行う。また、絵画における教材研究の新たな可能性についても検討する。			
授業計画： 第1回：授業ガイダンス 授業のねらいと到達目標 第2回：「現代絵画」研究（1）・・・絵画における空間（場）、時間（現代性）の関係 第3回：「現代絵画」研究（2）・・・古今東西の絵画の材料と技法との関連 第4回：「現代絵画」研究（3）・・・絵画教育史・制作と個人 第5回：「現代絵画」研究（4）・・・絵画と美術館、美術学校との関わり 第6回：絵画の理論・技法等の研究（1）・・・絵画における記録と記憶 第7回：絵画の理論・技法等の研究（2）・・・現代における技術と材料の文化 第8回：絵画の理論・技法等の研究（3）・・・映像メディアと空間概念 第9回：絵画の理論・技法等の研究（4）・・・美術展と地域づくり 第10回：絵画の理論・技法等の研究（5）・・・現代性と地域文化の展望 第11回：独自のテーマの制作学研究（1）・・・空間概念・「場」の問題 第12回：独自のテーマの制作学研究（2）・・・材料と地域産業との関係 第13回：独自のテーマの制作学研究（3）・・・制作技法と映像メディアの未来 第14回：独自のテーマの制作学研究（4）・・・美術教育と地域創造の展望 第15回：まとめ、授業レポートの作成，アンケート等 （本授業計画は絵画（教科専門）の視点を含み構成されている）			
テキスト			

・ Paul Duro & Michael Greenbalgh " ESSENTIAL ART HISTORY" BLOOMSBURY,1993

参考書・参考資料等

- ・ 渡邊晃一著、「モナ・リザの教科書」、日本文教出版、2021 年
 - ・ 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001 年
- その他は授業内に指示する。

学生に対する評価

授業のねらいおよび単位認定基準に照らして、以下の内容から総合的に評価する。

- 1、 受講態度、発表および討論とその成果 25%
- 2、 提出課題（課題レポート・報告書）からの累積評価 50%、
- 3、 授業外課題（制作ノート） 25%

授業科目名： 絵画特論演習	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：渡邊晃一 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標： 絵画の近代以降の系譜を検証し、絵画制作を通して自身の研究を進めるとともに、制作学の観点から、現代における絵画表現を深く追求する。到達目標として、絵画の制作上の動機と主題設定、絵画の重層構造や技法の理解や歴史的な背景について理解し、自身の絵画を発展、深化させた研究を評価する。教職科目として履修した受講者は、制作を通して得た知見を通して、図工・美術教育の指導方法や教材研究の新たな可能性を検討することが求められる。			
授業の概要： 講義では主にテンペラによる混合技法を修得する。ルネッサンス期の画家やウィーン幻想派、アンドリュー・ワイエスやベンシャーンなど、個別に設定した画家の作品とその主題、材料、筆致や描画技法、重層構造などを探求し、その作品模写と制作学的な背景を再検討する中で、絵画制作学の理論を構築していく。受講生はブレインストーミングによって個別の主題を設定し、それに沿って先行研究を分析する。独自の<MIT>を現代美術の視点から研究する。			
授業計画 第 1 回： オリエンテーション 授業のねらいと到達目標 第 2 回： 「絵画」についての概説・・・絵画の歴史と文化的背景の概説 第 3 回： 「絵画」技術、理論等についての研究（１）重層構造について 第 4 回： 「絵画」技術、理論等についての研究（２）基底材について 第 5 回： 「絵画」技術、理論等についての研究（３）支持体、プレパレーション 第 6 回： 「絵画」技術、理論等についての研究（４）下地（ボローニア石膏+膠） 第 7 回： 「絵画」技術、理論等についての研究（５）下描き、エスキース 第 8 回： 「絵画」技術、理論等についての研究（６）描画層 インプリトゥーラ 第 9 回： 「絵画」技術、理論等についての研究（７）描画層 グリザイユ 第 10 回： 「絵画」技術、理論等についての研究（８）描画層 カマイユ 第 11 回： 「絵画」技術、理論等についての研究（９）描画層 キアロスクーロ 第 12 回： 「絵画」技術、理論等についての研究（10）描画層 グレーズ 第 13 回： 「絵画」技術、理論等についての研究（11）上描き 第 14 回： 「絵画」技術、理論等についての研究（12）ワニス、額装 第 15 回： まとめ、講評会、 授業レポートの作成，アンケート			

・ IT スキル Illustrator、Photoshop を使ったプレゼンテーションおよび資料の作成) (本授業計画は絵画 (教科専門) の視点を含み構成されている)
テキスト ・ 渡邊晃一著『モナ・リザの教科書』(日本文教出版、2021 年) その他は配布資料を使用。授業内で随時指示する。
参考書・参考資料等 ・ 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001 年 ・ マックス・デルナ - 著「絵画技術体系」美術出版社、1980 年 ・ Doug Jamieson 著、「Draw from your Head」、Watson Guptill その他、プリント・作品集・スライドなど講義ごとに自作の資料を配布する。
学生に対する評価 授業のねらいおよび単位認定基準に照らして、以下の内容から総合的に評価する。 1、 受講態度、発表および討論とその成果 25% 2、 提出課題 (課題レポート・報告書) からの累積評価 50%、 3、 授業外課題 (制作ノート) 25%

授業科目名： 絵画特論演習	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：渡邊晃一 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
版表現の近代以降の系譜を検証し、美術制作学、美術教育の視点からその構想について分析する。併せて版表現の特質を理解し、現代における版表現と造形教育の関わりを深く追求する。到達目標としては、個別に設定したテーマに沿って、版表現の作品を制作し、その技法や歴史的な背景についての理論から自身の表現を客観的に検討することが求められる。また教職科目として履修している受講者は、版画の制作を通して得た知見を今日的な視点と重ね、図画工作、美術科教育の指導に結びつけ、教材研究の新たな可能性を探究したものが評価される。			
授業の概要			
本講義では、個別に設定した「版表現」の作品を制作し、その背景となる美術制作学、美術科教育の視点から、理論の再検討を行うものである。絵師と彫師、摺師の協同作業で制作される浮世絵とは違う「版表現」として、近代、山本鼎によって造語された「版画」は、美術家自身が版を制作し、摺ることで展開される。「版表現」は、海外における「print-making」講義に相当し、主に制作学的観点から自身の制作と理論が構築されている。また「版表現」を今日、諸外国では「Book-making」「Box-Art」などの文脈に沿って発展深化させている。本講義ではこのような「版表現」について、個別に設定したテーマに沿って先行研究の分析を行い、独自の制作理論を現代美術の視点から研究するものである。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション 授業のねらいと到達目標			
第 2 回：現代における版表現についての概説・・・版表現の歴史の概説			
第 3 回：「版表現」研究（１）・・・絵画における空間（場）、時間（現代性）の関係			
第 4 回：「版表現」研究（２）・・・古今東西の絵画の材料と技法との関連			
第 5 回：「版表現」研究（３）・・・絵画教育史・制作と個人			
第 6 回：「版表現」研究（４）・・・絵画と美術館、美術学校との関わり			
第 7 回：「版表現」の技術、理論等についての研究（１）記録と記憶			
第 8 回：「版表現」の技術、理論等についての研究（２）技術と材料の文化			
第 9 回：「版表現」の技術、理論等についての研究（３）映像メディアと IT（情報技術）			
第 10 回：「版表現」の技術、理論等についての研究（４）展覧会と地域づくり			
第 11 回：「版表現」の技術、理論等についての研究（５）現代性と地域文化の展望			
第 12 回： 独自の「版表現」の技術、理論等についての考察（１）現代版画概説			

第 13 回： 独自の「版表現」の技術、理論等についての考察（２）「場」の問題

第 14 回： 独自の「版表現」の技術、理論等についての考察（３）材料とメディア

第 15 回： まとめ、講評会

授業レポートの作成，アンケート

・ IT スキル Illustrator、Photoshop を使ったプレゼンテーションおよび資料の作成）

（本授業計画は絵画（教科専門）の視点を含み構成されている）

テキスト

・ 渡邊晃一著『モナ・リザの教科書』日本文教出版、2021

・ Paul Duro, Michael Greenhalgh, Essential Art History, Bloomsbury Pub Ltd; NewEd, 1994

その他は配布資料を使用。授業内で随時指示する。

参考書・参考資料等

・ 黒崎彰「現代木版画技法」美術出版社、1992

・ 視覚デザイン研究所編「銅版画ノート」視覚デザイン研究所、1988

・ 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著「絵画の教科書」日本文教出版、2001

その他、プリント・作品集・スライドなど講義ごとに自作の資料を配布する。

学生に対する評価

授業のねらいおよび単位認定基準に照らして、以下の内容から総合的に評価する。

- 1、 受講態度、発表および討論とその成果 25%
- 2、 提出課題（課題レポート・報告書）からの累積評価 50%、
- 3、 授業外課題（制作ノート） 25%

授業科目名： 絵画特論演習	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：渡邊晃一 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
絵画および版表現、現代美術の系譜を検証し、美術制作学、美術教育の視点からその構想について分析する。到達目標として本講義では特に現代美術の文脈に沿って自身の絵画研究を説明できることが求められる。志向性をもって発展、深化させた研究活動を高く評価する。また、教職科目として履修する受講者は、制作を通して得た知見を今日的な視点と重ね、図画工作、美術科教育の指導に結びつけ、教材研究の新たな可能性を探求することを目的とする。			
授業の概要			
研究テーマに沿って、油彩、テンペラ、アクリル、版表現などの作品を制作する。併せて絵画表現の特質について歴史的な背景とも重ねながら追求していく。先行研究の主題や技法、材料などの分析を行い、独自の＜MIT＞に関わる制作学の観点を、今日的視点から構築していく。現代における絵画表現と造形教育の関わりや教材研究の新たな可能性についても検討する。			
授業計画			
第 1 回： オリエンテーション 授業のねらいと到達目標			
第 2 回： 絵画の＜MIT＞（1）I：アイデア、イメージ、主題の設定			
第 3 回： 絵画の＜MIT＞（2）M：メディア、マチエール、媒材の設定			
第 4 回： 絵画の＜MIT＞（3）T：テーマ、テクニック、技法の設定			
第 5 回： 絵画の制作学（1） 現代における絵画の意義			
第 6 回： 絵画の制作学（2） 現代における絵画の技術			
第 7 回： 絵画の制作学（3） 現代のメディアと絵画			
第 8 回： 絵画の制作学（4） 絵画材料と地域性			
第 9 回： 絵画の制作学（5） 地域文化創造			
第 10 回： 絵画の制作学（6） 絵画空間・「場」の概念			
第 11 回： 絵画の制作学（7）美術展と地域づくり			
第 12 回： 絵画の制作学（8）独自の絵画の技術、理論等について			
第 13 回： 絵画教育と地域創造の展望（1）DBAE			
第 14 回： 絵画教育と地域創造の展望（2）STEAM 教育			
第 15 回： まとめ、講評会			
授業レポートの作成，アンケート			
・ ITスキルIllustrator、Photoshopを使ったプレゼンテーションおよび資料の作成）			

(本授業計画は絵画 (教科専門) の視点を含み構成されている)
テキスト ・ 渡邊晃一著『モナ・リザの教科書』(日本文教出版、2021年) その他は配布資料を使用。授業内で随時指示する。
参考書・参考資料等 ・ 谷川渥監修、小澤基弘、渡邊晃一編著、「絵画の教科書」、日本文教出版、2001 年 ・ マックス・デルナ - 著「絵画技術体系」美術出版社、1980 年 その他、プリント・作品集・スライドなど講義ごとに自作の資料を配布する。
学生に対する評価 授業のねらいおよび単位認定基準に照らして、以下の内容から総合的に評価する。 1、 受講態度、発表および討論とその成果 25% 2、 提出課題 (課題レポート・報告書) からの累積評価 50%、 3、 授業外課題 (制作ノート) 25%

授業科目名： 彫刻特論	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 新井 浩
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
現代における彫刻の動向とパブリックアートの学習を通して、受講者自身の表現に活かすとともに社会と芸術のあり方について考察する。			
到達目標としては、現代の文脈に立った自身の表現を模索し確立しようとしているかどうかを評価する。また社会と芸術のあり方についてどのような問題意識を持ち自身の課題として理解しようとしているかどうかを評価する。			
授業の概要			
彫刻特論の授業では、現代における彫刻の動向を学ぶとともに、パブリックアートに関する歴史的、物理的、社会的環境について学習を深めていく。前半では現代の彫刻の動向を複数の作家を取り上げて制作動機、表現、背景を理解していく。後半では明治大正期以降の彫刻設置と、1960年代以降の公共事業における1%システム事業に焦点を当て、各種環境との影響関係の概略を整理する。彫刻とその設置について調査研究することで、表現に活かすとともに、社会と芸術のありかたについて考察を深めていく。			
授業計画			
第1回：授業ガイダンス 授業のねらいと到達目標			
第2回：純粹彫刻探究の始まりと彫刻的要素の探究			
第3回：現代アートの展開 ダダイズム以降のもの派、ミニマルアートまで			
第4回：現代アートの展開 アースワークからインスタレーションまで			
第5回：現代アートの展開 ハプニングからインタラクティブアートまで			
第6回：現代アートの展開 パブリックアートからサイトスペシフィックアートまで			
第7回：日本野外彫刻の展開 明治時代以前から1940年代まで ・・・・・石仏、磨崖仏にみる民間信仰 洋風彫刻術導入による銅像のモチーフとその背景			
第8回：日本野外彫刻の展開 1940年代以降 ・・・・・景観形成，地域の個性の表現，文化振興のための彫刻の登場に関する考察 戦後民主主義を背景とした野外彫刻のテーマとモチーフの関係			
第9回：公共事業における1%システム事業 欧米の場合			

・・・・・・西欧の伝統的野外彫刻と1%法成立以後 公共事業促進庁（WPA）全米芸術基金（NEA）公共施設庁(GSA)の活動 第10回：公共事業における1%システム事業 日本の場合 ・・・・・・1960年以降の日本の公的空間における展開-地方自治体の取り組みから 第11回：野外彫刻の実態 物理的環境との関係 ・・・・・・背景、動線、具体的エレメント（車止め、通気口等）などをふまえた展開 第12回：野外彫刻の実態 歴史的、社会的環境との関係 ・・・・・・歴史的環境をふまえた野外彫刻展開の実例と地域における諸課題 地域の個性や地域の要望をふまえた野外彫刻の実例と諸課題 第13回：パブリックアートの今日的展開を考察する ・・・・・・パブリックアートと地域住民、地方自治体との関係再構築に向けて 第14回：パブリックアートの今日的展開を考察する ・・・・・・地域に根付くパブリックアートと未来のまちづくり構築に向けて 第15回：まとめ ・・・・・・授業レポートの作成，アンケート等
テキスト 特に指定しない
参考書・参考資料等 ・「パブリックアートの展開と到達点：アートの公共性・地域文化の再生・芸術文化の未来」 松尾 豊、藤嶋 俊會、伊藤 裕夫 水曜社 ・「パブリックアートの現在」 柳澤 有吾 奈良女子大学文学部“まほろば”叢書
学生に対する評価 授業のねらいおよび単位認定基準に照らして、受講態度20%、報告書50%、発表および討論30%によって総合的に評価する。

授業科目名： 彫刻特論演習	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 新井 浩
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 現代におけるパブリックスペースでの彫刻表現の動向を踏まえ、制作を通して受講者自身の表現の位置づけを探る。 到達目標としては、具体的作例の制作動機、表現、背景などを踏まえ現代の文脈を理解した上での自身の表現を探究出来ているかどうかを評価する。 また、教職科目として履修している受講者には、制作を通して得た知見を図工・美術科指導に結びつけて考察できているかどうかを評価する。			
授業の概要 彫刻特論演習 では、現代におけるパブリックスペースでの彫刻表現の動向を踏まえ、制作を通して自身の表現の位置づけを探る。特に野外彫刻の具体的作例をもとに、制作動機、表現、背景への理解を深め、自身の制作の振り返りを行う。パブリックスペースにおける彫刻設置は、数多くの課題を克服することが要求されている。授業では入念な検討をもとに、彫刻の本質的な造形技法を駆使しながら新たな提案に結び付けるとともに、図工・美術科の造形遊びや立体表現指導に活かせるよう学びを深める。			
授業計画 第1回：授業ガイダンス 授業のねらいと到達目標 第2回：純粹彫刻探究の始まりと彫刻的要素の探究そしてパブリックスペースへの展開 第3回：パブリックアートの探究 海外の具体的作例から制作動機、表現、背景を学習する 第4回：パブリックアートの探究 日本の具体的作例から制作動機、表現、背景を学習する 第5回：フィールドワークを通して場所の課題発見 第6回：課題へのアプローチ 既習の知識技能から 第7回：アイデアスケッチ ラフスケッチ 第8回：アイデアスケッチ 効果的表現探究 第9回：アイデアスケッチ 設置環境との組合せ検討 第10回：アイデアスケッチ 造形的側面のブラッシュアップ 第11回：マケット制作 素材体験 第12回：マケット制作 構造面の組立て等			

第13回：マケット制作 造形的モデリング処理

第14回：マケット制作 仕上げ

第15回：ITスキルIllustrator、Photoshopを使ったプレゼンテーションおよび授業（作品制作と制作指導）レポートの作成

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

- ・「パブリックアートの展開と到達点:アートの公共性・地域文化の再生・芸術文化の未来」
松尾 豊、藤嶋 俊會、伊藤 裕夫 水曜社
- ・「パブリックアートの現在」
柳澤 有吾 奈良女子大学文学部 “まほろば”叢書

学生に対する評価

授業のねらいおよび単位認定基準に照らして、受講態度20%、報告書50%、発表および討論30%によって総合的に評価する。

授業科目名： 彫刻特論演習	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 新井 浩
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 演習 で学んだパブリックアートに関する知見を基に、受講者自身の表現テーマとの関連を探し表現に活かすことで、更なる造形表現の深化を追求する。 到達目標としては、材料の扱い、量、面の具体的イメージの醸成、比率、リズム、バランス、アクセント等の具体的効果について表現能力を高めているかどうかを評価する。 また、教職科目として履修している学生には、制作を通して得た知見を図工・美術科指導に結びつけて活かすことでできているかどうかを評価する。			
授業の概要 彫刻特論演習 では、演習 でのパブリックアートに関する成果をもとに自身の制作にフィードバックさせ表現の造形的側面をさらに高めていく。 で学んだパブリックアート成立の背景を表現に活かしながら表現の造形的側面を高めることで、表現としての普遍的な強さを得ることにつなげていく。特に材料の扱い、量、面の具体的イメージの醸成、比率、リズム、バランス、アクセント等の具体的効果を検証する力量を高めていくことで、自身の表現能力を高めるとともに図工・美術科の指導に活かす方法を考察する。			
授業計画 第1回：授業ガイダンス 授業のねらいと到達目標 第2回：既習事項の振り返りと自身の表現の振り返り 第3回：アイデアスケッチにおける思考整理1 現代の文脈における自身の表現の位置づけ 第4回：アイデアスケッチにおける思考整理2 表現のねらいと検討対象の関係 第5回：アイデアスケッチ 材料と表現の関係 第6回：アイデアスケッチ 量や面に関する検討 第7回：アイデアスケッチ 比率、リズム、バランス、アクセントに関する検討 第8回：作品制作 構造面の組立 第9回：作品制作 構造面のまとめと課題整理 第10回：作品制作 比率に関して 第11回：作品制作 リズムに関して 第12回：作品制作 バランスに関して			

第13回：マケット制作 アクセントに関して

第14回：作品制作 仕上げ

第15回：ポートフォリオ整理、作品制作と制作指導に関するレポート

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

・「パブリックアートの展開と到達点:アートの公共性・地域文化の再生・芸術文化の未来」

松尾 豊、藤嶋 俊會、伊藤 裕夫 水曜社

・「パブリックアートの現在」

柳澤 有吾 奈良女子大学文学部 “まほろば”叢書

学生に対する評価

授業のねらいおよび単位認定基準に照らして、受講態度20%、報告書50%、発表および討論30%によって総合的に評価する。

授業科目名： 彫刻特論演習	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 新井 浩
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 演習、で学んだパブリックアートに関する知見、受講者自身の表現テーマへの応用を基に、サイトスペシフィックアート（その場所と密接に関連したアート）の理解と表現につなげていく。 到達目標としては、造形的良さを備えたサイトスペシフィック表現を達成できたかどうか、また、社会と芸術の関係や造形教育と芸術表現の関係に結びつけ自身の課題として探究しているかどうかを評価する。			
授業の概要 彫刻特論演習では、現代美術の重要な表現であるサイトスペシフィックな表現を学び、自身の表現や社会と芸術の関係について考察を深めていく。今日のサイトスペシフィックの概念では、表現は必ずしも造形的側面ばかりが強調されてはいない。それを踏まえつつも授業では造形的良さを備えたサイトスペシフィック表現を、制作を通して模索することで既習事項を活かす方策を探究する。それら探究を社会と芸術の関係や造形教育と芸術表現の関係を紐解く力量につなげていく。			
授業計画 第1回：授業ガイダンス 授業のねらいと到達目標 第2回：サイトスペシフィックな具体的作例と分析 越後妻有アートトリエンナーレ等を参考に 第3回：フィールドワークを通じた環境課題の発見 下見を通し、設置場所と表現目的を模索 第4回：アイデアスケッチ 検討対象の整理と造形表現の模索 第5回：アイデアスケッチ 材料、表現手法の検討 第6回：アイデアスケッチ クリティカルシンキングを活用したサイトスペシフィシティ実現 第7回：アイデアスケッチ 造形的要素からの検討 第8回：材料研究 第9回：材料特性の理解と安全性 第10回：マケット制作 環境との関連と造形性の追求 第11回：マケット制作 環境との関連と造形性の深化 第12回：マケット制作 仕上げ			

第13回：ITスキルIllustrator、Photoshopを使ったプレゼンテーション原稿作成

第14回：ITスキルIllustrator、Photoshopを使ったプレゼンテーション

第15回：授業（作品制作と制作指導）レポートの作成

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

- ・大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 第1回 第2回 第3回 記録集 北川フラム
- ・大地の芸術祭実行委員会 現代企画室

学生に対する評価

授業のねらいおよび単位認定基準に照らして、受講態度20%、報告書50%、発表および討論30%によって総合的に評価する。

授業科目名： 日本美術史特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 加藤奈保子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
17世紀から19世紀の日本美術、とりわけ浮世絵の展開を把握し、それぞれの絵師の特色を捉えると同時に、当時の社会・風俗との関わりを理解できる。			
授業の概要			
海外でも人気が高い日本美術のジャンルといえば、それは浮世絵であろう。人々の生き生きとした姿を描写した浮世絵は、当時の社会・風俗を映し出す鏡でもある。また、その平面性や色づかい、斬新な構図はヨーロッパの印象派の画家たちに大きな影響を与えた。本講義では、17世紀から19世紀にわたる浮世絵の誕生と発展、ならびにそれぞれの絵師の特色を解説する。さらに、浮世絵版画の技法や販売方法について説明する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション：海外における浮世絵の評価			
第2回：浮世絵誕生前史　：近世初期風俗画			
第3回：浮世絵誕生前史　：歌舞伎と遊里			
第4回：浮世絵の誕生　：菱川師宣と美人画の系譜			
第5回：浮世絵の誕生　：鳥居派と奥村政信の役者絵を中心に			
第6回：錦絵の到来と鈴木春信			
第7回：浮世絵の黄金期　：勝川春章と鳥居清長			
第8回：浮世絵の黄金期　：喜多川歌麿と美人画の肖似性をめぐって			
第9回：東洲斎写楽の衝撃と版元・蔦屋重三郎の戦略			
第10回：北斎芸術の多様性			
第11回：風景画における空間表現：広重を中心に			
第12回：国芳芸術の多様性			
第13回：幕末の動向			
第14回：ジャポニスムがもたらした西洋絵画の危機			
第15回：まとめ：授業内容の振り返り			
テキスト			

特に指定しない。

参考書・参考資料等

小林忠・大久保純一『浮世絵の鑑賞基礎知識』至文堂、1994年。ほか
個別のテーマに関しては、授業中に適宜紹介していく。

学生に対する評価

授業時のコメントペーパーの内容（30%）および期末レポート（70%）によって評価する。とくに、レポートでは、浮世絵の発展の歴史、各絵師の特色、この絵画ジャンルに対する社会の多様な要求を理解すると同時に、なぜ海外で高い評価を得たのかについて深く考察することができたかどうか、その度合いが評価の基準となる。

授業科目名： 西洋美術史特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 加藤奈保子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
ローマを中心とした17世紀イタリア美術の動向を把握すると同時に、それぞれの芸術家の活動の様態を捉え、彼らと当時の社会との関わりを理解できる。			
授業の概要			
世界中から観光客を惹きつける「永遠の都」ローマは、17世紀にはすでに現在の姿に近いものとなっていた。本授業では、当時のローマを中心とした視覚芸術（絵画・彫刻・建築）を概観し、様式の特徴を解説する。同時に、それぞれの芸術家の活動の様態、ならびに彼らが生み出した作品と17世紀ローマの社会・文化・宗教との関わりについて考察していく。さらに、近代社会へ移行しつつあった時期のパトロネージ、美術市場の在り方に検討を加える。			
授業計画			
第1回：イントロダクション：「永遠の都」ローマの現在			
第2回：歴代教皇によるローマの都市整備 ～ジュビレオ（聖年）に備えた巡礼者の受け入れ準備			
第3回：絵画による迫真性の追究：自然主義と明暗法の画家カラヴァッジョ			
第4回：カラヴァッジョ周辺の画家たち			
第5回：カラヴァッジョの影響とその限界：研究の現状とこれからの課題			
第6回：もうひとつの自然主義の流れ：アンニーバレ・カラッチ			
第7回：ローマにおける宮殿装飾：アンニーバレ・カラッチ			
第8回：古典主義の前ぶれ：カラッチの後継者たち			
第9回：インターバル～経済活動、マーケット、美術作品の値段			
第10回：絵画と建築の融合：イリュージョンを生み出す天井画			
第11回：「歪んだ真珠」の時代の建築作品：教会建築			
第12回：「歪んだ真珠」の時代の建築作品：世俗建築			
第13回：大理石による躍動感と人間感情の表現：ベルニーニとそのライバルたち			
第14回：彫刻における古典主義の流れ			
第15回：授業のまとめ			
テキスト			

特に指定しない。

参考書・参考資料等

宮下規久朗『バロック美術の成立』山川出版社、2003年。ほか
個別のテーマに関しては、授業中に適宜紹介していく。

学生に対する評価

授業時のコメントペーパーの内容（30%）および期末レポート（70%）によって評価する。レポートでは、17世紀イタリア美術の特徴を理解すると同時に、芸術作品に対する社会の多様な要求について深く考察することができたかどうか、その度合いが評価の基準となる。

授業科目名：身体教育 とスポーツ文化特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小川 宏
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：体育概念とスポーツ概念の理解および哲学的思考			
到達目標：体育概念とスポーツ概念を深く理解するとともに、哲学的思考を身につける。			
授業の概要			
本講義では、身体教育、スポーツ文化について理解を深めるとともに、身体教育とスポーツ文化との関連性について考察していく。スポーツを教材とした身体教育のあり方や、様々なスポーツ文化の教育的意義を踏まえたスポーツ指導のあり方について、テキストや資料をもとに論究する。具体的にはテキストや資料を読み進め、受講生が要点をまとめて説明した上で、教員からの内容確認の質問に答えていく形式で進める。			
授業計画			
本授業計画は、保健体育の視点を含み構成されている。			
第 1 回：授業ガイダンス			
授業の全体計画とテキストの概要を紹介する。			
第 2 回：体育とスポーツの概念に関する問題の所在			
体育とスポーツの概念についてどんな問題があるのか学ぶ。			
第 3 回：従来の「体育とスポーツ」をめぐる議論の検討			
これまでの体育概念とスポーツ概念に関する議論を検討する。			
第 4 回：体育概念の教育論的検討			
体育概念を教育の観点から検討する。			
第 5 回：教育概念の本質規定としての関係性			
教育概念の関係性について学ぶ。			
第 6 回：教育概念の本質規定としての重層性			
教育概念の重層性について学ぶ。			
第 7 回：教育概念の本質規定としての超越性			
教育概念の超越性について学ぶ。			
第 8 回：スポーツ概念の文化論的検討			
スポーツ概念について文化の観点から検討する。			
第 9 回：差異論的アプローチと文化概念			

文化概念の差異論的アプローチについて検討する。 第10回：スポーツ構造とスポーツ現象の概念的二層化 スポーツ概念を構造と現象という観点から分析する。 第11回：スポーツ構造における三契機と複合性 スポーツ構造の三契機について、またその複合性について学ぶ。 第12回：人間存在にとっての体育とスポーツ（1）教育的観点から 体育概念とスポーツ概念を教育的観点から理解する。 第13回：人間存在にとっての体育とスポーツ（2）文化的観点から 体育概念とスポーツ概念を文化的観点から理解する。 第14回：人間存在にとっての体育とスポーツ（3）総合的観点から 体育概念とスポーツ概念を総合的観点から理解する。 第15回：まとめ 体育概念とスポーツ概念についての考えをまとめる。 定期試験
テキスト 佐藤臣彦「身体教育を哲学する」北樹出版
参考書・参考資料等 高橋徹「はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学」株式会社みらい
学生に対する評価 授業における質問への回答等から内容理解度を評価するとともに、発言等から授業参加態度を評価する。

授業科目名：現代スポーツ特 論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小川 宏
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 保健体育 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：現代スポーツに関わる諸問題の分析と提案			
到達目標：現代スポーツが抱える様々な問題について情報収集し、原因を分析し解決策を提案する。			
授業の概要			
本演習では、現代社会におけるスポーツの様々な話題や問題について受講生がローテーションで話題提供し、現代スポーツに対する考え方についてディスカッションを行い理解を深める。現代社会におけるスポーツ指導のあり方や、各スポーツの現代的特徴、レクリエーションスポーツの今後の方向性など、できるだけ広い視野から現代スポーツの特徴を捉えていく。そして将来スポーツの現場に立ったときに、正しい判断と対処ができる指導者を育成していく。			
本授業計画は、保健体育の視点を含み構成されている。			
第 1 回：授業ガイダンス			
授業の全体計画とテキストの概要を紹介する。			
第 2 回：現代スポーツの問題に関する提案およびディスカッション（ 1 ）勝利主義			
現代スポーツの問題の中から、勝利主義に関する話題でディスカッションする。			
第 3 回：現代スポーツの問題に関する提案およびディスカッション（ 2 ）ドーピング			
現代スポーツの問題の中から、ドーピングに関する話題でディスカッションする。			
第 4 回：現代スポーツの問題に関する提案およびディスカッション（ 3 ）審判			
現代スポーツの問題の中から、審判に関する話題でディスカッションする。			
第 5 回：現代スポーツの指導に関する提案およびディスカッション（ 1 ）フェアプレイ			
現代スポーツの指導の問題の中から、フェアプレイに関する話題でディスカッションする。			
第 6 回：現代スポーツの指導に関する提案およびディスカッション（ 2 ）トレーニング			
現代スポーツの指導の問題の中から、トレーニングに関する話題でディスカッションする。			
第 7 回：現代スポーツの特徴に関する提案およびディスカッション（ 1 ）レク・スポ			
現代スポーツの特徴の問題の中から、レク・スポに関する話題でディスカッションする。			
第 8 回：現代スポーツの特徴に関する提案およびディスカッション（ 2 ）価値観の消失			
現代スポーツの特徴の問題の中から、価値観の消失に関する話題でディスカッションする。			
第 9 回：現代スポーツの特徴に関する提案およびディスカッション（ 3 ）用具の進化			

現代スポーツの特徴の問題の中から、用具の進化に関する話題でディスカッションする。 第10回：現代スポーツの今後の方向性に関する提案およびディスカッション（1）高度化 現代スポーツの今後の方向性の中から、高度化に関する話題でディスカッションする。 第11回：現代スポーツの今後の方向性に関する提案およびディスカッション（2）大衆化 現代スポーツの今後の方向性の中から、大衆化に関する話題でディスカッションする。 第12回：現代スポーツの問題に関する提案およびディスカッション（4）グローバリズム 現代スポーツの問題の中から、グローバリズムに関する話題でディスカッションする。 第13回：現代スポーツの問題に関する提案およびディスカッション（5）ルール変更 現代スポーツの問題の中から、ルール変更に関する話題でディスカッションする。 第14回：現代スポーツに関するまとめ（1）学生発表 現代スポーツに関するまとめについて、学生が発表する。 第15回：現代スポーツに関するまとめ（2）総括 現代スポーツに関するまとめについて総括する。
テキスト
参考書・参考資料等 友添秀則・近藤良享「スポーツ倫理を問う」大修館書店 相原正道・植田真司他「スポーツマンシップ論」晃洋書房
学生に対する評価 授業でのディスカッション提案の発表内容、ディスカッション発言内容等により評価する。

授業科目名：スポーツ 社会政策特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：蓮沼 哲哉
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】			
国、都道府県、市区町村の３つのレベルから現代社会におけるスポーツ政策の重要性と理念を理解していく。さらに、諸外国のスポーツ・健康政策について理解する。			
【到達目標】			
１．スポーツ政策について深く理解し、自らが政策について立案し、計画できる知識を身に付ける。			
２．スポーツ政策の課題について理解し、課題解決のために取り組むべき実践力を身に付ける。			
授業の概要			
現代社会におけるスポーツ政策（スポーツ・プロモーション）の基本理念を理解し、スポーツ振興計画策定の手順等についてスポーツ社会学の観点より学習する。			
授業計画			
本授業計画は、保健体育の視点を含み構成されている。			
第１回 スポーツ社会学の観点からスポーツ政策の理念と重要性 （公共政策としての体育・スポーツ政策について理解する）			
第２回 体育・スポーツ政策の変遷 （戦後から現在までの体育・スポーツ政策の変遷について理解する）			
第３回 体育・スポーツ政策の課題 （社会の変化と体育・スポーツ政策の課題について理解する）			
第４回 体育・スポーツ政策と地域コミュニティの再生 （地域コミュニティの形成と体育・スポーツ政策の関連について考える）			
第５回 体育・スポーツ政策と健康政策 （健康不安社会と体育・スポーツ政策の関連について考える）			
第６回 体育・スポーツ政策と地域福祉政策 （少子・高齢福祉社会と体育・スポーツ政策の関連について考える）			
第７回 体育・スポーツ政策と地域経済の活性化			

(スポーツイベントやプロスポーツの経済的波及効果について考える) 第8回 国の体育・スポーツ政策と健康政策 (健康日本2 1、スポーツ振興基本計画等を取り上げ、我が国のスポーツ・健康政策について理解する) 第9回 都道府県の体育・スポーツ政策と健康政策 (都道府県の体育・スポーツ政策について、組織、政策、課題等について考える) 第10回 市区町村の体育・スポーツ政策と健康政策 (市区町村の体育・スポーツ政策について、組織、政策、課題等について考える) 第11回 スポーツ振興計画のねらい (国、都道府県、市町村のスポーツ振興計画のねらいについて理解する) 第12回 スポーツ振興計画策定の手順 (スポーツ振興計画策定の手順(PDCAサイクル)について理解する) 第13回 スポーツ振興計画策定の効果と評価 (スポーツ・健康政策の効果を測定するシステムについて理解する) 第14回 社会の変革と担い手として総合型地域スポーツクラブ (スポーツ・イノベーションとしての総合型クラブについて理解する) 第15回 まとめ 定期試験	テキスト
参考書・参考資料等 黒須充・水上博司編著「スポーツ・コモンズ～総合型地域スポーツクラブの近未来像～」創文企画 クリストフ・ブロイアー・黒須充編著「ドイツに学ぶ地方自治体のスポーツ政策とクラブ」創文企画 菊幸一 編集「スポーツ政策論」成文堂	学生に対する評価 ・授業前後のフィールドワークを通じた実践調査のプレゼン内容、授業中のディスカッション、発表、レポート等を総合的に評価する。

授業科目名：スポーツ クラブマネジメント特 論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：蓮沼 哲哉
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学 校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】			
プロ・アマを問わず、スポーツクラブが自主独立し、健全に発展するためには、人材、施設、財 源、広報など、効果的なマネジメントが不可欠となる。そこで、本演習では、国内外のスポー ツクラブを事例に取り上げ、設立のノウハウ、運営・指導・評価の観点から、体育経営管理学 における実践的な知識・技能を高めていく。			
【到達目標】			
1．スポーツクラブの健全なマネジメントのあり方について体育経営管理学の観点から理解す る。			
2．スポーツクラブが健全に発展するための効果的なマネジメントを実践できる能力を身に付 ける。			
授業の概要			
クラブの経営資源を有効に活用し、クラブ会員が継続的に快適なクラブライフを送ることがで きるような健全なマネジメントのあり方についてスポーツ・体育経営管理学の観点から学習す る。			
授業計画			
本授業計画は、保健体育の視点を含み構成されている。			
第1回 クラブマネジメント			
（体育経営管理学の観点からクラブマネジメントのあり方について考察する）			
第2回 クラブマネージャーの役割			
（クラブマネージャーが果たすべき仕事と役割について理解する）			
第3回 クラブのつくり方			
（クラブの設立方法、運営形態について理解する）			
第4回 人、組織のマネジメント			
（人材マネジメントと人事制度など組織マネジメントについて理解する）			
第5回 施設の管理と運営			
（施設・設備の管理業務）			
第6回 ファイナンス			

(クラブの財務構造と収益構造について理解する) 第7回 マーケティング (市場機会分析やSWOT分析などのマーケティング手法について学ぶ) 第8回 経営戦略 (戦略と戦術の違いを明確にして、コア・コンピタンスと経営戦略) 第9回 クラブのホスピタリティ 第10回 クラブ評価について 第11回 事業計画書の作成 (具体例をもとにビジネスプランを作成する) 第12回 クラブマネジメント演習 (総合型地域スポーツクラブ) 第13回 クラブマネジメント演習② (民間フィットネスクラブ) 第14回 クラブマネジメント演習 (スポーツNPO) 第15回 まとめ 定期試験
テキスト
参考書・参考資料等 黒須充編著「総合型地域スポーツクラブの時代 第1巻～第3巻」創文企画 黒須充・水上博司編著「スポーツ・ commons～総合型地域スポーツクラブの近未来像～」創文企画 クリストフ・ブロイアー・黒須充編著「ドイツに学ぶ スポーツクラブの発展と社会公益性」創文企画
学生に対する評価 ・授業前後のフィールドワークを通じた実践調査のプレゼン内容、授業中のディスカッション、発表、レポート等を総合的に評価する。

授業科目名： スポーツ医科学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：杉浦弘一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】 アスリートが良いコンディションで競技を行うための観点や方法について概説する。			
【到達目標】 アスリートやスポーツ愛好家がトレーニング時や競技時に陥る医科学的トラブルについて理解する。それを踏まえて、高いパフォーマンスを常に発揮するためのコンディショニングについて、そのメカニズムと共に理解する。			
授業の概要			
アスリートは自分自身の能力を最大限高めることにより、より高いパフォーマンスを発揮するために日々トレーニングを行っている。それ故に心身を酷使し、時にはそのバランスを崩してしまい問題を抱えることもしばしばある。アスリートのみならずスポーツ愛好家や健康の維持・増進を目的とした運動指向者においても様々な身体的問題が発生することも多い。 本講義においては、これらアスリートやスポーツ愛好家、運動指向者たちが抱える諸問題やその予防のための考え方などについて資料をもとに論究する。			
授業計画			
本授業計画は、保健体育の視点を含み構成されている。			
第 1 回：オリエンテーション、スポーツ医科学のトピックス スポーツ医学における今日的な話題について考える。			
第 2 回：熱中症と水分補給の科学（１）熱中症とその予防 熱中症とその予防について学ぶ			
第 3 回：熱中症と水分補給の科学（２）水分補給 水分補給に関する基礎理論について学ぶ			
第 4 回：熱中症と水分補給の科学（３）スポーツドリンクの科学 スポーツドリンクの成分等について歴史的背景を踏まえて考える			
第 5 回：運動と免疫学的コンディション（１）運動と免疫機能 免疫機能に与える運動の影響について学ぶ			
第 6 回：運動と免疫学的コンディション（２）免疫学的コンディションの変化 コンディショニング指標として免疫指標について学ぶ			

第7回：運動と免疫学的コンディショニング（3）運動と生体防御機構

広義の生体防御機構が運動によってどのような影響を受けるかを学ぶ

第8回：オーバーユース・シンドローム

オーバーユース・シンドロームが起こるメカニズムについて学ぶ

第9回：オーバートレーニング・シンドローム

オーバートレーニング・シンドロームが起こるメカニズムについて学ぶ

第10回：コンディショニング（1）コンディショニングとピリオダイゼーション

ピリオダイゼーションの重要性について学ぶ

第11回：コンディショニング（2）コンディショニングと栄養

栄養（食事）とコンディショニングの関係について学ぶ

第12回：コンディショニング（3）セルフモニタリング

セルフモニタリングの有用性と実際について学ぶ

第13回：コンディショニングとJISS

コンディショニングに関するJISSの取り組みについて学ぶ

第14回：アンチ・ドーピング

アンチ・ドーピングの考え方について学ぶ

第15回：まとめ

スポーツ医科学の取り組みについてまとめる

詳細は受講生と相談の上、決定する。

テキスト

参考書・参考資料等

Christophe Hausswirthら著 長谷川博ら訳 リカバリーの科学 NAP Limited 3,800 円

学生に対する評価

全授業の2 / 3以上の出席と授業への積極的な参加を成績評価の条件とする。

授業中におけるテーマの理解（60%）、ディスカッションの内容等（40%）で評価する。

授業科目名： 健康科学と運動処方 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：杉浦弘一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】 健康を維持増進するための活動（身体活動、運動）等について、概説する。			
【到達目標】 健康の維持増進のための運動について、医科学的根拠と共に理解を深める。			
授業の概要			
健康の維持増進、および生活習慣病の予防にとって、日常生活における身体活動量の確保は非常に重要である。本講義では健康に対する考え方、身体活動量の評価、健康と運動（または身体活動）、生活習慣病と運動、健康の維持増進のための様々な取り組みについて、理解を深める。そして、健康の維持増進に欠かすことのできない運動をどのように処方すべきかについて、健康（健康科学）と運動の効果の観点から概説する。			
授業計画			
本授業計画は、保健体育の視点を含み構成されている。			
第 1 回 オリエンテーション、健康と運動のトピックス 健康と運動に関する今日的な話題について考える			
第 2 回 健康について 健康について考える			
第 3 回 健康と運動に関する疫学（ 1 ）体格と健康 体格と健康について学ぶ			
第 4 回 健康と運動に関する疫学（ 2 ）身体活動量と健康 身体活動量と健康について学ぶ			
第 5 回 健康と運動に関する疫学（ 3 ）高齢者の運動と健康 高齢者のための運動について学ぶ			
第 6 回 運動処方の実際 実際に運動を処方してみる（プログラムを立てる）			
第 7 回 日常生活活動量の評価（ 1 ）質問紙について 質問紙を用いた日常生活活動量の評価方法を学ぶ			

第 8 回	日常生活活動量の評価（２）加速度計などについて 加速時計などを用いた身体活動量の評価方法について学ぶ
第 9 回	生活習慣病予防のための運動療法（１）肥満・肥満症 運動が肥満症患者に与える影響を学ぶ
第 10 回	生活習慣病予防のための運動療法（２）糖尿病 運動が糖尿病患者に与える影響を学ぶ
第 11 回	生活習慣病予防のための運動療法（３）高血圧 運動が高血圧患者に与える影響を学ぶ
第 12 回	生活習慣病予防のための運動療法（４）脂質異常症 運動が高脂血症患者に与える影響を学ぶ
第 13 回	健康の維持増進に関する行政の取り組みおよび指針（１）日本の取り組み 日本におけるヘルスプロモーションの取り組みを学ぶ
第 14 回	健康の維持増進に関する行政の取り組みおよび指針（２）福島県の取り組み 福島県におけるヘルスプロモーションの取り組みを学ぶ
第 15 回	まとめ 健康と運動についてまとめる
詳細は受講生と相談の上、決定する。	
テキスト	
参考書・参考資料等 田口貞善ほか 健康・運動の科学 講談社 2,200 円	
学生に対する評価 全授業の 2 / 3 以上の出席と授業への積極的な参加を成績評価の条件とする。 授業中におけるテーマの理解（60%）、ディスカッションの内容等（40%）で評価する。	

授業科目名： スポーツバイオメカニクス特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 本嶋 良恵
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 バイオメカニクスの基本的知識を理解していること。 バイオメカニクスの測定・分析方法を理解していること。			
授業の概要 本講義では、バイオメカニクスの測定・分析方法を学ぶとともに、ヒトの運動を理解するためのバイオメカニクスの基本的知識および「走る」「跳ぶ」「投げる」などの基本的な運動のメカニズムに関する知識を基に、データを理解する能力を習得することを目的として、実験実習を取り入れながら授業を展開する。さらに、実際のスポーツ現場への応用方法について、ICTの活用と関連づけて考えていく。			
授業計画 本授業計画は、保健体育の視点を含み構成されている。 第1回：オリエンテーション 第2回：運動学の基礎 第3回：運動力学の基礎 第4回：走動作のバイオメカニクス 第5回：跳動作のバイオメカニクス 第6回：投動作のバイオメカニクス 第7回：データ分析の基礎 第8回：地面反力計測の実践 第9回：地面反力の観察 第10回：動作計測の基礎（動作計測の種類や方法について） 第11回：動作計測の実践（ハイスピードカメラを用いた動作計測の実践） 第12回：動作分析の基礎（動作分析の方法や手順について） 第13回：動作分析の実践（撮影した映像を用いた動作分析の実践） 第14回：ICTを活用した動作分析 第15回：分析データの発表・まとめ 定期試験は実施しない。			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

「バイオメカニクス 身体運動の科学的基礎」金子公宥・福永哲夫（杏林書院）

「バイオメカニクス 人体運動の力学と制御 原著第4版」David A. Winter，翻訳：長野明紀・吉岡伸輔（ラウンドフラット）

学生に対する評価

基本知識の理解度，測定・分析方法の理解度，授業中の取り組み，プレゼンテーションにより総合的に評価する．

授業科目名： 運動学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 本嶋 良恵
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 運動学の基本的知識を理解していること． 運動学の知識をもとに，運動指導を行う能力を身につけていること．			
授業の概要 本講義では，運動を習得し，修正し，自動化するまでの運動習得・習熟過程について理解することを目的として授業を展開する．受講学生自身の経験を振り返り，考えることで，理解を深める．さらに，運動指導においては，指導者は学習者の運動の微妙な違いを瞬時に評価するための「運動を見抜く力」や「運動共感能力」が求められるため，運動観察について知識を学ぶとともに，演習を通して運動観察力を身につけることを目指す．			
授業計画 本授業計画は，保健体育の視点を含み構成されている． 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：質的評価と量的評価 第 3 回：運動フィードバックの実践 第 4 回：運動フィードバックの振り返り 第 5 回：身体の発育発達と運動の発達 第 6 回：運動類縁性 第 7 回：類縁運動を考える 第 8 回：習熟位相 第 9 回：運動観察 第 1 0 回：動感画を活用した運動観察の実践 第 1 1 回：運動観察の振り返り 第 1 2 回：身体知と指導能力 第 1 3 回：身体知と競技力 第 1 4 回：スポーツ運動学領域の研究 第 1 5 回：まとめ 定期試験は実施しない．			

テキスト なし
参考書・参考資料等 「スポーツ運動学」金子明友（明和出版） 「身体知の構造」金子明友（明和出版）
学生に対する評価 基本知識の理解度，授業中の取り組み，レポートにより総合的に評価する．

授業科目名： 運動生理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 安田俊広
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
生理学，運動生理学の知識を基礎として，身近な現象について理解することが出来る． 運動による生体の反応，適応変化を遺伝子レベルから個体レベルで考察できる． 運動時の生体の反応について生理，生化学分野の基礎的知見を有し，これらを基礎として体力の向上に対して適切に対処できる			
授業の概要			
本講義では，大学で学んだ生理学，運動生理学の知識を基礎として，より深化発展させた内容を行う．運動による生体の反応，適応変化を遺伝子レベルから個体レベルで考察できるようになることを目的とする．具体的には，遺伝子とタンパク発現，運動時の遺伝子発現と情報伝達系の変化，運動パフォーマンス向上に関係する細胞内情報伝達系，健康の維持増進を目的とした運動を生理，生化学的にとらえる，筋の萎縮と肥大，等のテーマについて学ぶ．講義は理論を基礎とするが，理解を助けるために必要に応じて実験実習を行う． 運動時の生体の反応について生理，生化学分野の基礎的知見を有し，これらを基礎として体力の向上に対して適切に対処できることをねらいとする			
授業計画			
本授業計画は，本授業計画は、保健体育の視点を含み構成されている			
第1回：遺伝子とタンパク発現			
遺伝子とタンパク発現の基礎について理解する			
第2回：運動時の遺伝子発現と情報伝達系			
遺伝子発現と情報伝達経路の基礎について運動時の事象について学ぶ			
第3回：競技力向上に寄与するタンパク発現と細胞内情報伝達系（筋力）			
筋力向上に関係する細胞内情報伝達について理解する			
第4回：競技力向上に寄与するタンパク発現と細胞内情報伝達系（持久力）			
有酸素能力における細胞内情報伝達について理解する			
第5回：運動による健康の維持増進に関与するタンパク発現と細胞内情報伝達（肥満）			
肥満に関係するタンパクと細胞内情報伝達について理解する			
第6回：運動による健康の維持増進に関与するタンパク発現と細胞内情報伝達（糖尿病）			

糖尿病に関係するタンパクと細胞内情報伝達について理解する 第7回：運動による健康の維持増進に關与するタンパク発現と細胞内情報伝達（血管系と血圧） 血圧に関係するタンパクと細胞内情報伝達について理解する 第8回：骨格筋の肥大に關する細胞内情報伝達系 筋の肥大における細胞内情報伝達について理解する 第9回：骨格筋の萎縮に關する細胞内情報伝達系 筋の萎縮における細胞内情報伝達について理解する 第10回：運動がエネルギー代謝に与える影響について（理論） 一過性および慢性的な運動とATP再合成経路について理解する 第11回：運動がエネルギー代謝に与える影響について（実験） ATP再合成経路について実験を行う 第12回：発育期における生体の変化と運動の影響 発育期の生体の変化と運動との関わりについて理解する 第13回：加齢に伴う生体の変化と運動の効果（骨および筋） 加齢に伴う生体の変化と運動との関わりについて骨と筋を中心に理解する 第14回：加齢に伴う生体の変化と運動の効果（呼吸・循環系） 加齢に伴う生体の変化と運動との関わりについて呼吸・循環系を中心に理解する 第15回：運動生理学の観点からのまとめ 本講義のまとめを行い、現代の健康問題と運動との関わりについて検討する 定期試験
テキスト
参考書・参考資料等 運動生理学20講（朝倉書店），ステップアップ運動生理学（杏林書院）
学生に対する評価 運動生理学の知識と健康・競技への応用方法について理解しているか？ 学習態度や発表の方法も含めて総合的に評価する

授業科目名： 健康指導特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 安田俊広
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
運動パフォーマンス向上および健康の維持増進のためにどのような運動が適切であるのかについて理解している． 運動生理学を中心とした論文を読み最近の研究成果について理解している 健康運動指導やコーチングに必要とされる測定方法，評価について理解している． 健康の維持増進を目的とした運動指導について理解し，評価することができる			
授業の概要			
主指導教員のもとで，院生の研究計画，問題意識，興味関心，さらには現代における運動と健康に関する諸課題などを運動生理学の立場から追究し，スポーツ・芸術文化コースにふさわしい修了研究のテーマ，及び研究方法を決定する。また，大学院における一般的な研究のあり方やカリキュラムの組み立て方，過去のスポーツ・芸術文化コースの研究テーマ，先行研究の調査等を行いながら，院生としてのライフスタイルを組み立てる。運動生理学に関する文献講読や運動指導現場への調査研究を行い，問題意識や研究テーマを確固たるものにしてゆく． 現代における運動と健康に関する諸課題などを追究しながら，スポーツ・芸術文化コースにふさわしい修了研究のテーマを決め調査を進める			
授業計画			
本授業計画は，保健体育および健康指導の視点を含み構成されている 第 1 回：運動に伴う生体の変化（エネルギー代謝） エネルギー代謝とその測定法について理解する 第 2 回：運動に伴う生体の変化（骨格筋） 運動に伴う骨格筋の変化とその評価法について理解する 第 3 回：運動に伴う生体の変化（呼吸循環器系） 運動に伴う呼吸循環器系の変化とその評価法について理解する 第 4 回：運動不足に伴う生体の変化（エネルギー代謝） 不活動に伴うエネルギー代謝の変化とその評価法について理解する 第 5 回：運動不足に伴う生体の変化（骨格筋） 不活動に伴う骨格筋の変化とその評価法について理解する			

第6回：運動不足に伴う生体の変化（呼吸循環器系） 不活動に伴う呼吸循環器系の変化とその評価法について理解する 第7回：運動指導に関する最近の知見について（子どもを対象とした内容を取り扱う） 子どもを対象とした運動指導の方法と課題について扱う 第8回：運動指導に関する最近の知見について（中高年を対象とした内容を取り扱う） 中高年を対象とした運動指導の方法と課題について扱う 第9回：運動指導に関する最近の知見について（高齢者を対象とした内容を取り扱う） 高齢者を対象とした運動指導の方法と課題について扱う 第10回：運動指導の現場見学（健常中高年を対象としたトレーニング施設） 中高年を対象とした運動施設の見学 第11回：運動指導の現場見学（糖尿病等、有疾患者を対象としたトレーニング施設） 有疾患者を対象とした運動指導現場の見学 第12回：運動指導の現場見学（高齢者を対象としたトレーニング施設） 高齢者を対象とした運動指導現場の見学 第13回：体力測定の方法について 体力の評価とその実施方法について学ぶ 第14回：体力測定の評価について 体力の評価とその実施方法について実技を中心に学ぶ 第15回：運動生理学分野全体のまとめ 本講義のまとめを行い、運動生理学の観点から健康問題問題について検討する 定期試験
テキスト
参考書・参考資料等 健康のためのスポーツ生理学（光生館）
学生に対する評価 運動生理学の知識と健康・競技への応用方法について理解しているか？ 学習態度や発表の方法も含めて総合的に評価する

授業科目名：武道文化特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：竹田隆一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：武道文化の特性の理解			
到達目標：スポーツとの相違を理解する。			
授業の概要			
武道は闘争を起源にもつ伝統的日本の運動文化である。歴史の過程で仏教や神道、道教、儒教の影響を受け成立したものであり、独自の運動学習論が展開されている。その独自性を修行、道ととらえ、そこから派生した稽古や型の考え方等の独自の精神性を論じ、さらに、武道の国際化についてもふれる。これらを通して、武道の歴史や精神性等を学習し、武道の独自性を理解することを目的とする。なお、毎時間配布する資料がテキストになります。			
授業計画			
本授業計画は、保健体育の視点を含み構成されている。			
第 1 回：授業ガイダンス			
授業の全体計画とテキストの概要を紹介する。			
第 2 回： 武道の歴史（ 1 ）			
起源から近世までの歴史を講義する。			
第 3 回： 武道の歴史（ 2 ）			
近世から現代までの歴史を講義する。			
第 4 回： 武道とは			
名辞「 武道 」について講義する。			
第 5 回： 武士道とは、			
武士道概念の変遷と新渡戸稲造の「 武士道 」について講義する。			
第 6 回： 修行とは、			
武道の中心概念である修業について、その由来と運動文化との関連について講義する。			
第 7 回： 稽古とは、			
名辞「 稽古 」の由来と歴史について講義する。			
第 8 回： 型とは、			

日本の伝統的運動学習法である型について、運動学視点から意味を講義する。 第9回：精神性とは、 武道の特徴である精神性について講義する。 第10回：無心とは（仏教） 「不動智神妙録」を取り上げて解説する。 第11回：無心とは、（道教） 「猫の妙術」を取り上げて解説する。 第12回：剣道論 剣道に焦点を絞り、その歴史と特性について講義する。 第13回：柔道論 柔道に焦点を絞り、その歴史と特性について講義する。 第14回：武道の国際化について 武道の特性を海外剣士はどのように感じているのか。海外アンケートをもとに講義する。 第15回：まとめ これまでの講義をふまえ、武道の特性とその現代的意義について総括する。	テキスト 使用しない。プリントを配布する。
参考書・参考資料等 中林信二「武道のすすめ」中林信二遺稿刊行会	学生に対する評価 授業における質問への回答等から内容理解度を評価するとともに、発言等から授業参加態度を評価する。

授業科目名：武道文化特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹田隆一
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：武道文化についての理解を深め、その意義を検討する。			
到達目標：武道文化の特性を理解し、現代社会にどのように生かしていくかについて検討し、明らかにする。			
授業の概要			
本演習は、日本の伝統的運動文化である武道の伝書を中心に講読することにより、その文化的特性を理解する。その理解を基に、現代スポーツ、あるいは現代社会における文化的意義について検討し、明らかにすることを目的とする。したがって、本演習は伝書についての講義とその意義についての検討・議論が中心となる。講読する伝書は、いずれも著名な武道書である。風姿花伝は能楽の伝書であるが、その運動学習理論は武道の源流をなすものである。不動智神妙録は、禅宗の考え方から剣術の技術をとらえたものである。兵法花伝書、五輪書、一刀斎先生剣法書は三大武芸伝書といわれ、流派の精神を説いたものである。猫の妙術と天狗芸術論は、剣術を老荘思想で説いたものである。さらに、現代における武道に関する論文を講読する。なお、演習で使用する文献資料はこちらで準備します。			
本授業計画は、保健体育の視点を含み構成されている。			
第1回：授業ガイダンス			
授業の全体計画とテキストの概要を紹介する。			
第2回：風姿花伝			
伝統的運動学習理論について議論する。			
第3回：不動智神妙録			
無心とは何かについて議論する。			
第4回：兵法花伝書			
柳生の兵法観について議論する。			
第5回：五輪書（1）			
武道における努力主義・求道性について議論する。			
第6回：五輪書（2）			
武蔵の運動観察について議論する。			
第7回：一刀斎先生剣法書			
儒教の影響をうけた慣用語の理解について議論する。			

第 8 回：猫の妙術（１）

無為自然について議論する。

第 9 回：猫の妙術（２）

指導者象について議論する。

第 10 回：天狗芸術論

心術について里香氏、議論する。

第 11 回：常静子剣談

五輪書、兵法花伝書と比較し、時代による武道観の相違を議論する。

第 12 回：武士道

日本人の底流に流れる精神性について理解し、議論する。

第 13 回：極東の戦闘術（ドイツ論文）

西欧人から見た武道論に触れ、あらためて武道の意義について議論する。

第 14 回：失いたくない日本の独自性

日本の伝統性について理解し、その理論について議論する。

第 15 回：総括

これまでの議論についてまとめ、総括する。

テキスト

参考書・参考資料等

湯浅晃「武道伝書を読む」日本武道館

吉田豊「武道秘伝書」徳間書店

学生に対する評価

授業における議論の発言内容等により評価する。

授業科目名： 食品科学特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 熊谷武久
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
食品の機能に関して、研究レベルの知見を基にその理解を深める				
到達目標				
・食品の一次機能としての栄養機能、各栄養成分の種類と構造、栄養価、働きについて修得する。				
・食品の二次機能の嗜好性に関わる主な食品成分について修得する。				
・食品の三次機能とは疾病予防や健康増進などの生体調節機能であり、機能性成分の働きについて修得する。				
授業の概要				
食品には安全性を前提として、大きく3つの機能がある。 エネルギー、炭水化物、脂質、たんぱく質ミネラル、ビタミンなどの栄養機能、 味、香り、テクスチャーなどの嗜好機能、 生体防御、体リズム調節、老化防止、疾病の防止、病気の回復などの生体調節機能が挙げられる。				
本授業では、食品成分の化学的性質、機能性について、その背景にある研究論文等を基に専門的な理解を深め、農産物から食品を科学的視点から捉えることを目的とする。具体的にそれぞれの機能を有する食品（農産物、加工食品）を例に取り上げ、社会的背景（消費者ニーズなど）、化学的性質、機能のメカニズム、その食品の意義（商品コンセプト）などに関連する文献等を活用しながら学ぶ。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション、第1章 人間と食品 第2章 食品の一次機能：概論、炭水化物（糖質）				
第2回：第2章 食品の一次機能：炭水化物（糖質、食物繊維）				
第3回：第2章 食品の一次機能：脂質				
第4回：第2章 食品の一次機能：たんぱく質（代謝、栄養価等）				
第5回：第2章 食品の一次機能：たんぱく質（ライフサイクルによる変化等）				
第6回：第2章 食品の一次機能：ビタミン、ミネラル（第5章の一部を含む）				
第7回：第3章 食品の二次機能：概論、色素成分、呈味成分など（第6章の一部を含む）				
第8回：第4章 食品の三次機能：概論、第7章 食品の表示と規格基準				
第9回：第4章 食品の三次機能：おなかの調子を整える食品など				
第10回：第4章 食品の三次機能：虫歯の原因になりにくい食品など				
第11回：第4章 食品の三次機能：血圧が気になる方及び血糖値が気になる方のための食品など				

第12回：免疫について（プリント） 第13回：抗アレルギー食品について（プリント） 第14回：免疫賦活効果がある食品について（プリント） 第15回：講義重点内容の要約 定期試験
テキスト 食品学（羊土社）、教科書以外の部分はプリントを配布する。関連する文献等は適宜指示する。
参考書・参考資料等 応用栄養学（講談社）、エッセンシャル免疫学（メディカルサイエンスインターナショナル）
学生に対する評価 授業への積極的な取り組み 30%、定期試験及びレポート提出 70%

授業科目名： 食物学研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 熊谷武久 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 食物学に関する新しい研究知見が社会生活にどのように関わっているかを深く科学的にとらえる。 到達目標 ・ 研究の背景や研究手法などを理解している。 ・ 研究結果と関連する課題について理解している。 ・ 社会生活との関わり、発展性を理解している。			
授業の概要 食物学に関する研究の新しい知見やこれからの課題を自ら見いだしながら、研究の全体像を捉えることをねらいとする。また、食品に関する特定のテーマの研究であっても、社会的な食品の課題へのつながりを見通すことをめざす。 本授業では、食物学分野の文献、特に健康機能に関わるものを講読し、それをもとに内容についての解説と議論を行う。議論を通して、食物学分野の研究の背景や課題、手法などの理解を深めるとともに、現代の社会生活における食品に関する課題への関連や発展性を考える。			
授業計画 本授業計画は食品学及び栄養学の視点を含み構成されている。 第1回：ガイダンス 授業計画、進め方などの説明、評価方法の確認などを行う。 第2回：文献の選定 食物学に関する複数の文献の概略から、講読する文献を選定する。 第3回：内容の理解（1）用語の理解 文献の講読をもとに専門用語等の理解を深める。 第4回：内容の理解（2）研究方法の理解 文献中の研究方法について理解を深める。 第5回：内容の理解（3）結果の理解 文献中で示された結果とその意味を理解する。 第6回：関連資料の収集と検討（1） 文献中の引用文献をもとに関連事項を検討する。 第7回：関連資料の収集と検討（2）			

食物学以外の分野を中心に関連した事項を検討する。 第8回：内容に関する議論（1） 文献を中心にその研究内容について考える。 第9回：内容に関する議論（2） 食物学以外の関連分野の資料から研究内容を捉え直す。 第10回：内容に関する議論（3） 研究の発展性や社会生活に対する影響などを考える。 第11回：関連資料の収集と検討（3） 補足資料を検討し文献内容の理解を深める。 第12回：レポート内容の構想 レポート作成に向けて、授業内容のまとめを行う。 第13回：レポートの作成（1） 授業内容のまとめをもとにレポートの構成を検討する。 第14回：レポートの作成（2） 研究全体を捉えた内容の検討を行う。 第15回：最終報告とまとめ レポートをもとにした最終報告を行う。	
テキスト 適宜プリントを配布する。	
参考書・参考資料等 食品学（羊土社）、機能性食品学（コロナ）、分子栄養学（羊土社）、Rでできるビジュアル統計学（金芳堂）、エクセル統計（オーエムエス）	
学生に対する評価 授業への積極的な取り組み 30%、レポート 70%	

授業科目名： 食生活特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中村恵子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
現代の日本の食生活における諸問題を、調理科学的な視点から分析しなおし、食生活を営む人間の立場からとらえ直すことをとおして、課題を発見し探究する能力を身につけることを目標とする。			
授業の概要			
本授業では、受講生の興味や関心・修了研究のテーマ・修了後の進路などを勘案しながら、現代の日本の食生活における諸問題を授業テーマに設定する。最近の調理科学における話題等を入れながら、授業は主として講義形式ですすめるが、学生同士や教員とのディスカッションも適宜取り入れる。			
授業計画			
本授業では、日本の食生活における諸問題を調理科学的な視点から分析・検討する。			
第 1 回：食物学に関連する学問分野と授業計画について			
食品学・栄養学・調理学及びその他関連する学問領域の体系について概観する			
第 2 回：現代の日本の食生活の状況（１）生産・加工・流通の現状			
食の生産・加工・流通における現状及び問題点について解説する			
第 3 回：現代の日本の食生活の状況（２）調理・供食・廃棄の現状			
調理・廃棄における現状及び問題点、食文化・食生活について解説する			
第 4 回：授業テーマの設定			
１～３回の授業をふまえ、ディスカッションを通して授業テーマを設定する			
第 5 回：調理と健康（１）栄養成分			
食品の栄養成分と調理・加工に伴う消長、献立について解説する			
第 6 回：調理と健康（２）機能性成分			
食品の機能成分と表示や食情報のあり方について解説する			
第 7 回：調理と食品の選択（１）加工・製造			
食品の特性に応じた調理及び加工の原理について解説する			
第 8 回：調理と食品の選択（２）流通・販売			
現代の日本における加工食品の製造・流通・販売について解説する			

第 9 回：調理と食生活（ 1 ）食生活のあり方

調理と食文化について、時間軸と空間軸から解説する

第 10 回：調理と食生活（ 2 ）生活の中の食

現代の食生活のあり方について解説する

第 11 回：これからの日本の食生活について（ 1 ）地域における食生活

地産地消・郷土食をキーワードに食生活について解説する

第 12 回：これからの日本の食生活について（ 2 ）国際社会における食生活

食料自給率・持続可能な食生活などをキーワードに食生活について解説する

第 13 回：これからの日本の食生活に関するディスカッション（ 1 ）課題の抽出

教員・学生間でのディスカッションを通して問題点を探る

第 14 回：これからの日本の食生活に関するディスカッション（ 2 ）解決策の模索

教員・学生間でのディスカッションを通して解決策を探る

第 15 回：レポートの作成

以上の授業をふまえて、レポートを作成する

テキスト

教科書等は使用しない。必要に応じて資料を配付する。

参考書・参考資料等

授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

授業内での議論の内容や提出されたレポートにより評価する。

授業科目名： 食生活支援研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中村恵子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業では、食生活分野における地域支援エキスパートとして、食品学・栄養学・調理学などで培った知識や技能をもとに、その地域の実情にあわせた食生活を支援するための能力を身につけることを目標とする。			
本授業では、学生の興味や関心、修了後の進路希望、修了研究のテーマなどから、学生各自で食生活支援をする対象（幼児から高齢者）と場面（具体的な地域や立場）を設定する。実践事例研究や実地調査等を行いながら、その地域における特徴的な農林水産物、郷土料理、食事文化などを発掘し、対象者特有の食生活上の問題や課題を整理する。各自の食生活支援プログラムを作成し、発表や討論を経て、レポートにまとめる。 では主として、現代の日本人の食事や健康に関するテーマを扱う。			
授業計画			
本授業では、小・中・高等学校における家庭科教育の内容を参考にしながら、プログラムを作成する。			
第 1 回：現代の日本の食生活状況と課題 1 現代の日本の食事状況に関する諸課題について解説する			
第 2 回：現代の日本の食生活状況と課題 2 現代の日本の健康状況に関する諸課題について解説する			
第 3 回：地域における食生活支援の考え方 地域の食生活状況をふまえるための視点について解説する			
第 4 回：食生活支援のテーマ設定 学生の興味や関心・修了研究の内容などに沿ったテーマを設定する			
第 5 回：調査方法について 食生活支援のための実践事例研究や実地調査の手法について紹介する			
第 6 回：資料収集・実地調査（ 1 ） 各自の対象地域の産業・生産物等について調査する			
第 7 回：資料収集・実地調査（ 2 ） 各自の対象地域の食生活状況について調査する			

第 8 回：資料収集・実地調査（ 3 ）

各自の対象者の健康状態について調査する

第 9 回：中間報告（ 1 ）

第 6 ～ 8 回の内容をまとめて報告する

第 10 回：中間報告（ 2 ）

報告内容に沿って学生・教員間で討論する

第 11 回：実践事例研究（ 1 ）

地方公共団体・民間団体等における食生活支援について調査・発表する

第 12 回：実践事例研究（ 2 ）

学校教育・社会教育等における食生活支援について調査・発表する

第 13 回：食生活支援プログラムの報告（ 1 ）

各自の食生活支援プログラムを作成する

第 14 回：食生活支援プログラムの報告（ 2 ）

各自の食生活支援プログラムを発表・討論する

第 15 回：レポート作成

各自でレポートを作成する

テキスト

教科書等は使用しない。必要に応じて資料を配付する。

参考書・参考資料等

授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

授業内での議論の内容や提出されたレポートにより評価する。

授業科目名： 食生活支援研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中村恵子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、食生活分野における地域支援エキスパートとして、食品学・栄養学・調理学などで培った知識や技能をもとに、その地域の実情にあわせた食生活を支援するための能力を身につけることを目標とする。			
授業の概要 本授業では、学生の興味や関心、修了後の進路希望、修了研究のテーマなどから、学生各自で食生活支援をする対象（幼児から高齢者）と場面（具体的な地域や立場）を設定する。実践事例研究や実地調査等を行いながら、その地域における特徴的な農林水産物、郷土料理、食事文化などを発掘し、対象者特有の食生活上の問題や課題を整理する。各自の食生活支援プログラムを作成し、発表や討論を経て、レポートにまとめる。 では主として、食文化や食育に関するテーマを扱う			
授業計画 本授業では、小・中・高等学校における家庭科教育の内容を参考にしながら、プログラムを作成する。 第1回：日本の食生活と食育について 日本の食生活状況と食育について解説する 第2回：地域における食生活と食文化について 地産地消や郷土の食文化などについて解説する 第3回：地域における食生活支援の考え方 地域の食生活状況をふまえるための視点について解説する 第4回：食生活支援のテーマ設定 学生の興味や関心・修了研究の内容などに沿ったテーマを設定する 第5回：調査方法について 食生活支援のための実践事例研究や実地調査の手法について紹介する 第6回：資料収集・実地調査（1） 各自の対象地域の食生活状況について調査する 第7回：資料収集・実地調査（2）			

各自の対象地域の食文化について調査する 第 8 回：資料収集・実地調査（ 3 ） 各自の対象者の食育の実施状況について調査する 第 9 回：中間報告（ 1 ） 第 6 ～ 8 回の内容をまとめて報告する 第 1 0 回：中間報告（ 2 ） 報告内容に沿って学生・教員間で討論する 第 1 1 回：実践事例研究（ 1 ） 地方公共団体・民間団体等における食生活支援について調査・発表する 第 1 2 回：実践事例研究（ 2 ） 学校教育・社会教育等における食生活支援について調査・発表する 第 1 3 回：食生活支援プログラムの報告（ 1 ） 各自の食生活支援プログラムを作成する 第 1 4 回：食生活支援プログラムの報告（ 2 ） 各自の食生活支援プログラムを発表・討論する 第 1 5 回：レポート作成 各自でレポートを作成する
テキスト 教科書等は使用しない。必要に応じて資料を配付する。
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介する。
学生に対する評価 授業内での議論の内容や提出されたレポートにより評価する。

授業科目名： 衣生活特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 千葉桂子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
現代社会には、一人ひとりの生活の質の向上のためには衣生活に関わる多くの課題があり、その解決が求められている。本授業ではそれらの課題解決に資する知識を習得することをめざす。到達目標は、以下の通りである。１．現代の衣生活に至るまでの背景と問題点について理解できる。２．衣服の生産・消費・廃棄における課題について説明できる。３．社会の変化と衣生活における課題について理解し、今後のあり方について考えを持つことができる。			
授業の概要			
明治時代以降、現代にいたるまでの衣生活の変容について、衣服生産、衣服の流行と選択、衣服産業の課題、子どもと高齢者を対象とした衣服に対するニーズ等を中心に解説する。さらに、持続可能社会の形成及びユニバーサル社会形成のために、これからの衣生活のあり方について検討する。			
授業計画			
第１回：オリエンテーション 授業の計画等について説明する。			
第２回：日本社会における衣服の洋装化 現代の衣生活に至るまでの特に明治～昭和初期の歴史的変化について解説する。			
第３回：衣服の洋装化と生活の変容 現代の衣生活に至るまでの特に戦後～現在の歴史的変化について解説する。			
第４回：衣服生産の現状（１）高度経済成長期以前 既製服産業確立前の衣服の生産について解説する。			
第５回：衣服生産の現状（２）既製服生産システムの変化 既製服産業における縫製加工技術の進化について解説する。			
第６回：衣服の流行と選択（１）衣服の流行を生み出す要因 衣服の流行を生み出す要因と消費者の選択行動について解説する。			
第７回：衣服の流行と選択（２）流行と流通 衣服の流行と流通の現状について解説する。			
第８回：衣服産業の課題について			

衣服産業が抱えている課題「大量生産・大量消費・大量廃棄」について解説する。

第 9 回：子どもの成長と衣服（ 1 ）子どもの身体的成長と衣服サイズ

子どもの身体的成長と衣服サイズについて解説する。

第 10 回：子どもの成長と衣服（ 2 ）年齢別デザインニーズ

子どもの成長に合わせた年齢別デザインニーズについて解説する。

第 11 回：高齢化社会と衣服（ 1 ）加齢に伴う身体の変化

加齢に伴う身体の変化と衣服設計について解説する。

第 12 回：高齢化社会と衣服（ 2 ）高齢者の身体特性に基づく衣服デザイン

高齢者の身体特性に基づく衣服デザインについて解説する。

第 13 回：これからの衣生活のあり方（ 1 ）持続可能社会の形成と衣生活

持続可能社会の形成に資する衣生活のあり方について解説する。

第 14 回：これからの衣生活のあり方（ 2 ）ユニバーサル社会形成の観点から

衣生活におけるユニバーサルデザインの可能性について解説する。

第 15 回：全体のまとめ

これまでの授業をふり返り、これからの衣生活のあり方について考える。

テキスト

特に指定しない。必要に応じて紹介する。

参考書・参考資料等

富田明美編著「新版アパレル構成学」（朝倉書店）、被服学に関わる学会論文等

学生に対する評価

授業の準備と授業内の発表状況（ 50% ）、提出したレポートの内容（ 50% ）によって総合的に評価する。

授業科目名： 衣生活支援研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 千葉桂子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
自立した生活をめざす上で、衣服の選択や着装などは個人のアイデンティティに深く関わっている。また、持続可能な社会形成のために、衣服の生産・消費・廃棄及び再使用・再利用における課題は急務である。衣生活支援 ． では、これらの課題について検討すると共に衣生活を支援するために必要な知識・技術について理解することをテーマとしている。特に、衣生活支援研究 では、自立した衣生活のあり方を中心とする。到達目標は、以下の通りである。 1 ． 自立した生活のために衣生活の立場から重要な事項を整理し、理解することができる。 2 ． 子どもや高齢者および障害者の衣生活における問題点を把握し、分析できる。 3 ． 支援のための具体的なプランを作成することができる。			
授業の概要			
本授業では、自立のための衣生活支援に必要な知識・技術を、基礎的なものから、より実践的なものとして展開させ習得するために、関連資料の調査、文献講読等により検討する。さらに子ども、高齢者及び障害者を対象とした衣生活の実態をとらえて課題を分析し、具体的な支援の方策について検討する。それを踏まえて衣生活支援の実践例を検討し、具体的な支援方法についてプランを作成する。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション			
授業の計画について説明するとともに、衣生活の課題について考える。			
第 2 回：自立とライフスタイル			
衣生活の視点から自立とライフスタイルの確立について考える。			
第 3 回：ユニバーサルデザインとは			
ユニバーサルデザイン誕生の背景と基本原則について考える。			
第 4 回：衣服とユニバーサルデザイン（ 1 ）着脱の観点から			
衣服設計におけるユニバーサルデザイン導入について考える。			
第 5 回：衣服とユニバーサルデザイン（ 2 ）共用性の観点から			
障害の有無を乗り越えるための既製服業界の取り組みの現状について調べて整理する。			
第 6 回：子ども服の機能と安全性（ 1 ）身体機能の観点から			

子ども服のあり方について身体機能の発達の観点から考える。 第7回：子ども服の機能と安全性（2）自立の観点から 子ども服の安全性について情報収集および分析をする。 第8回：高齢者の健康と衣服（1）運動機能性の観点から 加齢に伴う運動機能性の変化を中心に高齢者のための衣服設計について考える。 第9回：高齢者の健康と衣服（2）衣服の着装による心理的效果 主に衣服の色彩効果について簡単な実験を行いながら学習する。 第10回：障害者の衣生活の実態と支援（1）障害者の衣生活の実態 障害者の衣生活の実態について考える。 第11回：障害者の衣生活の実態と支援（2）介護に求められる衣服の工夫 介護に求められる衣服の工夫や着脱の介助方法における支援方法を検討する。 第12回：衣生活支援の実践例研究（1）障害児の実態に対応して 障害児の衣生活の実態を捉え、その支援方法の提案について検討する。 第13回：衣生活支援の実践例研究（2）地域の高齢者・障害者の実態に対応して 高齢者・障害者の衣生活の実態を捉え、その支援方法の提案について検討する。 第14回：衣生活支援の方法提案 支援方法のプランについて発表し、ディスカッションする。 第15回：衣生活支援の今後の課題 これまでの授業をふり返し、衣生活支援の今後の課題について整理する。
テキスト 特に指定しない。必要に応じて紹介する。
参考書・参考資料等 見寺貞子・笹崎綾野著「ユニバーサルファッション」（（株）シナリオパブリッシングプレス）、被服学に関わる学会論文等
学生に対する評価 授業の準備と授業内の発表状況（50%）、提出したレポートの内容（50%）によって総合的に評価する。

授業科目名： 衣生活支援研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 千葉桂子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
自立した生活をめざす上で、衣服の選択や着装などは個人のアイデンティティに深く関わっている。また、持続可能な社会形成のために、衣服の生産～廃棄及び再使用・再利用における課題解決は急務である。衣生活支援 ・ では、これらの課題について検討すると共に衣生活を支援するために必要な知識・技術について理解することをテーマとしている。特に、衣生活支援研究 では、持続可能な社会形成に資する衣生活のあり方を中心とする。到達目標は、以下の通りである。１．持続可能社会形成のために衣生活における重要な事項を整理し、理解することができる。２．現代の衣服生産・消費・廃棄及び再使用・再利用における問題点を把握し、分析できる。３．支援のための具体的なプランを作成することができる。			
授業の概要			
本授業では、持続可能な社会形成に資する衣生活支援に必要な知識・技術を、基礎的なものから、より実践的なものとして展開させ習得するために、関連資料の調査、文献講読等により検討する。さらに、地域における衣生活の実態をとらえて課題を分析し、具体的な支援の方策について検討する。それを踏まえて衣生活支援の実践例を検討し、具体的な支援方法についてプランを作成する。			
授業計画			
第１回：オリエンテーション 授業の計画について説明するとともに、衣生活の課題について考える。			
第２回：天然繊維生産の現状と課題（１）綿に着目して 従来の綿とオーガニックコットン生産の現状について捉え、環境負荷軽減の課題について考える。			
第３回：天然繊維生産の現状と課題（２）毛に着目して 新毛生産の現状とリサイクルによる古毛生産の現状についてとらえ、課題について考える。			
第４回：天然繊維生産の現状と課題（３）麻に着目して 福島県会津地方で行われている苧麻生産の歴史と現状についてとらえ、継承のための課題について考える。			
第５回：天然繊維生産の現状と課題（４）絹に着目して			

福島県東北地域で行われている絹生産の歴史と現状についてとらえ、需要拡大の課題について考える。

第6回：化学繊維生産の現状と課題（1）限りある資源の利用

三大合成繊維（ポリエステル、ナイロン、アクリル）の需要と供給の現状についてとらえ、資源の循環について考える。

第7回：衣服生産の現状と課題（1）ファストファッション台頭による影響

従来の既製服生産とファストファッション生産を比較し、消費者の衣生活への影響について考える。

第8回：衣服生産の現状と課題（2）持続可能な社会形成をめざすアパレル産業の取り組み

衣服生産におけるフェアトレードの現状についてとらえ、推進するための課題について考える。

第9回：衣服生産の現状と課題（2）国産ニーズの高まりへの対応

衣服の国内生産ニーズの現状をとらえ、それに対する企業・地域の取り組みについて考える。

第10回：衣服廃棄の現状と課題（1）環境負荷が大きいアパレル産業

国内外の衣服の大量廃棄の現状について情報収集及び分析をする。

第11回：衣服廃棄の現状と課題（2）近年の再使用・再利用産業の動向

国内外における衣服の再使用・再利用産業の利用状況等についてとらえ、今後の動向について考える。

第12回：衣服の再使用・再利用の現状と課題（1）大量廃棄を避けるシステムとは

衣服のリユース、リサイクル、アップサイクルの現状について調べ、推進のための課題について考える。

第13回：衣服の再使用・再利用の現状と課題（2）消費者として必要な取り組み

地域の衣生活の実態について調べ、課題及び改善の方法について考える。

第14回：持続可能な社会のための衣生活支援の方法提案

支援方法のプランについて発表し、ディスカッションする。

第15回：持続可能な社会形成のための衣生活支援の今後の課題

これまでの授業をふり返り、衣生活支援の今後の課題について整理する。

テキスト

特に指定しない。必要に応じて紹介する。

参考書・参考資料等

エリザベス・L・クライン著、加藤輝美訳「シンプルなクローゼットが地球を救う」（春秋社）、被服学に関わる学会論文等

学生に対する評価

授業の準備と授業内の発表状況（50%）、提出したレポートの内容（50%）によって総合的

に評価する。

授業科目名： 生涯生活マネジメント 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 角間（土田）陽子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 １．クリティカル思考に基づく意思決定によって、生活を主体的に選択・構築し、長期化した 高齢期をも含めてアクティブ・エイジングが実現できる個人のあり方とその生活について理解 する。 ２．生涯にわたって自分らしく、主体的に生きるために必要なライフロング・マネジメント・ スキルを身に付ける。 ３．ライフロング・マネジメント・スキルをもった人材を育成するために必要な知識と方法を 修得する。			
授業の概要 「人生100年時代」を迎えた現代社会では、65歳以上を一律に受動的な弱者でありケアを受ける 存在として捉えるのは妥当ではない。本授業では、クリティカル思考による意思決定を行い、 生活を主体的に選択・構築し、生涯にわたってアクティブ・エイジングが実現できる個人のあ り方とその生活について追究する。自分らしく、主体的に生きるために必要なライフロング・ マネジメント・スキルを涵養するとともに、ライフロング・マネジメント・スキルをもった人 材の育成、他者の生活や地域・社会を支援する方法についても学ぶ。			
授業計画 第１回：オリエンテーション 授業の目標・概要・授業計画等を理解する。 第２回：主体的な生活と「生活主体」について 主体的な生活および「生活主体」に関する概念を学ぶ。 第３回：生活を主体的にマネジメントする意義と必要性 現代の社会状況を踏まえて、生活を主体的にマネジメントする意義について学ぶ。 第４回：ライフロング・マネジメント・デザインについて ライフロング・マネジメント・デザインの方法について学ぶ。 第５回：生活の自立と共生について 生活の自立と共生に関する概念を学ぶ。 第６回：生活の自立と生活環境 生活の自立と共生を可能にする生活環境について学ぶ。			

第7回：意思決定とクリティカル思考の理論

生活を主体的にマネジメントするためのスキルである意思決定とクリティカル思考の理論を学ぶ。

第8回：意思決定とクリティカル思考の実際

意思決定とクリティカル思考のスキルを活用した生活課題への取り組みを学ぶ。

第9回：ライフマネジメントにおける意思決定とクリティカル思考

ライフマネジメントスキルとしての意思決定能力とクリティカル思考力の向上について検討する。

第10回：社会の高齢化とエイジズム

社会の高齢化の背景と実態およびエイジズムの概念と実際について学ぶ。

第11回：生涯発達とエイジング

生涯生活における発達とエイジングについて学ぶ。

第12回：アクティブ・エイジングについて

アクティブ・エイジングの概念と意義について学ぶ。

第13回：生涯生活におけるアクティブ・エイジングの実現1

生涯にわたってアクティブ・エイジングを実現する社会の在り方について学ぶ。

第14回：生涯生活におけるアクティブ・エイジングの実現2

生涯にわたってアクティブ・エイジングを実現する個人のあり方について学ぶ。

第15回：まとめ

本講義のまとめを行う。

テキスト

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。取り上げる文献や先行研究については事前に配布する。

参考書・参考資料等

- 内田伸子編著：誕生から死までのウェルビーイング―老いと死から人間の発達を考える、金子書房（2006）
 - 小田利勝：サクセスフル・エイジングの研究、学文社（2004）
 - (社)日本家政学会生活経営学部会：暮らしをつくりかえる生活経営力（2010）
 - (一社)日本家政学会生活経営学部会：持続可能な社会をつくる生活経営力（2020）
 - E.B. ゼックミスタ & J.E. ジョンソン著、宮元博章・道田泰司・谷口高士・菊池聡訳：クリティカルシンキング入門編、北大路書房（1996）、同実践編（1997）
- その他、授業内でも適宜紹介する。

学生に対する評価

授業への取り組み状況、ディスカッションや提出された課題の内容及びレポート等により総合的に評価する。

授業科目名 国語科教育特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤佐敏
				担当形態： 単独
科 目		教科および教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法 （情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 国語科教育学において、時代の潮流となった研究団体の理論と実践に対する見識を深める。				
授業の概要 国語科教育学の多くの理論と方法論を理解する。具体的には、「単元学習」「読み研」「文芸研」「一読総合法」「分析批評」「読者論」「読者行為論」「読者反応論」等を理解する。				
授業計画 第1回：ガイダンス：学習指導要領の変遷の理解 第2回：単元学習（大村はま実践）の理論と方法の理解 第3回：文芸研（西郷竹彦）の理論と方法の理解 第4回：読み研（大西忠治）の理論と方法の理解 第5回：児言研（一読総合法）の理論と方法の理解 第6回：分析批評（井関義久）の理論と方法の理解 第7回：国語科授業批判（宇佐美寛）の理論の理解 第8回：読者論、読者行為論、読者反応論（田近洵一）の理論の理解 第9回：読者論、読者行為論、読者反応論（山元隆春）の理論の理解 第10回：日本国語教育の古典（垣内松三、西尾實、芦田恵之助）の理解 第11回：読書教育（アニメシオン・リテラチャーサークル・ブックトーク等）の理解 第12回：第三の書く（青木幹勇）の理解 第13回：メディア・リテラシー教育に関する理論の理解（情報機器・情報通信技術の活用を含む） 第14回：メディア・リテラシー教育に関する方法の理解（情報機器・情報通信技術の活用を含む） 第15回：リフレクション 定期試験 様々な理論と方法について説明できるかどうか試験する。				
テキスト なし				
参考書・参考資料等 佐藤佐敏 2017 『国語科授業を変えるアクティブ・リーディング 読みの方略の獲得と 物語の法則の発見』 明治図書				
学生に対する評価 到達目標に達しているかどうかを、試験、授業での発表レポートと授業後のレポートで評価する。				

授業科目名 国語科カリキュラム 特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤佐敏 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 国語科教育学の様々な理論に基づくカリキュラムを理解し、それに 応じたカリキュラムを作成することができる。			
授業の概要 国語科教育学の様々な実践におけるカリキュラムを分析し、実際にその理論に基づいたカ リキュラムを作成する。具体的には「単元学習」「文芸研」「読み研」「分析批評」等を取り上げる。			
授業計画 第1回：ガイダンス：学習指導要領とカリキュラム編成 第2回：単元学習（大村はま実践）のカリキュラムの分析 第3回：単元学習のカリキュラム作成 第4回：文芸研（西郷竹彦実践）のカリキュラムの分析 第5回：読み研（大西忠治実践）のカリキュラムの分析 第6回：文芸研、または読み研に基づいたカリキュラムの作成 第7回：分析批評のカリキュラムの分析 第8回：宇佐美寛の理論に基づくカリキュラムの分析 第9回：分析批評、または宇佐美寛の理論に基づいたカリキュラムの作成 第10回：読者論、読者行為論、読者反応論に基づくカリキュラムの分析 第11回：読者論、読者行為論、読者反応論に基づくカリキュラムの作成 第12回：メディア・リテラシー教育におけるカリキュラムの作成 第13回：メディア・リテラシー教育における機器の活用とその方法の習得 （情報機器・情報通信技術の活用を含む） 第14回：読書活動に関するカリキュラムの作成 第15回：リフレクション 定期試験 様々な実践のカリキュラムの特徴について説明できるか試験する。			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 佐藤佐敏 2017 『国語科授業を変えるアクティブ・リーディング 読み の方略 の獲得と 物語の法則 の発見』 明治図書			
学生に対する評価 到達目標に達しているかどうかを、試験、授業での発表レポートと授業後の レポートで評価する。			

授業科目名 国語科教育実践研究		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤佐敏
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 国語科教育学における実践研究とはどういった研究となるのか、その概要を理解する。				
授業の概要 小学校、中学校、高等学校の国語科教育学における各領域における教育実践論文を取り上げ、それぞれの分析を行う。				
授業計画 第 1 回：教育実践論文の分析（読むことの領域・文学的文章 小学校低学年）（学習指導要領含む） 第 2 回：教育実践論文の分析（読むことの領域・文学的文章 小学校高学年）（学習指導要領含む） 第 3 回：教育実践論文の分析（読むことの領域・説明的文章 小学校低学年）（学習指導要領含む） 第 4 回：教育実践論文の分析（読むことの領域・説明的文章 小学校高学年）（学習指導要領含む） 第 5 回：教育実践論文の分析（読むことの領域・文学的文章 中学校）（学習指導要領含む） 第 6 回：教育実践論文の分析（読むことの領域・説明的文章 中学校）（学習指導要領含む） 第 7 回：教育実践論文の分析（読むことの領域・古典 高等学校）（学習指導要領含む） 第 8 回：教育実践論文の分析（書くことの領域 小学校低学年）（学習指導要領含む） 第 9 回：教育実践論文の分析（書くことの領域 小学校高学年）（学習指導要領含む） 第 1 0 回：教育実践論文の分析（書くことの領域 中学校）（学習指導要領含む） 第 1 1 回：教育実践論文の分析（話すこと・聞くこと領域 小学校）（学習指導要領含む） 第 1 2 回：教育実践論文の分析（話すこと・聞くこと領域 中学校）（学習指導要領含む） 第 1 3 回：教育実践論文の分析（メディア・リテラシー 小学校） （情報機器・情報通信技術の活用を含む） 第 1 4 回：教育実践論文の分析（メディア・リテラシー 中学校） （情報機器・情報通信技術の活用を含む） 第 1 5 回：リフレクション 定期試験 取り上げた教育実践論文について適切に分析できるか試験する。				
テキスト なし				
参考書・参考資料 佐藤佐敏 2021 『国語科の授業を深めるアクティブ・リーディング 読みの方略の獲得と物語の法則の発見』 明治図書				
学生に対する評価 到達目標に達しているかどうかを試験、授業での発表レポートと授業後のレポートで評価する。				

授業科目名 国語科教育実践研究		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤佐敏
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 先進校の教育実践の提案内容を理解したうえで、その実践を客観的かつ的確に分析することができる。				
授業の概要 福島県内の主立った先進校の研究発表会に参加し、その提案授業を参観する。授業記録をとり、これまで習得してきた方法を用いて、授業を分析し、考察する。				
授業計画				
第 1 回：ガイダンス：学習指導要領と教育実践の関連の確認				
第 2 回：先進校の教育実践の参観（石川町立石川小学校研究発表会）				
第 3 回：先進校の教育実践の分析（石川町立石川小学校研究発表会）				
第 4 回：先進校の教育実践の参観（福島大学附属小学校研究発表会）				
第 5 回：先進校の教育実践の分析（福島大学附属小学校研究発表会）				
第 6 回：先進校の教育実践の参観（白河第一小学校研究発表会）				
第 7 回：先進校の教育実践の分析（白河第一小学校研究発表会）				
第 8 回：先進校の教育実践の参観（福島大学附属中学校研究発表会）				
第 9 回：先進校の教育実践の分析（福島大学附属中学校研究発表会）				
第 1 0 回：学校現場の教育実践の参観（いわき市小教研発表会）				
第 1 1 回：学校現場の教育実践の分析（いわき市小教研発表会）				
第 1 2 回：学校現場の教育実践の発表の聴取（郡山市小教研発表を聞いて）				
第 1 3 回：学校現場の教育実践の発表の分析（郡山市小教研発表を聞いて）				
第 1 4 回：先進校の教育実践の整理とまとめ（情報機器・情報通信技術の活用を含む）				
第 1 5 回：リフレクション（情報機器・情報通信技術の活用を含む）				
定期試験 具体的な教育実践を適切に分析できるかを試験する。				
テキスト なし				
参考書・参考資料 佐藤佐敏 2021 『国語科の授業を深めるアクティブ・リーディング 読みの方略 の獲得と 物語の法則 の発見 』 明治図書				
学生に対する評価 到達目標に達しているかどうかを試験と授業後のレポートで評価する。				

授業科目名： 音楽科教育実践研究		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 杉田 政夫
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
音楽科における授業観察の方法論を修得したうえで、福島大学附属学校園の学校公開における先駆的な音楽授業を参与観察する。その際、特に協働的学習やICTの活用法にも着目する。当該授業に関する事後検討会の参加、並びに大学での議論を通じて、今日的な音楽教育実践の動向やあり方、展望と課題に関する認識を深化させることを主たるテーマとする。 授業の到達目標は、以下の通りである。 音楽科の授業観察の方法論を理解している。 教材楽曲、及び指導案についての的確に分析できる。 参与観察した授業について、授業者らと議論できる。 音楽科授業の分析・検討を通じ、自らの実践に活かすことができる。				
授業の概要				
まず、音楽科授業の観察方法について授業映像を視聴しながら学習する。次に、本学の附属小学校・中学校の学校公開で扱われる楽曲について、教材研究や分析を行う。研究授業の指導案を検討したうえで、参与観察を行う。その際、共同的学習やICTがどのように効果的に活用されているかにも注目する。授業者を交えた事後検討会での意見交換、及び大学での議論を通して、音楽科授業実践の在り方や可能性、今後の課題について考察する。				
授業計画				
第 1 回：ガイダンス：音楽科における実践研究の動向				
第 2 回：音楽科教育における授業観察の方法 1 エスノグラフィ				
第 3 回：音楽科教育における授業観察の方法 2 エピソード記述				
第 4 回：音楽科教育における授業観察の方法 3 量的研究手法				
第 5 回：小学校音楽科授業（動画）の「鑑賞」、及び議論				
第 6 回：中学校音楽科授業（動画）の「鑑賞」、及び議論				
第 7 回：附属中学校公開に使用される教材楽曲、及び指導案の分析、検討				
第 8 回：附属小学校公開に使用される教材楽曲、及び指導案の分析、検討				
第 9 回：附属中学校、学校公開での授業観察				
第 1 0 回：授業者を交えた意見交換（附属中学校）				
第 1 1 回：附属小学校、学校公開での授業観察				

第12回：授業者を交えた意見交換（附属小学校）

第13回：大学での授業分析（音楽科における協働学習の実際）

第14回：大学での授業分析（音楽科におけるICTの活用）

第15回：総括（音楽科授業実践、及び授業研究のあり方、可能性、課題の省察）

テキスト

- ・中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・高等学校指導要領（平成30年7月告示 文部科学省）
- ・中学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年6月 文部科学省）
- ・高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編（平成30年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

- ・鯨岡峻『エピソード記述入門』東京大学出版、2005年。
- ・日本音楽教育学会編『音楽教育研究ハンドブック』音楽之友社、2019年。

学生に対する評価

授業、学校公開の事後検討会における議論の積極性30%、授業観察記録20%、授業分析20%、最終レポート30%。

授業科目名： 音楽科教育実践研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉田 政夫
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 福島大学附属小学校・中学校における先進的な音楽授業の参与観察し、それを音楽科学習指導要領と関連付けながら分析、検討することで、小学校、中学校の音楽授業実践のあり方についての考察を深めることを、本授業のテーマとする。 到達目標は、以下の通りである。 音楽科の授業観察の方法論を理解している。 教材楽曲、及び指導案についての的確に分析できる。 参与観察した授業について、授業者らと議論できる。			
授業の概要 音楽科授業研究の動向を把握し、また本学附属小中学校の学校公開用の教材楽曲や指導案の分析、検討を行った上で、参与観察に臨む。授業者を交えた事後検討会に参加し、また大学での検討会の議論を通して、音楽科授業実践のあり方について、目的、内容、方法、評価の視角から検討する。さらに音楽科学習指導要領とも関連付けて授業を分析し、その意義や有効性について検証する。その際、協同的な学習やICTの効果的な活用にも着眼する。			
授業計画 第1回：音楽科授業研究の動向1（質的研究） 第2回：音楽科授業研究の動向2（量的研究） 第3回：音楽科授業の観察方法 第4回：附属小学校公開用指導案の検討 第5回：附属中学校公開用指導案の検討 第6回：附属中学校、学校公開での授業観察（ICT活用、協働学習への着目） 第7回：授業者を交えた意見交換 第8回：授業検討会 第9回：附属小学校、学校公開（一日目）での授業観察（ICT活用、協働学習への注目） 第10回：授業者を交えた意見交換 第11回：附属小学校、学校公開（二日目）での授業観察 第12回：授業者を交えた意見交換 第13回：授業検討会			

第14回：公開授業と音楽科学習指導要領との関連、とりわけ評価の観点、手法について第1

第15回：授業の総括（音楽科授業の展望と課題）

テキスト

- ・中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・高等学校指導要領（平成30年7月告示 文部科学省）
- ・中学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年6月 文部科学省）
- ・高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編（平成30年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

- ・鯨岡峻『エピソード記述入門』東京大学出版、2005年。
- ・日本音楽教育学会編『音楽教育研究ハンドブック』音楽之友社、2019年。

学生に対する評価

授業、学校公開の事後検討会における議論の積極性30%、授業観察記録20%、授業分析20%、最終レポート30%。

授業科目名： 家庭科教育特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 角間（土田）陽子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 家庭科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1．家庭科教育における自立・自律および共生の概念について理解する。 2．児童・生徒の自立・自律および共生の実態（関連データ）や、自立・自律および共生に関する先行研究・授業実践の収集と分析を通して、それぞれの学習内容と方法、評価について ICT の活用も含めて探究する。 3．今後の家庭科教育における「自立・自律」と「共生」の学習についての課題を検討することができる。			
授業の概要 小学校・中学校を主とした家庭科の授業実践研究を通して、題材論、指導論、評価論等の視点、家庭生活と地域・社会の関連の視点から分析できるようにする。家庭科教育における自立・自律ならびに共生をテーマに、意思決定能力、コミュニケーション力、生活経営力等生活をよりよくする力を育成し、主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導のあり方、教材、評価等についてICTの活用を含め、探究する。また、生涯を見通した主体的な生活者の育成という現代的なニーズへの対応と家庭科教育のあり方についても考察する。			
授業計画 本授業計画は、家庭科教育の視点を含み構成されている。 第1回：オリエンテーション 授業の目標・概要・授業計画等を理解する。 第2回：家庭科教育における自立・自律の概念 家庭科教育における自立・自律について学ぶ。 第3回：自立・自律にかかわる児童・生徒の実態 児童・生徒の自立・自律の実態を関連データから学ぶ。 第4回：自立・自律に関する先行研究・授業実践の収集と分析 自立・自律に関する先行研究・授業実践の収集と分析を行う。 第5回：自立・自律に関する先行研究・授業実践についてのディスカッション 先行研究・授業実践について題材設定や児童・生徒の実態などの視点からディスカッションする。 第6回：自立・自律のための学習内容と方法			

自立・自律のための学習内容と方法について ICT の活用を含めて学ぶ。

第 7 回：自立・自律の学習をどう評価するか

自立・自律の学習評価について学ぶ。

第 8 回：家庭科教育における共生の概念

家庭科教育における共生について学ぶ。

第 9 回：共生にかかわる児童・生徒の実態

児童・生徒の共生の実態を関連データから学ぶ。

第 10 回：共生に関する先行研究・授業実践の収集と分析

共生に関する先行研究・授業実践の収集と分析を行う。

第 11 回：共生に関する先行研究・授業実践についてのディスカッション

先行研究・授業実践について題材設定や児童・生徒の実態などの視点からディスカッションする。

第 12 回：共生のための学習内容と方法

共生のための学習内容と方法について ICT の活用を含めて学ぶ。

第 13 回：共生の学習をどう評価するか

共生の学習評価について学ぶ。

第 14 回：今後の課題と展望

今後の家庭科教育における「自立・自律」と「共生」の学習についての課題を検討する。

第 15 回：まとめ

授業のまとめを行う。

テキスト

特定のテキストは使用しない。受講生の研究関心や必要に応じて資料を配布する。

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（平成30年7月 文部科学省）

小学校家庭教科書（令和2年発行）

中学校技術・家庭＜家庭分野＞教科書（令和3年発行）

高等学校家庭総合及び家庭基礎教科書（令和4年発行）

学生に対する評価

授業への取り組み状況、ディスカッションや提出された課題の内容及びレポート等により総合的に評価する。

授業科目名： 家庭科カリキュラム特 論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 角間（土田）陽子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1．児童や生徒の自立・自律のための家庭科教育および共生意識を高める家庭科教育のあり方について理解する。			
2．家庭科教育において、生涯を見通した主体的な生活者を育成するための課題を明らかにする。			
3．小学校・中学校を中心とした家庭科教育のカリキュラム研究を通して、学校や地域、子どもの発達課題に即した教材がICTの活用を含み、開発できる。			
授業の概要			
家庭科教育における自立・自律ならびに共生を中心としたカリキュラム研究を通して、意思決定能力、コミュニケーション力、生活経営力等生活をよりよくする力を育成し、主体的・対話的で深い学びを実現するための教材開発を行う。生涯を見通した主体的な生活者の育成という現代的なニーズに対応するための家庭科教育の課題を明らかにし、児童・生徒の発達、生活の問題解決や地域との協働に即した教材がICTの活用を含めて開発できるようにする。			
授業計画			
本授業計画は、家庭科教育の視点を含み構成されている。			
第1回：オリエンテーション			
授業の目標・概要・授業計画等を理解する。			
第2回：家庭科教育における自立・自律の題材研究			
自立・自律を題材とした家庭科教育について学ぶ。			
第3回：小学校における自立・自律のための教育のあり方			
児童の自立・自律に対する家庭科教育のあり方を学ぶ。			
第4回：中学校における自立・自律のための教育のあり方			
生徒の自立・自律に対する家庭科教育のあり方を学ぶ。			
第5回：自立・自律のためのカリキュラム			
自立・自律のためのカリキュラムについて検討する。			
第6回：自立・自律のための教材開発演習（1）教材に必要な要素			
自立・自律のための教材に必要な要素について、ICTの活用を含めて検討する。			
第7回：自立・自律のための教材開発演習（2）教材の使用効果			

自立・自律のための教材の活用について検討する。

第8回：家庭科教育における共生の題材研究

共生を題材とした家庭科教育について学ぶ。

第9回：小学校における共生にかかわる教育のあり方

児童の共生意識を高める家庭科教育のあり方を学ぶ。

第10回：中学校における共生にかかわる教育のあり方

生徒の共生意識を高める家庭科教育のあり方を学ぶ。

第11回：共生にかかわるカリキュラム

共生意識を高めるためのカリキュラムについて検討する。

第12回：共生にかかわる教材開発演習（1）教材に必要な要素

共生にかかわる教材に必要な要素について、ICTの活用を含めて検討する。

第13回：共生にかかわる教材開発演習（2）教材の使用効果

共生にかかわる教材の活用について検討する。

第14回：題材及びカリキュラム、教材開発の研究報告とディスカッション

構想した題材及びカリキュラム、開発した教材について報告し、ディスカッションする。

第15回：まとめ

授業のまとめを行う。

テキスト

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。取り上げる文献や先行研究については事前に配布する。

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（平成30年7月 文部科学省）

小学校家庭教科書（令和2年発行）

中学校技術・家庭＜家庭分野＞教科書（令和3年発行）

高等学校家庭総合及び家庭基礎教科書（令和4年発行）

学生に対する評価

授業への取り組み状況、ディスカッションや提出された課題の内容及びレポート等により総合的に評価する。

授業科目名： 家庭科教育実践研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 角間（土田）陽子・千葉桂子 ・中村恵子
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校・中学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業では、小学校家庭科ならびに中学校技術・家庭＜家庭分野＞について取り上げる。 １．家庭科の授業実践や先行研究等を通して、題材計画や学習指導の在り方、教材、評価等を分析し、ICT の活用を含めて課題や展望について検討する。 ２．専門科学（被服学、調理学、生活経営学）の理論と食育や家庭科の各領域の学習内容との関連について学ぶ。 ３．家庭科の本質や意義を踏まえた教育及び実践について、ICT の活用を含めて考察する。			
授業の概要			
小学校・中学校における家庭科の教育及び実践について追究することを目的に、授業参観や実践記録の視聴ならびに実践報告や先行研究等の文献講読を通して、題材計画や学習指導のあり方、教材、評価等をICTの活用を含め、整理・分析し、課題や展望についての検討を行う。また、教科専門科学の理論と学習内容との関連についての理解を深める。さらに家庭科の本質や意義を踏まえ、生活課題の解決を図り実践するための主体的・対話的で深い学びを実現する教育及び実践について、ICTの活用を含めて考察する。その際、小学校と中学校の学習内容の系統性や学びの接続性についても視座として行う。			
授業計画			
第 1 回：ガイダンス / 家庭科の振り返り（角間）			
第 2 回：家庭科の実践記録の収集とまとめ（角間）			
第 3 回：家庭科の実践記録の報告と意見交換（角間）			
第 4 回：家庭科の実践記録の課題整理と ICT の活用を含めた改善提案（角間）			
第 5 回：被服学の理論と衣生活領域の学習について（千葉）			
第 6 回：調理学の理論と食生活領域の学習について（中村）			
第 7 回：食育と食生活領域の学習について（中村）			
第 8 回：生活経営学の理論と家族・家庭生活領域の学習について（角間）			
第 9 回：生活経営学の理論と消費生活領域の学習について（角間）			
第 1 0 回：家庭科教育実践の実際 授業参観または先行実践 DVD の視聴（角間）			
第 1 1 回：家庭科教育実践の実際 参観授業または視聴した先行実践 DVD の分析（角間）			

第12回：家庭科教育実践の実際 参観授業または視聴した先行実践 DVD の ICT の活用を含めた検討（角間）

第13回：家庭科教育の実践研究 家庭科の本質を踏まえた ICT の活用を含む学習指導の在り方（角間）

第14回：家庭科教育の実践研究 家庭科教育の実践研究における課題（角間）

第15回：家庭科教育の実践研究 家庭科教育の実践研究の展望（角間）

テキスト

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編（平成29年7月 文部科学省）

小学校家庭教科書（令和2年発行）

中学校技術・家庭＜家庭分野＞教科書（令和3年発行）

他に家庭科教育の研究誌・実践集等。

学生に対する評価

授業への取り組み状況、ディスカッションや提出された課題の内容及びレポート等により総合的に評価する。

授業科目名： 音楽科教育特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 杉田 政夫
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
本授業では、音楽教育領域の研究方法論について習得し、また音楽教育の歴史や哲学、教材論の検討を通し、音楽科教育実践を展開する上で必要な基礎的な理念や知識を、音楽科学習指導要領を踏まえつつ、受講生自が構築することを企図している。 到達目標は、以下4点である。 音楽科教育の研究方法論について理解している。 学習指導要領と関連付けつつ、音楽科の授業研究の方法を理解している。 音楽科におけるICTの活用や協同的な学習の動向を理解している。 他国や近隣学問領域との比較を通し、日本の音楽科教育の強みと課題を理解している				
授業の概要				
音楽科教育に関する研究方法論について、便宜上、哲学的・歴史的・記述的・実験的・民族誌的研究に区分けし、それぞれの梗概を把握する。また、音楽科の授業研究の方法について、質的・量的研究双方について学習する。次に音楽科教育の歴史、思想・哲学、教材論について、学術論文や著書を手掛かりとしつつ、批判的に検討する。音楽科学習指導要領について、ICTの活用やアクティブラーニングを中心に理解を深める。さらに、音楽科教育におけるポピュラー音楽の教材化を議論することで、今日的な学校音楽教育の有する可能性と課題について考究する。比較対象として、北欧の音楽教育やコミュニティ音楽療法も取り上げる。				
授業計画				
第1回：音楽教育の研究方法論1（歴史的研究、哲学的研究）				
第2回：音楽教育の研究方法論2（記述的研究、実験的研究、民族史的研究）				
第3回：音楽科教育の授業研究1（質的研究）				
第4回：音楽科教育の授業研究2（量的研究）				
第5回：日本の音楽教育実践史1（明治期～大正期）				
第6回：日本の音楽教育実践史2（戦前～戦後）				
第7回：学校音楽教育の思想と哲学				
第8回：音楽科学習指導要領の検討				
第9回：音楽科教育における協同的学習（アクティブ・ラーニング）				
第10回：音楽科教育におけるICTの活用				

第11回：ポピュラー音楽の理論と教材化

第12回：デンマークの音楽教育

第13回：ノルウェーのコミュニティ音楽療法

第14回：音楽科教材の構成原理

第15回：学校音楽教育の展望と課題

テキスト

- ・中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・高等学校指導要領（平成30年7月告示 文部科学省）
- ・中学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年6月 文部科学省）
- ・高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編（平成30年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

- ・杉田政夫『学校音楽教育とヘルバルト主義』風間書房、2005年。
- ・日本音楽教育学会編『音楽教育研究ハンドブック』音楽之友社、2019年。
- ・ブリュンユルフ・スティーゲ他著、杉田政夫監訳、伊藤孝子他訳『コミュニティ音楽療法への招待』風間書房、2019年。

学生に対する評価

議論の積極性と質30%、発表資料の完成度20%、研究発表及び質疑応答のレベル20%、最終レポート30%。

授業科目名： 音楽科カリキュラム特 論演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 杉田 政夫
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
教育学分野におけるカリキュラム研究において主流である「カリキュラム開発」及び「カリキュラム批判」双方について、音楽科教育のコンテキストで分析、考察し、音楽教育実践者自らがカリキュラムを(再)構成する際に求められる理論的基盤を、文献の講読や議論等を通して形成することを主眼としている。また音楽科学習指導要領をカリキュラム論の視角から分析しつつ、重視されている協働的学習やICTの活用の実践動向を調査する。 到達目標は、以下の通りである。 音楽科学習指導要領をカリキュラム論の視角から理解できている。 音楽科に関するカリキュラム開発とカリキュラム批判の研究系譜を把握している。 諸外国との比較を通し、日本の音楽科カリキュラムの特性を理解している。 カリキュラム開発のための基礎理念と方法を修得している。				
授業の概要				
まず日本における音楽科カリキュラムの構成原理の歴史的変遷について俯瞰したうえで、現行の音楽科学習指導要領をカリキュラム論の視角から分析する。とりわけ重視されている協働的な学習（アクティブラーニング）、ICTの活用について、実践事例を取り上げながら考察を深める。続いて欧米やアジアなど、諸外国との比較を通し、日本の音楽科カリキュラムの特有性について検討する。 次に、音楽科教育におけるカリキュラム研究の系譜についで概観する。近年主流となりつつある「多様な音楽」を扱う音楽科カリキュラムの意義と課題について検討する。前記「多様な音楽」を便宜上、西洋音楽、日本の伝統音楽、諸民族の音楽、ポピュラー音楽に区分し、各々について扱った音楽教育の実践研究等の文献講読を行い、カリキュラム開発のための基礎理念を修得する。さらには「潜在的カリキュラム」及び幼児期における音楽表現の発達とカリキュラムとの関連についても取り扱う。				
授業計画				
第 1 回：日本の音楽科カリキュラムの歴史的変遷（カリキュラムの構成原理の構築過程）				
第 2 回：幼児期以降の音楽表現の発達段階と、それに即した音楽カリキュラム				
第 3 回：諸外国のカリキュラムとの比較（欧米の音楽科カリキュラム）				
第 4 回：同上 2（アジアの音楽科カリキュラム）				

- 第5回：音楽科学習指導要領のカリキュラム論に基づく分析
 第6回：音楽科教育における協同的な学習の実践研究
 第7回：音楽科教育におけるICTの活用の事例分析
 第8回：音楽科教育におけるカリキュラム研究の系譜と動向1（カリキュラム開発研究）
 第9回：同上2（カリキュラム批判研究）
 第10回：西洋音楽を扱った授業研究の講読、議論
 第11回：日本の伝統音楽を扱った授業研究の講読、議論
 第12回：諸民族の音楽を扱った授業研究の講読、議論
 第13回：ポピュラー音楽を扱った授業研究の講読、議論
 第14回：潜在的カリキュラム、及び「カリキュラム経験」の研究動向
 第15回：音楽科カリキュラム研究の課題と展望

テキスト

- ・中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・高等学校指導要領（平成30年7月告示 文部科学省）
- ・中学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年6月 文部科学省）
- ・高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編（平成30年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

- ・笹野恵理子『学校音楽の「カリキュラム経験」』多賀出版、2021年。
- ・杉田政夫「音楽カリキュラムの再構成にむけて」『SERENO 理論編1』ニチブン、2004年、98～105頁。
- ・日本音楽教育学会編『音楽教育研究ハンドブック』音楽之友社、2019年。

学生に対する評価

授業における議論の積極性と質30%、発表資料の完成度20%、研究発表及び質疑応答のレベル20%、最終レポート30%。

授業科目名： 美術科教育特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 渡部憲生
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
現代の美術教育に求められている課題を踏まえ、美術教育の意義について再構築するとともに造形的な適応表現領域の学習活動の在り方について分析的に研究を深める。また、その中で造形的な表現による学習活動の指導と評価の関係についても追究し、具体的な授業実践イメージを構築していく。			
到達目標としては授業テーマそれぞれを達成することを目標とする。			
授業の概要			
学習指導要領における重要事項、改訂事項を踏まえながら、美術教育の表現領域の課題を明らかにし、幼稚園・小学校・中学校における授業実践研究を通して、表現性、題材性、指導と評価等の視点、及び、人間性、社会性、相互理解等の視点から「現代社会における教育の意義」を探る。			
具体的には、心象表現領域と適応表現領域の比較を通じた実践研究をもとに、主として幼稚園造形表現・小学校図画工作科や中学校美術科の「適応表現領域」を材料に系統的な「目指すべき資質・能力」を追求する。特に、デザイン表現における意図的な表現力の発達・配色力の向上や工芸表現における「用と美」、「機能と快適性」等の造形力と空間認識力の関係に触れ、戦後の学習指導要領改訂の変遷やそれに伴う指導内容・方法の変遷、情報機器活用の可能性の考察を通して、近隣諸国や欧米の実践事例との比較研究などを行う。			
授業計画			
第 1 回：学習指導要領の改訂及び幼・小・中学校における美術教育の現状と課題 学習指導要領の改訂に係る内容や背景を踏まえ、教科書等から、幼・小・中学の美術教育の現状を把握する。			
第 2 回：学びの質から見る「心象表現領域」と「適応表現領域」 適応表現領域と心象表現領域の特性を対照させ課題を明らかにする。			
第 3 回：戦後美術教育の変遷と学習指導要領 各時代の美術教育の特徴と時代背景にあった考え方を研究する。			
第 4 回：デザイン・工芸教育及び構成教育の変遷 デザインや工芸などの課題・題材の傾向を探り、現在の指導目的を明らかにする。			

第5回：美術教育における民間教育運動の歴史

指導目的や作品評価について、創美や新しい絵の会の考え方を研究する。

第6回：欧米諸国の美術教育(1)「美術教育の歴史と子どもの作品」

海外の児童生徒作品から美術教育に対する考え方を比較検討する。

第7回：欧米諸国の美術教育(2)「DBAEなど近年の傾向」

近年の美術教育の現状を知り、題材開発の視点を明らかにする。

第8回：幼児から思春期までの成長に伴う表現の傾向

発達段階を考慮した、学習課題を課す上でのねらいや意図を明らかにする。

第9回：幼児から思春期までの作品にみる発達と評価の視点

発達段階を考慮した学習評価を行う上でのねらいや意図を明らかにする。

第10回：デザイン・工芸分野のねらいと情報機器の効果的に活用した授業展開

指導目標を達成するための導入・授業展開の工夫を具体化する。

第11回：デザイン・工芸分野の評価・評定

指導目標を達成するための評価方法の工夫を具体化する。

第12回：デザイン・工芸分野の新しい展開

機能デザインを重視した時短に伴う効果的な題材設定と評価方法を研究する。

第13回：美術教育と幼稚園・学校における文化活動の連続性

幼・小・中の学習活動の場で果たす美術教育の役割と可能性を研究する。

第14回：幼稚園・学校の中で果たすデザイン・工芸分野の役割

他領域との関連を考慮したデザインや工芸などの題材配列について研究する。

第15回：まとめ

研究内容を総括し、レポート発表するとともに研究成果を自己評価する。

テキスト

小学校・中学校学習指導要領(平成29年3月告示) 小学校学習指導要領解説図画工作編・中学校学習指導要領解説美術科編(平成29年7月 文部科学省)、教科書及びその他必要文献等

参考書・参考資料等

学生の研究内容に合わせて、授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

研究過程や研究姿勢を重視する。特に課題意識の深まりや美術科教育研究の計画性、独自理論の構築に関する能力等を評価する。

課題研究の内容70%、研究姿勢30%の割合で評価する。

授業科目名： 美術科カリキュラム 特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 渡部憲生
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
現代の美術教育に求められている課題を理解し、実際の造形表現教育のカリキュラムを分析的に研究することを通して、課題の所在や背景、その対応策について追究し、造形表現教育で育てたい子どもを育成するためのカリキュラムを開発する。			
到達目標としては授業テーマそれぞれを達成することを目標とする。			
授業の概要			
学習指導要領における重要事項、改訂事項を踏まえ、特に「主体的・対話的で深い学び」の観点から美術科のカリキュラムに視点を当て、学校や地域、子供たちの発達課題に即した表現題材開発を行う。具体的には、教科書や美術資料等を中心に、「何が出来ようになるか」に向けた「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の視点で題材開発並びにカリキュラム開発を行う。主に「立体、工作」における発想・構想に関して、思い付いたアイデアを、用途や材料の特性を踏まえてどのように表すか組立てていく往還に着目し、育みたい資質・能力の視点からカリキュラムについて考察していく。特に材料の特性に関する課題を克服する過程を通して育まれる能力は、汎用的に活用できる能力として着目し、その視点から美術科カリキュラムを再検討する。その際、教育活動へのICT技術のさらなる積極的な導入を踏まえ、ICT活用の実際についても考察を深めていく。			
授業計画			
第 1 回：ガイダンス（ねらい・授業計画等の確認）			
学習指導要領の改訂に係る内容や背景を確認するとともに、立体、工作分野の題材の系統性、教育的位置及び特性や育む能力について確認する。			
第 2 回：実践記録に見る題材研究（ 1 ）			
「幼稚園から小学校低学年まで」の立体、工作分野題材を総覧する。			
第 3 回：実践記録に見る題材研究（ 2 ）			
「小学校中学年から中学校まで」の立体、工作分野題材を総覧する。			
第 4 回：幼稚園から小学校低学年までの立体、工作分野教育の在り方			
題材の特性に発達段階を加味した題材配列を構想する			
第 5 回：小学校中学年から中学校までの立体、工作分野の在り方			

題材の特性に発達段階を加味した題材配列を構想する。 第6回：幼児・児童・生徒の発達にあった教材の選択 発達段階を加味した立体、工作分野題材を開発する。 第7回：幼児・児童・生徒の発達にあった表現の動機付けと導入、情報機器の活用 立体、工作分野の導入や授業展開の在り方、情報機器の活用方策等を具体化し、指導計画案として記す。 第8回：学校現場の授業の実際を通したカリキュラム・指導方法等の研究（1） 「幼稚園」 第9回：学校現場の授業の実際を通したカリキュラム・指導方法等の研究（2） 「小学校」 第10回：学校現場の授業の実際を通したカリキュラム・指導方法等の研究（3） 「中学校」 第11回：立体、工作題材のカリキュラム開発演習（1） 指導計画に基づき「幼稚園・小学校低学年」題材の模擬授業を行う。 第12回：立体、工作題材のカリキュラム開発演習（2） 指導計画に基づき「小学校中・高学年」題材の模擬授業を行う。 第13回：構成題材のカリキュラム開発演習（3） 指導計画に基づき「中学校」題材の模擬授業を行う。 第14回：題材及びカリキュラム開発の研究報告、ディスカッション 授業実践的な課題を明らかにし、問題解決を図る。 第15回：まとめ 研究内容を総括し、学習の成果を自己評価する。	テキスト 小学校・中学校学習指導要領(平成29年3月告示) 小学校学習指導要領解説図画工作編・中学校学習指導要領解説美術科編（平成29年7月 文部科学省）、教科書及びその他必要文献等 参考書・参考資料等 学生の研究内容に合わせて、授業の中で適宜紹介する。 学生に対する評価 研究過程や研究姿勢を重視する。特に課題意識の深まりや、美術科教育研究の計画性、独自理論の構築に関する能力等を評価する。 課題研究の内容70%、研究姿勢30%の割合で評価する。
---	---

授業科目名： 美術科教育実践研究		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 渡部憲生
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
造形的な心象表現領域の授業実践事例を分析的に検討し課題を明らかにすることを通して、学習目標達成のための効果的な導入・展開の在り方を構想する。また、指導と評価の関係についての考察を深める。				
到達目標としては授業テーマそれぞれを達成することを目標とする。				
授業の概要				
学習指導要領の改訂内容や背景を踏まえ、美術科の授業改善の視点を明らかにするとともに、附属幼・小・中学校授業公開に参加し、授業実践とその授業案を対照させながら授業実践について学習する。附属幼・小・中学校及び研究拠点校における造形・図画工作・美術（心象表現領域）の授業を参観して、教育現場の実践授業を通じた授業分析や題材分析を行う。また、授業記録を元にした研究室でのディスカッションにより、実践的な指導と評価の在り方や教科授業及び教科経営の在り方等を学ぶ。その上で、現代の幼児・児童・生徒を想定した魅力ある造形・図画工作科・美術科の表現分野及び鑑賞に関する題材開発を行う。				
授業計画				
第 1 回：学習指導要領の改訂に係る内容や背景を踏まえた心象表現領域の課題と授業の在り方				
第 2 回：参観授業の指導案の分析と参観の視点の明確化 美術科の授業改善の視点や情報機器活用の可能性の考察と授業案の検討				
第 3 回：幼稚園授業参観と事後の授業研究会（心象表現領域）（ 1 ） 「楽しい思い出を表す」				
第 4 回：幼稚園授業実践のレポート発表及びディスカッション（ 2 ） 「作品展示と相互評価」				
第 5 回：小学校授業参観と事後の授業研究会（心象表現領域）（ 1 ） 「いろいろな描画剤による自由画」				
第 6 回：小学校授業実践のレポート発表及びディスカッション（ 2 ） 「材料や道具の活用による表現（含；版画）」				
第 7 回：中学校授業参観と事後の授業研究会（心象表現領域）（ 1 ） 「シュールな絵画」				

第8回：中学校授業実践のレポート発表及びディスカッション（2） 「表現と鑑賞の有効な指導計画」 第9回：幼稚園授業参観と事後の授業研究会（心象表現領域）（1） 「貼り絵、コラージュによる表現」 第10回：幼稚園授業実践のレポート発表及びディスカッション（2） 「面材で表す意味」 第11回：小学校授業参観と事後の授業研究会（心象表現領域）（1） 「紙版画による物語絵」 第12回：小学校授業実践のレポート発表及びディスカッション（2） 「読み聞かせとイメージ」 第13回：中学校授業参観と事後の授業研究会（心象表現領域）（1） 「壁画；大作を描こう」 第14回：中学校授業実践のレポート発表及びディスカッション（2） 「共同制作と能力や資質」 第15回：全体のまとめ
テキスト 幼稚園教育要領、小学校・中学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省） 小学校学習指導要領解説図画工作編・中学校学習指導要領解説美術編（平成29年7月 文部科学省）、教科書及びその他必要文献等
参考書・参考資料等 学生の研究内容に合わせて、授業の中で適宜紹介する。
学生に対する評価 研究過程や研究姿勢を重視する。特に課題意識の深まりや、美術科教育研究の計画性、独自理論の構築に関する能力等を評価する。 課題研究の内容70%、研究姿勢30%の割合で評価する。

授業科目名： 美術科教育実践研究		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 渡部憲生
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
造形的な適応表現領域の授業実践事例を分析的に検討し課題を明らかにすることを通して、学習目標達成のための効果的な導入・展開の在り方を構想する。また、指導と評価の関係についての考察を深める。				
到達目標としては授業テーマそれぞれを達成することを目標とする。				
授業の概要				
学習指導要領の改訂内容や背景を踏まえ、美術科の授業改善の視点を明らかにするとともに、附属幼・小・中学校授業公開に参加し、授業実践とその授業案を対照させながら授業実践について学習する。附属幼・小・中学校及び研究拠点校における造形・図画工作・美術（適用表現領域）の授業を参観して、教育現場の実践授業を通じた授業分析や題材分析を行う。また、授業記録を基にした研究室でのディスカッションにより、実践的な指導と評価の在り方や教科授業及び教科経営の在り方等を学ぶ。その上で、現代の幼児・児童・生徒を想定した魅力ある造形・図画工作科・美術科の表現分野及び鑑賞に関する題材開発を行う。				
授業計画				
第 1 回：学習指導要領の改訂に係る内容や背景を踏まえた適用表現領域の課題と授業の在り方				
第 2 回：参観授業の指導案の分析と参観の視点の明確化 美術科の授業改善の視点や情報機器活用の可能性の考察と授業案の検討				
第 3 回：幼稚園授業参観と事後の授業研究会（適用表現領域）（ 1 ） 「楽しい環境飾りをつくる」				
第 4 回：幼稚園授業実践のレポート発表及びディスカッション（ 1 ） 「行事に合わせた環境装飾」				
第 5 回：小学校授業参観と事後の授業研究会（適用表現領域）（ 1 ） 「造形遊び」				
第 6 回：小学校授業実践のレポート発表及びディスカッション（ 1 ） 「つくりたいものをつくる」				
第 7 回：中学校授業参観と事後の授業研究会（適用表現領域）（ 1 ） 「生活を潤すデザイン」				

第8回：中学校授業実践のレポート発表及びディスカッション（1） 「ユニバーサルデザイン」 第9回：幼稚園授業参観と事後の授業研究会（適用表現領域）（2） 「遊びに使うものをつくる」 第10回：幼稚園授業実践のレポート発表及びディスカッション（2） 「総合造形の試み」 第12回：小学校授業実践のレポート発表及びディスカッション（2） 「総合造形の試み」 第13回：中学校授業参観と事後の授業研究会（適用表現領域）（2） 「環境とデザイン」 第14回：中学校授業実践のレポート発表及びディスカッション（2） 「環境とデザイン」 第15回：全体のまとめ
テキスト 幼稚園教育要領、小学校・中学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省） 小学校学習指導要領解説図画工作編・中学校学習指導要領解説美術編（平成29年7月 文部科学省）、教科書及びその他必要文献等
参考書・参考資料等 学生の研究内容に合わせて、授業の中で適宜紹介する。
学生に対する評価 グループで選択した課題や研究姿勢を重視する。特に課題意識の深まりや、実践的な教育研究に関する企画力、洞察力等を評価する。 課題研究の内容70%、研究姿勢30%の割合で評価する。

授業科目名： 保健体育科教育特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松本 健太
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
・新学習指導要領における体育科・保健体育科の目標，内容等を理解し，単元計画ならびに学習指導案を立案することができる． ・相互作用行動などを用いながら立案した授業計画に基づいて模擬授業を実施することができる． ・組織的観察法を用いながら模擬授業の良かった点や改善点を省察することができる．			
授業の概要			
授業の「計画 - 実践 - 評価」という授業づくりの構成要素を理解する．計画段階では，教材づくり，単元計画ならびに1単位時間の指導計画の立案，学習資料の作成などを行う．実践段階では，立案した授業計画にもとづいてマイクロティーチング（仮想模擬授業）を実施し，授業運営や相互作用行動などの実践的に学習する．評価段階では，体育授業観察者チェックリスト及び形成的授業評価，授業場面における期間記録法などの組織的観察法を用いた授業分析にも取り組む．これらの活動を通して，よい体育授業を実現するための実践的な指導力を高めることを目指す．			
本授業計画は，保健体育の視点を含み構成されている． 15回の授業の計画は以下の通りです． 第1回：オリエンテーション（授業の目的と概要） 第2回：新学習指導要領についての理解①（世界の教育動向から） 第3回：新学習指導要領についての理解②（日本の教育理念の変遷から） 第4回：よい体育授業の特徴①（授業場面の期間記録） 第5回：よい体育授業の特徴②（教師の相互作用行動） 第6回：体育の指導技術（体育授業における教授方略と教授技術） 第7回：授業づくりの手続き（ICTの活用を含む） 第8回：教材づくりの方法 第9回：体育の学習過程（学習過程の考え方と学習過程モデルの選択） 第10回：体育の学習形態（一斉指導・班別学習・グループ学習・個別学習） 第11回：授業評価法の説明（診断的・総括的評価，形成的評価など）			

第12回：指導と評価の一体化を踏まえた指導計画の立案

第13回：指導計画の作成方法

第14回：マイクロティーチング（授業の導入場面・授業の展開場面）

第15回：マイクロティーチングの省察（リフレクションシートの提出）

テキスト

- ・文部科学省（2018）「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編」東洋館出版社
- ・文部科学省（2018）「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説保健体育編」東山書房
- ・文部科学省（2019）「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説保健体育編 体育編」東山書房
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料【小学校体育】」東洋館出版社
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料【中学校 保健体育】」東洋館出版社
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター（2021）「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料【高等学校 保健体育】」東洋館出版社

参考書・参考資料等

学生に対する評価

受講状況及び課題レポート（20％），体育授業の構成要素の分析的な捉え方（30％），より良い授業づくりのための工夫・改善についての検討（50％）の3点を総合的に評価する．

授業科目名： 保健体育授業づくり 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松本 健太
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 体育科・保健体育科の授業づくり及び指導に必要である目標，内容，指導方法，評価に関する基本的な事項を理解し，学習指導案を作成し模擬授業を展開することができる．			
・ 組織的観察法などを用いて授業分析を行うことができる．			
・ 実際の授業を通して，学級経営について理解することができる．			
授業の概要			
学校（小学校・中学校・高等学校）現場での体育科・保健体育科の授業を参観し，授業分析を行うとともに，模擬授業を立案・実践することを通して，保健体育科教師としての指導力向上ならび実際の教科の授業や学級経営のあり方について学修する．			
本授業計画は，保健体育の視点を含み構成されている．			
15回の授業の計画は以下の通りです．			
第1回：オリエンテーション（授業概要，学習指導要領の変遷について）			
第2回：種目の特性を生かした指導のあり方			
第3回：体育の授業をイメージする（ICTの活用を含む）			
第4回：授業参観と研究会参加のあり方			
第5回：グループ別模擬授業の立案			
第6回：参観授業の指導案分析			
第7回：中学校の授業参観			
第8回：中学校授業実践にかかわる事後の授業研究会			
第9回：グループ別模擬授業の展開と研究会			
第10回：グループ別模擬授業の展開と研究会			
第11回：高等学校授業参観			
第12回：高等学校授業実践にかかわる事後の授業研究会			
第13回：グループ別模擬授業の展開と研究会			
第14回：グループ別模擬授業の展開と研究会			
第15回：総括，全体の振り返り			
テキスト			

- ・文部科学省（2018）「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説保健体育編」東山書房
- ・文部科学省（2019）「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説保健体育編 体育編」東山書房
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料【中学校 保健体育】」東洋館出版社
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター（2021）「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料【高等学校 保健体育】」東洋館出版社

参考書・参考資料等

学生に対する評価

受講状況及び課題レポート（40％），学習指導案作成・模擬授業（40％），ディスカッションの内容（20％）の3点を総合的に評価する．

授業科目名： 家庭科教育実践研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 角間（土田）陽子・千葉桂子 ・中村恵子 担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業では、中学校技術・家庭＜家庭分野＞ならびに高等学校家庭科について取り上げる。 １．家庭科の授業実践や先行研究等を通して、題材計画や学習指導の在り方、教材、評価等を分析し、ICT の活用を含めて課題や展望について検討する。 ２．専門科学（被服学、調理学、生活経営学）の理論と食育や家庭科の各領域の学習内容との関連について学ぶ。 ３．家庭科の本質や意義を踏まえた教育及び実践について、ICT の活用を含めて考察する。			
授業の概要			
中学校・高等学校における家庭科の教育及び実践について追究することを目的に、授業参観や実践記録の視聴ならびに実践報告や先行研究等の文献講読を通して、題材計画や学習指導のあり方、教材、評価等をICTの活用を含め、整理・分析し、課題や展望についての検討を行う。また、教科専門科学の理論と学習内容との関連についての理解を深める。さらに家庭科の本質や意義を踏まえ、生活課題の解決を図り実践するための主体的・対話的で深い学びを実現する教育及び実践について、ICTの活用を含めて考察する。その際、中学校と高等学校の学習内容の系統性や学びの接続性についても視座として行う。			
授業計画			
第 1 回：ガイダンス / 家庭科の振り返り（角間）			
第 2 回：家庭科の実践記録の収集とまとめ（角間）			
第 3 回：家庭科の実践記録の報告と意見交換（角間）			
第 4 回：家庭科の実践記録の課題整理と ICT の活用を含めた改善提案（角間）			
第 5 回：被服学の理論と衣生活領域の学習について（千葉）			
第 6 回：調理学の理論と食生活領域の学習について（中村）			
第 7 回：食育と食生活領域の学習について（中村）			
第 8 回：生活経営学の理論と家族・家庭生活領域の学習について（角間）			
第 9 回：生活経営学の理論と消費生活領域の学習について（角間）			
第 1 0 回：家庭科教育実践の実際 授業参観または先行実践 DVD の視聴（角間）			
第 1 1 回：家庭科教育実践の実際 参観授業または視聴した先行実践 DVD の分析（角間）			

第12回：家庭科教育実践の実際 参観授業または視聴した先行実践 DVD の ICT の活用を含めた検討（角間）

第13回：家庭科教育の実践研究 家庭科の本質を踏まえたい ICT の活用を含む学習指導の在り方（角間）

第14回：家庭科教育の実践研究 家庭科教育の実践研究における課題（角間）

第15回：家庭科教育の実践研究 家庭科教育の実践研究の展望（角間）

テキスト

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（平成30年7月 文部科学省）

中学校技術・家庭＜家庭分野＞教科書（令和3年発行）

高等学校家庭総合及び家庭基礎教科書（令和4年発行）

他に家庭科教育の研究誌・実践集等。

学生に対する評価

授業への取り組み状況、ディスカッションや提出された課題の内容及びレポート等により総合的に評価する。

授業科目名： 英語意味論特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤元樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につける。			
・ 意味論・語用論の基礎概念を理解している。			
・ 理論言語学の思考方法を理解している。			
・ 言語事実に関する分析方法が身についている。			
授業の概要			
自然言語における意味の数学・論理的側面を概観する。歩授業では、形式意味論における真理条件、モデル、合成性の3つの基本的概念を理解することを目的とする。授業は、文献講読を中心に進める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（本科目の目的、授業の進め方、履修上の注意点等について）			
第2回：What is meaning?			
第3回：Desiderate for a theory of meaning			
第4回：Connectives, truth, and truth conditions			
第5回：Predicates and arguments			
第6回：Quantifiers			
第7回：Inference patterns			
第8回：Quantifier scope			
第9回：Anaphora			
第10回：Discourse as the basic unit of interpretation			
第11回：Anaphoric relations in sentence and discourse			
第12回：Limits of first-order predicate logic			
第13回：Generalized Quantifier theory			
第14回：Intension and extension			
第15回：More about intensionality			
定期試験			
テキスト			
de Swart, Henriette. 1998. <i>Introduction to Natural Language Semantics</i> , CSLI Publications.			

参考書・参考資料等

田中拓郎．2016『形式意味論入門』開拓社．

吉本啓・中村裕昭．2016．『現代意味論入門』くろしお出版．

学生に対する評価

定期試験（８０％）、小テスト（２０％）

授業科目名： 英語意味論特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤元樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につける。 ・ 意味論の基礎概念を理解している。 ・ 生成文法理論における思考方法を理解している。 ・ 言語事実に関する分析方法が身についている。			
授業の概要 生成文法理論における統語論と意味論のインターフェースに関わる具体的研究を取り上げ、言語の構造と意味の関係について考察する。授業では、担当者が重要な研究論文の報告、または各自の研究テーマの調査結果を報告し、参加者全員でディスカッションを行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス（本科目の目的、授業の進め方、履修上の注意点等について） 第2回：意味論における主要なテーマ・論点（講義） 第3回：テーマ選択に向けて：課題意識の抽出 第4回：テーマ選択に向けて：先行研究の整理 第5回：研究テーマの一次素案の報告、ディスカッション 第6回：先行研究の文献講読 第7回：先行研究の一次報告 第8回：当該テーマにおける研究課題の検討 第9回：当該テーマにおける研究方法の検討 第10回：研究テーマの二次素案の報告、ディスカッション 第11回：先行研究の文献講読 第12回：先行研究の二次報告 第13回：当該テーマにおける研究課題の検討 第14回：当該テーマにおける研究方法の検討 第15回：まとめ（振り返り、到達点と次期への課題の明確化） 定期試験			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

田中拓郎．2016『形式意味論入門』開拓社．

吉本啓・中村裕昭．2016．『現代意味論入門』くろしお出版．

学生に対する評価

レポート（60％）、発表と質疑応答（40％）

授業科目名： 英語意味研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤元樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につける。 ・ 意味論・語用論の基礎概念を理解している。 ・ 理論言語学の思考方法を理解している。 ・ 言語事実に関する分析方法が身についている。			
授業の概要 形式意味論におけるイベントを中心とした意味の考え方を理解し、時制やアスペクトについて考察する。授業は、文献講読を中心に進める。			
授業計画 第1回：ガイダンス（本科目の目的、授業の進め方、履修上の注意点等について） 第2回：Truth Conditions 第3回：Set Theory 第4回：Lexicons 第5回：Connectives 第6回：Quantifiers 第7回：Quantificational Determiner Phrases 第8回：Relative Clauses 第9回：Pronouns 第10回：Semantics and Pragmatics 第11回：Events and Thematic Roles 第12回：States 第13回：Tense 第14回：Aspect: The Progressive 第15回：Aspect: The Perfect 定期試験			
テキスト Altshuler, Daniel, Terence Parsons, and Roger Schwarzschild. 2019. <i>A Course in Semantics</i> , MIT Press.			

参考書・参考資料等

田中拓郎．2016『形式意味論入門』開拓社．

吉本啓・中村裕昭．2016．『現代意味論入門』くろしお出版．

学生に対する評価

定期試験（８０％）、小テスト（２０％）

授業科目名： 英語意味研究		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 2単位		担当教員名： 佐藤元樹	
						担当形態： 単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項					
授業のテーマ及び到達目標							
・ 中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につける。 ・ 意味論・語用論の基礎概念を理解している。 ・ 理論言語学の思考方法を理解している。 ・ 言語事実に関する分析方法が身についている。							
授業の概要							
理論言語学における意味の数学・論理的側面と合成方法について考察する。授業は、文献講読を中心に進める。							
授業計画							
第1回：ガイダンス（本科目の目的、授業の進め方、履修上の注意点等について）							
第2回：Truth-conditional Semantics and the Fregean Program							
第3回：Executing the Fregean Program							
第4回：Defining functions in the λ-notation							
第5回：Semantics and Syntax							
第6回：Argument structure and linking							
第7回：More of English: Nonverbal Predicates, Modifiers, definite Descriptions							
第8回：Relative Clauses, Variables, Variable Binding							
第9回：Quantifiers: Their Semantic Type							
第10回：Quantification and Grammar							
第11回：Syntactic and Semantic Constraints on Quantifier Movement							
第12回：Bound and Referential Pronouns and Ellipsis							
第13回：Syntactic and Semantic Binding							
第14回：E-Type Anaphora							
第15回：First Step Towards and Intensional Semantics							
定期試験							
テキスト							
Heim, Irene and Angelika Kratzer. 1998. <i>Semantics in Generative Grammar</i> , Blackwell.							
参考書・参考資料等							

田中拓郎．2016『形式意味論入門』開拓社．

吉本啓・中村裕昭．2016．『現代意味論入門』くろしお出版．

学生に対する評価

定期試験（８０％）、小テスト（２０％）

授業科目名：英語構造論 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 朝賀俊彦
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 統語論を中心に生成文法のこれまでの理論的展開を概観することにより、生成文法の基本的概念・思考法を理解する。生成文法の概説を通じて生成的言語研究の基本的事項について理解する。			
授業の概要 理論の変遷が個別現象の分析と生成文法の目標とどのように関わるかについて理解するとともに、生成的言語研究における理論的展開がどのように動機づけられてきたかを学ぶ。			
授業計画 英語学領域における研究の基礎として、特に統語論を中心に生成文法の言語観を理解する。以下の計画を基本としながら、受講者の前提や課題の必要に応じて日英語の関連する言語現象の対照分析等を行い、外国語教授への応用の可能性についても考察する。 第 1 回：英語学研究と生成文法研究についてのガイダンス 英語学研究における生成文法理論の位置づけを確認する。 第 2 回：英語学講義 1：生成文法理論概説 生成文法理論の変遷を概説する。 第 3 回：英語学講義 2：初期理論・標準理論概説 生成文法理論の初期理論・標準理論の特徴を概説する。 第 4 回：英語学文献講読 1（言語獲得） 言語獲得の諸問題について考察する。 第 5 回：英語学文献講読 2（句構造） 英語を中心に統語構造について考察する。 第 6 回：英語学文献講読 3（変形） 英語を中心に構成素の解釈と位置の関係について考察する。 第 7 回：英語学文献講読 4（痕跡） 英語を中心に言語分析における不可視要素について考察する。 第 8 回：第 7 回までの英語学講義および文献講読の中間まとめ 講義の前半についてまとめと確認を行う。 第 9 回：英語学講義 3（GB 理論概説）			

生成文法理論のGB理論の特徴を概説する。 第10回：英語学講義4（ミニマリストプログラム概説） 生成文法理論のミニマリストプログラムの特徴を概説する。 第11回：英語学文献講読5（原理とパラメータ） 言語の普遍性と多様性について考察する。 第12回：英語学文献講読6（Xバー理論） 言語構造の普遍性と多様性について考察する。 第13回：英語学文献講読7（α移動） 言語構造と解釈の関係について考察する。 第14回：英語学文献講読8（空範疇） 言語構造と解釈の関係について考察する。 第15回：本講義における英語学講義および文献講読の総まとめ 講義全体のまとめと確認を行う。 定期試験は行わない。
テキスト 必要に応じて授業で指示する。
参考書・参考資料等 必要に応じて授業で指示する。
学生に対する評価 各回の報告等（50％）、最終レポート（50％）により評価する。

授業科目名：英語構造論 特論演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 朝賀俊彦
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標				
具体的な言語分析の中で生成文法の基本的概念・思考法がどのように具現されるかを理解する。また、個別的研究が総体としての生成文法研究の文脈にどのように位置づけられるかを確認しながら、当該の研究の理論的意義を理解する。				
授業の概要				
生成文法研究における主要な研究を取り上げ、文献講読を通じて生成文法各論としての事例研究を行う。				
授業計画				
英語学研究に基づく以下の計画を基本としながら、受講者の前提や課題の必要に応じて日英語の関連する言語現象の対照分析等を行い、外国語教授への応用の可能性についても考察する。				
第 1 回：英語学領域における生成文法研究についてのガイダンス				
英語学研究における生成文法理論の位置づけを再確認する。				
第 2 回：英語学文献講読（移動について：wh移動）				
A'移動の事例としてwh移動現象の分析について考察する。				
第 3 回：英語学文献講読（移動について：関係節）				
A'移動の事例として関係節の分析について考察する。				
第 4 回：英語学文献講読（移動について：話題化）				
A'移動の事例として話題化の分析について考察する。				
第 5 回：英語学文献講読（移動について：受動態）				
A'移動の事例として受動態の分析について考察する。				
第 6 回：英語学文献講読（移動について：繰り上げ構文）				
A'移動の事例として繰り上げ構文の分析について考察する。				
第 7 回：英語学文献講読（移動について：主要部移動）				
主要部移動の分析について考察する。				
第 8 回：英語学文献講読（代用表現について：再帰代名詞）				
照応現象の事例として再帰代名詞の分析について考察する。				
第 9 回：英語学文献講読（代用表現について：代名詞）				
照応現象の事例として代名詞の分析について考察する。				

第10回：英語学文献講読（代用表現について：コントロール）

照応現象の事例として不定詞主語の分析について考察する。

第11回：英語学文献講読（代用表現について：省略現象）

照応現象の事例として補部の省略現象の分析について考察する。

第12回：英語学文献講読（叙述関係について：小節）

小節にみられる叙述関係の分析について考察する。

第13回：英語学文献講読（叙述関係について：二次述語）

記述の二次述語の分析について考察する、

第14回：英語学文献講読（叙述関係について：結果構文）

結果の二次述語の分析について考察する。

第15回：本講義における英語学文献講読のまとめ

本講義での考察についてまとめと確認を行う。

定期試験は行わない。

テキスト

必要に応じて授業で指示する。

参考書・参考資料等

必要に応じて授業で指示する。

学生に対する評価

各回の報告等（50%）、最終レポート（50%）により評価する。

授業科目名：英語構造研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 朝賀俊彦
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
先行研究の中で示される具体的な言語データや分析について、各自の研究テーマにおける位置づけを確認するとともに、各自の問題意識に照らして詳細に検討することにより、受講者自らの研究において当該の研究が持つ意義を明らかにする。			
授業の概要			
形式と意味の対応を中心に、英語学領域における各自の研究テーマに関する先行研究の文献報告を通じて生成文法各論としての事例研究を行う。			
授業計画			
英語学研究に基づく以下の計画を基本としながら、受講者の前提や課題の必要に応じて日英語の関連する言語現象の対照分析等を行い、外国語教授への応用の可能性についても考察する。			
第 1 回：形式と意味の対応を中心とした英語学領域における生成文法研究についてのガイダンス 概念意味論を踏まえ言語形式と意味との関係について概説する。			
第 2 回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（相の強制） 形式と意味の対応の観点から相の強制現象について考察する。			
第 3 回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（可算性の強制） 形式と意味の対応の観点から加算性の強制現象について考察する。			
第 4 回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（指示の転移） 形式と意味の対応の観点から指示の転移現象について考察する。			
第 5 回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（項構造の交替） 形式と意味の対応の観点から項構造の交替現象について考察する。			
第 6 回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（クオリア構造） クオリア構造が形式と意味の対応の分析に持ちうる意義について考察する。			
第 7 回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（数量化） 形式と意味の対応の観点から数量化現象について考察する。			
第 8 回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（潜伏命題） 形式と意味の対応の観点から潜伏命題について考察する。			
第 9 回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（潜伏疑問文・潜伏感嘆文） 形式と意味の対応の観点から潜伏疑問文・潜伏感嘆文について考察する。			

第10回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（潜伏名詞化形）

形式と意味の対応の観点から潜伏名詞化形について考察する。

第11回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（文末関係節）

形式と意味の対応の観点から文末関係節について考察する。

第12回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（転移修飾語）

形式と意味の対応の観点から転移修飾語について考察する。

第13回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（名詞 of 名詞 構文）

形式と意味の対応の観点から名詞 of 名詞 構文について考察する。

第14回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（遂行分析）

形式と意味の対応の観点から遂行分析について考察する。

第15回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告のまとめ

本講義での考察についてまとめと確認を行う。

定期試験は行わない。

テキスト

必要に応じて授業で指示する。

参考書・参考資料等

必要に応じて授業で指示する。

学生に対する評価

各回の報告等（50％）、最終レポート（50％）により評価する。

授業科目名：英語構造研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 朝賀俊彦
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 先行研究の中で示される具体的な言語データや分析について、各自の研究テーマにおける位置づけを確認するとともに、各自の問題意識に照らして詳細に検討することにより、受講者自らの研究において当該の研究が持つ意義を明らかにする。			
授業の概要 形式と意味の対応を中心に、英語学領域における各自の研究テーマに関する先行研究の文献報告を通じて生成文法各論としての事例研究を行う。			
授業計画 英語学研究に基づく以下の計画を基本としながら、受講者の前提や課題の必要に応じて日英語の関連する言語現象の対照分析等を行い、外国語教授への応用の可能性についても考察する。 第1回：形式と意味の対応を中心とした英語学領域における生成文法研究についてのガイダンス 概念意味論を踏まえ言語形式と意味との関係について概説する。 第2回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（非対格性） 形式と意味の対応の観点から非対格性について考察する。 第3回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（様態と結果） 形式と意味の対応の観点から様態と結果について考察する。 第4回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（自他交替） 形式と意味の対応の観点から自他交替現象について考察する。 第5回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（心理述部） 形式と意味の対応の観点から心理述部について考察する。 第6回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（不可視要素） 形式と意味の対応の観点から不可視要素について考察する。 第7回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（不可視操作） 形式と意味の対応の観点から不可視操作について考察する。 第8回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（項構造） 形式と意味の対応の観点から項構造について考察する。 第9回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（語彙と規則）			

形式と意味の対応の観点から語彙と規則について考察する。 第10回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（主題役割付与） 形式と意味の対応の観点から主題役割付与について考察する。 第11回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（構文文法） 形式と意味の対応の観点から構文文法について考察する。 第12回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（スキーマ） 形式と意味の対応の観点からスキーマについて考察する。 第13回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（構文レキシコン） 形式と意味の対応の観点から構文レキシコンについて考察する。 第14回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告（言語獲得） 形式と意味の対応の観点から言語獲得について考察する。 第15回：英語学領域の研究テーマに基づく文献報告のまとめ 本講義での考察についてまとめと確認を行う。 定期試験は行わない。
テキスト 必要に応じて授業で指示する。
参考書・参考資料等 必要に応じて授業で指示する。
学生に対する評価 各回の報告等（50%）、最終レポート（50%）により評価する。

授業科目名：社会言語学 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：久我和巳
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標：本講義では、社会言語学に関する基本的知見を整理・修得し、自分の問題意識と重ね合わせながら、現代的課題として捉え直していきます。まずは、各トピックの内容を理解するとともに、日常的に接している言語の問題を意識的に対象とし、自分なりの見方を身につけることを到達目標とします。			
授業の概要：社会言語学の基礎的文献を整理し、それが問題としている対象を見極め、調査と考察を通じて、議論を深めていきます。例えば、ピジンのクレオールの実態を知識として得るだけでなく、現代日本における言語変化の現状、グローバリゼーションとの関連など、現代的課題として見る方法を考察していきます。			
授業計画			
第1回：ガイダンス：文献紹介			
第2回：言語変種の歴史：言語変種とは何か			
第3回：言語変種の歴史：地域方言と社会方言			
第4回：ピジンとクレオール：異なることばの出会い			
第5回：ピジンとクレオール：ピシン語を題材にして			
第6回：ピジンとクレオール：グローバリゼーションとことば			
第7回：言語と文化：サピア・ウォーフの仮説とは何か			
第8回：言語と文化：サピア・ウォーフの仮説の問題点			
第9回：言語と文化：色彩言語の再検討			
第10回：談話分析：レジスターによる変種			
第11回：談話分析：談話分析と権力関係			
第12回：談話分析：ポライトネス・ストラテジー			
第13回：言語とジェンダー：問題の起源			
第14回：言語とジェンダー：人称、終助詞、ポリティカル・コレクトネス			
第15回：まとめと口頭発表			
定期試験			
テキスト：『社会言語学入門』ロナルド・ウォードハウ、リーベル出版、1994 年、『歴史社会言語学入門：社会から読み解くことばの移り変わり』高田博行、家入葉子、渋谷勝己、大修館書店、			
参考書・参考資料等：授業中に指示します。			

学生に対する評価：授業中の発表（50％）、期末レポート（50％）で評価します。

授業科目名：社会言語学 特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：久我和巳 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標：言語と文化、言語と社会に関する現代的課題を主体的に設定し、問題点を整理するとともに、先行研究に基づきながら、検討・考察を行います。これらの課題について、自分なりの知見をまとめ、一定のレポートとして完成させ、公表することを到達目標とします。			
授業の概要：「ことばと国家」「比喩表現と現代社会」「ことばとジェンダー」「少数者の言語権」という4つのテーマに基づき、基礎文献を整理・検討するとともに、それらの課題について考察し、自分なりのレポートを作成します。			
授業計画 第1回：ガイダンス：4つの課題の紹介 第2回：「ことばと国家」：母語とは何か 第3回：「ことばと国家」：言語政策の展開 第4回：「ことばと国家」：課題整理と口頭発表 第5回：「比喩表現と現代社会」：レトリックの歴史的評価 第6回：「比喩表現と現代社会」：日常言語における比喩 第7回：「比喩表現と現代社会」：メディアとレトリック 第8回：「ことばとジェンダー」：日本語と女性 第9回：「ことばとジェンダー」：理論的展開 第10回：「ことばとジェンダー」：現代社会におけることばとジェンダー 第11回：「少数者の言語権」：言語権とは何か 第12回：「少数者の言語権」：言語消滅の危機 第13回：「少数者の言語権」：言語と社会再考 第14回：受講者の報告 第15回：課題整理とまとめ 定期試験			
テキスト：『ことばと国家』、田中克彦、岩波書店、1981年、『ことばとジェンダー』、中村桃子、勁草書房、2001年、『危機言語 言語の消滅でわれわれは何を失うのか』、ニコラス・エヴァンズ、2013年、京都大学学術出版会、『言語権の理論と実践』、渋谷謙次郎、小島勇、三元社、2003年			
参考書・参考資料等：授業中に指示します。			

学生に対する評価：授業中の発表（50％）、期末レポート（50％）で評価します。

授業科目名：映像文化研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：久我和巳
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標：映画の始まりの歴史的、社会的背景を関連付けることによって、複製技術時代の芸術の到来を、社会学的視点から再考察します。また、その後の大衆文化への浸透を、科学技術、映画技法の発展のみならず、社会状況の変化を視野に入れながら論じる力を身につけることを到達目標とします。			
授業の概要：映画誕生前夜における科学技術の発展、大衆興行の歴史をたどりつつ、リュミエール、エジソンの発明を歴史的に位置付けていきます。また、グリフィス、エイゼンシュテイン、フリッツ・ラングのモンタージュを比較検討しつつ、大衆文化としての映画の黎明期を考察します。			
授業計画			
第1回：ガイダンス：映画前史			
第2回：複製技術時代とは何か：ベンヤミンの考察を題材として			
第3回：リュミエールが残したもの			
第4回：エジソンのトラスト			
第5回：ハリウッドの誕生と移民労働者たち			
第6回：グリフィスの功罪：モンタージュ理論など			
第7回：グリフィスの功罪：『イントレランス』と『国民の創生』			
第8回：エイゼンシュテインのモンタージュ理論			
第9回：『戦艦ポチョムキン』を読む			
第10回：エイゼンシュテインとソビエト映画			
第11回：フリッツ・ラング『メトロポリス』を読む			
第12回：ドイツ表現主義			
第13回：大衆文化としての映画			
第14回：個人口頭発表			
第15回：まとめと課題整理			
定期試験			
テキスト：『アメリカ映画の文化史 映画がつくったアメリカ』、ロバート・スクラー、講談社学術文庫、1995年他			
参考書・参考資料等：授業中に指示します。			
学生に対する評価：授業中の発表（50％）、期末レポート（50％）で評価します。			

授業科目名：映像文化研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：久我和巳
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標：「映像文化研究」の成果を踏まえ、20世紀から今日に至るまでの映像文化の歩みを振り返りながら、映画理論や作品研究の方法を学びます。実際に人物相関図やタイムライン、批評理論に基づく批評を書いてみることで、メディアリテラシーの問題に踏み込むことも可能です。映画理論について、一定の評価に基づくレポートを書いて、発表し、議論することを到達目標とします。			
授業の概要：20世紀から今日に至るまでの、いくつかの映画の潮流、例えば、ネオレアリズモ、ヌーヴェルヴァーグ、ニューアメリカンシネマなどの特徴と時代背景を学ぶと共に、哲学や社会学、ジェンダー理論などが映画批評に与えてきた影響を考察します。実際の作品などについては、受講生と相談して進めます。			
授業計画			
第1回：ガイダンス：授業の流れ			
第2回：ネオレアリズモに関する調査報告			
第3回：『自転車泥棒』を読む			
第4回：ヌーヴェルヴァーグに関する調査報告			
第5回：『勝手にしやがれ』を読む			
第6回：ニューアメリカンシネマに関する調査報告			
第7回：『俺たちに明日はない』を読む			
第8回：批評理論の検討：古典理論から記号学			
第9回：批評理論の検討：歴史と人種			
第10回：批評理論の検討：ジャンル論			
第11回：批評理論の検討：表象・テキスト・精神分析			
第12回：批評理論の検討：フェミニズム			
第13回：批評理論の検討：コロニアリズム・ポストコロニアリズム			
第14回：受講生による口頭発表			
第15回：課題整理とまとめ			
定期試験			
テキスト：『「新」映画理論集成』1、2、3、岩本憲児、武田潔、斎藤綾子編、フィルムアート社、1996年他、受講生の関心に応じて指示します。			

参考書・参考資料等：授業中に指示します。

学生に対する評価：授業中の発表（50％）、期末レポート（50％）の基づき評価します。

授業科目名： 初期近代英米文学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川田 潤
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
1 5 世紀から 1 7 世紀の英国初期近代における韻文、散文などの文学テキストなどを用いて、文学テキストと当時の英国の社会・文化的な状況の相互関係を明らかにし、文化理解を図ることをテーマとする。以下の 3 点を到達目標とする。 ・ 英文テキストを読解するための方法を理解する ・ 社会、文化的な観点からテキストを読むための方法を理解する ・ 理解したことを十分に伝えるための方法を理解する			
授業の概要			
1 5 世紀から 1 7 世紀の英国初期近代における韻文、散文などの文学テキストなどを用いて、文学テキストと当時の英国の社会・文化的な状況の相互関係を明らかにし、文化理解を図るための方法を理解することを目的としている。			
第 1 回： 英米文学読解に関するガイダンス 第 2 回： 批評論 1（歴史研究と文学研究の関係について基礎 1） 第 3 回： 批評論 2（歴史研究と文学研究の関係について基礎 2） 第 4 回： 文献精読 1（主に 1 5 世紀の文学テキストの読み方の方法） 第 5 回： 文献精読 2（主に 1 6 世紀の文学テキストの読み方の方法） 第 6 回： 文献精読 3（主に 1 7 世紀の文学テキストの読み方の方法） 第 7 回： 中間発表 第 8 回： 文献速読 1（主に 1 5 世紀の周辺資料の読み方の方法） 第 9 回： 文献速読 2（主に 1 6 世紀の周辺資料の読み方の方法） 第 1 0 回： 文献速読 3（主に 1 7 世紀の周辺資料の読み方の方法） 第 1 1 回： 文献解読 1（主に 1 5 世紀の文学テキスト / 周辺資料の読み方の方法） 第 1 2 回： 文献解読 2（主に 1 6 世紀の文学テキスト / 周辺資料の読み方の方法） 第 1 3 回： 文献解読 3（主に 1 7 世紀の文学テキスト / 周辺資料の読み方の方法） 第 1 4 回： ディスカッション 第 1 5 回： まとめ			
テキスト プリントを配付する。その他、必要な場合、初回授業で指定します。			
参考書・参考資料等 初回授業で指定します。			

学生に対する評価

- 1．英国初期近代における文学テキストを正確に理解できる（30％）
- 2．英国初期近代における文化テキストを正確に理解できる（30％）
- 3．英国初期近代における多分野にわたる大量の資料を読みこなすことができる（40％）

授業科目名： 初期近代英米文学特論 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川田 潤
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
15世紀から17世紀の英国初期近代における韻文、散文などの文学テキストなどを用いて、文学テキストと当時の英国の社会・文化的な状況の相互関係を明らかにし、文化的な観点からの英米文学理解をテーマとする。以下の3点を到達目標とする。 ・英文テキストを十分に読解できる ・社会、文化的な観点からテキストを読むことができる ・理解したことを十分に伝えることができる			
授業の概要			
15世紀から17世紀の英国初期近代における韻文、散文などの文学テキストなどを用いて、文学テキストと当時の英国の社会・文化的な状況の相互関係を明らかにし、文化理解を図ることを目的としている。授業時には原典テキストの精読と周辺資料の多読を同時に行う。そのような作業を通じて、文化的な観点からの英米文学理解を目指す。			
第1回： 英米文学読解に関するガイダンス			
第2回： 批評論1（歴史研究と文学研究の関係について基礎的読解方法の理解）			
第3回： 批評論2（歴史研究と文学研究の関係について応用的読解方法の理解）			
第4回： 文献精読1（主に15世紀の文学テキストの読解と発表）			
第5回： 文献精読2（主に16世紀の文学テキストの読解と発表）			
第6回： 文献精読3（主に17世紀の文学テキストの読解と発表）			
第7回： 中間まとめと発表			
第8回： 文献速読1（主に15世紀の周辺資料の読解と発表）			
第9回： 文献速読2（主に16世紀の周辺資料の読解と発表）			
第10回： 文献速読3（主に17世紀の周辺資料の読解と発表）			
第11回： 文献解説1（主に15世紀の文学テキスト／周辺資料の読解と発表）			
第12回： 文献解説2（主に16世紀の文学テキスト／周辺資料の読解と発表）			
第13回： 文献解説3（主に17世紀の文学テキスト／周辺資料の読解と発表）			
第14回： ディスカッション			
第15回： まとめと確認			

テキスト プリントを配付する。その他、必要な場合、初回授業で指定します。
参考書・参考資料等 初回授業で指定します。
学生に対する評価 1．英国初期近代における文学テキストを正確に読解し、発表できる（30％） 2．英国初期近代における文化テキストを正確に読解し、発表できる（30％） 3．英国初期近代における多分野にわたる大量の資料を読みこなし、それをまとめて発表できる（40％）

授業科目名： 初期近代英米文化研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川田 潤
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
1 5 世紀から 1 7 世紀の英国初期近代における文学テキスト・歴史資料、政治、経済パンフレットなどを用いて、文学テキストと当時の英国の社会・文化的な状況の相互関係を明らかにし、主に共時的な文化理解を図ることをテーマとする。以下の 3 点を到達目標とする。			
・ 英文テキストを十分に読解できる			
・ 社会、文化的な観点からテキストを読むことができる			
・ 理解したことを十分に伝えることができる			
授業の概要			
1 5 世紀から 1 7 世紀の英国初期近代における文学テキスト・歴史資料、政治、経済パンフレットなどを用いて、文学テキストと当時の英国の社会・文化的な状況の相互関係を明らかにし、主に共時的な文化理解を図ることを目的とし、同時代における意味の関連性と広がり注目して読む力を、英米文学に関して身につける。			
第 1 回： 英米文学理解に関するガイダンス			
第 2 回： 文化理解基礎 1（歴史に関する周辺資料の読解）			
第 3 回： 文化理解基礎 2（経済に関する周辺資料の読解）			
第 4 回： 文化理解基礎 3（政治に関する周辺資料の読解）			
第 5 回： 文献読解 1（文化理解基礎 1 に基づいた文学テキストの読解）			
第 6 回： 文献読解 2（文化理解基礎 2 に基づいた文学テキストの読解）			
第 7 回： 文献読解 3（文化理解基礎 3 に基づいた文学テキストの読解）			
第 8 回： 中間発表			
第 9 回： 文化理解応用 1（ジェンダーに関する周辺資料の読解）			
第 1 0 回： 文化理解応用 2（人種に関する周辺資料の読解）			
第 1 1 回： 文化理解応用 3（階級に関する周辺資料の読解）			
第 1 2 回： 総合読解 1（文化理解応用 1 ～ 3 に基づく文学／文化テキストの読解）			
第 1 3 回： 総合読解 2（文化理解応用 1 ～ 3 に基づく文学／文化テキストの読解）			
第 1 4 回： 英米文化に理解に関するディスカッション			
第 1 5 回： まとめと最終発表			

テキスト プリントを配付する。その他、必要な場合、初回授業で指定します。
参考書・参考資料等 初回授業で指定します。
学生に対する評価 小レポート（30%）、発表（40%）、期末レポート（30%）、によって総合的に判断する。

授業科目名： 初期近代英米文化研究 II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川田 潤 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 1 5 世紀から 1 7 世紀の英国初期近代における文学テキスト・歴史資料、政治、経済パンフレットなどを用いて、文学テキストと当時の英国の社会・文化的な状況の相互関係を明らかにし、主に共時的な文化理解を図ることをテーマとする。以下の 3 点を到達目標とする。 ・ 英文テキストを十分に読解できる ・ 社会、文化的な観点からテキストを読むことができる ・ 理解したことを十分に伝えることができる			
授業の概要 1 5 世紀から 1 7 世紀の英国初期近代における文学テキスト・歴史資料、政治、経済パンフレットなどを用いて、文学テキストと当時の英国の社会・文化的な状況の相互関係を明らかにし、主に共時的な文化理解を図ることを目的とし、同時代における意味の関連性と広がり注目して読む力を、英米文学に関して身につける。			
第 1 回： 英米文学理解に関するガイダンス 第 2 回： 文化理解基礎 1（歴史に関する周辺資料の読解） 第 3 回： 文化理解基礎 2（経済に関する周辺資料の読解） 第 4 回： 文化理解基礎 3（政治に関する周辺資料の読解） 第 5 回： 文献読解 1（文化理解基礎 1 に基づいた文学テキストの読解） 第 6 回： 文献読解 2（文化理解基礎 2 に基づいた文学テキストの読解） 第 7 回： 文献読解 3（文化理解基礎 3 に基づいた文学テキストの読解） 第 8 回： 中間発表 第 9 回： 文化理解応用 1（ジェンダーに関する周辺資料の読解） 第 1 0 回： 文化理解応用 2（人種に関する周辺資料の読解） 第 1 1 回： 文化理解応用 3（階級に関する周辺資料の読解） 第 1 2 回： 総合読解 1（文化理解応用 1 ～ 3 に基づく文学 / 文化テキストの読解） 第 1 3 回： 総合読解 2（文化理解応用 1 ～ 3 に基づく文学 / 文化テキストの読解） 第 1 4 回： 英米文化に理解に関するディスカッション			

第15回：まとめと最終発表
テキスト プリントを配付する。その他、必要な場合、初回授業で指定します。
参考書・参考資料等 初回授業で指定します。
学生に対する評価 小レポート（30％）、発表（40％）、期末レポート（30％）、によって総合的に判断する。

授業科目名:近代英米文学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 高田英和
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
英米文学・英語文学の批評書の読解を通して、英語表現について学ぶとともに、正確な英文読解能力を身に付け、その背後にある社会／文化的との関連性を学び、作品の分析のための力を獲得する。 (1) まとまった長さの研究書を読むことで、全体的な内容を理解できるようになる。 (2) 研究書を理解する際に、社会／文化的背景および批評／批判的視点などを理解し、そのような観点から研究書を読解して、より深い内容を理解できるようになる。 (3) 研究書の原文を精読することで、英語表現について理解を深める。			
授業の概要			
英国を代表する文芸批評家（Raymond Williams, Terry Eagleton）のテキストを読む。文学作品をその作品が輩出された当時の時代思潮と結びつけることによって、その作品を読んだだけではわかりにくい諸問題（植民地主義、帝国主義、自由主義、ナショナリズムなど）を浮かび上がらせ、そして、その作品の意義を考察する、そのための手がかりをつかむことを、この授業の目的とする。授業は、基本的に受講生の発表と質疑応答による演習形式で進める。			
授業計画			
第1回： 授業概要の説明、英国文芸批評家のRaymond WilliamsとTerry Eagletonについて			
第2回： Raymond Williams ：社会について			
第3回： Raymond Williams ：文化について			
第4回： Raymond Williams ：階級について			
第5回： Raymond Williams ：政治について			
第6回： Raymond Williams ：メディアについて			
第7回： Raymond Williams ：人種について			
第8回： 中間まとめ：個人主義／階級的観点から			
第9回： Terry Eagleton ：社会について			
第10回： Terry Eagleton ：文化について			
第11回： Terry Eagleton ：階級について			
第12回： Terry Eagleton ：政治について			
第13回： Terry Eagleton ：メディアについて			

第14回： Terry Eagleton : 人種について

第15回： まとめ：小説と批評について

定期試験は実施しない。

テキスト

Raymond Williams. *The Country and the City*. 1973.

Terry Eagleton. *Literary Theory*. 1983.

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

到達目標(1)～(3)の到達度を測るため、以下の評価方法を用いる：

1) 授業への参加状況(質疑、Minutes Paper等、30%)、2) 発表(範囲を十分に理解して、資料などを参考にして、適切に伝えることができるか、40%)、3) レポート(授業内容を踏まえて、自分なりのテーマを設定して、関連資料なども参考にして、批評書についてまとめることができるか、40%)、に基づいて、総合的に判断する。

授業科目名:近代英米文学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 高田英和
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
英米文学・英語文学の批評書の読解を通して、英語表現について学ぶとともに、正確な英文読解能力を身に付け、その背後にある社会／文化的との関連性を学び、作品の分析のための力を獲得する。 (1) まとまった長さの研究書を読むことで、全体的な内容を理解できるようになる。 (2) 研究書を理解する際に、社会／文化的背景および批評／批判的視点などを理解し、そのような観点から研究書を読解して、より深い内容を理解できるようになる。 (3) 研究書の原文を精読することで、英語表現について理解を深める。			
授業の概要			
米国を代表する文芸批評家（Edward W. Said, Fredric Jameson）のテクストを読む。文学作品をその作品が輩出された当時の時代思潮と結びつけることによって、その作品を読んだだけではわかりにくい諸問題（植民地主義、帝国主義、自由主義、ナショナリズムなど）を浮かび上がらせ、そして、その作品の意義を考察する、そのための手がかりをつかむことを、この授業の目的とする。授業は、基本的に受講生の発表と質疑応答による演習形式で進める。			
授業計画			
第1回： 授業概要の説明、米国文芸批評家のEdward W. SaidとFredric Jamesonについて			
第2回： Edward W. Said : 文化について			
第3回： Edward W. Said : 社会について			
第4回： Edward W. Said : 人種について			
第5回： Edward W. Said : 植民地主義について			
第6回： Edward W. Said : 帝国主義について			
第7回： Edward W. Said : グローバリゼーションについて			
第8回： 中間まとめ：資本主義／階級的観点から			
第9回： Fredric Jameson : 文化について			
第10回： Fredric Jameson : 社会について			
第11回： Fredric Jameson : 人種について			
第12回： Fredric Jameson : 植民地主義について			
第13回： Fredric Jameson : 帝国主義について			

第14回： Fredric Jameson : グローバリゼーションについて

第15回： まとめ：批評と小説について

定期試験は実施しない。

テキスト

Edward W. Said. *Culture and Imperialism*. 1993.

Fredric Jameson. *Postmodernism*. 1991.

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

到達目標(1)～(3)の到達度を測るため、以下の評価方法を用いる：

1) 授業への参加状況(質疑、Minutes Paper等、30%)、2) 発表(範囲を十分に理解して、資料などを参考にして、適切に伝えることができるか、40%)、3) レポート(授業内容を踏まえて、自分なりのテーマを設定して、関連資料なども参考にして、批評書についてまとめることができるか、40%)、に基づいて、総合的に判断する。

授業科目名:近代英米文化研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高田英和
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
英米文化・英語文化の批評書の読解を通して、英語表現について学ぶとともに、正確な英文読解能力を身に付け、その背後にある社会／文化的との関連性を学び、（文芸作品・批評を含む）社会／文化の分析のための力を獲得する。			
(1) まとまった長さの研究書を読むことで、全体的な内容を理解できるようになる。			
(2) 研究書を理解する際に、社会／文化的背景および批評／批判的視点などを理解し、そのような観点から研究書を読解して、より深い内容を理解できるようになる。			
(3) 研究書の原文を精読することで、英語表現について理解を深める。			
授業の概要			
19、20世紀の英米の社会と文化についての文献を読む。具体的には、David Edgerton の <i>The Shock of the Old: Technology and Global History since 1900</i> (2007) を読む。21世紀に生きるわれわれの世界は、19、20世紀の英米を中心とした世界と、どのように断絶しまた連続しているのか、概観し、そして、批判的に考察する。キーワードは「資本主義（植民地主義、帝国主義、グローバリゼーション）と階級」になる。授業は、基本的に受講生の発表と質疑応答による演習形式で進める。			
授業計画			
第1回： ガイダンス ：19世紀の社会と文化について			
第2回： ガイダンス ：20世紀の社会と文化について			
第3回： Preface ：社会と／または文化について			
第4回： Chapter 1：社会について			
第5回： Chapter 2：文化について			
第6回： Chapter 3：階級について			
第7回： Chapter 4：資本について			
第8回： 中間まとめ ：自由主義／階級的観点から：社会とは何かについて			
第9回： 中間まとめ ：自由主義／階級的観点から：文化とは何かについて			
第10回： Chapter 5：人種について			
第11回： Chapter 6：ネーションについて			
第12回： Chapter 7：帝国について			

第13回： Coda：社会／文化とは何かについて

第14回： まとめ ：（われわれの）社会について

第15回： まとめ ：（われわれの）文化について

定期試験は実施しない。

テキスト

David Edgerton. *The Shock of the Old: Technology and Global History since 1900*. 2007.

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

到達目標（1）～（3）の到達度を測るため、以下の評価方法を用いる：

1）授業への参加状況（質疑、Minutes Paper等、30％）、2）発表（範囲を十分に理解して、資料などを参考にして、適切に伝えることができるか、40％）、3）レポート（授業内容を踏まえて、自分なりのテーマを設定して、関連資料なども参考にして、批評書についてまとめることができるか、40％）、に基づいて、総合的に判断する。

授業科目名:近代英米文化研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高田英和
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
英米文化・英語文化の批評書の読解を通して、英語表現について学ぶとともに、正確な英文読解能力を身に付け、その背後にある社会／文化的との関連性を学び、（文芸作品・批評を含む）社会／文化の分析のための力を獲得する。			
(1) まとまった長さの研究書を読むことで、全体的な内容を理解できるようになる。			
(2) 研究書を理解する際に、社会／文化的背景および批評／批判的視点などを理解し、そのような観点から研究書を読解して、より深い内容を理解できるようになる。			
(3) 研究書の原文を精読することで、英語表現について理解を深める。			
授業の概要			
19、20世紀の英米の社会と文化についての文献を読む。具体的には、Jeffrey Nealon の <i>Post-Postmodernism, or, the Cultural Logic of Just-in-Time Capitalism</i> (2012) を読む。21世紀に生きるわれわれの世界は、19、20世紀の英米を中心とした世界と、どのように断絶しまた連続しているのか、概観し、そして、批判的に考察する。キーワードは「資本主義（植民地主義、帝国主義、グローバリゼーション）と階級」になる。授業は、基本的に受講生の発表と質疑応答による演習形式で進める。			
授業計画			
第1回： ガイダンス ：19世紀の社会と文化について			
第2回： ガイダンス ：20世紀の社会と文化について			
第3回： Preface ：社会と／または文化について			
第4回： Chapter 1：社会について			
第5回： Chapter 2：文化について			
第6回： Chapter 3：階級について			
第7回： Chapter 4：資本について			
第8回： 中間まとめ ：資本主義／階級的観点から：社会とは何かについて			
第9回： 中間まとめ ：資本主義／階級的観点から：文化とは何かについて			
第10回： Chapter 5：人種について			
第11回： Chapter 6：ネーションについて			
第12回： Chapter 7：帝国について			

第13回： Coda：社会／文化とは何かについて

第14回： まとめ ：（われわれの）社会について

第15回： まとめ ：（われわれの）文化について

定期試験は実施しない。

テキスト

Jeffrey Nealon. *Post-Postmodernism, or, the Cultural Logic of Just-in-Time Capitalism*. 2012.

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

到達目標（1）～（3）の到達度を測るため、以下の評価方法を用いる：

1）授業への参加状況（質疑、Minutes Paper等、30％）、2）発表（範囲を十分に理解して、資料などを参考にして、適切に伝えることができるか、40％）、3）レポート（授業内容を踏まえて、自分なりのテーマを設定して、関連資料なども参考にして、批評書についてまとめることができるか、40％）、に基づいて、総合的に判断する。

授業科目名： 現代アメリカ文化特 論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 後藤史子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標： アメリカ文学作品とそれを原作とする映画作品について、それぞれを作品として分析して現代的意義を明らかにするとともに、比較検討してそれぞれのジャンルの特性を探究する。			
授業の概要： アメリカ現代文学の源と言われる1925年の文学作品 <i>The Great Gatsby</i> を原文で読み、20世紀アメリカ文学のテーマを明らかにする。さらに作家 F. Scott Fitzgeraldや作品の時代背景について調査して、作品分析及び映画作品との比較の準備をする。			
授業計画 第1回：ガイダンス：作家の生い立ちと業績、文学作品の文学史上の位置づけなどを学ぶ 第2回：Chapter 1 （「アメリカの夢」とは何か ） 第3回：Chapter 1 （ アメリカの中のニューヨーク ） 第4回：Chapter 2 （ 消費文化 ：消費とは何か ） 第5回：Chapter 3 （ 消費文化 ：浪費とは何か ） 第6回：Chapter 3 （ 消費文化 ：文化とは何か ） 第7回：Chapter 4 （ 禁酒法と犯罪 ） 第8回：Chapter 4 （ アメリカ社会と階級、人種 ） 第9回：Chapter 5 （ アメリカの地域：南部・中西部・東部 ） 第10回：Chapter 6（ サクセス・ストーリーのパロディ ） 第11回：Chapter 7 （ 恋愛小説と階級・ジェンダー ：白人の場合 ） 第12回：Chapter 7 （ 恋愛小説と階級・ジェンダー ：黒人の場合 ） 第13回：Chapter 8 （ 小説の中の女性像 ） 第14回：Chapter 9 （ 「アメリカの夢」のゆくえ ） 第15回：Chapter 9 & まとめ （ 小説 <i>The Great Gatsby</i> の意義をめぐって ）			
テキスト：F. Scott Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i> . 1926. Penguin Modern Classics, 2000.			
参考書・参考資料等：適宜指示する			
学生に対する評価：授業での発表（30%）、討論への参加度（30%）、期末レポート（40%）により総			

合的に評価する

授業科目名： 現代アメリカ文化特 論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：後藤史子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標： 文学作品 <i>The Great Gatsby</i> 及び同作を原作とする映画作品を、批評購読を基に分析・評価した上で、両者を比較・検討してジャンルの特性を考察し、アメリカ文化の特徴を探る。			
授業の概要： 文学作品 <i>The Great Gatsby</i> について20世紀アメリカ文化を分析する上で重要な視点からの批評を購読して作品の分析と評価を行う。また、本作を原作とした映画作品を、批評購読を基に分析・評価する。さらに両者を比較・検討してジャンルの特性とアメリカ文化の特徴を探る。			
授業計画 第1回：ガイダンス：作品と批評について 第2回：小説についての批評の購読と検討 (1)（歴史・階級の視点からの批評について） 第3回：小説についての批評の購読と検討 (2)（ジェンダーの視点からの批評について） 第4回：小説についての批評の購読と検討 (3)（エスニシティの視点からの批評について） 第5回：スクリーニング、英文スクリプトの検討 (1)（男性登場人物を中心に） 第6回：スクリーニング、英文スクリプトの検討 (2)（女性登場人物を中心に） 第7回：スクリーニング、英文スクリプトの検討 (3)（社会的背景を中心に） 第8回：スクリーニング、英文スクリプトの検討 (4)（文化的背景を中心に） 第9回：映画についての批評の購読と検討 (1)（歴史・階級の視点からの批評について） 第10回：映画についての批評の購読と検討 (2)（ジェンダーの視点からの批評について） 第11回：映画についての批評の購読と検討 (3)（エスニシティの視点からの批評について） 第12回：アダプテーション批評理論を学ぶ 第13回：アダプテーションに関する批評を読む 第14回：期末レポートの問題意識についての討論 第15回：まとめ：アメリカと文学・映画と文化について			
テキスト：F. Scott Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i> . 1926. Penguin Modern Classics, 2000.			
参考書・参考資料等：適宜指示する			

学生に対する評価：授業での発表（30%）、討論への参加度（30%）、期末レポート（40%）により総合的に評価する

授業科目名： 現代アメリカ文化研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：後藤史子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標: アメリカ文学作品（小説）とそれを原作とする映画作品について、それぞれを作品として分析して現代的意義を明らかにするとともに、比較してそれぞれのジャンルの特性を探究する。			
授業の概要： アメリカの小説を原文で読み、20世紀アメリカ文学のテーマを明らかにする。さらに作家の生い立ちや作品の時代背景について調査して、作品分析及び映画作品との比較の準備をする。			
授業計画 第1回：ガイダンス（アメリカと文学について） 第2回：小説の文学史上の位置づけ、時代背景について 第3回：作者の生い立ち、他の作品について 第4回：小説前半を読む（1）：人種に着目して 第5回：小説前半を読む（2）：ジェンダーに着目して 第6回：小説前半を読む（3）：セクシュアリティに着目して 第7回：小説前半を読む（4）：階級に着目して 第8回：小説後半を読む（5）：自由（主義）に着目して 第9回：小説後半を読む（6）：個人（主義）に着目して 第10回：小説後半を読む（7）：若さに着目して 第11回：小説後半を読む（8）：美学に着目して 第12回：小説後半を読む & まとめ（9）：アメリカ性とは何かについて 第13回：作者の他作品を読む（1）：インターテクスチュアリティ（間テキスト性）に着目して 第14回：作者の他作品を読む（2）：サブジェクティビティ（主体性）に着目して 第15回：まとめ（小説のテーマについて）			
テキスト：第1回目授業で指示する			
参考書・参考資料等：適宜指示する			
学生に対する評価：授業での発表（30%）、討論への参加度（30%）、期末レポート（40%）により総合的に評価する			

授業科目名： 現代アメリカ文化研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：後藤史子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標： 文学作品及び同作を原作とする映画作品を、批評購読を基に分析・評価した上で、両者を比較・検討してジャンルの特性を考察し、アメリカ文化の特徴を探る。			
授業の概要： 文学作品(小説)について20世紀アメリカ文化を分析する上で重要な視点からの批評を購読して作品の分析と評価を行う。また本作を原作とした映画作品を、批評購読を基に分析・評価する。さらに両者を比較・検討してジャンルの特性とアメリカ文化の特徴を探る。			
授業計画 第1回：ガイダンス（アメリカと20世紀について） 第2回：小説についての批評の購読と検討（1）（歴史・階級の視点からの批評について） 第3回：小説についての批評の購読と検討（2）（ジェンダーの視点からの批評について） 第4回：小説についての批評の購読と検討（3）（エスニシティの視点からの批評について） 第5回：スクリーニング、英文スクリプトの検討（1）（男性登場人物を中心に） 第6回：スクリーニング、英文スクリプトの検討（2）（女性登場人物を中心に） 第7回：スクリーニング、英文スクリプトの検討（3）（社会的背景を中心に） 第8回：スクリーニング、英文スクリプトの検討（4）（文化的背景を中心に） 第9回：映画についての批評の購読と検討（1）（歴史・階級の視点からの批評について） 第10回：映画についての批評の購読と検討（2）（ジェンダーの視点からの批評について） 第11回：映画についての批評の購読と検討（3）（エスニシティの視点からの批評について） 第12回：アダプテーション批評理論を学ぶ 第13回：アダプテーションに関する批評を読む 第14回：期末レポートの問題意識についての討論 第15回：まとめ（アメリカと現代について）			
テキスト：第1回目の授業で指示する			
参考書・参考資料等：適宜指示する			
学生に対する評価：授業での発表（30%）、討論への参加度（30%）、期末レポート（40%）により総合的に評価する			

授業科目名：英語教育実践特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：真歩仁しょうん (Sean Mahoney)
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
Through continual exposure to and use of English language, we will familiarise ourselves with several approaches to English teaching. Readings (mainly in English) and subsequent discussions will cover positive and negative results of experiments and practices from a variety of English teaching contexts around the world. Specifically, we will aim to: 1) Equip students with both knowledge of and practice in teaching English via a “Synthetic method” that may include (but not be limited to) the Direct Method, the Audio-lingual, the Natural Approach, the Silent Way, the Grammar-translation Method, Communicative Language Teaching, and Total Physical Response; 2) Raise student awareness of both differences and overlappings in the above methods; 3) Learn how to mix and match elements, according to their own strengths and different pupil-group needs.			
【和訳】			
継続的な英語使用を通して、英語教育に関する様々なアプローチを学ぶ。世界中の様々な英語教育の文脈から得られた実験や教育実践のポジティブな結果とネガティブな結果について、文献講読（主に英語文献）とディスカッションで理解を深める。具体的な目標は以下のとおりである。 1) ダイレクトメソッド、オーディオリンガルメソッド、ナチュラルアプローチ、サイレントウェイ、文法訳読法、コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチングそして全身反応教授法などを含めた「統合的指導法」についての知識と実践力を身につける。 2) 上記の様々な指導法について共通点と相違点の認識を深める。 3) それぞれの指導法の長所や学習者のニーズを考慮して、様々な指導法を組み合わせる力を身につける。			
授業の概要			
The class will, of course, take place in English. We will draw from ideas and theories about			

the teaching of English, beginning with the instructor showing students how each may look in practice. Students will then be encouraged to choose, from the variety of approaches learned (through readings, videos, and observations in this and other classes), those they feel most comfortable and confident in. They will be asked to demonstrate, critique, and adapt their approaches through commentaries on readings (including the Course of Study) and through presentations with follow-up discussions. Lastly, students will consider the applicability of the research to English teaching based on the Course of Study, including the use of information and computer technologies.

【和訳】

この授業は英語で行われる。まず、授業担当者が様々な指導法の実践を示し、英語教育に関する考え方や理論について学ぶ。次に、受講生は文献講読や授業観察等を通して学んだ様々な指導法の中から、自身にとって最も自信があり適切だと考える方法を選ぶ。その上で、学習指導要領を含めた文献講読での解説やディスカッションを通して、その指導法の実践、批評そして改善を行う。また、ICTの活用を含め、学習指導要領に基づいた指導への応用可能性を検討する。

授業計画

This course will assume familiarity with, and refer to, directives in the MEXT-produced Courses of Study for primary, junior high, and senior high schools.

第1回：Course Introduction (including a tentative schedule and proposed readings beyond the textbook); assessment of student goals; discussion of demonstration lesson (for Lesson 13)

第2回：Discussions of individual learning and teaching histories, academic backgrounds (including research areas); introduction to the text

第3回：Survey and discussion of students' beliefs about language learning (activity in *How Languages are Learned*); "Language learning in Early Childhood" (Ch.1)

第4回：Further reading in Early language acquisition (selections from Goto-Butler's 『英語学習は早いほど良いのか』)

第5回：Guided reading on first half of Ch. 2: "Second Language Learning"; discussion

第6回：Student summary & commentary on the second half of "Second Language Learning"; discussion

第7回：Questions for Reflection from Ch.2; discussion on negative sentence use in English and Japanese; further information on English "Adjective Upgrading" (handout)

第8回：Guided reading on first half of Ch. 3 "Individual Differences in Second Language Learning"; discussion

第9回：Student summary & commentary on the second half of Ch.3; discussion

第10回：Supplemental studies on student motivation (handout); discussion; motivating students through information and computer technologies

第11回：Guided reading on first half of Ch. 4 “Explaining Second Language Learning”; discussion

第12回：Student summary & commentary on the second half of Ch.4; discussion

第13回：Student-led demonstration class on selected lesson from student-chosen school textbook

第14回：Guided reading on first half of Ch. 5 “Observing Learning and Teaching in the Second Language Classroom”; discussion

第15回：Student summary & commentary on the second half of Ch.5; discussion

【和訳】

本授業計画は、小学校、中学校および高等学校の学習指導要領の内容を踏まえて構成されている。

第1回：授業概要の説明（授業計画と教科書以外の文献紹介）、授業評価および第13回の授業に関するディスカッション

第2回：各自の学習歴・教育歴および学問的背景（研究分野を含む）に関するディスカッションおよび教科書の導入

第3回：言語習得に関する信念に関するディスカッション：教科書のチャプター1「Language learning in Early Childhood」

第4回：早期言語習得のための参考文献の講読：『英語学習は早いほど良いのか』

第5回：教科書のチャプター2「Second Language Learning」の前半部の講読とディスカッション

第6回：教科書のチャプター2「Second Language Learning」の後半部のまとめ、解説およびディスカッション

第7回：教科書のチャプター2「Second Language Learning」の振り返り：英語と日本語の否定文の使い分けについてディスカッションと英語の形容詞のアップグレードについて配布資料による補足説明

第8回：教科書のチャプター3「Individual Differences in Second Language Learning」の前半部の講読とディスカッション

第9回：教科書のチャプター3「Individual Differences in Second Language Learning」の後半部のまとめ、解説およびディスカッション

第10回：学習者の動機づけに関する配布資料による補足説明とディスカッション（ICT活用を通じた動機づけを含む）

第11回：教科書のチャプター4「Explaining Second Language Learning」の前半部の講読とディスカッション

第12回：教科書のチャプター4「Explaining Second Language Learning」の後半部のまと

め、解説およびディスカッション

第13回：受講生が選択した教科書を用いた実践授業

第14回：教科書のチャプター5「Observing Learning and Teaching in the Second Language Classroom」の前半部の講読とディスカッション

第15回：教科書のチャプター5「Observing Learning and Teaching in the Second Language Classroom」の後半部のまとめ、解説およびディスカッション

テキスト: Lightbown, P. & Spada, N. (2013). *How Languages are Learned*, Oxford University Press.

参考書・参考資料等

Ellis, R. (2015). *The Study of Second Language Acquisition*, Oxford University Press.

バトラー後藤裕子（著）『英語学習は早いほど良いのか』（岩波書店）

・学生に対する評価・受講態度（文献講読への取り組み・ディスカッションへの参加意欲など）を総合的に評価する：30%

・課題への取り組み（プレゼンテーション・レポートなど）を総合的に評価する：70%

授業科目名：英語教育実践特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：真歩仁しょうん (Sean Mahoney)
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
Through continual exposure to and use of English language, we will review and further apply the concepts studied in 英語教育実践特論. Students will be given more opportunities to plan for and deliver demonstration English classes. We will continue working through our textbook while also branching out into related readings based on a variety of English teaching contexts around the world. Specifically, we will aim to: 1) Review and deepen students' understandings English teaching methods learned in 英語教育実践特論演習; 2) Learn how to plan and teach solo and team-taught lessons; 3) Learn how to make flexible lesson plans that include a “Plan B” for worst-case scenarios; 4) Learn how to prepare lessons efficiently and deliver lessons more smoothly;			
【和訳】			
継続的な英語使用を通して、英語教育実践特論で学んだ内容を復習し深化させる。受講生は英語授業の計画と実践を中心に、引き続き、教科書や世界中の様々な英語教育の文脈に関する関連文献の講読を行う。具体的な目標は以下のとおりである。 1) 英語教育特論演習で学んだ英語指導法について復習し理解を深化させることができる。 2) 教員単独やチーム・ティーチングの計画を立てて実践する力を身につける 3) 最悪のシナリオを想定した「プランB」を含んだ柔軟な指導計画を立てる力を身につける 4) 効率的に指導計画を立て円滑に実践する力を身につける			
授業の概要			
The class will, of course, take place in English. Building on 英語教育実践特論, students will learn how to tackle and incorporate approaches about which they feel less confident, with the goal of becoming a more flexible and adaptable teacher. In addition, while reviewing studies in team-teaching related issues, including those outlined in the Course of Study, we will consider how several types of team-teaching partners (both native and non-native			

English speakers) could be involved most effectively. Lastly, students will consider the applicability of the research to English teaching based on the Course of Study, including the use of information and computer technologies.

【和訳】

この授業は英語で行われる。英語教育実践特論で学修したことに基づき、より柔軟で適応力の高い教員になることを目指して、受講生が自信のない指導法を取り入れる方法を学ぶ。さらに、学習指導要領に示されている観点を含め、チーム・ティーチングに関連する研究を概観し、英語母語話者および英語非母語話者を含めた様々なパートナーとの効果的な関わり方を検討する。また、ICTの活用を含め、学習指導要領に基づいた指導への応用可能性を検討する。

授業計画

This course will assume familiarity with, and refer to, directives in the MEXT-produced Courses of Study for primary, junior high, and senior high schools.

第1回：Course Introduction (including a tentative schedule and proposed readings beyond the textbook); assessment of student goals

第2回：Recap of Chapters 1-5 in *How Languages are Learned*

第3回：Planning solo-lessons; selected readings from *The non-native teacher*

第4回：Guided reading on first half of Ch. 6 “Second Language Learning in the Classroom”

第5回：Student summary & commentary on the second half of Ch.6; discussion

第6回：Student-led demonstration class on selected lesson from student-chosen school textbook; discussions on how to improve the demonstration class

第7回：Selected readings: from *The non-native teacher* and articles based on team-teaching (Handout from instructor); planning team-taught lessons

第8回：Team-taught version of the 第6回, student-led demonstration class on selected lesson from student-chosen school textbook

第9回：Discussions on stereotypes and other team-teaching issues (based on Chapter 5 from *Importing Diversity*); using information and computer technologies to dispel stereotypes

第10回：Second student-led demonstration class, incorporating suggestions made in 第6回

第11回：Guided reading on first half of Ch. 7 “Popular Ideas about Language Learning Revisited”

第12回：Student summary & commentary on the second half of Ch.7; discussion

第13回：Team-taught version of the 第10回, student-led demonstration class on selected lesson from student-chosen school textbook

第14回：Discussion of Selected readings on non-native team-teaching (to be announced)

第15回：Recap, discussion of remaining issues, and proposals for future studies

【和訳】

本授業計画は、小学校、中学校および高等学校の学習指導要領の内容を踏まえて構成されている。

第1回：授業概要の説明（授業計画と教科書以外の文献紹介）および授業評価

第2回：教科書のチャプター1～5の振り返り

第3回：単独授業の計画：『The non-native teacher』

第4回：教科書のチャプター6「Second Language Learning in the Classroom」の前半部の講読とディスカッション

第5回：教科書のチャプター6「Second Language Learning in the Classroom」の後半部のまとめ、解説およびディスカッション

第6回：受講生が選択した教科書を用いた実践授業と改善に向けたディスカッション

第7回：『The non-native teacher』とチーム・ティーチングに基づく研究論文（配布資料）を読み、チーム・ティーチングの授業計画の立案

第8回：第6回の指導計画を用いてチーム・ティーチング形式で実践授業

第9回：ステレオタイプやチーム・ティーチングに関するディスカッション：『Importing Diversity』のチャプター5に基づく（ICTを活用したステレオタイプの払拭方法を含む）

第10回：第6回のディスカッションを踏まえて改善した受講生による実践授業

第11回：教科書のチャプター7「Popular Ideas about Language Learning Revisited」の前半部の講読とディスカッション

第12回：教科書のチャプター7「Popular Ideas about Language Learning Revisited」の後半部のまとめ、解説およびディスカッション

第13回：第10回の指導計画を用いてチーム・ティーチング形式で実践授業

第14回：非英語母語話者とのチーム・ティーチングに関する参考文献に基づくディスカッション

第15回：授業のまとめ：残った課題の検討および今後の研究への提案など

テキスト

Lightbown, P. & Spada, N. (2013). *How Languages are Learned*, Oxford University Press.

参考書・参考資料等

McConnell, D. (2000). *Importing Diversity: Inside Japan's JET Program*, University of California Press

Medgyes, P. (1998). *The non-native teacher*, Max Hueber Verlag.

・学生に対する評価: 学生に対する評価・受講態度（文献講読への取り組み・ディスカッションへの参加意欲など）を総合的に評価する：30%

・課題への取り組み（プレゼンテーション・レポートなど）を総合的に評価する：70%

授業科目名：英語教育実践研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：真歩仁しょうん (Sean Mahoney)
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
The students will be introduced to readings that challenge their thinking about English “errors,” and will be exposed to examples of Englishes from around the world. They will be coached on how to pursue their own research interests, and will have at least three opportunities to present on research topics of their choice. Specific aims of this class will be: 1) to develop an understanding of English variety; 2) to develop a sense of error gravity, and of evaluation hurdles; 3) to understand and be able to debate the concept of and problems with a Lingua Franca Core; 4) to acquire skills in doing independent research, summarising, and presenting on teaching issues of interest to themselves.			
【和訳】			
英語使用における「誤り」に関する文献講読を行い、世界中の多様な英語について理解を深める。また、受講生の研究テーマに関する発表（３回以上）を通して、自身の研究テーマを追究していく。具体的な目標は以下のとおりである。 1) 英語の多様性の認識を深める。 2) 誤りの重大性と評価の困難さの認識を深める。 3) リンガフランカコアの概念とその問題点を理解し討議することができる。 4) 興味のある教育に関する問題について自主的に調査を行い、その結果をまとめて発表することができる。			
授業の概要			
The class will, of course, take place in English. Students will begin by explaining, reviewing, and (if possible) demonstrating areas of difficulty that they have noticed in their English-teaching practice. We will then summarise and discuss both academic articles and our own experiences that apply to those problems. Further, students will be encouraged to			

do their own research and lead in readings of articles on issues they believe are likely to arise in their future teaching contexts. Lastly, students will consider the applicability of the research to English teaching based on the Course of Study, including the use of information and computer technologies.

【和訳】

この授業は英語で行われる。まず、自身が考える英語教育の授業実践における問題点について、受講生が説明する（可能であれば実演する）。次に、その問題点について、学術文献や実践経験に基づいて整理とディスカッションを行う。その上で、将来的に教育現場で生じると考える問題点について、文献講読や研究の遂行を行う。また、ICTの活用を含め、学習指導要領に基づいた指導への応用可能性を検討する。

授業計画

This course will assume familiarity with, and refer to, directives in the MEXT-produced Courses of Study for primary, junior high, and senior high schools.

第1回: Introduction: typical teaching difficulties (Handout); students' particular concerns, research interests, and goals for this class; skills in self-directed research

第2回: Examples from the instructor's research (Handout)

第3回: Article on error correction and evaluation hurdles (Handout from *Second Language Acquisition Myths*, Ch.6)

第4回: Student presentation #1 on findings from self-directed research regarding any issue touched upon thus far; discussion

第5回: The concepts of standard English and Variations (from *Global Englishes*, sections A3 and A4), Handout

第6回: How to handle errors, our own and those of our students'; Selected reading from Ch. 4 in *Pronunciation Fundamentals* (Handouts on "Pronunciation Errors and Error Gravity" and Error Gravity in general)

第7回: Discussion of grading (ex., an in-class Dictation); suggestions for evaluation

第8回: Jenkins's concept of a Lingua Franca Core

第9回: Student presentation #2 on findings from self-directed research regarding "how to handle errors"; discussion

第10回: Discussion of World Englishes (with selections from *World Englishes*); listening to examples and exploring English varieties through information and computer technologies

第11回: Further discussion of selections from *World Englishes*: Chapter 9, "Englishes of Southeast Asia"; also Japan (Section 13.2), (Handout)

第12回: Student presentation #3 on findings from self-directed research regarding

World-Englishes; discussion

第13回：Analysis of Chinese, Japanese, Malay, and other L1-influenced Englishes: Selected readings from *Teaching the Pronunciation of English as a Lingua Franca*; discussion

第14回：Student presentation #4 on findings from self-directed research regarding a Lingua Franca Core; discussion

第15回：Recap, discussion of remaining issues, and proposals for future studies

【和訳】

本授業計画は、小学校、中学校および高等学校の学習指導要領の内容を踏まえて構成されている。

第1回：授業概要の説明：教育における問題点（配布資料）、受講生の興味・関心、授業目標および研究に必要とされるスキル

第2回：授業担当者の研究事例の紹介（配布資料）

第3回：誤り訂正と評価の困難さに関する文献講読：『Second Language Acquisition Myths』のチャプター6に基づく配布資料

第4回：受講生の研究に関する発表とディスカッション1：受講生が課題と考えるテーマについて

第5回：標準的な英語と多様性の概念：『Global Englishes』のセクションA3とA4に基づく配布資料

第6回：教師と生徒の誤りへの対処：『Pronunciation Fundamentals』のチャプター4に基づく配布資料

第7回：評価に関するディスカッションと提案

第8回：Jenkinsのリンガフランカコアの概念

第9回：受講生の研究に関する発表とディスカッション2：誤りへの対処について

第10回：World Englishesの事例とディスカッション：『World Englishes』に基づく（ICTを活用した英語の多様性に関する調査も含む）

第11回：World Englishesの探究とディスカッション：『World Englishes』のチャプター9に基づく配布資料

第12回：受講生の研究に関する発表とディスカッション3：World Englishesについて

第13回：中国語、日本語およびマレー語などの母語に影響を受けた英語についてディスカッション：『Teaching the Pronunciation of English as a Lingua Franca』に基づく

第14回：受講生の研究に関する発表とディスカッション4：Lingua Franca Coreについて

第15回：授業のまとめ：残った課題の検討および今後の研究への提案など

テキスト

授業の進展に伴い、指示あるいは授業者が用意する。

参考書・参考資料等

Brown, S. & Larson-Hall, J. (2012). *Second Language Acquisition Myths*, University of Michigan Press.

Derwing, T & Munro, M. (2015). *Pronunciation Fundamentals*, John Benjamins.

Jenkins, J. (2008). *Global Englishes*, Routledge

Kirkpatrick, A. (2007). *World Englishes*, Cambridge University Press

Walker, R. (2010). *Teaching the Pronunciation of English as a Lingua Franca*, Oxford University Press.

学生に対する評価:

- ・ 受講態度（文献講読への取り組み・ディスカッションへの参加意欲など）を総合的に評価する：30%
- ・ 課題への取り組み（プレゼンテーション・レポートなど）を総合的に評価する：70%

授業科目名：英語教育実践研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：真歩仁しょうん (Sean Mahoney)
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
This class will focus not only on the teaching of English, but also on an awareness of Japanese and English-speaking cultural influences on communication contents and styles. The students will be introduced to readings that challenge their thinking about culture-influenced communication, and will be exposed to examples of Englishes from around the world. They will be coached on how to pursue their own research interests, and will have at least three opportunities to present on research topics of their choice. Specific aims of this class will be: 1) to develop an awareness of pragmatic issues in English teaching (e.g., compliment responses across cultures); 2) to develop an understanding of intelligibility-based studies; 3) to understand and be able to debate concepts of and problems with conversational styles and notions of politeness; 4) to acquire skills in doing independent research, summarising, and presenting on teaching issues of interest to themselves. 5) increase their understanding of how statistics are used and interpreted in modern research related to language education. 【和訳】 この授業では英語教育に加え、日本と英語圏の文化がコミュニケーションの内容やスタイルに与える影響について扱う。文化に影響を受けたコミュニケーションの問題に関する文献講読を行い、世界中の多様な英語の事例に触れる。また、受講生の研究テーマに関する発表（3回以上）を通して、自身の研究テーマを追究していく。具体的な目標は以下のとおりである。 1) 英語教育における語用論の問題（例：誉め言葉など）の認識を深める。 2) 明瞭度に関する研究の理解を深める。 3) 興味のある教育に関する問題について自主的に調査を行い、その結果をまとめて発表することができる。 4) 言語教育に関する最近の研究における統計学の方法論と解釈について理解を深める。			

授業の概要

The class will, of course, take place in English. Students will begin by expressing particular concerns that they have noticed in their English-teaching practice and in realising Course of Study objectives. We will then look at teaching issues from a range of cross-cultural standpoints, while relating them to our own experiences as teachers, learners, and users of foreign languages. Further, they will be coached on how to follow-up on their research interests, and will have at least three opportunities to present on articles related to themes such as Pragmatics, Intelligibility, goal-achievement, and statistics in language-learning studies. Lastly, students will consider the applicability of the research to English teaching based on the Course of Study, including the use of information and computer technologies.

【和訳】

この授業は英語で行われる。まず、受講生が自身の英語授業の実践を通して気づいた問題点について、学習指導要領の目的と照らしつつ説明する。次に、教師、学習者そして外国語使用者としての経験と関連づけつつ、それらの問題点を異文化の観点から検討する。さらに、自身の研究の関心を追究できる方法論を身につけるため、語用論、明瞭さ、到達目標の達成および言語習得研究における統計学などに関する研究テーマの文献発表を行う。また、ICTの活用を含め、学習指導要領に基づいた指導への応用可能性を検討する。

授業計画

This course will assume familiarity with, and refer to, directives in the MEXT-produced Courses of Study for primary, junior high, and senior high schools.

第1回: Introduction; students' particular concerns, research interests, and goals for this class; skills in self-directed research.

第2回: Cultural aspects of English usage: "A cross-cultural study of compliment responses in American English and Japanese" (Handout)

第3回: Japanese Homeroom teachers' perspectives on goal achievement (Handout)

第4回: Student presentation #1 on findings from self-directed research regarding issues touched upon thus far; discussion

第5回: Selected readings in Intelligibility

第6回: More selected readings in Intelligibility: "Accent and speech rate effects in English as a lingua franca" (Handout)

第7回: Discussion of "How Japanese teachers of English perceive non-native assistant English teachers." (Handout)

第8回: Student presentation #2 on findings from self-directed research in Intelligibility; discussion

第9回: Cultural aspects of English usage: politeness and apologising (Handout); utilising

information and computer technologies for teaching examples

第10回：Discussion of Polite Fictions, Ch. 3: “You and I are Relaxed” and Ch. 9: “Conversational Ballgames” (Handout)

第11回：Student presentation #3 on findings from self-directed research in issues of cross-cultural pragmatics; discussion

第12回：Understanding statistics in academic articles on English Education (Handouts from Discovering Statistics using SPSS); discussion

第13回：Understanding statistics in academic articles on English Education, Part II (Handouts); discussion

第14回：Student presentation #4 on findings from self-directed research involving statistically-verified results; discussion

第15回：Recap, discussion of remaining issues, and proposals for future studies

【和訳】

本授業計画は、小学校、中学校および高等学校の学習指導要領の内容を踏まえて構成されている。

第1回：授業概要の説明：教育における問題点（配布資料）、受講生の興味・関心、授業目標および研究に必要とされるスキル

第2回：英語使用における文化的側面：『A cross-cultural study of compliment responses in American English and Japanese』に基づく配布資料

第3回：日本人教師の到達目標の捉え方（配布資料）

第4回：受講生の研究に関する発表とディスカッション1：受講生が課題と考えるテーマについて

第5回：明瞭さに関する文献調査

第6回：明瞭さに関する文献講読：『Accent and speech rate effects in English as a lingua franca』に基づく配布資料（配布資料）

第7回：『How Japanese teachers of English perceive non-native assistant English teachers』の配布資料に基づくディスカッション

第8回：受講生の研究に関する発表とディスカッション2：明瞭さについて

第9回：英語使用の文化的側面：ポライトネスと謝罪（配布資料）と教育場面におけるICTの活用

第10回：『Polite Fictions』のチャプター3とチャプター6に関するディスカッション（配布資料）

第11回：受講生の研究に関する発表とディスカッション3：異文化の語用論について

第12回：英語教育研究における統計学の理解とディスカッション1：『Discovering Statistics using SPSS』に基づく配布資料

第13回：英語教育研究における統計学の理解とディスカッション2：追加配布資料に基づく

第14回：受講生の研究に関する発表とディスカッション4：統計的な検証を含む研究について

第15回：授業のまとめ：残った課題の検討および今後の研究への提案など

テキスト

授業の進展に伴い、指示あるいは授業者が用意する。

参考書・参考資料等

Field, A. (2005). <i>Discovering Statistics using SPSS</i> , Sage.
--

Mahoney, S. (2015). Homeroom teachers' perspectives on goal achievement in Japan's foreign language activity classes, <i>JES Journal</i> , 15, 52–67.

Matsuura, H. (2002). A cross-cultural study of compliment responses in American English and Japanese, 『商学論集』, 71(1), 53–66.

Matsuura, H., Chiba, R., Mahoney, S., & Rilling, S. (2014). Accent and speech rate effects in English as a lingua franca, <i>System</i> , 46, 143–150.
--

Sakamoto, M. (2005). <i>Polite fictions in collision</i> . 金星堂.

Shibata, M. (2009). How Japanese teachers of English perceive non-native assistant English teachers, <i>System</i> , 38, 124–133.

学生に対する評価:

・ 受講態度（文献講読への取り組み・ディスカッションへの参加意欲など）を総合的に評価する：30%
--

・ 課題への取り組み（プレゼンテーション・レポートなど）を総合的に評価する：70%

授業科目名： 英語教育学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 高木修一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
教育的介入の効果（教育効果）を検証するには、教育的介入の目的に照らして適切な評価が不可欠である。適切な評価を行うには、評価が目的に沿っていることに加え、様々な妥当性の根拠を示すことが求められる。また、評価の役割は能力を適切に測定することだけでなく、学習者の学びを促すことも含まれる。そのためには、実施した評価を適切に点数化し、学習者へのフィードバックを工夫する必要がある。本授業は英語教育における評価に関わる様々な理論や概念を修得することを目標とし、具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 ・ 言語テストにおける様々な妥当性の枠組みを理解し、英語教育における評価の妥当化のプロセスを説明することができる。 ・ 英語教育における様々な評価において生じる波及効果を理解し、望ましい波及効果を与える方法を検討することができる。 ・ 英語教育における様々な評価の採点方法や解釈方法を理解し、評価の目的に応じた採点方法や解釈方法を検討することができる。			
授業の概要			
英語教育における評価の意義と役割について理解を深める。言語テスト理論に関する文献講読を通して、目的に応じた適切なテストの作成、テストが学習者に与える波及効果の検討、そしてテスト得点の処理方法について理論を身につける。また、ICTの活用を含め、学習指導要領に基づいた指導への応用可能性を検討する。			
授業計画			
本授業計画は、小学校、中学校および高等学校の学習指導要領の内容を踏まえて構成されている。			
第1回：英語教育における評価の諸問題			
第2回：テストの構成要素（妥当性・信頼性・実用性）			
第3回：妥当性の理論1（Messickの枠組み）			
第4回：妥当性の理論2（Kaneの枠組み）			

第5回：妥当性の理論3（論証に基づく枠組み）

第6回：テストの波及効果

第7回：客観的評価と主観的評価

第8回：ループリック評価

第9回：評価者間誤差と評価者トレーニング

第10回：テストにおけるICTの活用

第11回：古典的テスト理論

第12回：様々な英語検定試験の分析1：リスニングテスト

第13回：様々な英語検定試験の分析2：リーディングテスト

第14回：様々な英語検定試験の分析3：スピーキングテスト

第15回：様々な英語検定試験の分析4：ライティングテスト

テキスト

授業の進展に伴い、指示あるいは授業者が用意する。

参考書・参考資料等

小泉理恵：『英語4技能テストの選び方と使い方』（アルク）

小泉利恵・印南洋・深澤真（編）：『実例でわかる英語テスト作成ガイド』（大修館書店）

三浦省吾（監修）：『英語教師のための教育データ分析入門』（大修館書店）

学生に対する評価

・受講態度（文献講読への取り組み・ディスカッションへの参加意欲など）を総合的に評価する：50%

・課題への取り組み（プレゼンテーション・レポートなど）を総合的に評価する：50%

授業科目名： 英語教育学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 高木修一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教育における「指導と評価の一体化」の重要性は論をまたないが、それを実現するためには評価の意義と役割について理解を深め、教育的介入の効果（教育効果）の適切な測定や望ましい波及効果をもたらすフィードバックの実践が不可欠である。本授業は、テスト細目の検討からテストの作成、採点、およびフィードバックに至るまで、言語テスト理論に根ざした英語教育の評価を実践する力を身につけることを目標とし、具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 ・英語教育における評価の妥当化のプロセスに基づき、評価計画及びテストを作成することができる。 ・波及効果に関する理論に基づき、望ましい波及効果を与えるための具体的なフィードバックの方法を提案できる。 ・評価の適切な得点化に関する理論に基づき、評価者トレーニングを含め、評価者間誤差の少ない採点方法を実践できる。 ・古典的テスト理論や基礎的な統計手法に基づき、テスト得点を多角的に処理することができる。			
授業の概要 英語教育における評価の意義と役割について理解を深め、妥当性の高い評価を実践する力を身につける。ペーパーテストおよびパフォーマンステストの作成、プロダクトの評価、そしてテスト得点の処理に関する演習を通して、言語テスト理論に根ざした評価を実践できるようにする。また、ICTの活用を含め、学習指導要領に基づいた指導への応用可能性を検討する。			
授業計画 本授業計画は、小学校、中学校および高等学校の学習指導要領の内容を踏まえて構成されている。 第1回：テストの妥当性 第2回：テストの目的と評価規準 第3回：テスト細目の構成要素			

第4回：テスト形式の検討1：選択式問題
第5回：テスト形式の検討2：記述式問題
第6回：配点計画と評価基準の検討
第7回：採点方法の検討
第8回：テスト得点の処理方法の検討
第9回：フィードバックシートの検討
第10回：ICTを活用したテストの実施とフィードバック
第11回：テスト作成と評価計画1：リスニングテスト
第12回：テスト作成と評価計画2：リーディングテスト
第13回：テスト作成と評価計画3：スピーキングテスト
第14回：テスト作成と評価計画4：ライティングテスト
第15回：テスト作成と評価計画5：技能統合型テスト
テキスト 授業の進展に伴い、指示あるいは授業者が用意する。
参考書・参考資料等 小泉利恵・印南洋・深澤真（編）：『実例でわかる英語テスト作成ガイド』（大修館書店） 小泉利恵（編）：『実例でわかる 英語スピーキングテスト作成ガイド』（大修館書店）
学生に対する評価 ・受講態度（実践演習への取り組み・ディスカッションへの参加意欲など）を総合的に評価する：50% ・課題への取り組み（プレゼンテーション・レポートなど）を総合的に評価する：50%

授業科目名： 英語教育学研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 高木修一 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 英語教育学は学際的な分野であり、関連した様々な研究領域の研究手法が採用されている。その中でも実験心理学に基づいたアプローチが多くの研究で用いられている。実験結果から確かな結果を主張するためには、内的妥当性をはじめとした様々な条件を満たした研究デザインを採用することが必要である。本授業では実験心理学に基づく様々な研究デザインに焦点を当て、質の高いエビデンスに基づいた主張を行う力を身につけることを目標とし、具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 ・ 様々な研究デザインについて理解し、それぞれの長所と短所を説明することができる。 ・ 研究目的や研究環境に応じた適切な研究デザインを構想することができる。 ・ 研究のエビデンスについて理解し、エビデンスに基づく主張をすることができる。			
授業の概要 英語教育学の研究メソドロジーについて理解を深め、研究目的に沿った研究デザインを検討する力を身につける。英語教育学および実験心理学の研究手法に関する文献講読を通して、先行研究に基づいてリサーチクエスチョンを設定し、内的妥当性の高い研究デザインを構想できるようにする。また、ICTの活用を含め、学習指導要領に基づいた指導への応用可能性を検討する。			
授業計画 本授業計画は、小学校、中学校および高等学校の学習指導要領の内容を踏まえて構成されている。 第1回：英語教育学研究におけるエビデンス 第2回：エビデンスの階層 第3回：内的妥当性と外的妥当性 第4回：サンプリングの方法 第5回：干渉変数の統制 第6回：実験条件の割り当て 第7回：研究デザイン1：ランダム化比較実験			

第8回：研究デザイン2：不等価2群事前事後デザイン

第9回：研究デザイン3：中断時系列デザイン

第10回：研究デザイン4：1群事前事後デザイン・不等価2群事後デザイン

第11回：研究デザイン5：単一事例実験

第12回：メタ分析の基礎概念と方法論

第13回：メタ分析の調整変数分析

第14回：英語教育研究におけるICTの活用

第15回：再現研究の意義と方法論

テキスト

授業の進展に伴い、指示あるいは授業者が用意する。

参考書・参考資料等

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）：『心理学研究法入門』（東京大学出版会）

巨陽一・草薙邦広・寺沢拓敬・浦野研・工藤洋路・酒井英樹：『英語教育のエビデンス』（研究社）

学生に対する評価

・受講態度（文献講読への取り組み・ディスカッションへの参加意欲など）を総合的に評価する：50%

・課題への取り組み（プレゼンテーション・レポートなど）を総合的に評価する：50%

授業科目名： 英語教育学研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 高木修一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
英語教育学研究においては様々な研究アプローチが採用されている。現在も、心理統計学に基づく量的分析を用いている研究が多い一方で、その分析手法は多様化している。また、質的分析を用いた研究や、量的研究と質的研究を合わせた混合研究法も増えてきているため、英語教育学研究を遂行するには、様々な研究手法を理解しておくことが不可欠である。本授業では量的分析と質的分析の研究方法に焦点を当て、様々な統計手法を実践する力を身につけることを目標とし、具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 ・心理統計学に基づく様々な量的分析の手法を理解し、実践することができる。 ・様々な質的分析の手法を理解し、実践することができる。 ・自身の研究デザインに照らして、適切な分析手法を選択して実践することができる。			
授業の概要			
英語教育学の研究メソドロジーについて理解を深め、様々な研究デザインに適した分析手法の検討および実践する力を身につける。統計分析を中心とした量的分析と質的分析に関する文献講読および分析演習を通して、研究目的や研究デザインに照らして適切な分析を実施できるようにする。また、ICTの活用を含め、学習指導要領に基づいた指導への応用可能性を検討する。			
授業計画			
本授業計画は、小学校、中学校および高等学校の学習指導要領の内容を踏まえて構成されている。			
第1回：英語教育研究の方法論の概観1：量的研究を中心に			
第2回：英語教育研究の方法論の概観2：質的研究を中心に			
第3回：記述統計と推測統計			
第4回：統計的仮説検定			
第5回：効果量と検定力			
第6回：t検定			
第7回：分散分析			

第8回：相関分析

第9回：回帰分析

第10回：ベイズ統計の基礎

第11回：量的研究におけるICTの活用

第12回：テキストマイニング

第13回：ケース・スタディ

第14回：インタビュー

第15回：ナラティブ・レビュー

テキスト

授業の進展に伴い、指示あるいは授業者が用意する。

参考書・参考資料等

三浦省吾（監修）：『英語教師のための教育データ分析入門』（大修館書店）

竹内理・水本篤（編著）：「外国語教育研究ハンドブック」（松柏社）

秋田喜代美・藤江康彦（編著）：『これからの質的研究法』（東京図書）

学生に対する評価

・受講態度（実践演習への取り組み・ディスカッションへの参加意欲など）を総合的に評価する：50%

・課題への取り組み（プレゼンテーション・レポートなど）を総合的に評価する：50%

授業科目名：第二言語 習得特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐久間 康之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
第一言語と第二言語（外国語を含む）の習得過程の特徴（類似点と相違点）を理解し、第二言語習得の基礎的理論の知識を身につける。			
授業の概要"			
第一言語と第二言語（外国語を含む）の習得過程の特徴（類似点と相違点）について理解を深める。さらに、日本語を母語とする学習者が様々な校種において外国語として英語を学習する際（外国語活動及び英語科教育）の言語事象の特徴を理解し、科学的証明の重要性を理解する。さらに、ICTの活用を含め、学習指導要領に基づいた指導への応用可能性を検討する。			
授業計画			
本授業計画は、小学校、中学校および高等学校の学習指導要領の内容を踏まえて構成されている。			
第1回：英語を取り巻く世界の現状と日本の英語教育の課題			
世界中を取り巻く英語の様々な現状について理解する。			
第2回：第二言語習得と英語教育			
第二言語習得と英語教育の関係について理解する。			
第3回：第二言語習得における第一言語の影響			
第二言語習得に母語（第一言語）が及ぼす影響を理解する。			
第4回：学習者の要因（発達の要因）			
学習開始年齢に伴う言語習得の特徴を理解する。			
第5回：学習者要因（認知的要因）			
学習者の認知能力の相違が言語習得に及ぼす影響を理解する。			
第6回：学習者要因（情意的要因）			
学習者の様々な情意的要因の相違が言語習得に及ぼす影響を理解する。			
第7回：指導者要因			
言語指導に携わる指導者の特徴が言語習得に及ぼす影響を理解する。			
第8回：第二言語習得に基づく英語教授法（文字言語情報）			
文字言語情報の処理に焦点を当てた教授法を理解する。			

第9回：第二言語習得に基づく英語教授法（音声言語情報）

音声言語情報の処理に焦点を当てた教授法を理解する。

第10回：第二言語習得理論にもとづく日本の英語教育の特徴

第二言語習得理論と日本の英語教育の整合性及び課題について理解する。

第11回：第二言語習得における文法的知識の役割

第二言語の文法的知識の習得の特徴を理解する。

第12回：第二言語習得における指導教材のあり方（ICTも含む）

より効果的なインプットのあり方として、指導教材の特徴を理解する。

第13回：第一言語習得における記憶の役割

第一言語習得における様々な記憶の役割を理解する。

第14回：第二言語習得における記憶の役割

第二言語習得における様々な記憶の役割を理解する。

第15回：第二言語習得の定着を目指したICTの有効活用

ICTの有効活用による第二言語習得の定着を考える。

テキスト

授業の最初に説明する。

参考書・参考資料等

白井恭弘 著 2012『英語教師のための第二言語習得論入門』（大修館書店）、小池生夫
編 2003『応用言語学事典』（研究社）、日本認知科学会 編 2002『認知科学辞典』

学生に対する評価

- ・受講態度（授業に取り組む姿勢・ディスカッションへの参加意欲など）を総合的に評価する
：30%
- ・課題への取り組み（レポート等）を総合的に評価する：70%

授業科目名：第二言語 習得特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐久間 康之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
日本語を母語とする学習者が外国語として英語を学習する際（外国語活動及び英語科教育）のプロセスの特徴について理解を深める。心理言語学や認知心理学の調査に基づく演習を通して、言語学習プロセスを微視的かつ巨視的な視点で理解できるようにする。			
授業の概要			
日本語を母語とする学習者が外国語として英語を学習する際（外国語活動及び英語科教育）のプロセスに関する文献調査を通して、科学的に証明する方法の理解及び自分の研究テーマへ応用を検討できるようにする。さらに、ICTの活用を含め、学習指導要領に基づいた指導への応用可能性を検討する。			
授業計画			
本授業計画は、小学校、中学校および高等学校の学習指導要領の内容を踏まえて構成されている。			
第1回：第二言語習得における効果的ICT活用のあり方			
第二言語習得におけるICTの効果的活用のあり方を考える。			
第2回：第二言語習得における心理言語学の特徴（文法知識）			
心理言語学における文法知識の役割を理解する。			
第3回：第二言語習得における認知心理学の特徴（記憶）			
認知心理学における記憶の役割を理解する。			
第4回：第二言語習得における様々な校種の特徴			
国内外含め、様々な校種（小学校、中学校、高等学校、大学等）の習得条件の特徴を理解する。			
第5回：言語習得における顕在記憶と潜在記憶			
顕在記憶と潜在記憶の特徴を理解する。			
第6回：語彙習得：顕在記憶と潜在記憶の役割			
日本人大学生の英単語学習における顕在記憶と潜在記憶の果たす特徴を理解する。			
第7回：文法知識の習得			
文法項目の特徴と個人差の影響を理解する。			
第8回：語彙の知識とコミュニケーションの関係			

語彙の知識とコミュニケーションにおける言語運用能力の特徴を理解する。 第9回：小学生における文法知識の発達 日本の小学生がいかに文法知識を習得していくかを理解する。 第10回：中学生における文法知識の発達 日本の中学生がいかに文法知識を習得していくかを理解する。 第11回：脳内における文法知識 人間の脳の中で文法知識がいかに関与しているかを理解する。 第12回：小学生の外国語活動における記憶の役割 日本人小学生が英語の音声に慣れ親しむ指導の中で記憶がどのように関与しているのかを理解する。 第13回：中学生の英語学習における記憶の役割 日本人中学生の英語学習において記憶がどのように関与しているのかを理解する。 第14回：高校生の英語学習における記憶の役割 日本人高校生の英語学習において記憶がどのように関与しているのかを理解する。 第15回：大学生の英語学習における記憶の役割とまとめ 日本人大学生の英語学習において記憶がどのように関与しているのかを理解するとともに、第二言語習得における科学的証明方法の特徴を総括的に理解する。
テキスト 授業の最初に説明する。
参考書・参考資料等 小池生夫 編 2003『応用言語学事典』（研究社）、日本認知科学会 編 2002『認知科学辞典』、太田信夫 編 2006『記憶の心理学と現代社会』（有斐閣）、鈴木渉・佐久間康之・寺澤孝文 編 2021『外国語学習での暗示的・明示的知識の役割とは何か』（大修館書店）
学生に対する評価 ・ 受講態度（授業に取り組む姿勢・ディスカッションへの参加意欲など）を総合的に評価する：30% ・ 課題への取り組み（プレゼンテーション・レポートなど）を総合的に評価する：70%

授業科目名：第二言語 習得研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐久間 康之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
第二言語習得のメカニズムについて、心理言語学の記憶研究の視点から理解を深める。文字言語及び音声言語の情報処理プロセスにおける記憶の役割の特徴を理解する。さらに、外国語環境にある日本語の母語話者が英語を理解し習得する際に重要となる要因について検討する。この授業を通して、第二言語習得理論に立脚した自分の研究を進めていく力を身につけることができるようにすることである。			
授業の概要			
「英語学習と記憶（特にワーキングメモリ）」をテーマとし、人間が言語を理解する際のプロセス、特に外国語として英語を学習する際の日本人の言語事象の特徴について、微視的視点からそのメカニズムを理解し、外国語活動及び英語科教育のあり方について科学的に分析できるようにする。さらに、ICTの活用を含め、学習指導要領に基づいた指導への応用可能性を検討する。			
授業計画			
本授業計画は、小学校、中学校および高等学校の学習指導要領の内容を踏まえて構成されている。			
第 1 回：第一言語と第二言語習得の記憶の役割			
第一言語と第二言語に関する習得条件の違いと記憶の役割の違いについて理解する。			
第 2 回：第二言語習得における記憶研究の歴史的変遷			
第二言語習得研究における記憶研究の流れについて理解する。			
第 3 回：英語理解における様々な記憶の役割			
英語を理解する際の様々な記憶の役割について理解する。			
第 4 回：英語理解におけるワーキングメモリ(Working Memory)の役割			
英語を理解する際のWMの役割について理解する。			
第 5 回：ワーキングメモリの理論とモデル（１）情報処理			
WMにおける情報処理の特徴について理解する。			
第 6 回：ワーキングメモリの理論とモデル（２）注意			
WMにおける注意の役割について理解する。			

第7回：ワーキングメモリの理論とモデル（3）長期ワーキングメモリ 長期ワーキングメモリの特徴について理解する。 第8回：ワーキングメモリの理論とモデル（4）記憶容量 WMにおける記憶容量の特徴について理解する。 第9回：ワーキングメモリの発展と関連する認知プロセス（1）長期記憶 WMにおける長期記憶との関わりについて理解する。 第10回：ワーキングメモリの発展と関連する認知プロセス（2）多様性 WMと様々な認知プロセスとの関わりについて理解する。 第11回：ワーキングメモリと音声言語処理（1）Listening 音声言語におけるWMの役割を理解しListeningプロセスを科学的に分析する。 第12回：ワーキングメモリと音声言語処理（2）Speaking 音声言語におけるWMの役割を理解しSpeakingプロセスを科学的に分析する。 第13回：ワーキングメモリと文字言語処理（1）Reading 文字言語におけるWMの役割を理解しReadingプロセスを科学的に分析する。 第14回：ワーキングメモリと文字言語処理（2）Writing 文字言語におけるWMの役割を理解しWritingプロセスを科学的に分析する。 第15回：言語習得におけるICTの活用 外国語活動及び英語科教育のあり方についてICTの効果的活用も含め総合的に考察する。
テキスト 授業の最初に説明する。
参考書・参考資料等 太田信夫・佐久間康之 編著 2016 『英語教育学と認知心理学のクロスポイント』（北大路書房）、小池生夫 編 2003 『応用言語学事典』（研究社）、日本認知科学会 編 2002 『認知科学辞典』
学生に対する評価 ・受講態度（授業に取り組む姿勢・ディスカッションへの参加意欲など）を総合的に評価する：30% ・課題への取り組み（レポートなど）を総合的に評価する：70%

授業科目名：第二言語 習得研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐久間 康之 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 第二言語習得のメカニズムについて、心理言語学の記憶研究（特にワーキングメモリ）の視点から、より具体的な研究方法の理解を深める。さらに、外国語環境にある日本語の母語話者が英語を理解し習得する際に重要となる要因について多くの先行研究を踏まえ科学的証明を検討する。この授業を通して、第二言語習得理論に基づく言語習得の特徴を理解し、この理論に立脚した自分の研究を科学的に証明できる力を身につけることができるようにする。			
授業の概要 外国語として英語を学習する際（外国語活動及び英語科教育）の日本人の言語事象の特徴について、心理言語学の記憶研究の立場から微視的かつ巨視的な視点で捉え、科学的証明ができるようにする。さらに、ICTの活用を含め、学習指導要領に基づいた指導への応用可能性を検討する。			
授業計画 本授業計画は、小学校、中学校および高等学校の学習指導要領の内容を踏まえて構成されている。 第1回：ワーキングメモリ(WM)におけるストラテジー（1）種類と特徴 WMにおける英語のストラテジーの種類と特徴について理解する。 第2回：ワーキングメモリにおけるストラテジー（2）英語の母語話者 WMにおける英語の母語話者のストラテジーの種類と特徴について理解する。 第3回：ワーキングメモリにおけるストラテジー（3）英語の非母語話者 WMにおける英語の非母語話者のストラテジーの種類と特徴について理解する。 第4回：ワーキングメモリ測定のテストと特徴（1）Reading Span Test（RST） WMのテストの一つであるRSTの特徴について理解する。 第5回：ワーキングメモリ測定のテストと特徴（2）Listening Span Test（LST） WMのテストの一つであるLSTの特徴について理解する。 第6回：ワーキングメモリ測定のテストと特徴（3）その他のSpan Tests RSTやLST以外の複数のWMのテストについて理解する。 第7回：ワーキングメモリの有限性と効果的学習 - ストラテジー訓練			

WMの有限性を踏まえストラテジーを利用した効果的学習の特徴を理解する。 第8回：ワーキングメモリの有限性と効果的学習 - メタ認知訓練 WMの有限性を踏まえメタ認知訓練による効果的学習の特徴を理解する。 第9回：ワーキングメモリの有限性と効果的学習 - リスニング WMの有限性を踏まえリスニングの効果的学習の特徴を理解する。 第10回：ワーキングメモリの有限性と効果的学習 - リーディング WMの有限性を踏まえリーディングの効果的学習の特徴を理解する。 第11回：ワーキングメモリを駆使した効果的授業のあり方 WMの特徴を活かした効果的授業のあり方について理解する。 第12回：事例研究（1）語レベルの処理 WMの語レベルでの処理に関する実験論文をもとに分析、考察する。 第13回：事例研究（2）文レベルの音声情報の処理 WMの文レベルでの音声情報処理に関する実験論文をもとに分析、考察する。 第14回：事例研究（3）文レベルの文字情報の処理 WMの文レベルでの文字情報処理に関する実験論文をもとに分析、考察する。 第15回：記憶の定着を目指したICTの有効活用 日本の英語環境を踏まえICT活用による記憶の定着のあり方を考察する。
テキスト 授業の最初に説明する。
参考書・参考資料等 太田信夫・佐久間康之 編著 2016 『英語教育学と認知心理学のクロスポイント』（北大路書房）、小池生夫 編 2003 『応用言語学事典』（研究社）、日本認知科学会 編 2002 『認知科学辞典』
学生に対する評価 ・ 受講態度（授業に取り組む姿勢・ディスカッションへの参加意欲など）を総合的に評価する：30% ・ 課題への取り組み（レポートなど）を総合的に評価する：70%

授業科目名： ミクロ経済学特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤寿博
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：ミクロ経済学の基礎理論			
到達目標：ミクロ経済学の基礎理論について、その基礎を修得するとともに、その応用として現実の経済事象を分析する力を身に着ける			
授業の概要			
消費者行動理論、生産者行動理論、そして市場の理論について講義します。内容は中級レベルの標準的なミクロ経済学の内容です。なお、毎回、簡単な練習問題を課し、それを解くことで学習成果を確認していきます。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：市場の一般理論：需要と供給			
第3回：消費者行動の理論（消費者の最適化行動）			
第4回：所得と最適消費計画			
第5回：価格と最適消費計画（需要関数）			
第6回：スルツキー方程式とその論理			
第7回：生産者行動の理論I（生産関数と最適化行動）			
第8回：生産技術と費用の論理			
第9回：生産者行動の理論II（費用関数と最適化行動）（供給関数）			
第10回：長期と短期の供給関数			
第11回：市場均衡（部分均衡分析）			
第12回：市場均衡（一般均衡とその存在定理）			
第13回：一般均衡の論理（0次同次性、ワルラス法則）			
第14回：純粋交換経済と市場均衡			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
神取道宏、『ミクロ経済学の力』、日本評論社、2014			

参考書・参考資料等

その他、ミクロ経済学の中級レベルの教科書

学生に対する評価

S: 90-100 かなり高い学習成果が認められる

A: 80-89 高い学習成果が認められる

B: 70-79 標準的な学習成果が認められる

C: 60-69 ある程度の学習成果が認められる

D: 59以下 ミクロ経済学について、最低限の学習成果が認められない

授業科目名： ミクロ経済学特殊研究II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 荒知宏
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ミクロ経済学を主とする指導を行う。履修希望者のミクロ経済学の基礎知識を考慮しつつ、できるだけ受講者の興味に沿ったテーマの経済学的研究に取り組む予定である。			
授業の概要 様々なミクロ経済学の考え方を応用して、現実の諸課題について検討し、この過程で修了までの研究の方向性を決定する。なお、本演習では、参考文献の輪読によって研究への理解を深めるとともに、ディスカッションおよびプレゼンテーションを通じてコミュニケーション能力を高めていく。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：教科書輪読1 消費者行動 第3回：課題演習1 消費者行動 第4回：教科書輪読2 企業行動 第5回：課題演習2 企業行動 第6回：教科書輪読3 競争経済 第7回：課題演習 競争経済 第8回：教科書輪読4 経済厚生 第9回：課題演習4 経済厚生 第10回：教科書輪読5 不完全競争 第11回：課題演習5 不完全競争 第12回：教科書輪読6 ゲームの理論 第13回：課題演習6 ゲームの理論 第14回：最終報告の準備1 各自の興味関心に基づいた問題探究1 第15回：最終報告の準備2 各自の興味関心に基づいた問題探究2 定期試験			
テキスト 特に指定しない。適宜、指示する。			
参考書・参考資料等			

随時、必要に応じて紹介するが、下記のいずれかを通読しておくのが望ましい。

古沢泰治・塩路悦朗 『ベーシック経済学』（有斐閣）

伊藤元重 『ミクロ経済学』（日本評論社）

神取道宏 『ミクロ経済学の力』（日本評論社）

学生に対する評価

授業への参加（30点）、授業における期末レポート（70点）を配分して、合計100点で評価する。
。期末レポートについては最初の授業で説明する。

授業科目名： マクロ経済学特殊研究I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 石川大輔
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義では、大学院におけるマクロ経済学として標準的な内容である新古典派成長モデルに焦点を当てて学習を進めていきます。具体的には、新古典派成長モデルを理解するために必要となる数学（連立差分方程式の基礎、固有値問題の解法、ベルマンの最適原理）、新古典派成長モデルの導出とその含意（オイラー方程式の導出、定常状態における黄金律、位相図を用いた鞍点経路の特定）、新古典派成長モデルの応用（恒常所得仮説、トービンのQモデル、リカードの中立命題、モジリアーニ・ミラーの定理）、新古典派成長モデルの実証分析（危険回避度の測定、ランダムウォーク仮説の検定、株価の変動範囲検定）などを習得することを目指します。			
授業の概要			
上記の到達目標を達成するために、関連する文献の輪読を行います。受講生は毎回の授業で文献内容の報告（プレゼンテーション）を行い、議論を深めます。従って、受講生には十分な時間をとった予習と準備が求められます。さらに学期末には、授業の集大成として、受講生は指定されたテーマに関するターム・ペーパーを執筆します。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：新古典派成長モデルを理解するために必要となる数学 1（連立差分方程式の基礎）			
第3回：新古典派成長モデルを理解するために必要となる数学 2（固有値問題の解法）			
第4回：新古典派成長モデルを理解するために必要となる数学 3（ベルマンの最適原理）			
第5回：新古典派成長モデルの導出とその含意 1（オイラー方程式の導出）			
第6回：新古典派成長モデルの導出とその含意 2（定常状態における黄金律）			
第7回：新古典派成長モデルの導出とその含意 3（位相図を用いた鞍点経路の特定）			
第8回：新古典派成長モデルの応用 1（恒常所得仮説）			
第9回：新古典派成長モデルの応用 2（トービンのQモデル）			
第10回：新古典派成長モデルの応用 3（リカードの中立命題）			
第11回：新古典派成長モデルの応用 4（モジリアーニ・ミラーの定理）			
第12回：新古典派成長モデルの実証分析 1（危険回避度の測定）			
第13回：新古典派成長モデルの実証分析 2（ランダムウォーク仮説の検定）			

第14回：新古典派成長モデルの実証分析3（株価の変動範囲検定）

第15回：まとめ

テキスト

輪読する文献については、授業で指示します。

参考書・参考資料等

随時、必要に応じて紹介します。

学生に対する評価

毎回の輪読（プレゼンテーション）を50%、学期末に提出するターム・ペーパーを50%として評価します。

授業科目名： マクロ経済学特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石川大輔
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 マクロ経済学は、一国全体の経済変数（GDP、金利、為替レートなど）の決定メカニズムや、それらに関連する経済政策を研究する学問です。マクロ経済学を習得するにあたっては、マクロ経済を構成する実物・財政・（中央銀行を含む）金融・対外部門に対する理解を深めるとともに、それらの部門間の相互連関についても把握する必要があります。また、現実の経済政策を考えるにあたっては、国の発展段階（先進国、新興国、発展途上国）にも注意を払う必要があります。このような観点に基づき、この授業では、マクロ経済に関する専門知識を習得した上で、マクロ経済で発生し得る経済問題の根本的な原因を特定し、それを解決するためにはどのような処方箋（経済政策）を与えるのが望ましいのかを、自らの力で考えることができることを目的とします。			
授業の概要 上記の到達目標を達成するために、関連する文献の輪読を行います。受講生は毎回の授業で文献内容の報告（プレゼンテーション）を行い、それをベースとして、実際の経済政策への応用について議論を深めます。従って、受講生には十分な時間をとった予習と準備が求められます。さらに学期末には、授業の集大成として、受講生は指定されたテーマに関するターム・ペーパーを執筆します。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：先進国の実物部門（短期の景気循環、中長期の潜在成長率、労働市場など） 第3回：新興国の実物部門（短期の景気循環、中長期の潜在成長率、労働市場など） 第4回：発展途上国の実物部門（短期の景気循環、中長期の潜在成長率、労働市場など） 第5回：先進国の財政部門（政府のオペレーション、公的債務の持続可能性など） 第6回：新興国の財政部門（政府のオペレーション、公的債務の持続可能性など） 第7回：発展途上国の財政部門（政府のオペレーション、公的債務の持続可能性など） 第8回：先進国の金融部門（中央銀行のオペレーション、資本市場、銀行貸出市場など） 第9回：新興国の金融部門（中央銀行のオペレーション、資本市場、銀行貸出市場など） 第10回：発展途上国の金融部門（中央銀行のオペレーション、資本市場、銀行貸出市場など） 第11回：先進国の対外部門（貿易、為替レート、国際収支など）			

第12回：新興国の対外部門（貿易、為替レート、国際収支など）

第13回：発展途上国の対外部門（貿易、為替レート、国際収支など）

第14回：先進国における実物・財政・金融・対外部門間の相互関連

第15回：新興国・発展途上国における実物・財政・金融・対外部門間の相互関連

テキスト

輪読する文献については、授業で指示します。

参考書・参考資料等

随時、必要に応じて紹介します。

学生に対する評価

毎回の輪読（プレゼンテーション）を50%、学期末に提出するターム・ペーパーを50%として評価します。

授業科目名： 産業連関論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐藤寿博
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
地域を論ずるための大前提は、なにより地域の経済的力を客観的に知ることです。たとえば、各都道府県の第一次産業がどれだけのGDPを生み出しているか、2次産業、3次産業の比率はどのように変化しているのか。 このような基本的な情報をもっともわかりやすい形で与えてくれるのが、国連加盟各国ならびに日本のすべての都道府県、あるいは都道府県内の地域別に発表されている「産業連関表」という経済データです。これは当該地域の経済活動を産業レベルまで遡って記したもので、その地域の現状と未来を教えてくれる非常に有用なデータです。 この専門演習では実際の産業連関表を用いて、各地域の現実の経済的特性を探り、また応用として経済的イベントの経済効果を予測するための基礎を学びます。これらは地域論を学ぶ上で、もっとも基本的な知識といえます。			
授業の概要			
各自の興味に応じて全国都道府県（もしくはその中の地域）のなかから一つを選び、その県の経済力を導出するためのいくつかの概念と手法を学びます。そのつぎに、何らかの経済イベント（例：東京オリンピック2020など）がどれだけの経済効果を引き起こすか、その理論を紹介します。テレビや新聞などで紹介される経済効果の予測について、学んでもらおうということです。 東日本大震災直後の産業連関表がすべての都道府県で出そろった段階にあります。あるいは、都道府県によっては、東日本大震災からさらに数年経った段階での産業連関表を発表するところもいくつか出てきました。東日本大震災の影響や、その後の復旧復興の様子がデータにどう表れるのか、興味ある研究対象に取り組むチャンスです。 なお、授業ではExcelを使います。Excel操作を通して理論と現実を学ぶ、あるいは理論・現実からExcel操作を学ぶ機会の、どちらともなる内容です。			
第1回 産業連関表の収集			
第2回 産業連関表の整理			
第3回 産業連関表と県内総生産・県内総支出・県内所得（基礎）			
第4回 産業連関表と県内総生産・県内総支出・県内所得（応用）			
第5回 産業連関表に見る都道府県の産業の特徴（基礎）			

第6回 産業連関表に見る都道府県の産業の特徴 (応用)

第7回 産業別影響力係数 / 感应度係数

第8回 輸入率 / 自給率 /

第9回 輸出率 / 自己消費率

第10回 最終需要と生産誘発額 (基礎)

第11回 最終需要と生産誘発額 (応用)

第12回 物価と生産誘発額

第13回 雇用と生産誘発額

第14回 経済イベントの経済効果の予測 (実践例)

第15回 経済イベントの経済効果の予測 (応用)

テキスト

テキストは使用しません。資料はインターネットで収集するか、あるいは授業担当者が作成した資料を適宜配布します。

参考書・参考資料等

www.e-stat.go.jpをはじめとする政府統計機関のHP。その他、授業内で紹介します。

学生に対する評価

S: 90-100 かなり高い学習成果が認められる

A: 80-89 高い学習成果が認められる

B: 70-79 標準的な学習成果が認められる

C: 60-69 ある程度の学習成果が認められる

D: 59以下 産業連関分析について、最低限の学習成果が認められない

授業科目名： 金融論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 石川大輔
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義では、大学院における金融論として標準的な内容となるマクロ経済学の応用分野としての資本資産価格モデル（CAPM）に焦点を当てて学習を進めていきます。具体的には、資本資産価格モデルを理解するために必要となる数学（確率分布、期待値、分散、共分散、制約付最適化問題）、資本資産価格モデルを理解するための基礎知識（不確実性の導入、リスク回避的な効用関数、消費のオイラー方程式）、資本資産価格モデルの導出とその含意（資産選択の平均・分散アプローチ、効率的フロンティア、分離定理、CAPMの導出）、資本資産価格モデルの応用（シャープ比、ジェンセンのアルファ分析、マーケット・ベータ分析）を習得することを目指します。			
授業の概要			
上記の到達目標を達成するために、関連する文献の輪読を行います。受講生は毎回の授業で文献内容の報告（プレゼンテーション）を行い、議論を深めます。従って、受講生には十分な時間をとった予習と準備が求められます。さらに学期末には、授業の集大成として、受講生は指定されたテーマに関するターム・ペーパーを執筆します。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：資本資産価格モデルを理解するために必要となる数学1（確率分布）			
第3回：資本資産価格モデルを理解するために必要となる数学2（期待値、分散、共分散）			
第4回：資本資産価格モデルを理解するために必要となる数学3（制約付最適化問題）			
第5回：資本資産価格モデルを理解するための基礎知識1（不確実性の導入）			
第6回：資本資産価格モデルを理解するための基礎知識2（リスク回避的な効用関数）			
第7回：資本資産価格モデルを理解するための基礎知識3（消費のオイラー方程式）			
第8回：資本資産価格モデルの導出とその含意1（資産選択の平均・分散アプローチ）			
第9回：資本資産価格モデルの導出とその含意2（効率的フロンティア）			
第10回：資本資産価格モデルの導出とその含意3（分離定理）			
第11回：資本資産価格モデルの導出とその含意4（CAPMの導出）			
第12回：資本資産価格モデルの応用（シャープ比）			
第13回：資本資産価格モデルの応用（ジェンセンのアルファ分析）			

第14回：資本資産価格モデルの応用（ベータ分析）

第15回：まとめ

テキスト

輪読する文献については、授業で指示します。

参考書・参考資料等

随時、必要に応じて紹介します。

学生に対する評価

毎回の輪読（プレゼンテーション）を50%、学期末に提出するターム・ペーパーを50%として評価します。

授業科目名： 国際金融論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 石川大輔
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
国際金融論は、マクロ経済における対外部門（貿易、為替レート、国際収支など）の決定メカニズムや、それらに関連する経済政策を研究するマクロ経済学の応用分野です。国際金融論を習得するにあたっては、対外部門自身を理解することに加えて、国内の実物・財政・（中央銀行を含む）金融部門が同対外部門（特に国際収支）に与える影響を理解することが非常に重要になります。また、国際金融論は、実学志向が強い学問でもあります。このような観点に基づき、この授業では、国際金融論に関する専門知識を習得した上で、対外部門で発生し得る経済問題の根本的な原因を特定し、それを解決するためにはどのような処方箋（経済政策）を与えるのが望ましいのかを、自らの力で考えることができることを目的とします。			
授業の概要			
上記の到達目標を達成するために、関連する文献の輪読を行います。なお、国際金融論は実学志向が強い学問であることに鑑み、本授業はある特定の国に関するケース・スタディーの形をとります。受講生は毎回の授業で文献内容の報告（プレゼンテーション）を行い、それをベースとして、実際の経済政策への応用について議論を深めます。従って、受講生には十分な時間をとった予習と準備が求められます。さらに学期末には、授業の集大成として、受講生は指定されたテーマに関するターム・ペーパーを執筆します。			
授業計画			
第 1 回：ガイダンス			
第 2 回：対外部門 1（貿易構造）			
第 3 回：対外部門 2（為替制度及び為替レート）			
第 4 回：対外部門 3（国際収支）			
第 5 回：実物部門が対外部門に与える影響 1（短期の景気循環が国際収支に与える影響）			
第 6 回：実物部門が対外部門に与える影響 2（中長期の潜在成長率が国際収支に与える影響）			
第 7 回：実物部門が対外部門に与える影響 3（労働市場の柔軟性が国際収支に与える影響）			
第 8 回：財政部門が対外部門に与える影響 1（政府のオペレーションが国際収支に与える影響）			
第 9 回：財政部門が対外部門に与える影響 2（公的債務の累積が国際収支に与える影響）			
第 1 0 回：金融部門が対外部門に与える影響 1（中央銀行のオペレーションが国際収支に与える影響）			
第 1 1 回：金融部門が対外部門に与える影響 2（資本市場が国際収支に与える影響）			

第12回：金融部門が対外部門に与える影響3（銀行貸出市場が国際収支に与える影響）

第13回：国際金融の安定化のための政策1（財政政策）

第14回：国際金融の安定化のための政策2（金融政策）

第15回：国際金融の安定化のための政策3（構造政策）

テキスト

輪読する文献については、授業で指示します。

参考書・参考資料等

随時、必要に応じて紹介します。

学生に対する評価

毎回の輪読（プレゼンテーション）を50%、学期末に提出するターム・ペーパーを50%として評価します。

授業科目名： 環境経済学特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 沼田 大輔
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ： 環境経済学 到達目標： ・環境経済学の概要を把握した。 ・環境経済学に関する文献を輪読し、議論した。 ・環境経済学に関する文献について理解を深めた。			
授業の概要 環境経済学は、環境問題を克服すべく、環境に優しい社会のあり方を考え、そのような状態を目指すための社会の仕組みを、経済学の観点から提起する学問です。この授業では、この環境経済学を、受講生の関心に合わせて、把握してもらうことがねらいです。			
授業計画 第1回： イントロダクション 第2回： 環境のための経済学 第3回： 市場と環境 第4回： 保全のためのインセンティブ 第5回： 環境評価——概念と手法 第6回： 費用便益分析と環境政策 第7回： 環境リスクと行動 第8回： 経済成長、環境、持続可能な開発 第9回： 環境と貿易 第10回： 気候変動の経済学 第11回： 水質改善の経済学 第12回： 家計の廃棄物とリサイクルの経済学 第13回： エネルギーと環境 第14回： 生物多様性 第15回： まとめ			
テキスト ニック・ハンレー，ジェイソン・ショグレン，ベン・ホワイト(著)，田中勝也（翻訳）(2021)			

)『環境経済学入門』昭和堂
参考書・参考資料等 適宜指示します。
学生に対する評価 授業の準備状況、および、期末テストもしくはレポートで評価します。

授業科目名： 公共経済学特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 沼田 大輔
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ： 公共経済学 到達目標： ・ 公共経済学の概要を把握した。 ・ 公共経済学に関する文献を輪読し、発表・議論した。 ・ 公共経済学に関する自身の関心について理解を深めた。			
授業の概要 公共経済学は、政府の果たすべき役割（市場の失敗）、政府がその役割を果たせるか（政府の失敗）を、経済学の観点から考える学問です。この授業では、この公共経済学を、受講生の関心に合わせて、主にテキストの輪読を通じて学びます。			
授業計画 第1回： イントロダクション 第2回： 財政学の基礎 第3回： 市場の失敗と政府の役割（市場と効率性、外部性） 第4回： 市場の失敗と政府の役割（公共財、再分配政策） 第5回： 政府介入の意義と政府の失敗（景気、公共投資） 第6回： 政府介入の意義と政府の失敗（公営企業） 第7回： 地方財政と政府間財政関係（地方債） 第8回： 地方財政と政府間財政関係（地方分権） 第9回： 租税制度とその効果（消費課税） 第10回： 租税制度とその効果（所得課税） 第11回： 租税制度とその効果（法人課税、資産課税） 第12回： 政府支出と社会保障（年金、医療） 第13回： 政府支出と社会保障（子育て、公的扶助） 第14回： 財政赤字の負担（財政収支、持続可能性） 第15回： 財政赤字の負担（中立命題）、まとめ			
テキスト 畑農鋭矢，林正義，吉田浩(2015)『財政学をつかむ 新版』有斐閣			

参考書・参考資料等

適宜指示します。

学生に対する評価

授業の準備状況、および、期末テストもしくはレポートで評価します。

授業科目名： 計量経済学特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井上 健
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 計量経済学の入門的な内容について学ぶ。到達目標は以下の通り。 * 基本的な計量経済モデルについて理解している。 * 回帰分析とそれとともなう関連手法を実践することができる。 * 回帰分析の結果を適切に解釈することができる。			
授業の概要 経済学によって提示される仮説が現実と整合的であるかどうかを検証したり、経済学の理論を利用して予測を行ったりすることが計量経済学の目的である。計量経済学の標準的な内容のうち、古典的回帰モデルを中心とした手法について、理論的な背景を理解するとともに、実際のデータを用いて解析作業が行えることを目指す。			
授業計画 第1回：計量経済学の目的 第2回：記述統計の基礎 第3回：確率論の基礎 第4回：代表的な社会指標 第5回：最小2乗法 第6回：決定係数・自由度修正済み決定係数 第7回：古典的回帰分析の仮定 第8回：推定値の性質 第9回：推定値の解釈と統制変数 第10回：モデル選択 第11回：相関と回帰 第12回：ダミー変数の利用(基本概念) 第13回：ダミー変数の利用(展開) 第14回：非線形モデル(対数モデル) 第15回：非線形モデル(その他のモデル) 定期試験			

テキスト

特に指定しない。適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

秋山裕「Rによる計量経済学 第2版」(オーム社)

田中勝人「計量経済学」(岩波書店)

浅野哲・中村二郎「計量経済学」(有斐閣)

学生に対する評価

適宜、到達度や理解度を測定する。その積み重ねにより最終的な評価を行う。その上で、以下の成績評価基準により成績を決定する。

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた(90～100点)

A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた(80～89点)

B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた(70～79点)

C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた(60～69点)

F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった(～59点)

授業科目名： 計量経済学特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井上 健
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
計量経済学の応用的な内容について学ぶ。到達目標は以下の通り。 * 応用的な計量経済モデルについて理解している。 * 分析目的に合わせて適切な計量経済モデルを選択することができる。 * 回帰分析の結果を適切に解釈することができる。			
授業の概要			
経済学によって提示される仮説が現実と整合的であるかどうかを検証したり、経済学の理論を利用して予測を行ったりすることが計量経済学の目的である 計量経済学の標準的な内容のうち、古典的な回帰モデルの想定では処理できないケースへの対応を扱う。			
授業計画			
第1回：統計数理の基礎			
第2回：不均一分散			
第3回：系列相関			
第4回：多重共線性			
第5回：内生性の存在とその影響			
第6回：内生性への対処			
第7回：推定誤差に関する整理			
第8回：回帰分析と因果推論(一般理論)			
第9回：回帰分析と因果推論(離散要因)			
第10回：回帰分析と因果推論(連続要因)			
第11回：パネルデータ分析			
第12回：質的選択モデル(2項モデル)			
第13回：質的選択モデル(多項モデル)			
第14回：生存時間分析			
第15回：まとめと整理			

定期試験
テキスト 特に指定しない。適宜、資料を配布する。
参考書・参考資料等 秋山裕「Rによる計量経済学 第2版」(オーム社) 田中勝人「計量経済学」(岩波書店) 浅野哲・中村二郎「計量経済学」(有斐閣)
学生に対する評価 適宜、到達度や理解度を測定する。その積み重ねにより最終的な評価を行う。その上で、以下の成績評価基準により成績を決定する。 S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた(90～100点) A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた(80～89点) B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた(70～79点) C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた(60～69点) F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった(～59点)

授業科目名： 国際経済学特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 荒知宏
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 国際経済学を主とする指導を行う。履修希望者の国際経済学の基礎知識を考慮しつつ、できるだけ受講者の興味に沿ったテーマの経済学的研究に取り組む予定である。			
授業の概要 国際経済学の考え方をを用いて、現実の諸課題について検討する。この過程で、修了までの研究の方向性を決定する。なお、本演習では、参考文献の輪読によって研究への理解を深めるとともに、ディスカッションおよびプレゼンテーションを通じてコミュニケーション能力を高めていく。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：教科書輪読1 リカード・モデル 第3回：課題演習1 リカード・モデル 第4回：教科書輪読2 ヘクシャー＝オリーン・モデル 第5回：課題演習2 ヘクシャー＝オリーン・モデル 第6回：教科書輪読3 貿易の標準モデル 第7回：課題演習3 貿易の標準モデル 第8回：教科書輪読4 規模の経済と不完全競争 第9回：課題演習4 規模の経済と不完全競争 第10回：教科書輪読5 貿易政策（完全競争の場合） 第11回：課題演習5 貿易政策（完全競争の場合） 第12回：教科書輪読6 貿易政策（不完全競争の場合） 第13回：課題演習6 貿易政策（不完全競争の場合） 第14回：最終報告の準備1 各自の興味関心に基づいた問題探究1 第15回：最終報告の準備2 各自の興味関心に基づいた問題探究2 定期試験			
テキスト 特に指定しない。適宜、指示する。			
参考書・参考資料等			

随時、必要に応じて紹介するが、下記のいずれかを通読しておくことが望ましい。

- ・石川城太・菊地徹・棕寛 『国際経済学をつかむ』 (有斐閣)
- ・阿部顕三・遠藤正寛 『国際経済学』 (有斐閣)
- ・若杉隆平 『国際経済学』 (岩波書店)
- ・清田耕造・神事直人 『実証から学ぶ国際経済』 (有斐閣)
- ・ジョン・マクラレン(柳瀬明彦 訳) 『国際貿易 グローバル化と政策の経済分析』 (文眞堂)

学生に対する評価

授業への参加 (30点)、授業における期末レポート (70点)を配分して、合計100点で評価する。
。期末レポートについては最初の授業で説明する。

授業科目名： 産業組織論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤英司
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、費用便益分析に必要な経済学的概念や分析手法を学び、時間があれば規制影響分析にも触れる。費用便益分析の事例を多数取り上げ、受講生自ら次の2点ができるようになることを目標とする。 ・費用便益分析に必要な経済学的概念や分析手法を理解すること。 ・学んだ知識を現実の具体的課題に適用して考えることができること。			
授業の概要 費用便益分析の事例を多数取り上げ、費用便益分析に必要な経済学的概念や分析手法を学びます。時間があれば規制影響分析にも触れる。ミクロ経済学や統計学・計量経済学の基本的知識を復習した上で、論文や報告書などを紹介する。			
授業計画 教材をもとに担当教員の講義と受講生の報告によってすすめます。 スケジュールは以下のようになっていますが、受講生の理解度や興味関心・開講日時に応じて適宜進度や授業内容を変更する場合があります。 [1日目: 担当教員の講義] 1. ガイダンス 2. ミクロ経済学の要点整理 3. 産業組織論の要点整理 4. ケーススタディ: 産業復興政策の定性的分析 [2日目: 担当教員の講義と受講生の報告] 5. 1日目の論点についての受講生の報告 6. 統計学・計量経済学の要点整理 7. 費用の評価 8. ケーススタディ: 産業復興政策の定量的分析(1) [3日目: 担当教員の講義と受講生の報告]			

9. 2日目の論点についての受講生の報告

10. 便益の評価

11. リスクの評価

12. ケーススタディ：産業復興政策の定量的分析(2)

[4日目：担当教員の講義と受講生の報告]

13. 3日目の論点についての受講生の報告

14. 社会的割引率の評価

15. ケーススタディ：産業復興政策の定量的分析(3)

テキスト

山本哲三編 (2009) 『規制影響分析入門』NTT出版 .

参考書・参考資料等

ミクロ経済学や費用便益分析に関する文献が参考になると思いますが、必要に応じて随時紹介していきます .

学生に対する評価

報告パフォーマンス50%，参加状況50%

S: 単位認定基準を満たし，かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた（90点以上）

A: 単位認定基準を満たし，かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた（80点以上90点未満）

B: 単位認定基準を満たし，かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた（70点以上80点未満）

C: 単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた（60点以上70点未満）

F: 単位認定基準の学習成果をあげられなかった（60点未満）

授業科目名： 法と経済学特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤英司
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 本授業は、法の経済分析の中でも比較的蓄積の多い独占禁止法に焦点をあてて、経済学的視点から判例法的展開を分析して日本の競争政策を評価する。独禁法審判決の事例を多数取り上げ、受講生自ら次の2点ができるようになることを目標とする。 ・競争政策のバックボーンとなる経済学を理解している ・日本の競争政策を経済学的観点から評価できる			
授業の概要 法の経済分析の中でも比較的蓄積の多い独占禁止法に焦点をあてて、独禁法審判決の事例分析を行います。ミクロ経済学の基本的知識を復習した上で、独禁法審判決の事例を多数取り上げます。			
授業計画 講義スケジュールは以下のようになっていますが、受講生の理解度や興味関心に応じて適宜進度を変更する場合があります。とくに本講義でとりあげる審判決分析論文および個別事件は受講生と相談した上で最終的に決定します。 1. ガイダンス 2. ミクロ経済学の復習（担当教員による講義）(1) 余剰分析 3. ミクロ経済学の復習（担当教員による講義）(2) 独占 4. ミクロ経済学の復習（担当教員による講義）(3) カルテル 5. 経済学的観点から書かれた審判決分析論文の検討（担当教員と受講生による報告）(1) テレビ用ブラウン管事件 6. 経済学的観点から書かれた審判決分析論文の検討（担当教員と受講生による報告）(2) ヤマト対日本郵政 7. 経済学的観点から書かれた審判決分析論文の検討（担当教員と受講生による報告）(3) SCE事件 8. 経済学的観点から書かれた審判決分析論文の検討（担当教員と受講生による報告）(4) NTT東日本事件 9. 経済学的観点から書かれた審判決分析論文の検討（担当教員と受講生による報告）(5) ガソリン元売企業の合併			

10. 個別事件の経済学的検討（受講生による報告）(1) ファミリーマート・ユニーグループ結合
 11. 個別事件の経済学的検討（受講生による報告）(2) セブンイレブンによる優越的地位の濫用
 12. 個別事件の経済学的検討（受講生による報告）(3) JASRAC事件
 13. 個別事件の経済学的検討（受講生による報告）(4) コールマンジャパン事件
 14. 個別事件の経済学的検討（受講生による報告）(5) ブッキングドットコムによる最恵国待遇の禁止
 15. まとめ

テキスト

参考書・参考資料等

主要な参考文献として以下のものをあげておきますが、必要に応じて授業内で参考文献を指示し参考資料を配付します。

- ・Viscusi, W. K., J. E. Harrington, and J. M. Vernon (2005), Economics of Regulation and Antitrust (4th Edition), MIT Press（図書館所蔵）。
- ・岡田羊祐・川濱昇・林秀弥編（2017）『独禁法審判決の法と経済学』東京大学出版会。
- ・岡田羊祐・林秀弥編（2009）『独占禁止法の経済学』東京大学出版会（図書館所蔵）。
- ・小田切宏之（2008）『競争政策論---独占禁止法事例とともに学ぶ産業組織論』日本評論社（図書館所蔵）。

学生に対する評価

報告パフォーマンス60％，参加状況40％

S: 単位認定基準を満たし，かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた（90点以上）

A: 単位認定基準を満たし，かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた（80点以上90点未満）

B: 単位認定基準を満たし，かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた（70点以上80点未満）

C: 単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた（60点以上70点未満）

F: 単位認定基準の学習成果をあげられなかった（60点未満）

授業科目名： 財政学特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 藤原一哉
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 現代日本財政の課題。今後の日本社会や世界を背負う受講生と不都合な財政的課題の真実に向き合い、何らかの答えを出す。			
授業の概要 債務残高が対GDP比で世界最高レベルの日本が、今後の少子高齢社会で持続可能であるか検討する。			
授業計画 第1回：日本財政の現状把握 第2回：赤字財政の理由 第3回：第二次大戦後の経費の構造 第4回：道路特定財源の論理からインフラ整備と費用負担の関係を探る 第5回：社会保険財政の現実と課題 第6回：日米安保体制と防衛費・軍事費の動向と課題 第7回：教育財政の課題と高等教育無償化の現状 第8回：公務員人件費の考え方（不生産的労働と公務労働） 第9回：租税論の原理としての租税根拠論と租税原則 第10回：個人所得税の理論 第11回：法人所得税の理論 第12回：1949年のシャープ税制使節団勧告の意義と課題 第13回：消費税と付加価値税の理論 第14回：財政投融资の現状と課題 第15回：公債論と日本国債の持続可能性 定期試験			
テキスト 神野直彦「財政学」（有斐閣）			
参考書・参考資料等 島恭彦「財政学概論」、池上淳「財政学」（ともに岩波書店、品切れ）			
学生に対する評価 授業の到達目標である日本財政の課題解決につながるか否かで評価する。			

授業科目名： 租税政策特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 藤原一哉
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
英国マーリーズ・レビューから21世紀の租税政策を考察する。現代日本の租税政策のグランドデザインを構築するきっかけを得る。			
授業の概要			
2010・11年に刊行された英国マーリーズ・レビューは、有名な1978年のミード報告30周年を記念したもので、日本の租税政策の検討に有意義であると確信している。ここから今後の日本の租税政策を展望する。			
授業計画			
第1回：英国マーリーズ・レビューの全体像と税制改革の理念			
第2回：支出税論のミード報告の30周年記念と個人所得税の位置づけ			
第3回：個人所得税と労働供給・勤労意欲の関係			
第4回：各種租税と社会保障手当の全体としての税制というOECD基準の意味			
第5回：付加価値税の論点と軽減税率の考え方			
第6回：資産課税の意義と相続税の課題			
第7回：法人所得税の理論と課税根拠			
第8回：国際資本課税とタックスヘイブン対策税制			
第9回：小規模ビジネス税制と個人所得税の合理化・統一的設計			
第10回：税務行政の意義			
第11回：租税政策の政治経済学			
第12回：2011年のマーリーズ・レビューから環境対策税制の課題（ガソリン税はEV時代にどうあるべきか）			
第13回：同じくたばこ・アルコール税の課題			
第14回：同じく住宅税制の課題			
第15回：日本の租税政策にマーリーズ・レビューはどのように生かせるか			
定期試験			
テキスト			
2010年・11年刊行の英国マーリーズ・レビュー			
参考資料等 藤原一哉「マーリーズ・レビューの世界1～5」（福島大学経済学会「商学論集」）			

学生に対する評価 現代日本の租税政策のグランドデザインを構築するか否か。

授業科目名： 地域経済論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田 樹
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
経済学研究科「地域産業復興プログラム」および「グローバルプログラム」の一環として「復興の地域経済学」をテーマとする。災害復興と地域創生をキーワードに，地域の生活基盤である産業やインフラをどのように再生していけばよいのかを受講者とともに考える。			
本授業の到達目標			
災害復興まちづくりや地方都市再生に関わる現状と課題を理解すること			
災害復興まちづくりや地方都市再生に関わる文献をレビューし，他の受講者に分かりやすく報告できること			
福島県をはじめとした地域産業の課題を的確に分析できること			
授業の概要			
二部構成の授業とする。第一部（第１～10回）は，災害復興まちづくりや地方都市再生の現状や課題を俯瞰するため，テキストのレビューと討議を行う。また，テキストのテーマに関連した論文や報告書のレビューも各自の関心にあわせて行う。第二部（第11～15回）は，福島県をはじめとした地域産業の課題に関して，各種統計の整理と分析を行い，レポートを作成する。			
授業計画			
第１回：自己紹介・演習の進め方（インプットレビューの当番決め）・学術論文レビューの方法			
第２回：インプットレクチャー 福島県を中心とした災害復興まちづくりの課題（講義）			
第３回：インプットレビュー 「コンパクトシティ」と「都市のスポンジ化」			
第４回：ディスカッション 第３回のテーマに関わる討議（関連論文等のレビューを含む）			
第５回：インプットレビュー 「都市のスポンジ化」の発生構造と被災地域の土地利用			
第６回：ディスカッション 第５回のテーマに関わる討議（関連論文等のレビューを含む）			
第７回：インプットレビュー 計画制度の課題（立地適正化計画制度の批判的検討）			
第８回：ディスカッション 第７回のテーマに関わる討議（関連論文等のレビューを含む）			
第９回：インプットレビュー 福島県における災害復興まちづくりと計画制度			
第10回：ディスカッション 第９回のテーマに関わる討議（関連論文等のレビューを含む）			
第11回：地域の産業と経済の分析手法 地域経済に関するデータの見方・考え方			
第12回：地域の産業と経済の分析手法 地域産業連関表と稼ぐ力・雇用力の分析			
第13回：地域の産業と経済の分析手法 地域経済分析システムREASASの活用			

第14回：地域の産業と経済の分析手法 地域経済分析レポートの作成

第15回：地域の産業と経済の分析手法 地域経済分析レポートの発表と討議

定期試験：期末評価課題のプレゼンテーション

テキスト

饗庭 伸 著『都市をたたむ 人口減少時代をデザインする都市計画』，花伝社，2015年

参考書・参考資料等

中村良平 著『まちづくり構造改革 あらたな展開と実践』日本加除出版，2019年

そのほか講義資料を配布する。

学生に対する評価

インプットレビューの報告内容とディスカッションへの参加状況（50％），地域経済分析レポートの作成内容（20％），期末評価課題のプレゼンテーション内容（30％）の比重により，上述の到達目標 ～ の達成状況を100点満点で評価する。

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた（90～100点）

A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた（80～89点）

B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた（70～79点）

C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた（60～69点）

F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59点）

授業科目名： 地域交通論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 吉田 樹
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義は，地域交通や観光等の分野における高度な専門知識を身につけることが目的である。			
本授業の到達目標			
地域交通もしくは観光に関する基礎理論や用語を体得していること			
交通や観光に関するデータを読み解き，地域の特徴や課題を把握し，政策提案もできること			
関心がある分野の先行研究を把握できていること			
授業の概要			
二部構成の授業とする。第一部（第 1 ～ 10 回）は，交通経済，交通計画，観光政策分野の文献を輪読し，受講者による討論を行う。専門知識を獲得・確認するとともに，プレゼンテーションの方法（学会発表でも役立つ）。討論の進め方（意見の伝え方）などを身につけることも重視する。第二部（第 11 ～ 15 回）は，地域交通や観光分野における学術論文のレビューを行い、各自の関心に応じて選定した論文の報告を行う。			
授業計画			
第 1 回 自己紹介・演習の進め方（インプットレビューの当番決め）・学術論文レビューの方法			
第 2 回 インプットレクチャー 交通政策に関する国内外の潮流			
第 3 回 インプットレビュー 日本の地域交通政策の現状と課題			
第 4 回 ディスカッション 第 3 回のテーマに関わる討議			
第 5 回 インプットレビュー 交通産業への規制を考える			
第 6 回 ディスカッション 第 5 回のテーマに関わる討議			
第 7 回 インプットレビュー 市民のモビリティを確保する			
第 8 回 ディスカッション 第 7 回のテーマに関わる討議			
第 9 回 インプットレビュー 次世代モビリティの可能性と課題			
第 10 回 ディスカッション 第 9 回のテーマに関わる討議			
第 11 回 学術論文のレビュー 研究論文リストの作成 *			
* 各自が関心のあるテーマ（地域交通や観光等の分野）を設定し，関連学会で 2000 年以降に行われてきた研究を一覧として整理し，リポートする（初回の講義で方法を伝える）。			
第 12 回 学術論文のレビュー レビューした論文（ 1 ～ 2 編目）の報告・討議			
第 13 回 学術論文のレビュー レビューした論文（ 3 ～ 4 編目）の報告・討議			

第14回 学術論文のレビュー レビューした論文（5～6編目）の報告・討議

第15回 学術論文のレビュー レビューした論文（7～8編目）の報告・討議

定期試験：期末評価課題のプレゼンテーション

テキスト

宿利正史・長谷知治 編，吉田 樹 ほか 著『地域公共交通政策論』，東京大学出版会，2021年

参考書・参考資料等

第2部の学術論文レビューは，土木学会論文集D3，土木計画学研究・講演集，交通工学論文集，交通工学研究会論文報告集，運輸と経済，運輸政策研究などの掲載論文を対象とする。

学生に対する評価

インプットレビューの報告内容とディスカッションへの参加状況（50％），論文レビューの報告内容（20％），期末評価課題のプレゼンテーション内容（30％）の比重により，上述の到達目標～の達成状況を100点満点で評価する。

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた（90～100点）

A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた（80～89点）

B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた（70～79点）

C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた（60～69点）

F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59点）

授業科目名： 経済地理学特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 末吉健治
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 主要なテーマは、工業の立地・配置、地域経済、地域問題、地域開発に関する理論的、実証的な研究。 到達目標は、自ら課題を設定し、説得的な議論を展開できる。経済地理学の基本概念を理解している。			
授業の概要 経済地理学は、経済学と地理学の学際的分野に位置づく科目である。この講義では、伝統的な立地論としてチューネン、A・ウェーバー、クリスタラーの理論を取り上げ、それぞれの理論とその応用について説明したうえで、現実の経済地理と地域問題の発生（地域間格差等）、それらを解決するための地域政策について取り上げる。地域政策については、その起源と日本における展開を具体的に取り上げる。			
授業計画 第1回：経済地理学の課題・方法・視角（1回） 第2回：農業立地論1 理論（2回） 第3回：農業立地論2 応用（3回） 第4回：工業立地論1 理論（4回） 第5回：工業立地論2 応用（5回） 第6回：日本国内の立地変動1 高度成長期（6回） 第7回：日本国内の立地変動2 低成長期（7回） 第8回：中心地論1 理論（8回） 第9回：中心地論2 応用（9回） 第10回：国民経済内部の地域間格差1 理論（10回） 第11回：国民経済内部の地域間格差2 実態（11回） 第12回：地域開発政策の歴史（12回） 第13回：全国総合開発計画1 全総から新全総（13回） 第14回：全国総合開発計画2 三全総から現在（14回） 第15回：まとめ（15回） 定期試験			

テキスト

特に使用しない。

参考書・参考資料等

山本健児『経済地理学入門』原書房

松原宏編著『立地調整の経済地理学』原書房

岡田知弘ほか『地域経済学 第4版』有斐閣

学生に対する評価

発問状況（30％）、プレゼンテーション（30％）、レポート（40％）などにより総合的に評価する。

授業科目名： 社会政策論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 熊沢 透
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・労働経済、社会政策・社会保障分野に関して、授業を通じて獲得した学問的認識を整理できること。 ・理論的、歴史的な思考方法を身につけながら、当該分野に関する今日の問題の所在を知ること。 ・授業内容と自身の研究を関連づけて把握できること。 ・学術研究の基本的な方法と作法を身につけること。 ・論文、レポートになりうる文章を作成する基礎的な素養を身につけること。			
授業の概要			
この授業が取り扱うテーマは、「社会政策」「社会保障」「労働経済学」として分類される領域に属するものです。概ね以下のような問題を取り扱います。 ・労働市場（雇用、失業の状況） ・賃金、労働時間といった労働条件 ・社会保障制度 ・労使関係制度 ・労働者の働き方、生活者の暮らし			
特に、「地域の生活保障システム」というサブタイトルのもとでは、震災後の全国と地域におけるさまざまな生活保障システムの可能性と課題を考えます。			
第1回：ガイダンス（本科目の目的、授業の進め方、履修上の注意点等について）			
第2回：労働・社会政策・社会保障の概要と主要なテーマ・論点 社会保障・社会福祉領域（講義1）			
第3回：労働・社会政策・社会保障の概要と主要なテーマ・論点 労働経済領域（講義2）			
第4回：受講生の関心とのすりあわせ（演習）			
第5回：文献講読① 序章、第1章（演習）			
第6回：文献講読② 第2章（演習）			
第7回：文献講読③ 第3章（演習）			
第8回：文献講読④ 第4章（演習）			
第9回：文献講読⑤ 第5章（演習）			

第 10 回：文献講読⑤ 残り（演習）

第 11 回：受講生の関心の敷衍① 受講生甲について（演習）

第 12 回：受講生の関心の敷衍② 受講生乙について（演習）

第 13 回：受講生の関心の敷衍③ 残りの受講生丙・丁について（演習）

第 14 回：労働・社会政策・社会保障との関連における課題確認① 受講生甲・乙について（講義・演習）

第 15 回：労働・社会政策・社会保障との関連における課題確認② 受講生丙・丁について（講義・演習）

テキスト

適宜指示

参考書・参考資料等

適宜指示

学生に対する評価

授業科目名： 労働と福祉特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 熊沢 透
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・労働経済、社会政策・社会保障分野に関して、授業を通じて獲得した学問的認識を整理できること。 ・理論的、歴史的な思考方法を身につけながら、当該分野に関する今日の問題の所在を知ること。 ・授業内容と自身の研究を関連づけて把握できること。 ・学術研究の基本的な方法と作法を身につけること。 ・論文、レポートになりうる文章を作成する基礎的な素養を身につけること。			
授業の概要			
この授業が取り扱うテーマは、「社会政策」「社会保障」「労働経済学」として分類される領域に属するものです。概ね以下のような問題を取り扱います。 ・労働市場（雇用、失業の状況） ・賃金、労働時間といった労働条件 ・社会保障制度 ・労使関係制度 ・労働者の働き方、生活者の暮らし			
特に、「地域の生活保障システム」というサブタイトルのもとでは、震災後の全国と地域におけるさまざまな生活保障システムの可能性と課題を考えます。			
第 1 回：ガイダンス（本科目の目的、授業の進め方、履修上の注意点等について）			
第 2 回：労働・社会政策・社会保障の概要と主要なテーマ・論点 社会保障・社会福祉領域（講義 1）			
第 3 回：労働・社会政策・社会保障の概要と主要なテーマ・論点 労働経済領域（講義 2）			
第 4 回：受講生の関心とのすりあわせ（演習）			
第 5 回：文献講読① 序章、第 1 章（演習）			
第 6 回：文献講読② 第 2 章（演習）			
第 7 回：文献講読③ 第 3 章（演習）			
第 8 回：文献講読④ 第 4 章（演習）			
第 9 回：文献講読⑤ 第 5 章（演習）			

第 10 回：文献講読⑤ 残り（演習）

第 11 回：受講生の関心の敷衍① 受講生甲について（演習）

第 12 回：受講生の関心の敷衍② 受講生乙について（演習）

第 13 回：受講生の関心の敷衍③ 残りの受講生丙・丁について（演習）

第 14 回：労働・社会政策・社会保障との関連における課題確認① 受講生甲・乙について（講義・演習）

第 15 回：労働・社会政策・社会保障との関連における課題確認② 受講生丙・丁について（講義・演習）

テキスト

適宜指示

参考書・参考資料等

適宜指示

学生に対する評価

授業科目名： 開発経済学特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐野 孝治
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマは、「開発途上国におけるSDGs」である。到達目標は、次の通りである。 1.開発途上国の現状と課題を複数の視点から理解することができる。 2.開発経済学の基本的な理論を理解することができる。			
授業の概要 開発経済学を用いて、開発途上国における経済成長と社会開発について学ぶ。本講義は、まず、文献の輪読、映像視聴、ディスカッションによって、アジアにおける開発途上国の現状を複数の視点から理解することを目的とする。次に、テキストの輪読とディスカッションにより、貧困と格差、貿易、海外直接投資、政府開発援助、農村金融など開発経済学の理論を身につける。さらに、SDGsの観点から、開発途上国がいかなる開発モデル、貧困削減戦略を採用すべきなのかについて研究する。			
授業計画 第1回：ガイダンス—開発経済学とは 第2回：貧困と不平等 第3回：二重構造と労働移動 第4回：経済成長 第5回：人的資本 第6回：貿易 第7回：海外直接投資 第8回：技術移転 第9回：産業連関 第10回：制度 第11回：貧困削減戦略 第12回：政府開発援助 第13回：農村金融 第14回：マクロ経済安定化 第15回：まとめ—開発途上国におけるSDGs			
テキスト ジェトロ・アジア経済研究所[2015]『テキストブック開発経済学 第3版』有斐閣。			

参考書・参考資料等
AV.バナジー、E.デュフロ[2012]『貧乏人の経済学』みすず書房など、随時紹介する。
学生に対する評価
成績評価の方法: 報告80点および討論内容20点で総合的に評価する。
成績評価の基準
S: 単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた (90 100点)
A: 単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた (80 89点)
B: 単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた (70 79点)
C: 単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた (60 69点)
F: 単位認定基準の学習成果をあげられなかった (59点)

授業科目名： 経済政策特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 佐野 孝治
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマは、「災害復興政策の国際比較」である。到達目標は以下のとおりである。 1. グローバルな災害について、その実態と原因を理解できる。 2. 大規模災害からの復興プロセスと諸アクターの役割について、国際比較の視点から理解できる。 3. 「より良い復興」について自分の考えを持つことができる。			
授業の概要 大規模災害からの復興について、経済政策と国際比較の観点から学ぶ。大規模災害からの復興に関しては、ローカルな視点だけではなく、グローバルな視点が必要である。この講義では、文献の輪読とディスカッションによって、東日本大震災だけでなく、中国、アメリカ、インドネシアなどにおける大規模災害からの復興政策と諸アクターの役割について学ぶ。また、ディベートやブレイン・ストーミングなどにより、災害からの教訓をどう活かし、「より良い復興（Build Back Better）」を実現するかについて研究し、自分の考えを持つことを目標とする。			
授業計画 第1回：ガイダンス—災害復興政策の国際比較 第2回：東日本大震災前後の東北地方の地域経済 第3回：東日本大震災からの復興政策 第4回：大規模災害に対応する交通政策 第5回：スマートシティ構想プロジェクト 第6回：グローバル復興教育 第7回：ブレイン・ストーミング—いかに「より良い復興（Build Back Better）」を実現するか 第8回：グローバル感染症と新型コロナウイルス 第9回：ハリケーン・カトリーナ 第10回：タイ大洪水 第11回：スマトラ沖地震と津波 第12回：ハイチ大地震とマクロバランス 第13回：四川大地震 第14回：ディベート;中国における災害復興と日本の災害復興政策の比較 準備			

第15回：ディベート;中国における災害復興と日本の災害復興政策の比較 実践
テキスト 藤本典嗣・巖成男・佐野孝治・吉高神明共編著[2017]『グローバル災害復興論』中央経済社。
参考書・参考資料等 福島大学国際災害復興学研究チーム編著[2014]『東日本大震災・原発事故からの復旧・復興と災害復興学』八朔社など、随時紹介する。
学生に対する評価 成績評価の方法:報告 80 点および討論内容 20 点で総合的に評価する。 成績評価の基準: S:単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた (90~100 点) A:単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた (80~89 点) B:単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた (70~79 点) C:単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた (60~69 点) F:単位認定基準の学習成果をあげられなかった (~59 点)

授業科目名： 現代資本主義特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 三家本里実
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目では、現代資本主義社会において発生する社会問題について、理論的に把握することをテーマとする。(1)先行研究を精査し、報告することができ、(2)自ら設定したテーマ・課題について、他の受講者とともに議論することができることを求める。			
授業の概要			
本科目では、現代社会における以下の諸問題について、資本主義との関係において捉えることを目的に輪読を行う。輪読を通じて、上記の社会問題に関する認識、理論的な理解を深めることを目指す。 ・労働問題 ・気候変動 ・マイノリティ（女性や外国人など）への差別			
授業計画			
輪読文献は、下記を候補とするが、履修者の希望に応じて変更する。文献によるが、半期の間に 1 ～ 3 冊を扱う予定である。 ・岸本聡子(2020)『水道、再び公営化！欧州・水の闘いから日本が学ぶこと』集英社新書 ・今野晴貴(2020)『ストライキ2.0 ―ブラック企業と闘う武器』集英社新書 ・斎藤幸平(2020)『人新世の「資本論」』集英社新書 ・佐々木隆治(2016)『カール・マルクス ―「資本主義」と闘った社会思想家』ちくま新書 加えて、各自の研究に関しては、先行研究のレビューを中心に報告してもらうこととする。			
第1回：ガイダンス			
第2回：文献講読1-（序章）			
第3回：文献講読1-（第1章）			
第4回：文献講読1-（第2章）			
第5回：文献講読1-（第3章）			
第6回：文献講読1-（第4章）			
第7回：文献講読2-（序章）			

第8回：文献講読2-（第1章） 第9回：文献講読2-（第2章） 第10回：文献講読2-（第3章） 第11回：文献講読2-（第4章） 第12回：先行研究レビュー 第13回：先行研究レビュー 第14回：先行研究レビュー 第15回：先行研究レビュー
テキスト 指定しない
参考書・参考資料等 指定しない
学生に対する評価 授業への参加態度や共同・個人研究の報告内容から総合的に判断する。

授業科目名： 現代資本主義特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 三家本里実
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目では、現代資本主義社会において発生する社会問題について、理論的に把握することをテーマとする。(1)先行研究を精査し、報告することができ、(2)自ら設定したテーマ・課題について、他の受講者とともに議論することができることを求める。			
授業の概要			
本科目では、現代社会における以下の諸問題について、資本主義との関係において捉えることを目的に輪読を行う。輪読を通じて、上記の社会問題に関する認識、理論的な理解を深めることを目指す。 ・労働問題 ・気候変動 ・マイノリティ（女性や外国人など）への差別			
授業計画			
輪読文献は、下記を候補とするが、履修者の希望に応じて変更する。文献によるが、半期の間に 1 ～ 3 冊を扱う予定である。 ・岸本聡子(2020)『水道、再び公営化！欧州・水の闘いから日本が学ぶこと』集英社新書 ・今野晴貴(2020)『ストライキ2.0 ―ブラック企業と闘う武器』集英社新書 ・斎藤幸平(2020)『人新世の「資本論」』集英社新書 ・佐々木隆治(2016)『カール・マルクス ―「資本主義」と闘った社会思想家』ちくま新書 加えて、各自の研究に関しては、進捗報告を中心に適宜発表する機会を設ける。			
第1回：ガイダンス			
第2回：文献講読1-（序章）			
第3回：文献講読1-（第1章）			
第4回：文献講読1-（第2章）			
第5回：文献講読1-（第3章）			
第6回：文献講読1-（第4章）			
第7回：研究報告			

第8回：研究報告 第9回：文献講読2-（序章） 第10回：文献講読2-（第1章） 第11回：文献講読2-（第2章） 第12回：文献講読2-（第3章） 第13回：文献講読2-（第4章） 第14回：研究報告 第15回：研究報告
テキスト 指定しない
参考書・参考資料等 指定しない
学生に対する評価 授業への参加態度や共同・個人研究の報告内容から総合的に判断する。

授業科目名： 地域政策論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 藤原遥
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
授業のテーマは、「持続可能な社会に向けた地域政策を考える」である。			
到達目標は、地域政策の歴史的変遷を理解したうえで、被災地域の再生のあり方について考えることである。			
授業の概要			
持続可能な社会に向けた地域政策および地方財政をテーマに受講生とともに議論をすることを目的とする。特に公害や自然災害からの地域再生に焦点をあて、持続可能な地域の再生を支える政策について検討をする。			
第1部 ガイダンスと研究計画の報告			
第1回：ガイダンス			
第2回：「持続可能な発展」概念の変遷について講義			
第3回：災害復興行財政の課題について講義			
第4回：受講生による研究計画の報告			
第5回：受講生による研究計画の報告			
第2部 輪読			
第6回：教科書の序章、第1章			
第7回：教科書の第2、3章			
第8回：教科書の第4、5章			
第9回：教科書の第6、7章			
第10回：教科書の第8、9章			
第11回：教科書の第10、終章			
第3部 先行研究レビュー			
第12回：受講生による先行研究レビュー			
第13回：受講生による先行研究レビュー			
第14回：受講生による先行研究レビュー			
第15回：全体総括			

テキスト

宮本憲一著『公共政策のすすめ』有斐閣。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

授業への参加態度や報告内容から総合的に判断する。

授業科目名： 地域政策論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 藤原遥 担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマは、「持続可能な社会に向けた地方財政を考える」である。 到達目標は、地方財政の特徴と問題点を理解したうえで、被災地域の再生のあり方について考えることである。			
授業の概要 経済のグローバル化のもとで地域経済の置かれている現状と課題について議論するとともに、日本の地方財政の特徴と問題点を学び、今後の改革の方向性について考える。被災地域の再生を支える政策のあり方についても検討する			
第1部 ガイダンス 第1回：ガイダンス 第2回：受講生による研究進捗状況の報告			
第2部 輪読 第3回：文献 の序章、第1章 第4回：文献 の第2章 第5回：文献 の第3章 第6回：文献 の第4章 第7回：文献 の第5章 第8回：文献 の第6章 第9回：文献 の第7章 第10回：文献 の第8章 第11回：文献 の第9章 第12回：文献 の第10章 第13回：文献 の第11章 第14回：文献 の第12章、終章 （文献 ：森裕之・諸富徹・川勝健志編(2020)『現代社会資本論』有斐閣。） 第15回：全体総括			
テキスト			

森裕之・諸富徹・川勝健志編(2020)『現代社会資本論』有斐閣。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

授業への参加態度や報告内容から総合的に判断する。

授業科目名： 経済思想史特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 岩本吉弘
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 経済学の源流たるジェームズ・スチュアートの主著『経済学原理』を、とくに第1編を重点にして講義し、経済学の基本性格について歴史的に考察する能力を養う。			
授業の概要 スチュアートの主著『経済学原理』（1767年）のとくに第1編を重点に解説する。			
授業計画 第1回：スチュアートの時代とその人生 第2回：『経済学原理』の構成と意図 第3回：学史上の意義について 第4回：『原理』解説 第1編3～5章 人口論（貨幣発生以前） 第5回：『原理』解説 同6章 人口論（貨幣発生以降） 第6回：『原理』解説 同8章 エンクロージャー 第7回：『原理』解説 同9～10章 工業化 第8回：『原理』解説 同11章 為政者とemployment 第9回：『原理』解説 同12～14章 過剰人口と貧困 第10回：『原理』解説 同15～18章 商品経済システムと外国貿易 第11回：スチュアートとウォーレス 第12回：スチュアートとヒューム 第13回：スチュアートとスミス(1) スミスの自然的富裕の順序論とスチュアート 第14回：スチュアートとスミス(2) スミスの自然的自由の体系とスチュアート 第15回：スチュアートのディリジズム 定期試験			
テキスト スチュアート『経済の原理 - 第1・第2編』（名古屋大学出版会、1998年）			
参考書・参考資料等 竹本洋『経済学体系の創生』（名古屋大学出版会、1995年）			
学生に対する評価 試験(50%) レポート(50%) S・A・B・C・Fの5段階で評価する。			

授業科目名： 経済思想史特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 岩本吉弘
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 経済学の源流たるアダム・スミスの主著『国富論』を講義し、経済学の基本性格について歴史的に考察する能力を養う。			
授業の概要 アダム・スミス『国富論』の原典解説をする。			
授業計画 第 1 回：スミスの時代のイギリス・スコットランドとライフヒストリー 第 2 回：『国富論』の構成と意図 第 3 回：第1編 ～3章 分業論 第 4 回：同4～7章 価格論 第 5 回：同8章 賃金論 第 6 回：同9～10章 利潤論 第 7 回：同11章 地代論 第 8 回：第2編 1～2章 資本の分類 第 9 回：同3～4章 蓄積論 第 1 0 回：同5章 資本の用途 第 1 1 回：第3編1章 富裕になる自然の順序 第 1 2 回：同2～4章 農業主導と歴史論 第 1 3 回：第4編1～8章 重商主義(1) 第 1 4 回：同1～8章 重商主義(2) 第 1 5 回：スミス理論とディリジズム 定期試験			
テキスト アダム・スミス『国富論』1～4（水田他訳、岩波文庫、2000年）			
参考書・参考資料等 高哲男『アダム・スミス』（講談社選書メチエ、2017年）			
学生に対する評価 試験(50%) レポート(50%) S・A・B・C・Fの5段階で評価する。			

授業科目名： 日本経済史特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：大川裕嗣
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標： テーマ：日本経済史の領域から近世および明治維新期に絞って講義と討論を行います 目標：日本経済史とりわけ近世近代移行期についての研究にとりくむ基盤ができていること			
授業の概要：19世紀半ばの開港と外圧への対応から授業をはじめ19世紀末から20世紀初頭の産業革命期における日本の経済社会の変容に至るまでを授業の範囲とします 初学者にも理解できるようなわかりやすい授業を心がけます			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：幕末開港 第3回：外圧への対応 第4回：明治維新論争 第5回：地租改正 第6回：殖産興業 第7回：企業勃興 第8回：産業革命 第9回：在来産業の対応 第10回：賃労働の形成 第11回：廠マニュ論争 第12回：プロト工業化論 第13回：生活の変容 第14回：公衆衛生と社会福祉 第15回：総括 定期試験			
テキスト：石井寛治・原朗・武田晴人編『日本経済史 2 産業革命期』東京大学出版会2000年			
参考書・参考資料等：三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』同上2010年			
学生に対する評価：十分な予習に基づいた討論への参加および学期末レポートによります			

授業科目名： 日本経営史特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：大川裕嗣
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標： テーマ：日本経営史の領域から両大戦間期に絞って講義と討論を行います 目標：日本経営史とりわけ両大戦間期についての研究にとりくむ基盤ができていること			
授業の概要：19世紀半ばの開港と外圧への対応から授業をはじめ19世紀末から20世紀初頭の産業革命期における日本の経済社会の変容に至るまでを授業の範囲とします			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：景気循環の変容 第3回：経済政策の体系化 第4回：産業構造の変容 第5回：独占体の形成 第6回：独占資本主義をめぐる論争 第7回：財閥のコンツェルン化 第8回：インフラストラクチャの整備 第9回：財閥の転向 第10回：就業構造と農業 第11回：労働争議と小作争議 第12回：日本資本主義論争 第13回：帝国主義的世界体制 第14回：東アジアにおける日本資本主義 第15回：戦争と経済 定期試験			
テキスト：石井寛治・原朗・武田晴人編『日本経済史 4 両大戦間期』東京大学出版会2002年			
参考書・参考資料等：三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』同上2010年			
学生に対する評価：十分な予習に基づいた討論への参加および学期末レポートによります			

授業科目名： 日本経済論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 末吉健治
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
戦後日本経済に関する主要な経済政策・用語を理解する。			
経済学的な論理にしたがって，戦後日本経済の展開を理解する。			
戦後における日本とアメリカとの経済的な関係を理解する。			
グローバルな観点から日本経済について，自らの考えを説得的に展開する。			
授業の概要			
戦後復興期から高度成長期，1970年代以降の諸危機」に至る過程を実証的に把握する．全体を通じて，「国家政策」「企業」「労働」をめぐる諸側面を局面・段階ごとに構造的に理解することを重視する．			
授業計画			
第 1 回：戦後日本経済の段階区分（ガイダンス）			
第 2 回：敗戦・占領と経済復興 敗戦の特殊性（ 1 ）			
第 3 回：敗戦・占領と経済復興 GHQ（ 2 ）			
第 4 回：経済面での戦後改革 農地改革（ 1 ）			
第 5 回：経済面での戦後改革 労働改革（ 2 ）			
第 6 回：経済面での戦後改革 財閥解体（ 3 ）			
第 7 回：経済復興政策			
第 8 回：朝鮮戦争と日本経済			
第 9 回：経済政策の体系的整備と合理化投資			
第 1 0 回：重化学工業の確立			
第 1 1 回：新しい再生産構造			
第 1 2 回：ベトナム戦争と日本経済			
第 1 3 回：戦後IMF体制の崩壊 ニクソンショック			
第 1 4 回：オイルショック			
第 1 5 回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
特に使用しない。			

参考書・参考資料等

井村喜代子『現代日本経済論（新版）』有斐閣，2000年

学生に対する評価

発問状況（30％）、プレゼンテーション（30％）、レポート（40％）などにより総合的に評価する。

授業科目名： 世界経済論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 十河 利明
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
経常収支不均衡や財政収支不均衡など、負債をめぐる国家間の不均衡について理論的考察をしておくこと。大学院の授業には、学生気分を卒業して、1人の研究者として参加するという意識を持って欲しい。			
授業の概要			
異端派国際経済論を学ぶ。			
授業計画			
第1回：Interdependence：相互依存			
第2回：Introduction to heterodoxy：異端派への序論			
第3回：Why mainstream economics like free trade：なぜ主流経済学が自由貿易に適しているか			
第4回：Beyond the neoclassical perspective：新古典主義観点を越えて			
第5回：Imperfect competition and transnational corporation：不完全競争と多国籍企業			
第6回：International trade and economic development：国際貿易と経済成長			
第7回：International trade, human happiness, and inequality：国際貿易と幸福と不平等			
第8回：Tariffs, quotas, and other trade restriction：関税、輸入割当てと他の取引規制			
第9回：History of trade policy：貿易政策の歴史			
第10回：International trade policy：通商政策			
第11回：International investment and finance：国際的な投資と金融			
第12回：Foreign exchange market：外国為替市場			
第13回：International banking and financial market：国際的な銀行業務と金融市場			
第14回：Exchange rate crisis：為替レート危機			
第15回：Bretton Woods to the end of the 21st century：ブレトンウッズ国際金融体制			
第16回：Immigration：移民の経済分析			
テキスト			
Hendrik Van Den Berg, International Economics: A Heterodox Approach, 3rd Edition, Routledge, 2017.			
参考書・参考資料等			
ダニ・ロドリック『貿易戦争の政治経済学:資本主義を再構築する』白水社、2019年			

学生に対する評価

- S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた（90～100点）
- A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた（80～89点）
- B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた（70～79点）
- C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた（60～69点）
- F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59点）

授業科目名： 比較経済史特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 菊池 智裕 担当形態：単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標： 歴史を経済から、経済を歴史から考察し、歴史を政治や文化のみならず経済の側面からの多面的に捉え、経済を理論や数式のみならず実際に生起した出来事から捉えられるようになることが到達目標である。取り上げる歴史は、担当者の専門領域が西洋近現代経済史であることから、ヨーロッパ史にウェイトを置くものの、比較検討のために日本、アメリカ、中国、中東地域も対象とする（以下のシラバスには反映されていないが、各回で共通性や関係性のある場面で随時取り上げる）。			
授業の概要： 講義とディスカッション。概ね、各回の1時間ほどを講義として、残り時間を受講者からの質疑応答・ディスカッションとして理解を深めたい。			
授業計画 第1回： イントロダクション 歴史(学)と経済(学) 第2回： 古代ギリシャ経済史 第3回： 古代ローマ帝国経済史 第4回： 古代比較経済史 第5回： 神聖ローマ帝国経済史 第6回： 中世比較経済史 第7回： 「封建制」から資本制へ 第8回： 「発見の時代」の経済史 第9回： イギリス帝国と植民地 第10回： 第一次世界大戦経済史 第11回： ロシア革命経済史 第12回： ヴァイマル共和制経済史 第13回： 第二次大戦経済史 第14回： 東西冷戦経済史 第15回： 第二次大戦後 定期試験 レポート			
テキスト： 金井雄一・中西聡・福澤直樹(編集), 『世界経済の歴史 グローバル経済史入門』名古屋大学出版会, 2010年。			
参考書・参考資料等 適宜指示します。			
学生に対する評価 出席・積極的参加(70%), レポート(30%)			

授業科目名： 欧州経済論特殊研究		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 2 単位		担当教員名： 菊池 智裕 担当形態： 単独	
科 目		教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項					
授業のテーマ及び到達目標： ヨーロッパ経済を中心に、歴史的背景と社会文化的傾向を踏まえながら、現代というものを考察する。現代ヨーロッパ・EUは、日本とは大きく異なる制度を構築し、諸問題に対して私達からみると一見奇妙な対応を取ることもあるが、それには歴史的・社会文化的背景が存在している。翻って日本も欧州からすれば一見奇妙な行動を取っており、双方を比較検討することで、現代欧州経済に対する理解と共に現代日本に対する理解も深まるものと思われる。焦点は現代欧州に当ててものの、適宜、アメリカ合衆国、中国、中東地域からも事例を取り上げて視野を拡大したい。							
授業の概要： 講義とディスカッション。概ね、各回の1時間ほどを講義として、残り時間を受講者からの質疑応答・ディスカッションとして理解を深めたい。							
授業計画							
第1回： イントロダクション 日本から見るヨーロッパ経済							
第2回： EU(欧州連合)成立まで							
第3回： EU(欧州連合)の政治経済							
第4回： EU(欧州連合)の機能不全？ ユーロ危機							
第5回： EU(欧州連合)と日本・アメリカ・中国							
第6回： イギリス経済 英連邦							
第7回： イギリス経済 ブレグジットとその後							
第8回： フランス経済 農業と観光とテロリズム							
第9回： フランス経済 構造的問題と経済政策							
第10回： ロシア経済 資源と「不凍港」							
第11回： 中東欧経済 社会主義政権の崩壊から「新自由主義の実験場」へ							
第12回： 北欧経済 高福祉・高負担の危機							
第13回： 地中海経済 世界経済の中核から「PIIGS」へ							
第14回： ドイツ経済 格差社会と「オルド自由主義」							
第15回： ドイツ経済 「ドイツ第四帝国」？							
定期試験 レポート							
テキスト： 田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治、『現代ヨーロッパ経済 第5版』有斐閣アルマ、2018年。							
参考書・参考資料等： 適宜指示します。							
学生に対する評価							
出席・積極的参加70%、レポート30%							

授業科目名： アメリカ経済論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 十河 利明
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 アメリカの革新派経済学について学ぶ。研究倫理への理解を深めるとともに、ディスカッションおよびプレゼンテーション等を通じ、コミュニケーション能力を高める。			
授業の概要 英文原書からラディカル派政治経済学を学ぶ。			
授業計画 1. ガイダンス（本科目の目的、授業の進め方、履修上の注意点等について） 2. シャーマン理論における主要なテーマ・論点（講義） 3. 共通文献講読 『ブームと破裂』『資本主義と不平等』（演習） 4. 共通文献講読 『ブームと破裂』『失業と不平等』（演習） 5. 共通文献講読 『ブームと破裂』『不平等と景気循環』（演習） 6. 共通文献の内容を踏まえての全体討論（演習） 7. グループ発表のルールとスキル（講義） 8. テーマの選択（グループ演習） 9. テーマに係る情報の整理（グループ演習） 10. グループ発表 発表資料作成における役割分担の設定（グループ演習） 11. グループ発表 発表内容に関する調査（グループ演習） 12. グループ発表 グループ発表の練習（グループ演習） 13. グループ発表 実際のグループ発表（グループ演習） 14. グループ発表 実際のグループ発表（グループ演習） 15. グループ発表を踏まえての全体討論（演習） 16. 全体のレビュー			
テキスト 受講生と相談の上で決める。			
参考書・参考資料等 Howard Sherman & Paul Sherman. 2018. Inequality, Boom and Bust, NY: Routledge https://www.amazon.co.jp/Inequality-Boom-Bust-Billionaire-Capitalism/dp/0815381298			

学生に対する評価

授業の課題に対する取り組み態度を見て評価する。

授業科目名： アジア経済論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 朱 永浩
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 （１）東アジア経済の成長メカニズムおよびその展開を理解できる。 （２）東アジア地域の特徴と課題を、複数の視点から把握できる。			
授業の概要 本講義では、東アジア諸国の経済相互依存の現実と地域協力の重要性を認識しつつ、グローバル化下の繁栄と挫折を経験してきた東アジア経済を題材として取り上げる。東アジア経済がおかれた現状と直面する課題を考察し、今後向かうべき方向性を探ることが本講義の目的である。			
授業計画 第1回 イン트로ダクション 第2回 世界経済のなかの東アジア 第3回 グローバル経済と東アジアの経済発展 第4回 東アジアの経済発展と企業活動 第5回 東アジアの生産ネットワークと貿易構造 第6回 アジアNIEsの躍進 第7回 ASEANの経済発展と経済統合の進展 第8回 中国経済成長の特徴とその課題 第9回 東アジアの物流 第10回 東アジアの国際労働力移動 第11回 アジア通貨危機から学ぶ 第12回 北東アジア地域経済協力 第13回 東アジアの地域協力と経済統合 第14回 アジア経済の変貌と新たな課題 第15回 まとめ			
テキスト テキストを使用しないが、講義資料を配付する。			
参考書・参考資料等 （１）朱永浩編『アジア共同体構想と地域協力の進展』文眞堂、2018年。			

(2) 平川均・小林尚朗・森元晶文編『東アジア地域協力の共同設計』西田書店、2009年。

(3) 平川均・石川幸一・山本博史・矢野修一・小原篤次・小林尚朗編『新・アジア経済論 - 中国とアジア・コンセンサスの模索』文眞堂、2016年。

学生に対する評価

毎回の発表内容 (50%)、授業中に行う議論の内容 (50%)

授業科目名： アジア経済論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 朱 永浩
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 （１）東アジア経済の成長メカニズムおよびその展開を理解できる。 （２）東アジア地域の特徴と課題を、複数の視点から把握できる。			
授業の概要 アジア経済論特殊研究 に続き、本講義では、東アジア諸国の経済相互依存の現実と地域協力の重要性を認識しつつ、グローバル化下の繁栄と挫折を経験してきた東アジア経済を題材として取り上げる。東アジア経済がおかれた現状と直面する課題を考察し、今後向かうべき方向性を探ることが本講義の目的である。			
授業計画 第1回 イン트로ダクション 第2回 アジア通貨危機後の東アジア地域協力 第3回 東アジアの貿易構造 第4回 東アジアの生産ネットワーク 第5回 東アジアの国際交通インフラ 第6回 アジアの国際労働力移動 第7回 アジアNIEsの躍進（韓国、台湾） 第8回 アジアNIEsの躍進（香港、シンガポール） 第9回 ASEANの経済発展 第10回 ASEANの経済統合 第11回 中国経済成長の特徴 第12回 中国の対外経済戦略 第13回 北東アジア地域経済協力（貿易・投資） 第14回 北東アジア地域経済協力（経済協力の枠組み） 第15回 まとめ			
テキスト テキストを使用しないが、講義資料を配付する。			
参考書・参考資料等 （１）朱永浩編『アジア共同体構想と地域協力の進展』文眞堂、2018年。			

(2) 平川均・小林尚朗・森元晶文編『東アジア地域協力の共同設計』西田書店、2009年。

(3) 平川均・石川幸一・山本博史・矢野修一・小原篤次・小林尚朗編『新・アジア経済論 - 中国とアジア・コンセンサスの模索』文眞堂、2016年。

学生に対する評価

毎回の発表内容 (50%)、授業中に行う議論の内容 (50%)

授業科目名： 朝鮮近代史特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：伊藤 俊介 担当形態：単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校 社会および高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業の到達目標及びテーマ 主に日本と朝鮮半島の関係史を中心に東アジアにおける近現代史の展開過程を概観するとともに、現在の日韓・日朝関係の抱える問題点や今後の方向性について考える。授業はさまざまなテーマの論文を講読し、報告とディスカッションを中心に行う。			
授業の概要 東アジア近代史に対する理解を深めるのに必要となる専門的な知識を把握する。 日韓・日朝関係を軸に当時の中国やロシア、欧米などとの世界史的な国際関係の流れも理解する。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 冊封体制 - 東アジアの伝統的国際秩序 第3回 小中華思想 - 朝鮮と儒教 第4回 事大交隣 - 朝鮮の外交政策 第5回 明治維新と日本の対朝鮮政策の形成 第6回 征韓論争とその本質 第7回 『脱亜論』 - 福沢諭吉の朝鮮観 第8回 衛正斥邪派と開化派 - 近代朝鮮の2つの潮流 第9回 日清・日露戦争と朝鮮 第10回 愛国啓蒙運動と義兵闘争 第11回 韓国併合と武断統治 第12回 文化政策の本質 第13回 冷戦と朝鮮半島 - 解放と分断、朝鮮戦争 第14回 大韓民国 - 独裁から民主化へ 第15回 朝鮮民主主義人民共和国 - 金日成と主体思想 授業内容は受講生の問題関心に応じて変更することがある。			
テキスト：こちらでプリントを用意する他、授業内で適宜指示する。			
参考書・参考資料等： 朝鮮史研究会編『朝鮮の歴史 新版』三省堂、1995年 趙景達編『近代日朝関係史』有志舎、2012年			

和田春樹『北朝鮮現代史』岩波新書、2012年

文景洙『新・韓国現代史』岩波新書、2015年

学生に対する評価

出席状況、授業態度、課題への理解度をもとに評価する。

授業科目名： 国際公共政策論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 吉高神 明
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
転換期を迎えた世界の直面する諸課題について、国際公共政策の観点から理解を深める。			
授業の概要			
本講義は、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、平和・安全、経済社会開発、人権保護、環境保全、資源・エネルギーなどの問題領域におけるグローバルなレベルで展開される政策決定プロセスを、主権国家、国際機関、民間企業、NGO/NPOの相互作用に焦点を当てつつ、理論的、実証的に考察することを目的としている。この場合、グローバルな事象とローカルな事象の体系的把握を目指す「グローバル」の観点から、「東アジアのダイナミズム」、「国連持続可能な開発目標（SDGs）」「東日本大震災・東京電力福島第一原発事故」「地方創生」、「男女共生」、「働き方改革」、「若者」などを事例研究として取り上げる。			
授業計画			
第1回：「グローバル」：国際公共政策研究の考察枠組みと分析視角			
第2回：新型コロナウイルス感染拡大と転換期世界			
第3回：新型コロナウイルス感染拡大と転換期世界			
第4回：東アジアのダイナミズム（概要）			
第5回：東アジアのダイナミズム（分析）			
第6回：国連「持続可能な開発目標（SDGs）」（概要）			
第7回：国連「持続可能な開発目標」（分析）			
第8回：東日本大震災・東京電力福島第一原発事故（概要）			
第9回：東日本大震災・東京電力福島第一原発事故（分析）			
第10回：地方創生			
第11回：男女共生			
第12回：働き方改革			
第13回：転換期世界と若者（概要）			
第14回：転換期世界と若者（分析）			
第15回：まとめ（振り返り）			
定期試験			

テキスト

授業でプリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業の際に、学生に指示する。

学生に対する評価

平常点 + 中間レポート + 最終レポート = 100点

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた（90～100点）。

A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた（80～89点）。

B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた（70～79点）。

C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた（60～69点）。

F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59点）。

授業科目名： 国際公共政策論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 吉高神 明 担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 イノベーションをめぐる主要国の取り組みについて、2040～50年の世界を念頭に置きつつ、国際公共政策の観点から理解を深める。			
授業の概要 本講義の目的は、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、平和・安全、経済社会開発、人権保護、環境保全、資源・エネルギーなどの問題領域におけるグローバルなレベルで展開される政策決定プロセスを、主権国家、国際機関、民間企業、NGO/NPOの相互作用に焦点を当てつつ、理論的、実証的に考察することを目的としている。この場合、「イノベーション」、「2040～50年の世界」、「グローバル」の3つのテーマに焦点を当てるものである。また、事例研究として、東日本大震災・東京電力福島第一原発事故の被災地福島の復興プロセスについても取り上げる予定である。			
授業計画 第1回：イノベーションと新しい世界秩序 第2回：主要国のイノベーション政策：米国 第3回：主要国のイノベーション政策：中国 第4回：主要国のイノベーション政策：日本 第5回：2040～50年の世界：人口・環境 第6回：2040～50年の世界：技術 第7回：2040～50年の世界：経済 第8回：2040～50年の世界：国際関係 第9回： 3.11の被災地福島の復興とイノベーション：BOPビジネス（概要） 第10回： 3.11の被災地福島の復興とイノベーション：BOPビジネス（分析） 第11回： 3.11の被災地福島の復興とイノベーション：クールジャパン政策（概要） 第12回： 3.11の被災地福島の復興とイノベーション：クールジャパン政策（分析） 第13回： 3.11の被災地福島の復興とイノベーション：ダークツーリズム（概要） 第14回： 3.11の被災地福島の復興とイノベーション：ダークツーリズム（分析） 第15回：まとめ（振り返り） 定期試験			

テキスト

授業でプリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業の際に、学生に指示する。

学生に対する評価

平常点 + 中間レポート + 最終レポート = 100点

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた（90～100点）。

A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた（80～89点）。

B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた（70～79点）。

C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた（60～69点）。

F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59点）。

授業科目名： 比較社会論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： クズネツォ - ワ・M
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：ロシア社会と日本社会の比較 到達目標： ①比較の基準等に関する主要用語等を理解できる。比較社会論に関する比較社会学等の理論の考え方を理解できる。 ②比較の基準を基に、ロシアと日本の事情について自分なりの見解を持つ、論じることができる。 ③ロシアと日本の現状について自分なりの見解を論述することができる。			
授業の概要 現在、地球上には様々な国々が存在しています。一方では、グローバル化が進んでいますが、他方では、各国がその独特さを身に付けている傾向も目立ちます。この授業では、比較社会論の分析方法に基づいて、ロシアと日本を中心に、主として社会構造（民族、階層等）、政治・経済体制（「…」主義等）、文化（宗教、教育、「食」等）について理解を深め、比較研究することを学習します。異国のことはすべて奇妙に見えるという常識を考え直し、自国と他国を比較する目が開かれることを期待しています。			
授業計画 第1回：授業の進め方、受講にあたっての心構えなど 第2回：ロシアの社会を理解するために 第3回：ロシアの多民族国家 第4回：ロシアの民族構成 第5回：ロシアの宗教(キリスト教) 第6回：ロシアの宗教(イスラム教、ユダヤ教) 第7回：まとめ(中間テスト) 第8回：答案返却、講評 第9回：ロシアの政治体制 第10回：ロシアの経済体制 第11回：ロシアの階層構造 第12回：ロシアの教育制度 第13回：ロシアの「食」 第14回：まとめ(期末テスト)			

第15回：答案返却、講評**テキスト**

プリント等を配布します。

参考書・参考資料等

必要に応じて紹介します。

学生に対する評価

到達目標で挙げた①～③について、授業(提出物*と2回のテストも含む)への取り組みにより評価します。

*比較作業をスムーズに行うため、一定のテーマにかかわる日本の事情を事前に調べ、その要約を書いてもらい、授業で提出するという自習も求められます。

授業科目名： 管理会計論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 貴田岡 信
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
管理会計の理論と技法を学びます。15回の授業を通じて，管理会計の基本的なテーマについての理解を深めることを目標とします。			
授業の概要			
管理会計はマネジメントのための会計であり，財務諸表作成を目的とする財務会計と対比されます。管理会計は，企業の経営管理活動と密接にかかわりながら 20 世紀初頭より学問として発展してきました。この講義では，履修者の管理会計基礎知識を確認しながら，比較的読みやすいテキストを用いて，企業活動のなかで管理会計の考え方や技法がどのように役立つかを学んでいきます。			
授業計画			
第 1 回 ガイダンス			
第 2 回 管理会計のフレームワーク			
第 3 回 原価情報			
第 4 回 CVP 分析			
第 5 回 ABC			
第 6 回 意思決定とコスト			
第 7 回 戦略と管理会計			
第 8 回 事業戦略と管理会計			
第 9 回 設備投資の意志決定			
第 10 回 バランスト・スコアカード			
第 11 回 予算管理			
第 12 回 事業部管理会計			
第 13 回 製品開発と管理会計			
第 14 回 コスト・マネジメント			
第15回 まとめ			
定期試験			
テキスト			
浅田，頼他著『管理会計・入門（戦略経営のためのマネジリアル・アカウンティング）第4版』			

有斐閣

参考書・参考資料等

学生に対する評価

授業内の発言を通して，問題意識・理解力を評価します。

授業科目名： コスト・マネジメント特 殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 貴田岡 信
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 管理会計の一分野である原価管理について学ぶ。伝統的な技法の理解のみならず現実の企業への適用についても理解することを目標とする。			
授業の概要 コスト・マネジメントは、主として標準原価計算を用いて事後的な原価削減を意図してきた狭義の原価管理からはじまって、いまでは企業活動に不可欠な戦略や利益管理の領域にまで、その範囲を拡大しています。この講義では、履修者の管理会計や原価管理に関する知識を確認しながら、コスト・マネジメントの理論的發展と、現実企業への適用について学びます。			
授業計画 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 企業経営とコスト 第 3 回 コストの諸概念 第 4 回 原価計算制度とコスト 第 5 回 短期利益計画と原価管理 第 6 回 標準原価計算と原価管理 第 7 回 生産現場における原価改善 第 8 回 原価企画と目標原価管理 第 9 回 原価企画と V E 第10回 A B C と A B M 第11回 ライフサイクル・コストینگ 第12回 品質原価の管理 第13回 製造企業のコスト・マネジメント事例 第14回 サービス企業のコスト・マネジメント事例 第15回 まとめ 定期試験			
テキスト 管理会計の基礎的なテキストをベースに、雑誌記事や映像を利用します。			

参考書・参考資料等

学生に対する評価

授業内の発言を通して，問題意識・理解力を評価します。

授業科目名： 価値創造会計特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 奥 山 修 司 担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ・ テーマ 経済組織の価値評価に有用な計数データをデザインし、経済組織の価値創造課題の解決に役立つ財務会計アプローチを中心に研究する ・ 到達目標 企業や自治体を研究フィールドとして、実際の外部報告会計の財務データを用いて分析・評価し、当該組織における価値創造課題の解決に役立つデータ改善手法を提案できることを目標とする			
授業の概要 企業や地方自治体等の具体的な経済組織を研究フィールドとして、受講生の経歴や関心課題等を勘案しながら、研究対象とする経済組織における実際の外部報告会計の財務データを用いて、組織に投下された資本の価値評価方法、組織と社会両方の価値共創化などについて研究する			
授業計画 第1回：価値と価値評価 第2回：価値評価の方法 第3回：コスト・アプローチ 第4回：マーケット・アプローチ 第5回：インカム・アプローチ 第6回：割引フリーキャッシュフロー（FCF）モデル 第7回：FCFとEBITDA 第8回：割引配当モデルとWACC 第9回：残余利益モデルとEVA 第10回：残余事業利益モデル 第11回：財務諸表分析とCCC 第12回：財務レバレッジ 第13回：ROAとROIC 第14回：PBR・PER・ROE			

第15回：価値創造における財務会計の役割
定期試験：研究成果のプレゼンテーションを実施し評価する
テキスト プリントを配布する
参考書・参考資料等 適宜、指示する
学生に対する評価 レポートやプレゼンテーション等を点数化し、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）の順に最終的な成績を評価する

授業科目名： 価値創造会計特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 奥 山 修 司
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ テーマ 価値増大を図ろうとする経済組織の戦略や管理に有用な計数データをデザインし、経済組織の価値創造課題の解決に役立つ管理会計手法を中心に研究する			
・ 到達目標 企業や自治体を研究フィールドとして、実際の内部報告データを用いて分析・評価し、当該組織における価値創造課題の解決に役立つ実践的なマネジメント手法を提案できることを目標とする			
授業の概要			
企業や地方自治体等の具体的な経済組織を研究フィールドとして、受講生の経歴や関心課題等を勘案しながら、研究対象とする経済組織における実際の内部報告データを用いて、購買・生産・販売・保守等の活動や各種行政サービスにおける価値分析、見える化などからの価値創出提案について研究する			
授業計画			
第1回：価値創造とは			
第2回：価値創造の方法			
第3回：ROS（売上利益率）とCVP分析			
第4回：損益分岐点比率の改善策			
第5回：価値工学（VE）			
第6回：2（セカンド）- Look VE：原価低減・原価維持			
第7回：1（ファースト）- Look VE：原価企画			
第8回：0（ゼロ）- Look VE：利益企画・マーケティングVE			
第9回：∞（環）- Look VE：信用創出・ブランディングVE			
第10回：顧客価値基準による「必要コスト」と「無駄コスト」			
第11回：取引デザイン			
第12回：ケーススタディから学ぶ価値創造手法（トヨタ）			
第13回：ケーススタディから学ぶ価値創造手法（セブンイレブン）			

第14回：ケーススタディから学ぶ価値創造手法（その他）
第15回：価値創造における管理会計の役割
定期試験：研究成果のプレゼンテーションを実施し評価する
テキスト
プリントを配布する
参考書・参考資料等
適宜、指示する
学生に対する評価
レポートやプレゼンテーション等を点数化し、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）の順に最終的な成績を評価する

授業科目名： 財務諸表論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 根建 晶寛
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
財務報告論特殊研究 では、将来的に受講生の皆様が、修士論文や特定課題レポートを執筆する上での素地を整えることをねらいとします。この科目を履修する受講生の皆様は、会計に関する理論的な書籍を中心に議論していくことを予定しています。			
授業の概要			
所々、講義で読み合わせをする専門書に関連する学術論文を使用させていただきます。前期の最後の方は、修士論文の最低限のお作法を学ぶことも念頭に置くとともに、2年次に受講生が自身の力で研究テーマを選択し、修士論文を執筆するのに役立つ講義を意識していく予定です。提出課題に積極的に取り組むこと。授業内で積極的に発言することをお願いいたします。			
授業計画			
第1回. オリエンテーション			
第2回. 『財務会計論』を読む：企業会計の基礎			
第3回. 『財務会計論』を読む：企業会計の基礎			
第4回. 『財務会計論』を読む：棚卸資産			
第5回. 『財務会計論』を読む：棚卸資産			
第6回. 『財務会計論』を読む：固定資産			
第7回. 『財務会計論』を読む：固定資産			
第8回. 『財務会計論』を読む：無形資産と繰延資産			
第9回. 『財務会計論』を読む：無形資産と繰延資産			
第10回. 無形資産に関連する学術論文を読む			
第11回. 『財務会計論』を読む：金融商品			
第12回. 『財務会計論』を読む：金融商品			
第13回. 『財務会計論』を読む：資産会計			
第14回. 『財務会計論』を読む：資産会計			
第15回. 今後の院生生活に向けて：修士論文執筆上のお作法など			
テキスト			
初回時に受講生の皆様のバックグラウンドをふまえた上で決定する予定です。			

・メイン図書は、下記の1番か2番を使う予定です。修士論文のお作法を学ぶ際、3番と4番を用いる可能性があります。

1. 梅原 秀継 (2022) 『財務会計論』, 白桃書房
2. 飯野 利夫 (1993) 『財務会計論〔三訂版〕』, 同文館出版
3. 河野 哲也 (2018) 『レポート・論文の書き方入門』 第4版, 慶應義塾大学出版会
4. 野村 康 (2018) 『社会科学の考え方』 初版, 名古屋大学出版会

参考書・参考資料等

講義時に適宜紹介します。

学生に対する評価

各回の報告内容や平素点を総合的に考慮して行います。

- S. 単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた (90～100点)
- A. 単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた (80～89点)
- B. 単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた (70～79点)
- C. 単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた (60～69点)
- F. 単位認定基準の学習成果をあげられなかった (～59点)

場合によっては、社会人の学生さんの履修が多いことが想定されます。会社内の業務状況に留意しようとは思っておりますが、ここは大学院です。大変申し訳ないのですが、講義を円滑に進めていく上で、全講義の1/3を欠席した人は自動的にFにする予定です。

授業科目名： 財務諸表論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 根建 晶寛
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
財務諸表論特殊研究 では、将来的に受講生の皆様が、修士論文や特定課題レポートを執筆する上での素地を整えることをねらいとします。この科目を履修する受講生の皆様は、前期同様、会計に関する理論的な書籍を中心に議論していくことを予定しています。			
授業の概要			
所々、講義で読み合わせをする専門書に関連する学術論文を使用させていただきます。後期は、資本会計の学術書を中心に熟読していく予定です。講義に出席し、提出課題に積極的に取り組むこと。授業内で積極的に発言することをお願いいたします。			
授業計画			
第1回. オリエンテーション			
第2回. 『財務会計論』を読む：負債会計			
第3回. 『財務会計論』を読む：負債会計			
第4回. 『財務会計論』を読む：資本会計			
第5回. 『財務会計論』を読む：資本会計			
第6回. 『資本会計論』を読む：資本会計の課題と領域			
第7回. 『資本会計論』を読む：資本会計と持分会計			
第8回. 『資本会計論』を読む：資本会計の基準			
第9回. 『資本会計論』を読む：資本剰余金と利益剰余金			
第10回. 『資本会計論』を読む：資本剰余金と利益剰余金			
第11回. 『資本会計論』を読む：キャピタルゲインと資本剰余金			
第12回. 『資本会計論』を読む：持分プーリングの会計問題			
第13回. 『財務会計論』を読む：損益会計			
第14回. 『財務会計論』を読む：損益会計			
第15回. 今後の院生生活に向けて：受講生による修士論文計画の発表会			
テキスト			
初回時に受講生の皆様のバックグラウンドをふまえた上で決定する予定です。			
・メイン図書は、下記の1番か2番を使う予定です。修士論文のお作法を学ぶ際、4番と5番を			

用いる可能性があります。

1. 梅原 秀継 (2022)『財務会計論』, 白桃書房
2. 飯野 利夫 (1993)『財務会計論〔三訂版〕』, 同文館出版
3. 中村 忠 (1975)『資本会計論〔増訂版〕』, 白桃書房
4. 河野 哲也 (2018)『レポート・論文の書き方入門』 第4版, 慶應義塾大学出版会
5. 野村 康 (2018)『社会科学の考え方』 初版, 名古屋大学出版会

参考書・参考資料等

講義時に適宜紹介します。

学生に対する評価

各回の報告内容や平素点を総合的に考慮して行います。

- S. 単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた (90～100点)
- A. 単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた (80～89点)
- B. 単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた (70～79点)
- C. 単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた (60～69点)
- F. 単位認定基準の学習成果をあげられなかった (～59点)

場合によっては、社会人の学生さんの履修が多いことが想定されます。会社内の業務状況に留意しようとは思っておりますが、ここは大学院です。大変申し訳ないのですが、講義を円滑に進めていく上で、全講義の1/3を欠席した人は自動的にFにする予定です。

授業科目名： 財務報告論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 根建 晶寛
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
将来的に受講生の皆様が修士論文や特定課題レポートを執筆する上での基礎的な能力を養成すること			
授業の概要			
論文の書き方の基本と先行研究の熟読			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション			
第 2 回：はじめてレポートを執筆する人のために			
第 3 回：建設的なテキストの読み方とは ～テキスト批評を題材として～			
第 4 回：レポート・論文の執筆要件 ～最低限おさえておくべき原則について～			
第 5 回：テーマと問題設定 ～先行研究の整理，本文全体の構成，脚注のつけ方			
第 6 回：日本語文献 ：問題意識の立て方を学ぶ			
第 7 回：日本語文献 ：研究の方法論に関する文献を読む			
第 8 回：日本語文献 ：ASBJの公開草案と会計基準を読む			
第 9 回：英語文献に挑戦してみる			
第 1 0 回：様々なリサーチデザイン ～ 事例分析と実証分析の違い			
第 1 1 回：様々なリサーチデザイン ～ 事例分析と実証分析の違い			
第 1 2 回：収益認識に関する会計基準の論文を読む			
第 1 3 回：資本金に関する会計基準の論文を読む			
第 1 4 回：税法に関する会計基準の論文を読む			
第 1 5 回：今後の院生生活に向けて			
定期試験：受講生が関心を有するテーマ選択の上で研究計画を発表する。			
テキスト			
河野 哲也（2018）『レポート・論文の書き方入門』第4版，慶応義塾出版会			
参考書・参考資料等			
講義時に適宜，紹介を行う。			
学生に対する評価			
毎回の出席状況と講義時の習熟度に照らし，所定の形式で最終評価を行う。			

授業科目名： 財務報告論特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 根建 晶寛
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
将来的に受講生の皆様が修士論文や特定課題レポートを執筆する上での基礎的な能力を養成すること			
授業の概要			
論文の書き方の基本と先行研究の熟読			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション			
第 2 回：前期の復習：問題意識の作り方，引用と脚注の入れ方，参考文献			
第 3 回：前期の復習：資料収集の方法等			
第 4 回：日本語文献：『会計の再生』第1章を読む			
第 5 回：日本語文献：『会計の再生』第2章を読む			
第 6 回：日本語文献：『会計の再生』第3章を読む			
第 7 回：日本語文献：『会計の再生』第4章を読む			
第 8 回：日本語文献：『会計の再生』第5章を読む			
第 9 回：日本語文献：『会計の再生』第6章を読む			
第 1 0 回：日本語文献：『会計の再生』第7章を読む			
第 1 1 回：日本語文献：『会計の再生』第8章を読む			
第 1 2 回：日本語文献：『会計処理の適切性をめぐる裁判例を見つめ直す』第1章 長銀事件			
第 1 3 回：日本語文献：『会計処理の適切性をめぐる裁判例を見つめ直す』第7章 三洋電機事件			
第 1 4 回：日本語文献：『会計処理の適切性をめぐる裁判例を見つめ直す』第5章 JAL事件			
第 1 5 回：今後の院生生活に向けて			
定期試験：受講生が関心を有するテーマ選択の上で研究計画を発表する。			
テキスト			
河野 哲也（2018）『レポート・論文の書き方入門』第4版，慶応義塾出版会			
参考書・参考資料等			
講義時に適宜，紹介を行う。			
学生に対する評価			
毎回の出席状況と講義時の習熟度に照らし，所定の形式で最終評価を行う。			

授業科目名： 租税法特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 または 1 単位	担当教員名： 稲村健太郎 担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 本講義は租税法をテーマとしている。また到達目標は次のとおりである。 1．租税法の条文の読み方を理解している。 2．租税法に関する判例の読み方を理解している。 3．租税法の重要論点に関する判例・学説の動向を理解している。			
授業の概要 租税法特殊研究 は、租税法に関する重要判例を題材に、参加者が調査・報告し、議論することにより、租税法の基礎概念と、判例・学説の動向を理解することを目的とするものである。			
授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 租税法律主義 第3回 租税公平主義 第4回 租税債権の性質 第5回 租税法の解釈と適用 第6回 課税要件総論 第7回 所得税 課税単位 第8回 所得税 不法所得 第9回 所得税 所得の性質 第10回 法人税 法人税法22条 第11回 法人税 交際費の意義 第12回 法人税 行為計算否認規定 第13回 相続税・贈与税 第14回 消費税 第15回 まとめ 定期試験			
テキスト 中里実ほか（2021）『租税判例百選 第7版』有斐閣			
参考書・参考資料等：金子宏（2021）『租税法 第24版』弘文堂			

学生に対する評価

報告50%、議論50%

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた（90～100点）

A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた（80～89点）

B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた（70～79点）

C：単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた（60～69点）

F：単位認定基準の学習成果をあげられなかった（～59点）

授業科目名： 租税法特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 または 1 単位	担当教員名： 稲村健太郎 担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 本講義は租税法をテーマとしている。また到達目標は次のとおりである。 1．税制の現状を理解している。 2．税制の課題を理解している。 3．立法論の立場から税制を議論できる。			
授業の概要 租税法特殊研究 は、租税法に関する論文集等を読み、議論することを通じて、税制の現状と課題を理解することを目的とするものである。			
授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 所得税法 所得概念 第3回 所得税法 課税単位 第4回 所得税法 ヒューマン・キャピタルに対する課税 第5回 所得税法 給付付き税額控除、負の所得税、ベーシック・インカム 第6回 法人税法 所得課税としての法人税、消費課税としての法人税 第7回 法人税法 公正処理基準 第8回 法人税法 組織再編 第9回 法人税法 国際課税と租税回避防止 第10回 消費税法 付加価値税の意義 第11回 消費税法 資産の譲渡の概念 第12回 消費税法 仕入税額控除 第13回 消費税法 デジタル取引と課税 第14回 相続税法 遺産税と遺産取得税 第15回 相続税法 租税法主義と通達 定期試験			
テキスト 金子宏監修（2017）『現代租税法講座(1)～(4)』日本評論社、など 参考書・参考資料等：金子宏（2021）『租税法 第24版』弘文堂			

学生に対する評価

報告50%、議論50%

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた（90～100点）

A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた（80～89点）

B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた（70～79点）

C：単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた（60～69点）

F：単位認定基準の学習成果をあげられなかった（～59点）

授業科目 会計実務特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 下山 誠
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
会計理論についての理解を深め会計実務に適用できる実務能力を養う。			
授業の概要			
講義形式を中心とする。一部、演習形式(質疑応答、発表・プレゼン)を取り入れる。			
授業計画			
第 1 回 : 日本のディスクロージャー制度についての理解(1) - 講義・演習 -金融商品取引法と会社法、中小企業と上場会社の開示制度、法人税制など			
第2回 : 日本のディスクロージャー制度についての理解(2) - 講義・演習 -日本の会計基準の変遷-企業会計原則からIFRS任意適用まで(1/2)			
第3回 : 日本のディスクロージャー制度についての理解(3) - 講義・演習 -日本の会計基準の変遷-企業会計原則からIFRS任意適用まで(2/2)			
第4回 : 日本のディスクロージャー制度についての理解(4) - 講義・演習 -公認会計士監査：監査手続の概要、レジェンド問題から直近の改正まで			
第5回 : 会計実務についての理解(1) - 講義・演習 -上場会社と中小企業の決算スケジュール、会計処理と税務			
第6回 : 会計実務についての理解(2) - 講義・演習 -会計ソフト、年次決算、四半期決算及び月次決算			
第7回 : 会計実務についての理解(3) - 講義・演習 -会計テキスト・簿記検定で扱っている業種と扱っていない業種			
第8回 : 会計実務についての理解(4) - 講義・演習 -高等学校教育における簿記・会計、簿記決定試験			
第9回 : 上場会社の経理実務(1) - 講義・演習 -連結決算、四半期開示制度、内部統制監査制度など			
第10回 : 上場会社の経理実務(2) - 講義・演習 -会社計算書類の開示			
第11回 : 上場会社の経理実務(3) - 講義・演習 -株式上場と証券取引所開示制度			
第12回 : 有価証券報告書の作成者側からの理解(1) - 講義・演習 -企業の概況、事業の状況、設備の状況、提出会社の状況			
第13回 : 有価証券報告書の作成者側からの理解(2) - 講義・演習 -経理の状況			
第14回 : 有価証券報告書の閲覧者側からの理解(1) - 講義・演習 -ハイライト情報・経理の状況から財務諸表分析(1/2)			
第15回 : 有価証券報告書の閲覧者側からの理解(2) - 講義・演習 -ハイライト情報・経理の状況から財務諸表分析(2/2)			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等			
● 有価証券報告書の開示例(金融庁EDINETより入手) ● ディスクロージャー & IR総合研究所編 [2021] 『有価証券報告書の作成ガイドブック』(中央経済社) ● 公益財団法人財務会計基準機構 [2021] 『有価証券報告書の作成要領』			

- 『会社四季報』東洋経済社
- 小野正芳編著[2021]『27業種別簿価・会計の処理と表示』中央経済社
- 伊藤邦雄[2020]『新・現代会計入門』日本経済新聞出版社
- 伊藤邦雄[2014]「伊藤レポート(2014.8経済産業省)」

学生に対する評価

毎回授業での質疑応答、発表・プレゼン、レポート

授業科目 会計実務特殊研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 下山 誠 担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 会計理論についての理解を深め会計実務に適用できる実務能力を養う。			
授業の概要 講義形式と演習形式(質疑応答、発表・プレゼン)を併用する。 (会計実務特殊研究 の受講を前提とする。受講者各自が特定の業界を選択し当該業界から数社程度を選択し、選定した上場会社について有価証券報告書を通じて理解するとともに、企業間比較分析等を行う。第2回以降の授業においては、翌週までの課題を確認しプレゼンを行っていく。 なお、特定の「業界」のビジネスや会計処理ではなく、業種を問わず特定の会計処理、特定の会計基準の適用状況、またIFRS任意適用会社の状況など、各自の関心のあるテーマを選定することも可とする。)			
授業計画 第 1 回：有価証券報告書についての理解 - 講義・演習 -会計実務特殊研究 の総括、上場会社の業界紹介、日本基準コーパジェンスの状況、IFRS任意適用の状況など 第2回：有価証券報告書についての理解・分析(1) -受講者各自の発表・プレゼン 第3回：有価証券報告書についての理解・分析(2) -受講者各自の発表・プレゼン 第4回：有価証券報告書についての理解・分析(3) -受講者各自の発表・プレゼン 第5回：有価証券報告書についての理解・分析(4) -受講者各自の発表・プレゼン 第6回：有価証券報告書についての理解・分析(5) -受講者各自の発表・プレゼン 第7回：有価証券報告書についての理解・分析(6) -受講者各自の発表・プレゼン 第8回：有価証券報告書についての理解・分析(7) -受講者各自の発表・プレゼン 第9回：有価証券報告書についての理解・分析(8) -受講者各自の発表・プレゼン 第10回：有価証券報告書についての理解・分析(9) -受講者各自の発表・プレゼン 第11回：有価証券報告書についての理解・分析(10) -受講者各自の発表・プレゼン 第12回：有価証券報告書についての理解・分析(11) -受講者各自の発表・プレゼン 第13回：有価証券報告書についての理解・分析(12) -受講者各自の発表・プレゼン 第14回：有価証券報告書についての理解・分析(13) -受講者各自の発表・プレゼン 第15回：まとめ			

テキスト 特になし

参考書・参考資料等

- 有価証券報告書の開示例(金融庁EDINETより入手)
- ディスクロージャー & IR総合研究所編 [2021] 『有価証券報告書の作成ガイドブック』(中央経済社)
- 公益財団法人財務会計基準機構 [2021] 『有価証券報告書の作成要領』
- 『会社四季報』東洋経済社
- 小野正芳編著[2021] 『27業種別簿価・会計の処理と表示』中央経済社
- 伊藤邦雄 [2020] 『新・現代会計入門』日本経済新聞出版社
- 伊藤邦雄 [2014] 「伊藤レポート(2014.8経済産業省)」

学生に対する評価

毎回授業での質疑応答、発表・プレゼン、レポート、他人のプレゼンに対する的確な質問

授業科目名： 特講 実務租税法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本 征宏
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 主に所得税・法人税について、その問題点の検討を行うことにより、租税法の理解を深める。			
授業の概要 日本税理士会連合会『税制改正に関する建議書』にて提起されている現在の税制の問題点に対する建議が、本当に正しいといえるのか基礎資料・判例・論文等によって検討を行う。			
授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 基礎的な人的控除及び、所得計算上の控除のあり方について 第3回 災害等に関する税制について 第4回 公的年金等に対する課税について 第5回 医療費控除と年少扶養控除について 第6回 業務用不動産の譲渡損失の他の所得との損益通算について 第7回 事業に専従する親族がある場合の必要経費の特例等について 第8回 所得税の確定申告期限の延長について 第9回 減価償却における定率法と定額法の選択適用のあり方について 第10回 研究開発税制のあり方について 第11回 同族会社の留保金課税制度について 第12回 受取配当等の益金不算入について 第13回 確定決算主義と役員給与に係る損金算入規定等のあり方について 第14回 少額減価償却資産の取得価額基準について 第15回 交際費等の損金不算入制度の要件について			
テキスト 日本税理士会『令和4年度税制改正に関する建議書』			
参考書・参考資料等 金子宏『租税法 第24版』（2021）弘文堂			
学生に対する評価 報告50%、議論50%			

授業科目名： 特講 実務租税法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 山本 征宏
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
主に消費税・相続税について、その問題点の検討を行うことにより、租税法の理解を深める。			
授業の概要			
日本税理士会連合会『税制改正に関する建議書』にて提起されている現在の税制の問題点に対する建議が、本当に正しいといえるのか基礎資料・判例・論文等によって検討を行う。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 適格請求書等保存方式について			
第3回 消費税における非課税取引について			
第4回 軽減税率制度について			
第5回 基準期間制度、小規模事業者に対する制度のあり方について			
第6回 簡易課税制度について			
第7回 仕入税額控除制度における「95%ルール」の適用要件について			
第8回 取引相場のない株式等の評価について			
第9回 相続税の更正の請求に関する特則事由について			
第10回 連帯納付義務について			
第11回 法人版事業承継税制（特例措置）について			
第12回 償却資産に係る固定資産税制度について			
第13回 事業税における社会保険診療報酬等の課税除外措置について			
第14回 個人事業税の課税対象事業及び税率、事業主控除について			
第15回 外国税額控除における控除限度超過額等の繰越期間について			
テキスト			
日本税理士会『令和4年度税制改正に関する建議書』			
参考書・参考資料等			
金子宏『租税法 第24版』（2021）弘文堂			
学生に対する評価			
報告50%、議論50%			

授業科目名： 特講（知的財産の応用）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：稲村健太郎 担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 本講義では、知的財産の応用として、特に知的財産権と租税法との関係について講義する。知的財産権に対する課税と、知的財産権を用いた租税回避への対応について理解することを到達目標とする。			
授業の概要 知的財産権に対する課税および租税回避への対応について講義する。			
授業計画 1．知的財産の概要 2．租税法の基礎概念 3．知的財産権と租税回避 4．CFC税制による対応の現状と課題 5．移転価格税制による対応の現状と課題 6．知的財産権と所得税（職務発明に対する報奨金の課税問題） 7．知的財産権と相続税（財産の海外移転問題、財産価値変動と相続税評価額） 8．まとめ 税制改正などにより内容を一部変更する場合がある。			
テキスト 資料を配付する。			
参考書・参考資料等 茶園成樹（2020）『知的財産法 第3版』有斐閣 金子宏（2021）『租税法 第24版』弘文堂など ただし改版などにより変更がある場合は随時指示する。			
学生に対する評価 レポートにより評価する S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた（90～100点） A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた（80～89点） B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた（70～79点）			

C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた（60～69点）

F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59点）

授業科目名： 特講（マーケティング概論）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 遠藤 明子
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 マーケティングの基本概念と近年のデジタル・マーケティングの考え方に依拠しながら、データに基づいたマーケティング意思決定案をまとめられる。			
授業の概要 「マーケティング」は、企業が市場に対して様々なはたらきかけを行って、ライバル企業よりも自社製品を顧客に選んでもらうための活動全体のことであり、企業と顧客との望ましい関係をデザインし実施する活動です。 このように一口にマーケティングと言っても、その範囲は多岐にわたります。そのため、1つの講義だけでマーケティングに関わる様々な問題を網羅することはできません。そこでこの講義では、近年のインターネット技術の発展を踏まえて、デジタル社会を前提としたトピックや事例を取り上げ、それらを通じて基本的なマーケティングの考え方を身につけることを目標とします。			
授業計画 第1回：自己紹介とアイスブレイキング 第2回：顧客の課題解決としてのマーケティング 第3回：セグメンテーション 第4回：ターゲティング 第5回：ポジショニング 第6回：ディスカッション 第7回：デジタル社会のマーケティング・コミュニケーション 第8回：振り返り			
テキスト 指定しません。			
参考書・参考資料等 必要に応じて資料を配布します。			
学生に対する評価 授業への関わりにもとづいて、到達目標に対する達成度を判断します。 その達成度出席率を加味して、最終評語を決定します。			

授業科目名： 特講 (マネジメント概論)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 野口寛樹 担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目(専修免許 高等学校 商業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 1. 演習に関わる経営学の基本的用語の理解ができている 2. グループワークにおける参加の仕方について、理解をしている			
授業の概要 現代社会において、人は様々な組織とかかわり、それらの組織の影響の下、生活を営んでいる。それは決して営利組織だけを対象とした議論ではなく、古くて新しい組織、非営利組織もその対象となる。組織において、人はいかなる視点をを用い、マネジメントしていくのか。その視点を科学的な観点から検討する。			
授業計画 1 社会科学における経営学 - 科学的な思考を学ぶ - 2 コミュニケーションの方法 - "きく"を学ぶ - 3 マネジメントで考えることー因果関係を考えるー 4 自らの興味、関心はどこにあるのかーフレーミングを学ぶー 5 事象を理解する視点とはー一般化を学ぶー 6 マネジメントを取り巻く環境 - 利害関係者と環境不確実性を学ぶ -			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 高尾義明(2019)『はじめての経営組織論』有斐閣			
学生に対する評価 点数化をした場合、以下が目安となる。 S...単位認定基準を満たし、かつすべての項目で優秀な学習成果を上げた(90点以上) A...単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果を上げた(80点以上89点未満) B...単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果を上げた(70点以上79点未満) C...単位認定基準を満たす最低元の学習成果を上げた(60点以上69点未満) F...59点未満			

授業科目名： 特講（組織論）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 野口寛樹 担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 1. 演習に関わる経営学の基本的用語の理解ができている 2. グループワークにおける参加の仕方について、理解をしている			
授業の概要 1900年代から始まる近代組織論の概略を確認しつつ、最新の理論についても議論を行う。 世の中には経営学の話題となる事象が多く存在する。最新のニュースを見れば、ほとんどが企業や行政など組織に絡むニュースである。現代社会において、人は会社、行政機関、NPOなど、実に様々な組織とかかわり生活をしている。その構造や文化、変化のメカニズムを理解することを本講義の目的とする。			
授業計画 1 科学的管理法から始まるマネジメントの歴史を学ぶ 2 分業と専門化について学ぶ 3 非製造業(サービス)について学ぶ 4 意思決定について学ぶ 5 ネットワーク・ネットワーク分析について学ぶ 6 非営利組織について学ぶ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 高尾義明(2019)『はじめての経営組織論』有斐閣			
学生に対する評価 点数化をした場合、以下が目安となる。 S...単位認定基準を満たし、かつすべての項目で優秀な学習成果を上げた（90点以上） A...単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果を上げた（80点以上89点未満） B...単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果を上げた（70点以上79点未満） C...単位認定基準を満たす最低元の学習成果を上げた（60点以上69点未満）			

F...59点未満

授業科目名：	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 尹 卿烈
特講(競争戦略)			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目のテーマは、「急変する経営環境と経営戦略の在り方」であり、以下の授業目標の達成であります。 今日の企業経営戦略に求められる諸点を把握できる分析力を鍛えること 競争優位を確立するために展開される経営戦略の理論と動的な展開パターンを理解すること			
授業の概要			
経営戦略論の中で、事業部戦略とも呼ばれる競争戦略に焦点をおいて講義していきます。 具体的に、経営課題の解決に向けた多数企業の事例分析を通じて、 今日の企業経営戦略に求められる諸点を把握し、 競争優位を確立するために展開される経営戦略の動的な展開パターンを学習します。 実際の講義では、2日間を6つのセッションに分け、講義と討論を行います。			
授業計画			
各回の授業では、以下のテーマを中心として授業を進める予定であるが、受講者の理解度や反応により適宜修正します。 競争戦略とは、特定の製品や市場分野において競争的優位性を確保し、経営目的を達成するための事業戦略です。本授業では、自社内部の長所と短所を分析する方法と新たな市場機会を開発するための外部環境、特に競争と技術環境を分析する方法に焦点を当てて集中的に講義します。 第1回 イン트로ダクション 第2回 経営戦略論の重要用語と概念 第3回 経営戦略論の発展 第4回 4つの経営戦略アプローチ(ポジショニングアプローチ)			

第5回 4つの経営戦略アプローチ(RBV、学習/ゲームアプローチ)

第6回 製品と市場ポジション別の戦略

第7回 集団討論と授業の総括

テキスト

テキストは使用せず、毎回の授業時間に講義資料を配布します。

参考書・参考資料等

授業時間に適切に紹介します。

学生に対する評価

授業への参加度、グループ討論への参加度、「望ましい水準」への達成度を総合的に判断して評価します。

特に、集中講義であるので、2日間で合計2時間半以上の欠席は自動的に「F」にします。

成績評価基準点数の合計で、以下のように評価を決定する。

S : 90点以上

A : 80点～89点

B : 70点～79点

C : 60点～69点

F : 59点未満

【出席率】

総授業時間に占める欠席時間が20%（2時間半）を超えるとF評価です。20%に達しなくても、欠席・遅刻・早退が度重なれば評価に影響します。また、病気や仕事も欠席扱いです（病気の際は無理せず休み、次年度に履修してください。なお、学習案内記載の「学校保健安全法の規定に基づく該当感染症」の場合は登校が禁止されています）。公共交通機関（鉄道、バス）の突発事故による欠席・遅刻の場合は、証明書類を用意してください。

授業科目名：	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：	担当教員名：
特講(ビジネス・イノベーション)		1単位	尹 卿烈
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 中学校社会および高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 本科目のテーマは、「今日企業に求められるイノベーション」であり、以下の授業目標の達成であります。 今日の企業経営戦略に求められるイノベーションと関連した専門知識を理解すること イノベーションの創出を目指す経営戦略の関連理論と動態的な展開パターンを理解すること。			
授業の概要 本授業では、経営戦略論の学問分野で特に注目されている第4次産業革命、デジタルトランスフォーメーションなどに関連したイノベーションをメインテーマにして講義を進めます。 具体的に、日米企業をメインとしたグローバル企業のイノベーション事例を多数用いて、今日の企業におけるイノベーションの意味や効果、創出プロセスと動向などの諸点を学んでいきます。 実際の講義では、2日間を6つのセッションに分け、講義と討論を行います。			
授業計画 各回の授業では、以下のテーマを中心として講義を進める予定であるが、受講者の理解度や反応などにより適宜修正させながら進めます。 1 - 2 . イノベーションの定義と主な事例分析 3 . イノベーションと関連した理論 4 . 技術イノベーションと経営戦略の事例 5 . 経営活動のイノベーションと経営戦略の事例 6 . イノベーション創出を目指した知的財産重視の経営戦略 7 . グループ討論と授業の総括			

テキスト

テキストは使用せず、毎回の授業時間に講義資料を配布します。

参考書・参考資料等

授業時間に適切に紹介します。

学生に対する評価

授業への参加度、グループ討論への参加度、「望ましい水準」への達成度を総合的に判断して評価します。

特に、集中講義であるので、2日間で合計2時間半以上の欠席は自動的に「F」にします。

成績評価基準点数の合計で、以下のように評価を決定する。

S：90点以上

A：80点～89点

B：70点～79点

C：60点～69点

F：59点未満

【出席率】

総授業時間に占める欠席時間が20%（2時間半）を超えるとF評価です。20%に達しなくても、欠席・遅刻・早退が度重なれば評価に影響します。また、病気や仕事も欠席扱いです（病気の際は無理せず休み、次年度に履修してください。なお、学習案内記載の「学校保健安全法の規定に基づく該当感染症」の場合は登校が禁止されています）。公共交通機関（鉄道、バス）の突発事故による欠席・遅刻の場合は、証明書類を用意してください。

授業科目名： 特講（地域企業経営）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 村上早紀子 担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 地域企業経営に関連する基礎的知識や理論、今日的課題が理解できていること。			
授業の概要 本講義では、地域経営で必須ともいえる地域企業や地域組織に着目する。その上で、関連する法制度やその変遷、継続的に経営していく上での経営・育成手法に関して、様々な事例から学ぶ。それにより、地域でみられる諸課題を経営の課題として捉えることができるようになり、今後の地域経営を考える上で必要となる視点を得ることを目指す。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：地域企業 第3回：「新しい公共」にみる経営 第4回：経営とNPO 第5回：地域自治組織 第6回：中心市街地活性化と経営 第7回：まちづくり会社 第8回：観光における新たな経営主体 第9回：地域の学びの「空間」を「場所」へ 第10回：街中の「空間」を「場所」へ 第11回：広場空間の経営と地域企業 第12回：エリアリノベーション 第13回：景観まちづくりと経営 第14回：社会的企業とコミュニティビジネス 第15回：本講義のまとめ			
テキスト 使用しない。			
参考書・参考資料等 授業で適宜紹介する。			

学生に対する評価

演習や、受講者との議論への参加状況、レポートの提出により、総合的に判断します。

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた（90～100点）

A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた（80～89点）

B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた（70～79点）

C：単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた（60～69点）

F：単位認定基準の学習成果をあげられなかった（～59点）

授業科目名： 特講 地域デザイン	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 村上早紀子
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 地域デザインに関連する基礎的知識や今日的課題が理解できており、演習や発表時に実践できていること。			
授業の概要 地域デザインの概略に関して理解を深めた上で、「参加・協働のまちづくり」などをキーワードに、地域をデザインし協働で進めていく手法や関連する組織、課題などを、実践例などから学ぶ。さらには、地域デザインで用いられる機会の多いワークショップを講義内で実施する予定であり、それらを通して実践的に学んでいく。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：地域デザインとは 第3回：地域デザインにおける「参加・協働」 第4回：地域デザインにおける「参加・協働」の手法 第5回：地域デザインにおける「参加・協働」の担い手 第6回：地域デザインにおける「参加・協働」に関する制度 第7回：地域デザインにおける「参加・協働」を取り巻く課題 第8回：地域デザインにおける「学習」の役割 第9回：演習 地域課題の発掘 第10回：演習 地域課題の整理 第11回：演習 地域課題の解決に向けて 第12回：演習 テーマ設定 第13回：演習 テーマに即した課題整理 第14回：演習 地域の課題を材料に、地域をデザインする 第15回：まとめ ただし、進捗状況によっては、一部変更する場合がある。			
テキスト 使用しない。			
参考書・参考資料等			

授業で適宜紹介する。

学生に対する評価

演習や、受講者との議論への参加状況、レポートの提出により、総合的に判断します。

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学習成果をあげた（90～100点）

A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学習成果をあげた（80～89点）

B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学習成果をあげた（70～79点）

C：単位認定基準を満たす最低限の学習成果をあげた（60～69点）

F：単位認定基準の学習成果をあげられなかった（～59点）

授業科目名： 特講 組織行動	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：金 善照 担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業は社会科学の行動科学の下位分野である組織行動論をテーマとする。到達目標は下記のとおりである。			
1. 組織行動論の基礎的知識や理論を理解できる			
2. 組織行動論の基礎的知識や理論の間の関係性を理解できる			
3. 組織行動論の基礎的知識や理論を実際の経営事例に適用し、分析できる			
授業の概要			
組織行動論の様々な理論が登場した時代的・理論的背景を理解して、各理論の仮定・観点・概念・仮説を学習することを目的とする。具体的には、組織の中で起こる個人・グループ・組織レベルの様々な人間行動について理論を適用し、理由を推論する「理論的因果推論」(theoretical causal inference)を身につけることを目指す。			
授業計画			
● 1 日目			
1. 組織行動論とは何か：人間行動と対人関係の社会科学			
2. 職務態度と満足：成果変数を左右する「キングピン」、態度変数			
3. 性格と価値：「類」は「友」だけではなく、「敵」も呼ぶ			
4. 知覚と意思決定：「負うた子より抱いた子」の認知的バイアスと成果主義人事制度			
5. 動機付け：動機付けは「欲求充足」の問題なのか？古典的動機付け論の展開			
● 2 日目			
6. 動機付け：X理論からY理論へのコペルニクスの転回と組織行動論のルネサンスの開幕			
7. チーム研究の登場：統制不能の「グループ」から予測可能な「チーム」へ			
8. リーダーシップ：永遠不滅の「聖杯」の探求と「リーダーシップの幻想」			
9. リーダーシップ：現代的リーダーシップの展開と4つの「偽聖杯」の発見			
テキスト			
スティーブン P.ロビンズ（著）・高木晴夫（訳）：「組織行動のマネジメント―入門から実践へ」（ダイヤモンド社）			

また、授業資料を配布する。

参考書・参考資料等

服部泰宏：「組織行動論の考え方・使い方 -- 良質のエビデンスを手にするために」（有斐閣）

金井壽宏・高橋潔：「組織行動の考え方—ひとを活かし組織力を高める9つのキーコンセプト」（東洋経済新報社）

学生に対する評価

授業時間内に課す課題や講義への参加状況（100％）をもとに評価する。

授業科目名： 特講 ビジネス統計	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：金 善照 担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 本授業はOLS回帰分析を用いた因果推論における仮説検証をテーマとする。到達目標は下記のとおりである。 1. 因果推論に関する基礎的な分析手法に関する理論や知識を説明できる 2. 実際の認識、態度、行動に関するデータをEXCELなどの分析ツールを用いて分析できる 3. 分析結果の意味を社内外の利害関係者に分かりやすく説明できる			
授業の概要 情報化技術が発展する近年の企業経営環境においては、直観や経験に依存した意思決定を超えて、「エビデンス」に基づいたマネジメントが求めている。例えば、人事部が評価制度を設計することにあたって、自社が蓄積している従業員の意識、態度、行動に関するデータを分析して(HRアナリティクス)、得られた自明な「エビデンス」がないと、社内の利害関係者を説得することは難しいだろう。本科目では因果推論(causal inference)に関する基礎的な分析手法に関する理論や知識を学習することを目標とする。また、EXCELなどの分析ツールを用いて、統計解析を実務で応用できるようになることを目指す。			
授業計画 ● 1 日目 1. 「エビデンスに基づいたマネジメント」(EBM)とは何か 2. 基礎統計学の振り返り：平均と分散の「魔法」としての統計 3. 偶然を許せない「因果律」の世界、研究モデル 4. 「因果律」を脅かす人間心理と統計解析の問題：相関関係と因果関係 5. OLS回帰分析を用いた「因果律」の検証：単回帰分析と重回帰分析 ● 2 日目 6. OLS回帰分析の応用：「条件付き」の「因果律」の検証（調整効果モデル） 7. OLS回帰分析の応用：「なぜのなぜ」の「因果律」の検証（媒介効果モデル） 8. OLS回帰分析の応用：「条件付き」と「なぜのなぜ」の複雑な「因果律」の検証（調整媒介効果モデル） 9. EXCELなどの分析ツールを用いた分析手順と結果解析の具体例と記述例			

10. 実際のデータを用いた分析実習
テキスト
教科書は使用しない。授業資料を配布する。
参考書・参考資料等
講義内で適宜指示する。
簡単な統計分析ができるウェブサイト(インストール不要) : https://stats.blue/
媒介効果統計量(Sobel Testなど)の計算 : http://quantpsy.org/sobel/sobel.htm
学生に対する評価
授業時間内に課す課題や講義への参加状況(100%)をもとに評価する。

授業科目名： 特講(マーケティング・ リサーチ)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 野際大介
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 消費者行動の理論的背景を理解する。			
・ マーケティングに関するデータから消費者行動分析やリサーチの技術を身につける。			
・ 消費者行動モデルやマーケティングモデルに関する理解を深める。			
授業の概要			
インターネットや情報技術の発達に伴い、さまざまな消費者行動に関連する情報を比較的容易に取得可能になりました。それゆえ、学術だけでなく実務上においてもマーケティング活動の示唆を得るため、消費者行動に対するメカニズムやプロセスを体系的に理解することが求められます。本講義では、大きく2つのパートに分け、前半では消費者行動理論の理解を目的とし、後半では消費者行動やマーケティングをリサーチ・分析するための事例を学ぶ。終盤には消費者行動モデルやマーケティングモデルの最新の研究について紹介します。			
授業計画			
● 1 日目			
1. 消費者行動論とは			
2. マーケティングと消費者行動論			
3. 消費者行動の理論的背景			
4. 消費者の意思決定プロセス			
● 2 日目			
5. マーケティング・リサーチと消費者行動分析			
6. 消費者行動分析演習			
7. 消費者行動モデル			
8. 消費者行動の最新の研究動向			
テキスト			
教科書は特に定めず、ハンドアウトを配布予定			
参考書・参考資料等			
「消費者行動論」青木幸弘，新倉貴士，佐々木壮太郎，松下光司（有斐閣アルマ）			

「消費者行動論」守口剛，竹村和久（八千代出版）

「マーケティングのデータ分析」岡太彬訓，守口剛（朝倉書店）

「現代のマーケティング・リサーチ」照井伸彦，佐藤忠彦（有斐閣）

学生に対する評価

講義時間内に課す課題や講義への参加状況

授業科目名： 特講(データサイエンス基礎)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 野際大介
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 統計的分析に関する統計理論を理解する。 ・ 様々なデータを用いて適切に分析し、分析結果を理論的に解釈できる。 ・ 因果関係と相関関係の違いや因果効果について理解する。			
授業の概要 学術だけでなく実務においても経験や勘に基づく意思決定ではなく、データ解析から正しい結果を導き出すことで合理的な意思決定をすることが求められている。 そこで本講義では、データ解析について実務上の観点から利用可能な手法を習得することが大きな目的である。特に近年注目されている効果検証の観点から、計量経済分析や多変量解析に加えて、統計的因果推論に関しても扱うこととする。修士論文、課題研究だけでなく、実務上誤って効果を測定してしまうような案件について、紹介する。			
授業計画 ● 1 日目 1. データ・サイエンスの意義 2. 単回帰・重回帰モデルと最小 2 乗法 3. 離散選択（2 項）モデルと最尤推定法 4. 多項選択モデル ● 2 日目 5. 統計的因果推論(1) - 相関関係と因果関係、ルービンの因果モデルとは - 6. 統計的因果推論(2) - ランダム化比較実験，差の差の分析 - 7. 統計的因果推論(3) - 傾向スコアマッチング - 8. 統計的因果推論(4) - 回帰不連続デザイン -			
テキスト 教科書は特に定めず，ハンドアウトを配布予定			
参考書・参考資料等 ・ 田中隆一（2015）『計量経済学の第一歩』有斐閣（図書館所蔵） ・ 星野匡朗・田中久稔(2016)『Rによる実証分析 - 回帰分析から因果分析へ - 』オーム社			

・川端一光・岩間徳兼・鈴木雅之『Rによる多変量解析入門 - データ分析の実践と理論 - 』オー
ム社

学生に対する評価

講義時間内に課す課題や講義への参加状況

授業科目名： 特講（コーポレート・ファイナンス）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 奥本英樹
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 このクラスでは、現代ファイナンス理論のうち企業の投資意思決定に関して基礎から学ぶことにより、最終的に企業の投資意思決定における諸課題を認識する能力およびそれらの解決能力を身につけることを目標としています。			
授業の概要 このクラスの授業では、とくに貨幣の時間価値、リスク、資本コストなどの概念に対する理解を深め、投資意思決定における諸課題を考えます。現代ファイナンス理論の性格上、初歩的な数学とミクロ経済学および会計学の基礎的知識を必要とします。したがって、これまでにそれらを学んでこられなかった方は、事前にそれらの学習をしておくことが望まれます。ただし、必要最小限の用語等については折に触れて講義中に解説します。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：貨幣の時間価値1：将来価値と現在価値 第3回：貨幣の時間価値2：年金終価と現在価値 第4回：債券の価値 第5回：普通株式の価値 第6回：投資意思決定の手順 第7回：資本コスト 第8回：NPV法およびその他の投資意思決定基準			
テキスト 特に指定しない。授業においては毎回レジュメを配布します。			
参考書・参考資料等 『財務管理』赤石雅弘，小嶋 博，榊原茂樹，田中祥子編，有斐閣ブックス。 『企業財務』若杉敬明著，東京大学出版会。 『資本市場とコーポレート・ファイナンス』新井富雄，渡辺 茂，太田智之著，中央経済社。 『基礎からのコーポレート・ファイナンス 第3版』古川浩一他著，中央経済社。			
いずれも図書館所蔵である。			

学生に対する評価

内容

毎回の課題がどこまで解決されているかを質的に評価します。

課題提出率

毎回提出が原則であり、やむを得ず遅れる場合もできるだけ期日前に連絡するようにしてください。それを前提としたうえですが、提出遅延2回で1段階、3回で2段階評価が下がります。

出席率

総授業時間に占める欠席時間が20%を超えるとF評価です。20%に達しなくても、欠席・遅刻・早退が度重なれば評価に影響します。また、病気や仕事も欠席扱いです（病気の際は無理せず休んでください。なお、学習案内記載の「学校保健安全法の規定に基づく該当感染症」の場合は登校が禁止されています）。公共交通機関（鉄道、バス）の突発事故による欠席・遅刻の場合は、証明書類を用意してください。

授業科目名：特講(リーダーシップ)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 岩井 秀樹 担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：持論としてのリーダーシップ 到達目標：多様なリーダーシップスタイルを理解した上で、自分自身のリーダーシップ体験を振り返り、今後の課題・取組みの方向について明確化できている。			
授業の概要 リーダーシップの基礎理論、実践的研究及び事例全般について講義すると同時に、ワークショップ形式で出席者自身の体験をベースに対話を通じて体感的にリーダーシップについて理解する。			
授業計画 第1回・リーダーシップの基礎理論 ・多様なリーダーシップ ・リーダーシップ体験の振り返り ・変革のリーダーシップ 第2回・リーダーシップ開発 ・リーダーシップ理論の動向 ・私にとってのリーダーシップ ・まとめ			
テキスト 金井壽宏(2006)「リーダーシップ入門」			
参考書・参考資料等 ロバート・K・グリーンリーフ(2008)「サーバントリーダーシップ」			
学生に対する評価 議論への参加・グループワーク等への貢献(50点)、レポート(50点)をもとに評価する。 S:単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた(点数にした場合は90点以上) A:単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた(80点～89点) B:単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた(70点～79点) C:単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた(60点～69点) F:単位認定基準の学修成果をあげられなかった(59点以下)			

授業科目名：特講(人的資源管理)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 岩井 秀樹 担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：日本における人的資源管理の変遷 到達目標：・人的資源管理の概念や制度の動向について理解している。 ・学んだことから実社会で起きている経営現象を理解できる。			
授業の概要 企業の資源は「人」「モノ」「金」「情報」と言われる中で「人」の重要性はますます高まっており、企業が人を最も効果的に活用していくための仕組みとは何かについて学んでいく。また、授業を通じて自分自身のキャリア開発についても考える			
授業計画 第1回・企業経営と人的資源管理 ・人的資源管理の歴史 ・個人から見た組織 ・組織構造と職務内容 第2回・雇用管理、賃金制度、福利厚生制度 ・キャリア開発、能力開発 ・人事考課制度、多様な働き方 ・まとめ			
テキスト 平野光俊・江夏幾多郎(2020)「人事管理」			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 議論への参加・グループワーク等への貢献(50点)、レポート(50点)をもとに評価する。 S:単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた(点数にした場合は90点以上) A:単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた(80点～89点) B:単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた(70点～79点) C:単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた(60点～69点) F:単位認定基準の学修成果をあげられなかった(59点以下)			

授業科目名： 特講 交通まちづくり 論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 吉田 樹
			担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（専修免許 高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業は，地域の交通や観光をツールとしたまちづくり施策の立案や現状分析を行うための技法を身につけることが目的である。地域課題を実務的に解決する手法を導き出すために必要な調査技法や分析手法（例：統計分析手法、空間解析技法の基礎）についてもあわせて獲得することを目指す。			
本授業の到達目標			
地域の交通や観光に関わる国内の政策動向を理解すること			
地域交通や観光に関する調査企画を立案できること			
交通や観光に関するデータを分析し、現状や地域課題を把握するほか、施策の提案もできること			
授業の概要			
第一部（初日の講義）は，地域の交通や観光に関する施策の最前線について概観した後，福島県内もしくは周辺の地方公共団体における交通や観光のデータ（例：交通産業の経営データ，地域経済分析システム（RESAS）掲載データ）の分析技法について演習形式で学ぶ。第二部（二日目の講義）は，第一部のデータ分析により設定した課題を解決するための施策（代替案）を検討，評価し，受講者とともに討議する。			
授業計画			
第1回：自己紹介・講義の進め方・対象地域の概要説明			
第2回：インプットレクチャー（地域の交通や観光政策の最前線）			
第3回：対象地域の課題の検討			
第4回：交通産業の経営データ分析			
第5回：地域経済分析システム（RESAS）を活用した分析			
第6回：施策（代替案）の検討			
第7回：施策（代替案）の評価			
第8回：施策（代替案）の発表と講評（試験）			
テキスト			
特に指定しないが，下記の参考資料を講義内で用いる。			
参考書・参考資料等			

国土交通省総合政策局「地域公共交通計画等の作成と運用の手引き」https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000058.html

学生に対する評価

交通産業に関わるデータ分析への参画状況と理解度（30％），施策（代替案）作成過程への参画状況（20％），施策（代替案）の発表内容（50％）の比重により，上述の到達目標 ～ の達成状況を100点満点で評価する。

S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた（90～100点）

A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた（80～89点）

B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた（70～79点）

C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた（60～69点）

F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59点）

授業科目名：教育課程編成実践研究	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：鳴川 哲也 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
1．学習指導要領の歴史的変遷とその特徴、今次改訂の経緯や基本方針、各教科等の目標及び内容について、学校の教育課程編成と関連させながら理解するとともに、各教科等の指導計画作成に必要な条件や要素をもとに、指導計画を改善するための具体的な視点・課題についての理解を深め、保護者や地域住民などに説明したり、教員に対して指導・助言したりすることができる。			
2．カリキュラム・マネジメントの在り方についての理解を深めるとともに、時代の変化を予想・考察し、地域の課題に対応した学校の実現に向けた教育課程の編成・実施・点検評価の在り方について、保護者や地域住民などに説明したり、教員に対して指導・助言したりすることができる。			
3．現任校等の教育課程の改善プランと実証的効果判定の視点を明示することができる。			
学部新卒学生			
1．学習指導要領の位置付けや基準性、各教科等の目標及び内容について、おおむね体系的・構造的にとらえ、説明することができる。			
2．教育課程の意義や編成・実施・点検評価の方法について理解し、学校や地域特性を踏まえた特色ある教育課程を編成することができる。			
3．各自の学校教育実習を踏まえて、各教科等の年間指導計画の作成、実践を踏まえた改善を行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することができる。			
授業の概要			
1．カリキュラム・マネジメントを行い、学校教育に関わる様々な取組を組織的・計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげることができる教員を育成する。具体的には、現職教員学生と学部新卒学生に応じて、各学校の教育課程の編成方法及び構成要素間の関連の在り方、児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握する方法について理解する。			
2．各学校の児童生徒等の状況や教職員の力量、地域との関係など学校の実態を踏まえた、当該校の教育課程案を作成することができる。また、予想される効果等を検証する方法や教育課程の改善方針を立案し実施していくことについての理解を深め、教職員集団をリードしその実施に当たることができる力量を身に付ける。			
3．現職教員学生と学卒学生との指導目標の違いを十分配慮しながらも、集団的メンター・メンティー形態（チーム・ネットワーク形態）を重視したワークショップをはじめ多様な教育方法を通じて授業			

を行う。

授業計画

第1回：カリキュラム・マネジメントの重要性についての理解（1）

学習指導要領の歴史的変遷とその特徴、今次改訂の経緯について理解する。（オリエンテーションを含む）

第2回：カリキュラム・マネジメントの重要性についての理解（2）

各教科等の目標及び内容、現代的な諸課題、学習の基盤となる資質・能力等について、学校の教育課程編成と関連させながら理解する。

第3回：各学校における教育課程の分析（1）

受講生が実施してきた（受けてきた）学校の教育課程を持ち寄り、第1回、第2回で学んだ視点を基に、改善のポイントを検討する。

第4回：各学校における教育課程の分析（2）

受講生が実施してきた（受けてきた）学校の教育課程を持ち寄り、第1回、第2回で学んだ視点を基に、改善のポイントを明確にする。

第5回：カリキュラム・マネジメントの研究校の取組の分析（1）

国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業で指定された学校の取組を分析し、そのカリキュラムの必然性と妥当性についてグループワーク等により検討する。

第6回：カリキュラム・マネジメントの研究校の取組の分析（2）

国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業で指定された学校の取組を分析し、そのカリキュラムの必然性と妥当性についてグループワーク等により検討し、今後、第3回、第4回で明確にした改善のポイントに加え、カリキュラム・マネジメントを行う際の新たな視点を獲得する。

第7回：教育課程の実施状況の評価についての方法やその課題についての理解

受講生が実施してきた学校における教育課程の実施状況の評価や先進校における取組を踏まえ、ODCAサイクルの重要性や課題となる事項を、グループワーク等により検討する。

第8回：学校、児童生徒、地域などの実態を踏まえた、当該校の教育課程案の作成（1）

当該校の強みや弱みをSWOT分析等で捉え、教育課程案作成の方向性を探る。

第9回：学校、児童生徒、地域などの実態を踏まえた、当該校の教育課程案の作成（2）

SWOT分析等で捉えた教育課程案作成の方向性を基に、当該校の教育課程（グランドデザイン）を作成する。

第10回：学校、児童生徒、地域などの実態を踏まえた、当該校の教育課程案の作成（3）

SWOT分析等で捉えた教育課程案作成の方向性を基に、当該校の教育課程（グランドデザイン）を作成する。

第11回：作成した教育課程案の検討・改善（1）

作成した教育課程案（グランドデザイン）をグループワーク等により検討する。

第12回：作成した教育課程案の検討・改善（2）

作成した教育課程案（グランドデザイン）をグループワーク等により検討し、改善する。

第13回：教育課程案の評価方法の具体についての検討

教育課程案の実施状況を確認して分析し、課題となる事項を見いだす具体的な方法を、グループワーク等により検討し、明確にする。

第14回：教育課程案の実施に必要な人的又は物的な体制についての検討

教育課程案を実施するための、地域の教育資源や学習環境などについての把握について、グループワーク等により検討し、明確にする。

第15回：教育課程案を踏まえた、各教科等の授業の在り方について再考する。

教育課程案を実施するために、自分の専門教科等の授業づくりをどのように改善していく必要があるかを考える。

テキスト

その他各授業時のテーマに応じて、その都度提示する。

参考書・参考資料等

国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業研究成果報告書

その他各授業時のテーマに応じて、その都度提示する。

学生に対する評価

成績は、カリキュラム・マネジメントの重要性を理解した上で、実践での活用が見通せているかという点を中心に、次の事項をもとに評価する。

- 1．授業終了後に提出する最終レポート（40％）
- 2．毎回のディスカッション等の行動評価（30％）
- 3．期間中の提出課題の内容と表現（30％）

授業科目名：学校・学級づくりの実践研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：宮武泰・大橋淳子 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目等		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
1. 学校・学級づくりをめぐる考え方とそれらの関係を、自らの実践と関わらせながら理解することができる。			
2. 「地域と子どもに開かれる学校・学級づくり」の実践課題を捉え、自らの実践と比較し探究することができる。			
3. 学校におけるミドル・リーダーの果たす役割を連携協力校（所属校）における学校・学級課題との関連で実地に把握し、自らの実践の見通しを持つことができる。			
学部新卒学生			
1. 学校・学級づくりをめぐる考え方とそれらの関係の基本を理解することができる。			
2. 「地域と子どもに開かれる学校・学級づくり」の実践課題の基本を捉えることができる。			
3. 学校におけるミドル・リーダーの果たす役割を連携協力校（所属校）における学校・学級課題を現職教員学生とともに実地に把握し、そこでの基本的課題を捉えることができる。			
授業の概要			
戦後の学校・学級づくり論の理論的整理と共に、現代学校経営の基礎となった1998年中教審答申の「学校の自律性」以降から現在の「地域と共にある学校・学級」にいたるまでの学校・学級づくりの指針を学んだ上で、現在進行しつつある特徴ある学校・学級づくりの事例を小学校、中学校に求め、校長のリーダーシップやミドル・リーダーの役割を明らかにする。その際実際の学校・学級を訪問し、校長やミドル・リーダーの役割の聞き取り調査を行う。また、各学校における学校づくりが日々の学級づくりにどのような影響を与えているかについて検討する。さらに、特徴ある学級づくりと学校経営の関連について、事例をもとに検討し、学校づくりと学級づくりの相互作用のあり方について明らかにする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（本授業の目的と進め方を提示し、受講者の学校づくり、学級づくりに関する経験について交流し、検討すべき課題を明らかにする）。			
第2回：戦後の学校経営・学校づくりの考え方の変遷(1)（1998年の「学校の自律性」及び「地域に開かれた学校」観を転換点として、それ以前の学校経営観を、資料に基づき検討する）。			

第3回：戦後の学校経営・学校づくりの考え方の変遷(2) (1998年の「学校の自律性」及び「地域に開かれた学校」観を転換点として、それ以後の学校経営観を、資料に基づき検討する)。

第4回：学校経営・学校づくりと学級経営・学級づくりをつなぐ視点(とくにその視点として現代的に重要な「子どもに開かれる」、「授業をひらく」ことを検討する)

第5回：「開かれた学校」に関する視点(1)(教師、親、子どもの三者協議、教師、親、子ども、地域の四者協議について検討する)

第6回：「開かれた学校」に関する視点(2) (三者協議、四者協議の原理的展開としての学校の条件整備から授業づくりまで検討する)

第7回：「地域とともにある学校」の事例検討(福島県大玉村が進めるコミュニティ・スクールの現状と課題を検討する)

第8回：「危機からの再生」としての学校づくり(大震災後、危機からの再生を果たした伊達市立保原小学校のスクール・コミュニティの考え方と『学び合い』の実践について検討する)

第9回：「道徳教育を土台とする学校づくり」(山口県美祢市立厚保中学校の「道徳教育を土台とした小規模校の事例を検討する)

* 以下の連携協力校は年度によって変更されるため、学校名称は付さない。

第10回 連携協力校の具体的な学校運営・学級づくりの事例の検討 (各自、連携協力校に出向き、管理職等から学校運営・学級づくりの事例についてインタビューする)

第11回 連携協力校の具体的な学校運営・学級づくりの事例の検討 (インタビューのポイントについて資料を作成し、議論するための準備をする)

第12回 連携協力校の具体的な学校運営・学級づくりの事例の検討 (準備された資料について、これまでの視点と関わらせながら、議論する)

第13回 連携協力校の具体的な学校運営・学級づくりの事例の検討 (議論を継続し、新たな視点を抽出する)

第14回 連携協力校の具体的な学校運営・学級づくりの事例の検討 (連携協力校の学校運営・学級づくりの課題を検討し、提案書を作成する)

第15回：まとめ(これまでの事例からわかる学校経営と学級経営の視点の整理し、各自発表する)

定期試験：レポート試験(A4で2000字程度)

テキスト

なし

参考書・参考資料等

小島弘道・勝野正幸・平井貴美代(2016)「学校づくりと学校経営」(学文社)

その他各授業時のテーマに応じて、その都度提示する。

学生に対する評価

4つの視点で評価する。

1. レポート・報告書による評価（授業内容全体の振り返りを基にしたレポート 20%）、
（各自のインタビュー調査の報告書 20%）、
2. 議論・ディスカッションへの参加（各回の授業を振り返るディスカッションの行動評価
10%）、（最終発表会でのディスカッションの行動評価 10%）、
3. プレゼンテーション（各自の事例報告に関するプレゼンテーション内容および表現方法
10%）、（最終発表会におけるプレゼンテーション 10%）
4. 毎回の課題（基本的な理解に関する毎時間のミニレポート 10%）、（復習をもとにし
予習ミニレポート 10%）

授業科目名：学校と地域	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：2単位	担当教員名：天野 和彦
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
生涯学習社会における学校教育の役割を学び、地方創生を支える学校と地域の連携・協働の在り方を検討するとともに学校教育をめぐる諸課題を捉える。具体的には地域でいかなる学習実践が組み立てられているか、その実際についての基礎理解を得た上で、学校と地域の協働が今日にあらためて求められる背景を理解する。それらの基礎理解をもとに、地域で展開される自治的活動や学習活動と学校との関わりについての事例研究を通して、学校と地域の両者にとって望ましい「協働」を進めるための基本的な考え方や方法等を学ぶ。 < 現職教員学生 > 学校と地域との協働が求められる現代的教育課題とその背景にある生涯学習社会の構造について基本的理解を獲得し、地域で展開される学習活動の実態について学び、学校と地域の協働を進める役割を担うミドルリーダーとしての力量を養う。 < 学部新卒学生 > 現職教員学生に準じて、将来的な活躍の場を見越し、その素地を養うことを到達目標とする。具体的には現職経験がない学部新卒学生が現職教員学生と共同でグループ学習を展開し、学校と地域の協働に関する事例に学び現代的教育課題の認識を深め、将来的な自らの実践への応用を可能とする基礎を身に付ける。			
授業の概要			
授業の前半は、子育て、環境問題、地域福祉など、暮らしの質を良くするために取り組まれている市民の学習と行動の実際をとらえる。授業の約半分程度の時間は、こちらで用意した論文や実践記録を素材に、学生相互で議論を行う。事前に報告者と司会者を決め、発表当日は、報告者による論文・実践記録の内容紹介と論点の提案を受け、全員参加の議論を行い対話的学習を展開する。 後半では、広く現代の「地域と学校」に関わる諸問題を取り上げ、先駆的实践例を検討し討議を重ね、それらの実践を支えた構造と方法等について探究する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション・・・授業目的等を受講生と共有する。 第2回：地域学習の実際（1）学校と地域における地域学習の歴史的展開過程に関する理解を進める。 第3回：地域学習の実際（2）公害学習、農民学習など、これまでの主要な地域学習の事例に学ぶ。 第4回：地域でとりくまれる共同の子育て（1）子育てをめぐる地域実践の今日的展開をとらえる。 第5回：地域でとりくまれる共同の子育て（2）子育ての現状を確認し関連する実践事例を考察する。			

第6回：超高齢化社会と地域包括ケア - 超高齢化社会への地域的対応の現段階を学ぶ。
 第7回：住民自治の力を育む（1）長野県阿智村における住民自治を育む取り組みに学ぶ。
 第8回：住民自治の力を育む（2）福島県双葉郡の学校と地域による協働的次世代育成実践に学ぶ。
 第9回：地域で学習事業を組み立てる（1）社会教育における事業の組み立て方の基礎を学ぶ。
 第10回：地域で学習事業を組み立てる（2）社会教育における施設運営、住民参加方法の基礎を学ぶ。
 第11回：「学校と地域の協働」を考える（1）学校支援・連携に関する主な法律、答申等
 第12回：「学校と地域の協働」を考える（2）参加と共同による学校づくり・地域づくり。
 第13回：「学校と地域の協働」を考える（3）地域と連携した学校施設の開放・活用。
 第14回：現代的教育課題と自主夜間中学 - 自主夜間中学の背景・実際とそれを支援する営みを学ぶ。
 第15回：まとめ - 学校と地域の役割と協働の意味と課題について省察的な共同討議を行い探究する。

テキスト

授業の中で指定する。

参考書・参考資料等

パウロ・フレイレ著・里見実、楠原彰、桧垣良子訳『伝達か対話か—関係変革の教育学』亜紀書房、1982年）、『震災からの教育復興—過去、現在から未来へ』（悠光堂、2013年）、『福島復興学 —原発事故後10年—』（八潮社、2019年）、日本社会教育学会編『東日本大震災と社会教育』（東洋館出版社、2021年）、佐藤一子編『地域学習の創造』（東京大学出版会、2015年）など。その他、授業で指示する。

学生に対する評価

レポート(30%)、報告(30%)、ディスカッションへの参加(40%)

授業科目名：公教育の 理念と教育改革	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：谷 雅泰 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ			
現職教員学生			
1. これからの教育実践の背景となる公教育の理念について、基本的な事項を理解し、これまでの自らの教育実践を位置づけることができる。			
2. これまでの歴史や世界の動向をふまえて、自らの教育実践の体験をふまえてこれからの教育の在り方について自分なりの考えを持つことができる。			
3. これからの教育改革の在り方や自らの教育実践について、自分なりの考えを持つことができる。			
学部新卒学生			
1. これからの教育実践の背景となる公教育の理念について、基本的な事項を理解できる。			
2. これまでの歴史や世界の動向をふまえて、教育の在り方について自分なりの考えを持つことができる。			
3. これからの教育改革の在り方について、自分なりの考えを持つことができる。			
授業の概要			
19世紀以降各国において確立してくる公教育について、基本的事項を学ぶ中でその理念を明らかにし、これからの教育実践を担うにふさわしい教育観を各自が持つことを目的とする。具体的には、日本の公教育制度の確立、戦前の教育、戦後教育改革について基本的な事項を紹介しながらその理念について明らかにし、現在の教育改革の動向について、教育基本法改正以降の日本について触れるとともに、アメリカ、イギリス、北欧の事項も紹介する。事前配布する資料を読了していることを前提に、簡単なレクチャー、小グループでの議論、全体の議論を進めていく。			
授業計画			
第1回：公教育とは何か（義務教育の成立の条件について検討する）			
第2回：日本における義務教育の成立（学制序文から教育勅語にかけての教育理念の転換について検討する）			
第3回：戦中期の教育について（国民学校の時代の教育理念について検討する）			
第4回：戦後教育改革について（戦後教育改革期の教育について、第1次アメリカ教育使節団報告書や実際の教育実践をもとに検討する）			
第5回：教育基本法改正の教育理念について（新旧の教育基本法を読み比べることを通して、改正以降の教育改革の理念について検討する）			

第6回：各国の教育改革について - アメリカ - （NCLB法とその帰結についてを主な対象に、アメリカの教育改革について検討する） 第7回：各国の教育改革について - イギリス - （ナショナルテスト導入とその帰結についてを主な対象に、イギリスの教育改革について検討する） 第8回：各国の教育改革について - デンマーク - （2014年国民学校法の改正とその帰結についてを主な対象に、デンマークの教育改革について検討する） 第9回：これからの教育改革について(1)（教育再生実行会議の各提言を手がかりに、これからの学制について検討する） 第10回：これからの教育改革について(2)（教育再生実行会議の各提言を手がかりに、これからの教師の在り方について検討する） 第11回：これからの教育改革について(3)（中教審答申第184答申を手がかりに、これからの教員の在り方について考える） 第12回：これからの教育改革について(4)（中教審答申第185答申を手がかりに、これからの学校の在り方について考える） 第13回：これからの教育改革について(3)（中教審答申第186答申を手がかりに、新しい時代の教育について考える） 第14回：これからの公教育の理念について - フリーディスカッション - （小グループ・全体で、これまでの学びをふまえてこれからの教育についての自分の考えをまとめる） 第15回：定期試験
テキスト なし。必要な文献についてはプリント配布する。提言や答申については各自プリントアウトするように指示する。
参考書・参考資料等 本田由紀(2020)「私たちは何を評価してきたのか」（岩波新書） ダイアン・ラビット著・本図愛実監訳(2013)「偉大なるアメリカ公立学校の生と死」（協同出版） 谷雅泰・青木真理編(2017)「転換期と向き合うデンマークの教育」（ひとなる書房） 福島県(2021)「第7次福島県総合教育計画」
学生に対する評価 1．授業における議論へ参加していること（20％）。 2．レポート試験(80％)。

授業科目名：福島 の 学校と教育課題	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：天野 和彦 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
1．福島 の 教育の現状と課題について、これまでの自らの教育実践から理解することができる。			
2．これから の 福島 の 教育の在り方について、自らの教育実践の体験をふまえて自分 なり の考えを持つことができる。			
学部新卒学生			
1．福島 の 教育の現状と課題について、基本的な事項を理解できる。			
2．これから の 教育改革の在り方について、基本的な事項を理解し、自分 なり の考えを持つことができる。			
授業の概要			
震災後の福島 の 教育について、双葉郡とその他の地域のそれぞれにおいて幼稚園、小・中・高校がどのような状況に置かれてきたかの概要を理解する。担当教員によるレクチャー、受講者による体験の紹介から始めるが、避難を余儀なくされている双葉郡の小中学校、ふたば未来学園についてはそれぞれの先生方による講演も予定している。それを受けて、福島 の 教育課題は何かについて、受講者同士のディスカッションにより明らかにしていく。本授業は1単位であるが、1，2年生による合同の授業である。それぞれの立場からのコラボレーションがおこなわれることとなる。			
授業計画			
第1回：震災後の福島 の 学校の状況について（幼稚園、小中学校について、双葉郡と飯舘村を中心に震災後の学校の状況を検討する）			
第2回：震災後の福島 の 学校の状況について（県立高校のサテライト校からふたば未来学園高校の設立に至る経緯を検討する）			
第3回：震災後の福島 の 学校の状況について（小グループに分かれ、幼稚園、小・中・高校における受講者の経験をシェアするとともに、各自の問題意識を共有する）			
第4回：これから の 福島 の 教育課題について（福島県教育振興基本計画を検討し、基本的な視点を議論する）			
第5回：福島 の 教育課題（1）（双葉郡における避難中の義務教育学校の管理職をゲストスピーカーに迎え現状とこれから の 教育課題について検討する）			
第6回：福島 の 教育課題（2）（ふたば未来学園高校等からゲストスピーカーを迎え現状とこれから の 教育課題について検討する）			

第7回： これからの福島教育課題について（小グループに分かれ、これまでの学びから析出した各自の課題について交流する）

第8回： まとめ 授業を通して学んだ福島県の学校と教育課題について省察する

テキスト

授業の中で指定する。必要な文献についてはプリント配布する。

参考書・参考資料等

パウロ・フレイレ著・里見実、楠原彰、桧垣良子訳『伝達か対話か—関係変革の教育学』亜紀書房、1982年）、『震災からの教育復興—過去、現在から未来へ』（悠光堂、2013年）、『福島復興学 —原発事故後10年—』（八潮社、2019年）、日本社会教育学会編『東日本大震災と社会教育』（東洋館出版社、2021年）、佐藤一子編『地域学習の創造』（東京大学出版会、2015年）、福島県大熊町教育委員会編『大熊町学校再生への挑戦』2012年、かもがわ出版）など。その他、授業で指示する。

学生に対する評価

- 1．授業における議論へ参加していること（20％）。
- 2．レポート試験(80％)。

授業科目名：福島 の学校と教育課題	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：天野 和彦 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
1．福島教育の現状と課題について、これまでの自らの教育実践から理解することができる。			
2．これからの福島教育の在り方について、自らの教育実践の体験をふまえて自分なりの考えを持つことができる。			
3．現職として、また の履修者(2年生)として、合同で開講する の受講者をサポートしリードできる。			
学部新卒学生			
1．福島教育の現状と課題について、基本的な事項を理解できる。			
2．これからの教育改革の在り方について、基本的な事項を理解し、自分なりの考えを持つことができる。			
3． の履修者(2年生)として、合同で開講する の受講者をサポートしリードできる。			
授業の概要			
震災後の福島教育について、双葉郡とその他の地域のそれぞれにおいて幼稚園、小・中・高校がどのような状況に置かれてきたかの概要を理解する。担当教員によるレクチャー、受講者による体験の紹介から始めるが、避難を余儀なくされている双葉郡の小中学校、ふたば未来学園についてはそれぞれの先生方による講演も予定している。それを受けて、福島教育課題は何かについて、受講者同士のディスカッションにより明らかにしていく。本授業は1単位であるが、1，2年生による合同の授業である。			
の受講者は前年度の の学びをもとに1年生をサポート・リードし、それぞれの立場からのコラボレーションがおこなわれることとなる。			
授業計画			
第1回：震災後の福島学校の状況について（幼稚園、小中学校について、双葉郡と飯舘村を中心に震災後の学校の状況を検討する。前年度の検討内容を の受講者に伝える。）			
第2回：震災後の福島学校の状況について（県立高校のサテライト校からふたば未来学園高校の設立に至る経緯を検討する。前年度の検討内容を の受講者に伝える。）			
第3回：震災後の福島学校の状況について（小グループに分かれ、幼稚園、小・中・高校における受講者の経験をシェアするとともに、各自の問題意識を共有する。前年度の到達点をふまえ の受講者に伝える。）			
第4回：これからの福島教育課題について（福島県教育振興基本計画を検討し、基本的な視点を議論する。前年度の到達点をふまえ の受講者に伝える。）			

第5回：福島教育課題1（双葉郡における避難中の義務教育学校の管理職をゲストスピーカーに迎え現状とこれからの教育課題について検討する。前年度の到達点をふまえ議論をリードする。）

第6回：福島教育課題2（ふたば未来学園高校からゲストスピーカーを迎え現状とこれからの教育課題について検討する。前年度の到達点をふまえ議論をリードする。）

第7回：これからの福島教育課題について（小グループに分かれ、これまでの学びから析出した各自の課題について交流する。前年度の到達点をふまえの受講者に伝える。）

第8回：まとめ 授業を通して学んだ福島県の学校と教育課題について省察し、その学びをもとに自らの教育実践の今後の展開について共同的に探究する。

テキスト

授業の中で指定する。必要な文献についてはプリント配布する。

参考書・参考資料等

パウロ・フレイレ著・里見実、楠原彰、桧垣良子訳『伝達か対話か—関係変革の教育学』亜紀書房、1982年）、『震災からの教育復興—過去、現在から未来へ』（悠光堂、2013年）、『福島復興学—原発事故後10年—』（八朔社、2019年）、日本社会教育学会編『東日本大震災と社会教育』（東洋館出版社、2021年）、佐藤一子編『地域学習の創造』（東京大学出版会、2015年）、福島県大熊町教育委員会編『大熊町学校再生への挑戦』2012年、かもがわ出版）など。その他、授業で指示する。

学生に対する評価

- 1．授業における議論へ参加していること（20％）。
- 2．レポート試験(80％)。

授業科目名： 学校マネジメント論及び事例研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：大橋 淳子・高野 孝男 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
これまでの原籍校における学校課題解決に向けた取り組みや事例研究を通して、学校マネジメントの手法について学び、実践力のある学校ミドルリーダーとしての資質能力を高める。具体的には、以下の到達目標を達成することを目指す。 １．学校ミドルリーダーとしてのスキル形成に必須である、「学校マネジメント」の基礎的事項（関係法令も含む）を修得する。 ２．自らのこれまでの教育実践を振り返り、学校現場で学校改善に役立つ実効性のある学校経営ビジョンを構想することができるようにする。 ３．地域の公立学校（モデル校）の訪問調査研究等を通して、学校マネジメントの機能を生かして、学級経営並びに学校経営の今日的課題（事例研究）を解決する手法を具体的に理解し実践に生かしていくことができるようにする。			
学部新卒学生			
学級経営や学校経営の今日的な教育課題等について学ぶとともに、自己研究テーマに基づく探求活動を通して、学校マネジメントに関する基礎的事項を身につける。具体的には、以下の到達目標を達成することを目指す。 １．学校ミドルリーダーとしてのスキル形成に必須である、「学校マネジメント」の基礎的事項（関係法令も含む）を修得する。 ２．学校改善に役立つ学校経営ビジョンを構想する基礎的事項を理解し、ビジョン作成の基本的事項を修得する。 ３．地域の公立学校（モデル校）の訪問調査研究等を通して、学級経営並びに学校経営の今日的課題を把握し、学校マネジメントの機能を生かして、それらの諸課題を解決する基本的な手法を学ぶ。			
授業の概要			
「学校・授業・子ども・教師」の観点から、これまでの教育活動について振り返り、地域や保護者、子どもから信頼される学校経営（学級経営）構築のための基礎的事項として、学校マネジメントを中心に、チームとしての学校、危機管理（リスク/クライシスマネジメント）、諸機関との連携による生徒指導、今日的な教育課題等について学ぶ。更に、より現実的な学校			

課題把握並びに、先進的な取組をしている学校経営を探究していくために、地域の公立学校（モデル校）の訪問調査研究等も積極的に取り入れる。

授業全体として、学生の主体的な学びを重視し、アクティブラーニングの手法を柔軟に取り入れた協働による学び合いを中心に授業を展開する。

授業計画 第1回～第15回について、齋藤後任・佐藤後任が共同で実施する。

第1回：ガイダンス - 学校改革と学校経営ビジョンの必要性

授業の目的と進め方を確認し、所属校の学校課題を討論、整理する。

第2回：学校におけるミドルリーダーの役割と重要性

所属校の学校課題を報告し合い、ミドルリーダーの役割と重要性を理解する。

第3回：「学校マネジメント」の取り組み（1）学校改善の動向と課題

「学校改善の課題」を討論、整理する。

第4回：「学校マネジメント」の取り組み（2）学校改善の方法

「学校改善の方法」を討論、整理する。

第5回：「学校マネジメント」の取り組み（3）学校改善のリーダーシップ

「学校改善のリーダーシップ」を討論、整理する。

第6回：福島県の学校マネジメント課題（1）未曾有の大震災における「学校マネジメント」機能の

検証 東日本大震災時の所属校の対応を報告し合い、学校マネジメントの機能を検証する。

第7回：福島県の学校マネジメント課題（2）学校危機管理（リスク/クライシスマネジメント）の検

討 福島県の学校課題を報告し合い、学校危機管理（リスク/クライシスマネジメント）の視点から検討、整理する。

第8回：事例研究（1）モデル校訪問調査

先進的な学校経営をしている公立学校（モデル校）の校長等から聞き取り調査をする。

第9回：事例研究（2）モデル校調査の整理と課題検討

モデル校の学校課題と取り組みを整理、検討する。

第10回：事例研究（3）モデル校調査の報告書作成

モデル校の学校マネジメントを報告書にまとめ、報告会の準備をする。

第11回：事例研究（4）モデル校調査の報告と討論

モデル校調査の報告と討論を行い、学校マネジメントについて整理する。

第12回：自己課題（1）学校マネジメントに関する自己課題の整理と検討

学校マネジメントに関する自己課題を整理、検討する。

第13回：自己課題（2）学校マネジメントに関する自己課題の改善策の企画立案

自己課題の改善策を企画立案する。

第14回：自己課題（3）学校マネジメントに関する自己課題の報告と討論

自己課題の改善策について報告、討論し合う。

第15回：整理とまとめ

学校マネジメントと学校ミドルリーダーの役割と重要性について討論し、まとめる。 定期試験 レポート試験（A4で2000字程度）
テキスト 特に使用しない
参考書・参考資料等 篠原清昭(2012)「学校改善マネジメント」ミネルヴァ書房 妹尾昌俊(2015)「変わる学校・変わらない学校」学事出版
学生に対する評価 1 毎回の課題への討論、振り返り（30％） 2 事例研究・自己課題の報告と討論（40％） 3 最終レポート（30％）

授業科目名：ミドル・リーダー論と実際	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：大橋淳子・高野孝男 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 現職教員学生 1．ミドル・リーダーをめぐる考え方を、自らの実践と関わらせながら理解することができる。 2．ミドル・リーダーの実践課題を捉え、自らの実践と比較し探究することができる。 3．ミドル・リーダーの果たす役割を受講生及び所属校におけるミドル・リーダーの実際を実地に把握し、自らの実践の見通しを持つことができる。			
学部新卒学生 1．未来のミドル・リーダーの考え方の基本を理解することができる。 2．未来のミドル・リーダーの実践課題の基本を捉えることができる。 3．未来のミドル・リーダーの果たす役割を、現職教員学生とともに現職の所属校のミドル・リーダーの実際を実地に把握し、そこでの基本的課題を捉えることができる。			
授業の概要 学校におけるミドル・リーダーとは、未だ多義的ではあるが、管理職を除く「校内の中核的な存在の教員（中堅教員）」であり、主に30代後半から40代に係る教員たちである。ミドル・リーダーの養成は、教員の大量退職時代を迎えた今、喫緊の課題となっている。学校の抱える多様化・複雑化した課題に、協働的に取り組むことができる組織マネジメント能力をもったミドル・リーダーを育てる必要がある。本講義では、1．学校改革の方向性、2．ミドル・リーダーが求められる背景、3．学校管理職とミドル・リーダーの役割、4．その資質能力、を整理した上で、5．ミドル・リーダーの実際を調査し、ミドル・リーダー力の改善の指針を得ることを目標とする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（ミドル・リーダーの実際と課題を考える） 第2回：学校改革の方向性について（「学校ver.3」の課題について検討する） 第3回：ミドル・リーダーが求められる背景（ミドル・アップダウン・マネジメントの基本的な考え方について検討する） 第4回：学校管理職とミドル・リーダーの役割（校長のリーダーシップとミドル・リーダーの役割について検討する） 第5回：ミドル・リーダーに求められる資質能力の育て方について（とりわけ、「課題解決能力」、			

「同僚性の構築力」など、学校課題を解決するための資質能力はどう育てるかについて検討する） 第6回：ミドル・リーダーの現状と課題（現場からの報告。学校改革・学校課題をどう捉えたか） 第7回：ミドル・リーダーの現状と課題（現場からの報告。ミドル・アップダウン・マネジメントの諸事例を検討する） 第8回：ミドル・リーダーの現状と課題（現場からの報告。ミドル・リーダーとしての資質能力をどう育てたか） 第9回：ミドル・リーダーの現状と課題（現場調査。所属校（小学校）のミドル・リーダーの現状と課題の調査） 第10回：ミドル・リーダーの現状と課題（現場調査。所属校（中学校）のミドル・リーダーの現状と課題の調査） 第11回：ミドル・リーダーの現状と課題（現場調査。所属校（高校あるいは特別支援）のミドル・リーダーの現状と課題） 第12回：小学校ミドル・リーダー調査の検討 第13回：中学校ミドル・リーダー調査の検討 第14回：高校あるいは特別支援学校ミドル・リーダー調査の検討 第15回：まとめ（講義を終えて。ミドル・リーダーの現状と課題） 定期試験：レポート試験（A4版2000字程度）
テキスト なし
参考書・参考資料等 小島弘道・末松裕基・熊谷愼之輔(2012)「学校づくりとスクールミドル」（学文社） 篠原清昭(2012)「学校改善マネジメントー課題解決への実践的アプローチ」（ミネルヴァ書房） 授業の課題に沿って、資料を配付する。
学生に対する評価 4つの視点で評価する。 1. レポート・報告書による評価（授業内容全体の振り返りを基にしたレポート 20%、各自のインタビュー調査の報告書 20%） 2. 議論・ディスカッションへの参加（各回の授業を振り返るディスカッションの行動評価 10%、最終発表会でのディスカッションの行動評価 10%） 3. プレゼンテーション（各自の事例報告に関するプレゼンテーション内容および表現方法 10%、最終発表会におけるプレゼンテーション 10%） 4. 毎回の課題（基本的な理解に関する毎時間のミニレポート 10%、復習をもとにし予習ミニレポート 10%）

授業科目名：教師の成長と授業研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：坂本篤史 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
学校における授業研究を振り返りながら、学校現場での授業研究会の運営と実施に向けて、これからの授業研究に求められる基礎的な考え方を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			
1 . 教師の授業力量形成に関する理論を、自分自身の経験を振り返りつつ、実際と結びつけて具体的に理解できる。			
2 . 授業研究会を通して教師が学ぶことが子どもの能動的かつ協働的な学びを促すことを、自分自身の授業改善や他教師の事例を省察しながら理解できる。			
3 . ミドル・リーダーとして、教師の成長を促す授業研究会の企画を、具体的な学校現場の状況を踏まえて提案することができる。			
授業の概要			
授業研究会を通した教師の学びのあり方について、先行事例の検討や文献購読に加え、現場での観察や記録の検討を通して学ぶ。現職研修の様々な機会における授業研究会への参与観察や参加観察等により、授業をデザインし、実施し、省察し、記録化し、リデザインするサイクルと教師の学習過程の関係について、理論と実践を結びつけて理解を深めると共に、ミドルリーダーとしての授業研究会の運営と実施への洞察を深める。			
第1回：ガイダンス（授業に関する教師の成長と授業研究会の関係について概観する）			
第2回：教師の学習に関する基礎理論（省察的実践家の視点から、教師の学びに関する基本的な概念や理論を学ぶ）			
第3回：教師の学習と授業研究の関係（授業研究会を通した教師の授業力量形成に関する概念や理論について検討する）			
第4回：校内研修としての授業研究会（校内研修としての授業研究会がどのように教師の学びを促すかについて検討する）			
第5回：授業研究経験の省察1（第4回までで学んだ内容を踏まえて、自らの授業研究で学んだ経験や授業力量の形成につながる経験を協働で省察する。）			
第6回：授業研究経験の省察2（第5回に引き続き省察すると共に、グループ間の交流を行うことで、各自の授業研究経験を多様な視点で捉える。）			
第7回：授業研究会の事例収集1（教師の学びにつながる授業研究会の事例をフィールドワーク等により収集する）			

第8回：授業研究会の事例収集2（第7回で収集した事例を協働で検討できるように整理する） 第9回：事例研究の視点（授業研究会の事例を分析する視点を検討する） 第10回：授業研究会の事例研究1（協働で事例の分析に着手し、事例研究のテーマを明確にする） 第11回：授業研究会の事例研究2（協働で事例の分析を進め、得られた知見を明確化し、さらなる課題を見いだす） 第12回：授業研究会の事例研究3（第11回で見出した課題に基づき、協働で事例のデータ収集や分析を進め、知見の洗練を行う） 第13回：授業研究会の事例研究4（事例研究の成果発表を行い、授業研究会と教師の学びの実際の関係について理解を深める） 第14回：教師の成長を促す授業研究会の計画（第13回までで得られた知見を基に、教師の学びを促す授業研究会を、それぞれの想定する学校の状況に基づき構想する。） 第15回：まとめ（全ての回の内容を振り返り、教師の学びを促す授業研究会を構想する上での要点を整理する）
テキスト なし
参考書・参考資料等 鹿毛雅治・藤本和久（編著）（2017）「『授業研究』を創る - 教師が学びあう学校を実現するために」（教育出版） 木村優・岸野麻衣（編著）（2019）「授業研究 - 実践を変え、理論を革新する」（新曜社） その他各授業時のテーマに応じて、その都度提示する。
学生に対する評価 成績は、授業研究会と教師の学びの関係を理解した上で、実際の企画への展望ができているかという点を中心に次の事項をもとに評価する。 1 授業終了後に提出する最終レポート（40％） 2 毎回のディスカッションの行動評価（30％） 3 期間中の提出課題の内容と表現（30％）

授業科目名：世界の教育改革と現在	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：植田 啓嗣 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
これまでの教育実践や教育経営の経験を踏まえて得られた問題意識に対して、さまざまな観点から解決策・改善策を考える力を身につけることができるよう、諸外国の教育改革やその背景にあるアカデミックな理論について学修する。具体的には以下の到達目標の達成を目指す。 1．世界の教育改革に関する知見について学修する。世界の教育改革の理論と実践を知ること で、自己の教育実践において多角的な視点で取り組むことができるようになる。 2．世界の教育改革に関する学術的な理論について学修する。教育学、教育社会学、教育経済学、開発学といった社会科学の諸理論について理解を深め、アカデミックの観点から教育課題を分析・考察するスキルを身につける。 3．世界の教育改革に関する具体的な事例を探究する。事例研究を通して、教員、ミドルリーダー、将来の管理職としての視野を広げる。			
授業の概要			
本授業は、国際的な教育改革についての理解を深め、我が国および世界の教育課題について考察する力の獲得を目指すものである。先進国を中心とした先駆的な教育改革に加え、途上国の教育開発・教育改革について学び、グローバルに物事を考えられる視点を身につける。本授業において、先進国および途上国の教育改革とその背景にあるアカデミックな理論について講義するが、学修内容の活用として受講者による課題探究も行う。課題探究は、任意の国の教育改革とその背景について調査し、自己の教員生活から得た問題意識あるいは日本社会が抱える教育課題と関連づけて考察し、その内容について発表するというものである。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（世界の学校類型と日本の教育の特徴）			
第2回：国際教育開発の教育学的アプローチ（EFA、MDGs、SDGs）			
第3回：国際教育開発の社会的アプローチ（近代化論と従属論、再生産論）			
第4回：国際教育開発の経済学的アプローチ（人的資本論、教育の経済効果）			
第5回：途上国の教育開発の課題（教育の量的・質的課題、教育の不平等）			
第6回：教育の意義を考えよう！（AALAの教育課題、ディスカッション中心）			
第7回：世界の教育改革の潮流（新自由主義教育改革、PISA型学力観、EdTech）			
第8回：アメリカの教育改革（チャータースクール、NCLB法など）			
第9回：オランダの教育改革（教育の自由、オルタナティブ教育など）			

第10回：韓国の教育改革（教育行政の公選制、革新学校改革など） 第11回：タイの教育改革（地方分権化、教員養成改革、ASEAN教育など） 第12回：多文化共生教育を考えよう！（フランスの移民教育、ディスカッション中心） 第13回：発表の準備 第14回：受講者による発表（前半） 第15回：受講者による発表（後半）、授業のまとめ
テキスト 特に指定しない。
参考書・参考資料等 二宮皓編著（2014）『新版 世界の学校』学事出版。 黒田一雄、横関祐見子編（2005）『国際教育開発論』有斐閣。 文部科学省『諸外国の教育動向（各年度版）』明石書店。 その他、授業内で適宜提示する。
学生に対する評価 1．期末レポートおよび最終発表（60％） 2．グループワークおよびディスカッションへの参加、授業内レポート・発表（40％）

授業科目名：教育実践 研究のためのデータ処 理論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：高橋 純一 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
教育実践研究を行うために必要となる知識・技法について、データ処理の観点から理解する。自分の研究に援用し学会発表や論文執筆などにも積極的にチャレンジする。学校現場においては、学内の調査・実践研究をリードして、研究計画の立案、展開、報告を行う力を身につける。到達目標は以下の通りである。 1. 調査・実験研究の観点から、教育実践研究における研究法と研究計画法を理解する。また、これまでの学校現場における調査研究について振り返り、その課題と解決策について考察し、提案する。 2. 心理統計の基礎を理解し、実際にデータ処理を行う。また、それを学校現場に援用する。 3. 学会のポスター発表を想定し、模擬的な調査について、研究計画、研究方法の検討、調査の実施、結果の分析と考察、ポスター発表の準備、ポスター発表の一通りの流れを理解する。学校現場においても積極的に発表を行う。			
学部新卒学生			
教育実践研究を行うために必要となる知識・技法について、データ処理の観点から理解する。自分の研究に援用し学会発表や論文執筆などにも積極的にチャレンジする。学校現場においては、学内の調査・実践研究について研究計画の立案、展開、報告を行う力を身につける。到達目標は以下の通りである。 1. 調査・実験研究の観点から、教育実践研究における研究法と研究計画法を理解できる。現職教員学生の振り返りから、学校現場における調査研究の実際について学び理解できる。 2. 心理統計の基礎を理解し、実際にデータ処理を行う。 3. 学会のポスター発表を想定し、模擬的な調査について、研究計画、研究方法の検討、調査の実施、結果の分析と考察、ポスター発表の準備、ポスター発表の一通りの流れを理解する。			
授業の概要			
教育実践研究を想定して、まずは研究法に関する基礎的事項（調査法と実験法、検証方法、妥当性と信頼性など）を理解する。また心理統計法の基礎として、代表値と散布度、有意性検定、平			

均値の比較と相関分析，多変量解析，ノンパラメトリック検定について，担当教員がこれまで研究してきた実際の調査データを使いながら理論とデータ処理方法について修得する。それらを踏まえて，小グループに分かれて，先行研究を参考にして研究計画の立案，方法，調査の実施と分析および考察を行う。最後に学会のポスター発表を想定して準備と発表を行う。

授業計画

I 研究法および研究計画法の理解

第1回：研究法の基礎

調査法や実験法の観点から教育実践研究を行う上で必須となる研究法の基礎について学ぶ。また，教育実践研究における実証研究の必要性，仮説検証研究と探索研究，因果関係と相関関係，データの妥当性と信頼性などについても理解する。

第2回：研究計画法

尺度の種類と水準，独立変数と従属変数，要因と水準，参加者内計画と参加者間計画など，研究計画の際に必要な基礎知識を学ぶ。論文を通して実際の事例から理解する。

第3回：サンプリング

調査・実験研究を行うときのサンプリングの問題について学ぶ。特に，再現性可能性，一般理論化に関する現状の問題について実際の事例から理解する。

II 心理統計法の基礎

第4回：心理統計の必要性，代表値と散布度

調査・実験研究を取りあげて，教育実践研究における心理統計の必要性について学ぶ。また代表値と散布度，散布図，記述統計など実際に研究を進める上で基礎的な内容を理解する。

第5回：有意性検定

心理統計における有意性検定の考え方について学ぶ。加えて，有意水準と検定力，タイプIエラーとタイプIIエラーについても理解する。

第6回：平均値の比較（ t 検定および分散分析）

平均値の比較のうち，特に t 検定と分散分析について，担当教員がこれまで研究してきた実際のデータを扱うことで学ぶ。また，データの因果関係について理解する。学校現場を想定した具体例として，ある指導法についての介入前後の変化，介入の有無についての群間比較などである。

第7回：相関分析

相関分析について担当教員がこれまで研究してきた実際のデータを扱うことで学ぶ。また，データの相関関係について理解する。学校現場を想定した具体例として，学級内におけるある項目の傾向と学級満足度との関連などである。

第8回：多変量解析（因子分析）

多変量解析のうち，特に因子分析について担当教員がこれまで研究してきた実際のデータを

扱うことで学ぶ。学校現場を想定した具体例として、質問紙を作成して因子抽出を行う場合などである。

第9回：ノンパラメトリック検定：名義尺度（カイ二乗検定），順序尺度（U検定：対応なし）

ノンパラメトリック検定のうち、特にカイ二乗検定とU検定について担当教員がこれまで研究してきた実際のデータを扱うことで学ぶ。学校現場を想定した具体例として、学級内においてある意見に対する賛成・反対の割合の比較（カイ二乗検定），ある学級と別の学級の成績の比較（U検定）などである。

III 調査研究と発表の実際

第10回：研究テーマと研究計画の検討

調査法を取りあげ、グループごとに研究内容と計画を検討する。先行研究から研究目的を論理的観点から明確にする。

第11回：研究方法の検討

研究テーマと研究計画について、それを実現するための尺度の選定を行う（尺度を新たに作るのではなく、先行研究から尺度を選択する）。さらに研究計画法にもとづいて独立変数と従属変数、要因と水準の設定を行う。その上で質問紙として仕上げる。

第12回：調査の実施

全てのグループの質問紙について、受講者どうして回答しあってデータを取得する。サンプル数、属性などの観点から必要に応じて時間外に受講者以外の参加者を対象とした調査も行う。データ入力を行い、次回までに分析の準備を完了する。

第13回：結果の分析と考察

平均値の比較をメインとして統計分析を行う。研究計画における独立変数と従属変数を再度振り返り統計分析を行う。その上で、得られた結果から考察をまとめる。

第14回：ポスター発表の準備

学会のポスター発表を想定して、発表用のポスターを作成する。研究目的、方法、結果と考察について、一通りの実証研究のスタイルで準備を行う。

第15回：ポスター発表の実際

グループごとに発表を行う。発表者と参観者に分かれて議論を行う。最後に、ポスター発表の内容の振り返り、発表の姿勢、今後の学会発表や論文執筆について総括を行う。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

石川美智子・松本みゆき(2018)「教育を科学する力、教師のための量的・質的研究方法」(学術研究出版)

小宮あすか・布井雅人(2018).「Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける」(講談社)

学生に対する評価

- 1．研究法の理解に関するレポート(50%)
- 2．ポスター発表の内容とプレゼン(30%)
- 3．議論の内容(20%)

授業科目名：インクルーシブ理念と障害理解教育論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：高橋 純一 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
幼稚園，小学校，中学校，高等学校における多様な子どもたちの存在を踏まえて，インクルーシブ教育に関する理念を理解し，個別的教育ニーズに応じた教育を実践する力を身につける。特にこれまでの教育実践から多様な子どもたちの存在とその指導・支援について振り返る。その上で，学校における障害理解教育を率先して展開する。到達目標は以下の通りである。 1. インクルーシブ理念をもとに，幼稚園，小学校，中学校，高等学校における校内支援体制の充実，個別的教育ニーズに応じた教育の必要性を理解した上で，これまでの教育実践における校内支援体制の課題と解決策について考察する。 2. 教師自身の障害理解および障害受容の重要性について理解した上で，これまでの教育実践を省察する。 3. 障害理解教育に関する模擬授業を行い，議論を深める。また，教育現場において率先して障害理解教育を展開する力を身につける。			
学部新卒学生			
幼稚園，小学校，中学校，高等学校における多様な子どもたちの存在を踏まえて，インクルーシブ教育に関する理念を理解し，個別的教育ニーズに応じた教育を実践する力を身につける。特にこれからの教育実践において多様な子どもたちの存在とその指導・支援について事例から理解する。その上で，学校における障害理解教育を率先して展開する。到達目標は以下の通りである。 1. インクルーシブ理念をもとに，幼稚園，小学校，中学校，高等学校における校内支援体制の充実，個別的教育ニーズに応じた教育の必要性を理解する。また，現職教員学生の経験をもとに教育現場における校内支援体制の実際について考察する。 2. 教師自身の障害理解および障害受容の重要性について，理論的観点および現職教員学生の省察も含めて理解する。 3. 障害理解教育に関する模擬授業を行い，議論を深める。			
授業の概要			
幼稚園，小学校，中学校，高等学校を想定して，まずはインクルーシブ教育の現状について学ぶ。インクルーシブ教育への歴史的変遷（分離教育，統合教育，インクルーシブ教育），校内			

支援体制（校内委員会，特別支援教育コーディネーター，特別支援学校のセンター的機能），適正就学について理解する。次に，障害児・者に対する差別の形成と変容（障害理解）に関して，障害モデルと障害概念を理解した上で障害者の権利に関する条約を踏まえて，最近の障害者政策について理解する。そのうえで，障害児・者に対する差別の解消の理論的考察，および実践場面での考察を行う。このとき，現職教員学生は自分の実践経験を省察し，学部新卒学生は実習での振り返りに加えて現職教員学生の実践からも学ぶ。これらを踏まえて，幼稚園，小学校，中学校，高等学校を想定した障害理解教育に関する模擬授業の準備（知的障害や発達障害および各障害種に対する障害理解教育の現状の理解，教材研究，指導案の作成など）と発表を行う。

I インクルーシブ教育を取り巻く現状と課題

第1回：インクルーシブ教育の成立背景と歴史的変遷

分離教育，統合教育，インクルーシブ教育への歴史的変遷について学ぶ。また，知的障害と発達障害の基礎についても理解する。

第2回：校内の支援体制

校内支援体制としての校内委員会，校内委員会における特別支援教育コーディネーターの役割，特別支援学校のセンター的機能など，インクルーシブ教育を取り巻く教育資源について学ぶ。

第3回：適正な就学先の決定

インクルーシブ教育システムに基づいた適正な就学相談の実施について学ぶ。

II 差別の形成と変容

第4回：障害観の形成と変容：法制度

障害者の権利に関する条約，障害者差別解消法など現状の障害者政策に関して基本的なことを学ぶ。また，障害モデル（医学モデル，社会モデル，統合モデル）や障害概念（ICF：WHO, 2001）についても理解する。

第5回：障害観の形成と変容：理論的考察

障害児・者に対する差別の形成とその変容（差別の解消）について理論的な観点から学ぶ。

第6回：障害観の形成と変容：実践場面での考察

障害児・者に対する差別の形成とその変容（差別の解消）について実践的な観点から学ぶ。現職教員院生はこれまでの実践から児童生徒への対応について振り返り，学部新卒学生は実習場面での児童生徒への対応について振り返る。さらに，現職教員院生の振り返りをもとに学部新卒学生とともに議論を深める。

III 障害理解教育に関する模擬授業の実施

第7回：障害理解教育の現状

これまでの障害児・者に対する差別の形成と変容に関する知識をもとに，幼稚園，小学校，

中学校，高等学校における障害理解教育の展開について学ぶ。特に，障害理解教育の教材開発や指導法に目を向けて事例を交えながら学ぶ。

第 8 回：障害理解教育の教材研究：知的障害

知的障害について，事例や文献から障害理解教育の事例を取りあげて教材研究を行う。

第 9 回：障害理解教育の教材研究：発達障害

発達障害について，事例や文献から障害理解教育の事例を取りあげて教材研究を行う。

第 10 回：障害理解教育の教材研究：その他の障害種

受講者が興味のあるその他の障害種について，事例や文献から障害理解教育の事例を取りあげて教材研究を行う。各受講者が取りあげた障害種とその事例については全員で共有する。

第 11 回：模擬授業の準備：テーマの決定

障害理解教育の模擬授業に関して，対象とする障害種，学校種および学年などを決める。受講者数に応じてグループあるいは個人での作業を想定している。

第 12 回：模擬授業の準備：教材研究

教材研究を行う。絵本，児童書，文学作品，あるいは受講者自身で教材を作成するなど，模擬授業の準備を行う。受講者数に応じてグループあるいは個人での作業を想定している。

第 14 回：模擬授業の準備：指導案の作成

指導案を作成する。受講者数に応じてグループあるいは個人での作業を想定している。

第 14 回：模擬授業の実施

受講者が教師役と児童生徒役に分かれ，それぞれが模擬授業を実施（教師役）あるいは受講（児童生徒役）する。受講者全員で模擬授業に対するディスカッションを行う。

第 15 回：模擬授業の振り返り

演習内容の全体について振り返り，受講者なりの課題とその解決策について考えをまとめる。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

水野智美（編著）(2016)「障害理解教育 子どもの発達段階に沿った指導計画と授業例」（図書文化）

富永光昭（編著）(2011)「新しい障がい理解教育の創造」（福村出版）

学生に対する評価

1．障害理解教育に関する模擬授業の指導案の作成と実際の取り組み（50％）

2．ディスカッションにおける模擬授業の分析の視点やその解釈状況（50％）

各評価において，インクルーシブ理念および教師自身の障害受容の重要性の理解度についてもあわせて考慮する。

授業科目名：教育実践 高度化プロジェクト研 究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：全教員 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 学部新卒学生 研究課題に基づいて教育実践を行い、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を身につける。 。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 1．「学校における実習」を通じて得た知見をもとに、研究課題を明確にし、実践研究をすることによって研究課題を再設定する。 2． ディスカッション活動を通じて省察することができる。 3．理論と実践の往還をしながら、教育実践を進める自覚を持つことができる。			
若手現職学生 これまで積み重ねてきた教職の経験を生かしながら、研究課題に基づいて教育実践を行い、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 1．「学校における実習」を通じて得た知見をもとに、研究課題を明確にし、自らの教育実践と比較しながら実践研究をすることによって研究課題を再設定する。 2． ディスカッション活動を通じて自らの教育実践を省察することができる。 3．理論と実践の往還をしながら、教育実践を進める自覚を高めることができる。			
授業の概要 本授業は、学部新卒学生および若手現職教員学生用であり、「実習における実践」と、共通科目及び選択科目に関する教育理論および学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。1 年前期に配置し、研究課題を明確にする。			
授業計画 1．「プロジェクト研究」全体のねらい 「プロジェクト研究」は、理論と実践の往還をしつつ、そのなかで養われた4つの資質・能力を駆使して、福島未来を創造する教育を計画・実行・分析・評価しうる総合的な能力を育成する領域であり、「理論と実践の高次における統合」を行う科目群である。			

この領域は、「プロジェクト研究 ～ （教育実践報告書を含む）」からなる。「プロジェクト研究 ～ 」では、学生が自らの課題あるいは学校課題に対応した研究課題を明確にし、その課題を解決するための理論や方法を学び、具体的な課題解決の方策を計画・実践し、その結果を分析・評価するという、いわゆるPDCAサイクルによって主体的に進め、その成果を「教育実践報告書」にまとめる。このPDCAサイクルを遂行するにあたっては、連携協力校における「学校における実習」を教育実践フィールドとして活用する。また、「プロジェクト研究 ～ 」で得た実践的知見を学校現場にフィードバックするため、ラウンド・テーブル(教育実践報告会)等での発表を義務づける。

「学校における実習」との関わりについては、学部新卒学生は、「長期インターンシップ ・ 」での教育実践や課題探究をふまえ、連携協力校の協力を得つつ、「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。若手現職教員学生は、連携協力校を教育実践フィールドとする「教育実践高度化実習」と関連させつつ、「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。

2．枠組みと時間配分

連携協力校でのプロジェクト活動（60 時間）

実習記録の作成（12.5 時間）

ディスカッション（7.5 時間）

3．指導体制と方法

指導体制

大学の指導チームの役割

指導は、「学校における実習」と同様に、教職大学院の専任教員全員が当たることを原則とする。研究者教員と実務家教員のペアで指導にあたり、ディスカッションを実施する。

連携協力校担当者の役割

連携協力校担当者は、連携協力校で選定し、プロジェクト研究が着実に遂行されるよう、受け入れのためのオリエンテーション、学生への助言、大学との協議を行う。

指導方法

事前指導

入学後、研究者教員と実務家教員は、各学生の課題意識や課題内容を確認した上で、プロジェクト研究の意図や方法、連携協力校の選択等について指導を行う。研究者教員、実務家教員は、学生と協議して、連携協力校を選定する。

連携協力校との打ち合わせ

担当教員は、連携協力校と協力して、研究課題を確認し、課題解決法の打ち合わせを行う。

プロジェクト研究期間中のディスカッション等

担当教員は、プロジェクト期間中、ディスカッションを行う。必要であれば、連携協力校を訪問し、連携協力校担当者とプロジェクト研究の進捗状況等について協議する。

記録、成果報告の作成
担当者は、学生にプロジェクト研究中に日々記録をとり省察し、実践報告書を作成することを促す。
テキスト
研究の進展に合わせて資料等を提示する
参考書・参考資料等
大谷尚(2019)「質的研究の考え方―研究方法論からSCATによる分析まで―」名古屋大学出版会 秋田喜代美・藤江康彦(編著)(2019)「これからの質的研究法 15の事例にみる学校教育実践研究」(東京図書)
学生に対する評価
評価は、ディスカッションによる、学生の成長過程を形成的に評価し、実践報告書とその検討会によって最終評価を行う。実践報告書には、「プロジェクト研究のテーマ」「プロジェクト研究の経過を示す記録」「半年間の活動展開」「テーマに基づく省察と今後の課題」を含むものとする。以上をもとに、担当教員が合否を決定する。

授業科目名：教育実践 高度化プロジェクト研 究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：全教員 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ			
学部新卒学生			
研究課題に基づいて教育実践を行い、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を身につける。 。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			
1．「学校における実習」を通じて得た知見とプロジェクト研究 で明確になった研究課題に基づき、連携協力校の実践を分析しながら、基本的な課題解決法を探究することができる。			
2． ディスカッション活動を通じて自らの教育実践を省察することができる。			
3．理論と実践の往還をしながら、教育実践を進める自覚を持つことができる。			
若手現職学生			
これまで積み重ねてきた教職の経験を生かしながら、研究課題に基づいて教育実践を行い、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			
1．「学校における実習」を通じて得た知見とプロジェクト研究 で明確になった研究課題に基づき、連携協力校の実践を分析しながら、自らのかつての教育実践と比較しながら課題解決法を探究することができる。			
2． ディスカッション活動を通じて自らの教育実践を省察することができる。			
3．理論と実践の往還をしながら、教育実践を進める自覚を高めることができる。			
授業の概要			
本授業は、学部新卒学生および若手現職教員学生用であり、実習における「実践」と、共通科目及び選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。 研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。1年後期に配置し、連携協力校での実践を分析しながら課題解決法を探究する。			
授業計画			
1．「プロジェクト研究」全体のねらい			
「プロジェクト研究」は、理論と実践の往還をしつつ、そのなかで養われた4つの資質・能			

力を駆使して、福島未来を創造する教育を計画・実行・分析・評価する総合的な能力を育成する領域であり、「理論と実践の高次における統合」を行う科目群である。

この領域は、「プロジェクト研究 ～ （教育実践報告書を含む）」からなる。「プロジェクト研究 ～ 」では、学生が自らの課題あるいは学校課題に対応した研究課題を明確にし、その課題を解決するための理論や方法を学び、具体的な課題解決の方策を計画・実践し、その結果を分析・評価するという、いわゆるPDCAサイクルによって主体的に進め、その成果を「教育実践報告書」にまとめる。このPDCAサイクルを遂行するにあたっては、連携協力校における「学校における実習」を教育実践フィールドとして活用する。また、「プロジェクト研究 ～ 」で得た実践的知見を学校現場にフィードバックするため、ラウンド・テーブル(教育実践報告会)等での発表を義務づける。

「学校における実習」との関わりについては、学部新卒学生は、「長期インターンシップ ・ 」での教育実践や課題探究をふまえ、連携協力校の協力を得つつ、「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。若手現職教員学生は、連携協力校を教育実践フィールドとする「教育実践高度化実習」と関連させつつ、「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。

2．枠組みと時間配分

連携協力校でのプロジェクト活動（60 時間）

実習記録の作成（12.5 時間）

ディスカッション（7.5 時間）

3．指導体制と方法

指導体制

大学の指導チームの役割

指導は、「学校における実習」と同様に、教職大学院の専任教員全員が当たることを原則とする。研究者教員と実務家教員のペアで指導にあたり、ディスカッションを実施する。

連携協力校担当者の役割

連携協力校担当者は、プロジェクト研究が着実に遂行されるよう、受け入れのためのオリエンテーション、学生への助言、大学との協議を行う。

指導方法

プロジェクト研究期間中のディスカッション等

担当教員は、プロジェクト期間中、ディスカッションを行う。必要であれば、連携協力校を訪問し、連携協力校担当者とプロジェクト研究の進捗状況等について協議する。

記録、成果報告の作成

担当者は、学生にプロジェクト研究中に日々記録をとり省察し、実践報告書を作成することを促す。

テキスト

研究の進展に合わせて資料等を提示する

参考書・参考資料等

大谷尚(2019)「質的研究の考え方―研究方法論からSCATによる分析まで―」名古屋大学出版会
秋田喜代美・藤江康彦(編著)(2019)「これからの質的研究法 15の事例にみる学校教育実践研究」(東京図書)

学生に対する評価

評価は、ディスカッションによる、学生の成長過程を形成的に評価し、実践報告書とその検討会によって最終評価を行う。実践報告書には、「プロジェクト研究のテーマ」「プロジェクト研究の経過を示す記録」「半年間の活動展開」「テーマに基づく省察と今後の課題」を含むものとする。以上をもとに、担当教員が合否を決定する。

授業科目名：教育実践 高度化プロジェクト研 究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：全教員 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ			
学部新卒学生			
研究課題に基づいて教育実践を行い、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			
1．研究課題と課題解決法に基づいて、授業等を計画し、教育実践を行い、基礎的な実践力授業力を身につけることができる。			
2．ディスカッション活動を通じて省察することができる。			
3．理論と実践の往還をしながら、教育実践を進める自覚を持つことができる。			
若手現職学生			
これまで積み重ねてきた教職の経験を生かしながら、研究課題に基づいて教育実践を行い、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			
1．研究課題と課題解決法に基づいて、授業等を計画し、教育実践を行い、実践力、授業力を高めることができる。			
2．ディスカッション活動を通じて省察することができる。			
3．理論と実践の往還をしながら、教育実践を進める自覚を高めることができる。			
授業の概要			
本授業は、学部新卒学生および若手現職教員学生用であり、実習における「実践」と、共通科目及び選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。2年前期に配置し、授業等を計画し、教育実践を行い、ディスカッション等を通して省察する。			
授業計画			
1．「プロジェクト研究」全体のねらい			
「プロジェクト研究」は、理論と実践の往還をしつつ、そのなかで養われた4つの資質・能			

力を駆使して、福島未来を創造する教育を計画・実行・分析・評価する総合的な能力を育成する領域であり、「理論と実践の高次における統合」を行う科目群である。

この領域は、「プロジェクト研究 ～ （教育実践報告書を含む）」からなる。「プロジェクト研究 ～ 」では、学生が自らの課題あるいは学校課題に対応した研究課題を明確にし、その課題を解決するための理論や方法を学び、具体的な課題解決の方策を計画・実践し、その結果を分析・評価するという、いわゆるPDCAサイクルによって主体的に進め、その成果を「教育実践報告書」にまとめる。このPDCAサイクルを遂行するにあたっては、連携協力校における「学校における実習」を教育実践フィールドとして活用する。また、「プロジェクト研究 ～ 」で得た実践的知見を学校現場にフィードバックするため、ラウンド・テーブル(教育実践報告会)等での発表を義務づける。

「学校における実習」との関わりについては、学部新卒学生は、「長期インターンシップ ・ 」での教育実践や課題探究をふまえ、連携協力校の協力を得つつ、「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。若手現職教員学生は、連携協力校を教育実践フィールドとする「教育実践高度化実習」と関連させつつ、「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。

2．枠組みと時間配分

連携協力校でのプロジェクト活動（60 時間）

実習記録の作成（12.5 時間）

ディスカッション（7.5 時間）

3．指導体制と方法

指導体制

大学の指導チームの役割

指導は、「学校における実習」と同様に、教職大学院の専任教員全員が当たることを原則とする。研究者教員と実務家教員のペアで指導にあたり、ディスカッションを実施する。

連携協力校担当者の役割

連携協力校担当者は、プロジェクト研究が着実に遂行されるよう、受け入れのためのオリエンテーション、学生への助言、大学との協議を行う。

指導方法

プロジェクト研究期間中のディスカッション等

担当教員は、プロジェクト期間中、ディスカッションを行う。必要であれば、連携協力校を訪問し、連携協力校担当者とプロジェクト研究の進捗状況等について協議する。

記録、成果報告の作成

担当者は、学生にプロジェクト研究中に日々記録をとり省察し、実践報告書を作成することを促す。

テキスト

研究の進展に合わせて資料等を提示する

参考書・参考資料等

大谷尚(2019)「質的研究の考え方―研究方法論からSCATによる分析まで―」名古屋大学出版会
秋田喜代美・藤江康彦(編著)(2019)「これからの質的研究法 15の事例にみる学校教育実践研究」(東京図書)

学生に対する評価

評価は、ディスカッションによる、学生の成長過程を形成的に評価し、実践報告書とその検討会によって最終評価を行う。実践報告書には、「プロジェクト研究のテーマ」「プロジェクト研究の経過を示す記録」「半年間の活動展開」「テーマに基づく省察と今後の課題」を含むものとする。以上をもとに、担当教員が合否を決定する。

授業科目名：教育実践 高度化プロジェクト研 究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：全教員 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ			
学部新卒学生			
研究課題に基づいて教育実践を行い、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を身につける。 。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			
1．プロジェクト研究の集大成として、実践の結果の分析・評価を行うと共に、課題検証の実践を行うことを通じて、探究力、実践力、授業力を身につけることができる。			
2．ディスカッション活動を通じて省察することができる。			
3．理論と実践の往還をしながら、教育実践を進める自覚を持つことができる。			
若手現職学生			
これまで積み重ねてきた教職の経験を生かしながら、研究課題に基づいて教育実践を行い、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			
1．プロジェクト研究の集大成として、実践の結果の分析・評価を行うと共に、課題検証の実践を行うことを通じて、探究力、実践力、授業力を高めることができる。			
2．ディスカッション活動を通じて省察することができる。			
3．理論と実践の往還をしながら、教育実践を進める自覚を深めることができる。			
授業の概要			
実習における「実践」と、共通科目及び選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。学生自身の研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。2年後期に配置し、実践結果の分析・評価を行うと共に、課題検証の実践を行う。			
授業計画			
1．「プロジェクト研究」全体のねらい			
「プロジェクト研究」は、理論と実践の往還をしつつ、そのなかで養われた4つの資質・能力を駆使して、福島未来を創造する教育を計画・実行・分析・評価しうる総合的な能力を育成する領域であり、「理論と実践の高次における統合」を行う科目群である。			

この領域は、「プロジェクト研究 ～ （教育実践報告書を含む）」からなる。「プロジェクト研究 ～ 」では、学生が自らの課題あるいは学校課題に対応した研究課題を明確にし、その課題を解決するための理論や方法を学び、具体的な課題解決の方策を計画・実践し、その結果を分析・評価するという、いわゆるPDCAサイクルによって主体的に進め、その成果を「教育実践報告書」にまとめる。このPDCAサイクルを遂行するにあたっては、連携協力校における「学校における実習」を教育実践フィールドとして活用する。また、「プロジェクト研究 ～ 」で得た実践的知見を学校現場にフィードバックするため、ラウンド・テーブル(教育実践報告会)等での発表を義務づける。

「学校における実習」との関わりについては、学部新卒学生は、「長期インターンシップ ・ 」での教育実践や課題探究をふまえ、連携協力校の協力を得つつ、「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。若手現職教員学生は、連携協力校を教育実践フィールドとする「教育実践高度化実習」と関連させつつ、「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。

2．枠組みと時間配分

連携協力校でのプロジェクト活動（60 時間）

実践記録の作成（12.5 時間）

ディスカッション（7.5 時間）

3．指導体制と方法

指導体制

大学の指導チームの役割

指導は、「学校における実習」と同様に、教職大学院の専任教員全員が当たることを原則とする。各学生に、研究者教員と実務家教員のペアで実践指導チームを作り、週間、合同ディスカッションを実践する。

連携協力校担当者の役割

連携協力校担当者は、プロジェクト研究が着実に遂行されるよう、受け入れのためのオリエンテーション、学生への助言、大学との協議を行う。

指導方法

プロジェクト研究期間中のディスカッション等

担当教員は、プロジェクト期間中、ディスカッションを行う。必要であれば、連携協力校を訪問し、連携協力校担当者とプロジェクト研究の進捗状況等について協議する。

記録、成果報告の作成

担当者は、学生にプロジェクト研究中に日々記録をとり省察し、実践報告書を作成することを促す。

テキスト

研究の進展に合わせて資料等を提示する

参考書・参考資料等

大谷尚(2019)「質的研究の考え方―研究方法論からSCATによる分析まで―」名古屋大学出版会
秋田喜代美・藤江康彦(編著)(2019)「これからの質的研究法 15の事例にみる学校教育実践研究」(東京図書)

学生に対する評価

評価は、ディスカッションによる、学生の成長過程を形成的に評価し、実践報告書とその検討会によって最終評価を行う。実践報告書には、「プロジェクト研究のテーマ」「プロジェクト研究の経過を示す記録」「半年間の活動展開」「テーマに基づく省察と今後の課題」を含むものとする。以上をもとに、担当教員が可否を決定する。

授業科目名：学校課題 対応プロジェクト研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：全教員 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 現職教員学生 これまで積み重ねてきた教職の経験を生かしながら、教育現場が直面する学校課題を発見し解決できるよう、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 1．「学校における実習」を通じて得た知見をもとに、学校課題に対応した研究課題を明確にし実践研究をすることによって研究課題を再設定する。 2． ディスカッション活動を通じて省察することができる。 3．理論と実践の往還をしながら、教育実践を進める自覚を持つことができる。			
授業の概要 本授業は、ミドル・リーダー用であり、実習における「実践」と、共通科目及び選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。学校課題に対応した研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。1年前期に配置し、学校課題に対応した研究課題を明確にする。			
授業計画 1．「プロジェクト研究」全体のねらい 「プロジェクト研究」は、理論と実践の往還をしつつ、そのなかで養われた4つの資質・能力を駆使して、福島の未来を創造する教育を計画・実行・分析・評価しうる総合的な能力を育成する領域であり、「理論と実践の高次における統合」を行う科目群である。 この領域は、「プロジェクト研究 ～ （教育実践報告書を含む）」からなる。「プロジェクト研究 ～ 」では、学生が自らの課題あるいは学校課題に対応した研究課題を明確にし、その課題を解決するための理論や方法を学び、具体的な課題解決の方策を計画・実践し、その結果を分析・評価するという、いわゆるPDCAサイクルによって主体的に進め、その成果を「教育実践報告書」にまとめる。このPDCAサイクルを遂行するにあたっては、連携協力校における「学校における実習」を教育実践フィールドとして活用する。また、「プロジェクト研究 ～ 」で得た実践的知見を学校現場にフィードバックするため、ラウンド・テーブル(教育実践報告会)等での発表を義務づける。			

「学校における実習」との関わりについては、ミドル・リーダーは、連携協力校を教育実践フィールドとする「学校課題対応実習」と関連させつつ、「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。

2. 枠組みと時間配分

連携協力校でのプロジェクト活動（60 時間）

実習記録の作成（12.5 時間）

ディスカッション（7.5 時間）

3. 指導体制と方法

指導体制

大学の指導チームの役割

指導は、「学校における実習」と同様に、教職大学院の専任教員全員が当たることを原則とする。研究者教員と実務家教員のペアで指導にあたり、ディスカッションを実施する。

連携協力校担当者の役割

連携協力校担当者は、プロジェクト研究が着実に遂行されるよう、受け入れのためのオリエンテーション、学生への助言、大学と協議を行う。

指導方法

事前指導

入学後、研究者教員と実務家教員は、学校課題に対応した研究課題を確認した上で、プロジェクト研究の意図や方法、連携協力校の選択等について指導を行う。研究者教員、実務家教員は、学生と協議して、連携協力校を選定する。

連携協力校との打ち合わせ

担当教員は、連携協力校と協力して、学校課題に対応した研究課題を確認し、課題解決法の打ち合わせを行う。

プロジェクト研究期間中のディスカッション等

担当教員は、プロジェクト期間中、ディスカッションを行う。必要であれば、連携協力校を訪問し、連携協力校担当者とプロジェクト研究の進捗状況等について協議する。

記録、成果報告の作成

担当者は、学生にプロジェクト研究中に日々記録をとり省察し、実施報告書を作成することを促す。

テキスト

研究の進展に合わせて資料等を提示する

参考書・参考資料等

大谷尚(2019)「質的研究の考え方—研究方法論からSCATによる分析まで—」名古屋大学出版会
秋田喜代美・藤江康彦（編著）(2019)「これからの質的研究法 15の事例にみる学校教育実践

研究」（東京図書）

学生に対する評価

評価は、ディスカッションによる、学生の成長過程を形成的に評価し、実施報告書とその検討会によって最終評価を行う。実施報告書には、「プロジェクト研究のテーマ」「プロジェクト研究の経過を示す記録」「半年間の活動展開」「テーマに基づく省察と今後の課題」を含むものとする。以上をもとに、担当教員が合否を決定する。

授業科目名：学校課題 対応プロジェクト研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：全教員 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 現職教員学生 これまで積み重ねてきた教職の経験を生かしながら、教育現場が直面する学校課題を発見し解決できるよう、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 1．「学校における実習」を通じて得た知見とプロジェクト研究 で明確になった研究課題に基づき、連携協力校の実践を分析しながら、課題解決法を探究することができる。 2． ディスカッション活動を通じて自らの教育実践を省察することができる。 3．理論と実践の往還をしながら、教育実践を進める自覚を深めることができる。			
授業の概要 本授業は、ミドル・リーダー用であり、実習における「実践」と、共通科目及び選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。学校課題に対応した研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。1年後期に配置し、連携協力校での実践を分析しながら課題解決法を探究する。			
授業計画 1．「プロジェクト研究」全体のねらい 「プロジェクト研究」は、理論と実践の往還をしつつ、そのなかで養われた4つの資質・能力を駆使して、福島未来を創造する教育を計画・実行・分析・評価しうる総合的な能力を育成する領域であり、「理論と実践の高次における統合」を行う科目群である。 この領域は、「プロジェクト研究 ～ （教育実践報告書を含む）」からなる。「プロジェクト研究 ～ 」では、学生が自らの課題や学校課題に対応した研究課題を明確にし、その課題を解決するための理論や方法を学び、具体的な課題解決の方策を計画・実践し、その結果を分析・評価するという、いわゆるPDCAサイクルによって主体的に進め、その成果を「教育実践報告書」にまとめる。このPDCAサイクルを遂行するにあたっては、連携協力校における「学校における実習」を教育実践フィールドとして活用する。また、「プロジェクト研究 ～ 」で得た実践的知見を学校現場にフィードバックするため、ラウンド・テーブル(教育実践報告会)等での発表を義務づける。			

「学校における実習」との関わりについては、ミドル・リーダーは、連携協力校を教育実践フィールドとする「学校課題対応実習」と関連させつつ、「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。

2. 枠組みと時間配分

連携協力校でのプロジェクト活動（60 時間）

実習記録の作成（12.5 時間）

ディスカッション（7.5 時間）

3. 指導体制と方法

指導体制

大学の指導チームの役割

指導は、「学校における実習」と同様に、教職大学院の専任教員全員が当たることを原則とする。研究者教員と実務家教員のペアで指導にあたり、ディスカッションを実施する。

連携協力校担当者の役割

連携協力校担当者は、プロジェクト研究が着実に遂行されるよう、受け入れのためのオリエンテーション、学生への助言、大学との協議を行う。

指導方法

プロジェクト研究期間中のディスカッション等

担当教員は、プロジェクト期間中、ディスカッションを行う。必要であれば、連携協力校を訪問し、連携協力校担当者とプロジェクト研究の進捗状況等について協議する。

記録、成果報告の作成

担当者は、学生にプロジェクト研究中に日々記録をとり省察し、実践報告書を作成することを促す。

テキスト

研究の進展に合わせて資料等を提示する

参考書・参考資料等

大谷尚(2019)「質的研究の考え方—研究方法論からSCATによる分析まで—」名古屋大学出版会
秋田喜代美・藤江康彦（編著）(2019)「これからの質的研究法 15の事例にみる学校教育実践研究」（東京図書）

学生に対する評価

評価は、ディスカッションによる、学生の成長過程を形成的に評価し、実践報告書とその検討会によって最終評価を行う。実践報告書には、「プロジェクト研究のテーマ」「プロジェクト研究の経過を示す記録」「半年間の活動展開」「テーマに基づく省察と今後の課題」を含むものとする。以上をもとに、担当教員が合否を決定する。

授業科目名：学校課題 対応プロジェクト研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：全教員 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 現職教員学生 これまで積み重ねてきた教職の経験を生かしながら、教育現場が直面する学校課題を発見し解決できるよう、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 1. 研究課題と課題解決法に基づいて、授業等を計画し、教育実践を行い、実践力、授業力を高めることができる。 2. ディスカッション活動を通じて省察することができる。 3. 理論と実践の往還をしながら、教育実践を進める自覚を持つことができる。			
授業の概要 本授業は、ミドル・リーダー用であり、実習における「実践」と、共通科目及び選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。学校課題に対応した研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。2年前期に配置し、授業等を計画し、教育実践を行い、ディスカッション等を通して省察する。			
授業計画 1. 「プロジェクト研究」全体のねらい 「プロジェクト研究」は、理論と実践の往還をしつつ、そのなかで養われた4つの資質・能力を駆使して、福島未来を創造する教育を計画・実行・分析・評価しうる総合的な能力を育成する領域であり、「理論と実践の高次における統合」を行う科目群である。 この領域は、「プロジェクト研究 ～ （教育実践報告書を含む）」からなる。「プロジェクト研究 ～ 」では、学生が自らの課題あるいは学校課題に対応した研究課題を明確にし、その課題を解決するための理論や方法を学び、具体的な課題解決の方策を計画・実践し、その結果を分析・評価するという、いわゆるPDCAサイクルによって主体的に進め、その成果を「教育実践報告書」にまとめる。このPDCAサイクルを遂行するにあたっては、連携協力校における「学校における実習」を教育実践フィールドとして活用する。また、「プロジェクト研究 ～ 」で得た実践的知見を学校現場にフィードバックするため、ラウンド・テーブル(教育実践報告会)等での発表を義務づける。			

「学校における実習」との関わりについては、ミドル・リーダーは、連携協力校を教育実践フィールドとする「学校課題対応実習」と関連させつつ、「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。

2. 枠組みと時間配分

連携協力校でのプロジェクト活動（60 時間）

実習記録の作成（12.5 時間）

ディスカッション（7.5 時間）

3. 指導体制と方法

指導体制

大学の指導チームの役割

指導は、「学校における実習」と同様に、教職大学院の専任教員全員が当たることを原則とする。研究者教員と実務家教員のペアで指導にあたり、ディスカッションを実施する。

連携協力校担当者の役割

連携協力校担当者は、連携協力校で選定し、プロジェクト研究が着実に遂行されるよう、受け入れのためのオリエンテーション、学生への助言、大学との協議を行う。

指導方法

プロジェクト研究期間中のディスカッション等

担当教員は、プロジェクト期間中、ディスカッションを行う。必要であれば、連携協力校を訪問し、連携協力校担当者とプロジェクト研究の進捗状況等について協議する。

記録、成果報告の作成

担当者は、学生にプロジェクト研究中に日々記録をとり省察し、実践報告書を作成することを促す。

テキスト

研究の進展に合わせて資料等を提示する

参考書・参考資料等

大谷尚(2019)「質的研究の考え方—研究方法論からSCATによる分析まで—」名古屋大学出版会
秋田喜代美・藤江康彦（編著）(2019)「これからの質的研究法 15の事例にみる学校教育実践研究」（東京図書）

学生に対する評価

評価は、ディスカッションによる、学生の成長過程を形成的に評価し、実践報告書とその検討会によって最終評価を行う。実践報告書には、「プロジェクト研究のテーマ」「プロジェクト研究の経過を示す記録」「半年間の活動展開」「テーマに基づく省察と今後の課題」を含むものとする。以上をもとに、担当教員が合否を決定する。

授業科目名：学校課題 対応プロジェクト研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：全教員 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 現職教員学生 これまで積み重ねてきた教職の経験を生かしながら、教育現場が直面する学校課題を発見し解決できるよう、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 1. プロジェクト研究の集大成として、実践の結果の分析・評価を行うと共に、課題検証の実践を行うことを通じて、探究力を深めるとともに、実践力、授業力を高めることができる。 2. カンファレンス活動を通じて省察することができる。 3. 理論と実践の往還をしながら、教育実践を進める自覚を高めることができる。			
授業の概要 本授業は、ミドル・リーダー用であり、実習における「実践」と、共通科目及び選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。学校課題に対応した研究課題に基づいて教育実践を行い、カンファレンスを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。2年後期に配置し、実践結果の分析・評価を行うと共に、課題検証の実践を行う。			
授業計画 1. ねらい 「プロジェクト研究」は、理論と実践の往還をしつつ、そのなかで養われた4つの資質・能力を駆使して、福島の未来を創造する教育を計画・実行・分析・評価しうる総合的な能力を育成する領域であり、「理論と実践の高次における統合」を行う科目群である。 この領域の基本構造は、「プロジェクト研究 ～ 」及び「教育実践報告書」からなる。「プロジェクト研究 ～ 」では、学生が自らの課題あるいは学校課題に対応した研究課題を明確にし、その課題を解決するための理論や方法を学び、具体的な課題解決の方策を計画・実践し、その結果を分析・評価するという、いわゆるPDCAサイクルによって主体的に進め、その成果を「教育実践報告書」にまとめる。このPDCAサイクルを遂行するにあたっては、連携協力校における「学校における実習」を教育実践フィールドとして活用する。また、「プロジェクト研究 ～ 」で得た実践的知見を学校現場にフィードバックするため、ラウンド・テーブル(教育実践報告会)等での発表を義務づける。			

「学校における実習」との関わりについては、ミドル・リーダーは、連携協力校を教育実践フィールドとする「学校課題対応実習」と関連させつつ、「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。

2. 枠組みと時間配分

連携協力校でのプロジェクト活動（60 時間）

実習記録の作成（12.5 時間）

カンファレンス（7.5 時間）

3. 指導体制と方法

指導体制

大学の指導チームの役割

指導は、「学校における実習」と同様に、教職大学院の専任教員全員が当たることを原則とする。研究者教員と実務家教員のペアで指導にあたり、カンファレンスを実施する。

連携協力校担当者の役割

連携協力校担当者は、プロジェクト研究が着実に遂行されるよう、受け入れのためのオリエンテーション、学生への助言、大学との協議を行う。

指導方法

プロジェクト研究期間中のカンファレンス等

担当教員は、プロジェクト期間中、カンファレンスを行う。必要であれば、連携協力校を訪問し、連携協力校担当者とプロジェクト研究の進捗状況等について協議する。

記録、成果報告の作成

担当者は、学生にプロジェクト研究中に日々記録をとり省察し、実践報告書を作成することを促す。

テキスト

研究の進展に合わせて資料等を提示する

参考書・参考資料等

大谷尚(2019)「質的研究の考え方—研究方法論からSCATによる分析まで—」名古屋大学出版会
秋田喜代美・藤江康彦（編著）(2019)「これからの質的研究法 15の事例にみる学校教育実践研究」（東京図書）

学生に対する評価

評価は、カンファレンスによる、学生の成長過程を形成的に評価し、実践報告書とその検討会によって最終評価を行う。実践報告書には、「プロジェクト研究のテーマ」「プロジェクト研究の経過を示す記録」「半年間の活動展開」「テーマに基づく省察と今後の課題」を含むものとする。以上をもとに、担当教員が合否を決定する。

授業科目名：学校カウンセリングの事例研究	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2 単位	担当教員名：柳沼 哲 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
学校教育においては、カウンセリング心理学に基づくアプローチで接することで、幼児児童生徒の人格形成や様々な問題解決に有効であるとされている。充実したスクールカウンセリング活動ができる教員の育成を目指す。			
現職教員学生			
1．学校カウンセリングの基本的な考え方を理解し、自らの実践と関わらせながら実践的な対応の方法について考えを深めることができる。			
2．学校カウンセリングの手法を自らの実践も比較して理解を深めることができる。			
3．事例検討をとおして問題の背景を探り、具体的な解決方法について考えることができる。			
学部新卒学生			
1．学校カウンセリングの基本、考え方を理解し、基礎的な実践力を高めることができる。			
2．学校カウンセリングの手法の基本を理解できる。			
3．事例検討をとおして問題の背景を探り、具体的な解決方法について考えることができる。			
(インシデント・プロセス法による事例検討を体験する。)			
授業の概要			
学校場面で必要とされるカウンセリングの知識・技術を習得する。事例を通じて、学校、家庭、地域や関係諸機関との連携についても検討する。カウンセリングは、人間の心理や発達の理論に基づく対人援助活動であり、個人の成長を促進し対人関係の改善や社会的適応性を向上させる。学校現場におけるカウンセリングマインドを身につけ、教員としての実践力を身につける。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：学校カウンセリングとは			
第3回：学校における諸課題を考える（1）			

～事例の収集と整理～ 第4回：学校における諸課題を考える（2） ～事例の発表とディスカッション～ 第5回：カウンセリングの方法論 第6回：カウンセリングの基礎と応用（1） 「傾聴について」 第7回：カウンセリングの基礎と応用（2） 「応答の技法について」 第8回：事例検討とインシデント・プロセス法について（1） 「インシデント・プロセス法とは」 第9回：事例検討とインシデント・プロセス法について（2） 「インシデント・プロセス法による事例検討会の進め方」 第10回：事例検討（1） ～小学校の事例（不登校、いじめ）～ 第11回：事例検討（2） ～中学校の事例（不登校、いじめ、引きこもり）～ 第12回：事例検討（3） ～高等学校、特別支援学校の事例（家族支援、関係機関との連携）～ 第13回：教職員相互の連携と学校カウンセリングについて 第14回：資料検討とディスカッション 第15回：全体についての討論会、まとめ
テキスト なし
参考書・参考資料等 宮川充司 他(2018)「スクールカウンセリングと発達支援[改訂版]」（ナカニシヤ出版） 小山望 他(2008)「人間関係がよくわかる心理学」（福村出版） その他、授業中に適宜参考資料を配布する。
学生に対する評価 1．各回の授業におけるディスカッション及び発表の行動評価（30％） 2．事例検討で扱った事例についての報告レポート（50％） 3．学校カウンセリングの基礎的な知識・技能（20％）

授業科目名：授業デザイン の理論と実際	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：坂本篤史・宗形 潤子
			担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
学校における授業実践を振り返りながら、これからの授業デザインに関する基礎的な考え方を修得できるよう、授業を省察する視点を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			
1．先行事例の検討や自らの実践の省察などにより、授業デザインとそれを支える教師の専門性について、理解を深めることができる。			
2．他者との協働的な省察を通して子どもの学びを省察する視点を形成し、自己の授業観や教師観の再構築を行う。			
3．授業における探究的な学びを創造するための基礎的な考え方について、自らの実践を省察したり、自ら体験したりすることで身につけることができる。			
学部新卒学生			
これからの授業デザインに関する基礎的な考え方を修得に向けて、授業を省察する視点の基礎を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			
1．先行事例の検討により、基礎的な授業デザインとそれを支える教師の専門性について、理解を深めることができる。			
2．他者との協働的な省察を通して子どもの学びを省察する視点を形成し、基本的な授業観や教師観の構築を行う。			
3．授業における探究的な学びを創造するための基礎的な考え方について、自ら体験することで身につけることができる。			
授業の概要			
授業デザインとそれを支える教師の専門性に関しての先行事例の検討や文献購読等により理解を深める。他者との協働的な省察を通して子どもの学びを省察する視点を形成し、授業観や教師観の再構築を行う。また、Society5.0時代に向けた探究的な学びを創造するための基礎的な考え方を身につける。			
授業計画			
第1回～15回について担当教員（坂本・宗形）が共同で実施する。			
第1回：ガイダンス（授業デザインと教師の専門性について学ぶことの意味を概観する）			

第2回：授業の省察と実際（授業の映像から協働的に省察する）
第3回：授業の省察と実際（授業の文字記録も加えて協働的に省察する）
第4回：授業の省察の意義（第2・3回を振り返り、授業を省察する意義について振り返る）
第5回：省察の基礎理論と記録の取り方（子どもの学びに着目して授業を省察することについての基礎的な理論と記録の取り方を学ぶ）
第6回：実習記録の検討（各自の実習記録を持ち寄り、記録の取り方や授業を見る視点を検討する）
第7回：授業省察のグループ別活動準備（各自の関心に基づき3つのグループに分かれ、グループで省察する準備を行う）
第8回：省察する授業の選定と授業記録の作成（グループごとに省察する授業の映像を選び、文字起こしを行う。）
第9回：授業記録に基づく省察（映像と文字起こしに基づき、グループで協働的に省察する）
第10回：授業記録に基づく省察（グループでの協働的な省察をまとめる）
第11回：授業記録に基づく省察（次回以降に向けてグループで省察した授業を、全体で省察するための計画や準備を行う）
第12回：省察に基づく協議（国語や算数・数学の中の授業を省察したグループが主導し、全体で省察する）
第13回：省察に基づく協議（理科、社会、音楽、美術、体育の中の授業を省察したグループが主導し、全体で省察する）
第14回：省察に基づく協議（特別活動、生活、総合、外国語科・外国語活動の中の授業を省察したグループが主導し、全体で省察する）
第15回：まとめ（各グループが主導して行った全体での省察について振り返りをまとめる）
テキスト
なし
参考書・参考資料等
澤井陽介（2017）「授業の見方 - 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善」東洋館出版社
鹿毛雅治・藤本和久（編著）（2017）「「授業研究」を創る - 教師が学びあう学校を実現するために」教育出版
その他各授業時のテーマに応じて、その都度提示する。
学生に対する評価
子どもの学びに着目した授業の省察をすることで、授業デザインを支える教師の専門性について理解することができているか、以下の事項をもとに、担当教員の合議で評価する。
1. 講座終了後に提出する最終レポートの内容（30%）
2. 授業における協議への貢献（25%）
3. 省察等の課題の内容および表現（25%）
4. 基本的な理解に関する講義後ミニレポート（20%）

授業科目名：教材開発と教育方法の実践と課題	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2 単位	担当教員名：坂本篤史・鳴川哲也 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 現職教員学生 学校での授業実践を生かしながら、教材を開発して授業をデザイン・実践・省察する経験を通し、これからの授業デザインに向けた教材開発の視点を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 1. 学びを質的に向上させるため、様々な教科や教科外活動、または横断的領域において、自らの授業実践を振り返りつつ、教材と授業デザインの有機的な関連を理解できる。 2. ICT活用も視野に入れた教材開発について、実際に自分の授業での活用をイメージしつつ行うことができる。 3. 探究的な学びを創造する際の教材と教育方法の関連について、自らの授業実践と結びつけながら、基礎的な考え方を身につける。 学部新卒学生 教材を開発して授業をデザイン・実践・省察する経験を通し、これからの授業デザインに向けた教材開発の基礎的な視点を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 1. 学びを質的に向上させるために、様々な教科や教科外活動、または横断的領域における、教材と授業デザインの基礎的な関連を理解できる。 2. ICT活用も視野に入れた教材開発について、授業での活用に関する基礎的なイメージを形成する。 3. 探究的な学びを創造する際の教材と教育方法の関連について、基礎的な考え方を身につける。			
授業の概要 教材開発と授業デザイン、それらを支える教師の専門性に関しての先行事例の検討や文献購読等により理解を深める。実習と関連づけて他者との協働的な実践や省察を通して子どもの学びを省察する視点を形成し、授業観や教師観、教材観の再構築を行う。また、Society5.0時代に向けた探究的な学びを創造するための基礎的な考え方を身につける。			
授業計画 第1回～15回まで2人の担当者が共同で実施する。			

- 第1回：ガイダンス（講義の進め方や、内容について概観する）
- 第2回：子どもの学びを促す教材開発の体験的理解
- 第3回：教材開発の視点（知識構成型ジグソー法を例に教材開発の視点を学ぶ）
- 第4回：教材開発と授業方法をつなげる（知識構成型ジグソー法の授業づくりを実際に行ってみる）
- 第5回：教材開発の試行と協議1（グループごとに過去またはこれから行う授業に関し、教材開発を協働で行う）
- 第6回：教材開発の試行と協議2（グループごとに過去またはこれから行う授業に関し、教材開発と授業づくりを協働で行う）
- 第7回：教材開発と授業実践1（グループごとに協働で創り上げた授業について模擬授業を行い、その後、検討会を行う。）
- 第8回：教材開発と授業実践2（検討会を経て、教材と授業の創り直しを行う。）
- 第9回：教材開発に基づく授業の構想（グループごとに学校での授業実践とデータ収集の計画を立てる。）
- 第10回：教材開発と教育方法の実践と省察1（実際の学校で実践した授業の記録から教材開発と授業づくりの改善点を抽出する。）
- 第11回：教材開発と教育方法の実践と省察2（実際の学校で実践した授業の記録から教材開発と授業づくりの原則を見出す。）
- 第12回：教材開発と教育方法の実践と省察3（各グループで見出した原則についてグループ間で交流する。）
- 第13回：教材の評価方法の検討（開発した教材や授業の評価方法を振り返って検討する。）
- 第14回：振り返り：成果と課題（第13回までの教材開発と授業づくりを振り返り、成果と課題を抽出する。）
- 第15回：成果と課題に基づく改善（第14回での成果と課題を踏まえ、開発し改善した教材を用いた授業を具体的に構想する）

テキスト

なし

参考書・参考資料等

三宅なほみ・東京大学COREF・河合塾（2016）「協調学習とは：対話を通して理解を深めるアクティブラーニング型授業」北大路書房

渡辺貴裕（2019）「授業づくりの考え方 - 小学校の模擬授業とリフレクションで学ぶ」くろしお出版
その他各授業時のテーマに応じて、その都度提示する。

学生に対する評価

成績は、教材と授業デザインの有機的な関連を理解した上で、実践での活用が見通せているかという点を中心に、次の事項をもとに担当教員の合議で評価する。

1. 授業終了後に提出する最終レポート (4 0 %)
2. 毎回のディスカッションの行動評価 (3 0 %)
3. 期間中の提出課題の内容と表現 (3 0 %)

授業科目名：ICTを活用した授業デザインと実際	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：平中 宏典 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目等		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
1. 自らのこれまでの取り組みを踏まえ，ICTを効果的に活用した学習指導や学校の多様な業務に関わるICT活用を理論的背景に基づき表現できる。			
2. 児童・生徒に情報活用能力や情報モラルを育成するための指導法を，理論を踏まえた具体的実践例の中で示すことができる			
3. 学校におけるICT活用をチームで推進する際に，必要とされる基本的な知識・技能を修得している。			
学部新卒学生			
1. 先進校における取組例などを基に，ICTを効果的に活用した学習指導や学校の多様な業務に関わるICT活用を理論的背景に基づき表現できる。			
2. 児童・生徒に情報活用能力や情報モラルを育成するための指導法を，理論を踏まえて具体的実践例の中で示すことができる			
3. 学校におけるICT活用をチームで推進する際に，必要とされる基本的な知識・技能を修得している。			
授業の概要			
これからの教室におけるICT環境を理解しそれを効果的に活用することで，情報活用能力や情報モラルを育成するとともに，各教科等の特性をより活かすことができる授業デザイン力を身につけることを目指す。また，多様な人材と協働して多様な学習者を支えるための環境・体制の整備，ICT活用の基本的技能や情報モラルの指導法，スタディ・ログの活用についても検討を進め，ICTを効果的に活用した学習指導や学校における様々な場面でのICT活用の推進に関して理解を深める。			
授業では，解決すべき課題を現場での実際の中から見だし解決を目指すPBLの手法を用い，各教科等の特性や理論的背景を踏まえた実践的な手法の開発やデジタル成果物の制作を行う。加えて，受講者同士の協議，プレゼンテーション，オンラインでの協同制作など，これからのICT活用に必要となる知識・技能の修得機会も積極的に取り入れる。			
授業計画			
第1回：ICTを活用した教育実践に関する自己課題の明確化			

第2回：これからの教室と背景にある社会変化及び情報通信技術の発達
 第3回：先進校の事例から検討する情報活用能力の育成
 第4回：情報活用能力の育成を支える授業デザインのあり方
 第5回：情報活用能力の育成を目指す教科横断型の学び
 第6回：各教科等の特性を活かしICTを効果的に活用した単元構想の検討
 第7回：各教科等の特性を活かしICTを効果的に活用した授業の具体的検討
 第8回：中間カンファレンス - 各教科等におけるICTを効果的に活用した授業のあり方
 第9回：多様な人材で多様な学習者を支えるICT活用
 第10回：多様な学びを支えるICT活用の実際
 第11回：ICTの基本操作と情報モラルに関する指導の検討
 第12回：スタディ・ログの活用と情報セキュリティのあり方
 第13回：学校におけるDXを目指したICT環境の整備と授業に関わる業務改善
 第14回：チームで進める学校におけるDXの具体的計画と検討
 第15回：最終カンファレンス - 本科目での学びを今後いかしていくために
 定期試験は実施しない

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編 平成29年7月
 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編 平成29年7月
 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編 平成30年7月

参考書・参考資料等

学習科学ハンドブック 第二版 第2巻: 効果的な学びを促進する実践/共に学ぶ（R・K・ソーヤー編 大島 純，森 敏昭，秋田喜代美，白水 始 監訳 望月俊男，益川弘如 編訳）
 教員のICT活用指導力チェックリスト（文部科学省）
 GIGAスクール構想の実現について（文部科学省）
 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）（中央教育審議会）
 StuDX Style（文部科学省）
 教育データ利活用ロードマップ（デジタル庁・総務省・文部科学省・経済産業省）

学生に対する評価

1. 小レポート（毎回の授業の議論を踏まえる）（30%）
2. プレゼンテーションビデオ（各教科等の授業デザイン案）（20%）
3. 協同作成によるデジタル資料（学校DXを支える活用例）（20%）
4. 最終レポート（本科目での学びと今後への展望）（30%）

授業科目名：生徒指導 の事例研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：宮武 泰 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
1．「生徒の問題行動」をめぐる考え方、児童生徒の生き方と生徒指導などを自らの教育実践と関わ らせながら理解することができる。			
2．生徒指導問題の本質を議論し、児童生徒の悩みに対応する教師の関係修復力について自らの教育 実践と関わらせつつ、児童生徒に寄り添った問題解決の在り方を探究することができる。			
学部新卒学生			
1．「生徒の問題行動」をめぐる考え方、児童生徒の生き方と生徒指導などの基本を理解することが できる。			
2．不登校問題の本質を議論し、児童生徒の悩みに対応する教師の関係修復力についてその基本を理 解し、児童生徒に寄り添った問題解決の在り方を探究することができる。			
授業の概要			
生徒指導の基本的な視点を学ぶとともに、諸事例の検討を通じて生徒指導の問題の解決をめざす。 生徒指導の意義と原理や子ども理解の必要性を押さえた上で、学校や教師による取り組みを事例検討 するなかで、問題解決に向けての「発達支援」観、「居場所」観、「生き方」観の獲得をめざす。ま た個別指導問題の内、さらなる探究課題として、不登校問題を中心に進路形成の問題を検討する。そ れらを通じて児童生徒の生き方を保障する生徒指導のあり方を検討し、教師の生徒指導力や関係修復 力を高める。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（本授業の目的と進め方を提示し、受講者の生徒指導に関する経験につ いて交流し、検討すべき課題を明らかにする）。			
第2回：生徒指導の意義と原理（対症療法的生徒指導と予防的生徒指導のあり方を押さえ、学校教育 活動における生徒指導の意義と原理を把握する）。			
第3回：教育課程と生徒指導（教科、道徳教育、総合的な学習、特別活動において、生徒指導の果た す役割について検討する）。			
第4回：児童生徒の心理と児童生徒理解（生徒指導における児童生徒理解の重要性と発達障害、思春 期の発達の様相について検討する）			
第5回：学校における生徒指導体制（教職員における共通理解・共通実践のあり方について、事例を			

もとに検討する)。

第6回：生徒指導の評価(生徒指導は、生徒の成長過程を評価し、児童生徒が自己評価主体となる必要がある。生徒指導の評価にあり方について、事例をもとに検討する)。

第7回：個別の課題を抱える児童生徒への指導(発達障害、不登校の事例をもとに問題解決のあり方を検討する)。

第8回：個別の課題を抱える児童生徒への指導(喫煙、少年非行、暴力行為の事例をもとに問題解決のあり方を検討する)。

第9回：個別の課題を抱える児童生徒への指導(いじめの事例をもとに問題解決のあり方を検討する)。

第10回：個別の課題を抱える児童生徒への指導(情報倫理をめぐる問題について、事例をもとに問題解決のあり方を検討する)。

第11回：生徒指導における学校と家庭・関係諸機関との連携(家庭・地域あるいは関係諸機関との連携による有効な方策を、事例をもとに検討する)。

第12回：個別指導問題の探究 不登校における進路選択をめぐる問題(1)(キャリアとしての学歴形成の視点から進学道の模索について、事例をもとに検討する)。

第13回：個別指導問題の探究 不登校における進路選択をめぐる問題(2)(キャリアとしての職業の視点から個性を生かした就労のあり方について検討する)。

第14回：個別指導問題の探究 不登校と社会的ひきこもり(不登校の「完成形態」としてのひきこもり問題と「待つ」ことの意味について検討する)。

第15回：まとめ(児童生徒の自律と自立を支える「居場所」、「生き方」支援の重要性を整理し、生徒指導問題の解決策をまとめる)。

定期試験：レポート試験(A4で2000字程度)

テキスト

文部科学省(2011)「生徒指導提要」(教育図書)

参考書・参考資料等

その他各授業時のテーマに応じて、その都度提示する。

学生に対する評価

4つの視点で評価する。

1. レポート・報告書による評価(授業内容全体の振り返りを基にしたレポート(20%)、各自の実践事例あるいは各自が調査した事例の報告書(20%))
2. 議論・ディスカッションへの参加(各回の授業を振り返るディスカッションの行動評価)(20%)
3. プレゼンテーション(各自の事例報告に関するプレゼンテーション内容および表現方法)(20%)
4. 毎回の課題(基本的な理解に関する毎時間のミニレポート)(20%)

授業科目名：道徳科 授業デザイン論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：宮武泰 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
1．「考え、議論する」道徳科授業の考え方を道徳の本質から理解し、自らの実践と関わらせながら、授業デザインし問題解決型の道徳授業力を高めることができる。			
2．道徳科授業におけるアクティブ・ラーニング（児童生徒の能動的学習）の方法を自らの実践と比較しつつ理解できる。			
3．道徳科授業の評価のあり方を現場の評価の実態をふまえ理解できる。			
学部新卒学生			
1．「考え、議論する」道徳科授業の考え方を道徳の本質から理解し、授業デザインの基礎を学び、問題解決型の基礎的な道徳授業力を高めることができる。			
2．道徳科授業におけるアクティブ・ラーニング（児童生徒の能動的学習）の方法の基本を理解できる。			
3．道徳科授業の評価の基本的なあり方を理解できる。			
授業の概要			
考え、議論し、主体的・対話的で深い学びを実現する道徳科授業を実践するためには、道徳科の本質にふさわしい目標（ビジョン）をもち、「質の高い授業方法」による授業モデルを構築し、ねらい・発問・評価に関するデザインを作り上げたうえで、自己関与型、問題解決型、体験型の授業実践の実際を検証し、新たな授業モデルを構築し、それを現実化することが必要である。本授業では、1．道徳及び道徳科授業の本質とは何か、2．学習指導要領の基本的構造（ねらい・価値内容・評価の考え方）、3．質の高い授業方法とその実際を講義した上で、4．受講者の実践事例をもとに検討し、道徳科授業改善の方向性を検討する。			
授業計画			
第1回：道徳の本質とは何か（「よりよく生きる」という道徳の本質を道徳の理念と現実から検討する）			
第2回：道徳科授業とは何か（学習指導要領における「道徳の内容」について検討する）			
第3回：道徳科授業とは何か（道徳科の本質を実現する授業デザイン〔ビジョン、授業モデル、評価〕のあり方を検討する）			
第4回：道徳科授業とは何か（「考え、議論する」道徳科の発問論）			
第5回：道徳科授業の実際（自己関与型授業について検討する）			

第6回：道徳科授業の実際（問題解決型授業について検討する） 第7回：道徳科授業の実際（体験型授業について検討する） 第8回：道徳科授業の評価について（「考え、議論する」道徳授業における学習評価の考え方と実際） ＊ここからは受講者による「これまでの授業と新しい授業デザインの提案と議論」 第9回：新しい提案授業を作り、分析する（現場からの報告。道徳科ビジョンをどう作ってきたか） 第10回：新しい提案授業を作り、を分析する（現場からの報告。道徳科授業モデルをどう作ってきたか） 第11回：新しい提案授業を作り、分析する（現場からの報告。道徳科のねらいの作り方） 第12回：新しい提案授業を作り、分析する（現場からの報告。道徳科の発問をどう作ってきたか） 第13回：新しい提案授業を作り、分析する（現場からの報告。道徳科の学習過程をどう作ってきたか） 第14回：新しい提案授業を作り、分析する（現場からの報告。道徳科の学習評価をどうしてきたか） 第15回：まとめ（これまでとこれからの道徳科授業） 定期試験：レポート試験（A4で2000字程度）
テキスト なし
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成29年告示）（平成29年7月 文部科学省） 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編（平成29年7月 文部科学省） 中学校学習指導要領（平成29年告示）（平成29年7月 文部科学省） 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編（平成29年7月 文部科学省） その他、授業中に適宜参考資料を配布する。
学生に対する評価 4つの視点で評価する。 1. レポート・報告書による評価（授業内容全体の振り返りを基にしたレポート 20%、各自の実践事例あるいは各自が調査した事例の報告書 20%） 2. 議論・ディスカッションへの参加（各回の授業を振り返るディスカッションの行動評価 20%） 3. プレゼンテーション（各自の事例報告に関するプレゼンテーション内容および表現方法 30%） 4. 毎回の課題（基本的な理解に関する毎時間のミニレポート 20%）

授業科目名：生活科・総合的な学習の時間に関する授業デザイン論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2 単位	担当教員名：宗形潤子・鈴木昭夫 担当形態：複数
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
学校における生活科・総合的な学習（探究）の時間の授業実践等に基づき、生活科・総合的な学習（探究）の時間について学び直すことで、今後の自己実践への示唆を得ることができるようにする。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			
生活科・総合的な学習（探究）の時間とは何をめざす授業かを再確認すると共に、先行的な実践とその理念について理解し、それらに基づいて、自校の課題解決のための手立てを考えることができる。			
学部新卒学生			
学校における生活科・総合的な学習（探究）の時間の自己の経験等を振り返ったり、生活科・総合的な学習（探究）の時間の理論や背景、実践についてについて学んだりすることで、実践の具体的なイメージをもつことができるようにする。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			
生活科・総合的な学習（探究）の時間とは何をめざす授業かを理解し、自分がめざす子どもの姿とするための手立てについて考えることができる			
授業の概要			
生活科・総合的な学習（探究）の時間について、その理念を学ぶことをスタートして、具体的な子どもと教師の姿からその意義と課題について学ぶ。いずれもその後、自己課題に基づき、先行的実践等から学んでいく。その際、相互検討も行い、多様な考えを取り入れながら、自分の実践に結び付ける学びとすることができるようにしていく。			
授業計画			
第 1 回～ 1 5 回について担当教員（宗形・鈴木）が共同で実施する。自己課題の探究と共同においては情報機器も活用し進めていくことができるようにする。			
第 1 回：ガイダンス（体験や実践を基に生活科・総合的な学習（探究）の時間のイメージの共有）			
第 2 回：「生活科における子どもとは」について考える			
第 3 回：「生活科設立の経緯と理念」について学ぶ			

第4回：「生活科の意義と課題」について探究する（自己課題の洗い出し・探究）
 第5回：「生活科の意義と課題」について探究する（自己課題の探究・共有）
 第6回：『学びのゆくえ』から学ぶ
 第7回：「総合的な学習（探究）の時間設立の経緯と理念・実践」について学ぶ（実践においては、情報機器を使った子どもの探究の具体についても学ぶ）
 第8回：「総合的な学習（探究）の時間の意義と課題」について探究する（自己課題の明確化・探究）
 第9回：「総合的な学習（探究）の時間の意義と課題」について探究する（自己課題の探究・共有）
 第10回：先行研究・実践から学ぶ（先進的实践や参観から探究したい事例を明らかにする）
 第11回：先行研究・実践から学ぶ（理念に基づく実践の具体について明らかにする）
 第12回：先行研究・実践から学ぶ（他者と共に考えるための方法に基づき整理をする）
 第13回：相互検討（省察や分析を基に全体で協議し、自己課題と照らし合わせる）
 第14回：相互検討（省察や分析を基に全体で協議し、共通する課題を明らかにする）
 第15回：相互検討（省察や分析を基に全体協議し、今後の実践に生かしたいことを明らかにする）

テキスト

「学びのゆくえ」 牛山榮世 信州教育出版社

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月 文部科学省）
 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月 文部科学省）
 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編（平成30年7月 文部科学省）
 小学校指導書 生活編（平成元年 文部省）
 小学校生活指導資料 新しい学力観に立つ生活科の学習指導の創造（平成5年 文部省）
 福田晃・山田滋彦(2021)「大人を本気にさせる子どもたち」（さくら社）

学生に対する評価

生活科・総合的な学習（探究）の時間の理念、意義や課題を理解し、先行実践等から自己の課題解決に向けてについて考えることができているか、以下の事項をもとに、担当教員の合議で評価する。

1. 授業における相互検討への発表者・聞き手としての貢献（40％）
2. 先行研究や省察、学習指導要領解説の理解等の課題の内容および表現（60％）

授業科目名：国語科授業 デザイン論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：太田孝・佐藤佐 敏・高橋由貴・井実充史・澁 澤尚・半沢康 担当形態：オムニバス・複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 現職教員学生 1．教育現場が抱えている様々な国語科授業をめぐる問題を解決するために、主体的かつ協働 的なアプローチを試みる意欲を持つ。 2．国語科教育学の様々な理論に基づいて、自らの実践と関わらせて、授業を多面的に分析で きるとともに、様々な方法論を提案し、実践することができる。 3．情報通信技術の活用力（ I C T の活用力 ）の育成ができる。 学部新卒学生 1．国語科教育学の内容論、方法論について広い見識を持つ。 2．教育現場が抱えている様々な国語科授業をめぐる問題を知り、主体的かつ協働的に解決を図 る意欲を持つ 3．情報通信技術の活用力（ I C T の活用力 ）の育成ができる。			
授業の概要 アクティブ・ラーニングによる国語科授業の在り方や方法について探究する。学習指導要領 に示される目標及び内容の理解を深めるとともに、優れた授業実践を分析・評価し、さらに、 教科の専門的内容に関する最新の学術的動向への理解も踏まえた上で、これから求められる教 科内容を構築する力と教材を開発する力を養い、授業実践力を高める。授業は、それぞれの分 野ごとに教科専門の教員が当たりチーム・ティーチングを行う。併せて、必要分野における情 報機器及び教材の活用の実践を行う。			
授業計画 第 1 回：ガイダンス（全教員共同） 学生のレディネスを調査し、授業計画を確認する。 第 2 回：国語科教育学の史的変遷（ 太田・佐藤 ） 国語科教育学の大きな教育思潮を確認し、代表的な実践家の実践について討議する。 第 3 回：国語科教育をめぐる現況の分析と問題意識の醸成（ 太田・佐藤 ） OECD のキー・コンピテンシーにかかわった昨今の教育思潮を確認し、現在の国語科教育界を めぐる課題について討議する。 当該分野における情報機器及び教材の活用の実践を行う			

第4回：「読むこと」領域の理論（太田・佐藤・高橋由・井実・澁澤）

「読むこと」領域全般における理論を踏まえ、その実践化について討議する

第5回：「読むこと」領域の説明的文章・評論における内容と実践（太田・佐藤）

説明的教材を取り上げて、その内容と系統性の理解を深めるとともに、実践化について討議する

第6回：「読むこと」領域の文学教材における内容と実践（高橋由・佐藤）

文学教材を取り上げて、その内容と系統性の理解を深めるとともに、実践化について討議する

第7回：「読むこと」領域の伝統的言語文化・古典（古文）における内容と実践（井実・佐藤）

古文教材を取り上げて、その内容と系統性の理解を深めるとともに、実践化について討議する

第8回：「読むこと」領域の伝統的言語文化・古典（漢文）における内容と実践（澁澤・佐藤）

漢文教材を取り上げて、その内容と系統性の理解を深めるとともに、実践化について討議する

第9回：「話すこと・聞くこと」領域における理論（佐藤・太田）

「話すこと・聞くこと」領域における理論を踏まえ、その実践化について討議する。

第10回：「話すこと・聞くこと」領域における実践（佐藤・太田）

受講者が「話すこと・聞くこと」領域において提案授業を行い、その授業を分析し合う。

第11回：「書くこと」領域における理論（太田・佐藤）

「書くこと」領域における理論を踏まえ、その実践化について討議する。

第12回：「書くこと」領域における実践（佐藤・太田）

受講者が「書くこと」領域において提案授業を行い、その授業を分析し合う

第13回：「言語事項」における理論、内容及び実践（半沢・佐藤）

国語の音声や方言、言語変化などに関する理論を踏まえ、その実践化について討議する。

第14回：「言語事項」における理論、内容及び実践（太田・半沢）

国語の言語事項・文法に関する理論を踏まえ、実践化について討議する。

当該分野における情報機器及び教材の活用の実践を行う。

第15回：報告会とリフレクション（全教員共同）

テキスト

各回において適宜資料を準備する。

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編（平成30年7月 文部科学省）
--

学生に対する評価

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 レポート・報告書（毎時間のリフレクションレポート 10％、課題レポート 20％）2 議論・ディスカッションへの参加（毎時間行うディスカッションの行動評価 10％、
報告会でのディスカッションの行動評価 10％）3 プレゼンテーション（報告会でのプレゼンテーション 20％、提案授業におけるプレゼンテーション 20％）4 毎回の課題（毎回の授業での課題に対する記述 10％） |
|---|

授業科目名：社会科授業 デザイン論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：野木勝弘、小野 原雅夫、鍵和田賢、小松賢司 、中村洋介、初澤敏生、牧田 実、 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 （現職教員学生） ・ 小・中学校社会科、高等学校地理歴史科並びに公民科の理念と目標、育てる資質・能力などについて学修し、社会科授業のデザインに活かすことができる。 ・ これまで実践してきた自分自身の社会科授業を振り返り、新しく求められている社会科の授業について分析・考察し、単元や授業を構想する力や、指導助言できる力を身に付ける。 （学部新卒学生） ・ 小・中学校社会科、高等学校地理歴史科並びに公民科の理念と目標、育てる資質・能力を学修し、社会科授業のデザインに活かすことができる。 ・ 社会科に求められている授業について、分析・考察し、授業構想の仕方や指導法を身に付ける。			
授業の概要 本授業は、社会科授業の改善・充実に必要な知識と素養を身に付け、社会科授業のデザイン力を高めることを目指す。戦後誕生した社会科の理念、学習指導要領改訂と社会科の変遷から社会科教育を捉え直すとともに、社会科に求められる授業とその課題について、小・中学校社会科、高等学校地理歴史科、公民科の目標や内容から討議し、社会科の授業デザインを考究する。また、実践事例や模擬授業、指導案等について協働で省察・分析し、その授業デザインを検証する。			
授業計画 第 1 回：ガイダンスと社会科教育に対する自分の課題を発表（全員） 本講義の概要を説明するとともに、社会科教育に対する各自の課題を発表し、討議する。 第 2 回：戦後誕生した「社会科の基本理念」の考察（野木） 戦後誕生した社会科の基本理念について理解を深め、その現状について討議する。 第 3 回：社会科の変遷と目標・内容の考察（小・中・高）（野木） 学習指導要領における社会科の歴史的変遷と目標・内容について理解を深め、実践上の課題を討議する。 第 4 回：公民的資質と社会参画（野木） 教科目標である公民的資質と社会参画の関係について理解を深め、その授業構想を討議する。			

第5回：社会科の授業で育む資質・能力と評価（野木）

評価基準とルーブリック評価についての理解を深め、授業実践例から評価を行い討議する。

第6回：小学校社会科の授業実践上の課題（野木）

小学校社会科での教材開発について理解を深め、単元構想案・指導案の作成・分析を通し、実践上の課題について討議する。

第7回：中学校社会科の授業実践上の課題（1）- 地理的分野 - （野木）

中学校社会科「地理的分野」での社会認識について理解を深め、単元構想案・指導案の作成・分析を通し、実践上の課題について討議する。

第8回：中学校社会科の授業実践上の課題（2）- 歴史的分野 - （野木）

中学校社会科「歴史的分野」での社会認識について理解を深め、単元構想案・指導案の作成・分析を通し、実践上の課題について討議する。

第9回：中学校社会科の授業実践上の課題（3）- 公民的分野 - （野木）

中学校社会科「公民的分野」での社会認識について理解を深め、単元構想案・指導案の作成・分析を通し、実践上の課題について討議する。

第10回：高校地歴科の授業実践上の課題（1）—地理を中心に—（中村・初澤）

高校地歴科の中の地理について取り上げて、その内容と系統性の理解を深めるとともに、その実践上の課題について討議する。

第11回：高校地歴科の授業実践上の課題（2）—歴史を中心に—（鍵和田・小松）

高校地歴科の中の歴史について取り上げて、その内容と系統性の理解を深めるとともに、その実践上の課題について討議する。

第12回：高校公民科の授業実践上の課題（小野原・牧田）

高校公民科について取り上げて、その内容と系統性の理解を深めるとともに、その実践上の課題について討議する。

第13回：アクティブラーニングと社会科（1）—問題解決的な学習過程—（野木）

社会科における問題解決的な学習過程について理解を深め、新たな社会科の姿やその実践化について模擬授業を通し討議する。

第14回：アクティブラーニングと社会科（2）—社会科における問い—（野木）

単元を貫く問いと問いの構造についての理解を深め、問いを意識にした授業デザインについて模擬授業を通し討議する。

第15回：まとめ：総括とリフレクション（全員）

テキスト

授業の進展にともない、指示あるいは、授業者が用意する。

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領解説社会科編、中学校学習指導要領解説社会科編、
高等学校学習指導要領解説地理歴史編、高等学校学習指導要領解説公民編

他に研究推進に伴い、必要な資料や文献についてその都度指示する。

学生に対する評価

- 1．課題レポート（25％）、単元構想案・学習指導案（25％）
- 2．授業ごとに行ったディスカッションや意見発表、授業の振り返りシートの評価（50％）

授業科目名：算数・数 学科授業デザイン論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：森本明，中田文 憲，和田正樹 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
これまで積み重ねてきた実践の経験を生かしながら、教育現場が直面する算数・数学科の授業過程を新たに振り返り，課題を発見し解決できるよう、数学ならびに数学教育の専門知識と理論に根ざした教材研究に基づいて授業を提案ならびに実践する力を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 1．算数・数学科の目的・目標および育成すべき資質・能力について理解し，問題発見・解決過程を通した児童生徒における数学的活動をデザインすることができる。 2．算数・数学科の学習指導の内容（数と式，図形，関数，データの活用等）およびICT活用を含む学習指導の方法について理解し，数学的活動デザインと授業デザインに生かすことができる。 3．算数・数学科固有の特性に応じた授業デザインと評価の方法について理解し，授業実践の省察に生かすことができる。			
学部新卒学生			
教育現場が直面する算数・数学科の授業過程における課題を発見し解決できるよう、数学ならびに数学教育の専門知識と理論に根ざした教材研究に基づいて授業のあり方を模索しつつ実践する力を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 1．算数・数学科の目的・目標および育成すべき資質・能力について理解し，問題解決過程を通した児童生徒における数学的活動を実践に照らして考察することができる。 2．算数・数学科の学習指導の内容（数と式，図形，関数，データの活用等）およびICT活用を含む学習指導の方法について理解し，数学的活動デザインと授業デザインについて実践に照らして考察することができる。 3．算数・数学科固有の特性に応じた授業デザインと評価の方法について理解し，授業のあり方について実践に照らして考察することができる。			
授業の概要			
算数・数学科の授業デザインに必要なとなる教員としての基礎的・基本的な資質・能力と実践力を育成することを目指し，算数・数学科の目的・目標，育成すべき資質・能力，学習指導の内容（数と式，図形，関数，データの活用，数学的活動等）およびICTの活用を含む学習指導の方法について理解し，算数数学科授業デザインを構成・実践し，省察することができるよう			

にする。本授業では、これまでの算数・数学教育研究の成果ならびに学校現場における算数・数学授業研究の成果に密着して、今日的な算数・数学科の実践上の課題を明らかにし、その課題の解決に向けて、実践を発展させる経験を積む。

授業計画

第1回：ガイダンス（担当：森本明）

授業の到達目標及びテーマを明らかにするとともに、今後の学習を見通す。（担当：森本明）

第2回：これまでの算数・数学教育研究の成果からみた算数・数学の学びを捉える視点（1）

理解研究の講読を通して、算数・数学の学びを捉える視点を得る。（担当：森本明）

第3回：これまでの算数・数学教育研究の成果からみる算数・数学の学びを捉える視点（2）

問題解決過程の研究の講読を通して、算数・数学の学びを捉える視点を得る。（担当：森本明）

第4回：解析学からみる算数・数学の学びを捉える視点

解析学の学術的動向を知ることを通して、算数・数学の学びを捉える視点を得る。

（担当：和田正樹，森本明）

第5回：幾何学からみる算数・数学の学びを捉える視点

幾何学の学術的動向を知ることを通して、算数・数学の学びを捉える視点を得る。

（担当：中田文憲，森本明）

第6回：学校現場における授業研究の成果からみた算数・数学の学びを捉える視点（1）

学校現場における授業研究の事例を通して、算数・数学の学びを捉える視点を得る。

（担当：森本明）

第7回：学校現場における授業研究の成果からみる算数・数学の学びの視点（2）

学校現場における授業研究の視聴を通して、算数・数学の学びを捉える視点を得る。

（担当：森本明）

第8回：算数・数学の授業デザイン：活用・探究の問題場面・状況の開発を中心にして

概念分析を基にして、活用・探究の問題場面・状況の開発を行い、授業過程を構想する。

（担当：森本明）

第9回：算数・数学の授業デザイン：問題解決の過程を中心にして

多様な解決過程とそれらの統合・発展の考察を行い、授業過程を構想する。（担当：森本明）

第10回：算数・数学の授業過程の構想：聴き合い・話し合いの過程を中心にして

数学的な見方・考え方の交流のコーディネートについて検討を行い、授業過程を構想する。

（担当：森本明）

第11回：算数・数学の授業デザインの実践：マイクロティーチング 「数と計算」「数と式」領域「数と計算」「数と式」領域における授業過程を模擬授業により実践する。（担当：森本明）

第12回：算数・数学の授業デザインの実践：マイクロティーチング 「図形」領域

「図形」領域における授業過程を模擬授業により実践する。（担当：中田文憲，森本明）

第13回：算数・数学の授業デザインの実践：マイクロティーチング 「データの活用」領域

「データの活用」領域における授業過程を模擬授業により実践する。（担当：森本明） 第14回：算数・数学の授業デザインの実践：マイクロティーチング 「関数」領域 「関数」領域における授業過程を模擬授業により実践する。（担当：和田正樹，森本明） 第15回：算数・数学授業デザインにおける理論と実践の往還（担当：森本明，中田文憲，和田正樹）全授業を振り返り，算数・数学科授業デザインについて理論と実践の往還を視点に，自らの成果と課題を得る。（担当：森本明）
テキスト 藤井斉亮 他（2015）『算数・数学科教育』一藝社 清水美恵（2010）『授業を科学する：数学の授業への新しいアプローチ』学文社 他，授業各回のテーマに応じて、その都度提示する。
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編（平成29年7月 文部科学省） 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 数学編（平成30年7月 文部科学省） 国立教育政策研究所(2020)「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校編）」（東洋館出版社） 国立教育政策研究所(2020)「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校編）」（東洋館出版社） 国立教育政策研究所(2021)「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校編）」（東洋館出版社）
学生に対する評価 1．毎回の作業や議論の協同活動への参画状況および貢献度および振り返り記述メモの評価(50%) 2．全授業回の振り返り最終レポートの評価(50%)

授業科目名：理科授業 デザイン論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木昭夫，平中宏典， 水澤玲子 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
これまでの理科授業実践の経験を生かしながら、これからの理科授業の在り方についての理論的・実践的な学修を通して、自己課題の解決と指導力の向上につなげるようにする。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 １．自らの実践をふまえ、理科における学力の意味について協議し理解する。 ２．理科教育が資質・能力の育成とどのように関わるかを協議し理解する。 ３．問題解決能力、活用力、言語活動(読解力)、ICT活用力等の育成のための授業の在り方を検討し、望ましい授業について構想する。			
学部新卒学生			
これまでの理科授業における自己の経験や取組を振り返り、これからの理科授業の在り方についての理論的・実践的な学修を通して、今後の自己の理科授業実践への示唆が得られるようにする。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 １．理科における学力の意味について協議し基礎的理解を深める。 ２．理科教育が資質・能力の育成とどのように関わるかを協議し基礎的理解をする。 ３．問題解決能力、活用力、言語活動(読解力)、ICT活用力等の育成のための授業の在り方を検討し、望ましい授業について構想する。			
授業の概要			
理科授業の改善を図るために、自己課題を見いだすとともに、これから求められる理科における学力や資質・能力について理解を深め、望ましい指導方法について構想する。具体的には、理科における今日的課題、現代的科学観、指導内容の系統性等を踏まえ、課題を明確にし、児童・生徒理解、教材研究、指導内容の関連性等から深く研究する。その上で、授業参観等の授業実践を基に授業改善について考察を行う。その際、PBLの手法を取り入れるとともに、教材研究に当たっては専門的な知見やICT等の活用をふまえる。			
授業計画			
第１回～１５回まで担当者（鈴木・平中・水澤）が共同で実施する。授業の在り方の検討においては、ＩＣＴ等の活用もふまえることとする。			

第1回：これまでの実践を振り返り、自己課題を明確化する
 第2回：理科で育成されるべき学力について協議し理解を深める
 第3回：求められる資質・能力について協議し理解を深める
 第4回：古典的科学観と現代的科学観について、学習指導要領等の変遷から読み取り理解を深める
 第5回：理科教育とICT活用関係性を整理し、求められる理科授業のあり方について協議する
 第6回：学校における理科教育推進上の課題について検討する
 第7回：総合的な学習の時間や他教科等との関連について、資質・能力の育成の視点で協議する
 第8回：問題解決能力育成に視点を当てた授業の在り方について検討する
 第9回：上記を踏まえた教材研究の成果について協議する
 第10回：活用力育成に視点を当てた授業の在り方について検討する
 第11回：上記を踏まえた教材研究の成果について協議する
 第12回：言語活動に視点を当てた授業の在り方について検討する
 第13回：上記を踏まえた教材研究の成果について協議する
 第14回：望ましい理科授業について構想する
 第15回：カンファレンス
 レポート

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）
 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）
 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 理科編 理数編（平成30年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

小学校学校指導書理科編（昭和44年度版 昭和53年度版）
 学習指導要領解説理科編 平成11年5月
 学習指導要領解説理科編 平成20年8月
 中学校新しい理科教育—理科教育現代化講座指導資料— 昭和46度改訂版
 中学校理科指導資料第1集 探究の過程を重視した理科指導 昭和48年
 高等学校新しい理科教育—理科教育現代化講座指導資料— 昭和46年度改訂版
 高等学校新しい理科教育—理科教育現代化講座指導資料— 昭和49年度改訂版
 OECD生徒の学習到達度調査（PISA）
 文部科学省中央教育審議会資料

学生に対する評価

1. 授業における議論（40％）
2. レポート試験（60％）

授業科目名： 音楽科授業デザイン論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小川裕、杉田政夫、中畑淳、 今尾滋、横島浩
			担当形態： 複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 現職教員院生 本授業では、自己の実践を相互に振り返り、学校における音楽科、芸術科(音楽)教育の意義を考究し、小・中・高を通じて育成すべき資質・能力について整理するとともに、現在までの研究成果や事例等を整理し、現状と課題を明らかにすることをテーマとする。到達目標は、以下の通りである。 1. 自らの教育現場における実践経験を踏まえ、音楽科、芸術科(音楽)教育に関する各分野の視座から教科で育む資質・能力について深く理解することができる。 2. 教科の特性を活かした音楽科教育におけるアクティブ・ラーニング等の授業理論を基にして、児童・生徒が主体的・創造的に音楽表現したり鑑賞したりする能力を育てるための指導理論と方法を修得することができる。 3. 現任校等の学校や地域の課題、深い児童・生徒理解を踏まえて、音楽科授業を構想・実践するとともに、現任校等での普及・指導の視点をもつことができる。 学部新卒院生 本授業では、これまでの教育実習や模擬授業の実践を振り返り、学校における音楽科、芸術科(音楽)教育の意義を考究し、教科で育むべき資質と能力について理解を深めるとともに、音楽科の授業をデザインする実践力向上のための課題とその解決策を見出すことをテーマとする。到達目標は、以下の通りである。 1. 音楽科、芸術科(音楽)教育に関する各分野の視座から教科で育む資質・能力について深く理解することができる。 2. 教科の特性を活かした音楽科教育におけるアクティブ・ラーニング等の授業理論を基にして、児童・生徒が主体的・創造的に音楽表現したり鑑賞したりする能力を育てるための音楽科授業の指導理論と方法を理解することができる。 3. 教育実習等に基づく児童・生徒理解及び教科の課題を踏まえて、音楽科授業を計画し、実践・評価・改善する具体的な視点をもつことができる。			

音楽科学習指導案の作成に当たってはICT機器などを活用しながら資料を収集し、模擬授業を実践することができる。

授業の概要

本授業では、まず「資質・能力の三つの柱」の視点から音楽科、芸術科（音楽）の資質・能力を整理し、それを育成するための授業理論と方法を検討する。同時に、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた資質・能力の育成について検討し、教科横断的な視点も含むカリキュラム・マネジメントの考え方と方法、教科の特性を活かした授業の在り方について理解を深める。

その上で、題材、教材の実践における「音楽的な感受」の在り方を核に授業実践を検討しながら、感性や想像力等を豊かに働かせて主体的・創造的に音楽表現したり鑑賞したりする能力を児童・生徒に育てるための指導理論と実践方法の修得を目指す。

授業計画

第1回：ガイダンス（担当：小川裕）

実践状況を交流することで自己の実践を省察し、課題を明確にする。

第2回：音楽科、芸術科(音楽)教育の意義及び音楽科で育成する資質・能力に関する専門的理解と指導法（担当：杉田政夫）

音楽科教育の歴史的変遷及び今日的な意義と課題について把握するとともに、音楽科授業研究の方法について専門的理解を深める。

第3回：音楽科、芸術科(音楽)教育の意義及び音楽科で育成する資質・能力に関する専門的理解と指導法（担当：今尾滋，杉田政夫）

思いや意図をもって表現する歌唱の指導方法や合唱のまとめ方，発声法の指導など，歌唱分野に関する教科指導の専門性を高める。

第4回：音楽科、芸術科(音楽)教育の意義及び音楽科で育成する資質・能力に関する専門的理解と指導法（担当：中畑淳）

授業場面における教材楽曲の効果的な伴奏方法や鍵盤楽器の指導方法など，器楽分野に関する教科指導の専門性を高める。

第5回：音楽科、芸術科(音楽)教育の意義及び音楽科で育成する資質・能力に関する専門的理解と指導法（担当：中畑淳）

各声部の役割を生かした効果的な合奏のまとめ方や楽器の奏法，器楽表現の工夫の仕方など，器楽分野に関する教科指導の専門性を高める。

第6回：音楽科、芸術科(音楽)教育の意義及び音楽科で育成する資質・能力に関する専門的理解と指導法（担当：横島浩，杉田政夫）

音楽を形づくっている要素や構造と曲想，文化的背景等の視点による深い鑑賞指導の方法や音楽づくりの指導方法など，鑑賞領域及び創作分野に関する教科指導の専門性を高める。

第7回：音楽科の特性を踏まえた教授法の視点での授業構想（担当：小川裕，杉田政夫）

消えてしまう音や音楽，イメージや感情，感性，技能等，捉えにくい内容を学習の対象とする音楽科の特性を踏まえ，「音楽的な感受」を中核とした教授法の視点から授業を分析・整理し，授業の方法と留意点等について明らかにする。

第8回：アクティブ・ラーニングと音楽科における授業改善（担当：小川裕，杉田政夫）

児童・生徒自身の問題発見・解決による深い学び，他者との協働を通して自らの考えを広げ深める対話的な学び，見通しをもって粘り強く取り組み自らの学習活動を振り返って次につなげる主体的な学び等の実現に向けて，アクティブ・ラーニングの視点から音楽科授業の改善について理解を深める。

第9回：授業参観を基にした授業構想の検証（担当：小川裕，杉田政夫）

授業参観を基にして，これまで積み重ねてきた授業構想を検証し，評価する。

*第10回～第12回は担当者が共同で実施する

第10回：模擬授業 - 主体的・創造的な学びのある表現領域の授業実践

「主体的・創造的な学び」等を研究主題に，表現領域の指導内容で音楽科学習指導案を作成し，模擬授業と研究協議を通して検証する。指導案の作成に当たってはICT機器を活用して資料を収集したり学習指導案を編集したりする。（第10回～12回）

第11回：模擬授業 - 主体的・創造的な学びのある鑑賞領域の授業実践

「主体的・創造的な学び」等を研究主題に，鑑賞領域の指導内容で音楽科学習指導案を作成し，模擬授業と研究協議を通して検証する。

第12回：模擬授業 - 言語活動，ICT活用の充実を視点としたの授業実践

音楽科における言語活動，ICT活用の充実を研究主題に学習指導案を作成し，模擬授業と研究協議を通して検証する。

第13回：模擬授業を踏まえた授業構想案の検証（担当：小川裕，杉田政夫）

カリキュラム・マネジメントへの理解を深めるとともに，これまでの模擬授業の成果と課題を踏まえて立案した授業構想案を検討して充実させ，さらなる模擬授業と研究協議を通してその有効性を検証する。

第14回：改善案の立案（担当：小川裕，杉田政夫）

模擬授業と研究協議で実証的に深められた知見や改善意見を基にして改善案を作成するとともに，音楽科学習指導のPDCAサイクルについて理解を深める。

第15回：振り返り，レポート作成（担当：小川裕）

これまでの学びを振り返り，児童・生徒が感性や想像力を働かせて主体的・創造的に音楽表現したり鑑賞したりする能力を育む音楽科授業の理論と方法をまとめる。

テキスト

小学校学習指導要領解説 音楽編 平成29年7月

中学校学習指導要領解説 音楽編 平成29年7月

高等学校学習指導要領解説 音楽編 平成30年7月
参考書・参考資料等 OECD生徒の学習到達度調査（PISA） 文部科学省中央教育審議会資料
学生に対する評価 各回の取り組みおよび協働活動における貢献度（50％） 振り返りレポート及び模擬授業指導案作成と実践（50％）

授業科目名： 図画工作・美術科授業 デザイン論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：新井浩、加藤奈保子、渡邊晃一、渡部憲生 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 造形表現教育の意義や学校教育における図画工作・美術教育の現状・課題を理解し、実践的な造形表現カリキュラムの在り方の探究をとおして、以下のとおり達成することを目標とする。 現職教員学生 1．造形表現及び鑑賞活動で定着させるべき諸能力を明らかにし、評価に活かすことができる。 2．図画工作・美術と他教科・他領域の学びと結びつけ、総合的な学びを組織することができる。 学部新卒学生 1．教育現場が抱えている様々な図画工作・美術科授業の課題を知り、問題意識を持って授業を構成できる。 2．造形表現及び鑑賞活動の特性を理解し、授業実践に応用することができる。			
授業の概要 児童・生徒の豊かな造形表現及び鑑賞の能力を育てるために、発達段階に即した造形表現カリキュラムの組み立て方や、生活に関連した教材や指導法の在り方を探究する。その際、美術教育における「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の評価指標在り方も考え深めていく。さらに、他教科や生活指導、学校行事などとの関連性を重視し、プロジェクト学習としての構成法をグループで探究するなどして、学校における芸術活動の総合的な展開について追求する。また、図工・美術科における「個別最適な学び」「協働的な学び」について実践場面をもとに理解を深めていく。			
授業計画 下記の授業計画を基本とし、受講生の課題と関連した内容を中心に扱う。 第1回：図画工作・美術教育1（渡部） 学校現場における図画工作・美術教育の諸問題について、授業実践をもとに理解を深める。 第2回：図画工作・美術教育2（渡部） 造形表現で定着させるべき諸能力を明らかにし、カリキュラムをつくる。 第3回：図画工作・美術教育3（渡部） 鑑賞活動で定着させるべき諸能力を明らかにし、カリキュラムをつくる。 第4回：図画工作・美術教育4（渡部）			

図画工作・美術教育における評価方法を考える。

第5回：図画工作・美術教育5（渡部）

図画工作・美術教育と他領域の関連を考え、プロジェクト学習を構想する。（1）

第6回：図画工作・美術教育5（渡部）

図画工作・美術教育と他領域の関連を考え、プロジェクト学習を構想する。（2）

第7回：絵画1（渡邊）

<絵><画>領域の特性を理解し、発達段階に即したカリキュラムについて探求する。

第8回：絵画2（渡邊）

<版>領域の特性を理解し、教材や指導法の在り方を授業実践から検討する。

第9回：彫刻1（新井）

彫刻領域の特性を理解し、発達段階に即したカリキュラムの組み立て方について探究する。

第10回：彫刻2（新井）

彫刻領域の理解を基に、教材や指導法の在り方を探究する。加えて、彫刻領域における授業実践について検討する。

第11回：鑑賞1（加藤）

鑑賞領域の特性を理解し、発達段階に即したカリキュラムの組み立て方について探究する。

第12回：鑑賞2（加藤）

鑑賞領域の特性の理解を基に、教材や指導法の在り方を探究する。そのための鑑賞領域における授業実践について検討する。

第13回：デザイン・工芸1（渡部）

デザイン・工芸領域の特性を理解し、発達段階に即したデザイン・工芸学習カリキュラムの組み立て方について探究する。

第14回：デザイン・工芸2（渡部）

デザイン・工芸領域の特性の理解を基に、教材や指導法の在り方を探究するためにデザイン・工芸領域における授業実践について検討する。

第15回：図画工作・美術教育と21世紀型スキル（渡部憲生）

改訂学習指導要領で示されているアクティブ・ラーニングと21世紀型スキルの関係を考える。

テキスト

授業の進展に伴い、指示あるいは授業者が用意する。

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 美術科編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術編 美術編（平成30年7月 文部科学省）

その他，授業の進展に伴い、受講生の興味に応じて、関連する資料や文献を指示する。

学生に対する評価

1. 受講態度20%、報告書（レポート）（50%）
2. 発表および討論（グループ活動）（30%）

授業科目名：体育科授業デザイン論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：菅家礼子、小川宏、安田俊広、杉浦弘一、蓮沼哲哉、本嶋良恵、松本健太、竹田隆一 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 体育科教育、身体や運動文化に関する新たな理論・知見を得るとともに、それらをもとに実践記録（映像や実践報告等）の分析及び検討を行う。児童生徒の主体的な学びの場としての授業を探究する。探究過程において、受講者自身の実践力向上のための課題（学びのための授業デザイン、教材の工夫、評価の工夫や教師の支援等）とその解決策を見出す。			
現職教員学生 教育内容と児童生徒の主体的な学びが統合した授業の在り方の視点から、自身のこれまでの実践を省察する。このことを通して、体育科の授業をデザインする実践力向上のための課題とその解決策を見い出す。			
学部卒学生 教育内容と児童生徒の主体的な学びが統合した授業の在り方の視点から、体育授業（映像や実践報告等）の分析及び検討を行う。このことを通して、体育科の授業をデザインする実践力向上のための課題とその解決策を見出す。			
授業の概要			
授業計画 第1回：オリエンテーション（菅家） 第2回：体育授業について考える1 体育科教育の立場から（松本） 第3回：体育授業について考える2 体育原理の立場から（小川） 第4回：体育授業について考える3 体育社会学の立場から（蓮沼） 第5回：体育授業について考える4 運動生理学の立場から（安田） 第6回：体育授業について考える5 スポーツ医学の立場から（杉浦）			

第7回：体育授業について考える6 バイオメカニクスの立場から（本嶋）
 第8回：体育授業について考える7 体育科における学び論から（菅家）
 第8回：運動教材について考える1 運動文化＜ネット型球技／バレーボール＞（小川）
 第9回：運動教材について考える2 運動文化＜ゴール型球技／バスケットボール＞（杉浦）
 第10回：運動教材について考える3 運動文化＜ゴール型球技／サッカー＞（松本）
 第11回：運動教材について考える4 運動文化＜器械体操、体操競技＞（本嶋）
 第12回：運動教材について考える5 運動文化＜武道＞（竹田）
 第13回：運動教材について考える6 運動文化＜野外活動＞（安田）
 第14回：運動教材について考える7 身体文化＜体操、ダンス＞（菅家）
 第15回：カンファレンス＜体育科授業デザインのための課題と解決策＞（菅家、松本）
 定期試験

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編（平成29年7月 文部科学省）
 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

特に指定しないが、適宜授業内で紹介する。

学生に対する評価

下記2点について評価する。

1. 毎回のテーマ（小テーマ）に沿ったディスカッションの内容（50%）
2. そのレポート（50%）

授業科目名： 家庭科授業デザイン論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：(非)浜島京子 、角間陽子、千葉桂子、中 村恵子
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭 ）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
これまで積み重ねてきた実践経験をふまえ、教育現場が抱える家庭科授業の在り方を再考し、問題を発見・解決できるよう、家庭科における各分野の専門知識と理論に根ざした教材研究をもとに、授業を提案ならびに実践力の向上を図る。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 １．家庭生活への実践化を目指す家庭科の本質や専門科学への理解を深め、自らの実践と関わらせながら、問題解決型の家庭科授業力を高める。 ２．家庭科授業における ICT の活用を含めたアクティブ・ラーニング（児童生徒の能動的学習）の方法を自らの実践も比較しつつ考案する。 ３．家庭科授業の指導計画及び評価のあり方を、自らの実践や現場の実態をふまえて再考する。			
学部新卒学生			
教育現場が抱える家庭科授業の在り方を考え、問題を発見・解決できるよう、家庭科における各分野の専門知識と理論に根ざした教材研究をもとに、題材計画および授業案を作成し実践する力を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 １．家庭生活への実践化を目指す家庭科の本質や専門科学への理解を深め、問題解決型の基礎的な家庭科授業力を高める。 ２．家庭科授業における ICT の活用を含めたアクティブ・ラーニング（児童生徒の能動的学習）の方法の基本を理解する。 ３．家庭科授業の指導計画及び評価の基本的なあり方を理解する。			
授業の概要			
児童・生徒が家庭生活への関心を高め、問題解決的に生活改善を図る授業のあり方について実践を通して検討する。そのために、子どもの家庭生活実態、生活にかかわる専門科学、家庭科教育の現代的課題等を学ぶとともに、ICT の活用を含めた実践例を分析したり、自身が実施した実践を省察したりすることで、題材での学びを意識した授業デザインと教材の工夫について考察			

し、家庭科授業実践の視点や方法を身につける。

授業計画

- 第1回：ガイダンス、家庭科の実践状況やこれまでの授業経験及び家庭科教育の課題等に対する意見交換（担当：(非)浜島京子）
- 第2回：家庭科教育の振り返り（戦後の変遷、目標、内容、今日的課題）（担当：(非)浜島京子）
- 第3回：家庭科の基盤となる専門科学の理解 - 生活経営学 - （担当：角間陽子）
- 第4回：家庭科の基盤となる専門科学の理解 - 被服学 - （担当：千葉桂子）
- 第5回：家庭科の基盤となる専門科学の理解 - 調理学 - （担当：中村恵子）
- 第6回：家庭科における問題解決型及び ICT 活用を含むアクティブ・ラーニングを重視した授業例の収集・検討（担当：(非)浜島京子）
- 第7回：家庭科における問題解決型及び ICT 活用を含むアクティブ・ラーニングを重視した授業に対する意見交換（担当：(非)浜島京子）
- 第8回：問題解決型及びアクティブ・ラーニングを取り入れた授業の構想（担当：(非)浜島京子）
- 第9回：問題解決型及びアクティブ・ラーニングを取り入れた家庭科授業案・教材の検討（担当：(非)浜島京子、角間陽子、千葉桂子、中村恵子）
- 第10回：問題解決型及びアクティブ・ラーニングを取り入れた家庭科授業案・教材の作成（題材の指導計画及び評価を含める）（担当：(非)浜島京子、角間陽子、千葉桂子、中村恵子）
- 第11回：作成した授業案・教材の発表・討論（担当：(非)浜島京子、角間陽子、千葉桂子、中村恵子）
- 第12回：討論の結果を踏まえた授業案等の見直し（担当：(非)浜島京子）
- 第13回：連携校等での提案授業実施及び協議。提案授業に関わる題材の指導計画及び評価についての意見交換を含める。（担当：(非)浜島京子）
- 第14回：連携校等で実施した提案授業及び協議内容を踏まえての振り返り（担当：(非)浜島京子）
- 第15回：家庭科授業デザインにおける理論と実践の観点から、本授業を通じた自らの成果と課題をまとめる。（担当：(非)浜島京子）

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編（平成29年7月 文部科学省）
 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 家庭編（平成30年7月 文部科学省）
 中学校技術・家庭科 家庭分野 教科書（令和3年発行）
 高等学校家庭科 家庭総合及び家庭基礎 教科書（令和4年発行）
 詳細はガイダンスの時に指示する

参考書・参考資料等

授業中に資料等を配布する。

学生に対する評価

- 1．授業における演習や課題に対する取り組み状況及び議論への参画状況等の評価（50％）
- 2．全授業回を通した振り返り最終レポートの評価（50％）

授業科目名：英語科授業デザイン論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：佐久間康之、高木修一、真歩仁しょうん、朝賀俊彦、川田潤、佐藤元樹、高田英和 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
今までの教育現場における実践経験に基づき、教育現場が抱える英語授業の様々な問題を積極的に解決できるよう、各分野の専門知識と理論に根ざした授業を提案および実践する力を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 １．第二言語習得の理論を理解し、自らの授業実践に応用することができる。 ２．英語文学・文化研究の理論と実践を理解し、自らの授業実践に応用することができる。 ３．英語の言語構造に関する理論を理解し、自らの授業実践に応用することができる。			
学部新卒学生			
教育現場で直面することになる英語授業の問題を自主的に解決できるよう、各分野の専門知識と理論に根ざした授業を模索する力を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 １．第二言語習得理論に基づく授業研究をすることができる。 ２．英語文学・文化研究の理論と実践に基づく授業研究をすることができる。 ３．英語の言語構造に関する理論に基づく授業研究をすることができる。			
授業の概要			
積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする主体的な英語学習者の育成を目指した英語授業の実践を探究する。第二言語習得、英語の言語構造、そして英語圏を中心とした外国文学及び文化的コードといった英語授業に関わる理論を学び、それぞれの理論に基づいて授業実践を考察することにより、自身の授業実践に対する問題意識を建設的に喚起しつつ、多角的視点で洗練された教育実践を自律的に研究する力を身につける。			
授業計画			
下記の授業計画を基本とし、受講生の課題と関連した内容を中心に取り扱う。			
第１回：英語教育１（担当：佐久間・高木・真歩仁）			
小中高における英語教育の諸問題を踏まえ、第二言語習得論について理解を深める。			

第2回：英語教育2（担当：佐久間・高木・真歩仁）

小中校における英語教育の諸問題を踏まえ、第二言語習得理論を授業実践に応用する。

第3回：英語教育3（担当：佐久間・高木・真歩仁）

リスニングとリーディングのメカニズムについて理解を深める。

第4回：英語教育4（担当：佐久間・高木・真歩仁）

リスニングとリーディングのメカニズムを授業実践に応用する。

第5回：英語教育5（担当：佐久間・高木・真歩仁）

スピーキングとライティングのメカニズムについて理解を深める。

第6回：英語教育6（担当：佐久間・高木・真歩仁）

スピーキングとライティングのメカニズムを授業実践に応用する。

第7回：英語教育7（担当：佐久間・高木・真歩仁）

パフォーマンス評価を中心に評価やテストの役割について理解を深める。

第8回：英語教育8（担当：佐久間・高木・真歩仁）

パフォーマンス評価を中心に評価やテストの役割を実践に応用する。

第9回：英語教育9（担当：佐久間・高木・真歩仁）

4技能統合型の授業実践についてまとめる。

第10回：専門知識の理解と習得に基づく効果的英語授業の構築－英語学1（担当：真歩仁・朝賀・佐藤）

英語の文構造について理解を深める。

第11回：専門知識の理解と習得に基づく効果的英語授業の構築－英語学2（担当：高木・朝賀・佐藤）

専門知識の理解と習得に基づく効果的英語授業の構築－英語の意味構造について理解を深める。

第12回：専門知識の理解と習得に基づく効果的英語授業の構築－英語学3（担当：佐久間・朝賀・佐藤）

英語の文構造と意味構造との関係について理解を深める。

第13回：専門知識の理解と習得に基づく効果的英語授業の構築－英語文学1（担当：真歩仁・川田・高田）

英語文学・文化研究の理論について、異文化理解的な観点も含めつつ、基本的な理解をする。

第14回：専門知識の理解と習得に基づく効果的英語授業の構築－英語文学2（担当：高木・川田・高田）

英語文学・文化研究の理論について、基本的な理解を踏まえ、より高度な理解をする。

第15回：専門知識の理解と習得に基づく効果的英語授業の構築－英語文学3（担当：佐久間・川田・高田）

具体的な素材を用いて、授業実践を念頭に置きつつ、理論・実践で学んだことを、実際に応用するとともに、英語文学・文化研究の理論と実践についてまとめる。

テキスト

授業の進展に伴い、指示あるいは授業者が用意する。

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年告示）（平成29年7月 文部科学省）

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年告示）（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）（平成30年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編（平成30年7月 文部科学省）

国立教育政策研究所(2020)「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校編）」（東洋館出版社）

国立教育政策研究所(2020)「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校編）」（東洋館出版社）

国立教育政策研究所(2021)「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校編）」（東洋館出版社）

学生に対する評価

1. 受講態度（授業に取り組む姿勢・ディスカッションへの参加意欲など）を総合的に評価する（30%）
2. 課題への取り組み（プレゼンテーション・模擬授業・レポート・指導案など）を総合的に評価する（70%）

授業科目名：特別支援学校における教育課程編成の実際	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小檜山宗浩 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
特別支援学校の教育課程編成の実際について、現職教員学生として自らの実践経験を事例として報告し、全ての生徒たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた在り方や創意工夫を生かした特色ある教育課程の編成・実施等に関して協議を行い学修する。到達目標は以下のとおりである。 1. 特別支援学校の教育課程編成の実際について、事例検討等を通して教育課程編成までのプロセスを学習し修得する。特に、これまでの実践経験を省察し、教育課程編成の実際について理論的に考察する。 2. 主に知的障害者である児童生徒に対する教育を行う学校の教育課程について理解を深め、子供の実態に即した教育課程編成の在り方と指導法について省察する。特に、これまでの実践経験を事例として取りあげ、発表し、議論する。			
学部新卒学生			
特別支援学校の教育課程編成の実際について理解する。特に、障害種および障害の程度に応じた教育課程編成の実際について理解を深める。また現職教員学生がこれまで経験した事例をもとに、学校現場における教育課程編成の実際について触れる。到達目標は以下の通りである。 1. 特別支援学校の教育課程編成の実際について、事例検討等を通して教育課程編成までのプロセスを学習し修得する。特に、現職教員学生の実践経験に事例として触れることで、教育課程編成の実際について理論的に考察する。 2. 主に知的障害者である児童生徒に対する教育を行う学校の教育課程について理解を深め、子供の実態に即した教育課程編成の在り方と指導法について省察する。特に、現職教員学生の実践経験に事例として触れることで、特別支援学校における教育課程編成の事例について議論する。			
授業の概要			
特別支援学校における教育課程編成について、理論的理解及び実践的理解を目指す科目である。主に知的障害者・肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教育課程について学ぶとともに、知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教育課程の特徴を理解することで、医療的ケア児を含む重度・重複障害に関する教育課程の理解を深める。さらに、小・中学校等における特別支援学級や通級による指導の教育課程の在り方についても理解を深める。講義および			

事例検討を通じた学びにより、社会に開かれた教育課程の在り方や「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すための深い省察を行う。

授業計画

第1回：特別支援教育の法的根拠

教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則、学校教育法施行令、学習指導要領等の特別支援教育のための教育課程編成に関する法的根拠について理解を深める。

第2回：特別支援教育の教育課程の変遷

特別支援学校及び特別支援学級における教育課程の歴史的変遷について理解を深める。

第3回：学習指導要領の改訂と特別支援教育の推進

特別支援学校学習指導要領等の改訂のポイントと小・中学校における特別支援教育の充実についてについて理解を深める。

第4回：障害のある子供の学びの場の整備・連携強化

特別支援学校における教育環境整備と教師の専門性の向上について協議し理解を深める。

第5回：学習指導要領の検討1

教育課程の意義と役割について協議し理解を深める。

第6回：学習指導要領の検討2

教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの充実について協議し理解を深める。

第7回：学習指導要領の検討3

教育課程の実施と学習評価について協議し理解を深める。

第8回：学習指導要領の検討4

児童生徒の調和的な発達の支援について協議し理解を深める。

第9回：特別支援学校の教育課程編成の事例に関する分析1

特別支援学校（視覚障害）の各教科の目標及び内容等について検討及び考察を行う。

第10回：特別支援学校の教育課程編成の事例に関する分析2

特別支援学校（聴覚障害）の各教科の目標及び内容等について検討及び考察を行う。

第11回：特別支援学校の教育課程編成の事例に関する分析3

特別支援学校（肢体不自由）の各教科の目標及び内容等について検討及び考察を行う。

第12回：特別支援学校の教育課程編成の事例に関する分析4

特別支援学校（病弱）の各教科の目標及び内容等について検討及び考察を行う。

第13回：特別支援学校の教育課程編成の事例に関する分析5

特別支援学校（知的障害）の各教科の目標及び内容等について検討及び考察を行う。

第14回：特別支援学校の教育課程編成の事例に関する分析6

重複障害者等に関する教育課程の取扱いについて検討及び考察を行う。

第15回：演習内容に関する省察

これまでの授業内容について振り返りを行い、課題とその解決策についてまとめる。

テキスト

文部科学省「特別支援学校 幼稚部要領小学部・中学部学習指導要領」海文堂出版、平成30年
 文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）」開隆堂出版、平成30年
 文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）」開隆堂出版、平成30年
 文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」開隆堂出版、平成30年

参考書・参考資料等

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所(2021)「特別支援教育の基礎・基本2020」（ジアース教育新社）

福島県教育委員会編 「学校教育指導の重点」

学生に対する評価

教育課程について、具体的な事例から学び、実際の教育課程編成のための力を評価する。

1. 障害種別による教育課程の分析の視点や着眼点（20％）
2. 毎回の授業における協議題を踏まえたディスカッションの行動評価（20％）
3. 教育課程編成の特徴の理解（20％）
4. 第15回「演習内容に関する省察」の協議内容を踏まえたレポート（40％）

授業科目名：特別な支援が必要な生徒への学校カウンセリングの実際	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2 単位	担当教員名：柳沼 哲 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
カウンセリングは、人間の心理や発達の理論に基づく対人援助活動であり、個人の成長を促進し対人関係の改善や社会的適応能力を向上させる。特別な支援が必要とされる児童生徒の状況を把握し、家族を含めた支援ができる教員の育成をめざす。			
現職教員学生			
1．特別な支援が必要な児童生徒への学校カウンセリングの基本を理解し、自らの実践と関連させながら指導力を高めることができる。			
2．学校カウンセリングの手法を自らの実践と比較して理解を深めることができる。			
3．事例検討をとおして特別な支援が必要な児童生徒や家族に対する実践的な支援方法について考えることができる。			
学部新卒学生			
1．特別な支援が必要な児童生徒への学校カウンセリングの基本、考え方を理解し、基礎的な実践力を高めることができる。			
2．学校カウンセリングの手法の基本を理解できる。			
3．事例検討をとおして特別な支援が必要な児童生徒や家族に対するカウンセリングマインドを身につけることができる。			
授業の概要			
特別な支援が必要とされる児童生徒に対する生活指導と学校カウンセリングの実践に基づく事例検討を行う。個々の児童生徒の教室での状況や家庭環境、その他の状況を知り、指導方法と多角的な支援を検討し、特別支援教育における学校カウンセリングについての実践力を高める。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション・特別な支援が必要な生徒への学校カウンセリングの現状			
第 2 回：知的障害を主とした特別支援学校における生徒指導と学校カウンセリングの意義			
第 3 回：知的障害や発達障害の心理、病理から理解する生徒指導と学校カウンセリングの基本			
第 4 回：肢体不自由者の心理、病理から理解する生徒指導と学校カウンセリングの基本			

第5回：病弱児の心理、病理から理解する生徒指導と学校カウンセリングの基本 第6回：知的障害のある子どもをもつ家族の心理と学校カウンセリングの役割 第7回：特別な支援が必要な児童生徒や家族に対するカウンセリングの基礎と応用（1） 「傾聴について」 第8回：特別な支援が必要な児童生徒や家族に対するカウンセリングの基礎と応用（2） 「応答の技法について」 第9回：特別支援学校の教職員相互の連携に必要な生徒指導と学校カウンセリングの基本 第10回：事例検討（1）知的障害や発達障害のある子どもにみられる問題行動 ・特別な支援が必要な児童生徒の不登校、ひきこもり、いじめの事例検討・ディスカッション 第11回：事例検討（2）知的障害や発達障害のある子どもにみられる問題行動 ・特別な支援が必要な児童生徒の自傷行為、暴力行為の事例検討・ディスカッション 第12回：事例検討（3）肢体不自由の児童生徒における事例検討・ディスカッション 第13回：事例検討（4）病弱の児童生徒における事例検討・ディスカッション 第14回：資料検討（5）特別な支援が必要な子どもの家族に対する対応困難事例の検討 第15回：全体のまとめと討論
テキスト なし
参考書・参考資料等 滝川一廣(2017)「子どものための精神医学」(医学書院) 宮川充司 他(2000)「子どもの発達と学校(第3版) 特別支援教育への理解」(ナカニシヤ出版) その他、授業中に適宜参考資料を配布する。
学生に対する評価 1. 各回の授業におけるディスカッションの行動評価(30%) 2. 各自が調査した事例についてのレポートと発表(20%) 3. 事例検討で扱った事例についての報告レポート(30%) 4. 特別な支援が必要な児童生徒に対する学校カウンセリングの基礎的な知識・技能(20%)

授業科目名：特別支援学校における学級経営の実践研究	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2 単位	担当教員名：小檜山宗浩 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
特別支援学校における学級経営について、学校における実習等を通し考察を深めるとともに、主として特別支援学校（知的障害、肢体不自由、病弱）の学級経営に関する実態と課題について学修する。 さらに、重複障害学級の学級経営についても理解を深めることで、多様な障害に対応した学びを行うとともに、重症心身障害児や訪問教育に対応した学びも行うことで、障害の重複化・重度化にも対応した学級経営の在り方について学修する。			
現職教員学生			
特別支援学校の学級経営について、現職教員学生としての実践経験を踏まえ事例として報告し、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けた在り方について、管理分野と指導分野の両面から協議を行い修得する。			
学部新卒学生			
特別支援学校の学級経営全般について、事例検討や現職学級担任との対話等を通して学級経営の在り方について学修する。			
授業の概要			
特別支援学校における学級経営について、理論的理解及び実践的理解を目指す科目である。県内の各特別支援学校（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）における具体的な配慮事項を基にした実践を踏まえ、その現状と課題について考察を進めていく。さらに、重複障害学級の経営の在り方について理解を深めることで、多様な障害に対応した指導の在り方や院内学級など重症心身障害児に対応した指導の在り方について講義および事例検討を行うなど、障害の重複化・重度化にも対応した学級経営について、深い省察を行う。			
授業計画			
第 1 回：ガイダンス・特別支援学校における学級経営に関する理論的理解			
第 2 回：「学級経営案」の作成等学級経営を支える要因に関する理論的理解			
第 3 回：特別支援学校（視覚障害）の学級経営の実際と事例検討			
第 4 回：特別支援学校（聴覚障害）の学級経営の実際と事例検討			
第 5 回：特別支援学校（知的障害）の学級経営の実際と事例検討			
第 6 回：特別支援学校（肢体不自由）の学級経営の実際と事例検討			
第 7 回：特別支援学校（病弱）の学級経営の実際と事例検討			

第8回：言語障害のある子供に対応した学級経営の実際と事例検討
 第9回：自閉症のある子供に対応した学級経営の実際と事例検討
 第10回：情緒障害のある子供に対応した学級経営の実際と事例検討
 第11回：学習障害のある子供に対応した学級経営の実際と事例検討
 第12回：注意欠陥多動性障害のある子供に対応した学級経営の実際と事例検討
 第13回：重度・重複障害のある子供に対応した学級経営の実際と事例検討
 第14回：交流及び共同学習と進路指導の実際と事例検討
 第15回：特別支援学校における学級経営のまとめ・合理的配慮と学級経営の実際と事例検討
 これまでの授業内容について振り返りを行い、課題とその解決策についてまとめる。

テキスト

文部科学省(2018)「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」(海文堂出版)
 文部科学省(2018)「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編等(幼稚部・小学部・中学部)」
 (開隆堂出版)
 文部科学省(2018)「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)」(開隆堂出版)
 文部科学省(2018)「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)」
 (開隆堂出版)

参考書・参考資料等

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所(2021)「特別支援教育の基礎・基本2020」(ジアース教育新社)
 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課(2021)「障害のある子供の教育支援の手引」

学生に対する評価

- 1 基本的な理解に関する毎時間のミニレポート(20%)
- 2 毎回の授業における協議題を踏まえたディスカッションの行動評価(20%)
- 3 調査報告等に関するプレゼンテーションの内容及び表現(20%)
- 4 第15回「特別支援学校における学級経営のまとめ」の協議内容を踏まえたレポート(40%)

授業科目名：特別支援学校における学校経営の実践研究	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小檜山宗浩 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
1. 特別支援学校の学校経営について、自らの実践を踏まえ、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けた在り方について、管理分野と指導分野の両面から協議を行い修得する。			
2. 事例検討を通して、カリキュラム・マネジメントの実施と学校評価を関連付けた学校経営・運営の在り方について省察する。			
学部新卒学生			
1. 特別支援学校の学校経営全般について、実践的理解を深める。			
2. 事例検討や学校経営についての、文献研究や現職校長との対話等を通して学校経営の在り方についての理解を深める。			
授業の概要			
特別支援学校における学校経営について、理論的理解及び実践的理解を目指す科目である。特別支援学校に勤務する教職員が、その職務を遂行するに当たり、教育に関する法令及び服務等について体系的に理解し、教職員として果たすべき任務と責任について詳細に学び、ミドルリーダーとしての資質を高める。さらに、学校における働き方改革や業務改善、協働性、心理的安全性を確保した職場環境づくりについて学ぶとともに、全ての教職員がそれぞれのリーダーシップを発揮し、学校教育活動に強みや適性等を生かすことのできる学校経営の在り方について、講義および事例検討を通じた学びにより、深い省察を行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス・特別支援学校における学校経営の本質に関する理論的理解			
第2回：特別支援学校における学校経営を支える要因に関する理論的理解 1			
サービスの根本基準と宣誓、法令等に従う義務、信用失墜行為の禁止について事例検討をする。			
第3回：特別支援学校における学校経営を支える要因に関する理論的理解 2			
秘密を守る義務、職務に専念する義務、政治的行為の制限について事例検討をする。			
第4回：特別支援学校における学校経営を支える要因に関する理論的理解 3			
争議行為等の禁止、営利企業等の従事制限、児童に当たっての留意事項等について事例検討をする。			
第5回：特別支援学校における学校経営を支える要因に関する理論的理解 4			

勤務時間について、理解を深めるとともに事例検討をする。

第6回：特別支援学校における学校経営を支える要因に関する理論的理解5

休暇、育児休業等について、理解を深めるとともに事例検討をする。

第7回：視覚障害を主とする特別支援学校の学校経営の事例検討

第8回：聴覚障害を主とする特別支援学校の学校経営の事例検討

第9回：肢体不自由を主とする特別支援学校の学校経営の事例検討

第10回：病弱を主とする特別支援学校の学校経営の事例検討

第11回：知的障害を主とする特別支援学校の学校経営の事例検討

第12回：訪問教育を実施している特別支援学校の学校経営の事例検討

第13回：特別支援学校と近隣小・中学校、高等学校、幼稚園・保育所・こども園等との交流を目指す学校経営の事例検討

第14回：地域における特別支援学校の在り方、学校管理・運営に関する事例検討

第15回：特別支援学校における新しい時代の学校組織マネジメントについての検討

これまでの授業内容について振り返りを行い、課題とその解決策についてまとめる。

テキスト

福島県教育庁(2020)「教職員服務関係ハンドブック2020」(第一法規株式会社)

参考書・参考資料等

マネジメント研修カリキュラム等開発会議(2005)「学校組織マネジメント研修～すべての教職員のために～」

中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会(2021)「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて」

福島県教育委員会(2021)「信頼される学校づくりを職場の力で」

学生に対する評価

- 1 基本的な理解に関する毎時間のミニレポート(20%)
- 2 毎回の授業における協議題を踏まえたディスカッションの行動評価(20%)
- 3 調査報告等に関するプレゼンテーションの内容及び表現(20%)
- 4 第15回「特別支援学校における新しい時代の学校組織マネジメントについての検討」の協議内容を踏まえたレポート(40%)

授業科目名：特別支援学校と地域の実践研究	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2 単位	担当教員名：小檜山宗浩
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
1. 地域における特別支援学校の役割を理解し、特別支援学校のセンター的機能について実践できる力を修得する。			
2. 実際の事例検討を通して、保護者（家庭）や地域の人々に特別支援教育や障害のある子供の理解推進のため中心的な役割を担うことができる力を修得する。			
学部新卒学生			
特別支援学校のセンター的機能について具体的な実践事例を学習するなどし、地域における特別支援学校の役割について理解する。			
授業の概要			
障害のある子供の自立と社会参加を見据え、子供一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供するための必要な支援等について学ぶ科目である。特別支援学校では地域でのセンター的機能を生かし、地域の小・中学校等と連携・協力し、教育相談、就学指導、進路指導等、幼児児童生徒に対する支援、教員に対する支援等の充実に努めている。実際の就学に係る一連のプロセスなどの実践的事例検討を通して、特別支援学校と地域との関係について研究を深めるとともに、関係機関の連携強化による切れ目のない支援の充実や交流及び共同学習の今後の在り方についても実践的な研究を進めていく。			
授業計画			
第 1 回：障害のある子供の教育に関する制度の改正			
障害のある子供の就学に関する新しい支援の方向性や教育的ニーズについて協議し理解を深める。			
第 2 回：今日的な障害の捉え方と対応			
今日的な障害の捉え方や障害の種類や状態等と就学先決定の在り方等について協議し理解を深める。			
第 3 回：就学先決定等の仕組みに関する基本的な考え方			
就学に向けた様々な事前の準備をするための活動等について協議し理解を深める。			
第 4 回：特別支援学校のセンター的機能			
特別支援学校が担うセンター的機能について、法的根拠、提唱された背景、実施内容などについて協議し理解を深める。			
第 5 回：校内支援体制の構築と特別支援教育コーディネーター			
特別支援学校のセンター的機能を十分に働かせるための必要事項について協議し理解を深める。			
第 6 回：特別支援学校と幼稚園等との連携 1			
幼稚園及び認定こども園、保育所と連携した事例について取り上げ、分協議し理解を深める。			
第 7 回：特別支援学校と幼稚園及び保育所との連携 2			
特別支援学校のセンター的機能を用いた幼稚園及び認定こども園、保育所との連携について学ぶ。			
第 8 回：特別支援学校と小学校との連携 1			

小学校「通常の学級」と連携した事例について取り上げ、分析及び考察を行う。 第9回：特別支援学校と小学校との連携2 小学校「特別支援学級」と連携した事例について取り上げ、分析及び考察を行う。 第10回：特別支援学校と中学校との連携1 中学校「通常の学級」と連携した事例について取り上げ、分析及び考察を行う。 第11回：特別支援学校と中学校との連携2 中学校「特別支援学級」と連携した事例について取り上げ、分析及び考察を行う。 第12回：特別支援学校と高等学校との連携1 高等学校における特別支援教育の現状と課題、特別支援学校との連携等について協議する。 第13回：特別支援学校と高等学校との連携2 高等学校内に整備した特別支援学校や通級指導教室の現状と課題について協議する。 第14回：適切な支援を行うにあたって期待されるネットワークの構築 地域の関係機関等と連携したネットワークの構築について、現状と課題について協議する。 第15回：保護者（家庭）や地域の人々との連携の重要性に関する省察 これまでの授業内容について振り返りを行い、課題とその解決策についてまとめる。
テキスト 文部科学省(2018)「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」（海文堂出版） 文部科学省(2018)「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編等（幼稚部・小学部・中学部）」（開隆堂出版） 文部科学省(2018)「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」（開隆堂出版） 文部科学省(2018)「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」（開隆堂出版）
参考書・参考資料等 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課(2021)「障害のある子供の教育支援の手引き」 全国特別支援教育推進連盟(2017)「保護者や地域の理解を得るために」（ジアース新社）
学生に対する評価 特別支援学校と幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校との連携について理解し、実践できる力を評価する。 1 事例検討における分析の視点や着眼点（20％） 2 毎回の授業における協議題を踏まえたディスカッションの行動評価（20％） 3 小・中学校、高等学校等や市区町村との連携協力の在り方の理解（20％） 4 第15回「保護者（家庭）や地域の人々との連携の重要性に関する省察」の協議内容を踏まえたレポート（40％）

授業科目名：知的・発達障害特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：高橋 純一 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ			
現職教員学生			
知的障害および発達障害における感覚・知覚・認知の特性を理解する。その上で，児童生徒の行動の原因を分析し，それに基づいた指導・支援方法を提案，実践する。知的障害に加えて発達障害も扱うことで，特別支援学校の教師にとっては幼稚園，小学校，中学校，高等学校における特別支援教育についても触れる機会となる。現職教員学生では，これまでの実践を振り返って事例として分析する。到達目標は以下の通りである。 1．知的障害および発達障害における感覚・知覚・認知の特性について理解する。また，これまでの教育実践から児童生徒の感覚・知覚・認知の特性について振り返る。 2．事例分析の方法について理解する。学校現場では，事例検討を率先して進める能力を身につける。 3．実際の事例を提示して分析を行い，児童生徒の行動の原因を探り，それに基づいた指導・支援方法を検討する。特に，これまでの事例から自身の教育実践を省察する。			
学部新卒学生			
知的障害および発達障害における感覚・知覚・認知の特性を理解する。その上で，児童生徒の行動の原因を分析し，それに基づいた指導・支援方法を提案，実践する。知的障害に加えて発達障害も扱うことで，特別支援学校の教師にとっては幼稚園，小学校，中学校，高等学校における特別支援教育についても触れる機会となる。学部新卒学生では，実習の内容の振り返りと同時に現職教員学生の実践についても事例として学ぶことで議論を深める。到達目標は以下の通りである。 1．知的障害および発達障害における感覚・知覚・認知の特性について，理論的知見に加えて現職教員学生の教育実践も含めて理解する。 2．事例分析の方法について理解する。 3．実際の事例を提示して分析を行い，児童生徒の行動の原因を探り，それに基づいた指導・支援方法を検討する。			
授業の概要			
まずは障害モデルと障害概念について触れることで障害の捉え方について学ぶ。また障害者の権利に関する条約や国内法整備についても学ぶことで，最近の障害者政策について理解する。次に知的障害と発達障害をとりあげて感覚・知覚・認知の特性（感覚・知覚，注意，記憶，感			

情・言語，心的イメージ，運動）について理解する。これらを理解した上で，受講者自身の理解・受容を促す必要性を学ぶ。このとき，現職教員はこれまでの実践を省察し，学部新卒学生は実習を振り返ると同時に現職教員学生の実践からも学ぶ。さらに事例分析の方法について，幼稚園，小学校，中学校，高等学校を対象として理論的な観点から学ぶ。そのうえで特別支援学校における児童生徒を対象とした実際の事例検討会を行う。現職教員学生は実践経験を省察し，学部新卒学生は実習を振り返って事例を報告する。

I 知的障害と発達障害の教育に関する法制度および感覚・知覚・認知の特性，その理解

第1回：知的障害と発達障害の捉え方

障害モデルと障害概念の観点から，障害全般の捉え方について学ぶ。特に医学モデル，社会モデル，統合モデルの観点から児童生徒の特性と環境への両アプローチの必要性を理解する。あわせて，障害者の権利に関する条約，障害者差別解消法，発達障害者支援法などを通して現状の知的障害と発達障害の政策に関して基本的なことを学ぶ。

第2回：感覚・知覚・認知の特性：感覚・知覚

知的障害と発達障害の特性について，感覚・知覚（たとえば，感覚過敏・感覚鈍麻）の観点から理解する。

第3回：感覚・知覚・認知の特性：認知（注意）

知的障害と発達障害の特性について，認知（たとえば，注意の捕捉，焦点化と維持）の観点から理解する。

第4回：感覚・知覚・認知の特性：認知（記憶）

知的障害と発達障害の特性について，認知（たとえば，ワーキングメモリ・短期記憶，長期記憶）の観点から理解する。

第5回：感覚・知覚・認知の特性：認知（感情・言語）

知的障害と発達障害の特性について，認知（たとえば，感情コントロール，言語理解と表出）の観点から理解する。

第6回：感覚・知覚・認知の特性：認知（心的イメージ）

知的障害と発達障害の特性について，認知（たとえば，イメージの欠如，想像・創造）の観点から理解する。

第7回：感覚・知覚・認知の特性：運動

知的障害と発達障害の特性について，運動（たとえば，粗大運動と微細運動，視覚—運動協応）の観点から理解する。

第8回：感覚・知覚・認知の特性と教師の理解

これまで取りあげてきた知的障害と発達障害の感覚・知覚・認知の特性を踏まえて，受講者自身の理解・受容を促す必要性を学ぶ。特に差別研究の理論を踏まえて，感覚・知覚・認知など目に見えづらい特性の理解がいかに主観的であるか，児童生徒の理解・受容のためにはそれを客観的に見ることの重要性について理解する。現職教員学生はこれまでの実践を振り返って

レポートを作成し発表する。学部新卒学生は実習を振り返ってレポートを作成し発表すると同時に、現職教員学生の実践からも学ぶ。

II 事例分析の方法

第9回：幼稚園における知的・発達障害教育

幼稚園の段階を取りあげて、知的障害と発達障害に関する実際の事例について分析を行うことで事例分析の方法を学ぶ。

第10回：小学校における知的・発達障害教育

小学校の段階を取りあげて、知的障害と発達障害に関する実際の事例について分析を行うことで事例分析の方法を学ぶ。

第11回：中学校における知的・発達障害教育

中学校の段階を取りあげて、知的障害と発達障害に関する実際の事例について分析を行うことで事例分析の方法を学ぶ。

第12回：高等学校における知的・発達障害教育

高等学校の段階を取りあげて、知的障害と発達障害に関する実際の事例について分析を行うことで事例分析の方法を学ぶ。

II 事例分析の実際

第13回：事例報告の準備：内容の検討

特別支援学校における児童生徒を対象とした事例分析に向けて報告内容の検討を行う。現職教員学生はこれまでの実践を振り返り、学部新卒学生は実習の内容を振り返る。実際の事例を扱うため、個人情報の保護は厳重に行う。

第14回：事例報告の準備：報告書の作成

特別支援学校における児童生徒を対象とした事例分析に向けて報告書を作成する。必要に応じて、ビデオなど事例分析に役立つような情報も準備する。実際の事例を扱うため、個人情報の保護は厳重に行う。

第15回：事例分析の実際

受講者が事例報告者となって事例検討会を行う。事例を分析し、必要な指導・支援方法について受講者どうしで議論を深める。最後に、演習内容について振り返り、受講者なりの課題とその解決策について考えをまとめる。事例検討会で知りえた情報は厳守する。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

渡部律子（編著）（2007）「気づきの事例検討会 スーパーバイザーがいなくても実践力は高められる」（中央法規）

学生に対する評価

- 1．知的障害および発達障害に関する受講者の振り返り（第8回）におけるレポート（50％）
- 2．事例検討会における事例の準備状況と事例発表（30％）
- 3．議論における分析の視点や指導・支援方法の提案（20％）

授業科目名：障害児に 対する実践的指導方法 の事例研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：柳沼 哲 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ 障害のある子どもの障害特性を理解し、授業場面や生活場面における様々な困難や課題を明らかにする。また、これらの状況を改善・克服するための具体的な指導や対応方法を事例検討や授業研究を通して考える。 現職教員学生 1．特別支援学校における実践的指導方法について考察するため、事例検討や授業研究の方法について理解できる。 2．身につけた事例検討や授業研究の方法をもとに、自らの教育実践を省察し具体的な改善策を検討することができる。 3．障害特性を理解するとともに、障害による生活上又は学習上の課題を改善克服するための具体的な方法について考えることができる。 学部新卒学生 1．特別支援学校における実践的指導方法について考察するため、事例検討や授業研究の方法について理解できる。 2．身につけた事例検討の方法をもとに、架空事例あるいは現職教員学生が報告する教育実践を検討することができる。 3．障害特性を理解するとともに、障害による生活上又は学習上の課題を改善克服するための方法について考えを深めることができる。			
授業の概要 学校現場、特に特別支援学校に在籍している幼児児童生徒への効果的な事例研究の方法を学ぶ。そのうえで、個別性に基づいた教育的関わりを探り、障害のある児童生徒への実践的指導方法について理解を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス・障害児に対する事例研究の意義（1） 「特別支援教育と事例研究の関係について」 第2回：障害児に対する事例研究の意義（2） 「子ども理解と事例検討について」 第3回：教育現場における事例検討の実際（1） 「障害のある子どもの事例検討の実際について」			

第4回：教育現場における事例検討の実際（2）

「校内委員会や特別支援学校のセンター的機能を活用した事例検討の実際」

第5回：事例検討の方法（1）

「事例検討の進め方について」

第6回：事例検討の方法（2）

「実態把握の方法について」

第7回：事例検討の方法（3）

「指導計画の設定について」

第8回：事例検討の方法（4）

「計画に基づく実践と評価について」

第9回：事例検討における情報の取り扱いと注意事項

第10回：事例検討の実際（1）

「模擬事例を通じた参加者の役割分担について」

第11回：事例検討の実際（2）

「模擬事例を通じた事例検討の進め方について」

第12回：事例検討の実際（3）

「知的障害児の事例検討について」

第13回：事例検討の実際（4）

「肢体不自由児の事例検討について」

第14回：事例検討の実際（5）

「病弱児の事例検討について」

第15回：事例研究に関するまとめ、全体発表

テキスト

なし

参考書・参考資料等

- ・新井英靖(2019)「特別支援学校新学習指導要領を読み解く「各教科」「自立活動」の授業づくり」
明治図書
- ・その他、授業中に適宜参考資料を配付する。

学生に対する評価

- 1．各回の授業を振り返るディスカッションの行動評価(30%)
- 2．各自が調査した事例についてのレポートと発表(20%)
- 3．事例検討による実践的な指導方法についての報告書(30%)
- 4．報告書に関するプレゼンテーションの内容及び表現(20%)

授業科目名：障害児に対する実践的指導方法の実際	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：鶴巻正子 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 現職教員学生 特別支援学校における授業実践を振り返りながら、授業を省察する視点を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 1. 「特別支援学校における実習」とおして、特別支援学校における実践的指導方法について自らの実践と関わらせながら検討することができる。 2. 自らの実践とディスカッション活動をとおして省察することができる。 3. 理論と実践を往還させながら教育現場で教育実践を進める自覚を持つことができる。 学部新卒学生 特別支援学校における授業実践振り返るための基礎的な考え方の修得に向けて、授業を省察するための基礎を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 1. 「特別支援学校における実習」とおして、特別支援学校における実践的指導方法について検討することができる。 2. ディスカッション活動をとおして省察することができる。 3. 理論と実践を往還させながら、教育実践を進める自覚を持つことができる。			
授業の概要 障害児に対する指導法の実践について学ぶ。個別の指導計画および個別の教育支援計画の作成、教材開発、校内委員会などについて実践的な支援方法の習得を目指す。			
授業計画 第1回：ガイダンス、教育課題の明確化（1） 知的障害、肢体不自由、病弱、あるいは自閉症スペクトラム障害など、学部新卒院生の教育実習や現職派遣教員院生の教育実践の経験をとおし、特別支援学校における障害のある子どもの発達にかかわる観点を中心にどのような教育課題があったか話し合う。 第2回：教育課題の明確化（2） 特別支援学校における障害のある子どもを取り巻く学校環境を中心とした教育課題を話し合い、各自の研究課題との関連を明らかにする。 第3回：教育課題の明確化（3） 特別支援学校における障害のある子どもを取り巻く家庭環境を中心とした教育課題を話し合			

い、各自の研究課題との関連を明らかにする。

第4回：教育課題の明確化（4）

連携協力校の参観と連携協力校担当者とのディスカッションや助言をとおり、各自の研究課題との関連を明らかにする。

第5回：教育課題の明確化（5） 各自の研究課題との関連を明らかにする。

第6回：障害のある子どもの指導方法（1）

前時までの記録作成方法及び留意点について発表やディスカッションをとおり、より効果的で各自の研究課題と一致する記録法を明らかにする。

第7回：障害のある子どもの指導方法（2）

各自の研究課題と一致するより効果的な指導方法を明らかにする。

第8回：障害のある子どもの指導方法（3）

各自の研究課題と一致する指導方法について連携協力校担当者から助言を受ける。

第9回：障害のある子どもの指導方法（4）

連携校協力校の授業に補佐役として参加する。

第10回：障害のある子どもの指導方法（5）

参加した授業について連携校協力校の教員とディスカッションを行う。

第11回：障害のある子どもの指導方法（6）

連携校協力校の授業に授業構想から参加し授業に参加する。

第12回：障害のある子どもの指導方法（7）

連携校協力校の授業に授業構想から参加し積極的な役割をもって授業に参加する。

第13回：障害のある子どもの指導方法（8）

参加した授業について連携校協力校の教員とディスカッションを行う。

第14回：記録、成果物の作成

「障害児に対する実践的指導方法の実際」をとおり記録をまとめて成果物を作成する。

第15回：まとめ（発表）

互いの研究課題に対する成果物を発表し、今後の研究の展開について指導・助言を受ける。

定期試験：半期を振り返るレポート作成を課す。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

大塚玲（編著）（2015）「インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門」（萌文書林）

学生に対する評価

- 1．各自が調査した事例の内容に関する報告書（40％）
- 2．各回の授業を振り返るディスカッションの行動評価（10％）

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">3．調査報告に関するプレゼンテーションの内容及び表現（40％）4．基本的な理解に関する毎時間のミニレポート（10％） |
|---|

授業科目名：応用行動分析学からみた知的障害教育の事例と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：鶴巻正子
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
特別支援学校における授業実践を振り返りながら、応用行動分析学の理論を通して授業を省察する見方を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			
1．「特別支援学校における実習」をとおして、特別支援学校における実践的指導方法について自らの実践と関わらせながら検討することができる。			
2．自らの実践とディスカッション活動をとおして省察することができる。			
3．応用行動分析学に関する理論と実践の往還をしながら、教育現場における教育実践を進める自覚を持つことができる。			
学部新卒学生			
特別支援学校における授業実践振り返るための基礎的な考え方の修得に向けて、授業を省察するための基礎として応用行動分析学的な見方を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			
1．「特別支援学校における実習」をとおして、特別支援学校における実践的指導方法について実践することができる。			
2．ディスカッション活動をとおして省察することができる。			
3．応用行動分析学に関する理論と実践の往還をしながら、教育実践を進める自覚を持つことができる。			
授業の概要			
特別支援学校において知的障害、肢体不自由、病弱、あるいは自閉症スペクトラム障害との重複など多様な実態の児童生徒を理解し、それぞれの児童生徒の実態に応じた実践的指導方法を応用行動分析学の視点から学び、児童生徒理解と実際の指導方法について特別支援学校において実践的に学び、省察する。			
授業計画			
第 1 回：ガイダンス、応用行動分析学の基礎			
知的障害、肢体不自由、病弱、あるいは自閉症スペクトラム障害など、学部新卒院生の教育実習や現職派遣教員院生の教育実践の経験をとおし、特別支援学校における障害のある子どもの発達にかかわる観点を中心にどのような教育課題があったか話し合う。			

第2回：教育課題の明確化

特別支援学校における障害のある子どもを取り巻く学校環境を中心とした教育課題を話し合い、各自の研究課題との関連を明らかにする。

第3回：応用行動分析学における「行動」のとりえ方

第4回：三項随伴性の理解

障害のある子どもにみられる行動を、先行事象(Antecedent)-行動(Behavior)-後続事象(Consequence)の三項随伴性から理解し、A B C 分析による記録法を理解する。

第5回：基本的な4つの随伴性の理解(1)「好子出現による強化」の具体例

第6回：基本的な4つの随伴性の理解(2)「嫌子消失による強化」の具体例

第7回：基本的な4つの随伴性の理解(3)「好子消失による弱化」の具体例

第8回：基本的な4つの随伴性の理解(4)「嫌子出現による弱化」の具体例

第9回：先行事象の理解 指導・支援にいかせる先行事象の工夫について話し合い理解する。

第10回：後続事象の理解 指導・支援にいかせる後続事象の工夫について話し合い理解する。

第11回：機能分析の基礎(1)

不適切な行動に代替される望ましい行動の増加をめざす機能分析の基礎を理解する。

第12回：機能分析の基礎(2)

代替される望ましい行動の増加をめざす機能分析の実際について指導方法を検討する

第13回：機能分析の基礎(3)

応用行動分析学の視点から各自の研究課題との関連を明らかにする。

第14回：記録、成果物の作成

「障害児に対する実践的指導方法の実際」をとおり記録をまとめて成果物を作成する。

第15回：まとめ(発表)

互いの研究課題に対する成果物を発表し、今後の研究の展開について指導・助言を受ける。

定期試験：半期を振り返るレポート作成を課す。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

アルバート&トルートマン著 佐久間・谷・大野訳(2004)「はじめての応用行動分析(日本語版第2版)」(二瓶社)

学生に対する評価

1. 各自が調査した事例の内容に関する報告書(40%)
2. 各回の授業を振り返るディスカッションの行動評価(10%)
3. 調査報告に関するプレゼンテーションの内容及び表現(40%)
4. 基本的な理解に関する毎時間のミニレポート(10%)

授業科目名：自立活動 の事例と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小檜山宗浩 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
1. 肢体不自由の幼児児童生徒を中心とした自立活動の教育課程編成や具体的な指導方法について、実践的理解を深める。			
2. さらに、視覚障害や聴覚障害、知的障害、肢体不自由又は病弱の複数の障害を併せ有する重複障害の幼児児童生徒の自立活動の在り方についての実践的理解を深める。			
学部新卒学生			
1. 肢体不自由児を中心とした自立活動の教育課程と指導方法について理解を深める。			
2. 自立活動の教育課程編成の在り方を修得する。			
授業の概要			
主に肢体不自由児を対象として自立活動の理論と実践について学ぶ科目である。自立活動の歴史的変遷や授業内容、教師の専門性の向上、他職種との協働の必要性など、障害種に応じた効果的な自立活動の実践について授業分析を通して学ぶとともに、個々の児童生徒の実態に即して作成される「個別の指導計画」の策定の手順や活用について講義および事例検討を通した学びにより、深い省察を行う。また、知的障害を伴う重度・重複障害児に対する自立活動についても理解することで、障害の重複化・多様化に対応できるより質の高い授業づくりについて研究を進めていく。			
授業計画			
第1回：肢体不自由教育の始まりと現在			
特殊教育の義務化以前から現在に至る肢体不自由教育の歴史的変遷について理解する。			
第2回：養護・訓練			
養護・訓練の始まりと指導内容について理解する。			
第3回：自立活動			
養護・訓練のから自立活動への変遷と自立活動の教育課程及び指導内容について理解する。			
第4回：自立活動に関する学習指導要領の理解（肢体不自由）			
特別支援学校学習指導要領自立活動編について、肢体不自由の観点から理解する。			
第5回：自立活動に関する学習指導要領の理解（重複障害）			
特別支援学校学習指導要領自立活動編について、知的障害と肢体不自由を重複している観点から理解する。			
第6回：障害特性を踏まえた教科指導と自立活動の理解			
第7回：肢体不自由を踏まえた体育の指導と自立活動の理解			
第8回：肢体不自由のある子供の各教科等を合わせた指導と自立活動の理解			

第9回：自立活動と個別の指導計画についての理解

第10回：重複障害児の理解

重度心身障害児の指導についての理解を深める。

第11回：重度・重複障害児の指導の実際とコミュニケーション支援

第12回：自立活動の評価

実践事例を基に自立活動の評価について理解を深める。

第13回：特別支援学校の教育課程編成の事例に関する分析

特別支援学校で実際に展開されている自立活動を事例として取り上げ、学部及び障害種の観点から分析及び考察を行う。

事例を持ち寄り、自立活動の在り方についてディスカッションを行う。

第14回：自立活動の個別の指導計画の作成と内容の取扱いに関する分析と考察

個別の指導計画の作成や手順、活用等について協議し理解を深める。

第15回：障害の捉え方の変化と自立活動のかかわりに関する省察

これまでの授業内容について振り返りを行い、課題とその解決策についてまとめる。

テキスト

文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」開隆堂出版、平成30年

参考書・参考資料等

全国肢体不自由養護学校長会(2008)「新たな肢体不自由教育実践講座」（ジアース新社）

国立特別支援教育総合研究所(2008)「肢体不自由教育 授業の評価・改善に役立つQ&Aと特色ある実践」（ジアース教育新社）

学生に対する評価

自立活動の理論的理解、特別支援学校における自立活動の内容及び教育課程編成について理解し、実践できる力を評価する。

1. 事例検討における自立活動の理解（指導法、教材）（20％）
2. 毎回の授業における協議題を踏まえたディスカッションの行動評価（20％）
3. 特別支援学校における自立活動の教育課程編成の理解（20％）
4. 「障害の捉え方の変化と自立活動のかかわりに関する省察」の協議内容を踏まえたレポート（40％）

授業科目名：病弱児教育の事例と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：柳 沼 哲 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ			
子どもの病気には様々な病態があり、個々の病状によって教育活動についての制限がある。このような状況において、幼児児童生徒の学習を保証し、学ぶ意欲を継続させるための取り組みを、学校現場での事例をとおして考える。			
現職教員学生			
1．病弱児教育を広い観点から理解し、自らの実践と関連させながら、病弱児教育の実践力を高めることができる。			
2．困難を抱える病弱児の指導や援助の方法を自らの実践と比較して理解を深めることができる。			
3．病弱児教育授業の授業目標の設定と評価のあり方を現場の実態をふまえ理解できる。			
学部新卒学生			
1．病弱児教育を広い観点から理解し、基礎的な病弱児教育の実践内容を考察することができる。			
2．困難を抱える病弱児の指導方法、援助方法の基本を理解できる。			
3．病弱児教育における授業の目標と評価の基本的なあり方を理解できる。			
授業の概要			
病弱児は、長期間の療養を余儀なくされることが多く、教育は、特別支援学校、特別支援学級、通級、院内学級、自宅等様々な場所で行われる。また、本人や家族の精神的なサポートも強く要求される。情緒の安定や意欲の向上は病状の回復にも影響するといわれる。事例と実践を通して有効な教育方法を探る。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション・病弱児の教育について			
第 2 回：特別支援教育と病弱教育の歴史について			
第 3 回：小児医療の進歩と子どもの病気について			
第 4 回：病弱教育の場と対象について			
第 5 回：病弱特別支援学校の教育課程と指導の実際（ 1 ） 「各教科の指導」			
第 6 回：病弱特別支援学校の教育課程と指導の実際（ 2 ） 「自立活動の指導」			
第 7 回：病気の子どもの心理について			

第8回：院内学級における指導の実際（１）

～インタビュー～

第9回：院内学級における指導の実際（２）

～レポート作成～

第10回：通常学級における指導の実際と支援について

第11回：訪問学級における指導の実際と医療的ケアについて

第12回：病気の子どもと就学前の保育、教育、援助について

第13回：病気の子どもの卒業後の進路と支援について

第14回：長期入院による家族支援の現状と精神的なサポートについて

第15回：まとめ、全体の発表、ディスカッション

テキスト

なし

参考書・参考資料等

- ・全国特別支援学校病弱教育校長会(2020)「病気の子どものための教育必携」ジヤース教育新社
- ・その他、授業中に適宜参考資料を配付する。

学生に対する評価

- １．各回の授業を振り返るディスカッションの行動評価(30%)
- ２．インタビュー事例についてのレポート(20%)
- ３．病弱特別支援学校の教育実践についてのレポート(30%)
- ４．全体発表に関するプレゼンテーションの内容及び表現(20%)

授業科目名：特別支援教育実践プロジェクト研究	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：鶴巻正子・高橋純一・小檜山宗浩・柳沼 哲
			担当形態：複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
ミドル・リーダー			
これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			
1．「特別支援学校における実習」をとおして得た知見をもとに、特別支援学校の学校課題に対応した研究課題を明確にし、実践研究をすることによって研究課題を再設定する。			
2．ディスカッション活動をとおして省察することができる。			
3．理論と実践の往還をはかりながら、特別支援学校における教育実践を進める自覚を持つことができる。			
若手現職学生			
これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める基礎的な力量を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			
1．研究課題を明確にし、これまでの自己の教育実践と対比し、新たな視点で取り組もうとする観点から「特別支援学校における実習」をとおして得た知見をもとに、研究課題を再設定する。			
2．新たに発見した実践的な観点をもとに、ディスカッション活動を通して自らの特別支援学校における教育実践を省察することができる。			
3．新たに発見した実践的な観点と理論を結びつける視点から、特別支援学校における教育実践を高める自覚を持つ。			
学部新卒学生			
これまでの学部での学びと実践を通して、理論と実践を往還しながら教育実践を進めるための基礎を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			
1．特別支援学校全体の仕事を理解し、それに慣れる観点から「特別支援学校における実習」をとおして得た知見をもとに、研究課題を明確にして実践研究をすることにより研究課題を			

再設定する。

- 2．特別支援学校での経験の意味を解釈する観点から、ディスカッション活動をとおして特別支援学校全体を省察することができる。
- 3．特別支援学校での経験を相対化する観点から、理論と実践を往還させながら、教育実践を進める自覚を持つことができる。

授業の概要

本科目は、特別支援教育コース所属の受講生を対象としている。実習（学卒：長期インターンシップ、若手現職：教職専門実習、学校支援実習、教育実践高度化実習、ミドル・リーダー：教職専門実習、学校支援実習、学校課題対応実習）における「実践」と、共通科目及び選択科目（特別支援学校における学級経営の実践研究、特別支援学校における学校経営の実践研究、特別支援学校と地域の実践研究ほか）に関する「教育理論と学校現場での問題解決の方法論」の往還を企図した科目である。 は1年前期に配置し、各自の研究課題を明確にする。

授業計画

「特別支援教育実践プロジェクト研究」は特別支援学校における理論と実践を高次に往還させ、そのなかで養われた資質・能力を駆使し、福島の特別支援教育の未来を創造する教育を計画・実行・分析・評価しうる総合的な能力の育成をめざす領域の科目群である。

この領域の基本構造は「特別支援教育実践プロジェクト研究 ～ 」及び「教育実践報告書」で構成される。大学院生自らの課題あるいは学校課題に対応した研究課題を明確にし、その課題を解決するための理論と方法を学び、具体的な課題解決の方策を計画・実践し、その結果を分析・評価しながら主体的に進め、その成果を「教育実践報告書」にまとめる。このPDCAサイクルを遂行するにあたっては連携協力校における学校実習を教育実践フィールドとして活用する。また、「特別支援教育実践プロジェクト研究 ～ 」で得た実践的知見を学校現場にフィードバックするためにラウンドテーブル（教育実践報告会）等での発表を義務づける。

学校実習との関わりについては、学部新卒院生は「長期インターンシップ ・ 」での教育実践や課題探求をふまえ連携協力校の協力を得つつ、「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。現職派遣教員等は、連携協力校を教育実践フィールドとする「教育実践高度化実習」または「学校課題対応実習」と関連させつつ「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。

第1回 オリエンテーション（プロジェクト研究のねらいと方法）

第2回 実践研究テーマの立て方

第3回 実践研究テーマに関するディスカッション

第4回 実践研究のテーマの検討

第5回 実践研究の第一次構想発表

第6回 先行実践研究の整理の方法

第 7 回 文献調査と実践研究の書き方

第 8 回 文献を読み解くということ（個別実証研究のあり方をふまえて）

第 9 回 実践を読み解くということ（実践研究とは何かをふまえて）

第 10 回 実践報告書の序論の書き方（当該分野の学習指導要領の整理）

第 11 回 実践報告書の序論の書き方（研究論文の位置づけ）

第 12 回 実践報告書の序論の書き方（各自の実践の位置づけと問題意識）

第 13 回 実践報告書の序論についての発表

第 14 回 発表における成果と課題

第 15 回 まとめ（実践を研究すること）

定期試験：ラウンドテーブルや中間報告会での発表もふまえて評価する

テキスト

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領

特別支援学校高等部学習指導要領

特別支援学校幼稚部教育要領

参考書・参考資料等

関口靖広(2013)「質的研究のための質的研究法講座」（北大路書房）

酒井聡樹(2017)「これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版」（共立出版）

学生に対する評価

- 1．レポート・報告書による評価（授業全体の振り返りをもとにした実践報告書 20％、各自の課題別の報告書 20％）
- 2．ディスカッションへの参加（実践を振り返るディスカッションの行動評価 20％）
- 3．ディスカッションでのプレゼンテーション（各自の実践報告に関するプレゼンテーション内容及び表現方法 20％）
- 4．毎回ディスカッションの課題（ディスカッション内容の理解に関する毎時間のミニレポート 10％、ディスカッションをもとにした課題ミニレポート 10％）

授業科目名：特別支援教育実践プロジェクト研究	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1 単位	担当教員名：鶴巻正子・高橋純一・小檜山宗浩・柳沼 哲 担当形態：複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
現職教員学生			
これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 １．「特別支援学校における実習」から得た知見と特別支援教育実践プロジェクト研究 で明確になった研究課題を、連携協力校の実践を自らの実践とかかわらせながら課題解決法を探究することができる。 ２．ディスカッション活動をととして自らの教育実践を省察することができる。 ３．理論と実践を往還させながら、実態をふまえた教育実践を進めることができる。			
学部新卒学生			
学校における実習をととし、これまでの教育実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進めるための基礎を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 １．「特別支援学校における実習」をととして得た知見と特別支援教育実践プロジェクト研究 で明確になった研究課題に基づき、連携協力校の実践を分析しながら、課題解決法を探究することができる。 ２．ディスカッション活動をととして自らの教育実践を省察することができる。 ３．理論と実践を往還させながら、教育実践を進める自覚を持つことができる。			
授業の概要			
実習（学校実習あるいは長期インターンシップ）における「実践」と、共通科目及び選択科目（特別支援教育論、障害児に対する実践的指導方法の事例研究）に関する「教育理論と学校現場での問題解決の方法論」の往還を企図した科目である。これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。 は１年後期に配置し、連携協力校での状況を分析しながら課題解決法を探究する。 は２年前期に配置し、授業等を計画し、教育実践を行い、カンファレンス等を通して省察する。			
授業計画			

「特別支援教育実践プロジェクト研究」は、特別支援学校における理論と実践を高次に往還させつつ、そのなかで養われた資質・能力を駆使し、福島の特別支援教育の未来を創造する教育を計画・実行・分析・評価しうる総合的な能力の育成をめざす領域の科目群である。

この領域の基本構造は「特別支援教育実践プロジェクト研究 ～ 」及び「教育実践報告書」で構成される。大学院生自らの課題あるいは学校課題に対応した研究課題を明確にし、その課題を解決するための理論と方法を学び、具体的な課題解決の方策を計画・実践し、その結果を分析・評価しながら主体的に進め、その成果を「教育実践報告書」にまとめる。このPDCAサイクルを遂行するにあたっては連携協力校における学校実習を教育実践フィールドとして活用する。また、「特別支援教育実践プロジェクト研究 ～ 」で得た実践的知見を学校現場にフィードバックするためにラウンド・テーブル(教育実践報告会)等での発表を義務づける。

学校実習との関わりについては、学部新卒院生は「長期インターンシップ ・ 」での教育実践や課題探求をふまえ連携協力校の協力を得つつ教育実践研究を行い、その成果をまとめる。現職派遣教員等は、連携協力校を教育実践フィールドとする「教育実践高度化実習」または「学校課題対応実習」と関連させつつ教育実践研究を行い、その成果をまとめる。

第1回 オリエンテーション(前期の反省と研究姿勢について)

第2回 実践研究における本論の書き方

第3回 実践研究における本論(1年次実践の位置づけ:予備的实践として)

第4回 実践研究における本論(2年次実践に向けて)

第5回 実践研究における本論に関するグループ発表

第6回 実践研究の提案授業(単元構想)

第7回 実践研究の提案授業(学習指導案)

第8回 実践研究の提案授業(学習評価のあり方)

第9回 実践研究の検討(授業の導入)

第10回 実践研究の検討(授業の展開)

第11回 実践研究の検討(授業の終末)

第12回 実践研究の検討(授業の学習評価)

第13回 実践研究における提案授業のグループ発表

第14回 グループ発表における成果と課題

第15回 まとめ(発表をふまえての相互意見交換)

定期試験:ラウンドテーブルや中間報告会での発表もふまえて評価する

テキスト

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領

特別支援学校高等部学習指導要領

特別支援学校幼稚部教育要領

参考書・参考資料等

関口靖広(2013)「質的研究のための質的研究法講座」(北大路書房)

酒井聡樹(2017)「これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版」(共立出版)

学生に対する評価

1. レポート・報告書による評価(授業全体の振り返りをもとにした実践報告書 20%、各自の課題別の報告書 20%)
2. ディスカッションへの参加(実践を振り返るディスカッションの行動評価 20%)
3. ディスカッションでのプレゼンテーション(各自の実践報告に関するプレゼンテーション内容及び表現方法 20%)
4. 毎回ディスカッションの課題(ディスカッション内容の理解に関する毎時間のミニレポート 10%、ディスカッションをもとにした課題ミニレポート 10%)

授業科目名：特別支援教育実践プロジェクト研究	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：鶴巻正子・高橋純一・小檜山宗浩・柳沼 哲 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 ミドル・リーダー これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながらミドル・リーダーとして教育実践を進める力量を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 1．研究課題と課題解決法にもとづいて特別支援学校の授業案を計画し教育実践を行い、基礎的な実践力、授業力を身に付けることができる。 2．ディスカッション活動をととして自らの特別支援学校における教育実践を省察することができる。 3．理論と実践の往還をしながら、特別支援学校における教育実践を進める自覚を持つことができる。 若手現職学生 これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 1．研究課題を明確にし、これまでの自己の教育実践と対比し、新たな視点で取り組もうとする視点から、研究課題と課題解決法にもとづいて特別支援学校の授業案を計画し教育実践を行い、基礎的な実践力、授業力を身に付けることができる。 2．新たに発見した実践的な観点をもとに、ディスカッション活動をととして自らの特別支援学校における教育実践を省察することができる。 3．新たに発見した実践的な観点と理論を結びつける観点から、理論と実践を往還しながら、特別支援学校における教育実践を進める自覚を持つことができる。 学部新卒学生 これまでの学部での学びと実践を通して、理論と実践を往還しながら教育実践を進めるための基礎を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。 1．特別支援学校全体の仕事を理解しそれに慣れる観点から、研究課題と課題解決法にもとづ			

いて特別支援学校の授業案を計画し教育実践を行い、基礎的な実践力、授業力を身に付けることができる。

２．特別支援学校での経験の意味を解釈する観点から、ディスカッション活動をとおして省察することができる。

３．特別支援学校での経験を相対化する観点から、理論と実践を往還させながら、特別支援学校における教育実践を進める自覚を持つことができる。

授業の概要

本科目は、特別支援教育コース所属の受講生を対象としている。実習（学卒：長期インターンシップ、若手現職：教職専門実習、学校支援実習、教育実践高度化実習、ミドル・リーダー：教職専門実習、学校支援実習、学校課題対応実習）における「実践」と、共通科目及び選択科目（特別支援学校における学級経営の実践研究、特別支援学校における学校経営の実践研究、特別支援学校と地域の実践研究ほか）に関する「教育理論と学校現場での問題解決の方法論」の往還を企図した科目である。これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。は２年前期に配置し、授業等を計画し、授業実践を行い、ディスカッション等をとおして省察する。

授業計画

「特別支援教育実践プロジェクト研究」は特別支援学校における理論と実践を高次に往還させ、そのなかで養われた資質・能力を駆使し、福島の特別支援教育の未来を創造する教育を計画・実行・分析・評価しうる総合的な能力の育成をめざす領域の科目群である。

この領域の基本構造は「特別支援教育実践プロジェクト研究 ～ 」及び「教育実践報告書」で構成される。大学院生自らの課題あるいは学校課題に対応した研究課題を明確にし、その課題を解決するための理論と方法を学び、具体的な課題解決の方策を計画・実践し、その結果を分析・評価しながら主体的に進め、その成果を「教育実践報告書」にまとめる。このPDCAサイクルを遂行するにあたっては連携協力校における学校実習を教育実践フィールドとして活用する。また、「特別支援教育実践プロジェクト研究 ～ 」で得た実践的知見を学校現場にフィードバックするためにラウンドテーブル（教育実践報告会）等での発表を義務づける。

学校実習との関わりについては、学部新卒院生は「長期インターンシップ ・ 」での教育実践や課題探求をふまえ連携協力校の協力を得つつ、「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。現職派遣教員等は、連携協力校を教育実践フィールドとする「教育実践高度化実習」または「学校課題対応実習」と関連させつつ「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。

第１回 オリエンテーション（プロジェクト研究のねらいと方法）

第２回 実践研究テーマの再検討

第3回 実践研究テーマにおける「はじめに」 第4回 実践研究テーマのグループ検討 第5回 実践研究について 第6回 当該テーマにおける先行実践研究の整理 第7回 当該テーマにおける実践研究課題の検討 第8回 当該テーマにおける実践研究方法の検討 第9回 序論部分の検討（先行実践研究） 第10回 序論部分の検討（当該分野の学習指導要領の整理） 第11回 実践研究についての構想発表 第12回 課題の整理 第13回 本論の検討（提案実践の構想） 第14回 本論の検討（提案実践の具体化） 第15回 まとめ（研究に関わる相互意見交換） 定期試験：ラウンドテーブルや中間報告会での発表もふまえて評価する
テキスト 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領 特別支援学校幼稚部教育要領
参考書・参考資料等 関口靖広(2013)「質的研究のための質的研究法講座」(北大路書房) 酒井聡樹(2017)「これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版」(共立出版)
学生に対する評価 1. レポート・報告書による評価(授業全体の振り返りをもとにした実践報告書 20%、各自の課題別の報告書 20%) 2. ディスカッションへの参加(実践を振り返るディスカッションの行動評価 20%) 3. ディスカッションでのプレゼンテーション(各自の実践報告に関するプレゼンテーション内容及び表現方法 20%) 4. 毎回ディスカッションの課題(ディスカッション内容の理解に関する毎時間のミニレポート 10%、ディスカッションをもとにした課題ミニレポート 10%)

授業科目名：特別支援教育実践プロジェクト研究	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：鶴巻正子・高橋純一・小檜山宗浩・柳沼 哲 担当形態：複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
ミドル・リーダー			
これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながらミドル・リーダーとして教育実践を進める十分な力量を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す			
1．プロジェクト研究の集大成として実践結果の分析・評価を行うとともに、課題検証の実践を行うことを通じて、探究力、実践力、授業力を身に付けることができる。			
2．カンファレンス活動をとおして自らの特別支援学校における教育実践を省察することができる。			
3．理論と実践の往還をしながら、特別支援学校における教育実践を進める自覚を持つことができる。			
若手現職学生			
これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める十分な力量を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			
1．研究課題を明確にし、これまでの自己の教育実践と対比し、新たな視点で取り組もうとする視点から、プロジェクト研究の集大成として実践結果の分析・評価を行うとともに、課題検証の実践を行うことを通じて、探究力、実践力、授業力を身に付けることができる。			
2．新たに発見した実践的な観点をもとに、ディスカッション活動をとおして自らの特別支援学校における教育実践を省察することができる。			
3．新たに発見した実践的な観点と理論を結びつける観点から、理論と実践を往還しながら、特別支援学校における教育実践を進める自覚を持つことができる。			
学部新卒学生			
これまでの学部での学びと実践を通して、理論と実践を往還しながら即戦力として教育実践を進めるための基礎を身につける。具体的には以下の到達目標を達成することを目指す。			

- 1．特別支援学校全体の仕事を理解しそれに慣れる観点から、プロジェクト研究の集大成として実践結果の分析・評価を行うとともに、課題検証の実践を行うことを通じて、探究力、実践力、授業力を身に付けることができる。
- 2．特別支援学校での経験の意味を解釈する観点から、ディスカッション活動をとおして省察することができる。
- 3．特別支援学校での経験を相対化する観点から、理論と実践を往還させながら、特別支援学校における教育実践を進める自覚を持つことができる。

授業の概要

本科目は、特別支援教育コース所属の受講生を対象としている。実習（学卒：長期インターンシップ、若手現職：教職専門実習、学校支援実習、教育実践高度化実習、ミドル・リーダー：教職専門実習、学校支援実習、学校課題対応実習）における「実践」と、共通科目及び選択科目（特別支援学校における学級経営の実践研究、特別支援学校における学校経営の実践研究、特別支援学校と地域の実践研究ほか）に関する「教育理論と学校現場での問題解決の方法論」の往還を企図した科目である。これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。は2年後期に配置し、実践結果の分析・評価を行うとともに、課題検証の実践を行う。

授業計画

「特別支援教育実践プロジェクト研究」は特別支援学校における理論と実践を高次に往還させ、そのなかで養われた資質・能力を駆使し、福島の特別支援教育の未来を創造する教育を計画・実行・分析・評価しうる総合的な能力の育成をめざす領域の科目群である。

この領域の基本構造は「特別支援教育実践プロジェクト研究 ～ 」及び「教育実践報告書」で構成される。大学院生自らの課題あるいは学校課題に対応した研究課題を明確にし、その課題を解決するための理論と方法を学び、具体的な課題解決の方策を計画・実践し、その結果を分析・評価しながら主体的に進め、その成果を「教育実践報告書」にまとめる。このPDCAサイクルを遂行するにあたっては連携協力校における学校実習を教育実践フィールドとして活用する。また、「特別支援教育実践プロジェクト研究 ～ 」で得た実践的知見を学校現場にフィードバックするためにラウンドテーブル（教育実践報告会）等での発表を義務づける。

学校実習との関わりについては、学部新卒院生は「長期インターンシップ ・ 」での教育実践や課題探求をふまえ連携協力校の協力を得つつ、「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。現職派遣教員等は、連携協力校を教育実践フィールドとする「教育実践高度化実習」または「学校課題対応実習」と関連させつつ「プロジェクト研究」として教育実践研究を行い、その成果をまとめる。

第1回 オリエンテーション（プロジェクト研究のまとめ方）

- 第 2 回 実践研究テーマの深化：課題意識の精査
 第 3 回 実践研究テーマ選択に向けて：先行研究の追加と再整理
 第 4 回 実践研究テーマの再検討
 第 5 回 実践研究の中間発表会
 第 6 回 当該テーマにおける先行実践研究の再整理
 第 7 回 当該テーマにおける実践研究課題の再検討
 第 8 回 当該テーマにおける実践研究方法の再検討
 第 9 回 序論部分の検討（先行実践研究）
 第 10 回 序論部分の検討（当該分野の学習指導要領の整理）
 第 11 回 実践研究の中間発表
 第 12 回 本論の整理（提案実践の実証的検討）
 第 13 回 結論の検討（実践研究の成果と課題）
 第 14 回 実践研究の最終発表
 第 15 回 まとめ：全体発表をふまえての相互意見交換
 定期試験：ラウンドテーブルや中間報告会での発表もふまえて評価する

テキスト

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領
 特別支援学校高等部学習指導要領
 特別支援学校幼稚部教育要領

参考書・参考資料等

関口靖広(2013)「質的研究のための質的研究法講座」（北大路書房）
 酒井聡樹(2017)「これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版」（共立出版）

学生に対する評価

- 1．レポート・報告書による評価（授業全体の振り返りをもとにした実践報告書 20％、各自の課題別の報告書 20％）
- 2．ディスカッションへの参加（実践を振り返るディスカッションの行動評価 20％）
- 3．ディスカッションでのプレゼンテーション（各自の実践報告に関するプレゼンテーション内容及び表現方法 20％）
- 4．毎回ディスカッションの課題（ディスカッション内容の理解に関する毎時間のミニレポート 10％、ディスカッションをもとにした課題ミニレポート 10％）

授業科目名： 先端食品科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 石川大太郎、吉永和明、平修、 渡部潤、藤井力、西村順子、 熊谷武久、松田幹、升本早 枝子、尾形慎
			担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 食品分析やその利用の最新研究について理解し例をあげて説明できる。 ・ 食品に関わる微生物の利用や解析の最新研究について理解し例をあげて説明できる。 ・ 食品の素材や機能の最新研究について理解し例をあげて説明できる。			
授業の概要			
食品科学分野における基盤技術、理論、応用開発事例などの現状と最新の動向および今後の展 望について事例を紹介し、最新研究について理解を深める。			
授業計画			
第 1 回：食品の非破壊分析、脂溶性成分分析、食品網羅的分析および微生物ゲノムの基礎 （石川大太郎、吉永和明、平修、渡部潤）			
第 2 回：微生物機能利用（真核微生物）、微生物機能利用（原核微生物）、乳酸菌機能論およびプレバ イオ食品免疫論の基礎（藤井力、西村順子、熊谷武久、松田幹）			
第 3 回：ファイトケミカル機能論および糖質素材・酵素合成論の基礎、食品の非破壊分析の事例と動向 （升本早枝子、尾形慎、石川大太郎）			
第 4 回：脂溶性成分分析および食品網羅的分析の事例と動向（吉永和明、平修）			
第 5 回：微生物ゲノムおよび微生物機能利用（真核微生物）の事例と動向（渡部潤、藤井力）			
第 6 回：微生物機能利用（原核微生物）および乳酸菌機能論の事例と動向（西村順子、熊谷武久）			
第 7 回：プレバイオ食品免疫論およびファイトケミカル機能論の事例と動向（松田幹、升本早枝子）			
第 8 回：糖質素材・酵素合成論の事例と動向、まとめ（尾形慎）			
テキスト：プリントを配布する			
参考書・参考資料等：小城 勝相、清水 誠編「食健康科学」NHK出版			
学生に対する評価：レポート（100%）			

授業科目名： 先端農業生産科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 新田洋司、高橋秀和、渡邊芳 倫、深山陽子、高田大輔、篠 田徹郎、岡野夕香里、大瀬健 嗣、二瓶直登、石川尚人 担当形態： 一部複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 災害多発時代の農業の課題を説明できる ・ 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた課題を説明できる ・ 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組みを説明できる			
授業の概要 作物生産、食料生産、栽培資源利活用、栽培環境の諸問題の解決に資する新規栽培品種の開発 と既存品種の見直し、栽培技術の革新、病虫害の農業被害管理に関する先端的な取り組みを学修 する。この科目では災害多発時代の頑健な農業の確立または持続可能な開発目標（SDGs）の達 成に関わる取り組みを、栽培学、遺伝育種科学、園芸学、植物保護学、土壌環境科学、植物栄養 学、畜産学の8領域に分けて、それぞれの先端研究事例のトピックスとして各課題の本質を学修 する。			
授業計画 第1回：作物学に関する先端科学（新田洋司） 第2回：遺伝育種科学に関する先端科学（高橋秀和） 第3回：育土栽培学に関する先端科学（渡邊芳倫） 第4回：園芸学に関する先端科学（深山陽子・高田大輔） 第5回：植物保護学に関する先端科学（篠田徹郎・岡野夕香里） 第6回：土壌環境科学に関する先端科学（大瀬健嗣） 第7回：植物栄養学に関する先端科学（二瓶直登） 第8回：畜産学に関する先端科学（石川尚人）			
テキスト：教材とする資料を毎回の授業で配付する。教科書は指定しない。			
参考書・参考資料等：なし			
学生に対する評価 2回のレポート（100％）で評価する			

授業科目名： 先端生産環境科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 石井秀樹、金子信博、窪田陽介、申文浩、牧雅康、望月翔太、神宮字寛、原田茂樹、福島慶太郎、藤野正也
			担当形態： 一部複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
生産環境科学が担う代表的な研究例、および国土管理における生産環境科学の役割を理解し、これらが農村地域の課題に対してどのような貢献をなしているのかを説明できる。			
授業の概要			
国土管理の基盤である森林科学と農業工学を領域とする生産環境科学コースにおいて、持続可能性の観点から、環境調和型の農林業生産と、生態学的な機能の高度化を目指すことは重要な課題である。また、農村地域の特徴、あるいは課題解決・対策に必要とされるアプローチは多様である。本講義では、生産環境科学コースを構成する多方面の専門領域から、農村地域の課題を解く手がかりとなり得る先進的な話題について解説する。			
授業計画			
第 1 回：ガイダンス、生産環境科学の先端的な取組とは（望月翔太）			
第 2 回：農業技術における国内外の先端研究（窪田陽介、牧雅康）			
第 3 回：行政が展開している先端的な取組：農業農村整備（申文浩）			
第 4 回：森林管理における国内外の先端研究（福島慶太郎）			
第 5 回：行政が展開している先端的な取組：森林管理（藤野正也）			
第 6 回：農村の生態系管理における国内外の先端研究（神宮字寛）			
第 7 回：行政が展開している先端的な取組：気候変動と生物多様性保全（原田茂樹、金子信博）			
第 8 回：行政が展開している先端的な取組：防災・減災（石井秀樹、望月翔太）			
テキスト			
毎回プリントを配布する。			
参考書・参考資料等			
藻谷浩介「進化する里山資本主義」ジャパンタイムズ出版、2020。			
学生に対する評価			
レポート（100%）			

授業科目名： 先端農業経営科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 則藤孝志、荒井聡、河野恵伸 、小山良太、高山太輔、林薫 平、原田英美 担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 農業経営・食料経済分野の先端的な理論や分析視角について理解する。 ・ 農業経営・食料経済をめぐるイノベーションの動向を理解する。			
授業の概要 本講義では、農業、食料、地域をめぐるイノベーションの動向を先端的な社会科学理論と分析視角から学修していく。持続的なフードシステムに向けた課題、世界の動向、産地の新展開に対して、それらを支えるイノベーションをキー概念として最新の知見を習得することをめざす。前半部分では、食料政策、農産物流通、マーケティングをめぐるイノベーションを取り上げ、後半部分では、福島県の原子力被災地域に焦点を当て、地域産業復興の最前線を支えるイノベーションを取り上げる。			
授業計画 第 1 部 農業、食料、地域をめぐるイノベーション 第 1 回：食料の安定供給をめぐる社会動向とイノベーション（則藤孝志） 第 2 回：農産物・食品流通の新展開と農業経営戦略（原田英美） 第 3 回：マーケティング・リサーチの最前線（河野恵伸） 第 4 回：GI（地理的表示）の評価分析（高山太輔） 第 2 部 原子力被災地域とイノベーション 第 5 回：風評問題とこれからの産地づくり（小山良太） 第 6 回：地域農業システムのイノベーション（荒井聡） 第 7 回：地域資源活用の新展開（林薫平） 第 8 回：まとめ（則藤孝志）			
テキスト：毎回レジュメや資料を配布する。			
参考書・参考資料等：適宜、紹介する。			
学生に対する評価 各回における課題への取り組み内容（50点）と、期末レポート（50点）で採点する。			

授業科目名： 復興知と農業・食料の イノベーション	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 石井秀樹、新田洋司、小山良 太、熊谷武久、河野恵伸、原 田茂樹、二瓶直登
			担当形態： 一部複数、オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
「食」と「農」におけるイノベーションの特質・課題が理解できる。			
福島の地から明らかとなった「復興知」に基づき、持続可能な社会構築への考究ができる。			
日本の農業の未来をデザインするイノベーションについて学際的かつ実践的に考究できる。			
授業の概要			
東日本大震災・原子力災害を経験した福島は、危機に直面する中、被災住民、国・自治体、企業・NPO、大学などの努力により、環境・社会基盤・産業の再生が進んだ。その過程で多様な人材・分野が連携し、さまざまなイノベーションが生まれた。しかしこれらの知見やノウハウの社会的実装は十分に進んでいない。とりわけ「農」の技術は、地域の環境・社会・経済が基盤にあり、これとの相互発展をするため、個別技術の開発だけでは実装も問題解決も進まない。この授業では、「食」と「農」におけるイノベーションの特質と課題を示しつつ、受講者各自の専門的スキルも基づいて、復興と持続可能な社会の構築に求められるイノベーションを考究する。また東日本大震災・原子力災害で被災した地域の復旧・復興を超えて、福島の地から明らかとなった「復興知」、ひいては日本の農業の未来をデザインするイノベーションについて学際的かつ実践的に考究する。			
授業計画			
Ⅰ．食料・農業におけるイノベーションとは			
第1回：人類社会とイノベーション（新田洋司、石井秀樹）			
第2回：農業技術と食料・農林水産業（河野恵伸）			
第3回：食料生産と農林水産業（新田洋司）			
Ⅱ．東日本大震災・原子力災害と被害の克服			
第4回：東日本大震災と原子力災害の被害の特質（石井秀樹）			
第5回：風評問題の社会的構造と協同組合間連携（小山良太）			
第6回：放射線の計測と対策技術（原田茂樹）			
第7回：農作物への放射性物質の移行メカニズムと吸収抑制対策（二瓶直登）			
第8回：お米のブランド化と販売面および機能性表示食品制度（農産物、加工食品）（熊谷武久）			

第9回：福島イノベーションコースト構想と復興知（新田洋司）

.イノベーションから「復興知」の確立へ

第10回：環境共生とイノベーション（原田茂樹、石井秀樹）

第11回：福島と食品産業のデザイン（熊谷武久、河野恵伸、石井秀樹）

第12回：福島と新しい地域社会・市民社会のデザイン（小山良太・石井秀樹）

第13回：福島と新しい農業のデザイン（新田洋司、二瓶直登、石井秀樹）

第14回：イノベーション思考とデザイン思考（石井秀樹、新田洋司、河野恵伸）

第15回：復興知の確立とイノベーションの社会的実装（新田洋司、石井秀樹）

テキスト

根本圭介 『原発事故と福島の農業』東京大学出版会

濱田武士・小山良太・早尻正宏 『福島に農林漁業を取り戻す』みすず書房

参考書・参考資料等

授業中に随時提示する

学生に対する評価

課題についてのレポート（50％）、調査・取りまとめとその発表（50％）の総合評価

授業科目名： アグロエコロジー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金子信博、荒井聡、深山陽子、大瀬健嗣、高橋秀和、神宮字寛、篠田徹郎、二瓶直登、渡邊芳倫
			担当形態： 一部複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
・ アグロエコロジーの世界的な展開過程について説明できる。 ・ 日本の自然および社会環境に適合したアグロエコロジーの内容について説明できる。 ・ フードシステムにおける人的および自然資本の持続可能性について説明できる。			
授業の概要			
本科目は先端プログラム「アグロエコロジー」の定義と最新の議論について総括し、研究課題設定の指針を提供するものである。「アグロエコロジー」の世界的な発展の歴史を踏まえ、日本に適した環境保全型農業として位置づける。現代の農業を生態学の視点から再検討し、生態系の機能を維持しつつ生態系サービスを活用することで持続可能で環境負荷を最低限にする生産システムを構築する。あわせて農業者から消費者まで公正な分配と対等の関係性のもとに農業生産を一体となって維持するしくみ、認証制度を活用して構築する方法について解説する。			
授業計画			
第1回：近代農法の問題点とアグロエコロジーの必要性（金子信博）			
第2回：環境保全型農業の展開条件（荒井聡）			
第3回：気候変動と一次生産への影響（深山陽子）			
第4回：土壌劣化とその影響（大瀬健嗣）			
第5回：作物の遺伝資源の多様性（高橋秀和）			
第6回：生物多様性と農業・農村整備（神宮字寛）			
第7回：生物多様性を活用した害虫管理（篠田徹郎）			
第8回：栽培様式の違いによる土壌微生物の多様性（二瓶直登）			
第9回：小規模・家族農業と保全農法（金子信博）			
第10回：保全農法における土壌管理（渡邊芳倫）			
第11回：保全農法による農生態系の多様化（金子信博）			
第12回：保全的水田農業の技術開発（渡邊芳倫）			
第13回：アグロエコロジーにおける栽培技術（金子信博、渡邊芳倫）			

第14回：アグロエコロジーによる環境保全（神宮字寛、金子信博）

第15回：農業を基盤とする社会システムの転換（荒井聡、金子信博）

テキスト

Gliessman, SR. 「"Agroecology" 3rd ed.」CRC Press (2015)

ピーター・ロセット、ミゲル・アルティエリ著「アグロエコロジー入門」明石書店

参考書・参考資料等

各回の授業で必要であれば、紹介する。

学生に対する評価

課題についてのレポート（50％）、調査・取りまとめとその発表（50％）の総合評価

授業科目名： 食品素材機能学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 尾形慎、升本早枝子、熊谷武久、松田幹
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 糖質素材を活用した有用分子について設計や合成、機能や社会実装例を理解し論述できる。 ・ ファイトケミカルの種類や構造生体調節機能および社会実装例について習熟し論述出来る。 ・ 乳酸菌の健康機能について、乳酸菌の役割、機能発現機構、ヒトへの健康効果を習熟し論述できる。 ・ 難消化・難吸収性の食品・食品微生物成分の腸内細菌叢と腸管および免疫系への作用を理解し論述できる。			
授業の概要			
農産物や食品微生物などの食品素材に含まれる多様な成分が発揮する「栄養素の範囲を超える生体調節機能」について、基礎から最新の知見、社会実装例までを学修する。			
1．糖質素材・酵素合成論（尾形：1－3 回） 糖質素材を活用した有用分子の設計・合成・機能など。			
2．ファイトケミカル機能論（升本：4－7 回） 植物由来機能性成分の腸管・体内での生理作用と、その機序など。			
3．乳酸菌機能論（熊谷：8－11 回） 食品素材としての乳酸菌の健康機能、生体での機能発現機構など。			
4．プレバイオ食品免疫論（松田：12－15 回） 食品・食品微生物と腸管・免疫系との相互作用と、その機構など。			
授業計画			
第1 回：ガイダンス、糖質素材の利用（尾形慎）			
第2 回：糖質素材を活用した有用分子の設計と合成（尾形慎）			
第3 回：糖質素材を活用した有用分子の機能および社会実装（尾形慎）			
第4 回：ファイトケミカルの基礎：種類・化学的構造について（升本早枝子）			
第5 回：ファイトケミカルの健康機能性（升本早枝子）			
第6 回：ファイトケミカルと腸内細菌（升本早枝子）			
第7 回：ファイトケミカルの健康機能性を応用した社会実装例（升本早枝子）			
第8 回：乳酸菌の基礎：定義、生息場所などについて（熊谷武久）			

第9回：整腸作用や皮膚の健康に影響する乳酸菌株（熊谷武久）

第10回：抗アレルギー作用を示す乳酸菌株（熊谷武久）

第11回：免疫賦活作用を示す乳酸菌株（熊谷武久）

第12回：消化管粘膜上皮組織と粘膜免疫の基礎（松田幹）

第13回：プレバイオティクスと腸内細菌および腸管上皮細胞（松田幹）

第14回：腸内細菌代謝産物および菌体成分と粘膜免疫（松田幹）

第15回：プレバイオティクス・腸内細菌叢とアレルギーおよび自己免疫疾患（松田幹）

定期試験

テキスト

プリントやデジタル教材を配布します。

参考書・参考資料等

中村宜督、榊原啓之、室田佳恵子編「エッセンシャル食品化学」講談社

Maureen E.Taylor, Kurt Drickamer著「糖鎖生物学入門」化学同人

日本乳酸菌学会編「乳酸菌とビフィズス菌のサイエンス」京都大学学術出版会

福田真嗣編「もっとよくわかる！腸内細菌叢：健康と疾患を司る“もう1つの臓器”」羊土社

学生に対する評価

定期試験又はレポートによる総合評価

授業科目名： 食品分析学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 石川大太郎、吉永和明、平修 担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 食品の非破壊分析について例をあげて説明できる ・ 食品および生体の脂溶性成分分析法としてガスクロマトグラフィの利用例について説明できる ・ オミクス解析を質量分析データを用いて行う有用性について説明できる			
授業の概要 食品分析において、分析機器の使用は必須となっている。現代の分析機器は非常に高度化されており専門的な知識が必要となる。講義では代表的な最新分析機器を事例に学習する。また、学術論文を用いて食品科学における分析の重要性を考察してもらう。本講義で取り上げる食品分析という意味は単に食品成分の定量・定性を意味するものではなく、食品機能評価、現代科学における重要なニーズを理解するためのツールであることを意味する幅広いものである。特論であることから受講生は主体的に取り組んで考えてもらう。			
授業計画 第1回：ガイダンス、食品分析における誤差論（石川大太郎） 第2回：食品分析のための量子力学と一般原理（石川大太郎） 第3回：分子分光学と吸光・発光・蛍光測定の実際（石川大太郎） 第4回：多成分素材のスペクトルの読み方（石川大太郎） 第5回：計量化学的手法による食品の定性・定量（石川大太郎） 第6回：ガスクロマトグラフィ（GC）の特徴と原理（吉永和明） 第7回：GC分析のための前処理法（吉永和明） 第8回：ガスクロマトグラフ質量分析計（GCMS）の特徴と原理（吉永和明） 第9回：GCMSによる定性分析（吉永和明） 第10回：GCMSによる定量分析（吉永和明） 第11回：気相イオンの化学（平修） 第12回：装置論（平修） 第13回：有機イオンのフラグメンテーションと読み方（平修） 第14回：多成分混合系(食品)の俯瞰的な解析（平修） 第15回：イメージング質量分析の食品機能学に果たす役割（平修）			

テキスト

必要に応じてプリントを配布します

参考書・参考資料等

Robert E. Krebs「SCIENTIFIC LAWS, PRINCIPLES AND THEORIES」Greenwood Press

学生に対する評価

レポートおよび提出物による総合評価(100%)

授業科目名： 微生物機能開発学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 渡部潤、藤井力、西村順子 担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 微生物に適応可能な遺伝子機能解析法について例をあげて説明できる ・ 醸造における真核微生物の機能活用法や利用例について説明できる ・ 発酵乳や安全衛生における原核微生物の機能活用法や利用例について説明できる			
授業の概要 本講義では、食品における微生物機能を理解し活用していくために必要な、発酵・醸造や安全衛生における微生物の重要性や機能の活用法、活用例について、基礎から最新の知見までを学修する。具体的には、微生物に適応可能な遺伝子機能解析法、醸造における真核微生物の機能活用法や利用例、発酵乳や安全衛生における原核微生物の機能活用法や利用例について、学修する。			
授業計画 第 1 回：微生物遺伝学の基礎（渡部潤） 第 2 回：減数分裂と四分子解析（渡部潤） 第 3 回：形質転換と遺伝子ノックアウト（渡部潤） 第 4 回：次世代シーケンサーを活用した変異点の同定方法（渡部潤） 第 5 回：様々な解析手法（渡部潤） 第 6 回：醸造用微生物と醸造物の香味（藤井力） 第 7 回：変異株の活用による香味の改良事例（藤井力） 第 8 回：醸造用微生物のつくる成分と機能性（藤井力） 第 9 回：変異株の活用による機能性成分含量の改良事例（藤井力） 第 1 0 回：製造法が醸造物の香味や機能性に与える影響（藤井力） 第 1 1 回：乳業用微生物の構造（西村順子） 第 1 2 回：乳業用微生物の生理（西村順子） 第 1 3 回：乳酸菌およびビフィズス菌が生産する有用物質（西村順子） 第 1 4 回：乳酸菌およびビフィズス菌の生体内での作用機序と機能（西村順子） 第 1 5 回：近未来に向けた活用（西村順子）			
テキスト 必要に応じてプリントを配布します			

参考書・参考資料等

江島 洋介著「これだけは知っておきたい 図解ジェネティクス ―新しい遺伝学がわかる―」オーム社

小泉 武夫編著「発酵食品学」講談社

日本乳酸菌学会編「乳酸菌とビフィズス菌のサイエンス」京都大学学術出版会

学生に対する評価

レポートおよび提出物による総合評価(100%)

授業科目名： 作物学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 新田洋司 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 作物の器官、組織、細胞、貯蔵物質、蓄積構造について理解し、米を中心とした農作物の品質や食味の評価、収量の成り立ちについて作物学的に説明できること。また、作物の環境による影響や耐性について理解し、その緩和・適応策について考究できること。			
授業の概要 作物の生育を確保し高品質・高収量の収穫物を得るには、作物の器官、組織、細胞の形態と機能や、作物体の生態と生理、栽培制御方法等の理解と適切な栽培管理が必要である。この授業ではその基礎として、作物の器官と構造を理解し、生産物としての貯蔵物質の蓄積構造や品質等について学修する。また、作物の生育や収穫物の品質および収量に影響をおよぼす種々の環境による影響（高温、低温、二酸化炭素濃度、土壌等）についても概説し、とくに近年指摘されている地球温暖化による影響について理解を深める。			
授業計画 第1回：シラバスを用いたガイダンス、作物の器官と構造（1）根、シュートと茎 第2回：作物の器官と構造（2）特殊な器官、葉 第3回：作物の組織と構造（1）根の構造 第4回：作物の組織と構造（2）茎と葉の構造 第5回：作物の貯蔵器官の構造と貯蔵物質の蓄積構造（1）維管束の走向と機能 第6回：作物の貯蔵器官の構造と貯蔵物質の蓄積構造（2）登熟・収量・品質 第7回：米の品質と登熟期の温度の影響 第8回：貯蔵物質の利用と品質			
テキスト 教科書は指定しない。教材とする資料を毎回の授業で配布する。			
参考書・参考資料等 「作物学用語事典」日本作物学会編著、農文協、15,000円+税 「作物学」今井勝・平沢正編、文永堂出版、4,800円+税 「作物学の基礎 食用作物」後藤雄佐・新田洋司・中村聡著、農文協、3,800円+税 「作物 〔畑作〕」、後藤雄佐他、全国農業改良普及協会、2,730円 「植物生産学概論」、星川清親他、文永堂出版、4,000円+税			

「農学入門」安田弘法他編著、養賢堂、3,800円+税

学生に対する評価

課題についてのレポート（50％）、調査・取りまとめとその発表（50％）の総合評価
--

授業科目名： 遺伝育種科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 高橋秀和 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 植物科学の最新知見や解析技術について説明できる。 ・ 植物の機能に関して分子レベルで説明できる。 ・ 仮想育種計画を立案できる。			
授業の概要 これからの育種で求められる技術とはどのようなものなのか？これまでの品種改良の技術的な歴史を振り返り、品種改良への展開をふまえた視点で、植物科学の最新知見や解析技術について講義を通じて学修する。また、植物の機能に関して分子レベルで精査し、その内容についての発表と討論を行うとともに、データサイエンスを基盤とするゲノム解析について演習を通じて体験する。最終的に、将来を担う植物をデザインし、それを育種する具体的な仮想育種計画を立案する。			
授業計画 第1回：遺伝育種科学の基礎 第2回：新育種技術（New Plant Breeding Techniques） 第3回：ゲノム編集技術 第4回：ゲノム解読技術 第5回：植物の機能に関して、発表と討論 第6回：ゲノム解析の基礎 第7回：ゲノム解析の応用 第8回：まとめ			
テキスト 教科書は指定しない。教材とする資料を毎回の授業で配布する。			
参考書・参考資料等 「植物育種学第5版」北柴大泰・西尾 剛編、文永堂出版、4,600円+税			
学生に対する評価 最終レポート（60％）、発表と討論（40％）で評価する。			

授業科目名： 育土栽培学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 渡邊芳倫
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 栽培管理と土壌の相互関係を説明できる。 ・ 持続可能な農業生産のための土づくり（育土）を説明できる。 ・ 環境保全型農業技術が土壌へ与える影響を説明できる。			
授業の概要 持続可能な農業が必要とされている現在において環境保全型農業を理解する事は必須である。本授業では、作物の栽培と土壌の關係に焦点をあて、栽培管理のより土壌へ与える影響、土壌の違いによって栽培へ与える影響の相互關係を理解することで、持続可能な農業生産のための土づくり（育土）を考察できることを目的とする。また、不耕起栽培やカバークロップ、有機質肥料の施用などの環境保全型農業技術が土壌へどのような影響を与えて、どのように土づくりをするのか？論文等を参考に議論する。			
授業計画 第1回：シラバスを用いたガイダンス、環境保全型農業の概要 第2回：農業と土壌の關係 第3回：農地利用や作物栽培が土壌へ与える影響 第4回：土壌劣化 第5回：土壌環境が作物栽培に与える影響 第6回：栽培に必要な土づくり（育土）1 不耕起栽培 第7回：栽培に必要な土づくり（育土）2 カバークロップ 第8回：栽培に必要な土づくり（育土）3 堆肥や有機質肥料			
テキスト 教科書は指定しない。教材とする資料を毎回の授業で配布する。			
参考書・参考資料等 「検証 有機農業」西尾道德、農文協、6,000円+税 「アグロエコロジー入門」ピーター・ロセット、ミゲル・アルティエリ著、明石書店、2,400円+税 「有機農業大全」澤登早苗、小松崎将一編著、コモンズ、3,300円+税 「Agroecology」Miguel A. Altieri, Westview, 7,000円			

「Agroekocogy」Stephen R. Gliessman, CRC Press, 15,000円
学生に対する評価 課題についてのレポート（50％）、調査・取りまとめとその発表（50％）の総合評価

授業科目名： 野菜・花卉園芸学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 深山陽子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
野菜花卉園芸の現状と課題を理解し、今後必要な技術とそれを開発するための研究計画を立案する手法を習熟する。			
授業の概要			
野菜・花卉生産現場で起こっている様々な事象を、最新の科学的知見を取り入れながら講義を通じて学修する。また新たな知見を現場実装していくために、基礎研究から応用研究、実用研究、実証研究への発展方法や、各過程での実験手法の討論を行う。最終的には現場で生じている事象を科学的に解明手法、さらなる発展に向けての研究計画立案方法について学修する。その際、野菜花卉の輸出入が増加している現状をふまえ、各国の生産上の現状と課題についても理解し、我が国の野菜花卉園芸に今後必要とされる技術と開発するための研究手法についても学修する。			
第1回：野菜花卉生産現場の現状と課題			
第2回：野菜・花卉園芸学研究の歴史と果たすべき役割			
第3回：野菜花卉園芸学の最新研究			
第4回：野菜花卉園芸学の研究テーマの設定			
第5回：野菜花卉園芸学の研究計画作成			
第6回：研究計画発表			
第7回：研究計画ディスカッション			
第8回：まとめ			
テキスト			
教科書は指定しない。教材とする資料を毎回の授業で配布する。			
参考書・参考資料等			
授業内で適宜紹介する。			
学生に対する評価			
レポート他提出物（100％）			

授業科目名： 果樹園芸学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 高田大輔
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
果樹生産の取り巻く状況に関して、学術的情報を元に論じることができる。			
果樹の樹種事の特有の生理現象に関して、資料を基に解説することができる。			
果樹の栽培に関する技術開発動向について理解している。			
授業の概要			
果実生産について、歴史的に重要な影響を与えた事項（明治以降の樹種構成の刷新、原子力災害等）から最新の研究成果までを解説する。果樹の効率的かつ持続的な生産に関して、生理的特徴や栽培技術などに関する研究や技術開発の動向について学修する。各回ごとに、1つの樹種や項目に関して、栽培と生産に関する技術、樹体や果実の生理現象について紹介した文献等を提示する。提示した知見の内容を理解した上で、今後の果樹生産や技術開発に関して討論をセミナー形式で議論する。新たな知見を自身で解説することで、樹種事の現状を把握し、生産から流通における現場での課題や新技術の開発状況に関する理解促進をねらう。			
授業計画			
第1回：果樹園芸の基礎			
第2回：果実の生理と樹体の生理			
第3回：リンゴ/ナシの生理と栽培の現状			
第4回：核果類の生理と栽培の現状			
第5回：ブドウ/カキの生理と栽培の現状			
第6回：熱帯果樹の生理と栽培の現状			
第7回：果樹と原子力災害			
第8回：総括・総合討論			
テキスト：教科書は指定しない。教材とする資料を毎回の授業で配布する。			
参考書・参考資料等			
「果樹園芸学」金浜耕基編、文永堂出版、4,800円＋税、「果樹園芸学」米森敬三編、朝倉書店、3,800円＋税、「果実の事典」杉浦明他編、朝倉書店、20,000円＋税			
学生に対する評価			
各回の講義内で出す小レポート（概ね70％）、レポート及び提出物等（概ね30％）の総合評価			

授業科目名： 応用昆虫学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 篠田徹郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 昆虫のゲノムおよび遺伝子の機能解析方法の概要について理解している。 ・ 殺虫剤抵抗性のメカニズムについて分子レベルで説明できる。 ・ 昆虫の脱皮・変態のメカニズムについて分子レベルで説明できる。 ・ 昆虫特異的機能を標的とした害虫制御技術について考案できる。			
授業の概要 環境調和型の農業害虫管理に求められている、革新的な害虫制御技術や有用昆虫の利用技術について学修する。特に、殺虫剤抵抗性や脱皮・変態などの昆虫特異的な生理機能に焦点を当て、昆虫ゲノム・遺伝子解析技術を用いたそれらの分子機構の解析法について学修する。さらに、遺伝子を基盤とした害虫制御剤や有用昆虫開発の現状について理解を深める。授業は、担当教員による講義に加えて、受講者による最新の論文の紹介と輪読等を含めて展開する。			
授業計画 第1回：ガイダンス / 分子昆虫学の基礎 第2回：昆虫のゲノムと遺伝子機能解析 第3回：殺虫剤抵抗性の分子機構 第4回：抵抗性および害虫種の遺伝子診断 第5回：脱皮・変態の分子作用機構 第6回：昆虫特異的分子を標的とした新規制御剤開発 第7回：RNAi殺虫剤 / 遺伝子改変による昆虫の機能強化 第8回：まとめ			
テキスト 教科書は指定しない。教材とする資料を毎回の授業で配布する。			
参考書・参考資料等 「分子昆虫学」神村学他編、共立出版、7,500円＋税 「脱皮と変態の生物学」園部治之・長澤寛道、東海大学出版会、4,800円＋税			
学生に対する評価 最終レポート（60％）、発表と討論（40％）で評価する。			

授業科目名： 植物病理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 岡野夕香里
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 植物の病害の発生の分子メカニズムを説明することができる			
・ 植物病理学分野の最新の解析技術について説明することができる			
・ 植物病理学分野の将来の研究課題について考え、発表することができる			
授業の概要			
植物の病害は、農作物の収量減少や品質の低下を引き起こし、世界の農業生産に甚大な被害を与えている。植物の病害は、菌類、細菌、ウイルスなどの植物病原微生物と植物の相互作用の結果生じている現象である。植物の病害に対して適切な防除策を講じたり、新たな防除法を確立したりするには、この相互作用を詳細に明らかにすることが重要である。本授業では、病害発生メカニズムや植物-微生物相互作用に関して、近年注目されている知見や技術を紹介する。それに基づき、将来の研究課題について議論を行い、植物病理学分野への理解を深める。授業は担当教員による講義に加えて、受講者による調査とその発表等を含めて展開する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス・植物ウイルスの遺伝的多様性			
第2回：植物ウイルスに対する抵抗性とその利用			
第3回：植物ウイルスのRNAサイレンシング抑制機構			
第4回：植物病原細菌の小分子RNA			
第5回：植物病原細菌に感染するバクテリオファージ			
第6回：植物を取り巻くマイクロバイオーーム			
第7回：植物病理学分野の研究課題とディスカッション			
第8回：受講者による発表・まとめ			
テキスト：教科書は指定しない。教材とする資料を毎回の授業で配布する。			
参考書・参考資料等			
「植物病理学第2版」眞山滋志・土佐幸雄編、文永堂出版、5,700円＋税			
「植物ウイルス学」池上正人他、朝倉書店、3,900円＋税			
学生に対する評価			
課題についての最終レポート（60％）、調査・取りまとめとその発表（40％）の総合評価			

授業科目名： 土壌環境科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大瀬健嗣
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 1．地球生態系における土壌の機能を理解し、その重要性を認識する。 2．地球環境諸問題と土壌の関係性を理解するとともに、その対策を学修する。 3．農林生態系における放射性核種の動態と汚染対策を学修する。			
授業の概要 地球生態系において土壌は重要な機能を担っており、地球環境諸問題とも強く関係している。本授業では、初めに土壌の生態系機能とメカニズムについて概説したのち、人口増加と食糧問題、地球温暖化、森林破壊、酸性雨、化学物質汚染、および放射能汚染について、土壌の応答や土壌中での動態について個別に論ずる。			
授業計画 第1回：土壌の生態系機能とメカニズム（1） 第2回：土壌の生態系機能とメカニズム（2） 第3回：地球温暖化に伴う気候変動（1）炭素循環と土壌 第4回：地球温暖化に伴う気候変動（2）窒素および水循環 第5回：森林破壊と土壌 第6回：農業と環境化学物質の動態 第7回：放射能汚染 第8回：地球環境と土壌			
定期試験			
テキスト 教科書は指定しない。教材とする資料を毎回の授業で配布する。			
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介する。			
学生に対する評価 授業への積極的な取り組み（40％）、期末試験もしくはレポート（60％）			

授業科目名： 植物栄養学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 二瓶直登
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
各元素の植物体内への取り込みと植物体内での働き、農業活動における環境への負荷について説明できること。また、土壌微生物も含めた農業生態系の循環について理解し、作物が生育するためにどのような相互関係がなりたっているかについて考察できること。			
授業の概要			
植物が生長するために必要な栄養のしくみを分子、器官、個体、生態系のレベルで統合的に学ぶ。また、食料生産における施肥の重要性を認識し、農業が生態系や環境に与える影響についての理解を深める。授業は担当教員による講義に加え、先端的研究に関する論文の紹介と輪読等を行い、大学院生による調査発表も取り入れて展開する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、植物栄養学特論序論			
第2回：輸送メカニズム			
第3回：共生系の養分獲得			
第4回：必須元素の働き			
第5回：微量元素の働き			
第6回：施肥の理論			
第7回：環境保全・窒素循環			
第8回：植物栄養学に関する新たな知見			
テキスト			
教科書は指定しない。教材とする資料を毎回の授業で配布する。			
参考書・参考資料等			
授業において適宜紹介する。			
学生に対する評価			
課題についてのレポート（50％）、調査・取りまとめとその発表（50％）の総合評価			

授業科目名： 畜産学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 石川尚人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1．福島県、日本、世界で用いられている畜産業の最新技術について理解している。			
2．福島県、日本、世界の畜産と各関連研究分野との関わりを理解している。			
3．動物生産技術に関連する最新の専門知識の基礎および応用を理解している。			
授業の概要			
授業概要：			
畜産業は動物性タンパク質を供給し、種々の高い付加価値を提供する重要な産業である。これを扱う畜産学は、家畜育種学、家畜繁殖学、家畜栄養学、家畜飼料学、家畜管理学、家畜衛生学、乳利用学、肉利用学などの広い専門分野から構成されている。本授業ではこれらの専門分野の基礎および応用的な知識、また、グローバルな視点に基づき、最新の高度な動物生産の知見について情報を整理し学ぶ。			
授業のねらい：			
広い専門分野から構成されている畜産学の体系を理解し、各専門分野の基礎的な考え方や知識の学習を通じて、国内産業としての畜産、そして、グローバルな農業や文化における畜産の最新の技術や知見に関する理解と知識を習得できるようにする。			
授業計画			
第1回：授業の進め方とタームペーパーの提出について			
第2回：畜産物の高付加価値化に関する最新の知見について			
第3回：畜産物と消費者の健康に関する最新の知見について			
第4回：高付加価値化を目的とした家畜生産の最新技術について			
第5回：畜産物の自給率向上技術に関する最新の知見について			
第6回：持続的な畜産業と環境負荷低減技術に関する最新の知見について			
第7回：各課題の調査および発表			
第8回：まとめとタームペーパーの提出			
テキスト：教科書は指定しない。教材とする資料を毎回の授業で配布する。			
参考書・参考資料等：授業内で適宜紹介する。			
学生に対する評価： 1．調査課題の発表（50％）、 2．タームペーパーおよび提出物等（50％）			

授業科目名： 農林環境生態学		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 神宮字寛、金子信博、望月翔太、申文浩
				担当形態： オムニバス
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標				
・ 保全生態学の基礎知識を正確に理解し生物多様性保全の意義について説明できる。				
・ 農村地域の自然環境の保全、修復、復元技術について説明できる。				
授業の概要				
農林環境は、大気、水、土壌及び生物などの間を物質が循環し、生態系が精妙な均衡を保つことによって成り立っており、生態系の機能や生物群集の多様性、種間関係などは、人間社会の発展とともに変化してきた。				
本講義では、 森林生態系の成り立ち、 水田生態系の特徴、 農業農村整備の特徴、 管理計画を考える際の住民、行政、企業らの合意形成のあり方を学び、中山間地域の野生動物由来の諸問題、水域を含む地域環境問題について論じる。また、問題の解決に必要な行政的、社会的知識も併せて、環境との調和を目指した森林・農村環境の管理方法について理解を深め、農林環境生態学の専門的な知識を身につけることを目標とする。				
授業計画				
第 1 回：農村生態工学：国内外の環境保全の法制度と条約（神宮字寛）				
第 2 回：農村生態工学：水田水域の生物多様性と保全管理（神宮字寛）				
第 3 回：農村生態工学：水田水域の環境修復技術（神宮字寛）				
第 4 回：農村生態工学：水田水域の化学物質の管理とリスク評価（神宮字寛）				
第 5 回：生態系管理：化学量論に基づく生態系モデル（金子信博）				
第 6 回：生態系管理：生物群集理論に基づく生態系モデル（金子信博）				
第 7 回：自然資本利用：生態系サービス・フットプリントの評価（金子信博）				
第 8 回：野生動物管理：生態学と社会学からのアプローチ（望月翔太）				
第 9 回：野生動物管理：個体群動態モデリング（望月翔太）				
第 1 0 回：自然環境保全：環境アセスメント手法について（望月翔太）				
第 1 1 回：自然環境保全：景観生態学からのアプローチ（望月翔太）				
第 1 2 回：地域資源と環境：地球の水循環、水資源に関する環境問題（申文浩）				
第 1 3 回：地域資源と環境：水資源利用の現状と課題（申文浩）				
第 1 4 回：農村開発と環境：流域、河川水利の開発と調整（申文浩）				

第15回：農村開発と環境　：持続可能な農業農村整備と課題（申文浩）

テキスト

毎回プリントを配布する。

参考書・参考資料等

日本景観生態学会編「景観生態学」共立出版、2022 .

学生に対する評価

・レポート（100%）

授業科目名： 先端森林管理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤野正也、金子信博、福島慶太郎、石井秀樹
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 森林管理の必要性を説明できる ・ 森林管理の社会制度を説明できる ・ 森林管理方法を説明できる ・ 福島県の森林・林業の現状を説明できる			
授業の概要			
森林は水源涵養機能や山地災害防止機能など、様々な生態系サービスを人間に提供している。さらに、国土の約70%を占め、農業生産にとどまらず、生活や経済活動を支える基盤である。しかし、ほぼすべての森林は人間による伐採の後に森林となったため、人為的な管理が行われなければ、多くの森林が劣化し、生態系サービスの提供に深刻な影響が出る。 本講義では、少子高齢化や地球温暖化など、現代社会の様々な問題を踏まえ、森林を適切に管理するための基礎理論を解説するとともに、先端理論を解説する。具体には 森林管理の社会制度（法体系、森林管理計画）、 経済活動による森林管理方法、 非経済活動による森林管理方法を解説するとともに、 森林管理の有無が生活や経済活動に及ぼす影響を解説する。さらに、 東京電力福島第一原子力発電所事故により放射性物質が降り注いだ福島県内の森林の現状を紹介し、福島県の森林・林業の再生について理解を深める。 なお、本講義はオンデマンド型の遠隔講義とする。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、先端森林管理学の体系（藤野正也）			
第2回：森林管理の社会制度：法体系（藤野正也）			
第3回：森林管理の社会制度：森林管理計画（藤野正也）			
第4回：経済活動による森林管理方法：目標林型と育林技術（藤野正也）			
第5回：経済活動による森林管理方法：木材生産技術（藤野正也）			
第6回：経済活動による森林管理方法：木材流通（藤野正也）			
第7回：経済活動による森林管理方法：経済インセンティブ（藤野正也）			
第8回：非経済活動による森林管理方法：自然公園（金子信博）			
第9回：非経済活動による森林管理方法：農村生活（金子信博）			

第10回：森林管理の有無が社会に与える影響：物質循環（福島慶太郎）

第11回：森林管理の有無が社会に与える影響：災害（福島慶太郎）

第12回：森林管理の有無が社会に与える影響：その他の生態系サービス（福島慶太郎）

第13回：福島県の森林・林業：原発事故の影響（石井秀樹）

第14回：福島県の森林・林業：森林・林業の再生（石井秀樹）

第15回：まとめ（藤野正也）

テキスト

毎回プリントを配布する。

参考書・参考資料等

林野庁編「令和3年版 森林・林業白書」 全国林業改良普及協会、2021 .

学生に対する評価

・レポート（100%）

授業科目名： 先端農地管理学		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 牧雅康、原田茂樹、窪田陽介 担当形態： オムニバス
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標				
・ 流出現象や制御技術に関する基礎的理論やPCモデルを用いた計算技術を理解する。 ・ 農業機械および作業評価に関する計測、計算について理解する。 ・ 地理情報システム（GIS）とリモートセンシング、さらに全球測位衛星システム（GNSS）を統合した解析技術を理解する。				
授業の概要				
生産環境場では、大規模化や担い不足などを理由に、効率的な管理が求められている。そのためには、ICTや高度な数値計算等の工学的手法を理解する必要がある。 本講義では、特に、 生産環境の維持・整備を行うための流出現象についての基礎理論とその制御技術、 生産規模拡大や農作業の効率化に向けたスマート農機の作業手法や評価方法、遠隔および近接撮影画像による非破壊検査法、 これらによって得られたデータの効率的管理のための地理情報システムについて、森林・農地・水系のつながりを意識して理解を深め、専門的な知識を身に付けることを目標とする。				
授業計画				
第1回：流出現象の概要：森川里海での流出現象とその重要性（原田茂樹）				
第2回：森林からのセシウム流出制御技術（原田茂樹）				
第3回：市街地や農村生活圏域からの重金属流出制御技術（原田茂樹）				
第4回：タンクモデルや融雪タンクモデルを用いた流出計算（モデル起動）（原田茂樹）				
第5回：都市型水文モデルを用いた市街地や農村生活圏域での流出計算（モデル起動）（原田茂樹）				
第6回：農業機械の評価方法－作業効率と作業精度－（窪田陽介）				
第7回：トラクタ協調作業時におけるオペレータ視線解析（窪田陽介）				
第8回：産業用ヘリコプタおよび農業用ドローンによる農薬散布特性（窪田陽介）				
第9回：散布液滴の粒子解析 （窪田陽介）				
第10回：散布液滴の粒子解析②（窪田陽介）				
第11回：UAVを用いた農地情報の収集（牧雅康）				
第12回：リモートセンシング画像の解析（分類）（牧雅康）				
第13回：リモートセンシング画像の解析（抽出）（牧雅康）				
第14回：農地管理におけるGNSSの活用（牧雅康）				

第15回：地理情報システムを用いた農地情報の管理（牧雅康）

定期試験

テキスト

講義において、適宜印刷物を配布する。

参考書・参考資料等

木村和正「水文学の基礎」東京電機大学出版局、2008．

木村和正「水文学の数理」東京電機大学出版局、2008．

農業情報学会編「新スマート農業－進化する農業情報利用－」農林統計出版、2019．

藍 房和「農業機械の構造と利用（農学基礎セミナー）」農山漁村文化協会、2007．

日本リモートセンシング学会編「基礎からわかるリモートセンシング」理工図書、2011．

学生に対する評価

1．レポートおよび提出物（30％）

2．定期試験（70％）

授業科目名： 地域農業マネジメント論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小山良太、荒井聡 担当形態： 一部複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 多様な農業経営体の展開論理とその課題を分析する方法を身につける。 地域農業マネジメントの構造と課題を分析できる方法を身につける。 協同組合による地域農業マネジメント機能を分析できる方法を身につける。			
授業の概要 本講義では、多様な農業経営で構成される地域農業の課題を抽出し、それを解決するためのステークホルダーのマネジメント機能に関する分析視角と手法について学修する。多様な農業経営の展開論理、及び支援組織、関連機関の機能と役割について分析的、かつ体系的に学修する。前半6回は荒井が担当し、農業経営学の分析枠組みを用いて、経済成長と持続可能で多様な農業経営体の発展論理を学修し、また地域農業振興に寄与する行政等の関連組織が有するマネジメント機能に関する分析手法を習得する。第7～12回は小山が担当し、協同組合学の分析枠組みを用いて、地域農業の支援組織である協同組合やNPOが地域農業振興に果たす役割を実践的に学修し、それら組織が有するマネジメント機能の分析枠組みと手法を習得する。第13～15回は上記両名で担当し、関連論文を輪読し、研究方法と論文執筆技法への理解を深める。			
授業計画 多様な農業経営体の展開とマネジメント 第1回：農地制度と農業経営（荒井聡） 第2回：家族経営と企業経営（荒井聡） 第3回：新規就農の動向分析（荒井聡） 第4回：集落営農の動向分析（荒井聡） 第5回：地域農業支援システム（荒井聡） 第6回：被災地における営農再開（荒井聡） 協同組合による地域農業マネジメント 第7回：産地形成と生産部会（小山良太） 第8回：多様な担い手と営農指導体制（小山良太） 第9回：組合員の多様化とJA経営（小山良太） 第10回：地域農業振興と市民参加（小山良太） 第11回：風評払拭と協同組合の役割（小山良太）			

第12回：営農再開と協同組合の役割（小山良太）

農業経営・協同組合分析に関する論文の輪読

第13回：発表論文の選定（小山良太、荒井聡）

第14回：輪読・発表 - 地域農業の新動向 - （小山良太、荒井聡）

第15回：輪読・発表 - 協同組合の最前線 - （小山良太、荒井聡）

テキスト

毎回レジュメや資料を配布する。

参考書・参考資料等

日本農業経営学会編『家族農業経営の変容と展望』農林統計出版、2018

増田佳昭編著『つながり志向のJA改革』家の光協会、2020

学生に対する評価

課題への取り組み（50点）と発表の内容（50点）で評価する。

授業科目名： フードビジネス分析 論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 河野恵伸、原田英美、則藤孝 志 担当形態： 一部複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 フードシステムにおける各ビジネスの動向と課題を分析する方法を身につける。 フードシステムの構造と課題を分析できる方法を身につける。 各マーケティング・リサーチの方法が、どのような手順で実施できるか、どのような場面で 適用できるかを把握する。			
授業の概要 本講義では、フードシステムにおける生産、流通、消費を通じた各ビジネスや、そこから派生 する社会問題を分析するための考え方や方法の習得をめざす。第1～4回は原田が担当し、農業 経営学、食料経済学の視点で、食に関わる生産、流通動向とその課題を分析する方法を学修す る。第5～8回は則藤が担当し、フードシステム論の視点で、農業生産から食料消費に至る産業 間の連鎖構造と主体間関係、および地域におけるフードシステム形成を分析する手法を学修す る。第9～12回は河野が担当し、消費者行動論に立脚したマーケティング・リサーチ手法を学修 する。第13～15回は具体的な事例を分析し、発表を行う。			
授業計画 実態把握 第1回：ガイダンスと農産物流通論（原田英美） 第2回：生産動向（原田英美） 第3回：流通動向（原田英美） 第4回：小売・消費動向（原田英美） フードシステムの構造分析 第5回：現代日本のフードシステム（則藤孝志） 第6回：産業構造の企業行動（則藤孝志） 第7回：垂直的調整システムと主体間関係（則藤孝志） 第8回：地域圏フードシステム（則藤孝志） マーケティング・リサーチ 第9回：消費者行動論（河野恵伸） 第10回：クロス集計と分散分析、多重比較（河野恵伸）			

第11回：セグメンテーションとプロダクト・マップ（河野恵伸）

第12回：選好分析（河野恵伸）

事例分析

第13回：事例分析（河野恵伸、原田英美、則藤孝志）

第14回：とりまとめ（河野恵伸、原田英美、則藤孝志）

第15回：発表（河野恵伸、原田英美、則藤孝志）

テキスト

毎回レジュメや資料を配布する。

参考書・参考資料等

桂瑛一『青果物流通論』農林統計出版、2020

新山陽子編『フードシステムの構造と調整』昭和堂、2020

片平秀貴『マーケティング・サイエンス』東京大学出版会、1987

学生に対する評価

各回における課題への取り組み内容（50点）と、事例分析と発表の内容（50点）で採点する。

授業科目名： 農業経済・政策分析論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 高山太輔、林薫平 担当形態： 一部複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 ミクロ経済学にもとづく農業経済学の基礎と応用例を理解すること。 実証分析を行う上で必要な統計学の知識を身につけること。 実証分析を用いた農業経済学の学術論文を読みこなすことができること			
授業の概要 本講義では、農業経済や農業政策にかかわる問題を分析するための分析視角や分析手法の習得を目指す。第1～6回は林が担当し、農業経済・農業政策分析をする上で必要なミクロ経済学にもとづく農業経済学の基礎について、消費者行動と農業経営者の行動ならびに食料経済学、農村における農地や資源をめぐる集合行為などに焦点をあて、その理解を深めることを目的とする。第7～12回は高山が担当し、農業経済・農業政策分析に関する実証研究を行う上で必要とされる基礎的な知識や統計学的な分析手法を習得することを目的とする。第13～15回は上記両名で担当し、農業経済・農業政策分析の実証研究に関する論文を輪読し、実証研究を行う上で必要な考え方や論文執筆の技法への理解を深める。			
授業計画 農業経済・政策分析のための経済学の基礎と実例への応用の導入 第 1 回：消費者の選好と選択、消費者協同組合（林薫平） 第 2 回：農家の行動と農業経営、農業協同組合（林薫平） 第 3 回：農業技術の選択、環境保全型農業（林薫平） 第 4 回：食料の経済学、食の安全、産消提携（林薫平） 第 5 回：農地の経済学、土地改良、水田フル活用（林薫平） 第 6 回：資源の経済学、里山とコモンズ、多面的機能（林薫平） 農業経済・政策分析のための計量経済学 第 7 回：データの整理と確率変数の基礎（高山太輔） 第 8 回：統計理論の基礎（高山太輔） 第 9 回：線形単回帰モデルの推定と検定（高山太輔） 第 1 0 回：重回帰モデルの推定と検定（高山太輔） 第 1 1 回：ミクロデータの分析手法：パネルデータ分析（高山太輔） 第 1 2 回：ミクロデータの分析手法：政策評価モデル（高山太輔）			

農業経済・政策分析に関する論文の輪読

第13回：発表論文の選定（高山太輔、林薫平）

第14回：輪読・発表 - 農業経済分析の動向 - （高山太輔、林薫平）

第15回：輪読・発表 - 政策評価の研究動向 - （高山太輔、林薫平）

テキスト

毎回レジュメや資料を配布する。

参考書・参考資料等

神取道宏「ミクロ経済学の力」日本評論社、2014.

西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮「計量経済学」有斐閣、2019.

生源寺眞一「現代農業政策の経済分析」東京大学出版会、1998.

学生に対する評価

課題への取り組み（50点）と発表の内容（50点）で評価する。